南紀德川史

第十冊

南紀徳川史第十册總目錄

南紀徳川史卷之八十九

郡制第一

紀州勢州和州御領分御高幷村名帳

目次

〇御藏所
△給所
☒他領入會所

南紀德川史卷之九十

郡制第二

紀州勢州和州御領分御高幷村名帳

目次

南紀徳川史巻之九十一

郡制第三

紀州勢州和州御領分御高幷村名帳

目次

南紀德川史卷之九十二

郡制第四

目次

南紀德川史卷之九十三

郡制第五

歴世郡治大概第一目次

清溪公

目錄

南紀徳川史巻之九十四

郡制第六

歴世郡治大概第二目次

大慧公上

郡方手鑑

右郡方手鑑中寬永慶安万治元祿と記するものあり之を　淸溪公より　有德公の間に揭けさる所以は首卷緖言に旣記の如し

南紀德川史卷之九十五

郡制第七

歷世郡治大概第三目次

大慧公下

郡方手鑑

南紀徳川史巻之九十六

郡制第八

大畑才藏記第一目次

南紀徳川史巻之八十九

郡制第一

臣　堀内信　編

緒言

元和御就封以來紀勢封内郡政に係る制度法令、其根元は執政府　公命を奉し發布指令する處と雖も、之が主治管理は御勘定奉行の職掌たり、故に同職を一つに司農とも稱する也、夫れ農は國の大本其租税は御勘定奉行之を司る、租税は郡政中最重きを置く處、隨て民治政教亦併せて同管に委せられしならん、是足利氏以來戰國之慣例馴致し來れるものにて、幕府の制亦然りとす、御勘定奉行の下に御代官郡奉行ありて、各郡へ交替在勤都て御勘定奉行の指揮を受けて統治す、其下に地方手代乃至大庄屋ありて親しく民に接す、別に御勘定在方ありて司農夫より出務、專ら池川普請の土工等を司り兼て租税撿見の事をも關す、口奧兩熊野に限り御目付を被置しか（奥熊野（一本寛政年以來廢職）は寶暦三年より口熊野兼職）となれり、御代官と郡奉行とは其職掌權限如何なる區別ありしか、郡奉行は寛政十一未年廢せられ、爾來維新に至る迄單に御代官のみ也しを以て今考察し能はす、又勢州には松坂御城代勢州奉行（松坂町奉行同御船奉行を兼）田丸白子五十人組之頭田丸白子御目付勢州五ヶ所番其外與力同心等を被置、御目付御勘定組頭乃至御勘定の如きは本府より交代在勤、御代官は他郡に同しく以て統治す、御代官の御勘定奉行に隷し祿薄く職輕きは　郡政の體に適せすとは頗る世論のある處也しが、明治二年國政大改革に當り、斷然舊制を廢して新たに民政知局事を各郡に置かれ、大に其地位を高め職權を重

せられしか、僅に二ヶ年餘にして遂に天下廢藩置縣の制とはなりたり、是郡治職員組織之大概也、

一紀州元淺野但馬守長晟之領知たりしを元和五年淺野氏を藝州廣島へ移され、以て紀州一國（高野寺領を除く）三十七万五千石に勢州松坂田丸白子之三領十八万石を加へ合せて五十五万五千石を　國祖に賜ふ紀州は則名草海部伊都那賀有田日高の六郡と牟婁郡即ち口奥兩熊野にして、封域東西凡七十里南北凡十里内外、村數總計千二百四十六箇村勢州三領村數合せて四百八十箇村也、紀州は淺野氏迄郡は莊を統へ莊は村を統ふ、我封となりし以後莊名を廢して組と唱へ、其組名舊稱によるあり或は新名を付するあり或は分つあり或は合するあり、詳には紀伊國續風土記に載せたり、毎組大庄屋壹人つゝを置名字帶刀を免し部下の各村を保管、各村には庄屋杖突と稱するあり、是を村役人といひ名字帶刀は免さす、勢州亦之に准す

一紀州古來より之沿革地形名稱の變遷領主地頭乃至群雄割據之體勢名山大川神社梵刹古蹟名勝の由來等は悉く紀伊國續風土記に詳なり、此編は唯御受封已來苟も　郡治施政に關するの記事を以て主眼とするものなり

一勢州三領は神領天領（公儀御藏領の事也）津久居桑名神戸龜山鳥羽菰野長島等の他領と入組錯雜一村中にして所領を異にするも不尠、所謂犬牙相制するの體也、故に儘相壓轢するの風ありし御受封已前之沿革初め地志に關する件は、自つから其書のあるあり、爰に掲けず

一紀勢之外和州越部村土田村鷲家村の三村を　國祖御就封之時御請願により御領知となりたり、然れとも御受封の理由年月等舊記傳はらす考へ難し、蓋し御參勤御交代には道を紀州より川俣街道

に出勢州に入らせらるゝ便利之爲ならん、故に勢州四日市よりは他領之人馬且宿泊を要せすして御往來也、藩臣の往來飛脚交通等皆其便によりし也、

一龍祖之御時　勅許幕命により勢州一圓御放鷹地となれり、故に歴世他領いつれの地と雖も自由に御放鷹あつて所獲之鶴を年々　幕府へ獻せられたり、依て多くの鳥見役を在々へ配置常に鶴密獵の者を撿察、若し犯則者ありて逮捕すれば他領之者と雖も處罰、其獵具を沒收し鳥見を褒賞するの例なり、是を俗に追落鐵炮と稱し頗る權勢を震ひたりといふ、勢州放鷹地之件は城郭庭園制囿園の部に記載し此編に畧す、

一松坂に豪富多く所謂三井長谷川小津等爲御替組と稱し、銀札を發行時々國費經理の事を負擔せり、又田丸領等に二歩口御仕入之二局を置かる、共に財政之部に詳記す、

一勢州は良米を多產す故に江戶御臺所の御膳米皆之を用ゆ、且海運の便により江戶御家中之俸米悉く勢地より廻送、芝邸の（元八丁堀又は築地なり）米倉に貯藏せり、米質良好加之年貢米極めて精撰なるを以て、伊勢米と唱へ市上に於ても大に羨望する所也し、又伊勢炭と稱する櫟柄等山分より租稅代納之炭悉江戶に廻送、殿中上下諸局年中之用料に供せられたり、

一勢州は前記地方職員數名の他は鳥見手代等之輕輩のみにて士分在住せず、（近時田邊與力歸參之者松坂常番を命たれども僅に十數名也）然るに慶應四年江戶瓦解之節、江戶常府之諸士三兵隊等大半松坂に移住、依て一時面目を改め世之矚目する處となりたり、

一國初以降二百七十年間民治に關する法令制度の沿革時々施政の方策等、千緒万縷司農府初各郡々衙の記錄簿冊亦汗牛充棟に類せしならん、之を網羅連續編纂せされば郡制政教の如何達觀通曉す

る事不能、故に其捜索蒐集に勉むる所ありと雖も、維新之際帳簿散逸乃至紀勢縣廳へ讓付等にて今存するものなし、唯司農府保管の紀勢和州御領分御高村名帳在方覺帳紀勢御領內地方誌根元覺帳と稱する四簿存せり、中古以來維新に至る迄郡治之制度概ね之に準據したるものゝ如し、依て郡制を編する之に基き其概略を示し歷世々記中郡治に關するもの、其他苟も郡治參照に足るもの抜萃集錄、以て歷世郡治の大概通覽に便にす、尙私記野乘俗諺鄙說の如きをも敢て遺棄せす編纂せり、各編相待て考察を下せは自ら了知する處あるべし

一在方覺帳文中に五十六年以前萬治三年、又二十年以前元祿九年と記し、紀勢御領內地方誌には六十三年以前承應二巳年とあれば、兩帳共正德五未年の編纂なるを知る、而して兩帳共其事項は同一種にして互に疎密の異あるのみ、今其密を揚て疎を略す、且兩帳共元と順次甚錯雜閱覽に便ならす、依て其次第を更正類述す、

一根元覺帳は編述の年次不分明と雖も、文中文政天保の年號あれは其比迄の筆記なるへし、蓋し古來より規定する處の事項を時々に記載以て根元覺と稱したるなるべし、

一在方覺幷地方誌は拔抄の事項多きを以て元簿の名稱を記さす、其他は皆之を揭く、

一御撿地譯諸納方規錄帳と題する一書あり、年號を記さす、蓋し職を地方に奉する者の在方覺帳根元覺帳等を略抄し、尙斟酌を加へて手簿に供したるものならんか、依て該覺帳と對照し其差異のものを朱「本書」を以て分注或は附記す、

一在方覺帳地方誌根元覺帳には租稅の事をも記載ありと雖も、別に財政部を編するを以て類に因り

該部へ分割編纂し爰に略す、

一右三簿中類により近世改制の條乃至新舊記事參照に足るへきものを附記するあり、是信が補綴增修する處とす、

一紀勢封內總石高元和五年御拜領高は五十五万五千石也、而して記錄の存する處に據れは

紀勢石高 和州三箇村共 幷村名帳　六十三万六百五十五石八升二勺

紀勢石高地味物產調書　五十一万三千九百七十一石〇九升四合

慶應四年村高調書　村高五十四万八千九百三十石六斗六合四勺

明治三年支配所高調　四十八万石餘 田邊新宮領を省く

右の如く總石高不同也、不同の理由何等に起因せしや今了知しかたしと雖も、蓋し時々調查の目途に隨ひ新古田畑及ひ小物成諸荒引高等の增減配合將た田邊新宮領を除加の如き、其計算整理の立て方を異にしたるに因るものか、村數も亦時々同しからず、暫く原書の儘を編述敢て臆量を加へず祖公外記附錄に左の記あり因に依て爰に揭く、

紀州は高貳拾万石の地にて候處慶長年中淺野より撿地を入三拾七萬石の高に取立候由依之長晟は藝備國四拾二万石致拜領候事

一既に郡制を編す市制の編なかるへからすと雖も廳簿散逸編纂の料なし故に市令等偶々存する分は此編に合記す、市政は町奉行兩名あつて東西に分れ 幕府の制に准す 各町與力同心等屬隷市一切の事を統治す、官衙は若山廣瀨町奉行町にありたり、

紀州勢州和州御領分御高幷村名帳

伊都郡

上組

△市脇村
一高三百拾三石壹斗七升三合
内拾八石貳斗五升五合　新田

○東(トウ)家(ゲ)村
一高三百三拾四石九斗六升六合
内三拾六石五升　新田

○寺脇村
一高百五拾八石六斗三升三合
内八石九斗九合　新田

○古(コ)佐(サ)田(タ)村
一高百七拾三石五斗八升八合
内七石壹斗五升壹合　新田
外高貳拾七石五斗五升　町屋敷成

古佐田村之内○橋本町
一高六拾貳石五斗四升　皆新田
外高四斗七升三合　御殿地成

皮田△原田村
一高百六拾九石六斗貳升八合
内百石三斗五升八合　新田

一高百七拾貳石貳斗八升九合　○妻村
内六拾貳石三斗四升貳合　新田
一高三百七石五斗八升六合　○河瀨村
内七拾九石五斗八升四合　新田
一高五百八拾六石九斗六升九合　△下兵庫村
内貳拾壹石壹斗貳升八合　新田
外高貳拾石　護國寺領
一高百五拾五石三斗貳升六合　△上兵庫村
内九石九斗貳升壹合　新田
一高四百七石貳斗四升壹合　⊠○下上田村
内九石七升三合　新田
一高三百五拾五石七斗六升三合　△赤塚村
内四石六斗八升五合　新田
一高五拾五石三斗貳升四合　○須(ス)河(ガウ)村
内六石四斗九升　新田
枝郷　茶(トチ)谷(タニ)
一高百拾九石貳斗六升九合　○彥谷村

内壹石壹斗貳升三合　新田

枝郷　峠　同嶽

一高四拾六石五斗八升四合　○谷奥深村

内壹石七斗五升　新田

一高七拾六石壹斗貳升三合　○只野村

内四石五斗七升七合　新田

一高三百七拾八石七斗六升九合　△芋生村

内三石壹斗壹升壹合　新田

一高百九石八斗四升六合　△中下村

一高四百九拾壹石七斗四升壹合　△中嶋村

内貳拾三石四斗七升　新田

一高貳百五拾九石貳斗壹升九合　△垂井村

内六石三升貳合　新田

枝郷　檀村

外高拾石四斗貳升三合　隅田八幡領

一高百八拾六石八斗三升七合　○上夙村

内六石五斗貳升貳合　新田

枝郷 小平

一高貳百貳拾九石壹斗九升壹合　△平野村

内九石六斗七升貳合　新田

一高七百四石三斗壹升七合　△山内村

内貳拾四石壹斗五升八合　新田

一高貳百八拾五石貳斗六合　△霜草村

内拾七石七斗八升八合　新田

一高百拾五石三斗五升貳合　○杉尾村

内七石九斗壹升壹合　新田

一高百七拾六石三升貳合　△境原村

内拾五石七斗四升五合　新田

枝郷 湯屋野谷

一高百七拾八石貳斗八升貳合　△細川上村

内三石貳斗貳升四合　新田

一高百三拾壹石九斗五升　△細川下村

内五石八斗七升六合　新田

一高貳百三拾九石六斗七升五合　○柱本村

内貳拾九石六斗壹升七合　新田

枝郷　紀伊見峠

一高百四拾八石貳斗四升三合　△矢倉脇村

内六石貳斗五升八合　新田

一高百五拾石三斗八升三合　△慶賀野村

一高三百九拾壹石七斗七升五合　△橋谷村

内四石四斗九升九合　新田

一高貳百八拾五石六斗六升四合　△辻村

内三石四斗七升貳合　新田

一高四百五拾壹石六斗貳升四合　△胡麻生村（ゴマフ）

内拾七石四斗六升貳合　新田

枝郷　向ノ壇

一高貳百三石貳斗三升　△馬場村

内三拾三石四斗三升六合　新田

一高百七拾三石貳斗五升四合　△小原田村

内拾六石四斗壹升　新田

一高三百六拾四石九斗七升六合　△菖蒲谷村

内拾八石壹斗八升七合　新田

枝郷 田和

外高五石四斗六升四合　地藏寺領

一高四百八拾三石三斗三升　△戀野村

内百五拾四石七斗五升九合　新田

小以三拾八ヶ村

内壹ヶ所　町

拾四ヶ村　御藏

貳拾四ヶ村　給所

外九ヶ所　枝郷

中組

一高七百六拾八石四斗九升壹合　△大野村

内百拾九石五斗七升　新田

一高六百拾九石三斗六升貳合　△名倉村

内三拾八石三斗壹升九合　新田

一高貳百七拾五石五斗五升貳合　△入郷村

内貳拾石九升五合　新田

一高五百八拾五石三升六合　〇小田村

内貳石貳斗七升五合　新田

一高七百八石三斗九升七合　△南名古曾村

内貳石七斗九升八合　新田

枝郷 下(ウラ)之段

一高貳百八拾四石七斗八升　△北名古曾村

内四石五斗五升三合　新田

一高貳百拾六石貳斗四升壹合　△淨土寺村

内拾四石四斗貳升五合　新田

一高六百七拾壹石壹斗四升六合　△伏原村

内貳拾三石六斗六升貳合　新田

一高三百八拾八石四斗八升六合　皮田 〇端場村

内拾三石六斗八升貳合　新田

一高四百八拾七石貳斗七升　〇學(カ)文(フ)路(ロ)村

内六拾七石九斗九升四合　新田

枝郷 茂原　同 畑ノ天神　同 有岡

一高百四石三斗壹升五合　〇丹(ニ)生(ウ)川村

內五石六斗六升三合　新田

枝郷 田麻々 同 青淵

一高七百七拾壹石五斗五升　△神野々村

內五拾四石五斗七升五合　新田

外高拾壹石六斗八升三合　新田 松山成

一高四百壹石貳斗六升　皮田 △岸上村

內壹石七斗五升　新田

外高拾三石六斗九升　新田 松山成

一高三百七拾九石貳斗八升六合　△野村

內貳拾石七斗三升九合　新田

一高三百貳拾四石六斗四升貳合　○柏原村

內四拾石貳斗八升　新田

一高貳百拾石壹斗壹升四合　△出塔村

內貳拾九石九斗八升四合　新田

一高四百貳拾六石九斗八升五合　△山田村

內三拾九石五斗八升四合　新田

一高四百貳拾三石三斗三合　△吉原村

内百拾壹石九斗三升五合　新田

山田村吉原村之内

一高百拾三石七斗三升　○廣野村

皆新田

一高三百五石七斗壹升八合　△田原村

内四石八斗七升七合　新畑

一高三百三拾貳石四斗七升貳合　△九(ク)重(シユウ)村

内四石六升　新田

一高三百石壹斗八升六合　△上中村

内三石九斗壹升八合　新田

一高貳百四拾五石五斗八升七合　△下中村

内七石貳斗壹升六合　新田

一高百七拾七石八斗六升八合　△嵯峨谷村

内八石四斗七升四合　新田

枝郷　西川

一高百拾五石九斗五升八合　△竹尾村

内拾三石五斗九升九合　新田

小以貳拾五ヶ村
内壹ヶ村　分レ村
六ヶ村
拾九ヶ村
外七ヶ村

一高百八拾六石三斗八升五合
内四石壹斗八升四合

一高貳百四拾九石八斗貳升八合
内拾貳石三斗貳升三合

一高貳百七拾壹石三斗四升八合
内五拾石四斗七升七合

一高貳百八拾六石四斗貳合
内拾石六斗六升貳合

一高四百貳拾七石八斗壹升貳合
内八拾四石八斗壹升九合

一高四百三石八斗壹升八合

御藏
給所

枝郷
丁ノ町組

△下夙(シユク)村
新田
△背山(セノサマ)村
新田
○移(ウツリ)村
新田
○窪村
新田
○萩原村
新田
△中村

内三拾七石四升三合　新田

一高三百七拾貳石三升貳合　○嶋　村

内拾六石六斗三升九合　新田

一高八百八拾六石五斗六升七合　△東　村

内六拾九石壹斗五升九合　新田

東ノ村佐野村枝郷

折　居

一高九百拾六石壹斗八升四合　△佐(サ)野(ヤ)村

内百拾八石六斗九升四合　新田

外高七拾石三斗八升四合　三浦長門守新田直渡

高拾壹石壹斗壹升九合　久野丹波守新田直渡

高拾四石壹斗六升　小田井床本田替地引

一高百拾石壹斗　○廣　浦　村

内貳石七斗五升壹合　新田

一高六百四拾四石六斗九升九合　△大　谷　村

内貳百三拾七石六斗三升四合　新田

一高百五拾六石六斗九合　同村分レ村○新(シン)在(サイ)家(ケ)村

皆新田

○大藪村　一高三百八石三升六合
新田　内七拾七石九斗貳升九合

△柏木村　一高四百五拾三石貳斗七升七合
新田　内貳拾六石九升六合

△丁野町村　一高千貳百六石四斗三升九合
新田　内三百五拾六石四斗八升八合

同村分レ村○新田村　一高百三拾五石七升
皆新田

△妙寺村　一高九百壹石四斗四升六合
新田　内六拾四石壹升四合

△西飯降村　一高三百三拾三石四斗九升九合
新田　内壹石三斗九升

△中飯降村　一高五百六拾九石四斗六升貳合
新田　内六拾四石八斗五升壹合

○大畑村　一高貳百貳拾五石六升八合
新田　内九石貳斗八升五合

枝郷 椎（シイ）平（タイラ）

△短（ミヂカ）野（ノ）村 一高四百四拾六石壹升四合

新田 内五石七斗九升

枝郷 廣野

△東谷村 一高三百貳拾貳石九斗六升八合

新田 内三石五斗六升

枝郷 神（カウ）野（ノ） 同堀越 同中畑 東谷村平村 大久保

△平村 一高貳百四拾四石九斗一合

新田 内壹石八斗五升六合

枝郷 大久保 同下津川

△瀧村 一高貳百貳拾八石四斗六升

新田 内三拾六石三斗三升貳合

△廣口村 一高貳百四拾八石八斗貳升

新田 内三拾三石壹斗壹升八合

枝郷 大松

小以貳拾五ヶ村

内貳ヶ村 分レ村

九ヶ村

拾六ヶ村

外拾ヶ所

一高七百四拾九石壹斗三升三合

内貳拾壹石八斗九升九合

一高三百六拾四石貳斗貳升壹合

内拾貳石九斗八升三合

一高三百五拾三石五斗九升八合

内拾石貳升四合

一高貳百七拾壹石八斗壹升三合

内四拾八石壹斗七升

一高四百六石九升貳合

内五拾四石六斗三合

御藏

給所

枝郷

名手組

○市場村

新田

△西野村

新田

枝郷 堀上

△後田(シリエダ)村

新田

△池田垣内(イケダガイト)村

新田

新田 藤崎

△下丹生谷(ニブノヤ)村

新田

枝郷 岡

一高四百七拾六石九斗九升貳合　△上丹生谷村
内三拾石三斗四升五合　新田
枝郷　岡
一高八百五拾三石五斗三升六合　△馬宿村
内四拾七石壹斗壹升　新田
枝郷　西野垣内(ニシノカイト)
一高五百四拾三石七斗六升六合　△野上村
外高九石壹合七勺　三浦長門守新田直渡
一高貳百四拾六石七斗七合　△西河原村
内貳拾八石三斗九升四合　新田
一高百七拾三石三斗貳升三合　△東河原村
内貳拾九石八斗九升七合　新田
枝郷　足野下(アシヤグ)
一高三百四拾貳石六升壹合　△切畑村
内拾八石八斗壹升五合　新田
枝郷　葛谷(カツラタニ)
一高三百八拾九石五斗六升七合　△江川中村

内貳拾七石五升貳合　新田

枝郷　福(フク)垣(カイ)内(ト)

一高三百四拾六石八斗六升八合　△西野山村

内三拾八石八斗八合　新田

枝郷　野(ノ)垣(カイ)内(ト)

一高三百四拾四石三斗九升貳合　△穴伏村

内拾壹石三斗三升三合　新田

一高貳百四拾八石七斗四升三合　△下村

内貳拾壹石九斗四升六合　新田

一高三百貳拾四石七斗九升　△平野村

内四拾貳石七斗六升七合　新田

枝郷　中尾　同　林峯(ハエガミネ)　同　佃(ツクダ)

一高百三拾六石五升三合　△上村

内拾貳石貳斗八升四合　新田

枝郷　大松

一高三百九拾四石八斗三升九合　皮田△狩(カリ)宿(シュク)村

内貳拾五石三斗壹升貳合　新田

一高百五拾七石貳升貳合　○西之芝村
　内四拾貳石九斗四升四合　新田
　　小以拾九ヶ村
　　内貳ヶ村　御藏
　　　拾七ヶ村　給所
　　外拾貳ヶ所　拔鄉
　　　壹ヶ村　新田

粉河組

一高四百拾八石六斗九升八合　○東野村
　内六拾石六斗七升六合　新田
一高貳千百拾壹石三斗九升六合　○粉河村
　内三百四石壹斗貳升五合　新田
　新田中ノ才
　外高四拾六石七斗貳升五合　粉河寺領
一高貳百八拾石七斗壹升六合　○井田村
　内五拾三石六斗六升八合　新田
一高百六拾五石七斗八升五合　○東毛村

内拾七石九斗四升三合　新田

一高百五拾石九斗九升六合　○中津河村

内貳拾八石壹斗六升貳合　新田

一高五百四石貳斗四升六合　△藤井村

内八石八升六合　新田

一高貳百八拾八石三斗三升六合　△猪（井ノ）垣（カキ）村

内三石貳斗七升四合　新田

一高五百六拾貳石壹斗壹合　△北長田村

内拾貳石七斗八升九合　新田

一高五百貳拾八石三斗五升六合　△北志野村

内三石五斗五升六合　新田

一高六百八拾壹石五斗壹升六合　○南志野村

内拾貳石八升八合　新田

一高五百三石五斗八升三合　△長田中村

内貳拾石七斗九升三合　新田

外高貳石　長田觀音寺領

一高貳百四拾八石六斗七合　△中山村

内四石三斗貳升　新田
一高三百拾九石八斗七升九合　△深（フケ）田（タ）村
内拾五石壹斗壹升五合　新田
外高三石　長田観音寺領
一高百九拾六石八斗九升四合　△別（ベッ）所（ショ）村
内七石三斗四升五合　新田
一高千七拾貳石貳斗八升壹合　△上（カウ）田（タ）井（イ）村
内七拾六石四斗貳升三合　新田
一高百六拾五石九斗貳升貳合　○新在家村
内貳拾九石壹斗九升四合　新田
一高五百三拾貳石貳斗四合　△嶋村
内百拾五石五斗九升貳合　新田
一高百貳拾九石八斗三升壹合　△松井村
内貳拾九石四斗貳升三合　新田
小以拾八ヶ村
内七ヶ村　御藏
拾壹ヶ村　給所

外壹ヶ所　新田
高合四万五千七百六拾壹石壹斗四升
内四千五百五拾三石三斗三升三合　新田
外高八拾七石六斗壹升貳合　寺社領
高六拾七石五斗五升六合　萬引高
高七拾九石三斗八升五合七勺　三浦長門守新田直渡
高拾壹石壹斗壹升九合　久野丹波守新田直渡
村數合百貳拾五ヶ村
内壹ヶ所町 三ヶ村分レ村
三拾八ヶ村　御藏
八拾七ヶ村　給所
外三拾八ヶ所　枝郷
貳ヶ所　新田

那賀郡

山崎組

一高九百六拾貳石四升貳合　○山村
内拾壹石五斗四升四合　新田

一高百六拾壹石七升八合　　○境谷村（小名夙（シユク））

　內五斗六升八合　　新田

一高千貳百四拾四石壹斗壹升壹合　　○西坂本村

　內貳拾六石壹斗九升壹合　　新田

外高百五拾石　　報恩寺領

　高五拾石　　養珠寺領

　高拾六石五斗　　誠證寺領

一高九拾五石四升九合　　○押川村

一高百四拾石五斗貳升五合　　○赤垣内（アカカイト）村

一高貳百貳石八斗貳升九合　　○今畑村

一高九拾六石四斗九升七合　　○尼ヶ辻村

一高五百七拾九石六斗三升　　△金池村

　內壹石六斗貳升八合　　新田

一高三百三石七斗六升　　△新在家村

　內七拾貳石六斗五升　　新田

外高五拾貳石五斗八升壹合　　久野丹波守新田直渡

一高四拾壹石四斗四升三合　△原村

一高百七拾壹石七斗五升九合　△湯窪村

一高四百九拾九石六斗四合　△吉田村

内百六拾六石六升四合　新田

一高六百貳拾壹石貳斗七升貳合　△奥安上谷村（オクアンジヤウタニ）

内拾五石八斗五升七合　新田

一高貳百八拾六石九斗五升八合　△相谷村

一高八百三拾八石六斗貳升四合　△中野黑木村

内拾壹石七斗壹升三合　新田

一高五百三拾八石七斗六升四合　△曾屋村

内貳石貳斗貳升四合　新田

外高七石　正福寺領

一高三百四拾貳石四斗壹升貳合　△金屋村

内三拾七石壹斗九升貳合　新田

一高百四拾七石八斗九升　△白草村

一高貳百九拾三石五斗三升四合　△畑毛村（ハタケ）

内四拾壹石七斗四升四合　新田

一高三百五拾石九斗七升九合　△波分村
一高貳百五拾四石三斗三合　△西安上谷村
内壹石七斗三升六合　新田
一高六拾七石三斗九升五合　△馬場村
内拾石七斗五升貳合　新田
一高三百三拾三石六斗八合　△森村
内五石貳斗壹升四合　新田
外高六斗六升　毘沙門寺屋敷新田
一高百八拾八石貳斗四升壹合　△堀口村
一高千四拾壹石三斗壹升七合　○中嶋村
皆新田

小以貳拾五ヶ村
内八ヶ村　御藏
拾七ヶ村　給所
外壹ヶ所　小名

岩出組

一高四百五拾九石五斗八升五合　○西野村

内五拾三石三斗六升五合　新田

一高百拾四石四斗七升貳合　△山田村

内七斗七升七合　新田

一高百八拾九石六斗六升壹合　△今中村

内七斗貳升八合　新田

一高六百六拾八石三斗壹升九合　△野上野村

内八石七斗壹升壹合　新田

一高四百七拾壹石四斗壹升八合　△東坂本村

内八石貳斗七升八合　新田

一高六百七拾三石七斗六升三合　△水栖村

内四拾四石貳斗六升三合　新田

一高百六拾三石六斗壹升八合　△高瀬村

内壹石三斗六合　新田

一高千百九拾五石三斗九合　△岡田村

内百七拾三石八斗貳升三合　新田

一高四百八石六升六合　△北大池村

内三石六斗三升六合　新田

一高百五拾石八斗五升七合　△南大池村
内四石七斗三合　新田
一高三百六拾石六斗五升　△新田廣芝村（シンデンヒロシバ）
内貳石五合　新田
一高四百八拾七石九斗四升三合　△川尻村
内六斗四升四合　新田
一高四百五石九升壹合　△荊本村（イバラモト）
内五斗壹升壹合　新田
一高六百九拾石八斗壹升九合　△中追村（ナカハサ）
内七拾九石八斗貳升七合　新田
一高七拾六石三斗壹升七合　△備前村
内壹石九斗八升貳合　新田
一高百六拾六石五斗五升八合　△宮村
内壹石三斗三升　新田
一高六百拾六石四斗七升八合　△高塚村
内八拾七石八斗四升壹合　新田
一高貳百拾六石壹斗貳升九合　○大町村

一高三百四拾七石三斗八升八合
内四石九斗六升六合

一高六百七拾貳石八斗貳升五合
内拾八石四斗

一高五百拾貳石八斗四升九合
内壹石貳升三合

小以貳拾壹ヶ村
内三ヶ村
拾八ヶ村
外壹ヶ所

一高貳百三拾四石三斗壹升九合
内三拾五石壹斗四升九合

一高三百九拾七石七斗貳升七合

一高三百八石壹斗
内三拾九石八斗九升壹合

△溝川村
新田
△西國分村
新田
○清水村
新田
小名 新町

御藏所
給所

小名
小野上組

○長谷村
新田
○溝ノ口村
○新村
新田

一高五百五拾九石貳升六合　△原野村
　內貳石九斗貳升　新田
一高百九拾四石壹斗四升五合　△下津野村
　內三斗六升四合　新田
一高六百八拾石貳斗九合　△中村
　內貳石六斗八升　新田
一高四百九拾七石九斗五升壹合　△小(ショウ)畑(バタ)村
　內六石四斗六合　新田
　外高三石　八幡領
一高三百八拾九石九斗三升五合　△沖野々村
　外高三石　法龍寺領
一高百七拾三石九斗貳升　△東上谷村
　內三石貳斗六升八合　新田
一高三百石三斗七升壹合　△九(ク)品(ホン)寺(ジ)村
　內拾五石三斗三升四合　新田
一高貳百七拾八石五斗九升六合　△奧佐々村
　內八斗三升四合　新田

一高三百四拾四石七斗四升五合　△木津村
内四石壹斗貳合　新田
一高貳百八拾五石七升貳合　△冷水村
内壹石四斗四升三合　新田
一高貳百七拾三石四斗五升貳合　△福井村
内拾四石三斗三升貳合　新田
一高貳百七拾七石九斗八升三合　△柴目村
内五石七斗八升壹合　新田
一高貳百拾貳石三斗壹升七合　△高津村
内六拾貳石五斗八升　新田
一高三百拾三石五升三合　△孟子村
内貳拾石三斗六合　新田
一高七百拾石六斗六升四合　△七山村
内拾六石貳斗三升九合　新田
一高四百八拾七石九斗九升　△別院村
内三石七斗六升貳合　新田
一高六百三拾六石四斗九升五合　△下佐々村

內三拾七石貳斗六升四合　新田

一高五百貳石五升三合　△動木（トドロキ）村

內三拾四石八斗七合　新田

一高貳百五拾六石九斗貳合　△椋木（ムクノキ）村

內貳石貳斗八升九合　新田

一高百五拾八石四斗八升四合　○野尻村

內壹石貳斗七升九合　新田

一高百拾貳石四斗四升三合　○赤沼村

內三石六斗七升　新田

一高貳百五拾四石八斗貳升九合　○次谷村

內三石壹合　新田

一高貳百四拾壹石七斗五升八合　○海老谷（エビタニ）村

內八石九斗五升壹合　新田

一高七拾五石七斗七升九合　○西上谷村

內壹石六斗五升　新田

小以貳拾七ヶ村

內八ヶ村　御藏

拾九ヶ村　　給所

田中組

一高三百六拾七石七升七合　○竹房村

内貳拾八石四斗七合　新田

一高千三百貳拾七石三斗九升六合　○打田村

内百貳拾五石五斗七升五合　新田

外高五百四拾七石七斗五升六合　地詰減高

一高千九拾壹石六斗六升壹合　△段村

内貳拾四石貳斗壹升九合　新田

一高五拾貳石六升　同村之内○新田村

皆新田

一高貳百貳拾五石四斗貳升五合　△邊(クル)土(ベキ)村

内貳拾壹石六斗八升七合　新田

一高四百九拾五石八升五合　△下井坂村

内四拾七石六斗八合　新田

一高貳百壹石三斗六升七合　同村之内△皮田村

内六石四斗七升七合　新田

一高五百四拾三石五斗九升八合　△西大井村
内八拾石壹斗七升貳合　新田
一高五百拾七石六斗七升三合　△東大井村
内拾六石四升　新田
一高五百九石八斗九升八合　△赤尾村
内八石三斗三升八合　新田
一高貳百拾九石三斗九合　△廣野村
内五石七斗壹升貳合　新田
一高三百四拾三石五斗六升八合　△黒土村
内拾貳石三斗八合　新田
一高四百九拾四石六斗八升八合　△窪村
内四拾六石五斗四升九合　新田
一高百六石壹斗貳合　⊠△勝(カツ)神(カミ)村
内七石貳斗九升七合　新田
一高百七拾九石壹斗七合　△高(タカ)野(ノ)村
内拾五石三升　新田
一高三百六拾四石七斗七升六合　△上野村

内貳拾壹石八斗壹升九合　新田

△尾崎村
一高四百拾九石六斗三升
内貳拾九石八斗貳升四合　新田

△花ヶ野ャ村
一高五百貳拾八石七斗三升九合
内貳拾五石四升三合　新田

△馬場村
一高三百四拾貳石七斗三升七合
内貳拾八石四斗五升　新田

△中井坂村
一高四百九拾七石八斗三合
内貳拾貳石四斗三升　新田

△畑野上村
一高四百八拾五石六斗壹升七合
内貳拾四石貳斗七升　新田

小以貳拾壹ヶ村
内貳ヶ村　分レ村
三ヶ村　御藏
拾八ヶ村　給所

小倉組

○上三毛村
一高七百六拾四石九斗九升六合

内七拾貳石貳斗五升壹合　新田

一高千貳拾壹石六斗八升六合　○大垣内村（ナホガイト）

内四拾九石七斗四升　新田

枝郷　釋迦堂

外高八石三斗二升五合　光恩寺領

一高六百五拾三石壹斗壹升四合　○下三毛村

内四拾八石壹斗七升四合　新田

一高三百拾五石七斗壹升壹合　○滿屋村（ミツヤ）

内拾六石貳斗三升七合　新田

一高千百拾八石七斗貳升五合　○金谷村

内壹石壹斗貳升八合　新田

小名　神下（カウノシタ）　同上野

一高八百九石三斗壹升壹合　△前田村

内五拾貳石七斗八升八合　新田

内五石七斗九升三合　古新田

一高六百八拾九石四斗貳升貳合　△新庄村

内九斗四升五合　古新田

外高壹斗三升八合
　高壹石貳斗貳升貳合
一高六百四拾七石九斗八升三合
　內壹石五斗壹升八合
外高壹石壹斗七升壹合五勺
一高三百九拾三石九斗八升六合
　內拾三石四斗六合
一高九百貳拾壹石五斗九升
　內六拾七石六斗三合
一高貳百貳拾五石三斗八升貳合
　內貳拾八石貳斗貳升五合
一高五百六拾壹石七升九合
　內八拾四石四斗七升六合
一高百四拾五石壹斗貳升壹合
　內貳石八斗貳合
一高千六石七斗七升
　內八拾九石三斗六升五合

三浦長門守古新田直渡
久野丹波守古新田直渡
△田中村
新田
三浦長門守新田直渡
△北山村
新田
△神(カウ)戸(ド)村
新田
△上野山村
新田
△宮村
新田
△山崎村
新田
△吐(ハン)前(ザキ)村
新田

外高五石貳斗貳升　光恩寺領
一高八百八拾貳石四斗六升三合　△丸(マル)栖(ス)村
內四拾五石壹斗六升壹合　新田
枝郷 夙
一高百九拾八石五斗六升九合　△國(クニ)主(シ)村
內三拾六石四斗六升六合　新田
一高四百貳拾貳石八斗六升八合　△尼寺村
內貳拾五石八斗壹升六合　新田
一高百六拾五石九斗四升壹合　△鳥居村
內八斗六合　新田
一高五百六拾七石四斗七合　△西山村
內貳拾六石七斗九升壹合　新田
一高五百八拾四石貳斗七升五合　△長山村
內四拾七石三斗六升七合　新田
一高五百六拾五石三斗八升七合　○長原村
皆新田
以上貳拾壹ヶ村

内六ヶ村　御藏
拾五ヶ村　給所
外貳ヶ所　枝郷
貳ヶ所　小名

池田組

一高貳百四拾貳石八斗九升七合　○中畑村
一高六拾五石三斗壹合　○神通村
内壹石四斗八升八合　新田
一高千五百七拾六石三斗三合　○勢田村
内拾四石七斗五升六合　新田
一高五百七拾五石壹斗壹升四合　△東三谷村
内四石七斗六合　新田
一高六百三石貳斗四升　△南中村
外高貳石六斗五升四合　久野丹波守新田直渡
一高四百七石貳斗三升壹合　△北中村
内拾三石三斗貳升　新田
一高六百貳拾九石九斗七升五合　△豊田村

內貳石四斗　新田

外高八石九斗　福琳寺領

一高貳百七拾六石八升四合　△枇杷谷村

內拾貳石三斗四升貳合　新田

一高三百貳拾壹石八斗八合　△登(ノボリ)尾(ヲ)村

內貳石壹斗三合　新田

一高七百拾壹石八斗七升五合　△東國分村

內貳拾石貳斗三升　新田

外高三石貳斗　國分寺領

一高八拾四石九斗九升　同村之內△皮田

一高三百拾四石八斗七升三合　△神領村

內七石四斗七升貳合　新田

一高六百四拾壹石貳斗九升　△中三谷村

內三石五升壹合　新田

一高八百七拾八石七斗三升壹合　△西三谷村

內三拾八石七斗五升　新田

一高七百五拾九石貳斗五升三合　△古和田村

内十七石七升四合　新田

小名　皮田村

一高百四拾六石五斗六升三合　△東山田村

内壹石三斗六升七合　新田

一高貳百貳拾貳石三斗七升壹合　△西山田村

一高三百九拾三石三斗三升壹合　△新村

内七石六斗七升八合　新田

一高五百七拾五石三斗壹升八合　△北大井村

内五石三斗九升七合　新田

一高四百四拾壹石壹斗四升五合　△重(シゲ)行(ユキ)村

内拾六石五斗五升三合　新田

小以貳拾ヶ村

内壹ヶ村　分レ村

三ヶ村　御藏

拾七ヶ村　給所

外壹ヶ所　小名

高合五万九千八百五拾貳石貳斗八升五合

内六石七斗三升八合　古新田
四千三百六拾三石八斗四合　新田
外高貳百五拾五石八斗五合　寺社領
高五百四拾七石七斗五升六合　萬引高
高壹石三斗九合五勺　三浦長門守新田直渡
高五拾六石四斗五升七合　久野丹波守新田直渡
村數合百三拾五ヶ村
内　三ヶ村　分レ村
三拾壹ヶ村　御藏
百四ヶ村　給所
外貳ヶ所　枝郷
五ヶ所　小名

名草郡

和佐組

一高千九百貳石八斗六升六合　△岩瀬村
小名　東野　同北　同中里　同梶曾（カヂソ）　同小路（シヤウヂ）　同高柳　同宇田　同出嶋　同峯　同皮田
外高貳拾壹石三斗壹合　安藤飛驒守新田直渡

一高千貳拾壹石貳斗五升貳合　○加納村
内貳石九斗七升九合　新田

一高四百拾四石八升九合　○新在家村
内壹石九斗九升六合　新田

一高六百八拾八石六合　○松嶋村

一高貳百七拾八石壹斗壹升貳合　松島村之内○新田村
皆新田

一高千七百拾九石三斗八升三合　△栗（クルス）栖村
内貳斗五升六合　新田

枝郷　八軒屋　小名　東栗栖　同　西栗栖　同　南栗栖　同　馬場栗栖

一高貳百八拾三石四升貳合　同村之内○出嶋村
内貳拾石九斗八升八合　新田

一高六百九拾六石貳斗九升三合　△井ノ口村
内貳拾九石四斗五升七合　新田

一高五百七拾八石貳斗四升壹合　△關戸村
内七石六斗五升五合　新田

一高四百九拾七石貳斗壹升六合　△下和佐村

内五斗八升三合　新田

一高六百八拾石三斗三升九合　△中村

内五石七斗六升三合　新田

一高千貳百七拾壹石六斗六合　△禰宜村

内八石六斗四升三合　新田

中村禰宜村井ノ口村關戸村枝郷　栴檀木

歡喜寺領

外高貳石

一高九百六拾壹石五斗壹升七合　○布施屋村

新田

内百五拾四石貳斗壹合

小以拾三ヶ村

内貳ヶ村　分レ村

六ヶ村　御藏

七ヶ村　給所

外貳ヶ所　枝郷

拾四ヶ所　小名

山口組

△六十谷村

一高千貳百拾七石四斗八升壹合

内三拾五石六斗七升壹合　新田

一高千七百四拾三石七斗三升　△直(ノフ)川(カワ)村

小名　畑　村

外高六拾四石三升九合

水野土佐守新田直渡

一高千貳百石七斗四升壹合　△薗　部　村

内百拾六石五斗四升貳合　新田

一高八百八拾壹石五升三合　△田　屋　村

内八拾三石八斗壹合　新田

一高五百六石七斗六升九合　○小(ア)豆(ヅ)島(シマ)村

内六拾貳石七斗八升四合　新田

一高七百三拾石九斗壹升貳合　○西田井村

内百拾壹石五斗四升七合　新田

一高三百九拾三石三斗八升　○北　村

内拾壹石八斗五升五合　新田

一高九百六拾六石四斗八升九合　△府　中　村

内九拾六石五斗七升壹合　新田

一高九百九拾八石五斗貳升九合　△弘　西　村

内五拾三石貳斗八合　新田

小名 一之谷

一高六百拾石六斗貳升三合　△北野村

内貳拾三石六斗五升四合　新田

一高五百貳拾石壹斗三升三合　△宇田森村

一高六百四拾四石貳斗七升四合　△永穗村

内三拾壹石八斗壹升壹合　新田

外高拾三石六斗八升八合　大道成

一高百拾七石七斗九合　同村之内○新村

皆新田

一高三百九拾貳石九斗貳升七合　△嶋村

内貳拾五石三斗貳升九合　新田

一高七百拾三石貳升　△楠(クス)本(モト)村

内九拾八石七斗壹合　新田

一高九百貳拾六石四斗四升貳合　○川(カワ)邊(ナベ)村

内五拾九石貳升四合　新田

外高拾五石五斗七升六合　大道成

一高三百拾四石壹斗九升八合　△神波村

一高三百貳拾九石九斗八升貳合　△上野村

内拾三石八斗六升四合　新田

小名　中村

外高五升六合　牢屋敷成

一高八拾八石八斗八合　△別所村

一高五拾四石三斗五升壹合　△落合村

内四石九斗四升六合　新田

一高貳百拾七石九斗七升七合　○瀧畑村

内六石八斗壹升　新田

一高百石六斗三升九合　○湯屋谷村

内六石五斗貳升四合　新田

一高四百九拾壹石八斗四升六合　○谷村

内貳拾壹石六斗七升貳合　新田

外高壹石六斗貳升六合　山口町屋敷成

一高三百八拾五石九斗九合　○黒谷村

内拾四石八斗五升八合　新田

一高六百三拾六石四斗八升八合　△西村

一高貳百五拾九石五斗九升壹合　○藤田村

内七斗壹合　新田

一高三百八拾壹石八斗四升八合　○里村

内貳石九斗九升六合　新田

外高貳石　山王領

高拾五石四升壹合　山口御殿成

高拾五石九升　山口町屋敷成

高六石八斗七升六合　大道成

高壹斗九升　山口御殿前松陰引

一高三百八拾七石五斗四升　○平岡村

内四石三升七合　新田

一高四百九拾貳石貳斗八升四合　○中筋村

内九石壹斗五升三合　新田

枝郷　日延村

外高七石貳斗九升九合　山口町屋敷成

小以貳拾九ヶ村

內　壹ヶ村　分レ村

拾三ヶ村

拾六ヶ村

外壹ヶ所

三ヶ所

一高五百貳拾八石六升八合

　內四斗三升二合

一高二百四拾壹石壹斗七升四合

　內壹斗四升四合

一高五百八拾四石五斗六升五合

　內拾三石貳斗七升九合

外高貳石九斗八升五合

一高四百貳拾八石四斗四升七合

　內四拾壹石七斗四升八合

外高貳石

御藏

給所

枝郷　小名

山東組（サントウ）

△森村

新田

○△小手穂村（ヲテホ）

新田

枝郷　門前

○西村

新田

古川荒

○寺內村

新田

觀音領

一高千四拾八石壹斗七升七合　○吉(キ)禮(レ)村
　內貳拾石貳升貳合　新田
　外高三石六斗六升七合　古川荒
　　高壹斗壹升　新田堤下成
一高四百拾九石貳斗壹升四合　○伊(イ)太(タ)祈(キ)曾(ソ)村
　內八石八斗八升壹合　新田
　外高貳拾石　社領
一高五百三拾貳石五升三合　△平尾村
　內壹石七升五合　新田
一高貳百四拾六石五斗壹升貳合　○塩谷村
　內五斗貳升八合　新田
一高百六拾石貳斗四升七合　○明王寺村
　內三石三斗七升七合　新田
　外高百五拾石　養珠寺領
一高九拾六石六斗三升三合　○矢田村
　內九斗壹升六合　新田
一高五百貳拾七石貳斗壹升三合　○木(コ)枕(マクラ)村

内壹石壹斗五合　新田

三拾三石　邦安社領

一高五百九拾四石三斗四升六合　△永山村

内拾九石九斗九升　新田

一高三百九拾八石貳斗貳升九合　△中村

内八石五斗壹升八合　新田

一高六百五拾四石八升貳合　△大河内村

内拾石七升　新田

一高四百四拾石七斗三升九合　△南畑村

内六石九斗八升七合　新田

一高三百六拾四石六斗九升壹合　△黒岩村

内五石四斗三升四合　新田

一高千七拾三石五斗壹升四合　△小野田村

内拾七石貳斗九升　新田

一高九百六拾四石四斗七升三合　△坂井村

内貳拾三石八斗壹升　新田

一高貳百貳拾貳石五斗三升七合　○黒谷村

内壹石七斗三升壹合　新田

一高六百拾壹石五斗三升　△境原村

内拾九石四斗貳升壹合　新田

一高百七拾七石四斗六升四合　△奥須佐村

内一石二斗八升九合　新田

一高百三石三斗九升九合　△頭陀寺村

内八斗六升　新田

一高六拾石貳升五合　○夙村

内五石五斗五升四合　新田

一高三百四拾壹石三斗壹升壹合　△口須佐村

内壹石七升三合　新田

小名　杉ノ尾

小以貳拾四ヶ村

内拾ヶ村　御藏

拾四ヶ村　給所

外壹ヶ所　枝郷

壹ヶ所　小名

宮組

○有本村

一高千百七拾五石六斗九升八合

内百貳拾貳石九斗九升五合

新田

枝郷 船フナ渡ト

外高貳石壹斗

阿波百姓免許

高拾五石三斗三升貳合

八幡宮屋敷馬場成

高壹石九斗九升

堤敷

○黒田村

一高六百貳拾石五斗三升

新田

内壹石四斗四升

○太田村

一高千貳百貳拾九石五斗四合

新田

内六石貳斗八升四合

○出水村

一高百四拾七石四斗壹升

新田

内五斗四合

○秋月村

一高六百貳拾九石九斗七升

新田

内四石貳斗八升五合

日前宮社領

貳百六拾石

日前宮社領

外高四拾石

一高四百貳拾七石七斗四升四合　○吉田村
内四石九斗四升壹合　新田
外壹石七斗　松原五郎左衛門屋敷引高
一高四百八石九斗七升五合　○北出嶋村
一高六百拾壹石五斗壹升八合　○有家村
一高七百三拾九石七斗四升壹合　○井邊村
内四石三斗四合　新田
一高五百貳拾五石六斗八升貳合　○津秦村
外高三石　葉徳寺領
一高千六石九斗壹合　○神前村
内八斗九升六合　新田
外高壹石九斗　法紹寺屋敷成
一高千百七拾三石六升貳合　△和田村
内貳石八斗八合　新田
外高三石九斗貳升九合　溝成
一高八百貳石貳升三合　○新内村
内壹石壹斗三升五合　新田

外高五斗七合

高三石三斗八升貳合

一高千貳百七拾九石五斗壹升六合

內八石六升九合

外高三斗壹升五合

一高六百五拾九石貳斗貳升六合

內四石五斗六升八合

百貳拾壹石五斗七升六合

外高八石壹斗貳合

一高千六百拾六石六斗九升六合

內貳百貳拾三石六斗三升三合

外高九拾六石壹斗八升八合

高八石五斗貳升壹合

高三石七斗五合

一高貳拾貳石九斗貳升壹合

一高百五拾八石八斗三合

三昧道成

久成寺屋敷成

△鳴神村 新田

小名 有馬

牢屋敷成

△坂田村 新田

塩濱通り 小物成

三浦長門守新田直渡

○中野嶋村 新田

總溝居堀御廐成

崇賢寺屋敷成

御薬部屋并新町裏水道杭俵藏屋敷成

同村之内○北出嶋村

同 ○南出嶋村

内五斗五升貳合　新田

一高百三拾三石三斗三升九合　○宇　治

皆新田

外高貳百五拾八石七斗九合　本郷土屋敷成

高貳拾七石四斗貳合　大道堤下成

一高拾六石九斗六升五合　○鷺　ノ　森

皆新田

外高貳拾三石八升壹合　馬場弓場川成等荒

高六拾四石五合　鷺ノ森御坊屋敷成

高六百壹石壹斗八升五合　御花畑杉ノ馬場屋敷成

小以貳拾ケ村

内二ケ村　分レ村

拾七ケ村　御藏

三ケ村　給所

外壹ケ所　枝郷

壹ケ所　小名

高五万千八百拾貳石五斗貳合

内貳千貳百七拾四石六斗五升三合
　百貳拾壹石五斗七升六合
外高三百拾壹石二斗三升
　内六拾四石五合
高千百二石壹升五合
　内六百壹石壹斗八升五合
高貳拾壹石三斗壹合
高六拾四石三升九合
高八石壹斗貳合
村數合八拾六ヶ村
　内　五ヶ村　分レ村
　　四拾六ヶ村
　　四拾ヶ村
　外五ヶ所
　拾九ヶ村

新田
小物成
寺社領
鷺ノ森領御坊屋敷成
萬引高
同領御花畑杉之馬場屋敷成
安藤飛騨守新田直渡
水野土佐守新田直渡
三浦長門守新田直渡
御藏
給所
枝郷
小名

一高四百八拾四石九升

内六拾壹石七斗七升四合

四拾七石貳斗八升四合

一高八百八石九斗八升八合

内百貳拾三石壹斗貳升八合

二拾壹石五斗貳升貳合

小名 岡島　皮田　出作（シユツサク）

一高七百二拾貳石七斗貳合

内百二拾貳石三斗七升九合

二拾六石貳斗壹升六合

外高壹石九斗七升六合

一高貳百四拾五石三斗九升八合

一高貳百貳拾九石九斗四升

外高拾石壹斗四升六合

一高五百四拾四石貳斗五升七合

海士郡

雑賀組

×○田尻村　新田

塩濱通り小物成

○杭ノ瀬村　新田

塩濱通り小物成

○中嶋村　新田

塩濱通り小物成

惣福寺屋敷成

同村之内○新中嶋村

○南出嶋村

三昧道成

○手平村

外高三石六斗六升七合　溝成三昧道成荒
一高百七拾九石八斗四升七合　同村之内○出島　村
外高七斗貳升八合　溝成三昧道成荒
一高八百拾七石六斗五升　○小雑賀（コサイカ）村
内百五拾五石四斗三升七合　新田
九拾七石九斗壹升九合　壚濱通り小物成
一高九百貳石六合　○岡　町
内貳石九斗九升四合　新田
小名 壚道　同 皮田
外高三拾九石八斗六升六合　寺社領
高百拾石三斗五升四合　諸士屋敷水道舟場成
高八石九斗七升五合　岡野平太夫下屋敷成
高五石　皮田
一高千六百三拾八石四斗八升壹合貳勺　○湊村
新田
小名 御膳松（ゴゼンマツ）　同 外濱
外高拾八石貳斗貳升五合　寺社領

高貳斗壹合　　和歌御宮神子屋敷成

高五百拾八石九升九合四勺　　萬引高

一高貳百六拾九石六斗三升五合　　○宇須村　新田

内七拾壹石八斗三升三合

小名　井原町　同　打越　同　與次郎町

外高八石五升　　寺社領

高六拾四石四斗六升壹合　　萬引高

一高三百拾七石貳斗七升八合　　○塩屋村　新田

内七拾貳石五斗八升

外高貳石三斗九升貳合　　寺社領

高拾六石六斗九斗　　萬引高

一高千貳拾七石七斗八升六合　　○和歌浦　新田

内貳百六拾八石五斗三升九合

九拾壹石六斗六升貳合　　塩濱通り小物成

枝郷出嶋浦

外高貳拾貳石壹斗三合　　寺社領

高拾三石八斗七合　　萬引高

高六拾三石壹斗三升六合　久野丹波守下屋敷成

內三拾八石五斗三升五合　小物成引高

一高七百四拾九石五斗八升八合　○關戸村

內八拾八石壹斗壹升貳合　新田

九石貳斗四升　塩濱通り小物成

小名　高松

外高三石　矢ノ宮領

高貳拾壹石六斗六升六合　萬引高

一高九拾四石八斗九升三合　○雑賀崎浦

內貳拾五石貳斗壹升三合　新田

枝郷田ノ浦

一高千貳百貳拾九石七斗六升六合　○西濱村

內六百七拾六石九斗壹升九合　新田

五拾九石九斗貳升貳合　塩濱通り小物成

小名　小二里(コニリ)　同　栗栖屋(クルスヤ)　同　大浦　同　水軒(スイケン)

高四拾貳石四斗壹升四合　萬引高

內壹石七斗七升五合　小物成引高

高九石貳斗五升七合
高貳百拾五石貳斗九升七合四勺
一高七拾七石九斗壹升貳合
外高四拾六石七斗七升
小以拾七ヶ村
內貳ヶ村　分レ村
壹ヶ所　町
外貳ヶ所
拾四ヶ所
一高五百五拾四石三斗八升三合六勺
內貳石九斗三升七合
外高四石九斗七升三合
一高貳百四拾壹石三斗八合
內四石貳斗七升四合

長賢寺領
朝比奈段右衛門拝領地
○今福村　皆新田
小名今福新地
萬引高
御藏
枝郷
小名
吉原組
○江(エ)南(ナ)村　新田
川成荒
○井戸村　新田

外高貳石三斗七升九合　川成荒

○吉原村　一高六百八拾三石八斗八合
新田　内三石五升八合

△廣原村　一高貳百八拾四石壹斗貳升六合
新田　内壹石五升六合

○冬野村　一高千百八拾八石壹斗四升三合
新田　内四石三斗五升貳合

○朝日村　一高千貳百三拾四石七斗貳升壹合
新田　内三石五斗六升八合

枝郷出嶋村

△小瀬田村　一高百石七斗三升壹合
新田　内貳石貳升壹合

△本（モト）渡（ワタリ）村　一高七百七拾八石三斗五升七合
新田　内五石九斗
牢屋敷成　外高壹斗五合

△仁井邊村　一高百三拾壹石九斗九升五合
新田　内六升八合

一高貳百七拾四石八斗壹升五合　○薬(ヤク)勝(シヤウ)寺(ジ)村
内壹斗九升七合　新田
一高百九拾八石貳斗壹合　○馬塲村
内五斗五升五合　新田
外高三拾石　玉津嶋領
高貳拾五石　天神領
高三斗壹升四合　川成荒
一高貳百六拾六石八斗五升九合四勺　○松原村
内壹石九斗　新田
江南相坂松原馬場四ヶ村より出作
一高三百七拾八石八斗三升四合　○新出嶋
一高六百拾五石三斗四升五合　△相(サウ)坂(サカ)村
内三石四斗八升七合　新田
外高貳石四斗八升壹合　川成荒
一高四百八拾五石五斗五升三合　○三(ミ)葛(カツラ)村
内百拾壹石五斗五升八合　新田
五拾五石七斗九升壹合　塩濱通り小物成

一高六百拾六石貳斗六升八合　同村分レ村○布引村　皆新田

外高貳斗四升　御番所屋敷成

一高七百四拾九石三斗六升九合七勺　○紀三井寺村

内七拾貳石五斗五升九合　新田

八拾壹石九斗貳升九合七勺　塩濱通り小物成

外高貳拾壹石五斗三升　紀三井寺領

一高千七拾三石壹斗三升壹合　○内原村

内百石四升三合　新田

百六拾壹石四斗壹升　塩濱通り小物成

小以拾八ヶ村

内　貳ヶ村　分レ村

拾三ヶ村　御藏

五ヶ村　給所

外壹ヶ所　枝郷

日方組

一高三百八拾五石六斗貳升七合　○黑江村

内貳拾三石五斗七升七合　新田

一高六百六拾五石壹斗五升壹合　○毛見浦

内六拾六石九斗四合　新田

一高百三拾八石八斗貳升　○船尾村

内貳拾四石貳斗六升貳合　新田

拾八石三升八合　塩濱通り小物成

一高百六石六斗四升　同村ノ内○河内濱

皆新田

内六拾八石七斗七升　塩濱通り小物成

一高五百四拾六石三斗三升壹合　○日方（ヒカタ）浦

内　新田

外高拾石　永正寺領

一高六拾七石三斗壹升　○神田浦

内壹石五升三合　新田

一高三百七拾四石九升八合　○名高浦

内貳拾石七斗九升四合　新田

一高貳百九拾三石三斗五升三合　○鳥居浦

内貳石壹斗七升七合　新田

一高貳百六拾七石四斗四升貳合　○冷水浦

内九斗四升八合　新田

外高九斗七合　道成荒

一高四百五拾四石八斗壹升壹合　○藤白浦

内百貳拾四石八斗五升九合　新田

拾三石九升三合　塩濱通り小物成

外高六石　權現領

一高千百九拾八石九斗六升四合　△岡田村

内壹石壹升　新田

一高七百六石貳斗四升八合　△多田村

内拾五石八斗三升壹合　新田

一高千百六拾九石七斗六升三合　○且來村

内拾九石五斗七升壹合　新田

一高百四拾八石三斗　△井田村

内壹石五斗五升二合　新田

一高八百拾八石壹斗八升六合　△中村

内六石貳斗貳升四合　新田

一高五拾石七斗五升貳合　○山田村

内壹斗六升七合　新田

一高三百四拾八石貳斗六升　△幡川村

内九斗三升五合　新田

一高三百三拾石九斗三升三合　△別所村

外高三石　観音領

一高貳百貳石七斗六升六合　△汲澤村

一高六百四拾石五斗七升五合　○東畑村

内七石九斗貳升　新田

一高三百九拾石九斗八升五合　重根之内△大谷村

内拾八石貳斗三升貳合　新田

一高四百貳拾六石壹斗壹升四合　同△伏山村

内七石壹斗四升三合　新田

一高貳百拾七石九斗五升八合　同△田津原村

内壹石貳斗六升　新田

古は右三ケ村合重根村と認申候

小以貳拾三ヶ村

內壹ヶ村　分レ村

拾三ヶ村　御藏

拾ヶ村　給所

加茂組

一高九拾四石五斗壹升四合　○笠畑村

內拾七石九斗三升八合　新田

一高百貳拾四石八斗八升四合　△與村

內拾六石六斗三升八合　新田

一高貳百七拾壹石壹斗六升貳合　△引尾村

內三拾石壹斗七升三合　新田

一高百六拾六石貳斗貳升九合　△百垣內村（モヽガイト）

內七石壹斗九升四合　新田

一高四百拾壹石八斗貳升五合　○橋本村

內拾六石壹斗壹合　新田

外高八石　地藏寺領

高三石　福勝寺領

一高四百拾六石三斗四升壹合　○市ノ坪村
　内五石四斗七升七合　新田
一高三百七拾九石六斗七升貳合　○大窪村
　内五石壹斗四升貳合　新田
一高百七拾七石五斗七升四合　○沓（クツ）掛（カケ）村
一高百貳拾八石八斗四升九合　○青（アヲ）枝（シ）村
　内貳石三斗六升七合　新田
　外高五拾九石七升九合　無地荒
　　高壹石三斗五升　萬引高
一高百拾三石七斗四升三合　○壚津浦
　内壹石八斗六升六合　新田
一高五百三拾六石七斗七升壹合　△丸田村
　内五石八斗四升五合　新田

御神領

一高貳百貳拾石壹斗六升九合　黑田村
　内貳石三斗四升七合　新田
一高貳百拾三石五斗七升五合　△丁（ヤウラウ）村

内四石五斗四升四合　新田

一高六百貳拾六石五斗壹升八合　△方(カタ)村

内百貳拾石三斗八升　新田

外高百石　報恩寺領

一高貳百五拾貳石貳斗六升三合　○大崎村

内四拾七石五斗四升八合　新田

一高百六拾四石七斗七升五合　○上(カミ)村

内貳石五升貳合　新田

外高三百拾六石九斗貳升九合　長保寺領

一高五百三拾四石七斗四升七合　○下津浦

内五拾七石八斗四升七合　新田

一高七百七拾六石壹升貳合　○椒(ハジカミ)濱(ハマ)村

内百拾六石七斗五升七合　新田

新田 新田村

一高七百五拾壹石四斗三升五合　△椒里村

内六石貳斗三升五合　新田

一高百四拾四石壹斗九升　△鰈(カレイ)川村

内六石八斗三升四合　新田

△小原村
一高三百八拾壹石貳斗五升五合
内拾六石九斗八升七合　新田

△小畑村
一高三百三拾八石七斗七升九合
内拾九石五斗貳升四合　新田

御神領
小松原村
一高貳百九石貳斗七合
内拾壹石貳斗九升四合　新田

同
小南村
一高貳百八拾五石九斗壹升貳合
内九石七斗七升　新田

長保寺領
中村
一高貳百拾九石七斗貳升三合
内拾石壹斗壹合　新田

御神領
梅田村
一高百貳拾六石八升貳合
内八斗六升五合　新田

同
下村
一高百八拾九石貳斗三升三合

内四石三斗貳升七合

一高貳百四拾貳石三斗貳升三合

内五石四斗六升七合

小以貳拾八ヶ村

内五ヶ村

壹ヶ村

拾壹ヶ村

拾壹ヶ村

外壹ヶ所

一高六百貳拾石三斗壹合

内四石八斗七升六合

一高貳百五拾石九斗八升五合

内六石四斗貳升六合

一高五百五拾八石七斗八升

内三拾三石八斗壹升四合

新田

△曾根田村

新田

御神領

長保寺領

御藏

給所

新田

野崎組

△市小路村

新田

△延時村

新田

○粟村

新田

小名 土橋

○北嶋村
一高三百六石四斗三升壹合
　内七拾八石壹斗五升三合　新田
　外高貳拾貳石八斗六升貳合　御殿地成
　高四斗　堤下成

○福嶋村
一高六百五拾六石八斗貳升
　内五拾九石壹斗四合　新田

○船所村
一高三百四拾六石四斗六升四合
　内三拾四石四斗四升八合　新田

△次郎丸村
一高貳百四拾九石貳斗三升八合
　内九升六合　新田

△大谷村
一高六百八石八斗三升
　内三石貳斗　新田

△榮谷村
一高七百貳拾貳石五斗貳升三合
　内拾貳石貳斗三升九合　新田

小名　河原崎

△野崎村
一高三百拾七石七斗四升貳合
　内貳石五斗三升五合　新田

一高四百六拾七石三斗　△中ノ村
内壹石八升四合　新田
一高八百九石五斗七升四合　△狐嶋村
内百九拾石壹斗三升七合　新田
一高五百六拾八石貳升五合　△梶取村
内拾五石三斗五合　新田
外高八石　惣持寺領
一高三百四拾九石六斗三合　△平井村
内拾九石貳斗四升八合　新田
小名　奥谷　同　穢多（エタ）
外高四拾四石壹斗壹升四合　池床荒
一高六百八石三斗五升三合　△善明寺村
内五石五斗六升八合　新田
小名　大久保　同　穢多
小以拾五ヶ村
内四ヶ村　御藏
拾壹ヶ村　給所

外六ヶ所

一高五百二拾六石五斗六升七合
　内六拾六石三斗貳升五合
　外高九拾三石壹斗七合
　　高五石五斗六升七合
一高五百三拾六石六斗七合
　内八拾八石七斗七升七合
　外高八拾九石壹斗貳升八合
一高貳百貳拾七石七斗貳升
　内拾壹石八斗五合
　外高四拾五石五斗貳升三合
一高三百貳拾六石七斗五升
一高九拾貳石九斗貳升三合
一高三百七拾五石七升九合
　内拾三石貳斗壹升六合
一高五百六拾五石五斗壹升壹合

小名
貴志組
○東松江村
新田
地詰減高
松林寺屋敷
○中松江村
新田
地詰減高
○西松江村
新田
地詰減高
△北土入村
△西土入村
△小屋村
新田
○榎原村

内拾三石貳斗六升四合　新田

一高千四百九拾壹石三斗壹升四合　△木ノ本村

内四石九斗八升八合　新田

一高千百九拾九石壹升五合　○西ノ庄村

内貳拾貳石三斗九升三合　新田

小名　山下　同芝

一高四百六拾九石壹斗四升五合　○本脇村

内七石六升五合　新田

一高三百貳拾三石三斗八升八合　○磯脇浦

内拾貳石九斗貳升六合　新田

一高百貳石七斗三升　○日野村

一高三百五拾石四斗六升　△中村

内拾九石五斗九升貳合　新田

一高千貳百八拾四石三斗四升八合　○加太浦

内拾六石五合　新田

外高六石　寺社領

一高貳百拾壹石九斗三升四合　△深山村

内四石四斗壹升　新田
一高三百九拾三石九斗六升六合　△向村
内壹斗六升壹合　新田
一高八拾貳石五斗九升四合　○大川浦
内九石四斗三升　新田
一高百貳拾石壹升六合　△中野村
内貳石八斗八升四合　新田
一高五百四拾石四斗九升　○梅原村
内貳斗五升八合　新田

小以拾九ヶ村
内拾壹ヶ村　御藏
八ヶ村　給所
外貳ヶ所　小名

高合五万四千七拾四石五斗壹升壹合九勺
内五千貳百八拾四石九斗七升八合貳勺　新田
七百七拾貳石七斗九升六合七勺　小物成
外高千八百九拾八石四斗貳升貳合　寺社領

高千貳百九拾貳石七斗八升五合四勺　萬引高
內四拾石三斗壹升　小物成引高
高貳百拾五石貳斗九升七合四勺　朝比奈段右衛門拜領地
村數合百貳拾ヶ所
內五ヶ所分レ村
　壹ヶ所町
五ヶ村　御神領
壹ヶ村　長保寺領
六拾九ヶ村　御藏
四拾五ヶ村　給所
外三ヶ村　枝鄕
貳拾貳ヶ所　小名
壹ヶ所　新田

有田郡

宮原組

一高貳百四拾七石壹斗五合　○畑村
內百拾九石七斗三升貳合　新田
一高三百四拾壹石七斗七合　○道(ドウ)村

内貳拾八石九斗貳升五合　新田
一高三百七拾七石七斗六升三合　△東　村
内五拾五石七斗六升三合　新田
一高五百三拾六石六斗九升七合　○南　村
内九拾壹石壹升　新田
小名 新　町
一高七百四拾貳石四斗九合　○瀧川原村
内九石三斗六升七合　新田
外高貳石　圓滿寺領
一高百三拾四石六斗四升貳合　○瀧　村
内拾三石貳斗四升四合　新田
一高七百拾七石貳斗八升四合　△須（ス）谷（カイ）村
内百拾五石四斗六升九合　新田
一高四百九拾貳石五斗五升九合　△中番村
内七拾石壹斗七升四合　新田
一高五百三拾七石壹斗九升九合　△西　村
内三拾石四斗七升八合　新田

一高千百九拾壹石六斗壹升三合　△千田村
内百八拾三石四斗九升貳合　新田
一高百六拾八石七斗七升壹合　△星ノ尾村
内壹石七斗壹升四合　新田
外高三石　星尾寺領
高四拾貳石六斗五升三合　水野土佐守新田直渡
一高九百拾六石四斗五升七合　△辻堂村
内貳斗三升六合　新田
外高四石壹斗貳升貳合　堤下成
一高五百三拾壹石八斗八升九合　△中嶋村
内四拾四石八斗四升九合　新田
一高六百四石六斗四升　△新堂村
内貳拾壹石九斗六升五合　新田
一高七百八拾貳石五斗四升五合　○箕嶋村
内六拾五石九斗壹升六合　新田
一高百拾四石貳斗三升四合　○北湊村
内六石五斗壹升三合　新田

新田砂濱

一高七百六拾四石四斗三升七合　○小豆嶋村
内四百貳拾貳石貳斗五升六合　新田
外高八斗四升九合　淨妙寺領

一高貳百七拾九石四斗八升四合　△古江見村
内九斗六升　新田

一高貳百貳拾三石五斗七升　○山地村
内貳拾九石五斗八升三合　新田

一高五百八拾石六斗壹合　△野村
内六拾三石壹升壹合　新田

一高貳百五石八斗八升四合　△山田原村
内三拾七石七斗七升四合　新田

小以貳拾壹ヶ村
内九ヶ村　御藏
拾貳ヶ村　給所
外壹ヶ村　小名
壹ヶ所　新田

湯淺組

〇廣村　一高千四百三拾五石四斗九升五合

新田　內四拾壹石七斗四升壹合

枝鄉 宇田

御殿跡幷御代官屋敷成　外高七石五斗五升七合

養源寺領　高九石四斗三升三合

牢屋敷成　高三斗

〇西廣村　一高五百九拾壹石六斗五升貳合

新田　內四拾八石壹斗六升五合

△山本村　一高六百拾石八斗貳升

新田　內七拾七石七合

枝鄉 池ノ上　新田 小浦

〇和田村　一高三拾五石七斗六合

〇唐(カラ)尾(ヲ)村　一高貳百八拾四石八斗五升五合

新田　內八拾三石四斗七升壹合

△中野村　一高五百拾貳石壹斗七升九合

新田　內拾六石五斗四升五合

外高二石　法藏寺領

一高三百三拾九石七斗三合　△金屋村

内七石六斗七升九合　新田

一高百八拾四石八斗四升壹合　○殿村

内三石七斗四升三合　新田

一高三百三拾壹石五斗九升七合　○井關村

内三拾二石七斗五升　新田

一高六拾八石九斗三升三合　○河瀬村

内三石七斗七升壹合　新田

枝郷 鹿ヶ瀬（シシセ）

一高三百二石九斗五升四合　△前田村

内七石九斗壹升七合　新田

一高三百五拾七石六斗五升七合　○上津木村

内三拾九石六斗九升八合　新田

小名 猪谷　同中村　同落合

一高四百四拾七石四斗貳升三合　○下津木村

内三拾七石三斗三升三合　新田

小名 猿川　同 新在家　同 寺袖　同 瀧ヶ原　同 小鶴屋　同 岩淵

一高百貳拾四石四斗四升三合　△柳瀬村

　内拾石壹斗八升六合　新田

一高貳百五拾五石壹斗貳升八合　○中村

　内四石三斗壹升七合　新田

外高拾石　八幡宮領

一高貳百六拾五石六斗七升五合　△名嶋村

　内三石九斗八升四合　新田

外高四石　法藏寺領

　高七石三升七合　三浦長門守新田直渡

一高千五百六拾三石六斗六升四合　○湯淺村

　内三拾石八斗四升　新田

外高四石八斗六升　寺領

一高貳百壹石六斗四升四合　△別所村

　内四石四升九合　新田

一高四百五拾石八斗三升五合　△青木村

　内貳拾八石五斗三升九合　新田

一高六百八拾四石九斗五升七合
内壹石七斗貳升
一高六百三拾四石壹斗三升
内貳拾四石九斗六升壹合
一高七百五拾五石四斗七升壹合
内三石三斗六升壹合
一高五百八拾六石四斗壹合
内拾壹石四升九合
外高四石八升
小以貳拾三ヶ村
内拾四ヶ村
九ヶ村
外三ヶ所
九ヶ所
壹ヶ所
一高四百拾貳石貳斗壹升四合

△山田村 新田
○吉川村 新田
○栖(ス)原(ハラ)村 新田
○田村 新田
宮領
御藏
給所
枝郷
小田
新田
藤並組
○水尻村

内三拾九石五斗三升七合　新田

小名　西畑

一高三百貳拾六石八斗九升貳合　△熊井村

内壹石九斗五升貳合　新田

一高百七石壹斗六升三合　○夙村

内四石七斗七升三合　新田

一高百六拾貳石貳斗四升六合　○明王寺村

内拾貳石四斗七升三合　新田

一高七百六拾八石貳升四合　○天満村

内貳拾六石壹斗　新田

一高三百八拾四石六斗八升貳合　△土生村

内五石四斗九升七合　新田

外高七石　禪長寺領

一高貳百四拾石三斗三合　△中野村

内貳石五斗七合　新田

一高七百拾五石四升九合　△奥村

内九石七斗六升貳合　新田

一高千貳百五拾四石壹斗七合　〇下津野村

內七拾八石五斗八升壹合　新田

小名 高瀬　同北筋　同一つ松　同きびの

外高貳拾七石五斗七升貳合　撿地減

一高四百三拾貳石六斗九升貳合　△野田村

內九石九斗六升　新田

一高三百貳拾九石四斗九升四合　△小嶋村

內貳拾九石五斗七合　新田

小名 夙谷

一高五百四拾壹石六斗九升四合　△中嶋村

內六拾七石九斗壹升五合　新田

一高三百五拾六石壹斗六升壹合　△長田村

內拾壹石八斗八升五合　新田

外高壹斗四升六合　三浦長門守新田直渡

一高貳百五拾五石九斗七升二合　△角村

內貳石貳斗四升四合　新田

一高三百六拾八石八斗三合　△中村

外高貳石九斗三升六合

一高四百六石貳斗貳升三合
　内拾六石四斗貳升四合

一高百九拾九石八斗七升三合
　内五拾四石七斗六升

一高百四拾四石四斗四升六合
　内四拾六石貳斗八升五合

一高百八拾四石七斗三升貳合
　内百三石九斗六升四合

一高貳百九拾七石八斗貳升
　内九拾五石五斗壹升八合

一高九拾石壹斗八升八合
　内五石五斗五升六合

一高五拾四石貳斗八升六合
　内七斗七升壹合

水野土佐守新田直渡

△出（イデ）村
新田
小名 鳥居戸
△賢（カシコ）村
新田
○井ノ口村
新田
△大谷村
新田
○田口村
新田
小名 上（カミ）須（ス）谷（ガイ）
○田角村
新田
△長谷村
新田

一高百六拾壹石壹斗四升貳合　△船坂村
内拾七石貳斗七升　新田
一高貳百七拾貳石五斗八升五合　○丹生村
内三拾貳石五斗貳升貳合　新田
一高四百貳拾九石五斗貳升四合　△糸野村
内拾貳石五斗七升六合　新田
一高貳百三拾四石四斗九升八合　△上六川村
内壹石三斗八升三合　新田
一高六拾壹石四斗貳升三合　△下六川村
内五石貳斗八升七合　新田
一高百五拾七石五斗三升壹合　△釜中村
内八斗六合　新田
一高貳百石六斗八合　△黒松村
内貳石七斗七合　新田
一高五百七拾九石五斗三升　△西ヶ嶺村
内壹石六斗九合　新田
一高貳拾九石三斗九升七合　○大賀畑村

小以三拾壹ヶ村
内拾ヶ村
貳拾壹ヶ村
外八ヶ所

一高貳百貳拾六石九斗貳升四合
内貳拾壹石壹斗七升九合
一高四百三拾八石四斗五升四合
外高拾三石五斗八升壹合
一高三百七拾九石七斗壹升三合
外高四石五斗九升六合
一高三百七拾壹石貳斗五升三合
内貳拾四石五斗五升九合
一高五百貳拾貳石貳斗貳升五合
内百七拾壹石四斗三升三合
一高四百貳拾壹石九斗壹升五合

御藏
給所
小名
石垣組
△吉見村
新田
久野丹波守新田直渡
△西丹生圖（ニシニブツ）村
△東丹生圖村
水野土佐守新田直渡
△垣（カイ）倉（クラ）村
新田
○庄村
新田
新田御（ゴ）靈（リヤウ）野ノ
△徳田村

内拾七石七斗七升　新田

一高貳百六拾石四斗九升　同村之内○大野村

皆新田

一高貳百五拾壹石九斗五升貳合　○市場村

内拾八石壹斗貳升四合　新田

一高貳百四拾石三斗壹升　○中野村

内貳拾三石貳斗四升八合　新田

一高四百五拾七石四斗三升貳合　△金屋村

内拾壹石七斗貳升壹合　新田

一高三百九拾貳石貳斗九升五合　△中井原村

外高貳拾貳石六斗七升壹合　三浦長門守新田直渡

一高四百九拾九石六斗壹升六合　△吉原村

内八拾九石六斗五升四合　新田

一高貳百石七斗四升九合　同村之内○大野

皆新田

一高三百四拾四石八斗四升三合　△糸川村

内貳斗六升五合　新田

一高四百貳拾貳石八斗壹升四合　△修(シュ)理(リ)川(ガワ)村
内五石六斗壹升三合　新田
小名　上村　同　中村　下村

一高九拾三石三升五合　○松原村
内七石三斗五合　新田

一高五拾壹石壹斗貳合　△宇井苫村
枝郷　苫谷

一高百九拾石貳斗八升三合　△歡喜寺村
外高五拾四石貳升五合　三浦長門守新田直渡

一高四百貳拾九石九斗九升六合　△長谷川村
内三拾貳石八升　新田

一高貳百六拾壹石三斗七升壹合　△川口村
内六石六斗四升五合　新田

一高貳百貳拾石四斗五升貳合　△岩野河村
内貳石六斗八合　新田

右は村さ斗認申候

一高百八拾八石九斗七升八合　○粟(アワ)生(フ)村

新田　内拾貳石五斗三升八合

△谷村　一高百五拾九石四斗八升三合

新田　内拾貳石八斗五升八合

○立石村　一高四拾六石壹斗貳升五合

新田　内三升

△小川村　一高七百三拾貳石四斗七升四合

新田　内五拾貳石七斗貳升貳合

○有原村　一高五拾五石貳斗九合

新田　内壹石三斗九升四合

○青田村　一高八拾五石三斗八升五合

新田　内壹石八斗六升九合

△延坂村　一高貳百四拾九石九斗六升壹合

新田　内七石貳斗壹升六合

枝郷　伏羊谷（ブヤウタニ）

○大西村　一高三拾九石壹斗四升八合

新田　内壹斗九升四合

△大薗村　一高八拾九石壹斗六升壹合

内三斗九升　新田

一高貳百四拾石壹斗七升七合　△尾上村

内三石三斗八升壹合　新田

一高百七拾壹石九斗壹升　△小原村

内貳石七升　新田

一高三百三石七斗五升七合　△冬村

内拾八石四斗八升四合　新田

一高百四拾三石四斗貳升九合　△沼田村

内九石六斗六升七合　新田

一高六拾壹石三升七合　△木堂村

内三石五斗三升四合　新田

一高貳百七拾八石八斗八合　△中嶺村

内四石六斗四合　新田

一高貳百五拾壹石三斗七升　△中村

内六斗八升四合　新田

一高三百拾壹石四斗七升四合　△瀬井村

内貳拾八石八斗六升　新田

小名 疇田原（アゼタハラ） 同 石河原

△彦ヶ瀬新田

一高百四拾壹石六斗四升七合

内貳石貳斗八升壹合

小以三拾九ヶ村

内二ヶ村 分レ村

拾壹ヶ村

貳拾八ヶ村

外貳ヶ所

五ヶ所

壹ヶ所

御藏

給所

枝郷

小名

新田

山保田組

○大谷村新田

一高百貳拾七石五斗三升貳合

内五石八斗貳升

△二川（フタカワ）村新田

一高百三拾六石壹斗九升九合

内拾壹石壹斗壹升壹合

○日物（ヒモノ）川村新田

一高百三拾九石貳斗六升貳合

内拾五石貳斗五升四合

一高五百拾石八斗貳升八合　△楠本村

内貳拾八石四升四合　新田

一高三百貳拾七石五斗七升四合　△沼村

内拾三石貳斗六升三合　新田

一高貳百八拾貳石四斗八升五合　△遠井村

内貳拾六石壹斗五升七合　新田

一高貳百八石八斗四升五合　○三田村

内五石七斗九升壹合　新田

一高百貳拾六石八斗七升九合　○宮川村

内五石三斗四合　新田

一高八拾貳石九斗九升貳合　○大藏村

内壹石八斗四升六合　新田

一高百三拾六石四斗貳升六合　○沼谷村

内四石八斗六升　新田

一高貳百貳石九斗六升九合　○押手村

内壹石四斗三升壹合　新田

一高三百拾石壹斗九升　○杉野原村

内三石貳斗六升八合　新田

一高貳百六石五斗三升三合　○板尾村
　内五石五斗五升八合　新田

一高貳百拾五石四斗七升三合　○井谷村
　内四石壹斗三升八合　新田

一高五百三拾壹石七斗六升四合　○久野原村
　内四拾壹石三斗六升五合　新田

一高四百三拾五石三斗三升　○清水寺原村
　内六拾七石四斗七升　新田

一高七石四斗八升四合　寺原村之内○小峠
　皆新田

一高百四拾貳石四斗九升六合　清水村之内○西原村
　内三斗八升　新田

一高七拾七石三斗四合　同○湯子川村
　内壹石壹斗四合　新田

一高貳百四石五斗四升八合　○下湯川村
　内六石四斗七升貳合　新田

一高九拾六石九斗八升九合　○三瀬川村

内四石九斗九升四合　新田

一高百五拾壹石六斗壹升壹合　○境川村

内四石壹斗六升七合　新田

一高百拾貳石七斗九升四合　○中原村

内壹石三斗三升四合　新田

一高八拾五石四斗八升八合　○川合村

内貳斗貳合　新田

一高八拾四石壹斗四合　○二澤村

内壹石五斗貳升　新田

一高九拾八石七斗壹升四合　○北野川村

内壹石壹斗七升八合　新田

一高百貳拾六石九斗　○上湯川村

枝郷　室（シツ）川

小以貳拾七ヶ村

内壹ヶ村　分レ村

貳拾三ヶ村　御藏

四ヶ村　給所

外壹ヶ所　枝郷

高合四万七千七拾貳石七斗九升五合

内三千九百五拾九石六斗五升九合　新田

外高四拾八石貳斗貳升貳合　寺社領

高三拾九石五斗五升壹合　萬引高

高五拾石壹斗八升五合　水野土佐守新田直渡

高八拾三石八斗七升九合　三浦長門守新田直渡

高拾三石五斗八升壹合　久野丹波守新田直渡

村數合百四拾壹ヶ村

内三ヶ村　分レ村

六拾七ヶ村　御藏

七拾四ヶ村　給所

外六ヶ所　枝郷

貳拾三ヶ所　小名

三ヶ所　新田

南紀徳川史巻之九十

臣堀内信編

郡制第二

紀州勢州和州御領分御高并村名帳

日高郡

志賀組

○三尾川浦
一高百五拾七石九斗八升五合
内五石四斗貳升八合　新田

○衣奈浦
一高四百六石九斗六升五合
内七石五斗三升貳合　新田

○小引浦
一高七拾貳石六斗五合
内七石壹斗壹升九合　新田
小名　戸津井

○大引村
一高百八拾七石貳斗七升貳合
内四石八升三合　新田

○神谷浦
一高七拾七石五斗三升三合

内三石五斗七升壹合　新田

一高三百七石三斗壹升九合　○吹井浦

内五石三斗三合　新田

小名　糸谷

一高百七拾九石七斗五升貳合　○江駒浦

内五石壹斗七升九合　新田

一高貳百九拾九石六斗七升　○阿戸村

内拾九石四斗四升四合　新田

枝郷　網代村

一高五百四拾壹石三斗貳升五合　○里村

内拾四石七斗六升七合　新田

枝郷　横濱村

一高五百貳拾壹石三斗八升壹合　○門前村

内壹石八斗六升四合　新田

外高拾三石　興國寺領

一高三百七拾貳石八斗四升四合　○中村

内三石四斗五升貳合　新田

一高五百貳拾八石三斗貳升九合　△畑村
内八石九斗五合　新田
一高三百三拾四石四斗三升貳合五勺　△上志賀村
内拾三石五斗七升四合　新田
一高貳百七拾九石六斗五升五合五勺　△久志村
内三石七斗九升九合　新田
新田 小杭新田
一高四百貳拾三石壹斗五升五合八勺　△中志賀村
内拾六石八斗三升八合　新田
一高六百石四升九合五勺　△下志賀村
内七石七斗九升壹合　新田
一高九拾九石壹斗六升七合七勺　△柏（ガシワ）村
内拾貳石九升八合　新田
一高千百七拾五石九斗三升六合　△高（タ）家（イエ）村
内壹石九斗三升三合　新田
一高貳百四拾九石三斗四升六合　池田村
内拾六石九斗八升六合　新田

小以拾九ヶ村

内拾壹ヶ村　御藏

八ヶ村　給所

外貳ヶ所　枝郷

貳ヶ所　小名

壹ヶ所　新田

入(ニウ)山(サマ)組

○方杭村　一高三拾壹石七斗三升三合

内四石九斗七升壹合　新田

○小浦　一高百六拾石貳斗七升五合

内拾五石壹合　新田

○津久野浦　一高貳拾六石六斗三升九合

内五石貳斗九升五合　新田

○唐子浦　一高拾八石三斗五升貳合

内貳石九斗五升　新田

○比井浦　一高百三拾五石六斗四升壹合

内八石八斗九升壹合　新田

一高百拾四石六斗九升三合　○小坂村

内貳石八斗七升七合　新田

一高百六石九斗三升壹合　○產湯（ウブユ）浦

内拾石九升八合　新田

一高百四拾七石七斗三升四合　○阿尾浦

内七拾九石壹斗四升八合　新田

新田　田杭新田

一高三百六拾五石四斗九升貳合　○三尾浦

内貳拾四石八斗九升貳合　新田

一高千五百四拾八石五斗貳升四合　○和田浦

内三拾五石九斗壹升貳合　新田

枝郷　入（ニウ）山（ヤマ）村

一高貳百八拾壹石八斗五合　○吉原浦

内三拾九石六合　新田

一高五百八拾六石九斗八升七合　△小池村

内壹石八斗八升壹合　新田

一高六百九拾三石壹斗九升四合　△小中村

内拾石四斗三升八合　新田

一高五百四拾五石四斗壹升八合　△丸山村

内六斗八升四合　新田

一高六百九拾三石五斗六升壹合　△荊木村

内貳石貳升八合　新田

外高三拾石貳斗壹升九合　水野土佐守新田直渡

一高八百九石九斗七升壹合　△萩原村

内拾六石六斗六升壹合　新田

一高六百七石三斗七升貳合　○原谷村

内拾九石四斗壹升七合　新田

小以拾七ヶ村

内拾貳ヶ村　御藏

五ヶ村　給所

外壹ヶ所　枝郷

壹ヶ所　新田

江川組

一高五拾六石八斗七升五合　○伊藤川村

内六斗貳升六合　新田

一高七拾九石三斗七合　〇藤野川村

内貳斗六升四合　新田

一高千百四拾石貳斗六升七合　△吉田村

内四拾壹石九斗貳升　新田

百九拾八石六合　古新田

一高四百七拾六石九升六合　〇三百瀬村

内壹升五合　新田

一高貳百四石八斗四合　〇若野村

内四石七斗九升六合　新田

一高百六拾八石七斗壹升四合　〇松瀬村

内拾六石四斗四升三合　新田

一高千六百拾五石三斗四升九合　△土生村

内五拾貳石八升九合　新田

百六石四斗貳升　古新田

枝郷　鐘卷村　同　藤井村　同　小熊村　同　千津川村

外高五石　道成寺領

△入野村（ニウノ）　一高百八拾貳石壹斗三升六合
　内三拾五石二升七合　新田

○玄子村（ケンコ）　一高百貳拾貳石六斗三升六合
　内壹石七斗四升四合　新田

○早藤村（ハヒクズ）　一高九拾四石九斗三升九合
　内九石貳斗六升六合　新田

○中津川村　一高百七拾石貳升六合
　内貳拾四石三斗貳升　新田

○蛇尾村（ヘビヲ）　一高九拾貳石壹斗九升三合
　内四斗五合　新田

△平河村　一高三百七石貳斗九升七合
　内貳石壹斗四合　新田

小名　吉川

△山野村（サンヤ）　一高四百貳拾九石八斗貳升九合
　内九石三斗九升六合　新田
　枝郷　三つの川村　同　大瀧川村　同　猪内川村（イウチカワ）

△和佐村　一高八百貳拾六石壹斗壹升九合

内貳拾石七斗八升壹合　新田
一高七百四拾壹石九斗六升　○江川村
内拾石五斗七升七合　新田
小以拾六ヶ村
拾ヶ村　御藏
六ヶ村　給所
外七ヶ所　枝郷
壹ヶ所　小名
天田組
一高五百九拾貳石六斗貳升九合　○北塩屋浦
内貳拾貳石八斗四升七合　新田
枝郷　天田村　同猪野々村
一高四百拾石五升八合　○岩内村
内三拾六石九斗九升六合　新田
一高四百八十八石八斗四升　○熊野（ユヤ）村
内拾石八斗貳升九合　新田
一高千百七拾石四斗九升八合　△財部（タカラ）村

古新田

新田 新田村

、水野土佐守知行之内新川床成

△上（カミ）富（トミ）安（ヤス）村

新田

古新田

△下富安村

新田

古新田

○小松原村

新田

○田井村

新田

○薗（ソノ）浦

新田

御殿御堀成

御藏屋敷成

内九拾四石八斗七升五合

外高四石三斗三升八合

一高三百七拾六石壹斗四升六合

内三拾七石三斗貳升貳合

四石八斗九升貳合

一高五百四拾六石五合

内八石六斗壹升七合

三石三斗八升四合

一高六百九拾五石三升九合

内貳石四斗壹升四合

一高四百六石五斗六升四合

内八石七斗七升六合

一高七百八拾六石三升七合

内六石三斗四升七合

外高五石八斗三升八合

高六升八合

一高八石七斗貳升八合

一高百四拾七石貳斗貳升八合

内九石六升壹合

一高七拾八石九斗四升壹合

一高七百三拾八石壹斗三升貳合

内四拾八石六斗六升

一高四百拾九石九斗三升六合六勺

内四拾壹石四斗三升五合

一高三百三拾三石四斗壹升四勺

内拾貳石九斗九升九合

小以拾五ヶ村

内壹ヶ村　分レ村

拾貳ヶ村　御藏

三ヶ村　給所

外貳ヶ所　枝郷

田井村 薗浦之内

○濱之瀨　皆新田

○名屋浦　新田

○御坊村

○島村　新田

○下野口村　新田

○上野口村　新田

壹ヶ所　新田

南谷組

一高三百八拾三石五斗七升八合　○南谷村
　内拾四石四斗四合　新田
一高三百拾貳石五斗貳合　△明神川村
　内壹石七斗　新田
一高八百四拾五石五斗五升九合　○南墟屋浦
　内五石八斗九升四合　新田
　枝郷　森岡村
一高百三拾四石四斗　△立石村
　内五斗八升五合　新田
一高三百八拾五石五斗四升　○野嶋村
　内六拾石貳斗七升五合　新田
一高四百貳拾壹石五斗七升壹合　○上野村
　内三拾壹石三斗貳升四合　新田
一高貳百貳拾九石九斗八合　○楠井村
　内三拾三石壹斗七升八合　新田

○津井村 新田
一高百拾五石貳斗六升三合
内拾六石八斗四升五合

印南 ○中村 新田
一高三百三拾五石五升四合六勺
内貳拾壹石九升八合

同 ○宇杉村 新田
小名 本郷
一高百六拾八石七斗八合貳勺
内拾四石四斗五升七合

同 ○光川（ヒカルカワ）村 新田
小名 坂本
一高貳百九拾五石五斗六升四合貳勺
内拾四石五斗七升貳合

古は右三ヶ村合印南浦と認申候

○島田村 新田
一高五百五拾八石壹斗貳升壹合
内七拾四石貳斗壹升壹合

○西山口村 新田
一高百六拾六石三斗五升九合
内七石七斗四升九合

○東山口村 新田
一高三百貳拾貳石壹斗九合
内九石八斗八升

△印南原村　一高九百五拾貳石九斗六合
新田　内貳拾五石六斗五升貳合

○脇ノ谷村　一高百六拾五石六斗三升三合
新田　内壹斗三升貳合
田邊上け知分　百貳拾九石四斗壹升七合
枝郷　元垣内　同　才ノ川

○松原村　一高六拾貳石五斗七升六合
新田　内五石八斗四升八合

○丹生村　一高百貳拾六石六斗八升三合
新田　内拾壹石九斗六升九合

○崎ノ原村　一高六拾七石九斗五升六合
新田　内六斗九升四合

○皆瀬川村　一高五拾五石八斗貳升五合
新田　内七斗七升四合

○神ノ野川村　一高四拾三石五斗七升七合
新田　内七石六斗貳升八合

○小原村　一高六拾九石壹斗壹升八合

内七石八斗四升五合　新田

○田ノ垣内村
一高四拾五石三斗四升九合
内三石八斗四升九合　新田

○高串村
一高四拾九石五斗三合
内貳石九斗壹升七合　新田

○上(カ)洞(ボラ)村
一高貳百七石六斗五升七合
内三石六斗六升　新田

○川又村
一高百六拾壹石貳斗八升九合
内拾壹石四斗七升九合　新田

○下(シモ)横(ホクツ)川村
一高百九拾七石七升五合七勺
内六石八斗貳升壹合　新田

○上横川村
一高百五拾貳石四斗四升八合三勺
内三石八斗七升八合　新田

小以貳拾八ヶ村
内貳拾五ヶ村　御藏
三ヶ村　給所
外壹ヶ所　枝郷

二ヶ所

小名　中山中組（ナカサンチウ）

一高貳百拾壹石九斗壹升　○佐井村
　内六拾壹石七斗六升五合　新田
一高三百八拾三石壹斗三升貳合　○高津尾村
　内貳拾三石三斗貳升八合　新田
　　枝郷　伊佐野川村　同　尾曾村　同　廣瀬村　同　中木（チウキ）村　同　小原長瀧村
一高百七拾六石貳斗三升三合　○坂野川村
　内九石五斗八升貳合　新田
一高五拾七石八斗八升壹合　○老（ナイ）星（ボシ）村
　内三石壹斗三升三合　新田
一高百九拾七石六斗四升九合　○三（ミ）佐（サ）村
　内九石五斗八升貳合　新田
一高七拾六石三斗六升八合　○大又村
　内貳石九斗三升七合　新田
一高百四拾三石五斗八升五合　○田尻村
　内拾七石六斗六升壹合　新田

一高百七拾三石三斗五升六合　○小(コ)釜(カ)本(モト)村

内拾七石九斗九升八合　新田

一高百五石六斗五升八合　○下田原村

内五石五斗九升三合　新田

一高百拾七石三斗九升四合　○上田原村

内四石五斗三合　新田

一高百九拾五石八斗八升七合　○三(ミ)十(ツ)木(ギ)村

内壹石七斗九升六合　新田

一高四拾八石　○姉(アネ)子(コ)村

内壹石貳升七合　新田

一高四拾三石八斗四升三合　○原日浦村

内三石七升九合　新田

一高貳百貳拾貳石八斗九升六合　○皆(カイ)瀬(セ)村

内四拾四石五斗四升九合　新田

枝郷　下越方(シモコシカタ)村　同　阿田木村　同　愛川(アタヒカワ)村

一高百四拾貳石七斗九升三合　○川(カハ)原(ラ)河(コ)村

内三石五斗七升五合　新田

○上越方村
一高三拾四石四斗九升七合
新田
内壹斗四升四合
○淺間村
一高三拾五石壹斗九升六合
新田
内八斗三升四合
○熊野川村
一高百三拾壹石四斗五升三合
・新田
内拾八石八斗八升貳合
○瀧（タキ）頭（カシラ）村
一高六拾五石四斗壹升
新田
内壹石壹斗三升九合
○串本村
一高百五拾五石四斗壹升八合
新田
内拾石九斗五升貳合
○初（ウブ）湯（ユ）川（ガワ）村
一高三百四拾七石九斗貳合
新田
内貳拾壹石九斗壹升
枝郷 笠松村　同 猪谷村
○彌（イヤ）谷（タニ）村
一高百石三斗四合
○三（ミ）十（ツ）井（イ）川（カワ）村
一高四拾三石九斗九升七合
新田
内四石六斗五升五合
船津村之内 ○坂本村
一高百三拾石四斗八升八合五勺

内壹斗四合　新田

一高百八拾七石八升貳合　同　○岡本村

内七升壹合　新田

一高百四拾壹石五斗壹升三合五勺　同　○瀧本村

内壹斗五升六合　新田

一高九拾六石貳斗六升七合　同　○小津茂村

古は右四ヶ村合船津村と認申候

一高七拾五石貳斗八升八合　○西原村

内貳石四斗壹升貳合　新田

一高貳拾五石四斗五升壹合　○高津尾川村

小以貳拾九ヶ村　御藏

外拾ヶ所　枝郷

山地組

一高九拾七石五斗六升五合　○下甲斐野川村

内四升　新田

一高百三拾八石六斗六升五合　○上甲斐野川村

内五石五斗壹合　新田

一高七拾壹石四斗八升三合　○小(チ)家(イヘ)村
内拾石壹斗六升六合　新田
一高貳百九拾貳石壹斗貳合　○安井村
内拾石五斗九升六合　新田
一高百三拾九石四斗四升三合　○下福井村
内六石一斗二升　新田
一高八拾六石六斗九升　○上福井村
内六石九斗四升貳合　新田
一高百拾八石六斗五升三合　○下柳瀬村
内拾石壹升三合　新田
一高百壹石八斗八升八合　○上柳瀬村
内貳拾五石九斗五升四合　新田
一高三百九拾壹石八斗貳升三合　○東村
内四拾七石三斗四升　新田
一高百壹石壹斗壹升五合　○西村
内六石九斗貳合　新田
一高百拾七石七斗六合　○上(カミ)宮(ミヤ)代(シロ)村

内拾四石四升五合　新田
一高百三拾九石五升貳合　○下宮代村
内拾貳石四斗六升　新田
枝郷　橘川
一高七拾石壹升壹合　○下廣井原村
内五石四斗八升三合　新田
一高六拾八石七斗五升四合　○上廣井原村
内拾壹石三斗八升五合　新田
一高百五石壹合　○湯ノ又村
内八石八升九合　新田
一高七拾六石四斗三升四合　○小又川村
内壹石七斗九升貳合　新田
一高百八拾三石五斗貳升六合　○龍神村
内七石壹斗三升五合　新田
小名　五百原
一高六拾六石四斗六升四合　○丹生野川村
内四石六斗七升四合　新田

一高貳拾貳石八斗三升八合　○三つ又村

　內三石八斗貳升壹合　新田

一高七石三斗三升八合　寒川村之內　○新（シン）行（ギャウ）村

一高九拾石八斗五升六合九勺　同　○西野川村

　內貳石三斗貳升貳合　新田

一高四石三升四合　同　○東谷村

一高九拾八石八斗貳合八勺　同　○小藪川村

　內八石三斗七升九合　新田

一高貳石八斗三升七合壹勺　○小川村

　內壹石三斗貳升八合　新田

一高三升八合　同　○川（カハ）合（イ）村

　皆新田

一高百七拾五石壹斗四合貳勺　同　○土居村

　內拾石五斗九升八合　新田

古は右七ヶ村合寒川村と認申候

小以貳拾六ヶ村　御藏

外壹ヶ所　枝郷

壹ヶ所　　小名

高合四万千貳百六拾貳石六斗九升三合

內千八百拾六石貳升八合　　新田

四百七石五斗七升七合　　古新田

百貳拾九石四斗壹升七合　　田邊上ヶ知分

外高拾八石　　寺領

高拾石貳斗四升四合　　萬引高

高三拾石貳斗壹升九合　　水野土佐守新田直渡

村數合百五拾ヶ村

內壹ヶ村　分レ

百貳拾五ヶ村　　御藏

貳拾五ヶ村　　給所

外貳拾六ヶ所　　枝鄕

六ヶ所　　小名

三ヶ所　　新田

牟婁郡口熊野

周参見組

○瀬戸山村　鉛山新田

一高貳百三拾七石貳斗六合
　内三拾五石四斗三升六合

枝郷　綱不知

御殿番屋敷成
鉛山屋敷成

外高貳斗六升八合
　高五石貳斗五升七合

○大野村　新田

一高百七拾五石九斗三升六合
　内六斗三升六合

○日置浦　新田

一高四百拾五石六斗九升六合
　内拾六石七斗八升

枝郷　志原　同　笠甫　同　市江村

○古屋村　新田

一高貳百拾參石壹斗三升七合
　内七拾壹石五斗四升八合

○壗野村　新田

一高百五拾貳石七斗貳升四合
　内五石七斗貳升五合

枝郷　名立　同　居漕

一高三百五拾六石八斗六升五合　○安宅（アタギ）村
内六石四斗五升貳合　新田
一高貳百貳拾八石壹斗貳升八合　○矢田村
内三石六斗貳升　新田
一高六百七石四升六合　○田野井村
内拾四石九斗八升五合　新田
枝郷　追ヶ芝　同　辻野
一高貳百貳拾五石五斗壹升八合　○口ヶ谷村
内五石壹斗五升三合　新田
枝郷　舟木
一高貳百八拾七石九斗五合壹勺　○安（ア）居（ゴ）村
内拾三石貳升五合　新田
一高五拾八石四斗七合　○中嶋村
内拾石九斗七升壹合　新田
一高五拾壹石九斗九升壹合　○寺山村
内二拾三石七斗七升一合　新田
枝郷　三ヶ川

一高四拾九石四斗六升三合
　内五石六斗六升四合
一高九拾六石九斗九升三合
　内四石五斗七升七合
一高百四拾石六斗四升七合
　内四石貳升九合
一高六拾三石四斗六升壹合
　内五斗四升九合
一高拾五石五斗六合
　内貳升貳合
一高貳百九石六斗七升九合
　内拾九石九升四合
一高三拾貳石四斗九升貳合
　内壹斗四升八合
一高貳拾石五斗七升
　内壹石五斗貳升三合

○向（ムカイ）平（タイラ）村　新田
○久（ヒサ）木（キ）村　新田
○小（コ）川村　新田
○大村　新田
○小（ヲ）房（ブサ）村　新田
○市（イチ）鹿（カ）野（ノ）村　新田
枝郷　瀧
○合（カウ）川（カハ）村　新田
○古屋村　新田

一高拾八石八斗貳升五合　○佐田村
内五升八合　新田
一高貳拾五石三升四合　○中野俣村
内六斗四升　新田
一高貳拾九石九斗三升九合　○大瀬村
一高四拾三石四斗六升四合　○上(カウ)露(ツイ)村
内壹石六斗四升四合　新田
一高四拾八石九斗五升四合　○北谷村
内五斗八升九合　新田
一高拾八石六斗六升五合　○竹ノ垣内(カイト)村
内三石四升五合　新田
一高拾九石壹斗六升五合　○柿垣内村
内貳斗壹升　新田
一高三拾三石四斗三升貳合　○矢ケ谷村
一高四拾石九斗三升四合　○矢野口村
内壹斗四升　新田
一高九拾九石貳斗貳升　○城(ジヤウ)村

内六斗八合　新田

一高四拾七石壹斗六升八合　○小附(コツキ)村

一高八拾三石九升六合　○大附村

内七斗壹升貳合　新田

一高貳百貳石三升七合　○小河内(ヲカウチ)村

内貳拾五石九斗三升八合　新田

一高百貳石四斗五升四合　○和深川村

内七石七斗七升七合　新田

一高百三拾石八合　○口和深村

内壹石三斗四升　新田

一高八拾三石四斗七升壹合　○大間(タイマ)川村

内壹石五斗八升六合　新田

一高九百七拾九石六斗五升　○周參見(スサミ)浦

内六拾三石五升四合　新田

枝郷　上戸川村　同　廣瀬　同　下戸川村　同　朝來(アサラ)

外高七斗九升九合　御代官郡奉行屋敷成

小以三拾七ヶ村　御藏

外拾五ヶ所

枝郷
江田組

一高四拾六石八斗貳升六合　○見老津浦
　内貳拾石八斗四升三合　新田
一高百三拾六石五斗貳升壹合　○江住浦
　内拾九石四斗九升三合　新田
枝郷 江須川
一高百拾三石九斗壹升七合　○里野浦
　内拾壹石九斗四升三合　新田
一高四百六拾四石七斗壹升貳合　○和深村
　内拾五石九斗七升四合　新田
枝郷 阿指　同 かふち上
一高百三拾七石五斗三升九合　○田子浦
　内九斗三升　新田
一高百六拾壹石壹斗八升三合　○江田浦
　内貳石貳斗七升貳合　新田
一高貳百五拾九石三斗三升三合　○田並浦

新田　内壹斗貳升

○田井上村　一高三百貳拾四石壹升七合

新田　内五石四斗六升壹合

○吐生(ハブ)村　一高七拾貳石八斗三升七合

新田　内三石九斗三升八合

○有田上村　一高百五石三斗五升九合

○有田浦　一高百七拾五石七斗八升四合

○東雨(アヅマメ)村　一高貳拾四石八斗五升六合

新田　内壹石三斗四升壹合

引高　外高四石七斗貳升四合

○二色(ニシキ)村　一高百拾貳石六斗七升

新田　内壹石七斗貳升六合

枝郷　袋

○二部(ニブ)村　一高貳百拾九石八斗九升三合

新田　内五石壹斗九升五合

○闇野川(クジノカワ)村　一高三百七拾六石貳斗七升六合

新田　内三石六斗八升九合

枝郷 橋杭

一高百六拾六石七斗六升八合　○串本村

内貳拾貳石貳斗七升七合　新田

外高貳石　本之宮三社領

一高百八拾石九升六合　○上野(ウワノ)浦

内三拾七石貳斗貳升八合　新田

外高貳石七斗四升七合　水崎大明神領

一高八拾五石壹斗五升三合　○出雲(イツモ)浦

内九石八斗三升七合　新田

一高百五拾壹石五斗七升三合　○大谷村

内五斗四合　新田

一高百六拾四石壹斗貳合　○防己(ツヽラ)村

一高百五拾貳石五斗七升五合　○大鎌村

内拾石三斗九升七合　新田

一高百貳拾壹石貳斗七升九合　○里川村

内七石七斗六升七合　新田

枝郷 比曾原　同 瀧又

小以貳拾貳ヶ村

外七ヶ所

御藏

枝郷

古座組

一高四百九拾石四斗六升三合　○下田原浦

内拾五石七斗七升九合　新田

一高百六拾貳石五斗九升九合　○津荷（ツガ）村

内貳石五斗八升六合　新田

一高三拾貳石六斗四升七合　○古座（コザ）浦

内三石五斗壹升七合　新田

一高百六拾二石八斗六升七合　○西向（ニシムカエ）浦

内拾壹石四斗三升九合　新田

一高九拾石五斗壹升貳合　○神野川（カウノカワ）村

内貳石七斗七升三合　新田

一高八拾三石六斗六升四合　○伊串村

一高八拾壹石壹斗三升五合　○姫村

一高拾五石七斗六升四合　○姫川村

一高六拾貳石貳斗四升六合　○大島浦

内貳石九斗九升九合　新田

○須江浦　一高四拾七石壹斗四升四合

内貳石四斗八升貳合　新田

○樫野浦　一高六拾四石貳斗四升四合

内六斗六升八合　新田

○中湊村　一高九拾九石九斗五升壹合

内七石壹斗七升九合　新田

外高七斗貳升壹合　御目付屋敷成

○高川原村　一高百貳拾六石七斗貳升八合

内六斗三升八合　新田

○池野口村　一高七拾八石貳斗貳升四合

内八斗貳升三合　新田

○古田村　一高百貳拾六石四升貳合

内七石六斗壹合　新田

○宇津木村　一高三拾七石貳斗九升

○月野瀬村　一高百七拾三石五斗六升五合

内五石貳斗貳升貳合　新田

一高百拾三石九斗壹升四合　○高瀬村
内貳石三斗七升四合　新田
一高百五石貳斗壹升四合　○川口村
内四石八斗三升九合　新田
一高百貳拾六石四斗四升三合　○中村
内壹斗八升　新田
一高二百貳拾參石七斗四升　○閏(ウル)野(ノ)村
内壹石七升四合　新田
一高九拾五石九斗七升九合　○鶴(ツル)川村
内六斗五升九合　新田
一高百七石六斗壹升九合　○一(イチ)雨(ブリ)村
内壹石八斗六升八合　新田
一高八拾八石三斗九升五合　○大柳村
内三石四升　新田
一高三拾八石五斗壹升六合　○立合村
内壹石七斗四升八合　新田
一高貳拾六石壹升　○峯村

○相瀬村
一高四拾五石壹合
内貳石三斗貳升九合　新田

○立合川村
一高六拾九石三斗六升八合
内八斗九升四合　新田

○洞(ウツ)尾(ヲ)村
一高四拾四石八斗壹升六合
内壹石壹斗貳升六合　新田

○日(ヒ)南(ナタ)川(カワ)村
一高六石貳斗貳升三合

○藏(クラウ)土(ド)村
一高百四拾三石五斗貳升

○直(スク)見(ミ)村
一高百貳拾九石壹斗八升五合
内拾九石八斗四升五合　新田

○中崎村
一高七拾六石三斗九升七合
内九石四斗貳升七合　新田

○山手村
一高百六拾七石三斗三升五合
内二石八斗五升五合　新田

○猿川村
一高三拾貳石六斗七升
内四斗八升　新田

○長(チヤウ)洞(ウツ)尾(ヲ)村
一高百五拾八石九斗九升六合

内九石四斗九升
一高貳百拾六石七斗四升四合
内貳石五斗四升四合
一高拾六石七斗七升貳合
内六斗
一高拾四石九斗八升壹合
内三斗壹升八合
一高貳拾四石四升八合
内三斗七升五合
一高拾石壹斗八升
内八斗八升
一高六拾三石貳斗六升五合
内九石六斗三升六合
一高四拾石壹斗四升
内五石四斗壹升七合
小以四拾三ヶ村

新田
○池野山村
新田
○楠村
新田
○樫山村
新田
枝郷 山手川
○高野村
新田
○直(ヒタ)柱(ハシラ)村
新田
○樫原村
新田
○坂足村
新田

御藏

外壹ヶ所

一高三百五拾石壹斗五升六合
内六石四斗六升貳合
一高五拾九石七升四合
内壹石五斗三升四合
一高百貳拾壹石八斗貳升七合
内九石五斗貳合
一高四拾石三斗貳升五合
内九斗三合
一高三拾石七斗三升九合
内四斗五合
一高百拾八石壹斗九升六合
内八斗九升七合
一高貳拾七石八斗貳升八合
内六斗九升七合

枝郷

三尾川組

○三尾川村
新田
○南平村
新田
○大川村
新田
枝郷 眞砂村
新田
○長追村
新田
○深谷村
新田
○根倉村
新田
○平野村
新田

一高七拾六石貳斗八升七合
内九斗八升三合
一高六拾貳石三斗五升九合
内壹斗六升六合
一高九拾四石九升五合
内八石四斗九升五合
一高七拾七石三斗貳升
内貳斗三升壹合
一高百九石五斗七升三合
内壹石三升三合
一高百拾三石貳斗
内七斗壹升六合
一高貳百八石三斗九升
内壹石六斗四升七合
一高拾九石四斗八升九合
一高百三拾壹石四斗壹升七合
内三斗三升六合

○中野川村新田
○西野川村新田
○中村新田
○西栗垣内村（ニシクリカイト）新田
○東栗垣内村新田
○追川村新田
○添野川村新田
○井野谷村
○平井村新田

○成（ナル）川（カワ）村　一高百五拾貳石九斗壹升六合
新田　内貳石八斗八合

○西川村　一高三百四石八斗六升八合
新田　内七石八斗六升八合

○佐田村　一高貳百四拾五石四升九合
新田　内三石七斗

○下露村　一高三百貳拾七石九斗九升
新田　内四石貳斗三升四合

○宇（ウ）洞（ツヽ）井村　一高三拾貳石七斗九升三合
新田　内三石四斗五升

○大桑村　一高三拾五石六斗三升
新田　内六石五斗貳升六合

○赤木村　一高四拾石八斗三升八合
新田　内壹石貳斗壹升九合

○田川村　一高三拾貳石三斗壹升九合
新田　内貳石三斗五升

○小森川村　一高三拾五石三斗七合

内三石六斗貳升九合　新田
一高百七拾四石四升　○松根村
内壹石八升三合　新田
小以貳拾六ヶ村　御藏
外壹ヶ所　枝郷

四番組

一高百六拾石八斗七升八合　○平瀬村
内八石壹斗貳升九合　新田
一高百六石九斗四升七合　○下川上村
内四石八斗六升三合　新田
枝郷陸（クガ）平（タヒラ）
一高百七拾石壹斗五升九合　○下川下村
内八石五斗壹升七合　新田
枝郷竹又
一高六拾九石五斗壹升壹合　○五味村
内七斗貳升八合　新田
一高六拾八石三升四合　○北（ホク）郡（ソギ）村

内貳石四斗八升九合　新田

一高四百貳拾貳石貳斗貳升壹合　○野中村

内六石七斗五升　新田

一高六百拾六石四斗九升七合　○近露村

内拾三石六斗八升貳合　新田

枝郷　相坂（アノサカ）村　同　湯野田和

一高貳百七拾壹石九斗九升八合　○高原村

内五石三斗貳升八合　新田

鄕枝　中石谷

一高貳百石六斗九升　○大内川村

内六石九斗八升六合　新田

枝郷　十丈村　同　下野川

一高五拾四石六斗四升三合　○西谷村

内五石壹斗九升六合　新田

枝郷　壇見村

一高九拾八石九斗九升壹合　○和田村

内五石七斗五升六合　新田

枝郷 西野又 同 宇井河

一高五拾三石九斗三升三合	○下木（ゴ）守（モリ）村
内四石八斗壹升八合	新田
	枝郷 小（コ）本（ゴ）守（モリ）
一高四拾九石九斗壹升六合	○上木守村
内壹石壹合	新田
一高百石壹斗貳升五合	○面（メン）河（カワ）村
内壹石壹斗壹升三合	新田
一高拾八石六斗九升四合	○大谷村
内壹石九斗九升六合	新田
一高七石四斗六升九合	○竹（タケ）野（ノ）平（タヒラ）村
内三斗九升九合	新田
一高三拾四石貳斗三升九合	○谷野口村
一高三拾九石九斗五升九合	○串村
内壹斗六升貳合	新田
一高貳拾壹石九斗八升三合	○長瀬村
内六斗九升八合	新田

○九川(クカハ)村　一高貳拾六石八斗
新田　内壹斗壹升四合

○伏菟野(フド)村　一高貳拾三石三升四合
新田　内壹石三斗三升四合

○原村　一高三拾九石四斗六升七合
新田　内六斗七升

○熊野(ユヤ)村　一高九拾壹石七升五合
新田　内五石五斗貳升五合

○下露村　一高拾八石四斗壹升三合
新田　内九升五合

○深谷村　一高三拾壹石七斗七升五合
新田　内壹石壹斗八升五合

○小谷村　一高拾貳石九斗六合

○眞砂(マサゴ)村　一高四拾七石五斗六升六合
新田　内壹石七升三合

○道湯川(ドウユカワ)村　一高四拾三石五升六合
新田　内貳石三斗八升四合

枝郷 見越峠　同 (朽)野川　同 熊瀬河

小以貳拾八ヶ村　御藏

外拾四ヶ所　枝郷

高合壹万九千四百四拾壹石七斗壹升五合壹勺

内八百四拾石三斗　新田

外高四石七斗四升七合　寺社領

高拾壹石七斗六升九合　萬引高

村數合百五拾六ヶ村　御藏

外三拾八ヶ所　枝郷

日高郡之内

南部組

一高五百六拾貳石六升八合　上ヶ知 山内村

内五拾七石壹斗五升九合　新田

八石六斗六合　城附 本田

枝郷 夙浦　小名 目津

一高百七拾四石五升八合五勺　上ヶ知 北道村

内拾三石六斗五合　新田

壹石七斗五升六合五勺　城附本田

新田　新（シン）町

一高三百六拾四石八斗壹升三合五勺　同　吉田村

內三石九升六合五勺　城附本田

一高四百五拾六石九斗四升　同　筋村

內拾三石五斗貳升　城附本田

一高五百三拾八石九斗九合　同　谷口村

內七石四斗貳升貳合　城附本田

一高七百七拾六石八斗八升壹合九勺　同　東本庄村

內拾九石四斗貳升七合九勺　城附本田

枝郷　邊（ヘ）川（カウ）　同受（シュリヤウ）領

一高七百四石六斗九合　同　西本庄村

內拾貳石三斗四升八合　城附本田

一高三百九拾九石六斗四升八合五勺　城附　氣（ケ）佐（サ）藤（トウ）村

內五拾七石三斗九升七合五勺　新田

一高四百貳拾六石九斗壹升貳合三勺　同　德（トク）藏（ゾウ）村

內三拾貳石三升六合三勺　新田

一高四百四石七斗九升五合九勺　同　芝村

内三拾七石八斗貳升九勺　新山

一高貳百七拾壹石壹斗六升三合五勺　同　埴(ハネ)田(ダ)村　新田 新屋敷

内拾四石四斗壹合五勺　新山

一高百七拾九石八斗八升四合五勺　同　堺村

内三石四斗九合五勺　新田

一高百五石貳斗貳升　與力知　熊瀬川村

内壹石八斗四升五合　城附新田

一高百貳拾七石貳斗九升三合　同　土井村

内壹石六斗五合　城附新田

一高百五石五斗七升五合五勺　同　市井川村

内壹石壹斗九升七合五勺　城附新田

一高百六拾八石九斗五勺　同　高野村

内八石七斗壹升七合五勺　城附新田

一高貳百七石六斗五升　同　瀧村

内四石五斗三升貳合　城附新田

一高八拾三石五斗六升貳合壹勺　　與力知　平野村
　内壹石貳斗八升四合壹勺　　城附　新田
一高百貳拾五石八斗貳升四合　　同　嶋ノ瀬村
　内壹石壹斗貳升　　城附　新田
　　枝郷　ゐてみ
一高百六拾六石六升　　同　神(カウ)野川村
　内壹石七斗六升　　城附　新田
一高四百拾七石三斗貳升九合八勺　　同　大川村
　内拾四石八斗四升八勺　　城附　新田
　　枝郷　木の川　同輕井川　同下大橋　同大橋　同名(ミヤウ)之内
一高五百五拾九石五升六合　　同　西岩代村
　内六石壹斗壹升六合　　城附　新田
一高四百三石九斗八升九合五勺　　同　東岩代村
　内拾石四斗八升六合五勺　　城附　新田
一高百七拾貳石貳斗貳升八合七勺　　同　南(ミナミ)道(ドウ)村
　内六石壹斗九升七合　　城附　新田
一高七百三拾三石五升四合五勺　　同　山田村

内壹石三升壹合五勺　城附新田

一高三百拾壹石五斗貳升九合四勺　同　熊(クマ)岡(カ)村

內三石四斗五合四勺　城附新田

小以貳拾六箇村

內七ヶ村　上ケ知

五ヶ村　城附

拾四ヶ村　與力知

外九ヶ所　枝郷

壹ヶ所　小名

貳ヶ所　新田

日高郡之內

切(キリ)目(メ)組

一高七百五拾三石四斗六合　上ケ知　西野地村

內三拾三石五斗三升　新田

壹石貳斗三升　城附新田

枝郷　本(モト)村　同　高垣

一高百四拾九石貳斗三升五合　同　下津川村

一高三百八石三斗五升六合七勺　同　宮ノ前村

內六石　新田

五石九斗四升貳合七勺　城附　新田

貳百九拾六石四斗壹升四合　與力知

枝郷　上津野（ウエツノ）　同　切矢田

一高三百八拾壹石八斗八合　同　古井村

內三石三斗壹升　城附　新田

八拾八石八斗六升八合　與力知

枝郷　室（シツ）川

一高九拾六石三斗七升　同　見影村

一高貳百三拾石三斗九升九合九勺　與力知　羽（ハ）六（ロク）村

內拾貳石七斗貳升六合九勺　城附　新田

枝郷　長谷川　同　川口　同　內田　同　大川

一高百五拾壹石四斗八升七合　與力知　古屋村

內三石七斗八升　城附　新田

小以七ヶ村

内五ヶ村　上け知
貳ヶ村　與力知
外九ヶ所　枝郷

牟婁郡之内
芳養組

一高三百五拾九石五斗九升八勺　城附 下村
内貳拾八石壹斗八升貳合八勺　新田
枝郷 大屋　同井原

一高貳百石六斗三升四合　城附 芋村
内九石三斗九升八合　新田

一高貳百拾八石三升三合　同 中村
内七石貳斗壹升三合　新田

一高貳百八拾貳石壹斗三升四合　同 境村
内貳拾貳石貳升六合　新田
枝郷 田川谷

一高三百四石九斗八升四勺　同 田尻村

内四石九斗八升四勺　新田

一高三百七拾六石五斗壹升貳合五勺　同　林　村

内拾三石六斗三升九合五勺　新田

枝郷　原　田

一高三百九拾八石貳斗七升三合　同　西野々村

内拾貳石壹斗九升三合　新田

一高百六拾四石六斗六合　同　小　野　村

内五石六斗貳升三合　新田

一高三百貳拾九石四斗七合　同　日向村

内拾貳石九斗七合　新田

一高百六拾八石六斗七升六合五勺　同　西　山　村

内拾五石三斗七升六合五勺　新田

枝郷　ちけぢ野

一高百貳拾貳石貳斗六升貳合五勺　同　東　山　村

内貳拾貳石貳斗六升貳合五勺　新田

枝郷　こつね　同　古屋谷

小以拾壹ヶ村　城　附

外七ヶ所　　　　　　　　　　　　枝郷

牟婁郡之内

山邊組

一高五百七拾八石六斗四合五勺　　城附　西の谷村

内三拾七石五斗貳升五合五勺　　新田

枝郷　目良（メラ）　小名　古町

一高四百三拾貳石五斗三升九合　　同　糸田村

内五石九斗四升八合　　新田

枝郷　尾の崎

一高五百六拾九石八斗六升三合八勺　　同　伊作田（イサイタ）村

内四十石七斗五升六合八勺　　新田

小名　下村　同　荒光（アラヒカ）　同　谷　枝郷　惑在（ワクザイ）

一高八百五拾七石三升九合　　同　湊村

内百四拾三石四斗七升七合　　新田

枝郷　小泉　同　志保古（シホコ）　同　敷村（シキ）

一高四百八拾貳石七斗八升貳合　　同　神子濱（ミコハマ）村

内三拾壹石貳斗四升九合　　新田

一高七百四拾三石八斗四升八合八勺　同　新庄村

内百貳拾石八斗六升貳合八勺　新田

枝郷　跡之浦　同　鳥之巣　新田内之浦

小以六ケ村　城附

外八ケ所　枝郷

四ケ所　小名

壹ケ所　新田

牟婁郡之内

秋津組

一高千貳百貳拾壹石壹斗三升三勺　城附　下秋津村

内四拾三石五斗貳升六合三勺　新田

一高千四百拾六石九斗七升六合　同　上秋津村

内三拾三石壹斗三升六合　新田

一高五百拾八石貳斗九升貳合六勺　同　秋津川村

枝郷　左向谷（サカウタニ）　同　久保田

内拾四石九斗九升壹合六勺　新田

枝郷 竹藪 同 洞(ホラ) 小名中村 同 下村 同 谷の川

小以三ヶ村　城附

外四ヶ所　枝郷

三ヶ所　小名

牟婁郡之内

三栖(ミス)組

城附　下万呂(シモマロ)村

一高六百八拾三石壹斗九升六合

内五拾七石八斗壹升五合　新田

同　中万呂村

一高三百九拾四石五斗六升三合

内貳拾石五斗七合　新田

同　上万呂村

一高三百九拾壹石八斗五勺

内九石六斗九合五勺　新田

同　下三栖(シモミス)村

一高七百八拾壹石三斗八升五合壹勺

内三拾七石貳斗三升壹合壹勺　新田

同　中三栖村

一高八百貳拾八石八斗八升七合三勺

内貳拾九石五斗五升四合三勺　新田

同　上三栖村

一高三百七石壹斗七升八合五勺

内九石貳斗三升三合五勺

一高四百五拾五石八斗五升四合

内七石九斗貳升四合

一高百八拾石八斗貳升七合五勺

内六石壹斗六升七合五勺

一高百貳拾八石壹斗貳升五勺

内六石九斗七升壹合五勺

小以九ヶ村

外貳ヶ所

一高百九拾九石九斗八升五合三勺

内四石壹升壹合三勺

一高六百五石壹斗壹升六合三勺

内三拾石壹斗三升九合三勺

新田

同 長沐村

新田

枝郷 長尾

同 伏菟野村

新田

枝郷 熊の川

同 馬我野村

新田

城附

枝郷

牟婁郡之内

富田組

城附 高井村

新田

同 堅田村

新田

枝郷　池田

一高三百貳拾壹石貳斗五升八合六勺　　同　才野（サイノ）村
　內五拾三石八斗八升八合六勺　　新田

枝郷　安久（アク）川　同　鴨居

一高百七拾貳石三斗八升四合貳勺　　同　溝端（ミゾハタ）村
　內六石壹斗壹升四合貳勺　　新田

一高百四拾八石六斗八升九合九勺　　同　吉田村
　內貳拾七石九斗四升八合九勺　　新田

一高四百六石八升三合五勺　　同　中村
　內七拾石八斗九升壹合五勺　　新田

枝郷　中芝

一高貳百四石五斗九升六合九勺　　同　朝來歸（アサラキ）村
　內拾五石四斗三升四合九勺　　新田

枝郷　見草

一高貳百四石六斗九升貳合九勺　　同　芝村
　內三拾九石六斗九升七合九勺　　新田

一高百六拾三石五斗六升八合貳勺　　同　高瀬村

内五拾壹石五斗貳升壹合貳勺　新田

一高貳百九拾六石四斗四升八合　同　十九淵（ツヅラフチ）村

内三拾三石三斗五升五合　枝郷　袋

枝郷　伊勢谷　同血深

一高貳百五拾壹石四斗四升八合九勺　同　平村

内五拾七石八升九合九勺　新田

一高貳百八拾六石八斗九升貳合貳勺　同　庄川村

内拾三石八斗壹升八合貳勺　新田

一高四百六拾九石八斗五升壹合貳勺　同　内の川村

内拾貳石四斗八合貳勺　新田

一高貳百貳拾三石七斗壹升三合五勺　同　保呂村

内拾八石五斗七升貳合五勺　新田

小以拾四ヶ村　城附

外八ヶ所　枝郷

牟婁郡之内

朝来（アソ）組

一高百九拾七石六斗五合四勺　城附　岩崎村
内拾石八斗三升三合四勺　新田
枝郷　野田

一高千六百九拾八石五斗六升三合貳勺　同　朝來（アツソ）村
内拾貳石八斗七升八合貳勺　新田
小名　上村　同　下村　同　大内谷　金谷（カナヤ）　同　千束（センゾク）

一高六百七拾四石三斗貳合四勺　同　生馬（イクマ）村
内六拾貳石八斗六升六合四勺　新田
枝郷　生馬谷（イクマタニ）　同　三王（サンワウ）　同　救馬谷（スクマタニ）

一高九百八拾七石四斗五升五合三勺　同　岡村
内拾九石三斗四升四合三勺　新田
枝郷　岡川

一高千六拾壹石貳斗七升八合六勺　同　市の瀬村
内八拾七石六斗九升壹合六勺　新田
枝郷　汗川

一高九百五拾石六斗八升三合四勺　與力知　岩田村
内九拾九石七斗九合四勺　新田

枝郷田熊川　同田熊　同尾崎
一高四百八拾七石三斗貳合四勺
內九拾六石三斗壹升貳合四勺
枝郷　愛賀川（アイカ）　同小川谷　同蕨野
小以七ヶ村
內五ヶ村
貳ヶ村
外拾貳ヶ所
五ヶ所

同　鮎川（アイガ）村　新田
一高三百六拾八石四斗六升四勺
內八石九斗六升三合四勺

城附
與力知
枝郷
小名

牟婁郡之內
三番組

城附　芝村　新田
枝郷　峯
同　大川村　新田
一高百八拾石六斗四升
內六石壹斗貳升貳合
枝郷　皆川

同　福芝村
一高九拾六石六升三合
　内壹石九斗五合　新田

同　兵生(ヒヤウセイ)村
一高五拾五石七升貳合四勺
　内四石五斗四升四合四勺　新田

枝郷　高串

同　鍜冶屋川村
一高三百貳石三升八合壹勺
　内拾六石壹斗七升壹勺　新田

小名　小皆(コガイ)　熊野川　同澤　同小野(ヲノ)

同　内井(ウチイ)川村
一高七拾三石七斗七升五合
　内六斗六升七合　新田

枝郷　足立(アシタチ)

同　小松原村
一高百九石壹斗五升壹合
　内貳拾參石九斗六升壹合　新田

枝郷　下皆(シタカイ)

同　石舟(イシフリ)村
一高七拾三石三斗壹合五勺
　内三石六斗五升六合五勺　新田

枝郷　向(ムカイ)の峯

同　温(ヌルミ)川(カワ)村
一高百三拾五石貳斗九升六合

新田
内拾貳石四斗貳升六合

城附
小以九ヶ村

枝郷
外六ヶ所

小名
四ヶ所

牟婁郡之内

四番組

上け知　向(ムカヒ)山村
一高貳拾九石五斗三升

城附　新田
内三石九升五合

同　里谷村
一高六石六斗六升壹合五勺

城附　新田
内四斗八升七合五勺

上け知
小以貳箇村

牟婁郡之内

周(ス)參(サ)見(ミ)組

上け知　宇津木村
一高三拾三石四斗八升八合

城附　新田
内壹石三升貳合

一高六拾貳石五斗壹升貳合五勺　同　玉傳村

　內壹斗三升貳合五勺　城附新田

　　　　枝郷川原谷

一高拾七石五斗六升貳合　同　神宮寺村

　小以三ヶ村　上け知

　外壹ヶ所　枝郷

高合三万六千四百七拾貳石五斗壹升

　內四千八百四拾石貳斗貳升三合　上け知

　百拾石貳斗九升四合　同新田

　貳万三千八百九拾四石四斗八升六合　城附

　貳千拾壹石七斗四升　同新田

　五千六百拾五石七斗六升七合　與力知

村數合九拾七箇村

　內拾七箇村　上け知

　拾八箇村　與力知

　六拾貳箇村　城附

外六拾六箇所　枝郷

小名　拾七箇所

新田　三箇所

牟婁郡奥熊野

本宮組（ホンクウ）

○本宮村　一高百三拾壹石九斗八升

新田　内七石九斗八升八合

社領　外高三百石

牢屋敷成　高貳斗壹升

○湯の峯村　一高五拾九石八斗九升九合

新田　内壹石五斗八升五合

藥師寺領　外高五石

○渡瀬村（カタゼ）　一高貳百七拾貳石七斗九升八合

新田　内六石壹斗六升三合

○下湯川村　一高百七拾貳石四斗九升

新田　内壹石八斗八升

○久保野村　一高百三拾四石九斗壹升八合

新田　内九石壹斗三升九合

枝郷 栗垣内（クリカイト） 同 小根川（コネ）

○平次川村 一高百四石四斗四升四合
新田 内壹石六斗九升九合
枝郷 野平（ノタヒラ）

○曲川村 一高百貳拾八石六升五合
新田 内貳石九斗三升壹合

○檜葉（ヒハ）村 一高百八拾貳石四斗五升七合
新田 内九斗六升三合

○小々森（コヽモリ）村 一高九拾八石七斗壹升六合

○皆地（ミナヂ）村 一高貳百六拾石壹斗七升八合
新田 内四石貳斗四升六合
枝郷 ぬた 同 籠山

○武住（ブジウ）村 一高百貳拾四石五升
新田 内壹石五斗四升貳合
枝郷 皆根川（カイネ）

○大瀬村 一高九拾七石五合
新田 内四斗四升

小以拾貳ヶ村　御藏
外六ヶ所　枝郷

入鹿組（イルカ）

一高六百七拾四石貳斗三升五合　○桐原村
內五石七升八合　新田
三百四拾壹石三斗壹升八合　新宮城附　本田
三拾貳石三斗貳升六合　同　新田
枝郷　畑谷

一高貳百三拾七石七斗八升七合　○板屋村
內三拾石貳斗五升四合　新田

一高百三拾壹石貳斗九升九合　○片川村
內貳拾三石九斗四升七合　新田
枝郷　小片川　同　風吹燈（カゼフクトウ）

一高百五拾四石七斗壹升六合　○矢野川村
內拾三石六斗壹升四合　新田
枝郷　通り谷　同　小谷　新田　檜平（ヒノキタヒラ）

一高八拾九石貳斗八升六合　○大河內村

内貳拾貳石九斗七升四合　新田
新田　十藥（ジウヤク）　枝鄉　三井良（ミヰラ）
一高三百三拾八石五斗六升六合　○大栗須村
内拾石五斗四合　新田
枝鄉　長野
一高百貳拾九石六斗四升六合　○丸山村
内五石八斗九升貳合　新田
一高百六拾六石八斗六升九合　○赤木村
内三石貳斗四合　新田
枝鄉　大倉谷
一高三百拾石壹斗九升九合　○長尾村
内貳拾石四斗貳升　新田
一高貳百五拾六石貳斗九升八合　○平谷村
内三石六斗九升六合　新田
枝鄉　川端
一高三百貳拾四石四斗四升六合　○尾川村
内六石三斗六升八合　新田

一高百九拾五石貳斗六升六合　○長井村

内拾石壹斗壹升貳合　新田

一高百拾七石七斗三升九合　○粉所村

内七石貳升四合　新田

一高七拾七石七斗貳升八合　○赤倉村

内五石三斗八升八合　新田

枝郷　荷倉

小以拾四ヶ村　御藏

外拾ヶ所　枝郷

貳ヶ所　新田

相賀組

一高三百七石五升八合　○馬瀬村

内五拾二石六斗貳合　新田

一高貳百貳拾五石八斗三升六合　○河内村

内四拾三石四斗貳升八合　新田

一高四百四拾石七斗八升四合　○上里村

内四拾七石二斗七合　新田

一高百八拾壹石四斗五升九合　○中里村

内三拾四石九斗壹合　新田

一高五百九拾四石七斗九升　○船津村

内百九拾九石三斗壹升四合　新田

枝郷　阿蘭新田　同前柱

一高四百八拾貳石九斗貳升七合　○古(コ)の本(モト)村

内百貳拾壹石貳斗四升三合　新田

枝郷　渡(ワタ)利(リ)

一高百拾七石八斗貳升五合　○便(ビン)の山(ヤマ)村

内貳拾五石九升　新田

新田　木津

一高三拾七石七斗貳升四合　○小(チ)浦(ウラ)村

内拾四石四斗七升四合　新田

一高百五拾六石三斗五升五合　○引本村

内三拾壹石三斗七升五合　新田

枝郷　長濱

一高百四拾貳石四斗貳升九合　○矢口浦

内三拾七石五斗八升

一高百四拾五石四升六合

内貳拾六石六斗貳升三合

小以拾壹ヶ村

外五ヶ所

壹ヶ所

一高貳拾六石六斗七升八合

内拾八石八斗六升六合

一高四拾五石五斗六升八合

内壹石五斗四升

一高貳拾七石七斗八升九合

内四石七斗壹升六合

一高貳百壹石五斗三升貳合

内八拾貳石八斗壹升八合

新田

枝郷 生(イ)熊(クマ)

○小山浦

新田

御藏

枝郷

新田

尾鷲組

○須(ス)賀(カ)利(リ)浦

新田

○水(スイ)地(チ)浦

新田

○天満浦

新田

枝郷 長濱

○中井浦

新田

枝郷 山田　同 坂場

外高三石六斗九升五合　　金剛寺領

一高百八拾四石八斗八升七合　　○野地村

内貳拾貳石四斗三升七合　　新田

一高六百貳拾石四斗三升八合　　○南浦

内八拾七石八斗壹升八合　　新田

新田 日尻野

外高四斗九升四合　　牢屋敷成

一高九拾六石壹斗七升九合　　○堀北浦

内貳拾石六斗九升　　新田

一高八拾六石八斗五升　　○林浦

内拾貳石八斗七升八合　　新田

右(五)[一本三]筒浦枝郷 新田

一高五百八拾貳石七斗四升九合　　○矢の濱村

内五拾六石八斗貳合　　新田

一高百六拾七石八斗三升八合　　○向(ムカ)井(井)村

内拾六石六斗貳升五合　　新田

一高三拾壹石五斗七升八合　○大曾根浦

内壹石五斗五升六合　新田

一高拾石六升　○行野浦

内三石四斗五升貳合　新田

枝郷　松本

一高五拾六石四斗七升貳合　○九木浦

内九石四斗壹升六合　新田

一高貳拾三石貳斗三合　○早田浦

内拾四石貳升六合　新田

小以拾四ヶ村　御藏

外五ヶ所　枝郷

壹ヶ所　新田

木の本組

一高百八拾五石三斗貳升九合　○大泊村

内拾八石七斗六合　新田

一高三百三拾七石五斗四升貳合　○木の本村

内貳拾石六斗三升五合　新田

枝郷 切（キリ）立（タテ）

外高拾七石貳斗三升七合　寺社領

高七石九斗六升九合　屋敷成

一高百九拾六石六斗三升七合　○古（コ）泊（トマリ）村

内五石五斗六升三合　田

一高貳百貳拾九石四斗九合　○波田須村

内拾貳石貳斗六升七合　新田

一高七百七拾七石四斗貳合　○神（カウ）の木（キ）村

内六拾壹石貳斗貳升四合　新田

一高五百貳拾四石七斗六升九合　○新（アタ）鹿（シカ）村

内六拾八石貳斗七升　新田

枝郷 ぬたの　同 はしま

一高百四拾五石四斗四升貳合　○遊（ユ）木（キ）浦

内拾壹石貳斗貳升　新田

一高九拾五石三斗七升貳合　○二（ニ）木（キ）嶋（シマ）浦

内拾九石四斗七升四合　新田

一高拾九石三斗壹升五合　○二木嶋里浦

新田　内貳石四斗九升六合

○三木里浦　一高貳百五拾壹石三斗三升壹合

新田　内五拾九石四斗五升九合

○名柄村　一高六拾八石七斗五升

新田　内壹石七斗七升八合

○小脇村　一高拾貳石六斗五升五合

○甫母（ホボ）浦　一高貳拾七石貳斗五合

新田　内四石壹斗七升貳合

○須野浦　一高三拾石七斗七升壹合

新田　内四斗貳升四合

○梶賀浦　一高貳拾三石四斗八合

新田　内八斗八升八合

○曾根浦　一高百五拾石九升壹合

新田　内九石四斗貳升五合

○賀田村　一高貳百七拾四石三斗八升三合

新田　内五拾三石五合

○古江（フルエ）浦　一高七拾壹石壹斗八升

内壹石三斗九升三合　新田

一高五拾六石壹斗壹升貳合　○三木浦

内七石四斗壹升壹合　新田

一高六拾壹石八升貳合　○盛(サカリ)松(マツ)浦

内八石三升貳合　新田

新田頼(タノ)母(モ)

小以貳拾ヶ村　御藏

外三ヶ所　枝郷

壹ヶ所　新田

北山組

一高貳百五拾四石八斗七升五合　○長原村

内三石四斗八升三合　新田

一高四百三石八斗五升七合　○神(カウノ)上(ウヘ)村

内拾七石七斗九升五合　新田

枝郷川瀬

一高百七拾九石五斗九升壹合　○柳谷村

内七石八斗壹升八合　新田

一高五拾三石四斗五升壹合

内貳石

一高四百貳拾三石四斗九升四合

内三拾壹石九斗六合五勺

一百石三斗三升四合

内三石五斗四升九合

一高百六拾六石九斗五升七合

内六石壹斗八升九合

一高貳百拾三石五斗五升四合

内六石六斗九升三合

一高百六拾石三斗七升三合

内三石貳斗五升六合

一高貳百九拾六石壹斗七升九合

内四拾三石五斗貳升七合

外高五石

枝郷 碇谷

〇大井谷村

新田

〇桃崎村

新田

枝郷 高尾谷

〇湯の谷村

新田

〇和田村

新田

〇寺谷上番村

新田

〇寺谷下番町

新田

〇神の山村

光福寺領

枝郷　河内(カワチ)

一高三百五拾石三斗六升九合　○二郷村

内六拾六石九斗五升四合　新田

一高貳百七拾六石七斗壹升　○前山村

内三拾六石五斗貳升九合　新田

枝郷　樫木口(カシノキクチ)　同　下地(シモヂ)　同　志子(シコ)

一高貳百八拾貳石四斗六升壹合　○中桐村

内貳拾五石九斗貳升八合　新田

一高百四拾八石三斗五升八合　○大原村

内七石三斗三升八合　新田

枝郷　三つ口　新田　下河内(シモカウチ)

一高百八拾貳石三斗四升七合　○十(ジウ)須(ス)村

内八石九斗五合　新田

枝郷　淺(アサ)柄(カラ)

一高三拾四石七升壹合　○江(エ)龍(リウ)村

枝郷　中原

小以拾三ヶ村　御藏

外拾壹ヶ所

壹ヶ所

高合壹萬八千九百六拾壹石四斗壹升八合

内貳千貳百七石四斗四升三合

三百四拾壹石三斗壹升八合

三拾貳石三斗貳升六合

外高三百三拾石九斗三升貳合

高八石六斗七升三合

村數合百ヶ村

外四拾三ヶ所

七ヶ所

一高五百三拾三石六斗九升貳合

内四拾壹石八斗貳升貳合

拾八石六斗三升九合

外高貳石貳斗九升

高壹合

枝郷

新田

新田

新宮城附本田

同 新田

寺社領

萬引高

御藏

枝郷

新田

相野谷組

上け知 鮒田村

新田

御藏 本田

神宮神領

檢地不足御藏所にて引高

一高千貳百八拾八石五升貳合　上ケ地　高岡村

内五拾石貳斗七升七合　新田

九拾五石　御藏　本田

外高三石六斗三升　神宮神領

一高千貳百三拾貳石四升壹合　同　大里村

內貳百貳拾貳石六斗壹升三合　新田

三拾壹石五斗八升八合　御藏　本田

外高百拾七石貳斗　神宮神領

高八合　檢地不足御藏所にて引高

一高七拾三石九斗七升六合　同村之內　小畑村

內拾石七斗七升六合　新田

小名　永田　同田代

一高三百九拾壹石八斗壹升五合　同　井內村

內拾貳石五升　新田

拾三石壹斗貳升九合　御藏　本田

一高七百六拾九石七斗八升四合　同　平尾井村

內五拾壹石貳斗八升　新田

三拾石五斗四合　　御藏 本田

一高貳百六拾七石三斗九合　　同 坂松原村

内拾八石五斗貳升壹合　　新田

三拾石四斗五升貳合　　御藏 本田

外高貳合　　檢地不足御藏所にて引高

小以七ヶ村　　上け知

内壹ヶ村分れ村

外貳ヶ所　　小名

尾呂志組（ナロシ）

一高四百貳拾五石六斗六升七合　　上け知 栗須村（クルス）

内三拾八石五合　　新田

一高貳百拾五石貳斗壹升四合　　同 川瀬村

内拾六石九斗七升七合　　新田

一高四百九拾石四斗三升八合　　同 上野村

内五拾三石九斗八升四合　　新田

外高五石五斗　　長徳寺領

一高貳百六拾五石七斗七升八合　　同 坂本村

内三拾三石三斗七升壹合　新田

一高六拾壹石八斗五升六合　同　西の原村

内貳拾七石六斗五升壹合　新

一高貳百七拾六石九斗九升三合　同　中(ナカ)立(タチ)村

内九拾六石八斗六升五合　新田

一高百五拾九石九斗六升五合　同　中立村之内　柿原村

小以七ヶ村　上け知

内壹ヶ村分れ村

太田組

一高六拾貳石五斗八升六合　與力知　森の浦村

内九石壹斗五升貳合　新田

一高貳百三石四斗七升四合　同　市屋村

内三拾五石八斗六升壹合　新田

一高貳百七拾七石九斗三升七合　同　和田村

内拾貳石九斗七升八合　新田

一高九拾六石壹斗八升六合　同　八(ヤ)尺(タ)鏡(カ)野(ノ)村

内七石四斗八合　新田

一高五百八拾三石五斗貳升壹合　同　下里村

内七拾貳石七斗七升貳合　新田

小名　高芝　同　天滿

一高六拾七石五斗貳升六合　同　粉(コ)の白(シロ)村

内拾八石四斗四升　新田

一高百三拾八石六斗三升三合　同　浦神村

内四拾六石三斗七合　新田

一高百九拾四石七斗五升六合　同　佐(サ)部(ベ)村

内拾五石四斗九升八合　新田

一高三百五石三斗五升八合　同　上田原村

内六拾石六斗五升五合　新田

一高七拾四石六斗六升四合　同　中野川村

内拾五石五斗九升五合　新田

一高七拾七石九斗壹升　同　長井村

内拾三石七斗四升六合　新田

一高六拾九石貳斗七升七合　同　高(タカ)遠(トウ)井(ヰ)村

内六石九斗九升　新田

石高	村名
六石壹斗	本田与力知 明け知
一高六拾石五斗壹升五合	同　橋之川村
内五石七斗四升四合	新田
一高百六拾九石五斗七升七合	明け知　二(ニ)河(カワ)村
内拾六石壹斗六升六合	新田
外高百五拾石	那智山領
一高貳百六拾六石五斗貳升六合	同　庄(シャウ)村
内拾六石壹斗九升七合	新田
一高三百七拾八石七斗五升九合	同　中里村
内四拾九石四斗七升貳合	新田
一高四百七拾三石三斗七升八合	同　大居村
内四拾壹石貳斗六升六合	新田
一高九拾五石貳斗三升八合	同　同村之内　井鹿村
内三拾壹石四斗三升八合	新田
一高百七拾八石九升貳合	城附　湯の川村
内拾六石八斗九升八合	新田
一高貳百九拾壹石五斗三升貳合	同　太(タイ)地(ヂ)村

内百三拾壹石六斗九升壹合

小以貳拾ヶ村

内壹ヶ村　分れ村

壹ヶ村

貳ヶ村

五ヶ村

拾貳ヶ村

外三箇所

一高百五拾壹石八斗四合

内拾九石六斗貳升

一高百九石六斗五升四合

内九石三斗四升六合

一高貳百三拾壹石貳斗八升五合

内五拾四石六斗四升五合

一高百七拾五石四斗三升八合

新田

小名　夏山

上け知

城附

明け知

與力知

小名

色川組

與力知　小匠村　新田

同　田垣内村　新田

同　大野村　新田

同　口色川村

内五拾六石三斗七升七合　新田

一高百三拾石三升九合　同　平野村

内三拾貳石三斗五合　新田

外高四石壹斗八升　妙法山領

同村之内

一高六拾貳石九斗貳升九合　同　檜曽原（ヒソハラ）村

内拾壹石五斗七升三合　新田

一高七百四拾九石五斗三合　同　上市木村

内貳百四拾五石四斗壹升五合　新田

貳百五拾三石六斗三升　本田　上け知　明け知

一高七拾石八斗壹合　明け知　中野川村

内拾四石五斗五升七合　新田

一高六拾四石六斗壹升七合　同　熊瀬川村

内貳拾六石貳升九合　新田

一高百三拾七石貳斗七升五合　同　小坂村

内貳拾八石四斗九升三合　新田

小以拾ヶ村

内壹ヶ村 分れ村

七ヶ村　與力知

三ヶ所　明け知

新宮組

一高貳千七百七拾石四斗七升　城附 新宮

内四百四石六斗五升四合　新田

六拾七石六斗八升五合　御藏 本田

小名 上熊野地　同 中熊野地　同 下熊野地　同 廣津野

外高八石　無量壽寺領

高貳百拾七石六斗八升　新宮社家屋敷

小以

外四ヶ所

小名

成(ナル)川(カワ)組

一高四百七拾六石六斗貳升七合　城附 成川村

内九拾九石六斗貳升　新田

九石七斗九升七合　御藏 本田

小名 七(ナナ)瀧(タキ)

外高三升八合
一高七百五拾五石九斗貳升七合三勺
　内六拾五石貳斗四升七合三勺
　　五拾貳石七斗五升貳合
外高九石貳斗
一高千拾五石五斗八升九合
　内六拾石九升九合
　　六拾貳石貳斗五升五合
一高五百九石壹斗九升八合
　内百九拾三石九斗三升
　　七斗九升壹合
一高百貳拾貳石三升八合
　内三拾壹石五斗貳升七合
　小以五ヶ村
　　外貳ヶ所

檢地不足引高
城附　鵜（ウ）殿（トノ）村
　御藏　本田
　新田
新宮神領
同　神の内村
　御藏　本田
　新田
同　井田村
　新田
　御藏　本田
　小名　上野
同　引（ヒキ）作（ツクリ）村
　新田

城附
小名
有馬組

一高千五拾石七斗八升　城附　阿田和村

内貳百四拾九石九斗四升六合　新田

一高五百三拾四石九斗四升九合　同　志原村

内七拾八石九斗三升九合　新田

七拾石六斗四升　本田 上け知 明け知

貳百八拾七石三斗壹升七合　本田 與力知

一高貳百三拾石六斗六升　同　久生屋村

内貳拾八石壹斗三升七合　新田

一高九百拾石壹斗九升五合　同　金の山村

内六拾貳石四斗貳合　新田

一高千三拾九石貳斗五升六合　同　口有馬村

内百五拾石三斗五升　新田

外高拾五石　寺社領

一高五百三拾五石六斗貳升　同　奥有馬村

内百四石四斗三升九合　新田

一高百五拾五石六升壹合　同　山崎村

内四拾石貳斗五升六合

上け知 井土村 新田
一高七百八拾七石壹斗三升八合
内貳百三拾貳石七斗壹合
外高五石

大馬權現領
同 同村之内 瀨戸村 新田
一高百四石七斗壹升四合
内四拾五石壹斗八升七合

同 下市木村 新田
一高七百三石八斗壹升八合
内百九拾六石四斗五升六合
小以拾ヶ村
内壹ヶ村 分れ村
七ヶ村 城附
三ヶ村 上け知

佐野組
城附 三輪崎村 新田
一高七百五拾九石六斗貳合
内七拾六石壹升三合

同 佐野村 新田
一高千七拾貳石壹斗八升四合
内九拾壹石三斗貳升貳合

同 木の川村
一高貳百七拾貳石三斗七升壹合

内五拾四石三斗四升六合　新田
一高四百八拾壹石三斗六升　同　宇久井村
内九拾四石七斗壹升五合　新田
小名　湊
一高貳百貳拾四石六斗七升四合　同　高津氣村
内七拾四石四斗三升壹合　新田
一高百四拾石六斗貳升三合　同　狗子川村
内貳拾六石五斗四升　新田
小以六ヶ村
城附
外壹ヶ所
小名
那智組
一高貳百六拾六石三斗七升壹合　城附　濱の宮村
内貳拾壹石九升　新田
外高五石　補陀洛寺領
一高二百四拾壹石貳斗貳升八合　同　川關村
内二拾七石八斗八升壹合　新田
一高貳百三拾六石三斗八升壹合　同　井關村

新田　内九拾五石六斗四升壹合

小名　牧の野

同　市野々村　新田

一高九拾四石五斗八升貳合七勺

内四拾貳石六斗七升貳合七勺

小名　二の瀬

那智山領

同寺家屋敷

外高百五拾石

高貳拾石五斗四升七合

城附　天満村　新田

一高四百七拾九石六斗壹升六合

内九拾三石六斗六升三合

同　勝浦村　新田

一高百貳拾石九斗五升壹合

内貳拾貳石五斗貳升四合

小名　大勝浦

城附

小以六ヶ村

外三ヶ所

小名

淺里組

城附　南檜杖（ミナミヒツエ）村　新田

一高百三拾四石四斗五升

内三拾石三斗九升

一高百六拾八石三斗四升　同　北檜杖村
内六拾石七斗六升七合　新田
小名　乙(ヲト)基(モ)
一高四百五拾壹石貳斗八升五合　同　淺里村
内貳百貳拾七石五斗九升八合　新田
一高百七拾九石三斗八升六合　同　同村之内 相賀 瀬原 村
内百六石五斗三升六合　新田
一高百三拾八石三斗貳升九合　同　口高田村
内七拾壹石九升四合　新田
一高百九拾壹石五斗八升　同　里高田村
内百九石壹斗七升六合　新田
新田 俵石
一高百貳拾三石四升五合　同　西高田村
内三拾壹石三斗三合　新田
小以七ヶ村　城附
内壹ヶ村　分れ村
外壹ヶ所　小名

壹ヶ所

一高貳百拾四石七斗九升三合
内貳拾九石六斗四升三合

一高五拾貳石貳斗貳升貳合
内貳石貳斗貳升貳合

一高三百四拾五石六斗四升
内拾八石貳斗六升貳合

一高五百九拾四石八斗貳合
内百貳石七斗六升貳合
小名 志古　同 番西　同 神丸　同 相須

一高百四拾貳石七斗五升五合
内八石六斗九升八合

一高八拾壹石貳斗四升八合

新田

三の村組

城附 和氣村
新田
小名 下和氣

同 田長村
同村之内 新田

同 能城村
新田
小名 山本

同 日足村
新田

同 揚枝村
新田

同 揚枝川村
同村之内

內拾八石貳斗四升八合　新田

一高百八拾八石貳斗六升六合　同　椋の井村

內三拾四石九斗三升貳合　新田

小名　谷口

城附

小以七ヶ村

內貳ヶ村　分れ村

外七ヶ所

小名

大山組

一高貳百五拾石九斗貳升貳合　城附　赤木村

內五拾石九斗貳升貳合　同村之內　新田

一高百三拾五石貳斗三升貳合　同　東村

內貳拾八石三斗五升八合　同村之內　新田

一高九拾九石六斗五升壹合　同　長井村

內三拾壹石七斗貳升六合　新田

小名　小畝　同　小口

一高八拾石三斗貳升　城附　西村

內三拾壹石壹斗貳升壹合　新田

一高百六拾四石四斗壹升九合　大山村
　内貳拾石四升八合　新田
一高四拾九石九斗五合　同　鎌塚村
　内拾石八斗壹升　新田
一高八拾九石壹斗六升七合　同　瀧本村
　内貳拾六石八斗貳升七合　新田
一高四拾五石九斗三升五合　同　畝(ウネ)畑(ハタ)村
　内四石七斗八升　新田
一高拾五石九斗六升五合　同　北川村
　内壹石三斗七升九合　新田

小以九ヶ村　城附
　内貳ヶ村　分れ村
外貳ヶ所　小名

敷屋組

川合村之内
一高七拾貳石壹斗三合　城附　小(コ)船村
　内三石七斗九合　新田

一高五拾貳石七斗六升　同 相(アイ)須(ス)村

内五石八升三合　同 新出

一高五拾石九斗三升三合　同 宮井村

内拾四石六斗八合　同 新出

枝郷 音(ヲト)河(ガ)

古は右三ヶ村合川井村と認申候

一高貳百八拾三石四斗六升貳合　同 西敷屋村

内五拾九石五斗四升四合　新田

一高百八拾六石五斗九升七合　同 東敷屋村

内拾貳石七斗五升　新田

一高八拾六石六斗六升六合　同 小(コ)津(ツ)荷(カ)村

内貳石五斗六升八合　新田

一高百七拾四石七斗九升　同 高山村

内貳拾三石七斗六升　新田

一高百五拾壹石三斗七升　同 篠(サヽ)尾(ヲ)村

内六拾五石九斗六升八合　新田

小以八ヶ村　城附

外壹ヶ所

枝郷

一高六拾五石七斗壹升九合　請(ウケ)川組 城附 大(テホ)津(ツ)荷(カ)村
　內壹石貳斗四升九合　新田
一高拾九石五斗三升七合　同 津荷谷村
　內貳石七斗四升貳合　新田
一高百四拾石四斗三升五合　同 受(ウケ)川(カワ)村
　內拾八石九斗八合　新田
一高四拾七石四斗壹升　同 耳打村
　內八斗貳升貳合　新田
一高百貳拾四石三斗四升三合　同 皆瀬川村
　內六石八斗六升八合　新田
小名 川湯
一高七拾八石四斗壹升貳合　同 田代村
　內壹石七斗九升六合　新田
一高百拾貳石五斗壹升　同 大野村
　內五石四斗九升　新田

一高三拾五石六斗四升五合　同　同村之内蓑尾谷村
内四石五斗七升貳合　新田
一高五拾八石九斗壹升三合　同　和田村
内四石壹斗五升貳合　新田
一高百八拾七石六斗八升五合　同　静川村
内三拾四石四斗四升三合　新田
一高三拾三石四斗五升四合　同　野竹村
内九石五斗八升八合　新田
小名　檜(ヒ)和(フ)瀬(セ)

城附

小以拾壹ヶ村
内壹ヶ村　分れ村
外貳ヶ所

小名

三里組

一高三百七拾貳石七斗壹升七合八勺　城附　上切原村
内貳拾三石四升五合八勺　新田
一高百九拾四石五斗三升八合　同　伏(フシ)拝(ヲガミ)村
内三拾九石八斗七升五合　新田

同　一本松村　新田

一高九拾四石八斗六升

内四拾貳石九斗七升四合

同　大居村　新田

一高三百九拾三石三斗貳升貳合九勺

内六拾七石三斗三升九合九勺

同　切畑村　新田

一高三百八拾九石壹斗八升五勺

内四拾壹石三斗三升五勺

小名　八木尾谷

同　三越（ミコシ）村　新田

一高三百拾四石六斗五升六合

内七拾三石貳斗七升六合

小名　小森　同　發心門（ホツシンモン）　同　道の川

同　土河屋（ツチカウヤ）村　新田

一高百五拾壹石貳斗五合五勺

内拾七石六斗七升五合五勺

小名　小井（コヰ）　同　鹿淵（カブチ）

小以七ケ村

外六ケ所

城附

小名

川之内組

城附　四瀧（シタキ）村

一高四拾貳石三斗三升

内貳石八斗六升　　新田

一高百拾貳石九斗三升壹合　　同　九重（フチウ）村

内六拾四石八斗貳合　　新田

一高六拾五石三升四合　　同　同村之内　花井（ケヰ）村

内三拾貳石八斗八升四合　　新田

小名　百夜月（モヽヨツキ）村　同　大平（チホタヒラ）

一高百拾五石壹斗七升　　同　湯の口村

内拾壹石壹斗三升貳合　　小名　河根　新田

一高百八石貳斗五升　　同　嶋津村

内九石六斗六升四合　　小名　小川口　新田

一高四拾壹石九斗六升五合　　同　木津呂村

内三石八斗八升六合　　新田

一高貳拾石七斗五升九合　　同　玉置（タマイクチ）口村

内七石四斗九升八合　　新田

同　小栗須村新田

一高貳百拾六石貳斗三升六合

内拾壹石七斗八升貳合

小以八ヶ村

内壹ヶ村　分れ村

外四ヶ所

城附

小名　北山組

城附　大沼ノ村新田

小名　大河原

一高貳百六拾七石貳斗五升八合

内拾七石壹斗九升八合

同　下尾井村新田

一高百六拾貳石七升九合

内三石四斗四合

小名　上小瀬　同　下小瀬

同　小森村新田

一高百四拾九石五升貳合

内三石四斗七升六合

同　小松村新田

一高拾四石五斗六升貳合

内三石四斗六升八合

小名　上小松　同　下瀧

一高百壹石七斗八合　同　竹原村
内五石九斗七升　新田
枝郷　相須
竹原村之内
一高八拾五石八斗三升貳合　同　花知村
内壹石九斗三升六合　新田
同
一高七拾四石六斗九升四合　同　七色村
内拾石九斗壹升　新田
小名　たいの本

小以七ヶ村　壊附
内貳ヶ村　分れ村
外壹ヶ所　枝郷
六ヶ所　小名

高合三万七千九百八拾貳石貳斗九升五合七勺
内四百拾貳石五斗九升貳合　御蔵本田
六千七百三拾五石壹斗七升三合　上ケ知
千百拾貳石九斗九升貳合　同　新田

千四百三拾貳石五斗五升三合　明け知
貳百貳拾三石六斗一升八合　同新田
三千拾七石九斗九升七合　與力知
七百四拾四石六斗八升三合　同新田
壹万九千九百八拾九石七斗八升三合　城附
四千貳百七拾壹石六斗壹升六合七勺　同新田
外高七百拾三石貳斗貳升七合　寺社領
高四升九合　檢地不足引高
村數合百三拾六ヶ村
内拾四ヶ村　分れ村
拾八ヶ村　上け知
拾九ヶ村　與力知
八ヶ村　明け知
九拾壹ヶ村　城附
外貳ヶ所　枝郷
四拾三ヶ所　小名
壹ヶ所　新田

南紀德川史卷之九十一

臣 堀内信 編

郡制第三

紀州勢州和州御領分御高幷村名帳

松坂領 一志郡

下ノ庄組

○波瀬村
一高貳千八百八拾九石八斗六升九合
新田 内百壹石三升
枝鄉 室口

△宮野村
一高三百貳拾七石九斗貳升
新田 内拾五石七斗九升四合

⊠△瀧ノ川村
一高百三拾七石七斗六升四合
新田 内八斗七升四合

△森本村
一高六百七拾四石九斗四升七合
新田 内四拾七石三斗三升五合
枝鄉 日川

一高四百六拾八石九斗九升貳合　△釜生田村
内拾七石壹斗三升七合　新田
外高壹石貳斗　大神宮領
一高百九拾石壹斗壹升　○井ノ上村
一高四百八石壹斗八升四合　△八田村
内拾壹石九斗四合　新田
一高六百七拾壹石九斗六升五合　⊠△嶋田村
内拾六石八斗五合　新田
外高貳石　社領
一高百九拾六石三斗四升五合　△堀ノ内村
内七石五斗四升五合　新田
一高八百八石壹斗壹升壹合　一本〇（△）下ノ庄村
内拾石九斗五升六合　新田
枝郷　上野　小名　出屋敷
外高貳石貳斗貳升　大神宮領
一高四百七拾七石七斗八升貳合　△小野村
内五斗四合　新田

外高壹石三升八合
一高五百七拾七石八斗壹升壹合
内三石九斗六合
外高貳石四斗壹升五合
一高貳百九拾九石壹斗七升九合
内拾貳石九斗七升九合
一高貳百拾四石貳斗五升五合
内壹石八升五合
外高壹石
一高三百三拾五石九斗貳升七合
内貳拾貳石壹斗七升七合
一高千四百貳拾壹石四斗九合
内四拾石三斗八升壹合
一高千百拾四石貳斗六升
一高千三百四石六斗四升四合

三浦長門守新田直渡
△薬王寺村 新田
小名 中尾
毘沙門領
○算(サン)所(ジョ)村 新田
小名 出屋敷
⌧○権現前村 新田
社領
△須(ス)賀(カ)領(リヤウ)村 新田
⌧△津屋城村 新田
△川北村
△須賀村

内七石七升六合
外高六升貳合
小以拾八ケ村
内四ケ村
拾四ケ村
外三ケ所
三ケ所

新田

酒年貢御免

御藏
給所

枝鄉
小名

飯高郡

驛部田組(マヤノヘタ)

△久保村　新田

一高九百四拾四石八升
内拾石貳斗五升三合
枝鄉皆付(カイツキ)　同新屋
外高貳石四斗

大神宮領

△驛部田村(マヤノヘタ)

一高七百四拾八石三斗六升
外高貳拾四石六斗壹升八合

三浦長門守新田直渡

△大黒田村　新田

一高千四百七拾四石四斗五升
内百六拾四石六斗六升五合

枝郷林村　同上新田　同中畔

外高壹石五斗

一高三百九拾五石三斗四升八合

內拾六石五斗四升八合

外高壹石貳斗

一高九百貳拾七石七斗四升七合

內七石九斗三升七合

枝郷下田　同西田

外高三石三斗三升三合

一高貳百貳拾貳石九斗四升

內三拾五石八斗七升五合

外高三石貳斗五升

一高四百三拾五石九斗壹升壹合

內三拾六石四斗五升壹合

社領

△小黒田村　新田

小名新田

社領

△田村　新田

明神領

△岡本村　新田

小名出屋敷

大神宮領

△丹生寺村　新田

小名川原茶屋

外高壹石貳斗　　　　　　　　白山權現領

一高七百九拾五石八斗貳升　　　　　　△立野村

　內三拾五石五斗貳升六合　　　　　　　新田

　　小名 川原茶屋　新田 高田廣

外高四石七斗六合　　　　　　　　大神宮領

一高千九百拾六石貳斗五升三合　　　　△山室村

　內九石六斗三升八合　　　　　　　　　新田

　　枝鄉 竹林　同 菖蒲谷

外高六石八斗三升　　　　　　　　明神領

一高三百六拾九石九斗七升　　　　　　△桂瀨村

　內貳拾六石七斗四升四合　　　　　　　新田

外高貳石壹斗七升四合　　　　　　八幡領

一高六百八拾五石貳斗五升四合　　　　△山村

　內拾九石五斗五升貳合　　　　　　　　新田

　　枝鄉 佐奈田　同 高畑

外高拾石貳斗壹升八合　　　　　　寺社領

一高五百貳拾六石七斗六升六合　同村分レ村 △寺井村

內貳拾六石七斗六升六合　新田

小名 只越

△西野村

一高九百九拾六石六斗三升五合　新田

內貳石四斗貳升九合

枝鄉 林　同 山口　同 平生出（ヒロデ）

給所

小以拾三ヶ村

內壹ヶ村 分レ村　枝鄉

外拾四ヶ所　小名

五ヶ所　新田

壹ヶ所

八重田組

一高六百三拾七石八斗九升貳合　○野村

一高五百六拾三石五斗貳升六合　△塚本村

一高貳百四拾六石七斗壹升五合　△岩內村

內三石七斗壹升四合　新田

一高八百八拾壹石壹升八合　○船江村

外高七石五升壹合
一高千八百拾壹石三斗六合
一高三百七石貳斗八升貳合
　內五拾貳石六斗五升六合
外高六石
　高六拾貳石七斗八合
一高千五百八拾三石五斗八合
　內四拾四石貳斗五升四合
枝郷 北村 同蛇原
外高拾貳石
一高七百拾六石六斗九升壹合
　內七石三斗五升壹合
外高三石
一高七百拾四石三斗壹升七合
　內三石七斗貳升
一高千百六拾貳石壹斗三合
外高貳石三升五合

寺社領
○松坂町作
○町廻　新田
愛宕領
御殿地幷待屋敷等成
△伊勢寺村　新田
寺領
△八重田村　新田
社領
⊠△上ノ庄村　新田
△中ノ庄村
三浦長門守新田直渡

一高八百七拾七石八斗九升四合　△市場庄村
内百三拾六石三斗九升四合　新田

一高四拾石六斗九升　同村之内 ○三渡り村
皆新田

一高貳百貳拾三石　⊠△久米村

一高千七百六拾四石八斗五升壹合　△小阿坂村
内五拾八石九斗三升壹合　新田

一高千貳百五拾六石貳斗九升八合　△大阿坂村
内拾壹石四斗壹升四合　新田
小名 岩藏谷

一高千四百貳拾三石八斗五升五合　⊠△黒野村

小以拾六ヶ村
内壹ヶ所　分レ村
貳ヶ所　町作町廻り
五ヶ村　御藏
拾壹ヶ村　給所
外貳ヶ所　枝郷
壹ヶ所　小名

新松ヶ嶋組

一高三百九拾壹石四斗九升四合　△大平尾村

一高七百拾三石九斗壹升九合　○新松ヶ嶋村新田

内百九拾五石六斗七升九合

枝郷北町屋

一高四百三拾貳石八斗貳升壹合　△町平尾村新田

内八拾壹石貳斗八合

外高五石五斗七升五合

獵師村居屋敷御赦免

一高四百石三斗四升五合　○久保田村

一高三百拾八石七斗七升五合　△大塚村

一高七百三拾八石六斗五升壹合　△鎌田村新田

内拾壹石五斗三合

外高五拾石

山田世儀寺領

一高五百六拾五石壹斗壹升九合　○大口村新田

内三百貳拾七石壹升七合

一高百三拾八石三斗八升九合　△荒木村新田

内貳石壹斗七升壹合

△石津村　一高貳百九拾貳石三斗九升

新田　内貳石九升八合

○獵師村　一高百三拾四石四斗七升八合

皆新田

小名　高洲

○西之庄村　一高百貳拾六石貳斗四升

新田　内壹石九斗六升四合

△外五曲村　一高百四拾九石七斗壹合

新田　内壹石六斗八升六合

松坂御屋敷地成　外高拾壹石壹斗壹升五合

○内五曲村　一高百貳拾九石五斗九升五合五勺

新田　内九石九斗壹升五合

△井村　一高五百五拾三石七斗六升貳合

新田　内三石六斗五升貳合

八幡領　外高壹石三斗九升

△大足村　一高八百貳拾三石八升

新田　内五石六斗六升四合

外高三石

社領

△阿形村　一高三百六拾四石四斗六升六合

新田　内四石七斗三升六合

○藤ノ木村　一高八百七拾壹石七斗八合

新田　内三拾八石壹斗三升

△曲村　一高千百貳石四斗六升

新田　内壹石四斗五升

枝郷　出屋敷

△美濃田村　一高千貳百八拾三石八斗三升

新田　内三石四斗七升貳合

枝郷　八田　同上

外高五石貳斗六升貳合

八幡領

三浦長門守新田直渡　高四石三斗貳升貳合

○田牧村　一高百六拾石

殿村　一高四百六拾貳石七斗貳升六合

大神宮御供料　外高五石

△深長村　一高五百七拾壹石九斗四合

内六石五斗四合　　新田
外高五石九斗七升　　明神領
一高六百九拾七石七斗八升三合　　△松ヶ嶋村
内貳百五石四斗壹升三合　　新田
小名　長泉寺
外高八斗六升　　御免許地高
高三拾五石三斗三升　　松崎浦居屋敷御赦免
一高四百三拾三石四斗五升九合　　同村之内　○松崎浦
皆新田
小以貳拾四ヶ村
内壹ヶ村　分レ村
九ヶ村　　御藏
拾五ヶ村　　給所
外四ヶ所　　枝郷
貳ヶ所　　小名
東岸江組
一高三百七拾四石九斗七升九合　　○矢川村

内拾三石七斗九升八合　新田

一高貳百拾九石七升壹合　○江津村

内貳拾九石八斗四升三合　新田

外高貳石　御藏屋敷成

一高千貳拾四石八斗貳升八合　△高町屋村

内高六百三石壹斗四升壹合　新田

一高八百六拾八石五斗貳升三合　△東岸江村

内貳百貳拾五石五斗九升　新田

一高五百四拾石九斗四升九合　△西岸江村

内四拾六石貳斗五升九合　新田

外高三石四斗　愛宕領

一高千貳百五拾五石壹斗九升　○大津村

内四石壹斗三升　新田

枝郷　杉村

外高三石壹斗五升　大神宮領

一高百三拾石四升四合　○田原村

内七石四升四合　新田

一高千六百六拾石六升七合　△上川村
内拾三石六斗三升七合　新田
枝郷　高田
一高九百拾六石壹斗貳升七合　△垣鼻村
内百拾八石八斗六升七合　新田
一高千四百五石七斗四升七合　△下村
内四斗三升貳合　新田
枝郷　四ツ又
外高四石　大神宮御供料
一高百六拾八石貳斗九升七合　⧖△豊原村
内三石六斗八升七合　新田
一高千三拾六石壹斗八升貳合　△朝田村
内三斗三升　新田
外高拾三石　寺社領
高三斗八升七合　三浦長門守新田直渡
一高五百九拾三石九斗九升三合　△大宮田村
一高六百拾壹石四斗九升六合　△佐久米村

内三石五斗三升四合　新田

一高六百八拾壹石三斗四升九合　△西野々村

内貳拾三石六斗　新田

一高四百四拾三石三斗五升三合　△古井村

内拾石八斗貳升七合　新田

一高貳千八拾貳石六斗三升四合　○西黒部村

内九百八拾石八升四合　新田

小名 中村　枝郷 網屋　同 四家　同 高洲　同 洲崎新田

外高八石壹斗　寺社領

小以拾七ヶ村

内五ヶ村　御藏

拾貳ヶ村　給所

外七ヶ所　枝郷

壹ヶ所　小名

下出江組

一高三百貳拾三石五斗七升五合　○廣瀬村

内四石七斗六升　新田

外高三石　寺社領
高壹石七斗　御材木屋敷成
一高百九拾八石四斗　△鍬形村
外高貳石　天神領
一高千八百八拾壹石貳斗貳升七合　○丹生村
内拾六石三斗壹升　新田
枝郷西川
外高四拾壹石　寺社領
一高五百七拾石三合　○大河内村
内三拾五石七斗貳升　新田
外高三石三斗　寺社領
一高七百七石貳斗四升壹合　○矢津村
内拾貳石三斗六升七合　新田
枝郷大平生
外高壹石　天王領
一高貳百四拾貳石九升壹合　△勢津村
内拾九石貳斗三升三合　新田

天神領　外高貳石八升貳合
○坂内村　一高貳百拾壹石八斗三升八合
新田　内六拾八石四斗五合
大神宮領　外高貳石三升四合
○辻原村　一高貳百五石三斗九升貳合
新田　内五拾貳石貳斗五升
○六呂木村　一高貳百三拾六石四斗七升三合
新田　内七石九斗七升三合
社領　外高壹石
又藏分御赦免　高四石九斗六升八合
△上茅原田村　一高貳百八拾三石壹斗五升四合
新田　内拾貳石八斗五升三合
社領　外高壹石五斗
○下茅原田村　一高三百七拾六石七斗九升九合
新田　内拾貳石七斗九升九合
枝郷 東出
寺社領　外高四石五斗

一高六百五拾七石七斗六升八合　○下出江村
内拾三石九斗四升六合　新田
外高五石　八幡領
高壹石五斗貳升八合　次郎右衛門居屋敷成
一高貳百八拾四石五斗八升四合　○上出江村
内拾七石八斗壹升壹合　新田
外高壹石　天王領
一高五百三拾六石七斗三升六合　○小片野村
内六拾八石九斗四升貳合　新田
外高貳石四斗　天王領
一高五百八拾壹石九合　○大石村
内八拾六石七斗壹升六合　新田
枝郷谷　同矢下（ヤチロシ）
外高貳石三斗　社領
高三斗　御鷹御廐屋敷成
一高六百六拾五石六斗貳升七合　○深野村
内八拾四石貳斗貳升貳合　新田

枝郷夏明(ナツアケ) 同長野 同鍛冶屋瀬 同神路山(カウヤマ)

外高貳石　天王領

高六石四斗三合　御免許地高

一高貳百六拾貳石九斗九合　○横野村 新田

內貳拾九石五斗八升七合

枝郷横谷

一高千六百四拾三石五斗三合　○粥見村 新田

內三百貳石八斗六升四合

枝郷畑井　同赤瀧　同生邊(トコナエ)　同立梅(タチバイ)　同柏野　同高東

一高貳百七拾五石六斗五升　○下仁柿村 新田

內五拾貳石九斗五升貳合

枝郷日山　同横谷

一高三百九拾五石三斗五合　○上仁柿村 新田

內三拾貳石八斗三升三合

枝郷神名原(シテハラ)　同皆又　同峠

一志郡之內

同　組

一高五百拾壹石三斗六升三合　○上多氣村
內貳拾石九斗七升三合　新田
枝郷小津
一高七拾八石貳斗七升三合　⊠○丹生俣村
內八石貳斗三合　新田
一高七百五拾四石六斗六升七合　○奥津村
內百四拾五石九斗六升八合　新田
枝郷波籠
外高貳石壹斗貳升七合
小以貳拾三ヶ村
內貳拾ヶ村　御藏
三ヶ村　給所
外貳拾三ヶ所　枝郷

瀧野組

一高三百九拾壹石五斗壹升九合　川俣三組之内 ○瀧野村
內百拾七石壹斗四升四合　新田
外高三斗六升　御殿地成

高壹石五斗四升六合　慶法寺領

高三拾三石五斗四升八合　瀧野次郎左衛門御免許

一高百三拾四石六斗貳升七合　○神野原村

內八石九斗壹升五合　新田

外高七斗五升　淨源寺領

一高三百六拾石五斗五升貳合　○有間野村

內八拾四石三斗四升八合　新田

枝鄉　下有間野　小名　高山

外高貳石七斗七升六合　寺社領

一高八拾九石四斗八升七合　○下(シモ)栃(トチ)川(カワ)村

內拾貳石貳斗六升壹合　新田

外高四斗九升六合　稱覺寺領

一高三百九拾六石壹斗四升五合　○下瀧野村

內百五拾四石八升八合　新田

枝鄉　枇杷ヶ野　同　虻(アブ)野(ノ)　同　柏野

外高壹石六斗九升八合　寺領

一高四拾貳石九斗七升六合　○木(キ)地(ジ)小(コ)屋(ヤ)村

内拾七石六斗九升五合　新田

一高百八拾七石貳斗壹升七合　○神殿(カウトノ)村

内貳拾八石五斗七升四合　新田

外高三斗壹升貳合　正法寺領

一高百九石四斗四升壹合　○野々口村

内拾石八斗八升八合　新田

外高貳石四斗貳升　祥願寺領

一高八拾五石七斗壹升五合　○作(サク)瀧(タキ)村

内五石三斗八升六合　新田

外高五石七斗四合　社領

一高七拾壹石八斗貳升三合　○赤池村

内六石六斗四升壹合　新田

一高四百四拾八石八斗三升六合　○赤(アカ)桶(フ)村

内百拾七石八斗八升八合　新田

枝郷　右栗子(ウグルス)　同谷出(タニデ)　同向赤桶

外高貳石四斗八升　寺領

一高三百七拾五石壹斗壹升七合　○田引村

內八拾六石六斗四升六合　　新田
枝郷 口野々　同小田
外高壹石八斗五升四合　　禪源寺領
小以拾貳ヶ村　　御藏
外九ヶ所　　枝郷
壹ヶ所　　小名

飯高郡

七日市組

川俣三組之内
一高百八拾七石七斗八升五合　　○谷(タン)野(ノ)村
內貳拾六石五斗五升貳合　　新田
枝郷 平瀬
外高貳斗八升八合　　長樂寺領
一高四百八拾八石五斗八合　　○七日市村
內四拾六石三斗八升六合　　新田
枝郷 木(モク)原(ハラ)　同奥
外高七斗五升六合　　御殿地成

高五石八斗六合　寺社領

高七石壹斗三升五合　中村太郎右衛門角谷平右衛門御免許

一高貳百三拾五石九斗貳升九合　○栃川村

内四拾七石四斗九升貳合　新田

外高五石九斗六升八合　中村太郎右衛門御免許

高壹石八斗貳升四合　長昌寺領

一高三百九石六斗八升八合　○富永村

内六拾石九斗六升四合　新田

枝郷　屋なせ　同福本

外高壹石六斗六升　寺領

一高四百貳石壹斗六升七合　○粟野村

内八拾三石五合　新田

枝郷　ちのそい　同向粟野　同つゞらくま　同けゐら

外高貳石七升四合　寺領

小以五ヶ村　御藏

外九ヶ所　枝郷

飯高郡

波瀬組

川俣三組之内
○波瀬村　新田

一高貳百拾八石五斗四升貳合
　內四拾壹石五斗壹升六合

御殿地成
　外高三斗八升四合

寺社領
　高三石壹斗三升貳合

中村甚之助御免許
　高拾五石五斗貳升四合

○多羅木村　新田

一高五拾七石八斗六升八合
　內貳拾六石四斗壹升六合

○落方村　新田

一高六拾壹石貳斗貳升壹合
　內貳拾四石六斗七升七合
　　枝郷　こもふ　同平瀬

中村甚之進御免許
　外高六石五斗四升九合

○草鹿野村　新田

一高四拾石九斗三升貳合
　內拾四石三斗五升四合

○木梶村　新田

一高三拾三石八斗九合
　內貳拾貳石四斗四升七合

外高壹斗三升八合　雲林寺領
一高三拾貳石貳斗壹合　○栃谷村
内拾四石八斗八升壹合　新田
一高百七石五斗三升九合　○桑原村
内拾八石七斗貳升九合　新田
外高五斗四升四合　寺社領
一高九拾五石三斗五升九合　○月出村
内七石九斗六升貳合　新田
外高壹斗三升貳合　桑源寺領
一高百八拾四石九斗九升五合　○加波村
内三拾七石壹斗七升七合　新田
枝郷相原　同向加波　同福山
外高壹石壹斗貳升　寺領
一高三百貳石九斗九合　○乙栗子村
内四拾三石六斗四升六合　新田
枝郷せき
外高三斗六升　寺領

○犬飼村　一高百六拾七石三斗三升九合
新田　内三拾壹石三斗九升三合
寺領　外高壹石貳斗壹升八合

○深野村　一高百三拾五石貳斗四升五合
新田　内六石九斗貳升七合
寺社領　外高三石貳斗四合

○家野村　一高六拾壹石壹斗七升壹合
新田　内壹石六斗三升三合
福箱寺領　外高壹斗九升貳合

○柏野村　一高四拾八石六斗七升五合
新田　内四石五升三合

○久(ク)谷(タニ)村　一高五拾九石九斗七升五合
新田　内八石九斗八斗七合

○大俣村　一高百四拾九石三斗五升
新田　内三拾貳石六斗壹升三合
枝郷　宇(ウ)藤(ト)木(キ)

東漸寺領　外高五斗三升四合

一高六拾七石貳斗五升四合　○塩ヶ瀬村
　内貳拾石五斗三升三合　新田
一高四拾貳石四斗六升八合　○猿山村
　内拾九石壹斗六升八合　新田
　外高壹石六斗四合　圓照寺領
一高四拾三石四升六合　○蓮（ハチス）村
　内三石貳斗四升八合　新田
　外高八升四合　蓮生寺領
一高百九拾六石四斗七升貳合　○青田村
　内五拾六石五斗九升五合　新田
　外高四石三斗五升貳合　寺社領
一高六拾石七斗壹升　○船戸村
　内三拾七石壹斗三升四合　新田
　　枝郷鬼木　同やきか谷
小以貳拾壹ヶ村　御藏
　外九ヶ所　枝郷
高合八万千四百八石七升七合五勺

新田　内七千百拾八石八斗七合

寺社領　外高三百石五斗貳升貳合

萬引高　高百九拾五石五斗壹升

御免許地高　高七石貳斗六升三合

三浦長門守新田直渡　高三拾貳石四斗

村數合百四拾九ヶ村

内三ヶ村　分レ村
　貳ヶ所　町作町廻り

御藏　八拾壹ヶ村

給所　六拾八ヶ村

枝郷　外八拾ヶ所

小名　拾三ヶ所

新田　三ヶ所

田丸領多氣郡

四疋田組

△朝柄村　一高九百貳拾七石九斗四升四合

新田　内四拾壹石九斗四升九合

○向粥見村　一高六百九拾石五斗八升五合

内三百八石三斗四升　新田

枝郷 波留（ハル）　同相津

外高貳石壹斗貳升四合　寺領

高貳石三斗貳升八合　庄屋々敷引高

一高六百拾五石九斗三升壹合　○波多瀬村

内百九拾石五斗六升八合　新田

枝郷 なご

一高貳百九拾五石壹斗六合　△古江村

内拾四石七斗九升七合　新田

一高百四拾四石七斗七升六合　○土屋村

内五拾六石八斗壹升五合　新田

一高六百三拾三石九斗七升六合　△片野村

内六拾五石九斗七升貳合　新田

枝郷 たご

一高百九拾九石七升七合　○色（シキ）太（フト）村

内九拾三石五斗四升三合　新田

枝郷 みつがの

一高貳百四拾八石五斗八合　○車川村
内百五拾壹石五斗四升四合　新田
一高五百貳石六斗三升　△前村
内貳石六斗三升　新田
一高九拾七石七斗貳升七合　△長谷村
外高五石　近長谷寺領
一高三百四拾貳石八斗六升　△神坂村
内三斗五升　新田
外高三石　金剛座寺領
一高六百拾石八升四合　△平谷村
内拾三石貳斗五升　新田
一高六百五拾壹石三斗壹升五合　△五桂村
内六拾四石壹斗七升五合　新田
一高三百八拾七石四斗三升四合　△仁田村
内貳石三斗九升五合　新田
一高四百六拾五石九斗壹升壹合　△油(ユ)夫(ブ)村
内拾貳石貳斗七升五合　新田

一高三百九拾石四斗八升　△四神田村
一高三百七拾壹石五斗壹合　△西山村
内拾三石四斗六升六合　新田
一高七百三拾八石貳斗三升五合　△五佐奈村
内六石三斗貳升五合　新田
一高貳百四拾五石八斗六升　○津留村
内拾六石五斗三升　新田
一高百五拾石貳斗八升三合　△上牧村
一高九拾八石四斗貳升六合　△中牧村
一高百七拾五石三斗八升七合　△北牧村
一高三百八拾五石五斗　△林井ノ内村
枝郷西佐伯
一高貳百七拾八石五斗貳升　△中佐伯村
一高六百九拾貳石八斗七升　△三疋田村
一高千拾石八斗三升　△四疋田村
一高四百六拾壹石三斗　☒○相可村
外高百五拾石　山田春木大夫江社領

△荒蒔村　一高三百五拾三石五斗七升七合

△兄國村　一高六百四拾六石三斗壹升九合

△弟國村新田　一高三百拾七石七斗

　内壹斗四合　兄國弟國分レ村

○朝長村皆新田　一高三百五拾壹石六斗貳升九合

△河田村新田　一高八百六拾七石四斗貳升

　内壹石四斗壹升九合

御免許地高　外高貳斗五升貳合

小以三拾貳ヶ村

　内壹ヶ村　分レ村

御藏　八ヶ村

給所　貳拾四ヶ村

枝郷　外六ヶ所

渡會郡

山神組

⊠△山神村　一高四百貳拾八石壹升

金剛證寺領　外高貳拾石

△積良村　一高貳百八拾七石八斗七升五合

△矢野村　一高六百四拾四石八斗四升

⊠△田宮寺村　一高三百拾石四斗壹升八合

田宮寺領　外高拾三石九斗六升貳合

△宮古村　一高五百八石五斗六升貳合

新田　內三拾石八斗九升貳合

廣泰寺領　外高二十三石

○野篠村　一高六百九拾四石八斗五升六合

新田　內八石三升五合

國東寺領　外高貳拾石

△蚊野村　一高千百八拾壹石八斗壹升壹合

新田　內拾七石七斗壹升壹合

△東原村　一高千五百八拾壹石九斗四升八合

新田　內三拾壹石三斗九升六合

枝郷　庄出

一高百三拾六石三斗貳升貳合　△坂井村
内三拾五石五升貳合　新田
一高五百九拾七石五斗六升五合　△長原村
内五拾五石七斗八升八合　新田
枝郷 立花
一高三百八拾五石三斗七升四合　○摩加江村
内貳拾壹石壹斗壹升六合　新田
一高四百五拾壹石三斗九升六合　○注連指村
内六石九斗貳升四合　新田
一高貳百貳拾七石六斗五升八合　○黒坂村
内拾八石九斗九升三合　新田
一高五百三拾三石貳升壹合　○田口村
内六拾六石四斗八升壹合　新田
一高五百九拾壹石八斗八合　△野中村
内七拾貳石七斗壹升九合　新田
外貳石四升　御免許地高
一高九拾八石貳斗四升四合　同村之内 ○成川村

皆新田

一高貳百三拾七石五斗六升　△森庄村

枝郷　中林

外高貳斗七升六合　御免許地高

一高貳百六拾四石八斗壹升七合　△矢田村

內七斗九升　新田

一高貳百三拾六石壹升　△田中村

一高百貳拾壹石五斗七升貳合　○東相鹿瀬村（ヒガシアフカセ）

內貳石貳斗三升六合　新田

一高七拾七石五斗三升　○西相鹿瀬村

內四石三斗八合　新田

一高百七拾三石壹斗四升壹合　○千代村（センダイ）

內拾九石壹斗壹升　新田

一高貳百三拾六石六斗八升七合　○柳原村

內拾七石九斗六升三合　新田

一高三百八拾九石九斗五升九合　○栃原村

內六拾七石九斗九升九合　新田

枝郷宮野　同大林

一高貳百七拾六石四斗六升五合　同村之内　○新田村

皆新田

一高貳百貳拾七石八斗貳升貳合　○神瀬村

內百九石五斗五升五合　新田

新田　河內

一高百四拾九石三升　○下楠村

內六拾五石七斗三升七合　新田

一高百五拾壹石三斗八升八合　○上楠村

內三拾壹石六斗三升壹合　新田

外高壹石八升　御免許地高

一高貳百三拾七石四斗八升貳合　○栗生村

內貳拾九石四斗六升四合　新田

一高百四拾九石九斗五升　○高瀬村

內六拾七石七斗四升　新田

一高百八石八斗五升七合　○奈良井村

內三拾四石三斗三升七合　新田

小以三拾壹ヶ村
内貳ヶ村　分レ村
拾八ヶ村　御藏
拾三ヶ村　所
外五ヶ所　枝郷
壹ヶ所　新田

渡會郡之内
下眞手組

一高七百九拾壹石三斗四升六合　○野原村
内八拾五石三斗七升七合　新田
一高三百五拾八石壹斗三升三合　○古里村
内九拾五石四斗　新田
枝郷　若瀬　同八ヶ野
一高八百四拾五石五斗七升壹合　○阿曾村
内百八拾壹石四斗五合　新田
新田　藤ヶ野　同瀧邊　同歩（カチ）瀬（セ）
一高四百九拾貳石七斗貳升八合　○柏野村

内貳百五拾五石三斗四升八合　新田

枝郷　垣内尻(カイトジリ)　新田　注連野(シメノ)　同　古和河内(コワカウチ)

一高三拾九石三斗三升五合　同村之内　○注連小路小屋(シメコウヂコヤ)

皆新田

一高百三石七斗七升三合　大内山之内○駒　村

内六拾三石六斗壹升五合　新田

一高百拾九石三斗三升貳合　同　○間弓(マユミ)　村

内四拾七石八斗三合　新田

枝郷　不土野(フトノ)

一高貳拾貳石六斗四升六合　間弓村之内○井良野村

一高九拾五石貳斗壹升七合　大内山之内○川口村

内六拾石貳斗三升五合　新田

枝郷　大津　同　向井

一高拾五石三升八合　同村之内　○梅ヶ谷

一高四拾壹石三斗九升壹合　大内山之内○中野　村

内八石九斗九合　新田

一高五拾九石九斗壹合　同　○米ヶ谷　村

内貳拾五石貳斗壹升六合　新田

一高四百七拾三石三斗九升七合　○崎　村

内貳百貳拾四石九斗九升貳合　新田

枝郷　下崎　同長野　同沖田　同三合ケ野　同古和河内　同横谷

一高三拾九石壹斗八升貳合　埼村之内　○笠木小屋　皆新田

一高五拾九石九斗九升貳合　同　○錦木屋　皆新田

一高三百五拾三石六斗五升七合　○野添村

内貳拾九石九斗五升貳合　新田

新田　ぬた原

一高貳百八拾六石六斗壹升四合　○金輪村

内七拾五石四斗三升七合　新田

枝郷　櫃井原

一高三百拾九石七升八合　○藤　村

内六拾八石五斗二升八合　新田

新田　板　取

一高六拾貳石壹升四合　　同村之内　○藤（小）屋（一本木）
皆新田

一高百八拾貳石四斗三升九合　　○打見村
内八拾石四斗三升貳合　　新田
枝郷　あい原

一高百八拾五石貳升壹合　　○神ノ原村
内百壹石三斗七升八合　　新田
枝郷　瀬戸

一高百四拾石　　⊠○野後（ノジリ）村
小名　里　同岩内

多氣郡之内

同　組

一高三百三拾五石八斗貳升貳合　　○川合村
内百五拾八石六斗八升七合　　新田
枝郷　荒堀　新田　小ケ所（コガショ）

一高貳百三石貳斗五升七合　　同村之内　○大ケ所村
皆新田

○三瀬川村
一高百四石九斗七升
新田
内四拾石六升

○船木村
一高百拾六石六斗八升三合
新田
内拾六石八斗九升三合

○下菅村
一高貳百六拾四石五斗九升七合
新田
内百拾四石三升貳合

川合下菅村　新田　瀧部　同　茅ケ廣

○上菅村
一高貳百六拾貳石八斗六合
新田
内百九石七斗六升五合

同村之内
○菅（小）屋　一本木
一高六拾四石五斗三升三合
新田
内四拾五石三合

○赤瀧（小）屋　一本木
一高七拾七石九斗五升五合
新田
内三拾壹石五斗三升五合

○清水村
一高百三拾五石四斗四升七合
新田
内七拾三石五斗七升四合

新田　彦

○薗村
一高百六拾貳石三斗四升六合

内四拾貳石五斗壹升五合　新田
新田古和瀬
一高百四拾八石六斗壹升三合　○茂原村
内貳拾六石五斗四升七合　新田
一高三拾石貳斗六升貳合　○平野木屋
一高八拾五石七斗五升四合　○熊内村
内拾五石九斗七升四合　新田
一高百貳拾九石五斗九升九合　○唐（カラ）櫃（ウト）村
内拾七石貳斗七升三合　新田
一高三拾八石六斗九升　○南村
内拾六石貳斗七升三合　新田
不動野
一高四拾四石四斗七升三合　○大井村
内拾三石四斗八升三合　新田
一高三拾六石貳斗壹升五合　○瀧谷村
内拾貳石八斗五升七合　新田
新田小又　同平野

一高三拾八石七斗貳升九合　○神瀧村
內三石六斗四升七合　新田
一高四石四斗壹升六合　同村之内 ○添木屋
皆新田
一高七拾石五斗九升八合　○小瀧村
內九斗七升九合　新田
一高百貳拾八石五合　○栗谷村
內五拾三石六斗三升壹合　新田
小名 下出　同 湯谷河內　同 谷河內　同 西谷河內
一高百五拾貳石四斗八升壹合　○江馬村
內拾壹石五斗六合　新田
一高百三拾四石四斗壹升八合　○天ヶ瀨村
內四拾壹石八斗壹升九合　新田
一高貳百六拾七石九斗六升五合　○小切畑村
內九拾八石五斗三升五合　新田
枝鄉 浦ヶ谷
一高貳拾八石三斗四升九合　○御棟村

内貳石五斗七升三合　新田

一高四拾九石八斗八升三合　○明（ミヤウ）豆（ヅ）村

内拾壹石七斗八合　新田

一高百貳拾八石四斗八升壹合　○上眞手村

内五拾五石八斗九升九合　新田

一高六拾壹石七升四合　小田切村上眞手村分レ村　○本田木屋

内拾七石七斗九升八合　新田

一高貳百六拾壹石四斗壹升壹合　○下眞手村

内百六拾壹石五斗四升五合　新田

小名　猿飼村　新田　道ヶ戸

一高貳百九拾石九斗七升五合　○彌（ヤ）起（ド）井（イ）村

内百四拾八石五斗七升五合　新田

枝郷　薗井

一高四百九拾四石三斗四升貳合　○佐原村

内貳百六拾九石四斗四升四合　新田

枝郷　小佐原

一高三百四拾石六斗三升九合　○上三瀨村

内百三石六斗六升壹合　新田

一高貳百九拾貳石三斗九升貳合　○下三瀨村

内七拾八石九斗三升四合　新田

一高三百三拾九石八斗八升六合　○長ヶ村

内百四拾壹石七斗八升壹合　新田

一高四拾三石六斗壹升三合　大杉谷之内　○大杉村

内貳石九斗壹升八合　新田

枝鄉　石原

外高壹斗九升三合　定古清宮社領

一高三拾七石五斗九升三合　○岩井村

内七石壹斗貳升四合　新田

枝鄉　砂（マサゴ）　同　後谷　同　細淵

一高三拾七石壹斗三升三合　○檜原村

内壹石七斗貳升　新田

枝鄉　宮ヶ平　同　三軒屋　同　古ヶ野

一高七拾壹石五斗貳合　○久豆村

内拾三石貳升九合　新田
枝郷　向原　同　新屋敷
外高四石八斗七合　定古清宮社領
小以六拾ケ村　御藏
内拾ケ村　分レ村
貳拾五ケ所　枝郷
外七ケ所　小名
拾九ケ所　新田

渡會郡之内

妙法寺組

一高千百七拾貳石壹斗壹升貳合　△長(ナカ)更(フケ)村
内四石九斗八升貳合　新田
一高三百八拾壹石七斗壹升五合　△佐田村
枝郷　三橋
外高拾石　西光寺領
高貳百三拾八石貳斗八升五合　田丸町成
高貳石貳斗　御免許高

高貳百貳拾三石四斗三升五合　久野丹波守新田直渡

一高貳百七拾石壹斗八升五合　○井倉村

内貳拾五石貳斗五升五合　新田

一高六百七拾九石五斗四升四合　△湯田村

内百拾五石八斗三升四合　新田

一高百拾石三斗　湯田村之内　○久保村

皆新田

一高貳百七拾六石九斗四升八合　△中(チウ)樂(ラク)村

内貳拾五石九斗八升八合　新田

一高三百拾九石四斗貳升六合　○妙法寺村

内五拾七石七斗三升六合　新田

一高千貳百三拾四石貳斗貳升三合　×○小(ヲ)俣(バタ)村

内貳百三石五斗七升八合　新田

枝郷　懸橋　同松倉　新田湯田野

外高三拾石壹斗九升　社領

一高五百貳拾貳石四斗八升　△岡村

一高百九拾五石五斗八升　○別所村

△上田邊村（カミタノヘ） 一高千七百七拾六石壹斗貳合
新田 内四石貳斗七升
枝郷 朝久田
☒△下田邊村 一高四百八拾六石壹斗八升貳合
新田 内貳石四斗九升貳合
田丸町成 外高百三拾三石五斗
久野丹波守新田直渡 高四石壹升八合
△吉祥寺村 一高百四拾九石五斗五升六合
新田 内三斗七升六合
△谷村 一貳百九拾三石五斗壹升六合
新田 内壹斗八升
△坂本村 一高四百貳拾三石九斗七升貳合
内五石六斗四升貳合
○門前村 一高三百貳石五斗四升四合
☒○世古村 一高八百拾七石壹升貳合
新田 内三拾貳石六斗壹升九合
○新村 一高三百六拾七石八斗八升五合

内四石五斗六合　新田

一高百拾石五斗七升四合　⌛○柏村

内三石四斗八升七合　新田

一高九拾石七斗六升四合　⌛○野依村

内拾六石五斗四升壹合　新田

一高百四拾貳石八斗四升壹合　○野村新田

皆新田

按に　伊都郡橋本村地士土屋氏舊記に、若山岡宮社領西名草田尻村之内御高貳百石分　公儀より御寄付被遊候、右之　替地は勢州田丸領之内妙法寺組之内野依村柏村兩村にて享保十四年酉八月より出候事とあり、

多氣郡之内

同　組

一高七百拾七石三斗四升六合　△笠木村

内拾九石三斗四升八合　新田

枝郷　森出

一高九百八拾七石九斗八升貳合　△土羽村

内拾七石四斗六升四合　新田

小名　出茶屋

外高壹石四斗三升九合　久野丹波守新田直渡

一高千百九拾貳石九斗壹升九合　○下(シモ)有(ウ)爾(ニ)村

内百四拾七石七斗三升壹合　新田

小名　往還筋町

外高壹石貳斗　能滿寺領

一高九拾壹石三斗九合　同村之内　○新　茶　屋

皆新田

一高四百三拾四石四斗八升八合　△蓑(ミノ)村

一高三百九拾貳石貳斗四升六合　○金剛坂村

内四拾九石壹斗七升六合　新田

枝郷　下尾

一高千百九拾三石三斗四升貳合　△上村

内三拾壹石七斗貳合　新田

一高千百貳拾六石六斗三升　△池村

内三拾四石三斗四升　新田

枝郷　西　同　大道

一高百拾四石八斗六升　○岩内村

新田
内六石四斗五升

△東池上村 新田
一高六百貳拾貳石七升貳合
内五斗七升壹合

△西池上村 新田
一高七百四拾三石五斗壹升九合
内貳石九斗四升八合

新田引高
外高四升四合

御藏
給所
小以三拾貳ケ村
内貳ケ村　分レ村
拾五ケ村
拾七ケ村

枝郷
外八ケ所

小名
貳ケ所

新田
壹ケ所

渡會郡之内
勝田組

△勝田村 新田
一高千四百六拾貳石九斗貳升八合
内三百六拾五石四斗壹升五合

新田 押野

御免許地高
外高貳石六斗

田丸町成
高百貳拾四石八斗七合

△上地村
一高千九拾壹石七斗五升
新田
内四百九拾五石七斗貳升

枝郷 中郷　同 中藥山　新田 中久保

同村分レ村 ○富岡村
一高百四石六斗五升
皆新田

△中須村
一高五百八拾七石五斗五升貳合
新田
内五斗五升貳合

枝郷 坂東

○川端村
一高九拾七石九斗三升八合
新田
内七斗四合

○柑子垣内村（カウジカイト）
一高五拾貳石六斗三升三合
新田
内拾石六斗九合

○中之郷村
一高百五拾六石七斗六升九合
新田
内貳拾六石貳斗貳升五合

枝郷 道ヶ野

○栗原村　一高百八石七斗九升貳合

新田　内拾三石九斗壹升三合

枝郷 畔地　同 西垣内　同 はなし

○日向村　一高九拾八石七斗壹升五合

新田　内三石六升九合

枝郷 小原

○大久保村　一高百三拾四石九斗貳升

新田　内貳拾三石壹斗壹升八合

枝郷 草場

△平生村　一高四百貳拾六石九斗九升五合

新田　内百三拾五石壹升七合

○立岡村　一高百六拾三石六斗四升八合

新田　内拾三石四斗八升三合

○鮠（ハエ）川（カワ）村　一高百五拾九石壹升八合

○南鮠川村　一高百拾四石五斗八升五合

○川口村　一高百六拾五石五斗貳升九合

内五拾三石五斗壹升九合　新田

枝郷 中野

一高七拾石八斗貳升八合　○當津村

内四石四斗四升壹合　新田

一高貳百六拾四石四升六合　△津村

内貳拾八石九斗六升六合　新田

一高百七拾石貳斗七升八合　△神薗村

内貳拾壹石八斗四升　新田

一高貳百五拾九石七斗四升貳合　○葛原村

内拾七石八斗五升貳合　新田

一高五百四拾三石八升四合　△大野木村

内百貳拾三石四斗七升七合　新田

枝郷 河津

一高四百五拾壹石貳斗四升七合　○棚橋村

内五拾七石七斗壹升九合　新田

一高貳百貳拾七石六斗八升四合　△牧戸村

内七拾壹石四斗九升四合　新田

○田間村
一高百六拾五石八斗貳升七合
新田
内貳石五斗七合

○上久具村
一高貳百七拾八石六斗七升九合
新田
内四拾七石壹斗貳合

枝郷 宮野

○下久具村
一高四百三拾四石三斗八升九合
新田
内五拾壹石壹斗壹升五合

枝郷 羽根　同 山川

○五ヶ町村
一高六拾四石壹升五合
新田
内九石三斗三升

○木越村
一高六拾壹石貳斗三升
新田
内八石八斗六升

○火打石村
一高四拾九石貳升八合
新田
内八石九斗七升壹合

○奥河内村
一高八拾貳石八斗六升貳合
新田
内五石七斗貳合

○駒ヶ野村
一高七拾四石五斗壹升

内拾貳石七斗　新田

枝郷 彦

一高三百八拾四石七斗九升五合　△岩出村

内貳石五斗貳升九合　新田

外高三石　若宮社領

外高拾九石九升六合　久野丹波守新田直渡

一高三百拾八石三斗四升七合　○山岡村

内六石七斗七升五合　新田

一高貳百三拾六石壹斗七升貳合　△小(ヲ)社(ゴソ)村

内七石九斗九升六合　新田

一高貳百八石四斗八升三合　△曾根村

内六石九斗貳升九合　新田

一高百拾五石七斗六升五合　○岡出村

皆新田

一高百八拾三石壹斗四升七合　△畫田村

一高貳百拾六石六斗三升七合　△中角村

内貳拾貳石七合　新田

外高五斗七升六合　　　　御免許地高

一高七百拾七石四斗九升六合　　　　△粟野村
　内六拾八石壹斗六升八合　　　　新田
一高五百拾四石六斗八升八合　　　　△上野村
　内貳拾三石五斗九升八合　　　　新田
一高四百七拾三石貳斗五升貳合　　　　×○佐八村
　内六拾六石五斗九升壹合　　　　新田
一高九拾六石九斗四升壹合　　　　○大倉村
　内七斗四升八合　　　　新田
一高貳百七拾貳石四斗九升三合　　　　○圓座村
　内九拾壹石貳斗六升　　　　新田

小以四拾貳ヶ村
　内一ヶ村　分レ村
貳拾七ヶ村　　　　御藏
拾五ヶ村　　　　給所
外拾五ヶ所　　　　枝郷
貳ヶ所　　　　新田

渡會郡之内

慥柄組

○小萩村
一高百九石壹斗七升六合
新田 内五石六斗四升六合

○柳村
一高八拾四石八斗四升九合
新田 内四石七斗八升四合

枝郷 向井

△和井野村
一高五百拾五石九斗七升三合
新田 内壹石四斗六升九合

枝郷 野谷河内

○市場村
一高九拾貳石五斗四合
新田 内貳石五斗四合

○脇出村
一高貳百七石四斗七合
新田 内九石九斗三升七合

○中村
一高三百七拾石貳斗八升三合
新田 内拾五石四斗四升三合

小名 御杣　同北垣内　同日部

○押淵村
一高百九拾八石七斗八升五合
　新田
　內貳拾貳石貳斗八升五合

枝鄉　福浦河內

○始神村
一高五拾壹石七斗三升九合
　新田
　內四石四斗四升九合

○齊田村
一高貳百四拾石六斗五升
　新田
　內七石三斗四升六合

大歳宮社領
外高貳石八升三合

○伊勢路村
一高五百四石四斗五升貳合
　新田
　內貳拾四石三斗六升九合

枝鄉　ぶた谷　同くゞり道　同五反垣內　同まめわら

○內瀨村
一高百九拾四石壹斗七升五合
　新田
　內五拾貳石七斗貳升四合

枝鄉　向井

○川上村
一高八拾八石八斗五升三合
　新田
　內七石壹斗九升三合

△船越村
一高四百八拾六石五斗六升八合

内壹石六斗四升八合　新田

外高貳石四斗五升　土宮社領

一高百六拾貳石九斗六升六合　○五ヶ所浦

内拾三石八斗六升四合　新田

外高壹石四斗七升四合　御藏番屋敷

一高三百三拾七石九斗九升四合　○五ヶ所村

一高六百貳拾七石八斗七升壹合　○切原村

内七石四斗七升壹合　新田

外高三石　飯盛寺領

一高百四拾壹石五斗八升五合　○泉村

内拾石七合　新田

一高百六拾四石八斗四升五合　○神津佐村

内拾五石七斗九升五合　新田

一高六拾七石九斗壹升壹合　○檜山村

内三石九升一合　新田

一高貳百五拾七石七斗三升壹合　○山原村

内七拾二石壹斗一合　新田

新田 夏岬

山原村之内 ○栗之木廣

一高九拾壹石六斗六升四合

皆新田

○木谷村

一高四拾八石八斗一升貳合

内九石一斗七合 新田

○下津浦村

一高六拾六石四斗三升八合

内拾八石六斗六升八合 新田

○飯(ハン)満(マ)村

一高九拾九石五斗九升貳合

内四石六斗壹升貳合 新田

○中津濱村

一高四拾四石七斗九升

内四石貳斗壹升壹合 新田

○宿(シュク)浦(ウラ)

一高百壹石貳斗四合

内拾七石三斗七升四合 新田

枝郷 竈(カマ)

○田倉浦

一高貳百四拾九石八斗五升

○迫(ハサ)間(マ)浦

一高貳百拾五石七斗八升七合

内九拾四石六斗貳升三合 新田

一高四拾六石七斗貳升四合　○相賀浦
　内九石貳斗四合　新田
　外高壹斗九升　御船屋敷成
一高四拾四石三斗九升九合　○相賀竈
　内四拾壹石貳斗四升九合　新田
一高百五拾三石六斗七合　△大江村
　内三拾貳石壹斗三升七合　新田
一高三拾貳石三斗貳升三合　○大方竈
　内貳拾九石貳斗四升八合　新田
一高三拾壹石七斗貳升壹合　○道行竈
　内貳拾八石六斗四升六合　新田
一高三拾三石壹斗六升二合　○小方竈
　内貳拾八石八斗壹升貳合　新田
一高八石九斗　○阿曾浦
一高拾七石八斗　○阿曾里
一高百七拾七石壹斗七升六合　○道方村
　内拾貳石壹斗七升六合　新田

高	村名
外高四斗七升	御藏屋敷引高
一高九拾三石五斗八升貳合	○鐙柄浦
内拾五石三斗四升貳合	新田
一高五拾貳石七斗六合	○贄浦
内拾貳石九斗五升六合	新田
一高七石五斗貳升	○奈屋浦
一高貳百八石四斗壹合	○東宮村
内貳拾九石貳斗八升八合	新田
枝郷 たなせ 新田 小納戸	
外高拾石	兩大神宮社領
一高貳百七拾石六斗五升七合	○村山村
内百四拾壹石三斗六升六合	新田
	枝郷 伊勢路
一高百貳拾九石三斗八升五合	○河内村
内七拾六石七斗五升五合	新田
外高三石	迂宮神社領
一高三拾三石壹斗三合	○神崎村

内拾六石六斗三合

一高拾石貳斗八升四合

内三石五斗三升四合

一高百六拾四石四斗九升貳合

内百貳拾九石四升九合

新田あろじ　同なごじ

一高拾石五斗八合

内七石五升六合

一高貳拾六石四斗壹升四合

内貳拾三石七斗壹升六合

一高五拾六石四斗八升壹合

内四拾九石九斗八升壹合

一高拾九石五升三合

内拾三石六斗五升三合

一高貳拾三石八升貳合

内貳石四斗三升貳合

小以五拾壹ヶ村

新田

○方座浦

新田

○古和浦

新田

○栃(トチ)ノ木(ト)竈

新田

○赤崎竈

新田

○棚橋竈

新田

○新(サラ)桑(クワ)竈

新田

○礫(サヽラ)浦

新田

内壹ヶ村　分レ村

四拾八ヶ村　御藏

三ヶ村　給所

外拾壹ヶ所　枝郷

三ヶ所　小名

四ヶ所　新田

高合七万三千七百貳拾六石八斗六升六合

内壹万八百八拾四石八升七合　新田

外高三百七石九合　寺社領

高五百壹石九升八合　萬引高

高七石貳斗貳升四合　御免許地高

高貳百四拾七石九斗八升八合　久野丹波守新田直渡

村數合貳百四十八ヶ村

内十七ヶ村　分レ村

百七拾六ヶ村　御藏

七拾貳ヶ村　給所

外七拾ヶ所　枝郷

小名 拾貳ヶ所

新田 貳拾七ヶ所

白子領

白子組

○白子寺家村 新田

一高三千九百八拾壹石五斗五升五合

內五百九拾壹石壹斗六升

新田 野町 同 野村 小名 西町 同 中町 同 東町

網年貢

外高拾四石四斗

觀音領

高四石五斗

萬引高

高三拾四石五斗五升壹合

△御薗村 新田

一高千七百八石八斗貳升三合

內拾四石九斗九升七合

社領

外高三斗貳升

○德田村 新田

一高千六百九拾壹石八斗六升

內五石四斗三升貳合

枝郷 畑 同 横地

稻生郷 西村

一高貳千貳百貳拾六石壹斗五升壹合　同　△成光村

内貳百五拾三石壹斗四升八合　同　塩屋村　新田

一高五百四拾五石壹斗四升三合　三重郡之内　○泊り村

内四拾五石五升三合　新田

小名　新出郷

一高千三百八拾七石五斗四升五合　川曲郡之内　×○北長太村

内三拾貳石四斗三升五合　新田

小名　出屋敷

小以八ヶ村

内四ヶ村　御藏

四ヶ村　給所

外貳ヶ所　枝郷

五ヶ所　小名

貳ヶ所　新田

「按に　伊都郡橋本町地士土屋氏舊記に、高野山大德院へ二百石[一本興](奥)山寺へ百石、右三百石從　公儀伊都上組之内中道村下上田村兩村にて慶安二年丑八月に御寄附被遊、右替地は勢州白子領川曲郡北長太村出候事とあり、

圓應寺組

安藝郡之内

一高千三拾貳石八斗四升四合　△久知野村
内壹石九斗六升貳合　新田
外高百石　宇治慶光院上人領
高拾貳石貳斗貳升九合　三浦長門守新田直渡
高壹石七斗壹升壹合　久野丹波守新田直渡
一高五百五石八斗七升貳合　×△越知村
内五石八斗七升貳合　新田
枝鄉 山越知　同中山
一高九百六拾三石七斗六升九合　△德居村
内貳石貳斗四升七合　新田
外高六石五斗八升九合　三浦長門守新田直渡
一高百拾壹石八斗貳升六合　△○稗田村
外高壹石　社領
一高貳百五拾三石壹斗五升八合　○中瀨古村
内八斗壹合　新田
外高壹石三斗　社領

○秋永村
一高七百八拾四石六斗五升八合
新田
内拾三石七斗七升六合

△長保寺村
一高三百四拾四石三斗六升貳合
新田
内貳石三斗四合
三浦長門守新田直渡
外高五斗一升貳合
久野丹波守新田直渡
高六斗壹升壹合

⧖△磯山村
一高八百五拾六石壹斗六升六合
新田
内六拾六石八斗三升壹合

△三行(ユキ)村
一高千五石六斗八升二合
新田
内壹石壹升九合
寺領
外高五石
久野丹波守新田直渡
高九斗九升六合

○徳田出作(トクタシュツサク)
一高貳百七石九斗貳升貳合
新田
内壹斗六升貳合

○稲生出作
一高三百拾壹石七斗五升壹合

⧖○木鎌・稗田出作
一高貳百貳拾八石七斗九升壹合
新田
内九斗六升貳合

×△三宅村　一高百六拾六石八斗三升七合
新田　内貳石四斗七升壹合

○郡山村　一高二百五拾貳石四斗四升八合
新田　内拾三石四斗貳升七合
社領　外高五石

△大別保村　一高千八百貳拾石八斗七升貳合
新田　内貳百拾四石六斗八合
枝郷　圓應寺村
寺社領　外高六石

小以拾五ヶ村
御藏　内七ヶ村
給所　八ヶ村
枝郷　外三ヶ村

平野組

×○平野村　一高四百貳拾貳石五斗五升九合
新田　内拾六石五斗五升九合
小名　三軒茶屋

✕○中瀬村　一高八拾七石貳斗壹升貳合
新田　内拾四石貳斗五升貳合

✕△高佐村　一高三百七拾八石貳斗七升壹合
新田　内八石五斗八升八合

○赤部村　一高貳百三石四斗壹升五合
新田　内六斗壹升九合

✕△大古曾村　一高四百壹石八斗五升
新田　内三石三斗九升

小名　南大古曾村　同　森川

三浦長門守新田直渡　外高壹石七斗五升

✕○濱田村　一高貳百三拾石貳斗六合

○小野田村　一高四百七拾貳石五斗九升

△野田村　一高五百貳拾八石八斗壹合
新田　内三拾六石八斗九升八合

○中別保村　一高七百貳拾八石四斗
新田　内貳百五拾壹石八斗三升六合

枝鄕　一色（イッシキ）　同　影重（カゲシゲ）

⧖△小川村　一高四百四拾九石六斗五升
新田　内貳拾石壹斗九升七合

⧖○中山村　一高貳百七拾七石八斗六升八合
新田　内三石三斗貳升壹合

寺社領　外高拾石

⧖○中野村　一高百七石四斗九升
新田　内五石九斗五升

△南黒田村　一高九百四拾壹石四斗三合
新田　内三石八升貳合

社領　外高一石

三浦長門守新田直渡　高一斗貳升貳合

○上野村　一高千三百貳拾四石六斗四升三合
新田　内百七拾石六斗八升八合

枝郷　山ノ一色　同中ノ山

寺社領　外高貳拾四石六斗五升六合

⧖○白塚村　一高六百九石九斗貳升三合
新田　内百拾八石六斗三升四合

一高九百九拾七石五斗貳升　〼△今井田端村
　內貳升　新田
　外高貳石五斗　寺領
　　高壹石六斗四升　三浦長門守新田直渡
一高貳百九拾石五斗八升壹合　〼○町屋村
　內九拾五石四斗四升　新田
　外高壹石　社領
一高貳百四拾四石七斗貳升貳合　〼○上津部田村
　內六斗貳升貳合　新田
　枝鄉峯地
一高八百貳拾八石八斗七升三合　△野崎山田井村
　內八石八斗五升三合　新田
　外高四石八斗五升　寺領
　　高三拾石七斗八升三合　久野丹波守新田直渡
　小以拾九ヶ村
　　內拾貳ヶ村　御藏
　七ヶ村　給所

外五ヶ所　枝郷

三ヶ所　小名

一志郡

小船江組

一高五百三拾三石壹斗七升八合　○天花寺村

内六石四升八合　新田

一高五百八石五斗三升九合　○一志村

内三拾九石九升九合　新田

外高貳石三斗貳升五合　寺領

一高千貳百九拾壹石壹斗九合　△小川村

内三拾三石七斗五升九合　新田

一高貳百七拾三石六升　○黑田村

内貳拾五石六斗九升四合　新田

一高貳百六拾八石九斗四升六合　△野田村

内壹斗八升貳合　新田

小名出屋敷

一高五百四拾六石九斗　○見永村

一高八百貳拾九石三斗四升　小名いやべ
　内三石貳斗三升八合　△新(ニ)屋(ヤノ)庄(シャウ)村
　新田

小名出屋敷

一高六百六拾四石七斗八升貳合　△甚(ハタ)目(メ)村
　内三石九斗七升七合　新田
外高壹石五斗壹升五合　寺領

一高百石五斗貳升壹合　⊠○雲(クモ)出(ス)村
　内七石貳斗五升五合　新田
　枝郷　嶋(シマ)貫(スキ)　小名　本郷　同　知海寺　同　長藤

一高九百五拾四石四斗四升九合　⊠○星合村
　内四百七拾四石四斗四升九合　新田
　枝郷　岡田

星合笠松村領

一高三百石　○五(ゴ)主(スシ)村
　皆新田

一高八百貳拾壹石四斗九升貳合　○笠松村

内六百貳拾五石九斗壹升貳合　新田

☒○曾原村
一高五百六拾三石七斗壹升七合
内拾五石貳斗壹升七合　新田

枝郷　田面　同　柑子垣内（カウジカイト）　小名　曾原茶屋

○中林村
一高五百六拾四石八斗五升六合
内八斗三升六合　新田

枝郷　月本

☒○須川村
一高三百拾四石八斗七升六合

○肥留（ヒル）村
一高八百貳拾九石貳斗四升八合
内七石貳斗五升二合　新田

寺領
外高九斗五升

同村分レ村
○西肥留村
一高四百拾六石貳斗七合
内貳石壹斗六升五合　新田

同
○小舟江村
一高四百八石壹斗三升九合
内拾壹石壹斗六升七合　新田

☒○小村
一高百三拾七石壹升

△中道村
一高九百三拾石貳斗九升六合

内百九拾八石六斗八升六合　新田

一高八百三拾五石五斗貳升貳合　⧖○小津村

内百六拾三石八斗三升貳合　新田

小以貳拾壹ヶ村

内三ヶ村　分レ村

拾六ヶ村　御藏

五ヶ村　給所

外五ヶ所　枝郷

七ヶ所　小名

一志郡

木(コ)造(ツクリ)組

一高四百八拾九石六斗壹升九合　⧖○庄田村

内百拾壹石貳斗八升壹合　新田

枝郷 中川原　同 入(ニウ)田(タ)　小名 沓掛

外高壹石五斗　社領

一高九百八拾貳石壹斗七升七合　△一色村

内五拾壹石六斗三升八合　新田

枝郷上垣内

寺領　外高壹石

○岡村　一高貳百九拾四石貳升三合

新田　內四斗壹升三合

寺領　外高五斗貳升

⧖○上野村　一高六百貳拾五石三斗九合

新田　內五石八斗八升壹合

枝郷 市之坂　同辻　同正住寺

○古市村　一高四百貳拾五石三斗七升七合

新田　內三拾石五斗壹升七合

⧖○南出村　一高拾貳石四升

⧖△家（イヘ）城（キ）村　一高貳百七拾九石八斗四升七合

新田　內貳拾三石五斗貳升七合

社領　外高三斗五升

⧖○二俣村　一高五拾壹石八斗九升

新田　內壹斗七升

○竹原村　一高八百貳拾石四斗壹升四合

內九拾三石五斗六升四合　新田

小名　持經（ヂキヤウ）　同瀬木　同中原　同掛之脇　同小原　同三くり　同皮田

外高貳石　社領

一高九百拾七石六斗四升貳合　⊠△川口村

內拾壹石六升貳合　新田

小名　市場　同馬場　同出湯田　同御城（ゴジヤウ）　同瀬古　同算所（サンショ）　同上野

一高千百六拾石三斗九升三合　○井生村

內百拾六石五斗三升七合　新田

枝郷　平尾

一高六百九拾四石八斗六升　○井關村

內百貳拾壹石三斗六升　新田

枝郷　東山

一高四百五拾九石九斗八升八合　○田尻村

內貳拾八石八斗三升三合　新田

一高六百六拾五石九斗三升貳合　○宮古村

內貳拾六石六斗八升貳合　新田

一高八百八拾七石五斗三升　⊠○須ケ瀬村

内八拾五石七斗三升　　新田

枝郷高橋

一高百貳拾石三斗七升　　〇川原木造村

内壹斗貳升　　新田

一高千五百四拾八石九斗三升五合　　八木造村

内八拾石壹斗壹合　　新田

外高貳石　　御免許地高

小以拾七ヶ村

内拾三ヶ村　　御藏

四ヶ村　　給所

外九ヶ所　　枝郷

拾五ヶ所　　小名

高合五万貳千五百四拾貳石三斗六升六合

内四千七百三拾三石七斗九升五合　　新田

外高百七拾七石貳斗八升六合　　寺社領

高四拾八石九斗五升壹合　　萬引高

高貳石　　御免許地高

高貳拾貳石八斗四升六合　三浦長門守新田直渡
高三拾四石壹斗壹合　久野丹波守新田直渡
村數合八拾ヶ村
內三ヶ村　分レ村
五拾貳ヶ村　御藏
貳拾八ヶ村　給所
外貳拾四ヶ所　枝郷
三拾ヶ所　小名
貳ヶ所　新田

大和國吉野郡之內

一高貳百拾貳石五斗五升　○土田村
一高貳百五拾四石九斗一升壹合　○鷲（ワシ）家（カ）村
枝郷　野見　同　文珠
外高貳石八升六合　御殿屋敷成
高壹斗五升貳合　御鷹部屋屋敷成
一高五百四拾五石四斗三升八合　○越部村
高合千拾貳石八斗九升九合

村數合三ヶ村　　御藏
外貳ヶ所　　枝郷
外高貳石貳斗三升八合　　萬引高
高合六拾貳万千三百八拾四石七升四合貳勺
外高九千貳百七拾壹石六合　　寺社領萬引高新田直渡共
總高合六拾三万六百五拾五石八升貳勺
内
御拜領
五拾五万五千石　　本田
内四千三百八拾貳石四斗六升壹合　　寺社領
三千四百四石五斗七合四勺　　萬引高
壹万六千貳百七拾六石九斗壹升　　古新田本田入増高
四百拾四石三斗壹升五合　　古新田
四万八千六百貳石貳斗壹升貳合貳勺　　新田
内七拾石六斗五升三合　　寺社領
三百八十四石三斗七升八合　　萬引高
八千四百三拾八石貳斗六升三合七勺　　田邊新宮新田

九百三拾四石六斗八升貳合七勺
内四拾石三斗一升
拾六石四斗八升七合
貳拾壹石三斗壹合
百四拾四石四斗四升三合
貳百貳拾七石九斗貳升貳合貳勺
三百六拾三石貳斗四升六合
貳百拾五石貳斗九升七合四勺
總村數合千七百貳拾六ヶ村
内五十七ヶ村 分レ村
四ヶ所 町
九百四拾四ヶ村
五 ヶ 村
壹 ヶ 村
五百四拾三ヶ村
三拾五ヶ村
八 ヶ 村
三拾七ヶ村

攏濱返リ小物成 田 畑
引 高
勢州之内御免許地高
安藤飛騨守新田直渡
水野土佐守新田直渡
三浦長門守新田直渡
久野丹波守新田直渡
朝比奈段右衛門拜領地
御 藏
御神領
長保寺領
給 所
上ケ地
明ケ知
與力知

百五拾三ヶ村　城附
外四百五ヶ所　枝郷
百九拾ヶ所　小名
五拾貳ヶ所　新田

御領分村高調書

此調書は慶應四戊辰年二月　准后新殿御造立に付村高百石に付金三歩之割を以國役金上納被　仰出候節取調書也、當時村高之總額を見るに足るべし

紀伊中納言領分

紀伊國 大和國 伊勢國 村高國役金取調申上候書付

拜領高五拾五万五千石　紀伊中納言領分

内　二万八千八百石　安藤飛騨守領分
　　三万五千石　水野大炊頭領分

全四拾八万千貳百石

紀伊國伊都郡百貳拾五ヶ村
同國　那賀郡百三拾二ヶ村
同國　名草郡八拾貳ヶ村
同國　海士郡百拾四ヶ村
同國　有田郡百三拾三ヶ村

同國　日高郡百廿六ヶ村
同國　牟婁郡貳百六拾五ヶ村
大和國吉野郡三ヶ村
伊勢國多氣郡八拾貳ヶ村
同國　渡會郡百廿九ヶ村
同國　川曲郡壹ヶ村
同國　三重郡壹ヶ村
同國　一志郡六拾五ヶ村
同國　飯高郡六拾九ヶ村
同國　飯野郡四ヶ村
同國　安藝郡三拾六ヶ村　但新田高共

一村高五五拾四万八千九百三拾石六斗六合四勺

内　譯

一村高三拾壹万四千六百四拾五石三斗七升五勺　紀伊國伊都郡等七郡大和國吉野郡共九百八拾ヶ村
内壹万七千五百六拾貳石七斗四升八合九勺四才　永荒地高無地古荒共
四万五拾三石八斗九合四勺　寺社領水主役傳馬役大工役等萬引高
九千五百六拾貳石六斗壹升一才　諸　荒
〆六万七千百七拾九石壹斗六升八合三勺五才　但貳分壹厘三毛七糸余當り

殘而　貳拾四万七千四百六拾六石貳斗貳合壹勺五才

外に　貳万六千五百四石四斗三合四勺　新田高

一村高拾八万六千三百貳拾九石壹斗八升二合五勺　伊勢國渡會郡等八郡之内三百八十七ヶ村

内貳万九千百三拾三石六斗八升四合四勺　永荒

七千九百四石六斗九升三合　寺社領水主役傳馬役諸職人萬引高

五千三百貳拾四石八斗三升六合五勺　諸荒

〆四万貳千三百六拾三石貳斗壹升三合九勺　但貳分貳厘七毛三糸余當り

殘而　拾四万三千九百六拾五石九斗六升八合六勺

外に　貳万千四百五拾壹石六斗五升　新田高

右引高　合拾万九千五百四拾貳石三斗八升貳合貳勺五才　無地高荒穢多役山崩川成水主役傳馬役大工役等總引〆

殘而新田共　四拾三万九千三百八拾八石貳斗貳升四合壹勺五才

此國役金參千貳百九拾五兩壹歩貳朱ト　永三拾六文六歩八厘余

但百石に付三歩つゝ

舊幕府より之御判物無之との事

舊幕府より御判物無之事

一明治元辰年九月十四日於東京公用人を以辨官へ左之通差出す

先般被　仰出候舊幕府より受封之判物等取調候處紀伊中納言先祖紀州へ引移候節淺野紀伊守同但馬守より請取候撿地目録二通御座候而已にて舊幕府より之判物等は無御座候間此段御屆申上

候以上

一祖公外記に曰く　清溪院様御代に長門守は御家之御知行目錄を拜見不仕納所をも不存候付坂部惣太夫を以て奉伺候處三家は天下之御分地と申品にて御目錄無之との御意にて何茂初て承知仕候或説に尾水御兩家には御判物有之候得共紀州には無之總躰尾州より茂紀州之御格式は重第一御旗七本被遣江戸御同樣之事又京都諸司代へ御用有之節紀州よりは御家老之取遣にて相濟候得共尾州よりは御直書にて御取計被遊又御家老代替之節御關所へ判鑑を遣候にも尾州よりは御老中迄被遣夫より御關所へ廻候得共紀州よりは御家老より直に關所へ被差出候是は駿河御隱居所を御相續被遊候に付帶刀事取計候例にて右之通成來候と或人話候

一常憲院様御代に　神祖之御朱印其外僅成拜領物にても持傳へ候分諸國御吟味有之書付爲差出候時紀州より二百人余差出候其内御朱印は百人不足有之候尾州よりは七人常州よりは三人差出候と中川彌次右衞門右御用に懸り其後話し

和歌山藩支配所高屆書

一明治三年三月當藩支配所高認可差出旨土木司指圖により同十五日於東京公用人より左之通認差出す

總高四拾八万石余　和歌山藩

內高四拾三万二千石余　藩

高四万八千石余　知藩事

南紀德川史卷之九十二

臣　堀内　信　編

郡制第四

紀勢石高地味物産

一伊都郡　境　大和　河内　和泉　高野領

高四万千四拾石八斗二升三合　百貳拾五箇村 上那賀共　此丁三千貳拾壹丁九反四畝余

本田畑押合壹石三斗六升壹合三勺　内　壹石五斗貳合　田　壹石三斗三合　畑

内千九百拾六石五斗三升　荒　此丁百六拾壹丁九反

土地上田多し畑少し麥米兩作仕實入能御納所吉（一本田）（山）方之在々多し山多柴芝苅場相應に成耕作之勝手也菓類茶紙木少々有川舟上下仕田畑水損も少し池水にて耕作仕候に付水不足にて旱損之所年に寄有之家居人數上品百姓心立風俗上方百姓内力は中分

米　上品　木綿　上所多作　麥作　中　粟　稗　黍　大豆　小豆　蕎麥　芋　菜　大根　山中多し

漆　密柑　少々　烟草　多作　蒟蒻玉　柿　多　栢　素麪　浮織木綿　松茸　少々　粉川　團扇

同　鑄物　毛綿　紀の川鮎鮨

一那賀郡　境　泉州　高野領

高五萬四千九百五拾四石四斗八升九合　百三拾五箇村　此丁三千五百貳拾三丁四反三畝

本田畑押合　壹石五斗貳升七合　内 壹石六斗貳升六合 田 壹石壹斗六升四才 畑
内三千三百七拾五石　荒　此丁貳百六拾五町七反余
土地勝て田畑能田多畑少麥作米作實のり至て宜御納所も吉山方有之も少々有耕作勝て能紀伊川舟の往來有川より北南山手は池水にて致故年に寄旱損有之近年は大川井水を請候井溝は普請にて出來故旱損も少く養水懸り候田地に旱損無之家居人柄百姓之心立能内力宜方
米 上所　木綿 上所多作　麥作 中之上　粟　黍　稗　小豆　大豆　蕎麥　菜　大根 少々
牛房 神通 中畑 今畑 押川　此四箇村多作　密柑 少々　柿 少々　菓類　紀の川鮎　毛綿 多織出

一名草郡 境泉州 高野領
高四万九千七拾七石九斗四升六合 八拾六箇村　此町
本田畑押合　壹石五斗三升七合三勺　内 壹石六斗壹升三合 田 壹石三斗八升九合 畑
内千貳百七拾七石九斗　荒　此丁百七町八反七畝
土地上田多し畑少米麥兩作實り中分御納方中分先年は作物宜方納方も能候處二三拾年以來作物實り不勝候て納方も劣る山方在々少柴草苅場も勝手惡く川舟着場少歩行道多田地は大方大川水にて耕作致故旱水の損少し尤山手は旱損少々有家居人柄大方能總て心立は不宜所々多し
米　木綿　麥作 少々　粟　黍　稗　大豆　小豆　蕎麥　大根 多作　染藍 少　松茸 少々
楊梅　毛綿 多織出

一海士郡 境和泉

高四萬九千七百六拾貳石八斗五升五合 百拾八箇村　此丁三千四百六拾七丁壹反余

本田畑押合　壹石四斗三升五合余　内 壹石五斗九升余 田 壹石貳斗八升八合 畑

内貳千七百九拾九石九斗九升　荒　此町貳百六拾七町八反八畝

御城下近畑多し田少地性宜作物も能田地實り中分但畑多に付御納方は中分百姓家居人柄能心立は不宜浦方幷漁稼山稼も多し總て百姓内力も宜し田地は池水と大川水又は小谷川水の懸り有之所は旱水損失無之是も山手池水にて耕作之所は旱損も少々有

米 中　木綿 上所多作　麥作 上々　粟　黍　稗　大豆　小豆　蕎麥　芋　ざらじ物 多作

大根 上大作　染藍　菜種　蜜柑　楊梅　松茸　槐 黑江村　薪　若和布 加太村　鯷子 全村

ひじき 大川村　鰈 和歌浦　蛤 松江　素麵 小雑賀　眞綿 加茂谷少々　毛綿 嶋少々　綛糸 少々

一有田郡 境高野領

高四万貳千九百三拾五石五斗四合 百三拾七箇村　此丁三千四百九拾丁六反貳畝

外五拾六石三斗三升六合 御殿跡寺社引

本田畑押合　壹石貳斗三升　内 壹石四斗五升五合 田 七斗七升 畑

内三千三百貳拾八石余　荒　此町三百五町三反余

土地上所下所品々入交り大様中分田多畑少麥米實り能御納方能山中在々多し山稼有里方柴草苅場大分相應蜜柑大分江戸廻し其外菓類も有茶紙木多浦方は漁事少々浦方山も有海山共稼有是も有田川筋水を請候田地は旱損少し山中筋にては旱損も有家居人柄宜心立も大方能

米 中の上　木綿 少々　麥作 中　粟　黍　稗　大豆　小豆　蕎麥　芋　菜　大根 山中
密柑 上　陳皮 名物　靑皮　金柑　九年母　漆　紙木　茶　柿　串柿　炭 山中　切木 山中
鮎　木挽 少　木地挽 少　小材木 少　椎茸 少　保田紙　宮崎粉 名物　宮崎海苔　蔦
蕨 山中　ぜんまい 上　海魚あり　鮑取 矢びつ浦　嶋毛綿 多　綛糸 多　網すき 廣湯淺にあり

一日高郡　境大和　高野領

高二萬八千七百拾壹石七斗七升五合 百七拾箇村　此町二千三百九拾壹丁貳反
本田畑押合　壹石壹斗四升壹合　内 壹石貳斗七升四合 田　七斗五升六合 畑
内千六百九拾六石四斗　荒　此町百九拾八町六反
土地上所下所品々にて大樣中分より劣る田多畑少し麥米兩作實り中分より劣る山中方の在々多し山稼致尤茶紙木少く里方は山少く柴草苅取場少し川舟上下田地は大方小河之井水又は池水にて養所は旱損なし山中所により旱損少々有家居人柄中分心立宜方
米 上々　木綿 里方少々有り　麥作 下　粟　稗　黍　大豆　小豆　蕎麥　芋　菜　大根 山中
茶 多山中　紙木 少　麻 少　漆 少　炭切木 山中多　材木 少々　椎茸 少々　木地挽 少
串柿 少　蔦　蕨　ぜんまい　麻布 少々名物　眞綿 少　綛糸 多仕出す　温泉 壹箇所龍神
鮑 三尾浦 田邊あま　うるめ鰯 仝所名物

一室郡口熊野　境大和

高壹万八千七百四拾貳石貳斗六升七合 百六拾壹箇村　此町千七百七拾七町壹反九畝五分

本田畑押合　九斗七升七合八勺　　内 壹石貳斗四升余 田 六斗八升六勺余 畑

内千貳百四拾七石三斗余　荒　　此町貳百貳拾壹町六反

外に　高四千九百四拾九石五斗八升九合 田邊上け地 十三箇村　此町四百拾五町六反七畝拾三分

本田畑押合　壹石壹斗八升九合　　内 壹石貳斗八升三合 田 九斗貳升六合 畑

内四百三石貳斗七升　荒　　此町三拾九町貳反

右郡内安藤帶刀殿水野土佐守殿知行所田邊新宮附之在々右兩人支配に付樣子難知土地悪大様田畑半分つゝ水田多故麦作少山中は先年材木切木多し段々切遣ひ只今はやせ山稼少し浦方海山之稼致候儀不宜夫故御納所方不宜未進も出來致候田地大川小川小谷川之水にて耕作致旱損水損なし池水にて耕作之所纔ならてはなし田畑不相應に人數多し家居人柄宜しく百姓心立も宜し

木綿 不作　麦作 下々　麦田 少　粟　黍　稗　大豆　小豆　蕎麦　芋 多作　萊　大根 不出來

茶 多し　漆　材木　炭　切木 多　船道具　船板 多　屋根木 多　樫鑓柄　諸道具柄 山中多

木挽 安毛川多　杣人 多し名物　蜜 多し名物　椎茸 名物　石灰 少々　鯨　鰹節 名物　かます

さいら　からすみ 少々　鮎 古座川筋難出村有　葛 少々　蕨 少々　温泉 貳箇所湯崎 古座川　那智紙 名物

ふのり 多下田原村　青海苔 古座

一奥熊野　境大和 伊勢

高壹万六千四百五拾五石四斗八升貳合 百箇村　此町千三百四拾九丁六反余

本田畑押合　壹石貳斗三升九合　　内 壹石三斗五升九合 田 九斗八升九合 畑

内貮千九百八拾三石八升余　荒　此町貮百五拾六丁余

外に　高八千百八石壹斗九升九合 新宮上け地明け知貮拾五箇村　此町七百三町七反五畝

本田畑押合　壹石壹斗五升　内 壹石貮斗貮升六合 田 八斗六升五合 畑

内五百拾六石貮斗余　荒　此町五拾九町五反余

土地田畑作物浦方山共に所柄口熊野と大形同様先年は口熊野之通悪敷有之所近年余程様子能成家居人柄百姓共の心立も宜方山々も今に瘠せ不申山稼も多浦々漁稼は近年不宜

米 下品　木綿 不作　麦作 下々　麦田 少　粟　黍　稗　大豆　小豆　蕎麦　芋 多　菜

大根 出来悪し　漆　茶　材木 少々　銅山 所々　樫柄類　船道具 少　炭切木 多　紙子 新宮花井名物

福井筵 長島名物　鯨　鰹節 名物　かます細魚 本宮　鯇漁　するめ　からすみ　鮎　紙漉出す 本宮

火打 新宮名物　赤羽石 火打石也名物　湧湯 三ヶ所本宮川井二河

一勢州田丸　境公領　鳥羽　津　神戸

高六万貮千拾三石六斗壹升 多氣渡會兩郡貮百三十七箇村　此町

本田畑押合　壹石貮斗七合三勺　内 壹石三斗壹升八合 田 壹石壹合九勺九才 畑

内貮千九百九拾石七斗余　荒　此町百六拾六町三反余

土地中分凡半分は山中之在々畑多作物實り大形能御納方中分山方稼は茶紙木其外少々有之百姓内力も中分浦方漁稼も少々有里方は大形水田にて土地も悪敷作物實りも悪し御納方不宜外に稼も無之百姓内力弱し山中方は山多柴草多し里方は山無之柴草苅場無之薪并田地之肥不自由山中は小川

の水にて耕作里方は大方水田故少つゝ之川水池水を取候故旱損水損共なし
米 中所 木綿 不作 麥作 麥田は山中里方は少斗 粟 黍 稗 大豆 小豆 蕎麥 芋 山中 菜 大根 悪し
茶 多 紙木 多 材木 多 炭切木 多 椎茸 多 鮎 菅笠 網笠 廻間浦 串海鼠幷腸 海魚

一勢州松坂 境公領 津 久居 大和 飯高 一志 飯野三郡
高七万四百七拾三石九斗五升六合 百四拾八箇村 此町
本田畑押合 壹石貳斗五升三合八勺 内 壹石貳斗七升七合 田 壹石壹斗七合五勺 畑
内七千三百四拾八石九斗余 荒 此町三百八拾三町五反余
土地田畑山中方は田丸領と大様同斷にて三分壹程は山中なり小川水にて耕作里方は大方水田にて池水川水を少々取耕作致候付旱水の損少し作物實り田丸より能き方にて御納方よく百姓の内力もよし浦方少々漁稼も少し水田多き故麥作は少し川俣谷五千石余皆山中にて作物あしゝ茶紙木の稼扨御往來御道筋に付先年より御年貢御用捨御納入之分量有之家居人柄心立宜山中之在々柴草苅場多里方山無之柴草苅場無之故薪幷田畑之肥不自由也
米 中所 木綿 少不宜 麥作 山中は麥田有里方は少 粟 黍 稗 大豆 小豆 蕎麥 芋 山中 菜
大根 悪し 日野菜 名物 茶 多 紙木 少々 芋莖 川俣谷 水銀 丹生より出 干瓢 少 浦方小漁
眞綿 少 菅笠 編笠 深野紙 名物

一同白子 境公領 津 久居 亀山 桑名 神戸 一志郡
高四万七千八百貳石三斗八升七合

本田畑押合　壹石貳斗九升五合余　内 壹石三斗八升 田 壹石貳斗二合 畑

內三千六百八拾四石貳斗余　荒　此町貳百七拾町七反余

土地松坂と同斷五分一程は山中なり但三領にては白子宜候故御納方中分百姓家居人柄心立內力迄中分水田多故麥作少浦方少漁稼も山中方は小河水にて耕作里方は水田多故旱水の損少し尤川水池水を取耕作は山方は山多し柴草苅場有之里方は山少し柴草苅場少く肥も不自由也

米 中所　木綿 少不宜　麥作 但山中は麥田多し里方は麥田少し　粟　稗　黍　大豆　小豆　蕎麥　芋 山中　菜

大根 悪　浦方 小漁　紺屋形 名物　上毛綿 多織出す

一新田　貳万貳千石余　口六郡　內六千八百五拾石余　御藏　六百八十九箇村

一新畑　原本欠

一塩高二千三百四拾石余　海士郡之内

地性之大概

一紀州在々は田畑土地眞土にて地のかわきも能諸物之種生立宜く麥米兩作仕候尤所々に少々宛片毛作地も有之候但伊都那賀名草海士有田右五郡は別て土地宜敷御座候尤間には地性劣り候所々も御座候日高郡は地性一等劣り兩熊野は日高郡より又一等地性悪敷有之由諸郡共川々山野迄石多池川御普請にも石を丈夫に遣ひ御普請致能候由

一勢州御領分三領共里方在々は土地不宜黒ぶく勝にて諸物之種により生立不申者多く大方片毛作地にて御座候里方川々も砂川にて石無之御普請等も慥には難仕立御座候三領共山中在々は土地も大

形貟土にて紀州山中之在々と大様同斷にて兩作にて御座候由山中在々は石岩も有之御普請致し安く御座候

紀州田畑位附　在方覺

但位附を斗代共盛付共申候

一田方　壹反

上々壹石九斗　十九位（一反高一石九斗を云）　上壹石八斗　十八　中壹石七斗　十七

下壹石四斗　十四（地方誌には一石三斗とあり）　下々壹石　十　屋敷壹石五斗

見付（見付は下々より劣候田之分見斗に高を付申由に御座候）

一畑方　壹反

上々壹石八斗　十八　上壹石七斗　中壹石六斗（地方誌には壹石五斗）

下壹石壹斗（地方誌には壹石貳斗）　下々七斗（地方誌には九斗）　見附

伊都那賀名草海士有田此五郡は高之位附大様右之通御座候日高郡は田方之上々壹石八斗五升畑方上々壹石七斗是に准し何も壹斗貳斗宛も劣申候又熊野には上々は無之田方之上壹石六斗同壹石五斗壹石四斗も有之田畑共位附一同に無之勿論段々之位附共に日高郡とは壹斗貳升三合も劣り申候

勢州田畑位附

一田方　壹反

上壹石五斗　中壹石三斗　下壹石壹斗

下々　下々は見計に高を附候由に御座候　　屋敷壹石貳斗

一畑方　壹反

上壹石貳斗　　中壹石　　下八斗　　下々

越部土田村田畑位附

但鷲家村は右に有之通八年以前地詰申付斗代附替申候

一田方　壹反

上壹石五斗六升　　中壹石四斗　　下壹石三斗　　屋敷壹石三斗

一畑方　壹反

上壹石三斗　　中壹石壹斗　　下九斗

一紀州勢州之内地詰願候所々は近年地詰申付斗代付之仕方も直し申候紀州古撿地田畑之位付上々上中此三段は壹斗宛劣り中より下又下より下々は三斗四斗程も劣申候勢州は上中下何れも貳斗程つゝ劣り申候右多く劣り候位付之仕方色々致吟味候得共不相分土地にも不相當趣に付紀州古撿之上々上中壹斗つゝ劣り候格を以近年の地詰は何も壹斗劣り左之通斗代付申候

田方　壹反

上々壹石九斗　　上壹石八斗　　上下壹石七斗

中上壹石六斗　　中壹石五斗　　中下壹石四斗

下上壹石三斗　　下壹石貳斗　　下々壹石壹斗

見附 但見計に高な付申候　　屋敷壹石五斗

畑方　壹反

位付田方に準

勢州は勿論紀州之内も其村の古撿上々は無之上より下にて候得は地詰にも上々は付不申上より付出し申候何れも此積にて其村古撿の位付より高くは付出し不申候

新田畑高位付

一勢州三領兩熊野は新田畑先年より段々改之通にて御座候紀州口六郡は近年一同に改替斗代付替申候

勢州 上田壹石三四斗より下段々劣り 上畑壹石貳三斗より下段々劣り　　兩熊野 上田壹石三四斗より下段々劣り 上畑壹石壹貳斗より下段々劣り

一紀州口六郡近年改替之位付

田方 壹反上を一石六斗に付夫々段々壹斗劣りに付申候屋敷は壹石貳斗

畑方 壹反上を壹石五斗に付夫より右同斷　　以上在方覺

茶桑楮漆高

一古撿地筋を本高と申候是は田方畑方屋敷高幷に楮漆茶桑之高にて御座候右楮漆茶桑の高は本計之小物成高共申候て村高へ結ひ田畑同斷の免を請貳分米糠藁壹分三厘等之役米をも納申候尤撿地の積り方は左に有之通夫々の束數斤目等を見積り高を付候由御座候

楮壹束　　高貳升

漆百目　　　高六斗五升程
茶壹斤　　　高六升より壹斗まて郡々所々不同
桑壹束　　　高貳升

右四品は畦岸等に有之を撿地之節見計高を付候と相見え其以後新規に右之四品植付出來候ても高は附不來候夫故右之品株絶一切無之所も高を引不申勿論荒にも仕不來候

塩濱

一海士郡紀三井寺三嶋中島小雜賀和歌方村右六箇村之塩濱は上け濱と申候て砂を薛潮を打干立濱に土井と申候て汐をたれ候所有之に付右之砂を寄右之たれつぼへ入潮を汲かけ濱にて潮を取り家々へ持歸鍋にて塩を燒き申候

一右塩濱撿地は田畑之撿地と同斷に御座候古來之高付は上々濱一反に付拾九石より下段々有之候近年口六郡新田改直之節塩濱をも一所に直候處古撿より反畝廣候て過分に塩高増候百姓共迷惑可仕樣子に付上々濱壹反之高五石夫より下段々壹斗劣に塩高を付申候右之通にても塩高千石程増申候

一塩は年中燒出候積に付御年貢塩も年中取立申候上け濱の塩は極上之塩故御臺所御用に遣ひ其餘は月々入札にて拂立申候

一同郡日方舟尾藤白名高右四箇浦釣釜濱と申候て上け濱とは違ひ濱の砂へ潮をしませたれ壺と申候て小きたれ壺有之に付上け濱と同意に潮を汲かけたれ候て釜屋と申塩燒所へ右之塩を取入段々に溜置釣釜と申候て土石にて拵候大成釜にて塩燒立申候

一御年貢は壹反塩五石宛に極壹石五匁つゝ之定直段にて銀納に仕來申候釣釜塩は不宜候付御臺所入には不仕候

但右塩高五石盛壹石五匁つゝ之直段は先年釣釜濱出來之節濱主共願に付右之通に相極今以替儀無御座候

一右釣釜濱の内日方名高藤白船尾釣釜濱は十年以前亥の津浪にて不殘破損の處日方船尾藤白三箇村之内にて少々塩濱出來塩焼申候其外は今に普請不仕候

一和歌村に十年以前地震以后釣釜濱出來之處近年潮付惡敷成段々上濱に仕直し塩焼申候此場は雲蓋院支配之地故御年貢は雲蓋院へ納筈に御座候

一西濱村領小浦に先年より釣釜濱有之塩焼申候此釣釜濱は紀三井寺三葛邊上け濱之通土地相應之塩高付有之年々相應之直段に銀納に仕候

按に紀伊續風土記に曰く、名草郡三葛村塩田は村の西雑賀川の東の岸にあり方十二三町許、當村塩を製する事其初詳ならす、田所氏所藏文明七年三葛塩年貢沙汰狀あり、鹵田の撿地は寶永年中定むといふ、浅野氏の時毎月六度塩を紀の川に積上せ、伊都郡相賀莊古佐田村橋本町にて市をなす、南龍公の時より月に十二度積上せ市をなす事の免許あり、(今川上船と稱するは此時塩を積上する爲に製する船なりといふ)と云々、

又大橋忠右衛門永俊の家譜を按するに、祖先より代々名草郡冬野村之郷士にて、忠右衛門永俊は正保四亥年より元祿七戌年迄の內前後三十八年冬野村大庄屋を勤め、寬文九酉年紀三井寺村領入海洲崎三箇所被下置自分物入にて普請仕塩濱に取立、延寶三卯年同四辰年天和二戌年三度に御撿地請御高百七石三斗七升開起仕候、當時之紀三井寺村洲崎塩濱最初にて御座候とあり、則近世御勘定組頭勤たる大橋忠右衛門之家也、

寺社御寄附高

一在々寺社之内御高御寄附之所々御座候右之御高は諸士知行抔とは違ひ御寄附高程其村高を引諸帳面にも外書に仕候右之通に付御年貢は勿論二分米糠藁郷役米も全御寄附にて御座候

一和歌御宮領幷御寺方への御寄附高も諸士知行とは違ひ元高にて御寄附夫故二分米糠藁代米幷山林竹木共に全く御寄附にて御座候

但し郷役米は御藏へ納池川御普請は外在々と同意に御普請仕候

田畑撿地

一紀州在々文祿年中諸國一同に撿地之處慶長年中淺野紀伊守殿撿地改替有之高増候由に有之候へ共増高之員數は相知不申候

一勢州御領分之內には文祿年中之檢地も有之其以后城主領主度々入替之節新撿地も有之一同に無之所も甲乙有之由

撿地は永祿年中に諸國一統に改候事然共壹反は矢張三百坪之由也當國は淺野家之時代慶長年中新撿地に改候由也又勢州御領分は先主古田織部正殿之時代より仕來之由也

淺野紀伊守幸長は慶長六年丑三月廿四日和歌山之城へ始て引移其後奉行石黑半兵衞を以て國中改候由也夫より十九年目元和五未八月　南龍院樣駿河より御入國以來其儘に被爲在候之御事也

右御撿地譯諸納方規鏁帳に載す以下朱書「」の分は同書なり

一撿地之事

大橋忠右衞門家譜に曰く先祖大橋江見行友名草郡冬野村に居住鄉士名家八人に相分在家被官

等召仕罷在所持之田畠を行友號名田代々所持仕候

鎌倉將軍時代

正應六年注進紀伊國和太庄實撿帳

元應二年申八月八日注進紀伊國和太庄四箇鄕中分一方帳

足利將軍之時

應永七年辰正月注進紀伊國和太庄四箇鄕領家田畠數目錄

同年注進紀伊國名草郡和太庄東方兼行田畠數目錄

同十三年十二月六日注進紀伊國名草郡和太庄兼行田畠數目錄

享德二年注進紀伊國名草郡和太庄領家并兼行四箇鄕内撿帳

右之通行友號名田代々所持之處應仁之比より相亂其後守護にて冬野村に罷在候

右之如くにて古文書面難解處あり、蓋し注進とは撿地之節田畠之目錄を注進上達せしならん、

一和州越部土田二箇村は文祿年中之撿地鷲家村も同斷之處田畠撿地不陸に付八年以前丑年地詰申付其以後は新撿地を用申候

但文祿年中之撿地は三百六拾歩壹反其以後之撿地は三百歩一反と申由に御座候へ共文祿之撿地も五間六拾間三百歩一反と極候由に御座候

田畑撿地帳 在方覺

一紀州勢州共に御領地之本高は古撿地帳村々に有之候又水帳御藏にも一通り納り御座候品に寄り撿

地幷地詰仕候へは新撿地帳を渡し古帳は取上申上候

撿地と申候はたとへは高千石之村斗代壹石之處は町數百町有之處撿地を入反畝減或は斗代下り新撿地高九百石に成候へは減高百石村高の內を引殘る九百石を村高に相極御年貢諸役米右之殘高へ懸申候に付全御高百石減申候勿論高增候へは村高へ加へ申候

但近年撿地仕候儀無御座候先年は百姓願に付撿地申付候も有之又は訴人等有之撿地申付右之通高增候は村高へ加へ高減候は御高を引申候

一地詰と申候は改樣は撿地と同斷に仕候て高減候ても村高は引不申減高の分村高之內之荒高に仕御年貢は納不申候へ共諸役米は古高之通に納申候勿論高增候へ共村高を增申候

一安藤帶刀水野對馬守三浦遠江守久野備後守知行所地詰有之高增候へは銘々の增高に成申候其外之御年寄共知行所增高有之候ても御藏入に成申候減高は荒に成申候諸士知行所も同斷に御座候

但帶刀對馬守知行所にては高增候へは知行高へ增申候遠江守備後守知行所增高は兩人支配にて候へ共知行高へは增不申候

名寄帳免割帳

一名寄帳と申候て其村撿地帳を以て百姓壹人分宛所持之田畑地株を書扱壹人分宛之高を合村中總百姓之株々帳面に仕立村中之百姓共不殘判形仕置田畑本銀返し又は賣買或は子供兄弟にわけ讓候分名替り等迄時々村庄屋へ斷右之帳面に張紙にて入替之品を直し右はり紙仕候所へは大庄屋之判を取置候法にて御座候免割帳と申候は右名寄帳を以壹人分宛之田畑高を毎年書出し候節免の取米へ

二夫米差口糠藁郷役米等を加へ是を割付銘々之持高へ懸候て壹人分宛之御年貢高を極總百姓判形仕候上納所仕候　此外に小入用割も掛る也

但二夫米は納米を賣立或は銀にて取立郡奉行支配にて納申候御藏入之村々畑銀は御代官取立納申候

免

一免之儀高百石の所は米も凡百石出來候積にて右の米百石をば四分六分と分四拾石は百姓の作德に仕六拾石は御年貢に納申候六拾石は免に見て六つ也

但秋作出來様善悪有之に付毎年御代官郡奉行立合にて毛見に出其年立毛相應之見立致免を極候

「是を四民六公とは云ふなり」

右之通秋作に四分は百姓作德分と致候へ共左之品々四分之内より納候

一箇年分
銀高合五百九拾貫八百目余内　三百七十七〆六百目余　紀州
貳百十三〆四百目余　勢州

貳分米　里役

一役高百石に付米貳石宛　但新田よりは不納

糠藁　里役

一右同斷に付壹斗九升宛　但右同斷　糠五石代　米壹斗　石に付貳升つゝ
藁十八束代　同九升　束に付五合つゝ

差米

一御年貢米百石に付貳石五斗つゝ　但百石は貳百五拾俵

口米

一御年貢米百石に付　紀州は貳石 勢州は三石　つゝ納

郷役米

一高五千八百五拾貳石　内　三千五百八拾石　紀州　貳千二百七拾石　勢州

田畑免違

紀州在々は田免畑免別々に極候畑は撿地の高付ひきく候上總躰の畑免は田免よりはひきく御座候此品は畑には雜穀を作り候に付稻作とは格別劣り候故にて御座候但畑へも木綿を植候所々其外御城下近邊なとにて菜大根之類を作り候所々は直段積り宜きに付所により田方の免より畑免高き程の所も御座候

但紀州分畑方御年貢に米をも納め又は大豆壹石を米九斗之積大豆をも納候由之處慶安三寅年より御藏入之村々は毎年霜月米直段を極て銀納す又諸士知行所は米納に成候由

「一畑方御年貢之納樣は元畑年貢には皆大豆を納又大豆壹石之代りには直段に不構して米九斗つゝ納來候處慶安三寅年より御藏所の村々よりは毎年十一月の二日に云々」

勢州は撿地之高付は右に有之通畑方之高低く候處免は田畑一所之免にて御座候

但勢州は御藏入諸士知行所共に不殘米納にて畑方銀納無御座候

毛見幷作物之大概

秋作物出來前在々より毛見指出帳面を御代官郡奉行へ差出右帳面を以て毛見仕免を極申候作物之

出來甲乙有之年は小毛見と申候て御代官の手代大庄屋或は村々庄屋之内心得候者共を甲乙有之村へ遣し百姓銘々の田地作物を積り立小百姓前御年貢大概不陸無之樣にならさせ申候
前々は小毛見と申候て村中作物平し候處近年株小毛見と申候て願の者立毛計壹人分切に積り立御年貢不足程捨申候不願者は午年立毛の積に付見積無之候此仕方は在々被　仰渡帳に有之
一秋作物之内毛見積立六分通御年貢に納四分通は百姓作德に積申候右作德の內にて二人米糠藁差口米鄉役米種借之利米を納其外は諸色之小入用農具等之入用に仕符殘所は百姓渡世之入用に成申候
一田には稻を作り米にて御年貢納畑には大豆を作り大豆を御年貢に納申儀根元之法にて御座候へ共百姓之勝手次第にて田にも木綿大豆其外の畑作物を作り賣拂其代を以米を買調御年貢に納申候畑にも品々の作物を作り立賣拂御藏所は銀納諸士知行所は米を調納申候
但毛見の節も田畑米の外之作物をも夫々直段積を以て米に積立免を極申候
一冬より夏の始迄麥菜種瓜茄子唐大豆其外品々之をぞふ（本のまゝ）しもの作立百姓給物に仕或賣拂渡世之入用に仕候
一稻綿作は旱年の方能御座候麥作も照の方先は宜く候へ共雨繁候ても稻綿程の痛には成不申由
一秋之大風は稻木綿作に强當り申候然共時節により痛の輕重多候稻之穗見え不申前方は痛少御座候花盛別て痛强御座候尤早稻中晚稻段々有之に付七八月之大風痛に不成儀は無御座候木綿も大樣右同斷之趣に相聞候
一山中は勿論毛見の費有之或稻作早く出來麥作早く仕付候所々定免何程に受申度と願出候へは前々

の免の様子吟味之上大様中年の免に百姓共心得の上相極五年十年切之定免に申付候右之通の定免は凶年豊年の構なく御年貢納所仕候又定免之内凶年には毛見を受申度と願候所々は前々免の内凶年之免を引除け中年豊年の免の恰好を見合右同斷に定免に申付定免の内凶年有之願出候へは毛見を仕其年立毛相應の免に申付候

當毛荒永荒幷荒起

一本田新田畑屋敷之内川成山入等にて荒之内當分荒候分は當毛荒と申候て荒候年計御年貢納不申候普請大造に有之又は田畑に難仕立分を永荒と申候て年々御年貢を納不申候尤二夫米糠藁壹分三厘等の役米は荒高にも納申候

一荒起は右之永荒之場模様替田畑に成候所は百姓普請仕立毛を付其年より御年貢納申候普請大造成分を鍬先と申候て普請仕立毛を付候以後無年貢之年賦を極遣し普請入用相應に無年貢之年數を免し普請爲致候

但永荒高分之諸役米元の地主納候へは荒場にても元地主所持にて其所之草柴も外へは苅せ不申荒起の儀も其者勝手次第に御座候荒場を村へ出し候へは村中より役米を納荒場村中の支配にて荒起し候儀も村中之支配にて御座候

畑返

一畑返りは畑を普請仕田に仕立申儀にて御座候田になり稲作を仕付候年より田方の免を受申候其内田に仕普請大造に有之或用水を取候儀に付普請有之入用多候へは其積りを以五年七年の間は其儘

畑免にて差置追て田免を受させ申候
新井新地等の御普請にて用水出來畑返り仕儀先年は其畑撿地仕置田高に附替或は撿地不仕畑之位付を田高之位付に附替其上にて田免受させ候も有之由近年は高之位付は其儘畑之位付にて差置免斗田免を受させ申候

田返

一田返りと申候は田を畑に仕候儀にて御座候田は御年貢多く畑は御年貢輕き積りに付前々田返りの願一切不申付候處高は田高を受有之候へ共中古用水絶候所の畑作物を仕付百姓損失仕分畑御年貢申付候

新田

一在々山野海川端之空地領分切村々の支配に付其村之百姓右之場を新田に仕度と存者は村へ相對の上自分に普請仕新田に仕立申候百姓自分所持之山林等は其者勝手次第に新田にも仕候右新田出來之年より爲鍬先紀州は三年無年貢勢州は五年無年貢右鍬先之年數相濟候年撿地仕其年より御年貢納申候

和州越部土田鷲家村大概之趣

一右三箇村
南龍院樣御入國之砌御願被爲遊御領分へ入申候江戸御往來之節之御用相勤申候付御年貢にも御用捨有之趣にて先年より定免にて御座候

一三箇村共免に田畑之分り無之畑方御年貢も米納之積にて御年貢之分翌年六月直段相極其極月に銀納に仕候

一宗門改諸色之御觸伊都郡と同斷に伊都郡奉行申付候

一郷役米は納不申候へ共池川御普請は郷役方より仕候尤道橋御普請之御入用は本斗御勘定に相立申候

但鷲家村川除小破之分は百姓繕來格別之大破之節は郷役御普請申付候

一傳馬所故馬代金外傳馬所之通に借渡候

一火事之節被下物御借金等右同斷

一御制木無之四木にても百姓自由に仕候

一諸色之在入用組郡割と申儀無之一村切に相勤申候

（伊都郡橋本地士土屋氏舊記に、和州三箇村御領地に相成候節御替地は勢州白子領三重郡の内堀村と鈴鹿郡之内和田村と右二箇村元和五未年より御上け被遊候由なりとあり。）

田邊新宮上け知并新宮明知

一田邊新宮下の内上け知并新宮下明知と申候て御藏入御座候上け知の儀は七十一年以前免四つ三分四つ五分にて今高割出之節田邊新宮下之分四つ三分割にて今高出來之內帶刀對馬守知行高を引殘候分上け知と名付御藏入に成申候新宮下明知は與力之內跡目絶候者の知行上り候由に御座候免極之儀田邊上け知は口熊野郡奉行と田邊上け知之代官毛見仕免極申候新宮下上け知明知は奥熊野郡

田邊新宮上け知新宮明地

奉行と上け知明知之代官右同斷に免極右代官共御藏へ納所仕候幷鄕役米は御藏へ納池川御普請之
分郡奉行支配仕申付候
　但右上け知明知之代官は帶刀對馬守家來之内を右兩人申付候代官料は其年々之口米を被下候此
　內にて手代をも抱申候
一右上け知明知共在々の仕置山林竹木之支配は田邊新宮役人申付候畢竟御年貢を鄕役米御普請此兩
様御藏より申付候
一嘉永六丑年十二月水野土佐守へ海防爲手當新宮與力知上り高千六百石御下け被下尙上け知高七
千石余被下安藤飛驒守へも上け地高五千石余御下け被下たり

御領分境

一紀州在々他國との境目は山川を限り村筋を分け壹村之内他國との入組無之候
　但奥熊野之内に高四百石余鵜殿平八殿知行所あり其外高野寺領紀の川筋にて少々村の入組或一
　村之内寺領と分け申所も有之由
一明治三午年三月四日紀の川中央を以境界相立候品於東京左之通公用人を以民部省へ相屆る
紀伊國伊都郡那賀郡之内紀の川筋元高野寺領と川を隔相接候場所從來堤際を境界に致し川は悉
當藩へ屬候へ共堺縣より掛合之品も有之候間向後天下一般之規則に改正し兩岸界を接候箇所は
川の中央を以境界相立候間此段御屆申上候様本藩より申越候以上
　三月四日

紀州葛城筋他國越道

海士郡加太 一大川村　泉州之道　上同 一木本村　上同

右同 一梅原村　右同孝子口　上同 一平井村　右同

名草郡 一直川村　右同井關越　上同 一山口　往還

那賀郡 一西坂本村　右同風吹越　上同 一東坂本村　大木越

右之外谷道筋　押川村　奥安上谷村　今畑村　神通村にあり

上那賀之内 一北志野村　同　一東河原村　牛瀧越

同 一下丹生村　同　水馬越

伊都郡 一名手村　靜川通　上同 一大畑村　槇尾通

同 一山田村　河州加々田越　一紀伊見峠　河州往還

同 一平野村　同大澤越　一上夙村　和州五條往還

一戀野村　和州道

高野寺領へ渡舟

那賀郡 丸柄（橋カ）田村　岩手　細野上村　竹房村

伊都郡 粉河　藤崎　麻生津　妙寺　新在家　小田村　禿　橋本

一勢州松坂田丸近邊は大方御領分續き申候田丸浦方山中松坂領川端谷長谷海道筋も御領分續き申候

右之外白子領共に他領入組多一村之內貳つ三つに分り候所も有之候

太神宮領　公儀御藏領

津　領　藤堂和泉守殿　久居領　備前守殿御息　藤堂　主水殿

桑名領　松平下總守殿　神戸領　石川近江守殿

龜山領　松平和泉守殿　鳥羽領　板倉近江守殿

菰野領　土方丹後守殿　長嶋領　増山對馬守殿

御旗本　保田　頼母殿

是は勢州之内一に白子領續に知行所有之津町之内に屋敷有之由

御領分大川

紀の川　有田川　日高川　切目川　是は大川と申すにても無之候得共安藤内膳殿知行所多く流る　南部川　同　断　富田川　同領内流

日置川　古座川　新宮川　是は水野土佐守殿領分流　勢州　宮川　川俣川　阪(田)川　一本内　大川と申にては無之候

右之内紀州にて御留淵

伊都郡小田村　眞田淵　東村之内　赫手之淵　那賀郡岩手之内　有田郡箕嶋村之内　竹房村之内　野村之内貳箇所

田地養水大非關

紀伊川伊都郡　中飯降井　高二千石　藤崎井　高壹万石　新在家井　高百八十五石　外に寺領分

那　賀　郡　小倉井　高三千二百五拾石　野上川　神戸井　高八百三十石

右　同　丸栖井　高四百貳拾石　佐々井　高五百七拾石程

名　草　郡　六箇井　高壹万石　名草海士共　四箇井　高三千四百七拾石程　宮　井　高壹万六千百石　名草海士共

海士郡右之内

有田川有田郡　庄村井　高貳千三百三拾石　糸我井　高六百貳拾石程　箕島井

井口井　高四拾石余

日高川日高郡　六郷井　高三千六百三拾五石　野口井　高四百拾八石　若野井　尾河井

勢州三領之内　笠松井　高貳千九百八拾五石　丹生川　高六百五拾四石余　新井　高六千三百石余

右之外大川之枝川又は小谷川筋にて所々井關數有之

「伊都郡之内」

小田井　水掛高一万三千石　七郷井　同三千五百石　藤崎井　同五千八百石

あらみ井　同二百八十石

紀伊續風土記に藤崎堰は那賀名草二郡之内五十三箇村に灌漑す堰路長さ六里半に及ぶ

那賀郡之内

段村井　同六百五十石　六箇井　同一万三千石　小倉井　同三千五百石

宮　井　同二万八千石　四箇井　同四千七百石

岸河之内

佐々井　同八百八十石　諸井　同九百五十石　丸栖井　同四百三十石

有田河之内

田殿井　同二千二百石　糸我井　同三千二百石　大谷井　同百八十石

宮原井　同二千百五十石　箕島井　同千五百石　宮崎井　同千二百石

日高川之内

六郷井　同千五百石　若の井　同三千五百石　新井　同八百二十石

野口井　同五百五十石

伊勢御領分にて

笠松井　同二千百石　雲出井　同千五百石　川口井　同八百五十石

瓦　井　同三千二百石　新井　同千五百石

御領分にて河數二十八箇所」

按に續風土記に伊都郡小田村小田堰は郡中及那賀郡に灌漑し國中にて堰の最大なるもの也、元祿中大畑才藏といふ者水利に精しく初て此堰を穿る、是より諸方の堰追々出來たりと云々、又上那賀郡志野村に櫻池あり、事は歷世郡治大概の部に詳記す、（小田堰新鑿は寶永四年四月也、元祿中とするは誤傳なり）

一在々田地養水を溜候池數大小

三千五百八拾八箇所之内　大小合三千五百四十三箇所

紀州在々三千三百三箇所

内

八百「八百十五箇所」　伊都郡　六百四十「六百廿二箇所」　那賀郡

三百三拾「三百三十一箇所」　名草郡　七百「四百七箇所」　海士郡

三百拾「四百二十七箇所」　有田郡　四百（六）〔一本四〕拾「二百八十六箇所」　日高郡

拾四「三十五箇所」　口熊野　九「二百十四箇所」　奥熊野

勢州在々貳百八拾五箇所

内

八拾五「二百八十四箇所」　松坂領　九拾「百八十七箇所」　白子領

百拾「二百九十六箇所」　田丸領

「右池々之内にて北志野村櫻池并池田組海神池同春日池山本組坂井村龜池等此四つの池は御普請方支配也殘之池は皆郷役方普請也」

按するに黑朱書「　」共池合數符合せす、暫く原書のまゝを存す、

續風土記に曰く龜沼は寶永七年伊澤彌三左衛門といふもの〻穿つ處にして正月より功を初め四月に功を畢ふといふ深さ八間周五十町大氐山にて圍めり池中小山あり那賀郡龜の川及近邊諸谷の水をうけて下十箇村に注き高七千石の田を養ふ樋長四十二間龜沼の名は龜の川の流れをうくるよりなところ

那賀郡北中村に海上池あり續風土記に曰く慶安二丑年南龍公土功を命せられて成就す其棄樋の大造なること二千金を費すといふ後棄樋筋破れて民其害を蒙る近年修めて舊に復す其費用亦前の如しと云池田岩出兩莊の内高二千八百三十二石余の田に漑く

右池之内名有大池左之通

伊都郡垂井村　岩倉池　淨土寺村　引野池

那賀郡北志野村　櫻池　池田　浦神池　池田　春日池　岩手　大池　岩手　新池　山崎　住持池

岸　平池　野上　樫河池

名草郡山東 大池　上同 小池

海士郡善明寺 大池　平井村 大池　安原 大池　重根 たつへ池

有田郡廣 析杭池　湯淺 坂部池　奥村 矢熊池　奥村 橙谷池　庄村 鷹巣池　徳田 蟹住地

日高郡荊木 大池　土生 井田池　印南糸尻 懸川池　江川 鴨居池　志賀 大池　高家 うとろ池

口熊野奥熊野には大池無之候勢州田丸領五挂池と申は夥敷大池にて有之候松坂領白子領に大池多候へ共他領と立合之池に付不記

一御留藪五拾八箇所

内

伊都郡　下上田　松井「松井三箇所　上田井に一箇所」

那賀郡　三毛 貳箇所　長谷　野尻　森　中井坂 貳箇所　尼崎　窪 貳箇所

竹房 四箇所「竹房二箇所　上三毛に貳箇所　岩出清水村壹箇所」

名草郡　南畑　田屋 前田 貳箇所「田屋に一箇所　八軒屋に一箇所」

日高郡　和佐　高津尾「和佐に一箇所　高津尾に一箇所」

勢州　田丸　三拾貳箇所「十八箇所　松坂領十一箇所」

同　白子　四箇所「八箇所」

按するに續風土記に曰く、上三毛の藪は船戸の中にあり、東西三町南北四拾間。紀の川の南崖にして伊勢街道の南側にあり、或は三毛の大藪と稱す、此地竹に宜きを以て旗竿の用に充らるといふ、大なるは尺二寸に至る、其他民家に植るもの其性宜く他村に異也といふ、

一御留山百八拾三箇所

内　伊都郡　四十箇所「五箇所」　那賀郡　貳箇所「四箇所　名草郡にて三箇所」

海士郡　五箇所「五箇所」　有田郡　五箇所「四箇所」

日高郡　拾貳箇所「五箇所」　口熊野　拾貳箇所「四箇所　奥熊野五箇所」

勢州

田丸　五拾四箇所「十一箇所」　松坂　拾壹箇所「十箇所」　白子　七拾七箇所「二箇所」

按するに右藪數墨書朱書共甚差違あり亦原書之儘にす

村數

一御領分中村數都合貳千百貳拾七箇村　紀州勢州共

内三百四箇村　枝　八拾六箇村　新田

戶數

元祿十二卯改

一百姓家數大小　九万四千九百八拾軒余　内　六万千八百八十軒　紀州　三万三千九十八軒　勢州

但田邊新宮付在々此内へ不入

御領分百姓斗之家數

九万八千三百五十三家　内　六万九千七百八十五軒　紀州　二万八千五百六十八軒　勢州

人別

右同

一男女八歳以上　四拾九万四千九百四拾人余　内 貳拾九万四千四百八拾五人 男 / 貳拾四万六十三人 女

　但田邊新宮右同斷

右人數紀州勢州之分　三拾三万六千百拾九人 紀州 / 拾五万八千八百貳拾九人 勢州

一同八歳以上　八千百九拾七人　勢州松坂町　内 三千九百六拾貳人 男 / 四千貳百三十六人 女

御領分中在々は勿論町中人數毎年增候年により貳千人又は三四千增申儀有之候減候年は稀に候

以上地方誌

「八歳以上總人數

四十九万九千八百六十八人　内 三十六万八千五百四十三人 紀州 / 十三万千三百廿五人 勢州

右は若山幷松坂共不殘の人數なり」

天保十一子年改　此改は地方誌及ひ在方覺帳に記する所に非す後年の改と雖も爰に附記す

合五拾八万七千百六人　子三月改八才以上　内 廿九万九千百二十八人 男 / 廿八万七千九百七十八人 女

弘化三年年改

合六拾万千四百四拾七人　三月改八才以上　内 三十万七千七百七十六人 男 / 廿九万三千六百七十壹人 女

右内譯

四拾六万四千四百七拾壹人　紀州分　内 廿三万八千五十人 男 / 廿二万六千四百廿壹人 女

拾三万六千貳百廿五人　勢州分　内 六万九千三百六十四人 男 / 六万六千八百六十一人 女

七百五十一人　和州分　内 男三百六十二人 女三百八十九人

外に 百三十七人　御朱印地刺田彦領　内 男六十六人 女七十一人

市中人口

一八才以上　貳万五千四百六十九人　内 男壹万二千二百六拾四人 女壹万三千貳百五人

一小町　貳百五十八町

一大町　貳百四十一町

一竈　七千九百拾軒

戸數人口調　此調は明治二巳年六月府藩縣制度被　仰出同年十月朝廷へ提出のものなり

紀伊

一伊勢之内支配地戸數人口調帳

大和

和歌山藩

一戸數合拾万八千貳百四拾五軒

外五千三百二十軒六　穢多乞食

一社家　三百貳拾六軒

一寺院　二千三百三箇寺

一修驗　百十一軒

一人數　四拾五万八千八百廿六人　內 貳拾參万貳千六百四十六人 男 貳拾貳万六千百八十人 女

外人數貳万六千六十四人　穢多乞食　內 壹万三千七十七人 男 壹万貳千九百八十七人 女

一社寺山伏僧尼男女共

人數合五千七百廿一人　內 百八十七人 社人　四十六人 修驗　貳千八百九十九人 僧 七百六十一人 俗　百九十貳人 尼　千六百三十六人 女

右之通御座候以上

但明治三年三月神社數及社寺等之人口男女區別取調可差出旨弁官より達により同十三日差出たる調書に、神社數合三千二百四十七（紀伊國 伊勢國 大和國）之內と記し、社寺山伏僧尼人別は本記同斷に記す、

人別宗門改

人別宗門改　維新前迄は人別改の儀は男女八才已上の者は切支丹宗門にあらさるや否を改調印せしめ、是を以人別を調査すること天下一般の法也、故に宗門改と云ふ、

一先年は總改と申候て在々八歲以上人數郡奉行例年春廻り之節大庄屋組切に改印形見屆候處其以後八歲に成候者幷に他所より入り人年々大庄屋改に成申候其上にて組切に改候大庄屋誓文狀郡奉行へ差出申候

但郡にて郡奉行改大庄屋之年數違候儀も有之由に相聞候貳拾年以前之內にも郡奉行の料簡次第にて總人數宗門改判大庄屋見屆候も有之由に相聞候

一八歲に滿候子供幷他所他村より前年改以后入人之分每年春之內一組切に大庄屋相改宗門改の一札に判形取其上にて誓文狀を以郡奉行へ相達候

一村々人數增減は每春庄屋肝煎相改大庄屋へ出し組々總人數增減之書付大庄屋より郡奉行へ差出其

上にて奉行所へ相達候

一五十六年以前万治三年に在々男女八歳以上の分總改有之郡々にて郡奉行判形見屆候由に御座候右之翌年も總改有之由又寛文五年にも總改有之由右之以後總改は無之由尤郡により總改之度數一同には無之樣に相聞候

一寛文六年より八歳并入人斗相改年々郡奉行判取見候由

一貳拾年以前元祿九年より右に有之通大庄屋八歳入人之判元改候由

一他國他所へ有附申度と願候者は其品吟味之上無據類并他國他所へ緣付養子に遣候者の類の願書郡奉行相達候上御年寄共へ相達願濟申候

　但右之類にて他所他國より御國へ入込候も右同斷

一出家山伏比丘尼の子に遣し候儀御領分は勿論他所へ遣し候も一同に願書郡奉行相達候上御年寄共へ相達御目付へ屆願濟し申候

一穢多をんぼ之類右躰之願は奉行共承り屆願濟申候

一他所他國の者御領分へ年月の限り仕稼に參候者の分は其所之大庄屋承り屆宗旨改仕候上其所々に差置稼せ申候

牛馬數

一三萬四千九拾疋余　在々牛馬數　内　貳万六千四百貳拾壹疋 牛　七千六百七拾六疋 馬

　内貳万七百五拾九疋　紀州　内　壹万七千五百六十七疋 牛　三千百九十貳疋 馬

壹万三千三百三拾八疋　勢州　　内 八千八百五十四疋 牛 / 四千四百八十四疋 馬

『一三万二千三百八十八疋　　内 二万三千八百三十四疋 紀州 / 八千五百五十四疋 勢州

又内 二万千二百三十八疋は 牛 / 二千五百九十六疋は 馬　紀州一國　　又内 六千四百三十八疋は 牛 / 二千百十六疋は 馬　勢州』

船舶社寺數

一川艜（艜カ）　千四百拾艘　紀勢渡舟共

「川舟總數合千貳百三十八艘也尤勢州所々横渡し船迄不殘」

一海舟　四千五百三拾艘　右同　はし舟 遣ひ舟 ちよろ 柴舟 共

「總舟合四千五百八十三艘也尤勢州は浦々廻り船幷魚取り小船迄不殘也」

一網　六千四百六帖　右同諸漁

一社　三千七百三拾　「總社數合千二百八十三箇所也」

一寺　貳千軒　「同寺合千五百六十八箇寺也」

一庵　貳百　「庵總數合四百二十一箇所也」

一堂　六百九拾

在々役所番所

兩熊野役所々幷里數　根元覺

明和七子七月

一 口熊野御代官所 / 同郡奉行役所　周參見浦　但兩役兼帶交代に付一所

一同御目付役所　　古座組中湊村

一奥熊野御代官所
同郡奉行役所　　木之本浦　但右同斷

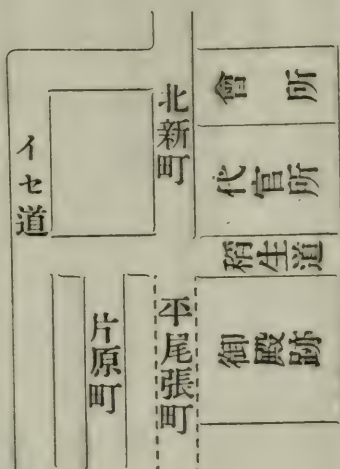
一同御目付役所

元來尾鷲浦に有之候處寶曆三酉年ロ熊野御目付兼帶に相成奥熊野御目付役所は無御座候

被　仰渡左之通

熊野御目付役自今古座役所にて奥口共相兼申合相勤可申候

寶曆三酉十一月五日

白子御代官所々在

御代官所は白子北新町字和田と云所にありたり當時白子町は白子寺家江島の三大字より成る

一周參見より　尾鷲へ廿八里四丁半
長島へ卅四里拾丁半　相賀へ三十里四丁半

一古座中湊より右三箇所へ　拾里十一丁
廿三里十一丁　十九里十一丁

一木本浦より同　九里／十六里　十一里

一貳歩口浦　九拾七箇所

内　貳拾九箇浦　紀州加太より日高迄

五十三箇浦　熊野

拾五浦　勢州田丸

「御領分浦方九十九箇所

内　三十八箇所は大川より日高迄之内／六十一箇所は両熊野之内也

外に　十四箇所勢州にあり

加子米納所は紀州大川浦より勢州田曾浦迄百三十三箇所有なり

右百三十三箇浦より加子米納高　合三千五百六十四石三斗八升六合」

一所々番所

御殿　鷲家　壹人　御殿　橋本　壹人　同　山口　壹人

同　椒　壹人　同　岩手　壹人

一常燈番

港川口　壹人　日高小浦　壹人　湯崎　貳人　丸木／大地　貳人

一遠見舟番

大川　三人　井關越　貳人　田倉崎　貳人　港川口　貳人

和歌川口　貳人　雜賀崎　貳人　大崎　貳人　宮崎　貳人

御崎 白崎　八人　鹽の御崎　壹人　留田　壹人 帶刀殿より　九木　壹人

立ヶ崎　貳人　大地崎　貳人　大崎　壹人　田丸田倉浦　三人

一在中諸番人等之姓名左之如き旨一書にあり

海士郡大川遠見　二人扶持つゝ　大川孫三郎　堤谷左五郎　高橋勘十郎

加太田倉崎遠見　同斷　加多庄司左衛門　桑前周藏　高橋源十郎

雜賀崎遠見　同斷　笠畑留八　橋爪團左衛門　毛見久兵衛

宮崎遠見　同斷　宮崎斧五郎　富山幸十郎

白崎遠見　小野伊三郎　鈴木喜助

御崎遠見　三尾浦住居　林市之右衛門　和歌浦住居　鹽崎三郎右衛門

小浦常燈番　濱田楠吉　湯川善太郎

湯崎遠見　南藤四郎　當時壹人

朝來歸遠見　帶刀殿家來　三柄次兵衛　但番所普請は御藏より給扶持勤方は田邊より申付之

瀨戸御番所　田邊與力中　三十日代り

上野遠見　潮崎利右衛門　同　藤藏　同　十藏

但代り合詰之者三人扶持

大崎遠見　三人扶持　古座組　小山段右衛門　西向村　野口伴七

同組 大崎浦　外に加番　清水文左衛門　巽覺兵衛
木本組野浦　帶刀二人扶持　濱田惣八
猪ヶ崎遠見　三木島浦地士　佐々木新右衛門　北口五郎作　新席村地士　森本儀兵衛
九木崎遠見　九木浦地士切米五石　九鬼十兵衛　同　同嶋之助　詰中二人扶持
太地　太地浦切米四石　佐藤利十郎　同　石垣七之助
同常燈番　同浦住居切米五石　清水武右衛門
奥熊野二口御番所　水野飛驒守　家來持
田會浦遠見　西村　喜多忠右衛門
田丸五ヶ所　鈴木一左衛門
井關越番人　御切米三石一人半扶持小拂渡り　尾崎要助　三宅秀右衛門
山口御番所　五石二人扶持　柳瀨元次郎
同御殿預　井關喜大夫
御城米役人　口熊野周參見組　安宅村　安宅佐左衛門　公儀より五人扶持
勢州慥柄浦　中西彥右衛門

在中詰人

一六拾人者　五拾二人　紀州「五十二人八人　紀州勢州」
一地士　貳百五拾人余　紀勢「口六郡地士帶刀人七百六十八人」

在中詰人

一須田組
一根來者　百拾貳人「百十人」　紀州「那賀　名草　海士　右三郡の内に住居也」
一大庄屋　六拾五人　内四十五人　廿人　紀州　勢州　外に貳拾七人　田邊新宮并上知とも
一山家同心　九拾人　内三十人　三十人　三十人　日高　有田　勢州「川俣」
一山廻り　四拾貳人　内貳拾七人「一に二十八人」　拾五人「十四人」　紀州　勢州

正米問屋　根元覺

一正米問屋相勤候名前左之通御座候へ共年古き儀に付帳面亂冊にて年號等難相分御座候熊野屋彦大夫相勤候は元祿年中之由大坂堂島問屋よりは若山問屋之方古く相聞申候
一大阪堂島之儀は
有德院樣　公儀へ被爲入候後御免之由

商場所

本町貳丁目北横町にて　熊野屋彦太夫
米屋町にて　平野屋十藏
中の店北の町にて　金屋市郎兵衞
匠町にて　井口屋次左衞門
南雜賀町にて　坂本屋源四郎
當時駿河町にて　本六丁目　太郎右衞門
下け紙當時見廻役御勘定より相兼候事

一松坂正米問屋之儀年古き趣にて年號等此表にては急に難相分御座候三領御納米切手拂相初り候は

享保十四酉年

正米問屋　池田七郎兵衛　竹田喜兵衛

同見廻役　藪谷與四郎　由良作兵衛

右問屋追々入替り當時正米問屋　小津淸左衛門　殿村佐五平　同加入　鈴木五左衛門

下け紙　當時見廻役松坂御勝手詰之者より相兼候事

傳馬所

一傳馬所之内和歌山より川俣街道幷勢州所々街道熊野街道之内海士郡加茂谷迄右之所々は郷役米の役高を引候上御用に相立候傳馬人足の分定之賃銀被下候名草郡山口幷有田郡宮原より中邊路通新宮領下市木村迄の傳馬所は二夫米糠藁郷役米之役を所相應に御引被下引高にて受切之積にて傳馬役相務申候右之外奥熊野木本より二郷迄口熊野大邊路通は傳馬は相勤候へ共引高も無之賃錢も不被下古來よりの仕癖にて御用之傳馬人足勤來候但大邊路通之内新宮領は役引有之候

但和州三箇村幷川俣谷中は諸役御免之處故引高之品相立不申候且又田邊新宮領は帶刀對馬守より傳馬役高引遣申候

一傳馬所馬數に應し前々より御借金左之通に御座候

馬壹疋に付金壹兩貳歩位より三兩位迄所々借來にて高下有之候右金四五年賦濟に借渡濟切候へは又元之通車借に仕候尤右之金不借來所々も有之候

一右之外脇道にも傳馬所と申場所有之傳馬人足御用之節は其所にて相立候へ共引高も無之御借金等

も無御座候但右之所々にて相立候人馬其郡に賃錢取候傳馬所有之候へ共其所へ右脇道にて相立候分も差加賃錢取申候其郡に賃錢取候傳馬所無之所は其近郷よりよなひ或組郡之割にも仕所々仕來品々有之候

傳馬繼村次

一在々御用に參候役人傳馬渡方例法奉行所にて遂吟味證文出し勢州にては松坂兩役證文を以て繼々傳馬所にて荷馬相立申候右之證文にて役人傳馬に乘候處山中にて馬足不立所々は何役人に不依山駕に乘來候

但郡奉行其外御用有之村々へ入込候役人之傳馬は往來之道計證文にて相立支配の郡村々にて相立候馬は其郡々入用に立賃錢取候傳馬所有之候ても賃錢は受取不申候御代官幷手代人馬證文右同斷但支配の郡にては御藏入之村々より傳馬人足相立賃銀右同斷

一諸手代組足輕諸職人御領分在御用に參候節證文渡し方右同斷に在々にても人足相立申候但江戸往來之節は駄賃何人何疋と定法有之候へ共御領分にては役人壹人出候ても荷物有之に付役人壹人にても人足壹人の證文出し申候勿論人數多參候節は夫々法の割を以傳馬をも相渡候

但大庄屋自分支配之組中廻候節荷物人足は證文取不申村々より相立候

一和歌山より勢州兩熊野筋へ之御荷物之傳馬人足證文は奉行所にて遂吟味勢州より和歌山へ之御荷物は松坂兩役遂吟味證文出し兩熊野は郡奉行田邊新宮は同所役人遂吟味證文出し申候

一有田日高兩熊野へは每月四箇度定日を極置御用狀傳馬所繼に出申候兩熊野よりも右同意に傳馬繼

出申候有田日高より若山へ之御用狀は熊野より之傳馬繼便に相渡申候
一勢州と和歌山御用狀は江戶よりの御飛脚便りを用ひ申候急成不時御用有之節は傳馬所繼に出申候
一伊都郡那賀郡へ之御用狀有之候得は右之便に繼申候勿論不時急御用は傳馬所繼を出し申候
右傳馬人足賃錢受取來る傳馬所は年中相立候分帳面を拵賃錢若山へ受取に出申候付若山より出候證文筋は奉行所にて致吟味勢州分は松坂兩役致吟味兩熊野筋より出候分は若山へ到着之付けを以て致吟昧御定の賃錢小金藏より相渡候
但賃錢請取不申傳馬所よりは右之帳面出不申候
一荷物人足書狀共海士名草之內は三里以上之道法は傳馬繼三里より內之道法之分は村繼之證文奉行所より出申候松坂領は郡奉行松坂に相詰直に村繼出申候但村繼之證文人足は傳馬繼之場所にても賃錢渡不申候
一御代官郡奉行幷大庄屋は支配之郡組々にては村繼之書狀出し村々にて持運ひ仕候御代官之手代御普請所詰役人山廻り等之下役人在々へ入込書狀出し候儀有之候へは大庄屋又は村庄屋へ斷大庄屋村庄屋より添狀にて村繼出申候右之分何れも御藏より賃錢は出不申候
但組繼と申候て大庄屋より大庄屋居所へ直着之書狀郡奉行幷御鳥見大庄屋より出申候

傳馬所三十八箇所

伊都郡 名手市場	同 橋本	和州 土田	同 越部	同 鷲家
那賀郡 岩手	山口 里村	名草郡 新內	海士郡 加茂	同 內原

有田郡 湯淺	同 井關	同 宮原	日高郡 印南	同 小松原
同 原谷	口熊野 野中	同 近露	同 高原	奥熊野 本宮
同 二鄕	田丸 相鹿瀨	栗生	相可	前村
川俣	駒	阿曾	天ヶ瀨	田丸町
松坂 瀧野	七日市	波瀨	大石	丹生
粥見	上多氣	須賀井	松坂町	
白子 上野	白子			

一公用狀繼立方

明治四未年五月九日會計局參事より諸局へ布達

紀勢御管內諸郡在々等へ之公事往復書狀繼立方爲取締此表にては當局より各郡にては民政局より傳馬繼書狀へ人足切手相添右を目標に繼立させ切手無之書狀は一切不繼立夫々出許へ推戾し候樣驛々へ觸達取計候間右樣御心得各御局及在中御出張先より之御用狀は緩急共都て當局又は御出張先地方民政局へ御差出し直に他郡へは御差立無之樣いたし度尤右最寄民政局迄之處は別紙雛形通之小切手へ書狀差立人調印取計民政局迄之繼立村數に應壹村壹枚つゝ之割を以爲添候はゝ右切手を證に村々にて繼立之筈候間御支配之向へも篤と御心得させ置有之度事

五月九日　會計局參事

別紙　半紙八つ切

覺

何郡民政局行

一書狀　　壹通

右繼立可申候以上

何郡何村出張

何　役

支月日

姓名印

押送浦々繼立

一熊野田丸領迄御用荷物之內傳馬繼にて難繼立ものは奉行所より浦繼押送之證文を出船にて浦繼に遣申候但浦繼證文出す儀稀成儀に御座候

一右之所々より和歌山へ之荷物有之節は其所々郡奉行證文にて和歌山迄御用荷物浦次にて參候

一浦方役人は勿論何役人にても傳馬證文を以浦々通候節は浦次の船にて通申候奉行所より浦繼之證文は出不申候得は步行路不自由之所々之分は右之通船に乘申候尤傳馬之代りと相間候

一右浦繼之儀奉行所より證文出候分も船賃渡不來候勿論役人乘り候分も舟賃出し不申候右舟賃之儀浦々組合有之每年浦々立合右舟賃は勿論浦方割に可入者を取集組合之浦々へ割蒔仕候是を浦割と申候但所により浦々立合に不及一浦切之入用に仕候所も御座候

在々百姓を人足に遣候節賃銀米御代官所御勘定に相立候在人足

一御代官所御勘定に相立候人足筋を本斗立人足と申候賃は前々より壹人米壹升或は銀八分又は壹匁宛例を以相渡申候右本斗立人足類有增左之通

一所々　御成之時御道橋破損繕ひ

御宿拵御殿掃除人足詰人足其外諸御用之人足

一御鷹野御鹿狩勢子人足 幷御鷹野橋掛人足 御鹿山常式之入用人足 又は御鳥見遣候 御鷹寄せ堀等之人足

但口六郡は勿論一郡中之人夫をも寄せ候程之御鹿狩之節は先年より人足賃不被下候

一所々　御殿御鷹部屋幷常燈遠見他國越御番所役家牢屋往還道橋御普請且又御高札場入用右之類に遣ひ候人足

但二夫口茶口役所家藏は 役所々々之納銀之内より拂申候 尤人足賃も 其所にて 相對雇之筈に御座候

御普請方在人足

一大川除入用之在人足

壹人賃銀壹匁五分宛

但前々は大川除之在人足壹人壹匁つゝ御普請方より拂來候近年米穀高直之處鄉役方在人足壹人米壹升七合充拂銀に積大分宜賃銀に付所々にて御普請方鄉役方間近く御普請致し候に付御普請方より觸付候人足も鄉役方へ紛出御普請方之御普請差支申候に付三年以前午年より當分

本文之通賃銀五分增壹匁五分宛遣し申候此通にても漸飯料程ならては無之積に御座候

郷役御普請所人足

一在日雇人足賃米壹升七合宛

一所人足賃米七合五勺宛

此所人足と申候は御普請を請候村之人足にて御座候前々より賃米不相渡扶持方計渡積にて壹人七合五勺宛相渡申候然共大普請にて永々其村人足多く出候筋或は一人立普請を受候筋も有之所人足多く出し候儀難成品有之に付所人足之儀は總様人足高之内何分通り遣筈との儀郡奉行吟味仕遣ひ申候

大普請方日雇人足

一和歌山　御城御構之所々　御下屋敷御藥種畑北島御殿和歌御宮其外御寺方御普請人足には町日雇を時々定賃にて遣ひ在人足は遣ひ不申候岩手　御殿廻り御普請有之節前々は町日雇を召連參り大普請方より御普請仕候北島　御殿は　御城下故日雇にて候へ共岩手之儀は遠方殊に所々御殿御殿御普請人足何れも在人足にて候に付相紛れたる品に候故去未年より岩手　御殿御普請町日雇遣ひ候儀相止所々御殿人足の通り在人足申付候

一松坂御城新宮之城石垣御普請は大普請方御入用に立申候此在人足には壹人賃銀壹匁つゝ遣し申候然處新宮城石垣御普請に遣ひ候人足大分之處賃銀少く迷惑仕候段願出候に付致吟味候へ共本斗立の在人足米壹升宛の例有之且又御普請方人足にも近年增銀遣し申候新宮城石垣御普請は大普請方

御勘定に立候に付町日雇にも准し本斗立旁當分米壹升宛遣し候筈に當年申付候
但山口岩手椒橋本鷲家白子御殿川俣御道中御殿々々粉河御鷹部屋抔之地方御普請有之節は大普請方に不構郷役方之役人御普請仕立在人足賃米は壹人壹升宛御代官所御勘定に相立申候

在々小入用

一上使之節諸色入用之人足
但御道筋御普請入用は御藏より出る 御宿拵井道普請云々とあり
一御國廻り衆御越之節人足御宿拵入用其外品々諸色入用之人足
但右同斷御宿も普請致品々は御藏より出る
一伊勢へ
公儀御代參其外役人衆之儀に付右同斷
但右同斷
一御城米船幷諸國大名衆江戸廻り米又は商船破損之節諸入用
一聖護院三寶院入峯之節右同斷 諸色之人足
但御道筋普請御宿普請入用等は御藏より出る
一所々　御成之節右同斷
一江戸御往來之節御宿拵道橋破損繕人足御供荷馬之類
一御鷹場御鹿山に付常式御普請鹿追込役人宿荷物持運人足類

一松坂御城御石垣御普請人足

一所々　御殿破損繕幷所々役家諸番所破損繕人足繩藁之類

一大川除御普請人足

一鄕役方御普請人足

一往還道橋御普請幷材木持運ひ人足

一御作事方入用之繩藁總て御用之竹木等之儀に付人足之類

右之外品々御用に付少宛にても在々より相勤候人足諸色御定の賃銀米代米銀を被下候へ共右賃米にては百姓手前不足有之に付右不足の分時々吟味仕小入用帳へ付申候小入用帳へ付置普請に至り寄合割付差引可致事也

一御飾松竹御藏入之村より持運び人足

一御臺所詰御用米江戸廻し御用米に付入用

一御藏入之村々幷上け米有之給所々在々傳法御藏諸入用

一大御鹿狩之勢子人足

一御鷹餌鳥持人足

一二夫米銀納利米納候儀に付入用

一鄕役米持運ひ人足

一御借麥借渡取立之儀に付入用

一御藏所之村々納所藏入用幷番人足
一御代官郡奉行幷大庄屋手代共郡にて之入用人馬宿賄
一總て在御用に出候役人下役人其村々にて相立候人馬宿賄
一大庄屋三匁銀庄屋肝煎杖突あるきの給分
一組繼村繼狀持人足
一道作り火消人足洪水之節池川出人足幷其節之土俵杭木等之入用
一毛見其外諸色之差出大庄屋等への書附持參人足類
一雨乞虫送り耕作方之祈禱之類
一寺社入用品々
右之類其外品々村用事に付て之入用筋賃銀代銀不被下全村の入用に付村小入用帳に付申候
一右小入用之儀年中分段々帳面に付け置暮に至り村中寄合割賦取遣仕候
一小入用之內寺社入用山に付て之入用道橋之入用箇樣之筋は人に付て之入用にて御座候に付其村人數に割右之外を高割に仕等之大法にて御座候
但無高之者借宅等に罷在商賣或は諸職を仕小高之者にても預り作日雇等を仕者多有之所々は高割計にては高持百姓計小入用を出候積に付其段斷出小入用銀高之內五箇一三箇一或は半分通りも家數か人數に割殘所を高割に仕候所々も有之候
一人足其外之儀共大樣村中順番に勤申候然共家內に人足等に出候者多く或は能家を持役人の宿等を

仕躰之者は働多に付小入用割にて取分多く御座候病人或は不手廻りの者は右之働不足に付小入用を多く出し申候

大庄屋組割

一大庄屋元之組割は右に有之村々小入用帳の内にて其一村へ掛候御用筋は勿論其村の入用は除け置役人の宿賄諸色人足等一組中之村々へ總掛りに可相成分は村之庄屋之手前にて吟味仕撰出し小帳を拵置暮に至り一組中の村々庄屋肝煎一所に集り組中へ掛り候筋亦は組掛りに成間敷品之儀一々吟味仕割に入候若庄屋肝煎共相談難決儀は大庄屋承り屆了簡仕候

一右之外に組杖突に郷役米高百石分被下候此外に足給分入候に付大庄屋元にて諸色之書付等認候入用又は大庄屋杖突等役所々々へ罷出候節之雜用或は郡奉行より大庄屋へ之飛脚賃其外村々小入用帳へ付候外大庄屋元杖突之手前にて入用有之に付右割賦之節庄屋肝煎共吟味之上組割帳へ書載組入用銀高を極村々の高へ割賦仕候

一右割賦掛り銀の儀も村小用と同意に働多き村は取分に成働少き村は出し分に極取遣仕候由

郡割

一郡割は右組割に仕候内一郡中總掛りに可成品々組々大庄屋手前にて書出し大庄屋組杖突庄屋の内組々より郡中一所に集り組割同斷に割に入へき品銀積り等吟味相談之上郡中入用に可成銀高を極郡高に割其上組々の高へ割掛差引取遣組割と同斷に仕候

一伊都那賀名草海士有田日高右六郡分右に有之一郡一郡の郡割帳の內にて六郡在々へ總掛に可成分は郡々にて撰出し翌年正月和歌山會所へ一郡より大庄屋貳人宛右書付持出郡奉行も不殘相詰六郡大庄屋共吟味仕郡割と同斷に割賦仕候其內古例も無之六郡へ可掛と申六郡へは掛間敷品と申大庄屋共相談難決分は六郡之郡奉行相談之上致了簡割を極させ申候若郡奉行之仲間にても了簡區々にて難決儀は添奉行へ申出奉行共にも申聞候に付了簡仕申付候

一兩熊野は郡割も一郡切之割賦に仕來兩熊野立合割賦仕儀無之勿論口六郡へも立合不申候

一勢州三領も組割郡割紀州の通に割賦仕三領在々一等に可掛筋は右に有之六郡割と同斷於松坂三領立合割賦取遣仕候

一右之外に上那賀二組は元那賀郡にて御座候へ共伊都郡奉行支配に成候付總體之割は伊都上那賀立合郡割仕候然候處那賀六組と上那賀二組立合割符之筋有之自今年々右之割賦有之候是を八組割と申候由

一名草郡の內より先年海士郡へ入候村々有之此分海士郡の內にても西名草と申候右西名草と名草郡と立合割賦筋有之郡割の外に名草郡と海士の內西名草分之村々立合割賦御座候是を西名草割と申候由

一松坂領一志郡之內先年白子領へ入候在々有之是も自今白子附の一志と松坂附の一志と立合割賦の儀御座候是を一志割と申候由

大庄屋給　　　　　　壹人分

一御切米貳石　　毎年御切米手形にて被下候

一米壹石三斗　　郷役米之内より被下

是は郷役米受拂池川御普請の儀相務御勘定も仕上け候に付高百石分之郷役米被下

但郡により大庄屋壹人分高百五拾石つゝ引來其外少々引高違候郡も有之候此段は古來より仕來にて御座候

一銀百目程より貳百目程迄右高百石之組割銀

是は大庄屋一組の諸入用毎暮組中寄合高割に仕取遣差引仕候處右之通郷役米高百石御引被下候に付百石分之組割掛り銀大庄屋取申候

一銀三百目程　　組中より取

是は前々より高百石に付三匁つゝ村々より大庄屋へ出し申候大庄屋一組は凡高壹万石程宛にて御座候付大概三百目前後程つゝ取申候山中抔は小高の村村多く一組の高漸く三四千石の組も御座候筒様の所は本文之銀高百目前後程ならては取不申大庄屋も有之候

一米貳石　　大庄屋役料　　新田爲作德郷役余米之内より被下

是は前々郷役米を以新田を拵へ大庄屋共へ被下候儀多き處其新田大庄屋代り候節跡役へは相渡不申候付大庄屋役に付候新田を拵へ候筈に近年相極り候處郡々組々に相應の新田場無之に付十五年以前午年より郷役米之内本文之通被下

一大庄屋在御用に罷出候節は御扶持方米一日壹升つゝ請取申候御普請所へ出候節は郷役米の內にて右の扶持方請取申候

但米壹升は貳人扶持にて候へ共大庄屋扶持は二人扶持とは唱不申候此段は下人を召連候者故三人扶持可渡處二人扶持故と相聞候右之米壹升を在々の泊り宿へ相渡其村よりの賄を請申候

庄屋給

一御藏所の庄屋は其村々之御納米受拂仕候付御納米百石に付米四斗宛被下御定にて御座候

一右御藏庄屋村庄屋をも一所に相務候へは村よりの庄屋給は別段に取申候村庄屋と申候は御藏給所共に一村之諸色を勤申候庄屋給は其村より出申候庄屋給米貳石三石或は五石七石又銀百目貳百目或は五百目七百目と極候も有之由

一庄屋給免同意に高に何分通りと極て取候も有之由庄屋給免壹分にしては高千石の村は米十石に當り申候

一右給方の外庄屋持高は村役を引申候此高引は御普請其外村役人夫役諸色を出し不申候高拾石所持の庄屋は右役引之德用銀凡銀にして五六拾目位有之積り

一庄屋村用に付役人の方へ罷出雜用有之或は庄屋の手前にて墨紙代類の小入用右庄屋給の內にて請切に仕るも有之又庄屋給に不構雜用等は村々小入用割に出し候も有之候庄屋給之儀は其村總百姓との相對の儀に付仕方品々にて御座候奥山中小高の村にては無給にて庄屋を勤め或は近郷より庄屋を相兼爲務候も有之候

一給人庄屋は知行百石に付凡米四斗宛遣し申候尤御定は無御座候給人庄屋計勤候者には村より別段に給分を出し候は無之由役高引候も稀成由に御座候夫故地頭の用事勤候儀に付庄屋之入用之有候へは百姓之入用割に仕り候由

肝煎給

一御藏入の村にても肝煎に被下物は無之候

一肝煎は村庄屋へ准候に付給分は庄屋之三歩一五歩一位にて候小高之所は無給にて勤候所々多く或は一年二年宛にて村順番にて替々勤候所も有之由

一肝煎所持の高役引仕儀無御座由大村にては持高に不構五石拾石程の役を引候所も有之由御座候高引不申所にても村人足出候節人足廻し仕候付何れも夫役は不致由

一肝煎村用に付雑用有之候へば村小入用割に入申候由御座候

組杖突給分　　壹人分

一米壹石三斗　　鄉役米之内被下

是は池川御普請御用相勤候付大庄屋と同斷に高百石分之鄉役米被下

一銀百目程より貳百目程迄右高百石分之組割銀

是は大庄屋と同斷に高百石分之組割銀取申候

一右之外大庄屋一組中より杖突給分として銀百目より貳三百目位迄遣し候由

一御用に出候節は御扶持方七合五勺宛受取申候御普請所へ相詰候節は鄉役米之内より爲御扶持方七

合五勺つゝ渡す

右組杖突ロ六郡大庄屋一組に壹人つゝ有之被下物幷在よりの給分大概右之通に御座候尤郡組により杖突の外に物書躰の者組中として抱候所々も有之由

一兩熊野勢州三領には從先年組杖突は無御座候夫故郷役米引高も無之御普請所へも出不申候由

但兩熊野は杖突之代に物書と申候て一組に一兩人つゝ抱給分組割に入候由勢州三領は大庄屋會所と申松坂田丸白子に大庄屋詰所有之此詰所に物書一兩人宛抱置組々用事相勤させ給分は郡割に入候由

百姓上下之渡世

一百姓之内能田畑所持仕耕作一通り之者は身躰變儀稀に御座候金銀を貯耕作之外商賣等を仕候者は身上彌宜く成或潰候者多御座候又田畑少く所持仕候者は暮しも貧しく妻子迄稼強く預り作を仕或は耕作の間に日雇稼等にて渡世仕候者多く御座候此等之類は潰候儀も稀に有之身上宜く成者も少く御座候又耕作不仕後家やもめ躰の者多く御座候此者共は綵毛綿日雇稼にて渡世仕候

一紀州浦々にて漁稼山方にて杣稼等仕候者は郡奉行迄願出他國他所へ一年歸りにて稼にも參り候里方にて耕作一通り之者は他國他所へ稼等に參り候者稀に御座候夫故次第に田畑流行り申候

地方誌には次第に田畑相應より人數多相成候樣に相見え申候とあり

一勢州御領分にては先年より右同斷に願出江戸其外他國他所へ一年歸りにて品々稼に參候儀流行り幼少の節より年季奉公に罷越他所に商見世抔を出し大形有付候躰之者も多有之候夫故耕作疎成方

に御座候

田畑幷山林賣買之趣

一田畑は百姓の家督にて賣買をも仕候
五間に六拾間を掛合三百坪之を一反と相定有之候壹反に付能き田地は金拾兩前後又悪田は五兩
三兩之賣買致し右難成田地も有之候
但田畑永代之賣買は
公儀より寛永十年御停止にて御座候夫故本銀返しと申候て五年拾年之年賦を極右年賦の內に
元銀を濟し候へは田畑取戻す筈年賦之內に元銀得濟不申分は銀元之所持に仕筈証文を極內證
は賣買仕候
一田畑山林共に右之本銀返し幷質物入共證文大庄屋之留帳に付し上右證文へ大庄屋判形仕御定
にて御座候
若右之御定を背候證文公事出入等にて致露顯候へは田地を取候者よりは田地を取上け銀を取
込候者よりは証文之銀高取上け候例法にて御座候

御借麥

一在々飢人爲御救六十二年以前午年より段々に麥を調在々に預置每年弱き者共へは郡奉行吟味の上
借申候勢州には稗をも調置候右同斷に弱き人共御救に每年借申候

御借麥

一麥高合壹万貳千四百貳拾七石余

稗四百貳拾貳石余

内 麥四千九百石 稗四百貳拾二石 勢州三領

「御貸麥は御入國之砌より御藏所給所共村々の飢人をは爲御救の段麥をは調置て正保四亥年初て

御貸下に相成候

壹万三千貳百石 麥 四百貳拾貳石 稗 紀州へ 四千貳百六十石 麥 二百二十二石 稗 勢州へ」

仕入借

一浦々漁事之網舟損繕入用幷新規に拵或飯料調兼候所々は仕入銀願出候へは郡奉行二分口奉行致吟味其趣奉行所へ相達其品承屆二分口納銀之内を相應に借渡させ浦々漁事の内にて口銀の外に右仕入借取立申候佐八役所にも材木炭其外山方稼物仕入致し兼候所々へは佐八役所納銀の内相應に貸渡右仕出し候物賣代の内にて取立申候

但佐八役所より仕入借の儀在々より仕出し候品々佐八役所へ買取候に付仕入借之儀時々奉行所へは相達不申候

根元覺

一賣附米日高山中有田山保田奥熊野口熊野田丸松坂山中筋寛永十八巳納より賣附直段極尤六月相極取立也　賣附之儀山中家職飯米に貸す

牛買代貸

一兩熊野勢州三領在々にて牛疫病時花（はやり）牛數多落候所々は其段願出れは牛壹疋に付勢州にては金壹兩紀州は銀八十目つゝ貸渡し三年賦に段々取立申候口六郡の內にても右之牛買代貸來候所々少々有之候

但牛疫病にて落候分は牛買代御貸之筈に候との御定書等も見へ不申候間前々より詰所之仕來と相見へ候

百姓新家火事に逢流失等之家々へ被下御借金

一在々百姓家火事之節類火之者共へ被下物御借金

紀州口六郡勢州三領共

但兩熊野有田日高山中は松木御免に付家木不被下

一松木拾五本 長二間より三間まで末口三四寸 本役牛役家木　一松木拾　本 長二間末口三四寸 無役家木

一御借金壹兩 返納之儀は翌年より三年賦返納 本役家　一同　貳分　同　半役家

一同　壹分　同　無役家

取立難相成者は御借金相止鳥目三百文つゝ被下之

根元覺に

一火事之節火消候爲百姓家毀し候には拾五本被下

但被下米御借米無之

一松木賃伐は伐候松を三分一被下

一在々火事に逢候者松木被下候松木少き處又は近邊松山無之處は代銀にて被下
但松山納銀之内より被下
加子役傳馬役所は右之外に
一被下米四斗　本役
同
一同　貳斗　半役
一傳馬所加子役所之村々一村之内七八分通りも家燒失致し候得は小屋掛入用に長貳間末口壹貳寸之松木拾五本宛遣し申候尤里役所にても家數大分燒失にて候へは其品により小屋掛木拾本より拾五本迄遣し申候
一加子米所傳馬所の外百姓火事に逢家木松先年より被下候外に御借金無之處去る文祿十二子之春「元祿十一寅なるへし」より初て相應に御借金有之候
一右躰之火事之節は郡奉行幷大庄屋早速罷越若飢寒に及候躰に候へは御救之儀申付勿論小屋掛等之儀申付候
一流失之家へは家木は新家火事逢之通に被下但傳馬所加子役所にても右御借金被下米等極無御座候
一百姓新役家建候分紀州口六郡勢州三領共に右に有之本役半役家木御定之通被下
但山無之處幷山有之候ても家木相應之松木其村領に無之處は新家木は不被下
一右同大風にて百姓家潰候節被下家木

松木五本 長二間より三間迄 末口三四寸 本役半役家　　松木三本 長二間 末口三四寸 無役家

竹木

一紀州分は總躰山多く松木能生立候其外諸木能生立候へ共段々伐遣總躰(あせと)[本のまゝ]竹藪も有之候へ共大和河内に引合候へは少く有之候

一勢州里方山方にも松木は處々に生立候へ共紀州に引合せ候へは少く候山中方山々諸木段々伐取(あせと)[本のまゝ]竹藪僅に有之候

右之通に付紀州勢州共野相空地山々竹木の改造申付生立候樣に吟味を役人毎々申觸候

一紀州勢州在々山々空地は百姓自由に柴草伐取申候へ共松杉槻楠檜栢此六木は御留木にて御座候

一兩熊野は右六木之内楠栢槻此三木は御留木杉檜松は八拾年以前[一に慶安三寅年より]より御免にて百姓自由に伐取申候

一日高郡山中兩組は六木之内松木は先年より御免にて御座候

但御免年數之品は相知不申候

一有田郡山中山保田組は二十二年以前亥年より願に依て運上銀十三匁宛つゝ年々納松杉檜此三木御免百姓自由に伐取申候

一在々山野之内に先年より百姓持傳候林山御座候此持林は持主計柴草伐取仝く支配仕候尤右持林にても右之六木は御留木に御座候

一御藏入之在々納所藏破損之節入用材木には松木を被下候右入用之品奉行組足輕差遣爲致見分吟味

之上入用程遣し申候右之通松木遣し候へは其外之諸色入用は其村百姓共仕候

但先年は右入用願書出候へは大工頭へ吟味申付入用木の大小極申候右之通之吟味にては松木大小之譯は知候へ共破損之樣子相知不申に付近年は本文の通見分吟味申付候

一在々百姓所持之なよ竹藪は全百姓支配仕候唐竹藪は其近邊御普請御用等には伐遣ひ其外は百姓自由に伐取申候但百姓共新規に藪を拵候者は御普請御用にも伐取不申等に近年申付候

但山野共百姓一分之藪は其者計伐取勿論其場賣買にも仕候村中としてはやし立候場は村中の助成に仕候在々にて新藪拵候儀も勝手次第にて御座候

一安藤帶刀水野對馬守三浦遠江守久野備後守知行所山林竹木共全支配にて御座候其外之御年寄共幷諸士知行所は松山奉行郡奉行支配仕候

但帶刀對馬守遠江守備後守知行所之內御藏入幷相知有之村々は右四人へ付候百姓支配之竹木は右四人之支配其外は村中支配の筋共に御藏より支配仕候

寺社境內之竹木

一在々寺社山境內竹木之儀急度御寄附と之儀は無之候へ共境內之竹木は御用には伐取不申其寺社より支配仕候へ共御制木之六木取候節は其品願申出候

但寺社へ買得之山林は百姓持山同意にて六木も郡奉行山奉行支配仕候

一寺社入用に境內に有之六木伐候儀は寺社奉行へ申出寺社奉行より奉行所へ申來願之品吟味の上無據筋は松山奉行に申渡奉行組足輕見分に遣し願相應に其寺社付之六木之內を被下候且又風折枯木

等有之段斷出候へは右同斷に吟味之上其之木之分不殘其寺社へ遣し申候尤品重き願之儀は御年寄共へ相達伺候筋も御座候

一和歌　御宮領幷御寺方へ御寄附之村々山林竹木共全御寄附にて御座候

但御藏入と入交り候村々は先年より御寄附之山林と御藏より支配之山林と場所分り御座候

紀州勢州松山支配

紀　州

一松山制造之儀は每度郡奉行申付山廻り共山々打廻り奉行組足輕をも松木伐渡之節は勿論折々山々見分にも出し制造之儀申付候

一右役人共山見分仕松木盜伐或末木枝葉を伐取候を改出候へは其村庄屋肝煎吟味仕盜株に極候はゝ其段書付取郡奉行へ申出郡奉行伐主吟味之上伐主相知或は伐主知不申趣奉行所へ相達候付猶又委細吟味之上伐主知候は例を以輕きは過料或は追込重きは牢舍にも申付候伐主知不申筋は村中へ過料申付候尤庄屋肝煎共にも過料申付或は追込申付候但六木盜伐之節は何れも右同斷に申付候

一在々池川御普請入用木其外御用之松木伐候分幷御納所藏木百姓に被下候家木且又小松山すかし伐枝打末木枝葉拂伐或御手山等之松木受拂右品々一年切に松山奉行御勘定仕上け申候

但松木枝葉其所にて賣拂候直段之儀銀壹匁に付何束替と前々より村々に極直段有之山下百姓共に賣拂候此直段は山下故御用捨有之趣に御座候

一右御勘定に相立候松木伐渡之儀在々より願書出候へは見分吟味申付松山奉行受込奉行組足輕を在

々へ差遣代渡申候

一山廻りは郡奉行支配にて松山制造の儀申付山々廻り申候松木伐渡候節は奉行組にも立合伐所等之儀も吟味仕候

一在々草山に松木生立初て枝打候をひぼりきと申候此枝葉は無代にて山下之百姓に被下來候是は松木生立候褒美と相聞候

一小松多生立候へは松之生立悪く候付すかし伐を仕候幷二番枝より上之枝打仕候節々伐人足は山下之百姓を遣ひ賃には伐候松木枝葉之内分一として所に寄二分通りより四分通りまて所々極有之無代にて遣し殘所は賣拂代銀納申候

束替直段定法有之事

勢　州

一松山制造之儀松坂兩役三領郡奉行申付兩役之組足輕山廻り等山々廻り候儀は紀州同斷勿論奉行共より時々制造之儀兩役へ申遣候

一池川御普請入用木幷納所藏木百姓家木願之分松坂兩役致吟味郡奉行へ申渡兩役之組足輕松木伐渡申候

一松木末木枝葉等賣拂候仕形は紀州と同斷代銀は御代官所不定小物成御勘定に相立申候

一松山奉行無之に付右伐渡候松木受取手形等三領取集一年切和歌山會所へ兩役より差越申候右之通にて御勘定は仕上不申候

右之通松木伐渡筋の御勘定も仕上け不申松木拂様も紀州とは違ひ代銀も不常小物成の納に仕候付委細之御勘定は仕上け不申候

石土之切手

一友ヶ島石御用に遣ひ候内入札に申付候分は石入用之分量を吟味仕舟何艘分と相極御船奉行へ申通し御船奉行石何艘分遣し候との切手を出し石屋共湊川口入船仕候幷御家中諸士入用之石は御舟奉行へ相斷切手を取石屋共入船仕候且又雜賀崎田之浦邊割石和歌紀三井寺邊之赤土諸士望の節郡奉行へ申遣し郡奉行より其村々庄屋へ切手を遣し取申候

本斗立御普請筋之事

一上使御國廻り聖護院御門主御通江戸御往來諸人足御鷹野御鹿山に付て之人足幷所々御高札場常燈遠見番所幷役屋敷友ヶ島御馬小屋山口八軒屋三軒屋和歌おだれ繕類幷往還之道繕板橋土橋渡し井水道池々之樋木大井筋之水門圦關棧類諸人足繩俵竹木金物大工木引持屆人足賃大庄屋壹升扶持方御普請之節其時々入用之帳面仕立郡奉行差出し奉行衆判形を以て御代官所御勘定相立申候

大川大池御普請方支配

一紀之川有田川日高南部川切目川

御城下潮入之堀繕幷上那賀櫻池那賀郡海神春日池名草郡龜池右四箇所之大池共御普請方より破損繕仕候右御普請之分は御家中より納申候御普請役銀を以御普請仕立申候

右池川之外紀州勢州共に在々田畑に付候田水悪水筋之池川御普請は郷役米筋にて御普請仕立申

候

御代官所御勘定に相立候材木鐵物類

一在々御高札之矢來幷役家大川筋大井之圦水門の千貫所々關機之惡水の樋大池の樋井溝惡水溝之樋關機吹樋懸渡井木類品々小溝小川之橋木之類松木より不調分は佐八方御材木藏より請取代銀は御代官所本斗御納より請取御材木藏へ納申候御材木難受取遠路山中抔は其所にて材木を買調代銀は御代官より請取右何れも本斗御勘定に相立申候且又右品々切組入用の大工木挽賃銀釘鎹總て鐵物之類も賃銀代銀時々定有之夫々御代官所より受取相渡本斗御勘定に相立申候

但右は御普請方郷役方何れも右之通に御座候大普請方より仕候御普請入用之材木大工木挽賃鐵物代は小金藏之拂に成申候鐵物之類之内御普請方本役人足遣ひ候鍬は人足共自分道具郷役人足之鍬は郷役米にて拵渡本斗御勘定には相立不申候

御普請積覺　御勘定在方手扣を察す

一石築前積方

並石 中石 扣　並壹分五厘 中貳分　築立 法葺とも　壹人壹坪五合 又壹坪　陸葺　貳坪 又壹坪五合

一大石扣貳分五厘　築立 法葺とも 壹坪 又七合　陸葺壹坪五合 又壹坪

極大石三分 四分　築立 法葺とも 五合　四分五厘 五分　竪葺又貳合五勺　陸葺　壹坪 又五合

栗石扣 並壹分 大壹分五厘　法葺四坪 又 貳坪　陸 八坪 又四坪

右差手間通例本行之通尤大造之筋は脇書之通相掛候へ共一と通之筋は本行之通可然事

一割石壹坪　目方三千〆 荷數貳百荷　壹荷　十五貫持にして

割手間　壹坪　四人五人位

並石 中石とも 荒目石

竪目石　壹坪　八人拾人位

大石　荒目 壹坪 十二人十五人位 竪目 壹坪 十八人貳拾人位

一栗石壹坪　目方三千五百貫 荷數二百三十荷　壹荷　十五貫目

一浮砂壹坪　目方二千六百四十貫 荷數二百荷　壹荷　十二〆二百目とす

一芝壹坪　目方二千貫 芝數二千四百枚　壹荷 十六枚持 荷數百五拾荷　十三貫二百目とす

長さ　一尺　壹人　千二百枚

巾　六寸　切手間　丸壹坪

厚　壹寸五分切とす　四百間走り

一伏芝壹坪　目方二千貫 芝數千八百枚　荷數百五十荷 十二枚持一荷十三〆二百目さす

一土砂持藏入壹人三百荷とす　但 槌打にて如期手木打之筋 にて壹坪壹人にて可然事

小口三十六俵　六俵表へ六俵走り　横拾五俵貳俵半俵六俵走り

一土坪平一坪　け貫き　二十五俵半 二十六俵

拾五俵合〆半す　但 詰手間壹人三十五俵さす 縄は拾俵に付貳把さす

一石拂　並石壹坪 中石とも壹坪 大石二人

公事出入

一公事は目安を村々庄屋へ出し大庄屋へ訴申候輕き儀は大庄屋取捌埒明候大庄屋手前にて埒明不申儀は郡奉行へ申出返答書を申付郡奉行對決吟味仕申付候品重き儀は吟味書を以奉行添奉行へ申聞吟味之上裁許申付候郡奉行手前にて對決承候分にて難埒明公事は郡奉行公事人を召連出會所にて奉行御目付添奉行對決承り裁許仕候其内品重き儀は御年寄共對決承り裁許仕候但御藏入之在々は御代官も罷出候

一勢州も右同斷郡奉行御代官松坂兩役吟味裁許仕候重き儀は松坂御城代對決承り候他領との出入は奉行へ申來御年寄共へ申聞品に寄相伺申候

一寺社方の公事は寺社奉行吟味仕申付候寺社方百姓との出入は寺社奉行會所へ罷出奉行御目付添奉行と立合對決承り裁許仕候

一町中之出入は町奉行吟味仕申付候町人と百姓との出入は町奉行會所へ出奉行御目付添奉行と立會對決承り裁許仕候

公事出入に成候品々

一村境山川海之境目論

一田畑屋敷山林之境目論

一田畑山林家屋敷賣買借金銀之論

一御年貢筋幷夫役村入用之儀に付庄屋と小百姓との論
一寺々住持入替之儀に付本寺末寺百姓之論
一社方神主社人共幷百姓との論
一親之跡目論
一諸色商賣之論
右之外品々有之儀に候へ共大概右箇條之公事出入多く御座候
文政二年御勘定所書付留二十九番に
一御領分百姓町人公訴之節御領分何村と御之字を認候哉と御用人より問合せに付若山表取調答左之通
紀州何郡何村誰或は若山何町誰と認
勢州御領分之者出訴之節は紀州御領勢州松坂附或は白子附何郡何村誰と認候旨

紀勢在町造酒株高

紀勢在町造酒株高
一伊都郡中　壹万六千三百拾石
一那賀郡中　五千五拾壹石
一海士郡中　五千四拾壹石
一名草郡中　壹万九千百五拾石
一有田郡中　四千八百十一石五斗
一日高郡中　五千貳百三十八石
一口熊野　四百十六石
一田邊領　四千三百八拾石
一新宮領　貳千八拾五石
一奥熊野　貳千貳百六拾石

一若山町分　貳万三千八百貳石

〆八万八千五百四十四石五斗

此分天保十四卯年　公邊へ御達帳に株高不知と相記し有之勢州三領並々割返し候はゝ元株

四千貳百十六石四斗四合七勺六才に相成申候

一勢州三領分　壹万三千貳百四十石壹斗四升壹合九勺九才

此元株六百三十石四斗八升貳合九勺五才　但元株壹石貳拾壹石之割

合十万千七百八十四石六斗四升壹合九勺五才

此去申年半石造分

（掛紙にて）五万七百石程

制札

按に往古より天下法令の大綱を板面に書し（巾一尺余の横板にして數枚あり）掲示、又一國々々の法度書をも副掲するを御制札御高札と唱へ、都市郡村總して民庶輻湊の要地に掲示場ありたり、（掲示場は一坪余の處周圍石垣を築き、屋ある架柱を建て高く揭け木柵をも廻らしたり、江戸にては日本橋京都は三條大橋大坂は高麗橋といへる如く、之に准し日本國中公私領を問はす城下を初宿驛街道津々浦々極陬邊鄙といへ共、村落の大小に應し必す高札場を建設す、）故に下民先祖代々聞傳へ言ひ習はし、如何なる愚民幼童も御高札と稱すれば事の何たるを知らすして唯大切なるもの犯すへからすと固執したり、されば和歌山（京橋際寄合橋等）を初め紀勢封內到る處に制札場あつて、　幕府の法令を先とし國法の大綱を副掲せらる、　將軍家乃至　君公御代替等には新舊改め換るの例の由なれ共、條文古今一定なるを以て便宜襲用改むる事なし、故に永年風雨に

暴露し一字を存せす唯灰色の空板を望む如きもの往々ありしは昌平の一事を表すへし（揮にては制札の署名多くは安藤水野兩大夫也し故に兩家改名等の時は名前の處のみ白色鮮明なるを見たり）然るに明治維新の首に在制札悉皆取除へくの太政官令出、天下一時に除却したり、早く除きたるは勤王無二を表示するに足る知きのさまに見へたり、蓋於ても此際悉く廢棄せらる故に今や新古正副制札の如何を知るに由なし、爰に稱くるは聊筆記の存するを轉記するに止り固より全きを得す、且時々小異同はありしならん、唯制札に於ては部制に於て最重しとせし綱領なりしを以て體裁を示すのみ、（舊制札三章の趣意くは所在空業の成立のみを認めたりしか頓て太政官令の法三章を掲けられたり）

明暦四戌年正月制札

一季（年）之奉公人當年之請人を立給分同前にて來年も可召使其者は勿論請人及異儀者に可爲曲事并札をもたせすして日雇人足に出すへからす自然於相背は穿鑿之上科之輕重により可行罪科者也

酉十二月　日　　　奉　行

添札　公儀御制札之趣堅可相守者也

明暦四年正月　日　　　加納五郎左衛門

渡邊若狭守

万治三年制札　及寛文元年

覺

一去々年より去年迄於諸國酒造之儀可爲家年之半分旨相觸といへとも當年打續雨降洪水に付而耕作損亡之地有之故今年も猥に米を費すへからす酒造之儀江戸京都大坂奈良兼并名酒之所々其外諸國

在々所々四年以前迄造來員數其所之給人御代官より入念改之其半分つくらせ可申勿論新規之酒屋一切令停止若於致違背は給人御代官可爲越度万一密々多造輩あらは訴人に出へし御穿鑿の上其品により御褒美の高下有之而急度可被下之且又あたをなさゝる樣に可被　仰付之彼酒屋は可被行罪科事

一耕作損亡之所々百姓可困窮之旨不草臥樣に入念仕置可有之事

一從先年如被　仰出對土民不可成非儀若又作毛不損亡之所申掠年貢令難澁者可被行曲事事

一在々所々雖爲御鷹場年内よりかゝしを仕麥を蒔へき事

一鹿猪追せ申へし勿論取來所々猶以可爲其通事

右之條々急度可被申付者也

万治二年八月廿二日

添札

公儀御制札之趣堅可相守者也

万治三年九月　日

渡邊若狹守

三浦長門守

水野對馬守

定

一切支丹宗門之事累年御制禁たりといへとも彌以無斷絕急度相改へし自然不審なる者有之は申出へ

し御ほうひとして

伴天連の訴人　銀貳百枚　いるまんの訴人　銀三百枚

同宿幷宗門の訴人　銀五拾枚　又は三十枚によるへし

右之通可被下之若隱置他所よりあらはるゝにおゐては其五人組迄可爲曲事之旨堅所被　仰出也依

下知如件

寛文元年八月　日

添札

公儀御高札之趣堅可相守者也

寛文元年八月　日　　三浦長門守

安藤帶刀

正德以下制札

定

一親子兄弟夫婦を始め諸親類にしたしく下人等に至るまて是をあはれむへし主人有輩はおの〳〵其

奉公に精を出すへき事

一家業を專にし懈る事なく万事其分限に過へからさる事

一いつはりをなし又は無理をいひ總して人の害になるへき事をすへからさる事

一博奕の類一切に禁制之事

一喧嘩口論をつゝしみ若その事ある時みたりに出合へからす手負たるもの隱し置へからさる事

一鐵炮猥に打へからす若違犯の者あらは申出へし隱し置他所よりあらわるるにおゐては其罪重かるへき事

一盜賊惡黨の類あらは申出へし急度御ほうび下さるへき事

一死罪に行はるゝものある時馳集るへからさる事

一人賣買かたく停止す但し男女の下人或は永年季或は譜代に召置事は相對に任すへき事

附

譜代の下人又は其所に住來る輩他所へ罷越妻子をも持有付候もの呼返すへからす但罪過あるものは制外之事

定

一きりしたん宗門は累年御制禁たり自然不審成ものこれあらば申出へし御ほうびとして

ばてれんの訴人　銀五百枚　いるまんの訴人　銀五百枚

立かへりの訴人　同　斷　同宿幷宗門訴人　銀百　枚

右之通下さるべしたとひ同宿宗門の內たりといふとも申出る品により銀五百枚下さるへし隱し置他所よりあらはるゝにおゐては其所の名主幷五人組迄一類共に可被罪科者也

一毒藥幷似せ藥種賣買之事禁制す若違犯の者あらば其罪重かるへしたとひ同類といふとも申出るにおゐては其罪をゆるされ急度御褒美下さるべき事

一似せ金銀賣買一切に停止す若似せ金銀あらば金座銀座へつかはし相改むへし
はつしの金ぎんも金座銀座へつかはし相改むへき事
附
總じて似せ物すへからざる事
一寛永之新錢金子壹兩に四貫文壹歩には壹貫文たるへし御領私領共に年貢收納等にも御定のごとく
たるへき事
一新錢之事錢座之外一切鑄出すへからす
一新作之慥成らさる書物商賣すへからす
一諸職人云ひ合せ作料手間賃等高直にすへからす諸商賣物或は一所に買置しめうりし或はいひ合せ
て高直にすへからさる事
一何事によらす誓約をなし徒黨を結ふへからさる事
右之條々可相守之もし於相背は可被行罪科者也
正德元年
五月　日
定
一火を付るものをしらば早々申出へし若しかくし置においては其罪重かるへしたとひ同類たりとい
ふとも申出るにおいては其罪をゆるされ急度御褒美下さるへき事

一火を付る者を見付はこれを捕へ早々に申出へし見のかしにすへからさる事
一あやしきものあらばせんさくをとげて早々に奉行所へ召連來るべき事
一火事之節地車大八車にて荷物をつみのくへからす鎗長刀刀脇差等ぬきみにすへからさる事
一車長持停止すたとへあつらへ候ものありとも造るへからす一切商賣すへからさる事
一火事出來之時みたりに馳集へからす但役人指圖の者は各別たるへき事
一火事場へ下々相越理不盡に通るにおいては御法度之旨申聞せ通すへからす承引なき者は搦捕へし
万一異議に及はゝ討捨たるへき事
一火事場其外何れの所にても金ぎん諸品ひろひとらば奉行所まて持參すへし若隱し置他所よりあらはるゝにおゐては其罪重かるへしたとひ同類たりといふとも申出る輩は其罪をゆるされ御ほうひ下さるへし
右之條々可相守之若於相背者可被行罪科者也

正德元年

五月　日

安　藤　帶　刀

水　野　土　佐　守

定

一何事によらすよろしからさる事百姓大勢申合るをとゝうとゝなへとゝうしてしひて願ひ事をくわたつるを强訴といひ或は申合せ村方立のき候をてうさんと申前々より御法度に候條右之類之儀有

之は居村他邑に限らす早々に其筋之役所へ可申出御ほうひとして
　ととうの訴人　銀百枚　ごうその訴人　銀百枚　てうさんの訴人　銀百枚
右之類下されその品により帶刀苗字も御免あるへく間假一旦同類になるとも其咎を免され御褒美
下さるへし
一右之類そにんいたすものなくさはき立候節村内のものを差押とゝうに加へさせす一人も差出さす
村方有之は邑役人にても百姓にてもおもに取しづめ候ものは御褒美の銀下され帶刀御免苗字差
　発カつきしつめしもの共有之はそれ〴〵御ほうひ下しおかるへきもの也
　明和七寅年
　　　　　　　　　　　　　　天領分は
　四月　日　　　　　　　　　奉　行
一在々において神事祭禮之節或は作物虫送り風祭なと名附芝居見せ者同様の事を催し衣裳道具等を
も拵見物人を集め金錢を費し候儀有之由相聞不埒之事候右樣之儀企渡世に致す者は勿論其外共風
儀あしき旅人商人或は河原ものなと聞て村々へ爲入立申間敷候遊興惰弱よからぬ事を見習自然と
耕作にも怠り候よりして荒地多く困窮に到り終にそのはて離散の基にもなり候事に候間右之次第
を能弁候様に可心掛候依て自今以後遊藝歌舞技淨留理踊之類總て芝居同様の人集め堅く禁制たる
へく候今度右之通相觸候うへにも若し於不止者無用捨急度咎可有候者也右之趣御領は御代官幷其
所の奉行御預り所私領は領主地頭寺社領共に不洩樣相觸無油斷吟味せしめ小給所之分は最寄御代

官よりも常々心附候樣可致候

寛政十一未年

六月　日

安藤帶刀

水野土佐守

御法度

一博奕賭之諸勝負前以御法度に候處近來一統に相ゆるみ武士屋敷寺社又は茶屋辻等におゐて右躰不埒之儀いたすもの有之趣相聞候に付以來右躰之儀有之候はゝ吟味紏之上掛り合の先々迄も無用捨相紏仕置可申付候尤右躰之儀これあらは奉行所へ可訴出急度御ほうひ可被下候同類之内たりとも訴出自分舊惡をも相改におゐては是又御ほうひ可被下候右之趣天明八申年相觸候處近比猶又武家屋敷内或寺社在町等にて右躰不屆之儀いたすもの有之趣相聞既に追々召捕候ものも是あり畢竟等閑なる儀如何の事に候已來武士屋敷内末々長屋等に至る迄嚴重に申付無油斷相改可申候尤寺社在町等も一統同樣相心得入念可申付候右之通御料私料寺社領町方まて不洩樣可被相觸候右之通被仰出候間堅可相守者也

享和元酉年

十一月　日

御觸書

一浪人躰之者村々を徘徊せしめ合力止宿を乞或は惡口難題等を申掛又は旅僧修驗尊女座頭物貰之内

にも押而宿をとりねだり事いたし候類は所の穢多非人に捕へさせ其向々へ召連出へきとの趣安永三年相觸候處近來帶刀致し候浪人躰之者所々へ大勢罷越村方之手に及ひかたく令難儀段相聞候以來右躰之者於相越者御領私領共早々最寄陣屋役所等へ申立させ不移時捕方之もの差遣若他支配他領へ立退といふとも手延なく御領私領共相互に附入不取逃樣召捕可申候

文化十一戌年

右正徳以下之分亦公儀觸面也、公儀觸には右公儀御觸之趣堅可相守者也　年月何之誰々と副書ある文例なるに、副書なく或は單に姓名のみ等書し躰裁一ならさるは恐らく傳寫の誤ならん、暫く原書のまゝにす、

一公儀觸制札文は下民讀得やすきやう多く平假名を用ひたり、火事制札に車長持とあるは、明暦比迄は堅牢重量の長持へ地車四輪を付し牽運する事流行す、然るに同三年江戸大火の際此車長持途中の障害になり爲に死傷甚しかりしを以て爾來嚴禁に至ると云ふ

他國米輸入禁制

年の豐歉を量り糴糶の權衡に依て他國米の輸入を禁せらる　之を津留めといへり、時々施行の年次及ひ方法等詳ならされ共　淸溪公の時既に此事ありしや淺井玄香の夢物語に諷刺の文あり、御仕入方大帳に享保寶暦文化度の事を記載す、以て制規の大略を概察すへし、文化度の時は米の販賣は御仕入方擔任せしを以て　高野寺領の上をも同局より監査し、又覺樹院より請願の件も同局に於て寺議寺社奉行を經由して交渉したる旨也、附記して參考となす、

享保八卯年

伊都那賀名草へ通候扣

他國米留被　仰付候處掠米入候風說有之候右は村々其所切之吟味疎成故掠米有之儀候條左之通

申付候

一村々其所切に五人つゝ組合印形致し五人之仲間相互に吟味致掠米無之樣に可仕候

但掠米致候者組合之外より見改捕候節は其者に晝夜之番を附候入用等組合の內殘り候者共より

出させ候筈

一百姓共家々不相應に米相見候はゝ他國米を見知り候者差遣縦見分は御國俵にて候共俵每の米を相

改若し他國米致候はゝ急度可申付事

一掠米致候者は勿論重き御仕置に可申付事

一掠米致候者有之候はゝ村中へ重く過料出させ庄屋肝煎をも急度可申付事

一他村へ掠入候米いつれの村へ持込差置候はゝ其村々吟味の上過料可申付其品により庄屋肝煎可爲

越度事

一掠米致候者所之內より訴人幷掠米見改候者へ重く褒美取せ可申勿論見改候米も取せ可申事

以上

辰五月

日高有田海士郡へ通候扣

他國米留被　仰付候處船路より掠米入候風說有之候右者地方に受候者無之候ては海上より米揚候儀難調事に候畢竟浦々并浦近き村々其場所切之吟味疎成儀故掠米も有之儀に候條左之通申付候

一浦々村々其所切に五人宛組合致印形五人之仲間相互に吟味にて掠米無之樣に可仕事

但し掠米致候者組合之外より見改捕候節は其者に晝夜之番を附候入用等組合之內殘り候者共より出させ候筈

一百姓共家々不相應に米相見候はゝ他國米を見知候者差遣縦見分は御國俵にて候共俵每之米を相改若し他國米にて候は急度可申付事

一掠米致候者は勿論重き御仕置可申付事

一掠米致候浦々村々共に其在所の者共へ重き過料出させ庄屋肝煎共をも急度可申付事

一他村へ掠入候米いつれ之浦へ揚け候共揚させ候浦へも吟味之上過料可申付其品により庄屋肝煎可爲越度事

一掠米致候者所之內より訴入并掠米見改め候者へ重く褒美取らせ可申勿論見改候米も取らせ可申事

以上

辰五月

寶暦三酉年　　　　　　　　　　　　　　貳　步　口　奉　行

此度他所米取扱之儀に付別紙之通取扱申筈捌之口前所にて右書面之趣取扱候樣被申付右別紙壹通

御渡し可有候

八月

覺

一他所米多賣捌き候付地米捌兼候付自今旅船地船に不限他所米當町にて賣捌申度筋は其積米之石數に應し御藏米之内切手にて買受可申候　其上にて正米請取方之儀者　其節傳法御藏にて承合賣捌申等候

一右之通に付他所米千石積廻り候節御藏米七百石買受申等候米高多少右步合を以買取可申等件之品に付他所米積參候船頭早速問屋へ參候て左之通書付出候等

覺

一御藏米七百石也

右當時御直段にて御拂可被下候右代銀上納之儀は私此度積廻り候米千石拂代銀にて問屋より直に上納可仕候依之奉願候已上

酉十月

何郡何村誰舟船頭　何右衞門

米問屋何町何屋　何右衞門

傳法御藏所

右願指出聞屆候上積米水揚致候等右聞屆不相濟內少にても水揚不致等

一右御藏米切手買取米出し方之儀は傳法御藏へ早速可承合候右米出之儀は廿日迄は御藏に預け置候

儀勝手次第之事候代銀は積廻り候米代之内より問屋共受取早速上納可仕候尤延ちゝみ之事難計に付日數廿日程之內上納仕候筈若又早速出船仕度船は右御藏米買受代早く上納濟候はゝ勝手次第出船可致候

一右御藏米賣拂候節問屋共へ相應之口錢船手より受取申筈

一他國米積候て若山へ川入致し候節は積廻り候米高書付船頭幷問屋名前にて早々書付を以相斷申筈

一右御藏米買候儀不得心之船頭は地船にても旅船にても當町にて他所米賣拂候儀は相成不申筈

一御藏米買取候儀は承知にて候へ共此度米船と相斷不申船は當分他所米當町にて賣拂候儀相調不申候此上出來新造は願不相濟內は右同斷之筈

一地舟共有田日高より御年貢米積廻り候儀左之通に候

一御年貢米傳法入筋積參候節は庄屋印形に大庄屋奥印口前所加判之送狀にて積參若山川口入致候節夫々御代官所へ相斷改濟候との趣御代官所にて送り狀の裏書取候上水揚可致候若し傳法入申付候員數と大庄屋庄屋送り狀過米に候へは吟味の上急度可申付候

一御切米夏かし筋當人直出し候幷買受出來候筋共右同斷

一給人へ可納米積參候節右同斷之送狀にて着船則賄方役所へ相斷右同斷裏書取水揚致候筈尤給人知行高より過米積廻り候はゝ吟味之上急度可申付候右時々之送り狀賄方役所にて相改相違可申候

一格減諸返納米浮置米積廻り候節も右同斷

一右之貳株之外利米納ると右同斷郡奉行へ相斷申筈

右三箇條之外の米は先廻り方相見不申候付右三品之外之米は送り狀有之候共一通町役所へ相屆差圖受可申事

右之趣能々相心得間違無之樣取扱可申候万一心得違之筋有之候はゝ問屋船方共可及難儀候隨分入念取扱可申候已上

八　月

別紙之趣加太浦より印南浦迄之口前所へ早々御通入念相改候樣御申付可被成候已上

九月十二日　　　　　　　　　　　　　　筑　紫　久　左　衞　門

前　田　文　太　夫　樣

西　島　銀　右　衞　門　樣

他所米積船着船いたし何れの浦へ水揚け致候との儀其所問屋船宿へ申村役人方へ船頭同道にて參何米何程積參り當浦誰方へ揚申度候間御藏米御買受申度候間御願被下候樣にと相斷右書付村役人口前所へ持參相渡候へは水揚け致候樣にと口前所より申通客に候此段相心得可申候

一下地より水揚け致有之候他所米外浦へ積廻り候へは右入船同前左之通相心得可申候

在々浦所にて

一上け置米積出候節先々へ着いたし其浦所へ水揚致候はゝ前段入船米同斷相心得御藏米買受申度との斷申出候樣其上にて水揚之差圖可有之候

右之通相心得可申事

九　月

他領より持越候米之儀に付別紙之通相改させ候筈候間書面之趣夫々口前所へ入念御申付可被成候尤在々へも相心得させ候筈郡奉行中へも相通申候已上

九月十二日

筑　紫　久　左　衞　門

前　田　文　太　夫　様

西　嶋　銀　右　衞　門　様

此度他所米積參候船若山幷在中浦々共問屋船宿へ早速相斷口前所又は大庄屋元へ相屆積參候米高相應に御藏米買受申元究り候川上筋より䑳（艜カ）にて積下り候米湊川口番所へ斷内川へ乘入申筈

一紀泉境又は紀の川筋寺領越候他國米之儀も步行荷にて通り候儀は其通り馬に附或は人數多一度に持通り候筋は何方へ持通候との儀岩出粉川高野辻橋本右口前所にて改御領分にて賣拂候儀に候はゝ相應に御藏米買せ候筈に候尤右改書付取置米は通し候て右書付便次第會所在方役所へ差出候樣右之通入念取扱可申事

酉九月

文化十酉年十二月廿六日

高野山總分方領内へ他國米買入之儀に付同山より寺社奉行へ請願之趣

覺　樹　院

口　上

一高野山總分方領內之儀者山分之地所多く御座候故領分作米にては飯料幷酒造米等不足にて御座候故領內之者共無據他國へ罷越交易米又は酒造米等買得仕廻船之節御當地問屋岩出屋惣五郞岡屋文兵衞右兩人之內へ相附石に付壹匁つゝ御口銀差上無滯是迄御通被成下候處今般米御仕入方可被仰付趣にて總分方領分淸水村九度山村三谷村龐生津組北涌村等へ御國領御役人兩人つゝ御立越右村々にて年中賣捌候米高石數書付印形相加へ問屋迄差出候樣御申渡有之猶又他國米買得致し來候ても以來運送不相成米入用之者へは御仕入方より可遣之旨問屋岩出屋惣五郞より前段村々へ申越候付此節直段尋合候處世間一統之相場と大分咬違候付米買喰仕候末々之者共難儀迷惑仕候右之通にては一同難立行樣可相成と甚以難け歎奉存候間他國にて買得米是迄通にて運送御免被爲成下候樣御願申上被下候樣前件村々之者共歎出候に付無據御訴訟申上候間何卒以御仁惠是迄之通にて運送御免被成遣被下候儀宜敷御沙汰奉願候若又御國政に差障候儀御座候はゝ幾重にも勘弁仕聊御差支不相成樣領分之者共へ可申付候間宜御取扱被成下候樣偏に奉希候已上

文化十酉十二月

寺社御奉行所

下け紙に

本文御願申上候儀者寺領內一統と申儀にては無御座總分方領內計格別難澁に付御願申上候儀御

座候

右に付如何可及答哉と御勘定奉行へ紹介之處左之趣回答有之樣翌文化十一戌年正月廿三日御勘定奉行御答により寺社奉行より覺樹院へ申聞

高野山總分方總代

覺　樹　院

一高野山總分方領內作米にては不足に付他國米當所問屋共へ付け寺領へ被積廻候處此度右積登被差留候趣被及承是迄之通被成下候樣寺領百姓共相願候付是迄之通相成候樣被致度若又國政に差支候儀も候者幾重にも勘弁可被有之旨先達而其院を以書付被差出候付及取扱候處被入念候達之趣令承知候右は一圓差留候品には無之總分方領內入用米之儀は先規之通問屋へ付被積登候儀者何等差支之儀無之候然共右取扱猥に相成候ては國事にも差支候事に付從來改方嚴重に取計候事候へ共寺領之儀は格別之譯にて問屋申付是迄他所米被差入候事候處百姓飯料而已にも無之寺領商人共一己之利潤を以寺領入用之積にて問屋共と及相對石數積登領分幷和州邊へ賣出し候趣にも相聞尤直段引合候節は夥敷差入不引合節は僅ならては差入無之全く商賣之業と相聞候件之通他方へ積送且猥に領分へ紛入候ては國事に差支候儀も有之に付改方行屆候爲仕入方より改相渡させ候事に付寺領へ被積登且百姓共飯料等不差支樣仕來之通を以勝手次第に積登可然事候併年々積登方何程之事と被聞及候哉近來之趣にては寺領知高と飯米石數不都合之石數に有之書面之趣業に至致齟齬相見え候間得と吟味之上已來寺領へ被積取候他國米泉州より領分を越步行荷にて被取寄候石數共其時々何

國誰方より寺領何村飯料百姓誰へ買入被積廻又は何々に付被積登候との品重立候寺院より拙者共へ可被相届候左候はゝ其役手へ可相達候總て米價及下直候ては諸家方差支候譯を以近來公儀にても厚御世話有之於領分も同樣之儀寺領とも其心得可被有之儀と存候何れにも國政に不障樣勘弁被有之度事

一前段之通近來追々猥に相成他國米領分へ紛入候ては國事に差支候付向後被積取候他國米改方嚴重に申付船手運送等も入念吟味申付品により船中へも役人乘組せ吟味申付儀も可有之候間此段も被心得候樣

但領分之者共儀者追々及吟味候間追て及掛合候儀も可有之候和州領へ越米之儀に付ては品に寄公邊へも御申させ之儀も可有之候此段も心得に申置候

然るに猶又左之書付を覺樹院再出す

口上覺

高野山總分方總代

覺　樹　院

一高野山總分方領内作米にては不足に付他國米買入通行之儀百姓共願出候付是迄之通被成下度段御願申上候所早速御取扱被成下結構御聞濟被成遣候段末々之者共難有狩千万忝奉存候

一寺領商人共一己之利潤を以寺領入用之積にて問屋共と及相對石數積取和州邊へ積送且猥に御領分へ紛入候ては御國事に御差支に相成候段被　仰聞承知仕候間決て左樣之儀無之樣商人共へ嚴敷可申付候

一御國御領山分之者共薪持當領へ持出し麥米と致交易又は夏秋働なとに末々之者多は賃錢麥米にて相渡候由に御座候是等之儀御差支にも相成間敷哉御伺申上候事

一他國米泉州より歩荷にて寺領へ取寄候儀は前々より無之旨商人共申之候向後迚も歩荷にて取寄候儀無之樣入念可申渡候間左樣御承知可被下候

一此後寺領へ積取候他國米其時々何國何村誰より寺領何村飯料に百姓誰へ買入積廻し又は何々に付積登候との品重立候寺院より各樣へ御屆申候はゝ其役手へ御達可被下段承知仕候自今他國米當領へ買入候節は興山寺奏者明慶院より印紙を以何國何方誰より米何百石當領何村誰へ飯米又は何々入用に買受候間御通被下度旨御斷可申上候間左樣御承知可被下候

一寺領內へ買取候飯米增減之儀は諸國より高野參詣旅人之多少又は諸普請等之多少にて諸方より入込候人數に增減御座候故入用之飯料幷造酒米之多少有之候間此段御聞置可被下候

一先日御口達書を以被　仰聞候御儀逐一承知仕候御國事に差障候儀は急度爲致申間敷候間若御差支に相成候筋御座候はゝ可被　仰下候依之御禮旁御請申上候樣本山より申越候付參上仕候已上

高野山總分方總代

覺　樹　院

二月廿二日

寺社御奉行所

右に付覺樹院へ再答

一高野山總分方領內へ他國米爲積登候一件に付猶又爲挨拶口上書之趣被入念候儀令承知候是迄之致方紀をも申付有之候付猶申見候品學侶方了簡承追て可申入候

一寺領商人共一己之利潤に泥寺領入用之積にて他國米石數積取和州邊井領分へ賣出候趣にも相聞國事に差支候儀も有之付其段及懸合候處左樣之儀決て無之樣商人共へ嚴敷可被申付旨是又令承知候

一領分之者薪持寺領へ持出麥米と致交易或は働に出候者多は賃錢米にて相渡候由是等之儀は差支にも相成間敷哉問合之趣是又被入念候儀令承知候領內へ他國米入候儀は國事にも差支候に付米にて相渡候儀は無之樣存候事

一他國米泉州より步荷にて寺領へ取寄候儀は前々より無之旨商人共申之候由右は總分方領分へは取寄不申との儀に候哉何れの領分との儀は難相分候へ共寺領へ步荷にては越米高四五年之處書拔別紙差遣候事

但此儀に付領分百姓共心得違も可有之哉紀中に有之事

一自今他國米寺領へ買入候節は興山寺奏者明慶院より印紙を以入用石數之品被相斷候旨令承知候

一寺領內へ買取候飯米增減之儀は諸方より入込候人數又は諸普請造酒米之多少有之候付此段心得置候樣尤之儀に令承知候

三　月

口達之覺

一領內へ他國米掠入候者有之候へは可爲死罪掟に候然に寺領之者馴合領內へ他國米紛入候者も有之

由相聞候村嚴敷吟味申付候筈候へ共靈場へ寺領より事起し多之人命を損候ては大師の冥慮如何可有之哉と役人共にも致斟酌是迄之儀は不及沙汰樣仕度旨申出有之申見居候事に候間寺領にても其心得可有之事

寺領へ歩荷越米五箇年分

文化六巳年

一米百拾八石 泉州より越米 岩出改
一米千貳百三拾石 大和河内より越米 橋本改

小以千三百四拾八石

同七午年

一米貳百七拾壹石四斗四升 泉州越 右同
一同千百八拾貳石四斗 大和河内越 右同

小以千四百五拾三石八斗四升

同八未年

一米七拾九石九斗八升 泉州越 右同
一同八百拾八石八斗 大和河内越 右同

小以八百九拾八石七斗八升

同九申年

一米四百六拾三石三斗四升 泉州越 右同
一同四百九拾石 大和河内越 右同

小以九百五拾三石三斗四升

同十酉年

一米三百七拾六石壹斗六升　泉州越 右同　一同五百四石六斗　大和河内越 右同

小以八百八拾石七斗六升

右之通

結局左之受書差出す

口上　覺樹院

一高野山總分方領内へ他國米差入候一件御内談申上候通領内之者共直きに買入候筋も御仕入方御役所へ一旦揚御改を受積登候等且又登米之内半分通者是迄之通他國米直買に仕半分通御仕入方御請替米申受先當分之所御内談之通御取扱相試候て可然猶御仕入方へ揚させ縦御失却共御座候共右に不拘御制賃等者是迄之通之御事

一馬荷歩行荷等其外紛敷品は御役所より急度御差留尤和州へ越米之儀は勿論無之筈之御事

一若山町内にて買受差登候筋も紛無之爲め壹通寺領問屋より御役所へ斷申上候樣可申付との御事

前段之趣被　仰聞承知仕候因茲爲御請如斯御座候已上

文化十一戌五月　日

在中獻金之者褒賞規程

一在々地士其他より金圓獻納在中の普請を助成し乃至貧民救助等に義捐の者往々少からず、之を勸農働きの者と稱す、此獻金義捐之多寡に應して苗字帶刀を許し、又は地士に命し平地士は御代官直

支配熨斗目着用御勘定奉行直支配等に昇格、以て其奇特を賞し且つ他を奬勵すること從來之制にして、其事御代官より御勘定奉行へ具申し同職にて調査賞與を行ふ也、賞與の規定從來表中朱書を以て標準となしたるに、追々獻金請願の者增加の由にて、嘉永四亥年より二表の如く更正、然るに嘉永六丑年諸政改革の際より褒賞の事一時停止せられしか、後在中修繕の箇所も增加に傾き官費のみにては行屆難く、獻金奬勵復舊の事再應御代官より具狀もあり、國費多端の時殊に海防を要する際帶刀人等增加せしめば、浦組人數の便法たるへきとの主意を以て、舊新を折中し更に三表の標準を以て獻金賞與施行致度旨安政六未年十一月御勘定奉行より政府へ稟請、允許を經て爾來此規定に準據すと云ふ、其表左の如し

御勘定奉行より政府への稟請書頗る蕪雜なれは今摘要略載す且つ定額書も表に更記す

在々勸農出金を以御賞振見當高極

身分	獻金額	二同上	三同上	褒賞規程
平地士	「二十兩以上」	四十兩	三十兩	「熨斗目着に」
同	「四十兩以上」	八十兩	六十兩	「代々のしめ着に」
同	「七十兩以上」	百四十兩	百兩	「御勘定奉行直支配に」
同	「百五十兩以上」	三百兩	二百三十兩	「代々右同斷に」
のしめ地士	「二十兩以上」	四十兩	三十兩	「代々のしめ着に」
同	「五十兩以上」	百兩	七十兩	「御勘定奉行直支配に」

御勘定奉行直支配地士	「七十両以上」	百四十両	百両	「代々右同断に」
	「拾両以上」	二十両	十五両	「脇差差免に」
	「拾両以上」	二十両	十五両	「苗字差免に」
	「貳拾両以上」	四十両	三十両	「苗字脇差差免に」
	「四拾両以上」	八十両	六十両	「代々苗字脇指差免に」
	「拾五両以上」	三十両	二十両	「旅行苗字脇指差免に」
	「原書落記の由委細は万延元申十一月 箕嶋村助九郎取調之處留ありさ」		四十両	「代々旅行苗字脇指に」
	「貳拾両以上」	四十両	三十両	「旅行苗字帯刀差免に」
	「四拾両以上」	八十両	六十両	「代々右同断に」
	「五拾両以上」	百両	七十両	「苗字帯刀差免に」
	「七拾両以上」	百四拾両	百両	「代々右同断に」
	「百両以上」	二百両	百五十両	「地士に」

地士御目見已上之格合昇進は抜群之功なくては難取計尤政府へ御内談もの

直支配以下の地士	「貳拾両以上」	四十両	三十両	「御代官直支配に」
同	「四拾両以上」	八十両	六十両	「代々右同断に」
			五十両以上	「本斗渡り壹人扶持に」
			百両	「同代々壹人扶持に」

南紀德川史卷之九十三

臣 堀内 信 編

郡制第五

歷世郡治大概

緒言

按に郡治の制度近世は專ら前篇揭る所に準據せしものゝ如し、然れ共該編は多く法規條例の類集に止り年紀を揭けされは、歷世施政の如何制度沿革の躰裁等連續達觀を不得、國初已來數百年間に於ける郡政時々の法令百般の治術は、豈に是のみならんや繁雜多端を極めし事必せり、而して今や元簿既に散逸考査の術なし、依て唯世譜初め甲乙散見する處と他古記錄の存するものを拾蒐歷世年紀に隨て列叙す、猶疎密斷續不倫を不免の嫌あれ共、粗古來封內の敎化撫育窮民救恤稼穡棗勵殖產開拓山林水利の保管修築等の治蹟歷々見得て明かならん、盛德厚生至れる哉、

一郡治の事歷世の世紀既に揭るものありと雖も、冗長細雜詳記に堪へさるもの將た該記に遺漏を不免あり、此編は苟も郡治に關する分を蒐集敢て遺脫なからしむ、世紀既に詳記のものは爰に略するあり交互參照を要す、

一元祿七年より同十四年迄在方被仰渡帳と云は、該八年間郡治に係る法令を寶曆十二年に至り御勘

定所にて輯錄、在方被仰渡帳と題し各郡へ一部つゝ配村、村々にて謄寫彌可遵奉旨郡令より布達したるもの也、此記奥熊野尾鷲浦地士土井八郎兵衛所藏古記中より發見し得たり、渠は世々大庄屋に就職依て其當時謄寫せしものならん、元來元祿令なるにより之を　淸溪公に掲く、

書中年次前後のものありと雖も原本のまゝを掲けて敢て改めす、

一郡方手鑑なるもの亦土井八郎兵衛所藏の古記錄中より得る處也、專ら奥熊野に係る公文を記する如しと雖も一般の郡治に係るもの亦尠からす、且一郡を擧け以て他郡自から推知せらるへき也年紀寛永慶安万治元祿享保元文寶曆に渉るありと雖も支干のみの分はいつ比たるを判すへからす、

原書左の小叙あり、

此書は紀奥熊野木本郡御役所年中行事並に先年より之御定目其外御取扱振等委細記郡中組村の仕分地士名前に至る迄委記之明和五年子霜月木本西川久兵衛所持有之寫と有之寫本(そと)(本のまゝ)所持有之土井嘉八郎役中に記し置也

之に依れは明和以前に係るは論を待すして全く享保元文寶曆間の公文多き如し、故に今假に之を大慧公の部に掲載す、畢竟是に限るには非す前後　數公間に關連する法令と雖も分記しかたきか故也、而して寛永乃至元祿の分は舊令を示し明和已降の分は後に補記したるものと察せらる、

原書文簡古且誤寫多く殆と讀下しかたき處あり、今不明と朱書「　」して敢て添削を加へす、唯少しく錯雜を訂正號數を「　」(朱書)して閲覽に便す、

一在中之孝子節婦を褒賞旌表の事歴世最多し、別に孝子傳あるあり爰に畧す、
一歴世中水利疏鑿田野開拓殖産興業等公私起業の事實は、蓋し此編所載のみに止らさるへしと雖も今詳悉する能はす唯存記の分を掲く、
一市制の事別に編せさるを以て其法令の如き此編に合記す、
一紀勢封内巡視乃至放鷹遊覽の事　龍祖以降尠からす、單に郡治に係るや否は判し難きを以て本譜に譲り爰に記さす
一菩提心公　觀自在公　憲章公等記事なきは編纂の料傳わらさるなり
一清溪公　香嚴公の時高野騷擾の事あり元祿度には出兵すと雖も唯警備に止り、且他領の事我か治に關せさるを以て記さす、

南龍公

一御就封後直ちに有田密柑の繁殖を奬勵せらる
有田密柑の濫觴は遠く天正二年同郡中番村孫右衛門肥後國八代より移植苦心丹精に起因すと雖も　國祖御就封以來特に督勵保護を與へられしにより益々隆盛に至れり尤も輸出販賣其自由に放任しつゝも爾來世々に於ける保護之術一朝の故に非すと云中番村蜜柑荷親林小右衛門及ひ同郡田殿村矢船傳の舊記あり物産の部に詳記す孫右衛門の事は俊傑傳にあり
一熊野浦鯨獵の事亦御奬勵捕獲の方術講究せらる

南龍公
有田蜜柑奬勵
熊野浦捕鯨之事

鯨獵の事は御入國前慶長十一年太地角右衛門の祖先和田忠兵衛創業　國祖御入國以來益々其術を御奬勵兼て海軍の備に擬し給ふ則ち御世記御言行の部に揭けし如く湯崎にて鯨船五百艘を連ね隊伍を建旗幟を設け吹螺以て號をなし鯨到れは其船を指揮して之を捕ふと云々又寛文四年に始て鯨船とて漆にて五彩に塗りたる疾艇箭の如き飛船を製せられ業益盛大に至り紀州物產の大名を博す事は物產の部に詳也

漁村被開拓

一元和年中有田郡矢櫃村の漁村を開かせらる

矢櫃浦もと人家なかりしに元和年中　龍祖熊野御巡回の比海上御遊覽の時屢召して鮑を爰に捕らせ給ひ牟婁郡太田の莊津賀浦の漁夫茂兵衛同妻くま茂太夫同妻ちよ右四人の者を此地に召し漁業をなさしめられ依て海老船三艘鮑取船三艘を賜ひ諸役免許あり之より子孫次第に繁殖分家漁人群居に至る皆四人の子孫にして他より入來るものなし故に漁人等公恩を感戴し御像を彫み社を建て產土神と崇奉ると云々

日高郡龍神溫泉の開發

一元和の頃日高郡龍神溫泉の浴室を建設し村民に賜ふ

日高郡龍神村の溫泉はいつれの病にも驗あれともわきて楊梅瘡にて年久しくなやめるには奇しき功驗あり元和の頃に至りて始て功驗顯れしかは君命ありて浴室を造らしめ六軒の家を建させ給ひて龍神の內殿垣內の百姓に賜ふ其他此地に家居するもの皆家地を免許せらるといふ故に浴室五區とも官より修造あり漸々に十三軒に及ひ寶永七年新に十三軒を定めて旅舍とし除地免許帳を賜ふ今十三軒の地割きて十九軒となると續風土記にあり

按に　村民共　公の御徳恩を感戴し社殿を構造産土神と崇め　南龍神社と稱すといふ明治に至り和歌山縣鳳神社明細帳には　龍祖寛永年中龍神へ被爲成し時湯本旅舍地の租を免せられし故を以て爰に祭祀社殿四尺四面境内四坪民有地第一種大字龍神中十九人持云々とあるよしなり

熊野蜂蜜の事

一熊野蜂蜜之事酒井九左衛門へ被　仰付

酒井九左衛門忠明（駿河にて御秘密御内々御用相勤御入國之節御供仕御服番並勤）へ御入國後御領分打廻り重寶に可相成儀見立候樣被

仰付相廻候處熊野にて蜜を見立其段申上候處巢の致方收（一本時）節等教へ末々多出候樣可仕旨被

仰出山内へ入込教へ遣し右の蜜御献上被遊御煉藥御用の節等差上候と云々

九左衛門は寛永十四年八月病死す

檀村開墾

一檀村開墾を安藤忠兵衛へ被　仰付（檀村今段村と書す那賀郡井中村下井坂村の東八町紀の川の南涯にあり）

南龍院樣御入國之後所々御巡覽被遊檀村祇園の檀へ御登り被遊只今檀村新田之處原にて御座候を御覽被遊候て御供之安藤忠兵衛へ田地に開き候はゝ可然其方一力にて新田を開く望みも有之候はゝ可被下との　御意に付奉畏則新田を開き申候年暦は寛永三年と承及申候其節其方追て隱居仕候はゝ此邊へ隱居所を建候樣にとの　御意にて難有奉畏候（安藤忠兵衛家譜○開墾地は段村之辰の方七丁半にあり元祿十五年撿地ありて新に村と稱す紀州御領分高帳に高五拾二石六斗と記せり）

勢州野町野村開墾

一寛永七年午十二月勢州奄藝郡野町野村の開墾を被命永代無年貢之旨被　仰出

開墾御由緒書

伊勢國奄藝郡野町野村は河曲郡神戸驛より通行の近邊にして元高賀野と申曠漠たる原野之處寛永七年午十二月　南龍院樣御鷹野に被爲成候節廣き野原にて往來の旅人不用心なる間此地を開墾し

て百姓を出し村役爲致候はゝ往來の者共の助に可成と　御意被遊其節白子村御代官松下助左衛門
へ御直筆にて御鳥見稲生村今村久兵衛宛にて高賀野へ罷出百姓致者有之候はゝ田畑何程にても開
起爲致家造り等勝手に爲造可申依て右開墾地之儀永代無年貢被　仰付

一正保元甲申年正月廿日鹽屋古里（現今本村大字稲生の内）より拾三戸出屋敷をなして新田切開に從事す

一同四亥年左之御証文被下

定

一池堤無油斷可相守事

一道橋繕之儀は野村へ付申分は無油斷可仕事

一村次人足之儀は本郷並其村に應して可仕事

　但御鷹之餌持送は本郷より可勤也

　右三ヶ條之外は諸役令赦免者也

正保四年亥の　　　久　外記書判

　正月十一日　　　三　長門書判

白子新田野村百姓中

野町へも同斷之由

一寛永七年より漸々開起正德元年改め反別左の如し

　反別八町六畝歩

内田貳町八反六畝歩　畑四町貳反九畝歩　屋敷九反壹畝歩

一享保九年より爲冥加度々御撿地を請け左の地所の分米貳石七斗壹升四合つゝ貢租上納仕來り申候

新起田畑反別貳町三反壹畝九歩

此高拾石七升三合

一享保年中御撿地の節戶數取調候處廿四戶有之追々增戶現今五十五軒に相成申候

一右之通　南龍院樣寬大の御仁恤を以新田永々御免許地に被成下候處明治八年地租御改正之際撿地左の通一般之稅法に相成る

反別三十三町四反七畝廿四步

地價壹万三千七百六十二圓九拾六錢壹厘

此地租百分の貳ヶ半　金三百四十四圓〇七錢四厘

此譯　田　十四町五反七畝廿四步　地價八千四百十七圓廿三錢三厘

畑　十六町四反十九步　地價四千二百六十八圓八十二錢二厘

宅地　二町四反九畝十二步　地價千七拾六圓九十錢六厘

試作畑　貳町三反八畝廿七步

一山林原野反別廿六町七反三畝九步

一南龍院樣寬文十一年薨去之節御高恩之程一同難有奉存爲冥加御位牌を安置永世奉祀仕度旨願上け御國より御位牌御差送り相成候付村內字西宮へ御靈屋を設け奉納仕御命日正月十日八月十日右兩

日を祭日とし御紋付の幟を立戸毎に提灯を燈し村中一同祭典執行于今退轉不仕常夜燈も従前より一夜も無怠惰戸毎に持廻り燈明差上け來候事

右者明治十三年十一月　世子公勢州御舊領地御巡視之際野町野村へ被爲入開墾之御由緒御質問に對し野町新田總代坂崎庄之助初より答へ奉りし處也元來該村は悉皆溜掛りの耕地中へ數十日間雨なき時は忽ち旱損を受るを以て改租以來頗る疲弊に陷り加之二百五十年余の久しき無稅之恩惠に馴れ却て安逸に傾き廿余町の原野も再ひ開發の氣力を失ひたるに村方有志之者　龍祖の御旨志に背き且村方困窮を憂ひ遂に地續き白子村江島村三ヶ村と協力し鈴鹿郡平野村鬼ヶ淵を水源とし（當村を距る三千間間の）井水路をひらき旱損の患なからしめ今や二十六町余の空原も全く開墾を遂け戸數も六十軒余に相增し窮民壹人も無之に至れり是偏に　龍祖の御恩澤万世忘るへからすと村方一同今に至て日夜歡喜に不堪處なるよし稲生村稲生一忠（伊奈冨神社々司）參邸之際親しく信に語れり

室崎に常燈明設置

一寛永十三年牟婁郡室崎に常燈明を設置せらる

廻船の表準となす此より燈明か崎の名ありといふ

寛永中市在へ之法令

一寛永中市在へ法令を敷かるゝ事如左

百姓へ之御法度

百姓へ之御法度

撿見免合

一郡中撿見免相之儀每年念を入申付候へ共彌一村の内にても當毛の上中下を以給人知行高分の時分高下の積りを以諸事考可相定事

一村々下撿見之儀は大庄屋相濟申郡は大庄屋幷村々庄屋にも依怙贔屓不仕樣に郡奉行於眼前堅誓

紙を致させ下たならし之儀高下の積能仕分候樣可申付事
右之趣相定上大庄屋小庄屋下ならし之儀に付ては依怙贔屓仕候はゝ急度曲事可申付者也
寛永十二年亥八月廿六日

一在々にて旅酒賣買法度可申付事
町人へ之御法度
一絹紬之儀一反に付て大工のかねにて長け三丈四尺巾一尺四寸たるへき事
一布木綿之儀一反に付大工のかねにて長け三丈四尺巾一尺三寸たるへき事
右之通此以前より被相定之處近年猥に有之間向後書面の寸尺より不省に織出す輩有之は可爲曲事來巳年秋中より改之不足の分見出し次第可取之間諸國在々所々に於て可存其趣者也
辰七月十三日
百姓共に可申聞條々
一吉利支丹宗門之儀常々無油斷吟味可仕事
一御慈悲深く百姓のだち候樣にとの御仕置也就夫御ゆるかせなれは百姓おこり候也或は侍のまね或は衣類食物迄昔より見聞ぬ物をも調候はん樣に存故いかほと御ゆるかせに被　仰付と言共其かひなくして結句其初より草臥候事も有之者也左樣の所はおごる心を止る樣に可申付者也分々程々堅心得可申事
一郡奉行見そこなひ又は無念にいたし百姓いたみ申儀申付時　公儀より當年はきつく被　仰付な

とゝ下々に存候はん儀相違之事

一郡奉行は起請文の上なれは其眼力次第と被　仰付也然る間見そこない相違有之民之いたみあらは早々奉行を替可被下之旨急可申上との儀也

一鄉高田畠の上中下幷もり付以下書付可申事

一水帳無之所寫帳郡奉行へ相渡可申事

一庄屋おとな百姓小百姓作相出入幷下代大庄屋非義なる事候はゝ可申上付右之者共依怙贔屓仕小百姓獨身のもの又は愚痴まつほうの者共なとはせりかけられ御仕置も如此かと迷惑に可存相違の事加様の時能々可申上指引被　仰付可被下との儀也御代官郡奉行は彌以右之通可被　仰付候旨其心得可仕也

一公事御さはきの以後申分は有之間敷候へ共自然存道も候はゝ可申出事

一兼々被　仰付候通他國へ奉公幷日用に參候はゝ所の庄屋に斷候て可參候又庄屋は代官郡奉行に可斷ことはりなくして遣し候はゝ可爲曲事

一奉公人之儀は主人は江戶に年をも重相詰候共下々の儀は約束の時分無相違暇を出申等に去年より被　仰出候間相心得可申事

一何事に不依自然御用之事在之剋は　公儀よりいつ迄罷在候へとの仰出可有之御國の者の御奉公には堅く可相勤御指圖より前に欠落仕候はゝ親類迄可爲曲事也常は右の如く約束之日數にて可罷歸との儀也幷奉公人切米の事は金銀にても米にても相對次第にと被　仰付候間其意得可仕事

一壹年の約束の內にてもきつき主人有之堪忍なりかたき者は御橫目役へ隱密にて斷可申其申分もなく沙汰なしに欠落仕候はゝかけおちの咎に可被　仰付事

巳二月四日

按に　巳は寬永十八巳年なるへし本記監察府の筆記には奉公人之儀云々の前に別紙之御書付と題し以下三條を別項となす而して支月日なし今御定法書に據る

町中諸法度

一先年より每度如被　仰付吉利支丹宗門今以堅く御法度也其組の穿鑿常に無油斷少しもうたかはしき者於有之者早速奉行所へ可申斷もしかくしおき候はゝ可爲重科事

一請人無之者に一夜の宿をもかし申間敷候縱ひ請人有之といへとも疑はしき者をは其町組中より早速奉行所へ可申斷若他國の旅人商人飛脚物まうては一夜の宿をかし可申候慥成者と相見え候はゝ二夜三夜の儀は苦しかるましく候乍去宿借し申者をは組中へかくし申間敷事

一手負科人走者男女共に於在之は早速奉行所へ可申斷其よしみたりと言共於隱置は五人組は勿論其町年寄共可爲曲事者也

一他國より科人追かけ來候はゝ奉行所へ早々可申斷事

一於町中盜人幷喧嘩辻切其外狼籍者有之は其町前後の木戶をさし留置其理りを聞屆け早々町奉行へ可申若其者はたらき留兼候におひてはうちたをし置其旨を可申達事

一夜に入門立辻立橋の上に不可立遊幷ほうからけひさしひたひえたひけ置申間敷事　附辻立橋之上におゐて尺八ふき申間敷事

一何事に不限かけはくちの勝負停止たり若し相背の者於有之は早速其町組中より可申出かくしおくに於ては本人は不及言五人組并其町の年寄共可爲罪科事
一公事沙汰之時下々にて可相濟儀は町の年寄共肝煎候て和睦させ可申也我身にかゝらぬ事とて不和躰にて捨置無詮事共公事に取結はせ其者も及迷惑儀其町の年寄肝煎可爲越度事
一町之者他國へ奉公并日傭に一切不可參若可參の子細於有之者其町の年寄共組中へ斷可受指圖事
一御國之者他國よりよひ抱に來る時其町組中年寄共手形なくして隱密に參り申間敷事
一何事によらす他國より隱密に賴事有之時其町年寄組中へも知せすして私に合點仕間敷也況て金銀を與へ騙し語ひ候儀有之時早速町奉行へ可申斷也私に金銀をかくし取に於ては可爲曲事者也
一質物取候時うたかはしき道具於有之は其町組中へ相届け質置者の宿をも見届穿鑿いたし不苦ものを質に取可申事
一町人として不似合武士のまねを仕大脇差をさし申間敷事
一自然いかやうの儀有之と言共奉行所へ不相達以前に騷動仕間敷候總て物每心うつりあさはかにならさるやうに可相嗜事

定制札寫　「定法には紀州橋辻の制札さあり」

一徒黨を結ひ或は起請文を書ちかへ或は神水を呑合一味同心仕候儀もとより天下の御法度也如此之輩は縱へ理分在之共可成非分也
一人賣買一圓停止たり若猥之輩於在之者其輕重をわかち或は死罪或は可爲過料事　附り宿主口入人

可爲同罪事

一男女抱置年期拾ヶ年を限るべし拾年過は可爲曲事

一御上洛又は江戸御下向縦へ何方へ被成御座候共毎度一季居之諸奉公人所相定奉公相勤へし其內に欠落いたし候はゝ依罪科請人は不及言親類迄可爲曲事者也若主人非道に召つかひ候におゐては御目付中へ口上にて可申斷事

一請人無之者に一夜の宿も貸申間敷事まして手負咎人走り者男女共に在之におゐては早速奉行所へ可申斷之其好身たりと言共隱置におゐては五人組は勿論其町の年寄共可爲曲事者也

一他國より咎人追懸け來候はゝ奉行所へ早々可申斷事

一御國之者他國へ奉行幷日傭一切不可參若可參之子細於在之者其の町之年寄組中へ斷可受指圖事

一何事に不限かけはくちのせうぶ停止たり若違背之輩於在之者早速其町組中より可申出之隱置候はゝ本人は不及云五人組幷其町之年寄共可爲罪科事

右可相守此旨者由（也カ）

寬永十八年三月三日

「右監察府筆記に據る類集之內定法書には請人無之者云々之一條を脫し次記手負咎人云々、初四ヶ條を連記共に寬文元年閏八月の事とす然れ共監察府之分は前後年月日を明記且署名迄揭けて詳なり暫く其詳なるに從ふ」

一手負咎人走者男女共に於有之は早速奉行所へ可申斷之其好身たりといふとも隱置におゐては五人組は勿論其町の年寄可爲曲事

一於町中盜人幷喧嘩辻斬其外狠籍者有之は其町前後之木戶を閉留置其理を聞屆早々町奉行へ可申

之若其者働留兼候におゐては打倒置其旨を可申達之事
一夜に入門立辻立橋之上に不可立遊幷ゃうからけひさしひたひ下髪置申間敷事 附辻門橋の上におゐて尺八吹申間敷事
一若黨小者俄山伏或はこも僧なといたし候はゝ前の主人見出し次第譜代に可召仕事
可相守此旨者也依如件

寛文元年閏八月　日

三浦長門守

安藤帶刀

御領分へ可申付覺書

一吉利支丹宗門之儀者如前々堅改可申事
一往還之者不自由に無之様に宿かし可申候自然不審なるもの候はゝ逗留いたさせ候儀可爲無用事
一御領分より他國へ參候儀堅可爲無用先年より他國へ參居候ものは爲私よひ返し遣申儀可爲無用 但歸候はて不叶ものは郡奉行代官へうかゝひ指圖次第可仕事
一當春御目付衆御廻被成候時申上候より外何にても訴訟かましき事無之候哉自然申殘候儀於有之は可申上事
右之趣郡下在々へ急度可被申付候以上

寛永十八巳五月廿六日

海野兵左衛門

後藤彌次兵衛

一百姓之儀手前罷成者有之と言共奉公人之まねを致し無益之奢を仕總て衣類食物居躰諸事に付其際々と百姓に似合たる樣に可仕候儀數度被　仰出候間御國之内下々に至迄其覺悟仕可罷在候得共今度　上樣御奉行衆よりの御書出如此に有之上は彌其心得仕身をつゝめつゝき申樣に可仕事

一右之通わきまへす無益の儀仕耕作に精を不出者於有之は其村中として可申出候若左樣成者を隱置遲く申出しわき〳〵より相聞候はゝ其輕重を以村中へ御かゝり可被成候事

一來年よりは本田畑にたばこ不作樣にと　上樣御奉行衆より御書出候上は堅く作り申間敷事

一公儀御書出に有之上は常之儀をつとめ年貢等未進不仕候樣に可致事

一別て當年加樣の御慈悲を加へられ　仰出候時分辨へもなく百姓をつよくつかい申候地頭有之者御目付中へ可申出尤依其子細可有其沙汰事

午の七月五日　「寛永十九年年なるべし」

條々

一國中訴訟目安は奉行所へ持參可仕事

一町中訟訴目安は町奉行へ持參可仕事

一國中公事沙汰万事訴訟等有之時は何も寄合遂穿鑿吟味理非之段無依怙贔屓可致裁斷也下々の心上へ能通し諸事無遲延樣可仕也侍之儀は勿論町人百姓等に至迄退屈迷惑不仕樣常々可相心得事

一前々は遂催促及下問候へ共此度は不例爲保養先諸事無御構也乍去不克分別事は可及言上事

一先年より如相定万端に付驕之儀堅制禁たり彌無用之費無之樣に可相心得也　附可嗜之儀は油斷不

仕詮なき事に下々迄氣を不遣樣に年寄番頭可相心得事

右此旨可相守者也

寛永廿一年十月十一日　「以上の法令類集中定法書及び監察局筆記に據る」

若山湊總中之水主米免除

一寛永中水野淡路守の諫言を御採納若山湊總中之水主米を免し給ふ

六月時分松江西之庄へ御放鷹之御歸途湊御通行之節舂たる麥を莚に干し並へわつかに通路あきたるを町人百姓年中の粮を干たり供之者共踏むへからすと再三御制止に付壹人並に通行し少しも麥を不履けれは町人百姓共手を合せ御慈悲を奉添たり此事水野淡路守承り國守の御通りならは麥をも取入れ砂をもり水をまき馳走申へき也國主の慈悲は左樣の事にては有へからずと申けるを一々道理至極せりと被　仰御詮議有て五日目に湊總中水主米を　御免被成たり　御世記

祖公外記には水主米三百七十五石六斗之内二石四斗本多丹後屋敷にて百三石壹斗湊中へ御赦免万治二年亥十二月十四日夜湊水主米殘二百七拾石壹斗漁師二歩口共御赦免内町帆別米廿石五升四合此時御赦免湊浦肴運上定銀貳〆にて候を慶安三年寅十二月より二歩口に被　仰付候處去十二月十五日より御赦免之旨同三年子十一月被　仰出云々とあり

北中村海上池新築

一慶安二丑年那賀郡北中村海上池新築

紀伊國續風土記に曰く海上池は神領村海神宮山の上北中村領にあり慶安二丑年南龍公土功を命せられて成就す其棄樋の大造なる事二千金を費すといふ後其棄樋筋破れて民其害を蒙る近年修めて舊に復す其費用亦前の如しとそ池田岩出兩莊の內高二千八百三十二石餘の

田に漑く

一慶安三寅年春上那賀郡北志野村櫻池新築被　仰付屢々御親臨御督勵被遊三年にして落成す

按に上那賀郡北志野村の櫻池といへるは封内四箇の大池と唱る隨一にして此外神領の海神地三谷の春日池（以上共に那賀郡にあり）山東の龜池（名草郡）との四個は御斗普請と稱し諸營繕諸修復共一切藩府之直營其費用悉く藩庫の支辨に係り特別の資格を有する池なり那賀郡東部名手粉川の兩組草高凡壹万石の村落は那賀郡より割て之を伊都郡に屬せしめた依て此二組を上那賀と稱し或る場合には此二組に冠せしむるに伊都郡を以てしたる事もありしと而して此池築造中

龍祖は屢々實地へ御親臨普請を督勵又は慰藉遊され或時は池塘の無事竣功御祈願之爲志野明神（東屋神社と云池の側に鎭座す）の社頭に通夜し玉ひしと于今古老の口碑に傳ふるよし頃日同所粉川町大字中山の兒玉仲兒（嘗て國會議員たり）か七代の祖庄右衛門なる者が筆記に係る櫻池記錄寫といふ舊記を仲兒より一見を得たり同池用水分配之如きは該記中御證文寫の如く今に遵奉しありて該池の起原を記載したるものは此の書の外民間には殆と皆無といふも不可なかるへしと依て左に之を附記す

表紙に

上那賀櫻池記錄寫

享保十八年丑十月　　中山村　庄右衛門

表紙裏に櫻池御普請御取懸は慶安三年庚寅の春より三年の間に御普請出來仕候夫より元文四年未年迄八十九年に成出來立より同年迄八十七年に及申候尤天明三年卯年迄百三十一年に及

「此譯書に依て見れは享保十八年十月の書上書を天明三年に謄寫したるなるべし」

上那賀郡志野谷櫻池

櫻　池　　池守　嘉兵衛

同　伊兵衛

東西堤長上の平し　百五十間　南北堤上平し　六　間

堤根置南北六拾間深拾三間

但し波瀬多く入申候に付只今水溜り六間

堤天より地迄外法參拾五間

但し西樋と東樋との間に高貳間半の根石垣御座候

樋　數　拾貳　東樋六つ　西樋六つ

但し兩樋共三つ宛埋り申候に付只今三の樋迄拔け申候

伏樋長六拾間轉枕木總栂木八寸の樋にて御座候

但尺八樋同八寸樋木總栂木立木長三間半尺角檜木指木長三間尺角檜木平貫長壹間半厚八寸巾八寸檜木挾貫長一間半厚五寸巾尺檜木水蓋長壹間半厚八寸巾尺八寸但し指木樋開六寸一の樋より二、三、四、五、六迄の樋の間法り三間つゝ

一東側南北三百十七間　但池出來之節五百間御座候と申候

長田山根水際道内安瀧馳留堤長南北打樋共貳拾四間堤法九間打樋長十四間葺石

一西側南北貳百五拾間　但池出來之節は四百五拾間と申傳候尤志野山根水際道

一池首東西三拾六間
一當丑年水籠り御座候を兩樋拔け水下へ遣し申候片樋に仕時數貳百五十三時拔け申候
一打樋總長三百六拾壹間
内櫻池より奥の池迄　長八十四間　巾六間
但打樋筋に志野村へ掛り申候掛けを渡井に御座候
同奥の池へ打樋水落込池の內と葺石と長百三十三間
同奥の池より一の段　東西長十間　南北十一間
但水落口高壹間の石垣幷兩葺共
同二の段　東西長五間　南北巾十一間
但右同斷
同三の段　東西五間　南北十一間
但落口は四の段葺石へ水落申候
同四の段　大葺　東西貳拾四間　南北拾貳間
右大葺石より宮の池水落込申候宮の池東西拾貳間
宮の池より一段　東西長九間　南北巾十二間
但水落口高壹間の石垣兩葺庭西樋水門石蓋
同二の段　東西五間　南北拾貳間

但高壹間石垣兩葺

同三の段　　東西長五間　　南北巾拾貳間

　但右同斷

同四の段　　右同

　但同斷

同五の段　　右同

　但同斷

　此所は東樋溝筋南北兩方に關篗御座候溝路は粉川組田中組へ懸り申候半樋溝御座候

同下大芝　　東西貳拾四間　　南北巾拾四間

右大芝より川筋へ水落込申候高三間巾拾六間石垣芝四間に南北拾貳間

同下も　大葺石　　南北貳拾六間　　東西巾三間

一仮打樋　　東西巾四間　　南北長三十間

是は洪水之節本打樋水道はき不申候節仮打樋より奥の池東側へ水落込申候

　但志野村へ掛り申候掛けを渡井に御座候

右之通り兩樋溝路宮の池よ(本のまゝ)本斗御普請方より御普請被成候總本斗御普請場所

　御證文之寫

志野谷櫻池諸法之事

一壹の戸　五尺六寸　高百石に付九分掛り　内 貳尺三寸一分 上那賀 三尺貳寸九分 下那賀

一二の戸　四尺　高百石に付壹寸一分五厘四毛　内 貳尺五寸八分 下那賀 壹尺四寸貳分 上那賀

一水掛り上下も毛附水大庄屋相談の上無高下水引毛附仕廻い次第麺を指可申候

但し其村々池にて立毛仕付候處へは其池へ水籠返し可申候事

水引用の事村と池と水は何程（一字不明）候を池守役人上下見廻り大麺拔き候て可然時上下の大庄屋に斷

相談の上村々池共へ水籠可申事

一大麺拔の事は上下大庄屋相談の上其兩方にて無之共片方成共水不足の處吟味致拔可申候

一志野長田へは溝筋留り候間壹度か貳度は斷りの上日を定め拔かせ可申事

一池守五日三日に壹度つゝ替る〳〵水下の池々非溝筋用水時分見廻し可申事

右之通相談の上如此書付置候若し存寄の儀候はゝ可申合候以上

慶安五年

辰の卯月二日

木村七太夫判

松下半六判

高岡市左衛門判

渡邊七左衛門判

田中組大庄屋畑の上　久大夫

池田組大庄屋三谷村　彌太郎

粉川組大庄屋　武兵衛

池守　作左衛門
　　　喜平次

志野谷櫻池東樋戸分け高覺

壹の戸

一高六千百八拾九石七斗壹升　那賀上下

内 貳千五百五十六石壹斗八升七合　上那賀
　 參千六百參拾參石五斗三升一合　下那賀
　 上那賀

右之内百七拾石　北志野村溝掛り

貳の戸

殘り高參千四百六拾參石五斗參升壹合　上下共

内貳千貳百三十一石四斗五升四合　田中溝

内百六十石七斗七升六合　上那賀分

千貳百參拾貳石七升七合　上田井溝

如此割付申候相違之儀候はゝ重て可申聞候以上

木村七大夫判

慶安五年　松下半六判

辰の卯月二日　高岡市左衛門判

渡邊七左衞門判

田中組大庄屋　久大夫殿
池田組大庄屋　彌太郎殿
粉河組大庄屋　武兵衞殿

池床
打樋床

一畝合貳町參畝貳拾壹步
　高合貳拾參石九升九合
　是は櫻池掛り水下三組より御年貢定米に北志野村へ受取御地頭方へ割賦仕り御年貢納申候
右櫻池出來の儀は　南龍院樣池床御指圖を以て慶安三年庚寅之春御普請御取掛り被遊候右御普請奉行衆は有賀喜兵衞殿木村五郎大夫殿の由に御座候寅の年御取掛り被遊卯辰三年にて御普請出來仕候由寄人足の儀は六郡在々より人足集り北志野村南志野村勢田北長田村にて宿を取り毎日御普請所へ罷出候由に御座候尤右人足寄候節は國分寺の釣鐘を取寄朝夕に鐘を撞申候由申傳候其節御普請御取掛り被成候砌夜々に右御普請所へ志野明神の社殿より奇靈の光明を放ち近邊地動仕候由に付御普請奉行衆より直々　南龍院樣へ御申上被成候に付志野四社明神本社末社瑞籬鳥居本地堂御進營被爲遊候其後万治元年明神山林遠藤兵左衞門殿へ被　仰付修覆料に山林竹木御寄附被爲遊候に付于今木印入不申候
一波瀬留　長五間 高壹間　根置九間　總石葺
　是は櫻池足より一町程上へ馳留御座候去る亥の年御願申上候處子の十一月御普請被遊候て

右馳留出來仕候

櫻池下水掛り高池出來の節三組村數參拾八箇村

一高壹万參千五百三十七石四斗貳升四合

内高四千七百六十四石壹斗四合

高四百七拾七石五斗六升六合

高六百貳拾貳石三斗五升壹合

高五百拾六石六斗參升參合

高四百四拾八石七斗四升五合

高百七拾四石參斗貳升貳合

高貳百七拾四石六斗六升壹合

高三百四拾六石七斗八升

高百九拾七石七斗七升四合

高貳百四拾四石壹斗九升八合

高六百七拾七石五升三合

高五百四拾壹石三斗九升四合

高百五拾石

一六千百貳拾四石六斗六合

粉河組 十三ヶ村

北志野

南志野

北長田

中村

別所

深田

島村

中山

猪垣

上田井

粉川

藤井

田中組 十八ヶ村

内高七拾石　岩手組岡田村共

高貳百六拾壹石貳升四合　下井坂

高三百七拾五石四斗貳升八合　中井坂

高三百四拾七石三斗八升四合　畑の上

高四石貳斗　久大夫

高貳百六拾三石八斗　尾崎

高四百六拾六石八斗九升四合　花野

高三石三斗三升九合　上野

高貳百八拾四石八斗壹升四合　馬場

高四百三石九斗壹升三合　西大井

高四百五拾八石六斗四升貳合　本大井

高百七拾八石八斗七合　邊土

高四百五拾石三斗三升　赤尾

高百八拾壹石四斗四升六合　廣野

高貳百九拾六石四斗九升壹合　黑土

高千六拾八石六斗壹升五合　打田

高三百六拾三石六斗八升六合　久保村

高百六拾參石六斗八升六合　竹房

高百三拾八石三斗七升七合　皮田

一高貳千六百四拾八石七斗壹升四合　池田組 七ヶ村

內高千貳百九拾四石四合　勢田

高三百四拾石九升三合　新村

高四百四拾四石壹斗貳升八合　北大井

高貳百七石九斗六升九合　東國分

高八拾石三斗壹升六合　神領

高貳百四石貳斗五合　重行

高七拾七石九斗九升九合　國分 皮田

右者池出來之節掛り高如斯に御座候

藤崎新井出來に付減し殘り高

元祿之改

一高壹万千七百九拾八石三斗九合　三組

內高貳千六百三十五石壹斗壹升三合　池田組

高四千七百貳拾八石一斗六升壹合　田中組

高四千四百三十五石三升壹合　粉川組

右者藤崎新井出來に付高減し申候

享保十四年酉六月改　　小田井堀繼出來に付高減し

一高七千四百九拾五石三斗七升六合　　三組池下廿五ヶ村

内高參千六百拾四石三斗八升八合五勺　　粉川組

高參百六拾五石五斗壹升九合九勺　　粉河

高拾三石四斗六升四合　　松井

高百貳拾石九斗參升九合　　深田

高百七拾貳石九斗四升　　別所

高貳百八拾八石貳斗八合六勺　　上田井

高四百七拾七石五斗六升壹合　　北志野

高六百廿七石三斗五升壹合　　南志野

高五百拾六石六斗三升三合　　北長田

高百九拾石七斗七升四合　　中山

高貳百四拾七石貳斗五升四合　　猪垣

高百五拾石　　藤井

高四百四拾參石七斗四升四合　　中村

一高千五百拾七石四斗貳升七合五勺　　八ヶ村 田中組

内高六拾參石九升貳合四勺　　馬場

高貳百參拾參石貳斗九升五合　西大井
高四百五拾七石七斗四升　本大井
高八拾壹石四斗三升五合　邊土
高百八拾石四斗四升六合　廣野
高三拾七石三斗五升二合　打田
高拾三石七斗四升壹合　黑土
高四百五拾石三斗三升　赤尾

一高貳千參百六拾參石五斗六升　五ヶ村　池田組
内高千貳百九拾四石四合　勢田
高參百四拾石九斗三合　新村
高四百四拾四石壹斗貳升八合　北大井
高八拾石參斗壹升六合　神領
高貳百四石貳斗九合　重行

右は小田井堀繼御普請出來に付水掛り高減し申候只今にては如斯に御座候　以上

一右櫻池掛り水入用之節は三組大庄屋衆杖突幷壹組より庄屋中貳三人つゝ罷出池元にて相談の上上那賀下那賀御郡樣へ御斷申上高割を以壹組へ幾時つゝと割賦仕杖突庄屋見分の上水遣し申候

一同池水半分計り高割りに仕殘り半分計りは三組杖突幷に庄屋池守共旱所見分仕水村々へ相渡し

申候尤も高割り之水仕廻い候節は三組大庄屋杖突幷庄屋池元にて相談仕其節上那賀下那賀兩御郡樣へ御斷申上早所へ（本のまゝ）上水遣し申候

一右池小入用割賦の儀三組大庄屋幷杖突幷庄屋中壹組より二三人つゝ立合小入用割賦仕候

一右池破損御普請繕ひ御普請打樋浚御座候節は三組庄屋壹人つゝ罷出諸事指支無之樣仕候尤池守貳人は御普請中相詰候に付扶持方被下候

一右池打樋其外御普請御座候節本役人足計りにて御出來被成候へは所人足無御座候郷人足御遣ひ被成候節は郷人足計所人足四りより五りつゝ御取被成候に付去る亥年御願申上所人足左の通に相極り申候

右之通りに御座候以上

享保十八年丑十月

右は御郡樣より櫻池之儀御尋被遊候付右之通り書付指上け申候扣

一按に紀伊國續風土記には左之如く記せり

櫻池　那賀郡長田莊北志野村あり

村の北にあり堤百五十間水の懸り高七千五百石許り慶安三年庚寅の春南龍公御指揮を以作らせらる櫻田と云地に池を作らせられしよりその池を櫻池と名つけ給ひ櫻を池の主と稱して植させ給ひしとそ今も數株あり又池を守護する者あり此時土功を掌りしは有賀喜兵衞木村五郎大夫也と云々

一万治三子年正月父母帖の敎令を下し賜ふ

町在郷へ之御法度

一父母に孝行に法度を守り謙り不奢して面々の家職を勤正直を本とする事誰も存たる事なれとも

いよ〳〵相心得候様に常に無油斷下へ敎可申聞也

子正月

熊野の山中にて父を殺す者あり郡吏捕て罪を糺すに我親常に我儘のみいひ家內困し果某か申事をも用ひす故に殺したり他人の親を殺せるにもあらは知らす己の親を己が殺す何そ誤りあらんやと言語に絕したる次第依て委細を言上したるに深く御嘆息あつて畢竟治敎之足らさるは予が不德の致す處服せさる民を法に處するは誣ゆる也と儒臣李梅溪に命せられ獄に就て日々孝經を講し聞かしむる事三年後彼始て悔悟深く其罪に服し速に法に處せられん事を乞ふ於是山中又如斯者あらんは情なき事也と　仰あつて御躬ら筆を執らせられ本記の如く遊はされ是を山々浦々迄壁書にして能々喩し敎へよと仰出されけると也尙父母帖の解釋書をも下し賜りて一年切の事に無之永々迄の儀に候へは代官郡奉行は幾度もかはり此度承りたる士民は死失候共右の理は孫々に傳へ不滅候間末々の者迄も右の道理得心候樣に敎へ可申唯大方に仕間敷郡奉行敎へ候如くに末々迄も相心得候へは郡奉行手柄御奉公と可被思召末々の百姓は虫も同前の者聞入も無之付敎へ候ても其甲斐無之抔とは上への申分は立難くとの旨をも達せられたり詳には御世記に記す

但解釋書被　仰出之年月欠記蓋し其當時ならんか

一文首に父母の二字あるを以父母帖と稱する也李梅溪に淸書を命せられ是を印刻して普く民間に頒布又紀勢一般兒童の習書本に供し且　大慧公　香嚴公の御時彌遺失なきやうにと懇々告諭を加へられたれは封内到處父母帖と稱すれは近時に至る迄誰一人知らさる者なきに至りたり

布引村に西瓜を植しむ

一寛文元丑年紀州名草郡布引村開墾を命せられ西瓜甜瓜を植しむ

紀伊國續風土記に曰く布引の地古の名草濱にて後御里と呼ひ戸數壹千餘もありしと寛永記に布引嶋南北十二町四十間東西四町三十間の文あり天和記に畑廿八町五反余とあり其後津波抔にて人家も絶え田地も海濱の砂磧場となれり寛文元年

南龍公命して此地を開發せしむ此時三葛村の民百坪餘の地を開發す　公又命して西瓜甜瓜を植しむ其後次第に開發して遂に繁昌の地となる西瓜の甘美他に異にして多く京攝に鬻き我國の名產となれり木綿又純白光瑩にして他に比すべき所なし今に至まて村民　祖公の遺德を仰き私に尊牌を「村中阿彌陀寺に納む」營み每年正月十日集會して百万遍の念佛を唱ふ又西瓜初めて熟すれは村老四人　祖公の廟前「濱中村長保寺」に備へ奉る其後始めて他に鬻くと云遺德民心に入ことの深きを覩るに足れり

寛文元年　祖公此地を巡覽ありて駕を古松の下に駐められ此地を開發せば必す良田となるへしとて三葛村に命して開發せしめ同三月再巡覽あり西瓜甜瓜を植てしかるへしとの命あり明年西瓜の熟する時又駕を寄せられ西瓜を御賞味あり今に西瓜を廟に獻するは此時の緣也

沃水の戯停止

一寛文四年十二月沃水の戯を禁す

奉公人之事市在へ布令

出家之者可屆出

刑人無之に付褒美被下

要るものに水あひせる事向後停止之此旨下々へ可申付事

一寛文五年四月廿四日男女奉公人之事市在へ布達

町在郷へ之口上の覺

一先年より御觸之通り下々若黨小者奉公に罷出候節より一ヶ年の積を以暇をもらひ可申事右之通りは來年より

一道具持馬取草履取小者等迄一(廉)(一本通)の奉公望申間敷尤女の供をも可仕何にても万物好仕間敷事

一女之儀も前廉御觸の通尤中居下女は針めうの供をも仕手に物をも持可申候我儘に出入仕間敷候若相背者有之は急度主人より相斷可被申候宿主請人堅男女奉公人に可申付候若相背者有之は急度可申付候間其段油斷不仕候樣に可致吟味事

寛文五巳年四月廿四日

按に「類集之內定法書には女之義も云々條中若背者有之以下脫文今監察府記錄に據る」

一寛文五年十一月出家之者可屆出旨を令す

自今以後出家致し候者は不依何人百姓は代官郡奉行町人は町奉行迄必可申達事

一寛文六年獄中刑人一人も無之に付郡奉行御代官へ被　仰出

先年被　仰出候在々の御仕置百姓共に申聞大かた得心に被聞召牢屋に科人一人も無之旨を以郡奉行御代官を御褒美竹本丹後宅にて御馳走被下置此以後猶以科を不仕樣可相嗜旨末々迄敎を守り候樣に念比申聞せ敎の御書付を讀聞せ可申旨被　仰出

一寛文七年三月在々御仕置之儀郡奉行御代官へ諭達

御家老より諭達之大意　「全文は同年月の世記に詳なり」

郡奉行御代官勤方の心入に二つ有り大抵奉行所より申遣儀實際民情に相違御爲不宜事有之も不入差出を申さんより惡くとも共通に致したるが増成へしと遠慮致すと又一つには假令歷々より申越共御爲不可然と存る所は心強く存入後日に其申譯を可達と御爲の處一つを守可申となり御奉公にあなたこなたと差合迯り身を不打樣に抔と萬か一つも存候はゝ御奉公は水泡に屬し可申間此處能々相守可申旨

一思召に叶ふと申は百姓を絞りても御金米を澤山に納候へは能と存候は叶ふにては無之御藏も給所も年貢を陸に納め百姓豐かに末々榮え候樣にとの儀に候

一精の出し樣は末々迄も有體に志の出る樣に教へ可申教へよければ禽獸も能をなす如何に土民にても人間なる間精を出し教ゆるに於て方の不付者有べけんや

一百姓風俗能は御代官郡奉行出精の驗也風俗よければ年貢も無僞納め皆濟無滯此方よりは未進を延んとす百姓よりは納めんとす上よりの慈悲下よりの無僞ヶ樣の風俗に成申は　思召に叶處也

一いかに免を安く切其上百姓に借米を致色々用捨すと云共百姓奢るに於ては免の强き時よりも困る事也百姓の奢を糺明して免合を能加減に定め未進濟よき樣に其村の品々に應し延縮を致し扱大庄屋小庄屋之少も私なく中あしき者も中よき者も其用捨依怙なく成らさるを救ひ分限の輕重時の身體の輕重商或獵漁の仕合に應して申付樣いかにもろくに明に可申付事

一公事沙汰少々も不曲樣に可申付處專一也

一縱奉行所より申遣す御普請等何その御用にて人足入事有り尤御陣等の樣成は格別常の儀計にては村々百姓により差引可有事の緩急を量り自身ろく割をも致すへく奉行所より申來候迚譯無く叩き出し無用捨は後日の痛に可成事

一御扶持方被下に付ては兎角ろくに用捨可致肝要也

一常々小使を掛使ひ中間敷私の用に百姓使ひ候儀殊の外に重き儀と愼可申也兎角百姓を不遣樣に心得べし

一右樣は一々明可成樣には其身油斷にては不成成程精を出指出者は諸人申共少も身を引す可仕也

一其郡在々の樣子にて日來申付の是非は知れ候間たとへ年寄衆初歷々口を揃へ御取成申共御預の郡風俗惡敷成候はゝ右の御取成は役に不立又口を揃へ惡く申共其郡よく成候はゝ　御意に可合候扣へたるがよく指出たるが惡くとの儀は一つも用に立間敷候間手前には不構在々の事に於ては何樣にも指出可被申候也

有田郡廣浦波戸築造

一寛文中有田郡廣浦波戸百餘間築造被　仰付

廣浦屢風浪の難有て村民之災厄少なからす依て百餘間の波戸御普請被　仰付村民御德澤を感戴の餘御祠を建立年々奉祀すと云

一續風土記廣八幡の條に曰く　南龍公廣浦の御殿御造營之時廣村之西出崎にある和田村の波塘を初て築せらる長百二十間と云々

右波戸寶永四亥年十月四日海嘯の爲民屋共に流失寛政五丑年波戸四十餘間を再築　神廟をも再築御忌日には海藻を刈り奠供祭祀すと云々

山保田製紙奬勵

一寛文年中保田紙製造を被命

有田郡山保田は深山幽谷にして田薄く橘柑育せず

南龍公土宜を計らせられ寺原の枝郷小峠にて始めて紙を製せられしより莊中の諸村農隙に紙を製して産業の助とす

寺原村寛文中迄は人家なかりしに　南龍公大莊屋三田村左太夫に命して紙を製し給ひしより其地を開發せり此保田紙の初なり

那賀郡新村の貧困を御憐恤

一那賀郡野上莊九品寺村は本溝口村の出村なりしに　南龍公の命を蒙りて一村となる村高の内二百石萬雜公事を免せらる是によりて每年御忌日に村中より總代一人長保寺に拜參すと云（續風土記）

一那賀郡新村の貧困を御憐恤雜稅免除被遊

那賀郡新村は元來貧村の處御巡郡之際深く民情を御憐察雜稅免除被　仰付於是村民始て安堵を得業に就を得たり依て御遺德を難有かり　公の御忌日每には必長保寺御廟へ參拜し又年の暮には手作りの菜大根を潛かに長保寺の厨へ持行き姓名をも告すして立去りけるに同寺にては何者の所爲とも不知訝しく思ひつゝも歲旦の奠供に充てしが後漸く新村の者の仕業とは知りたり是卑賤の身より獻供といふを憚りての事とは聞えたり

續風土記に本溝口村の出村なりしに　南龍公の命により一村となる九品寺動木溝口より次第に集りし村と云村高の內二百石万雜公事を免せらると田畑高三百八石一斗家數七十一軒人數三百十二人と記せり

伊都郡新在家村千間堤築造

一伊都郡新在家村大川除の千間堤を築かしめらる

南龍公の命を蒙りて築立たりと續風土記に載す但し年月不明

若山湊下之町に井戸開鑿

菫菜草之食様教示

鉛山村之税を免す

清渓公

民治之儀仰出

一年月不明若山湊下之町南北に大井戸を新鑿被　仰付

湊下之町には樹木なく又井戸なく人民の難澁を思召本記之如く被　仰付元來水木なきは下々之地と　仰しより下之町と唱ふるに至れりと也　祖公記外

一菫菜草之食様を御代官へ御教示

同草之食様を御代官へ御尋の處何れも不存旨申上候付あくを取り蒸し用候製様を御教へ被遊候に付御代官中も百姓食用に相成候草木之能毒を頻に試たり　同上

一牟婁郡周參見組鉛山村は元鉛を堀りし鑛徒居留りて村居をなしたるより遂に一村となれり此地舊より耕すへき田畑なければ淺野氏の時屋敷地畑とも合て高五石二斗五升餘を免許す元和初封の後も舊に依りて是を免し給ひ且網を作りて漁をなさしめ又其海税をも免し給へり土地舊と鉛を出すを以て鉛税を貢すへき地なるが此邊湯崎の温泉あれは温泉の湯料を村中へ與へられ右の内にて歳貢を定めて鉛税の代りとなさしむ地海濱に有りて風景絶勝なれば四方の浴客日に集り月に來りて漸次繁盛を來し人口戸數增殖せしが尙維新に至る迄も舊により高五石貳斗五升七合の除地たりしなり

按に　紀州勢州御領分高帳を閲するに所在免税地あり概れ此類多かるへきも事由傳らす

清　渓　公

寛文七未年八月御目付布達

一於給所惡黨を構候百姓有之其所を拂候はゝ郡奉行代官へ相斷指圖を受可致追放事

勢州圓座村大庄屋褒賞

右之通相觸候樣にと御老中被　仰渡候間如此候

未八月十三日　　　　御目付中

同年十月御家老より郡代へ諭達　探要　全文は同年月の世記に載す

一近年は百姓もつまらす非人等も不見在々森林もくろみ又免合も能く舊冬籠拂の時分一人も過ちするなく今に至迄籠屋明屋に成るは在々所々の教無油斷故にも可有間彌此上下につんぼ同前之者聞入候樣に教申儀何之役よりも骨折と　思召也彌能教可申候

一百姓に對し少も無踈意面々自分の家内の如く親切に可存地内何事も無之を專一と存し是非を不令混亂處可爲簡要事

一最前被　仰出候御教訓彌無懈怠常々可申合事

一相役之内能々申合諸事相違無之樣可致私に如何樣之恨雖有之　公儀相談之刻は心底不殘批判仕候上にて理の宜き方へ可相立也公私各別之處能存辨可申事

一隨分憐愍を最可加諸事無懈怠嚴重に可申付事

元祿四年九月

一勢州度會郡圓座村大庄屋米山多右衞門を褒賞す

勢州度會郡圓座組大庄屋　米山多右衞門

此度被　仰出候新田畑并荒地起返之場所見立田畑難成空地は茶紙木苗類等を植付させ其改を受御高入願出候樣との御趣意相守り取調方別て行屆追願出させ候段厚く褒遣候樣御年寄衆よ

り被　仰付候條厚く褒遣候

郡奉行所

按に　田座村は水利なく灌漑に乏しく地あれとも耕す能はす人民大に窮す多右衛門深く之を憂ひ元祿二年より大熊山の谿谷より水をひき長五十町の間に溝渠を穿ち通し高きを削り低きを土かい經營七年元祿九年に至て竣功終に良田七町餘を得たり依て村内漸く盛に戸口蕃殖す然るに經年の久しき該良田も漸荒廢に歸し村方再ひ疲弊に陷る多右衛門宗隆の孫多右衛門祖父丹精の功空しからんとし且村方の困難を苦心是か挽回再興を謀り文政十二年五月起工更に横輪川分水を量り溝渠七十餘町を開き既に成功を告んとするに際し俄然水災の爲に破潰勞力資金共一時空耗に歸す然るを尙不屈再ひ工を起し終に千三百八十九兩壹歩を費して新田方十四町を開墾して廢田復舊村民蘇息の大惠を蒙る依て天保二卯年七月官其功を賞する如左爰に附記す兩多右衛門の事後傑傳に詳也

田丸領地士田座神園
上野三ケ村兼帶庄屋　米山多右衛門

役儀出精相勤其上横輪川井關溝路御普請之儀も骨折此節迄に致成就荒地之分毛附入に相成候段御代官達之品も有之候に付格別之品を以二人扶持被下也

天保二卯年七月

勢州奉行所

元祿七戌年より同十四巳年迄在方へ被仰渡帳

一口六郡御代官郡奉行中へ申渡

一百姓共役人中へ禮に參候儀御藏下百姓共其組より總名代に壹人宛年頭計其郡之御代官郡奉行中へ禮相勤可申候進物は彌可爲無用

一給所の百姓も庄屋壹人地頭へ年頭計禮可參候

山保田松木伐採許可

在々納米勝手に納入

御留藪ひね竹伐採

傳甫御藏詰費用割賦

右之通在中へ御申聞可有之候已上

戌十二月

二 有田郡奉行中へ申渡

一有田郡山保田山中筋松木伐申儀日高山中之通御免被下候へ共耕作の爲又は百姓家職のため能候て年々銀拾枚宛運上出し可申由願之通可被申付候勿論家木其外御普請入用木手支不申様生立可申旨入念可被申付候

但杉の原村には右之願無之よし只今迄之通可被申付候已上

三 紀州御代官中へ申渡

一在々に有之納米六月御藏拂迄相待候に不及百姓勝手次第傳甫御藏へ納させ可被申候已上

亥九月

四 口六郡奉行中へ申渡

一所々御留藪に有之ひね竹之分時節を見合伐らせ被申御用に差遣可被申候御用に無之節は奉行所へ被相達拂可被申候已上

五 紀州御代官中へ申渡

一御藏入之在々傳甫御藏詰御臺所入諸事御用之掛物雜用等村々割符に庄屋肝煎計立合候ては諸事格も不極相談に日數重り雜用も多く出銀等滯申に付催促旁在々費出來其上御藏詰なとは給所上知新田等へ難申付品も有之由相聞候自今傳甫御藏詰御臺所入總て御代官所割の掛り物筋は手代帳面に

記置割符相詰村々年切に差引可被申付候但取遣り相濟候上右之わり帳尤庄屋肝煎判形に手代加判
致し置可申候

一傳甫御藏詰雜用

石に付 銀壹匁 初納より明る五月迄納分
　　　 銀壹匁五分 六月より已後に納分

右之銀御藏入の在々米方の納高わり符仕御藏詰致候所々へ可遣尤町人を頼買物に仕候分
は右之雜用割符仕間鋪候

一御臺所入雜用

石に付 銀五分 初納より明る五月迄
　　　 銀壹匁 六月末

右同斷御代官所切に割符可仕候

一白麥小麥大豆御餝物其外御用之割符もの在々にて足銀人足賃之まよひも有之よしに候代銀人足員
共其郡割足之賃銀を以高に合割符一村之迷惑無之樣に可致事

一御代官在廻り之節一宿之雜用銀木錢之外貳匁宛宿主へ渡切にて賄せ人足其外村中より外之費無之
樣可致事

一手代一宿御扶持方の外銀一匁五分宛宿へ可渡極月へ入催促に參候時分は前々之通其村可爲賄事

右之外御藏所之在々割賦可仕筋郷中滯無之樣可被申付候已上

子 二 月

六 口六郡奉行中へ申渡す尤御作事所へも申渡す

御作事所入用繩高割賦

一御作事所入用之繩年中入用次第度々在中へ割符仕候村百姓家職に差構時節も有之樣相聞候自今は年中の入用高わり符の筈に申附候春中の手透に拵勝手次第御作事所へ持屆候樣可被申付候已上

子　四　月

七有田郡奉行中へ申渡

山保田杉檜植付許可

一有田郡山保田中在々杉檜植附自今已後百姓助成に仕度候然共山元にて步一を差上候ては勝手に不宜候間右步一として三枚宛今年より每歲差上申度旨右之通御申付可有之候尤只今迄生立有之杉檜此度相改候分粗末に不仕候樣可被申付候已上

子　五　月

八口六郡奉行中へ申渡

御納所難澁者可致相談事

一御納所及難澁候者有之共品御代官手代より斷次第致相談御納所相調候樣可致旨大庄屋共へ可被申付候已上

子　六　月

九大庄屋共へ可申付旨口六郡奉行中へ申渡す

松木盜伐小松刈取々締

一此度山廻役人一郡貳人宛申付候松山之儀に付右山廻り申付候儀を相背申間敷候松木盜伐小松刈取候儀見付次第改申筈候間右之儀紛無之樣小百姓共へ能々可被申聞候柴草へ小松刈込候に付松木生立不申候間小松刈取不申樣にとの儀常々可申聞候尤山奉行中より被申付候儀山奉行中へ相達候儀只今迄之通相心得可被申候已上

口熊野山廻申付

早稲米傳甫御藏納之事

日高有田山燒取締及留山之事

子八月

口六郡奉行中へ申渡す

一口熊野在々御留山幷六木之内御留木も有之候へ共只今迄山廻り役人無之に付此度山廻り貳人申付候間所々見廻り念入相勤候樣可被申付候尤在々へも右之段可被申付候已上

丑二月

十 紀州分 御代官 郡奉行 中へ幷傳甫御藏奉行中へ申渡す

一在々早稲米只今迄は傳甫御藏へ納り不申候へ共爲御救自今早稲米も納申等此度相極候間在々へ御申渡可有之候已上

子八月

十一日高有田山中筋在々へ被申付候樣にと郡奉行中へ申渡す

一日高有田郡山中筋前々より被仰出之通猥に山燒申間敷候燒申さで不勝手なる處は庄屋肝煎小百姓傍示を極大庄屋之差圖を請可申候林に火移らさる樣に刈切置傍示の外へ若火移り候はゝ村中をして消可申候兼て申合置消兼候はゝ見合次第隣鄉より手傳消可申候勿論風强き時は燒申間敷候

右之通相背候はゝ村過料又は品により急度可申付事

但山燒申度よし申出候はゝ書付を以郡奉行中へ相伺村山相應に燒せ可申候

一山中筋は稼第一の事候兼て申付候通隨分相應の植もの可致候且又留山に致し可然場所は庄屋肝煎

小百姓申合大庄屋迄相斷五七年も留置はヘ申時伐り可申候村中相談にて難極品有之候はゝ大庄屋へ相斷差圖請可申事

但山留はやし申度よし申出候はゝ大庄屋聞届書付を以郡奉行へ相達留林させ可申候

一春之内毎年壹度宛山見分に大庄屋組切廻り可申事

子　九　月

十二口六郡兩熊野郡奉行中へ申渡す

池水溜方及立毛植付之事

一兼々申聞候通寒中に池々水を溜候様にと可被申付候

一雨を待候池はまかせ打にてさらひ置雨水請込候様に可被申付候

一破損池幷に樋替仕候はて不叶分は正月より早々郷役人足日用所人足相加へ早く仕廻水を溜候様可被申付事

一洩池等其外輕願に付普請を待水を貯置候池々普請相延候ても不苦者見合先水を溜置翌年秋冬之内普請可被申付事

一打樋へ小關仕候ても不苦池は二月三月の内小關仕少しにても水を溜候様に可仕候然共今迄小關を不仕池へ水を多く溜候へはくせ付破損有之者に候間其段大庄屋小庄屋共能々見合候様可被申付事

一立毛の事植田少々水少候ても旬に植付候ては實のり能水たゝえ候ても旬に大延候田はみのり惡く候様相聞候無油斷旬を見合不殘毛付候様可相心得旨可被申付事

子　十　二　月

浦々諸漁沖貢取締

十三有田日高海士兩熊野郡奉行中へ申渡

一浦々日用鰹船之内幷に諸漁沖貢致候者も有之由相聞候依之自今口前より吟味船出し相改させ見付次第急度改可申候間此段浦々へ可被申付

丑　正　月

松苗堀取之取締

十四口六郡奉行中へ申渡す

一諸士松苗望候得は各へ斷被申堀候由松苗堀候ては惡敷場所有之候間自今は各へ斷申來候はゝ山奉行中へ御申通山奉行中より山之差圖有之筈に候間申參候はゝ其上にて其村への差紙御出し可有之候已上

松山疎末に仕間敷事幷拂方の事

十五口六郡奉行中へ申渡す

一在々松山疎末に仕間敷候小松可生立所々は隨分生立候樣可仕候若盗伐取候もの有之候はゝ急度可申付旨在々へ可被申觸候已上

丑　五　月

六郡奉行中幷に山奉行中へ申渡す

一在々松山洗伐枝打其外御用に伐取候松木枝葉近年は入札拂に致し候自今は先年究有之候束替直段を以て所拂に可申付候已上

丑　七　月

十六貳歩口奉行有田日高海士郡奉行幷安藤釆女殿家來へ申渡町奉行中へも川船持候者共に心得

させ可被申旨申達

覺

入塩二歩口取立

一口熊野境朝來歸浦より田邊領日高郡有田郡海士郡大川浦迄浦々之分塩入口可取立處相紛只今迄取立不申に付此度吟味の上寅三月十五日より右浦々へ入塩の分口取立申筈に候

但し當町湊浦は先規之通御免

一那賀郡岩手御口前を船にて通候塩の分右同斷來る十五日より自今貳歩口取申筈に候

寅　三　月

十七 貳歩口奉行中有田日高海士郡奉行中幷安藤釆女殿家來へ申渡す

覺

蜜柑口銀取立方

一在々に有之蜜柑を免相に見込み申に付蜜柑之木を持不申百姓の方へ右見込免もたれ迷惑致候由其上紀之川筋へ出候蜜柑幷兩熊野は船積の蜜柑には先年より口銀取來候處海士有田日高田邊領迄の浦々へ出候蜜柑には口銀無之候右之通に付當寅年より他所へ積出候蜜柑には船つみの場所にて五厘通りの口銀取立申筈候間蜜柑を免合に見込被申儀相止田畑立毛相應の免に可被相極候

有　田　郡　分

一江戸廻諸入用引蜜柑壹籠之代積り年々平し貳匁にして五厘口

一江戸廻之外他所へ積廻候分諸入用を引みかん壹籠之代年々平し壹匁六分にして五厘口

一俵に入或はぞらし蜜柑口銀は右同斷に見積を以五厘口取立申筈

海士郡日高郡田邊領分　　但海士郡は和歌浦より桝浦迄之内

一江戸廻諸入用を引蜜柑の代壹籠年々平し壹匁五分にして五厘口

一江戸廻の外他所へ積廻候分諸入用を引みかん壹籠代年々平し壹匁六分にし五厘口

一俵に入ぞらしみかん右同斷

一右口銀船積の度々可取立筈に候へ共當分に口銀納候儀難成品に候はゝ御口前へ斷を立毎年極月中に納め可申候

右之通在々へ可申聞候已上

寅　四　月

十八口六郡奉行中へ申渡

一餌差共在々へ參泊候節扶持方米代は拂木錢等は拂不申候由夫に付宿雜用有之宿主又は一村之迷惑に成候付組割郡割にも仕度存泊手形取可申と申所も有之候へ共前々より手形を出し不來由餌差共申に付右の割に入不申由相聞候

一右餌差共の仕形此度遂吟味候處先年より扶持方代は拂木錢は拂不來品有之に付木錢を拂候樣には難申付候然は右之通宿主又は一村之迷惑に成候儀に候はゝ自今泊候所々にて米代請取候上壹人一泊の雜用銀三匁宛小入用帳に付餌差共判形を取置其帳面を以組割郡割へ入在々高下無之樣割賦可仕候尤泊候節賄之仕方は彌前々の通に仕右三分の雜用銀にて相濟候樣可仕候若餌差共申進有之歟又は仕形惡敷品有之候は可申出候右之段在々へ可申觸候已上

寅十二月

十九 口六郡奉行中へ申觸

根來者在廻之入用及人足之事

一根來者在々へ御用にて廻候節は御扶持方貳人扶持請取一泊壹人壹匁三分宛小入用に記判形取置馳走ヶ間敷儀曾て仕間敷候

一夏の内御鳥打に出候節は若し人足入用の儀有之候はゝ村次を出候處にて其品書付候て人足手形取置可申候

一猪鹿追込勢子人足御用の節は是又人足手形取可申候右之通在々へ御申觸可有之候已上

卯十月

二十 口六郡奉行中へ申渡

池川普請入用之杭木取締

一在々池川御普請入用之杭木願出候節は元木數を記或は貳つ伐三つ伐杯有之元木數紛候品有之候はゝ自今長何尺末口何寸之杭何程入候と杭數を記出候樣在々へ御申付可有之候已上

卯十一月

廿一 口六郡兩熊野御代官郡奉行中幷御勘定所大金藏御船手貳歩口茶口夫金藏へ申渡

諸納方銀納筋金納勝手之事

一在々浦方共諸納方銀納方自今は百姓共勝手次第時々御定兩替直段を以金をも納申筈に此度相極候

右之通可被相心得候已上

辰五月

廿二 口六郡奉行中へ申觸

大川普請使用の諸式吟味方

松山政道可出精事

浦神春日櫻三池普請入用人足竹木入用渡方

一大川筋御普請の節竹木類伐持屆人足湯わかし小遣人足小屋掛其外繩藁薪等諸入用之儀百姓手前にて相紛品有之よしに付右爲吟味當年より奉行組足輕付置候間組のもの差圖の通帳面に附記組の者判形を取置例の通割賦可仕旨大川筋の在々へ可被申觸候以上

辰正月

廿三口六郡奉行中へ申觸

一在々松山政道之儀所により少々無沙汰成山も有之樣相聞え候就夫自今は折々山下庄屋の內壹人宛山廻召連廻り不沙汰に不仕樣に急度可被申付候已上

辰二月

廿四御普請奉行中へ申渡候趣池下在々へ可被申付旨伊都那賀郡奉行中へ申渡す

一那賀郡浦神池春日池上那賀櫻池自先年御普請方支配にて御普請之節在日用遣方大川筋御普請之通

一右三ヶ所池御普請の儀在々池々御普請同意に可申付候處相紛有之候自今左之通相極候

一入用人足高之內六歩通りは日用人足賃米壹人壹升四合四歩通りは所人足賃米七合五勺つゝ竹木入用賃米も壹人七合五勺つゝ御渡可有候但所人足四歩通り難遣所々有之候はゝ郡奉行中へ申遣し郡奉行中吟味の通御遣し可有之候且又役人足許にて仕立申品々御普請有之節は所人足出させ不及申候

一右在日用賃米鄉役方にて當座に相渡候間落合重藏御代官所より御請取日切に不殘爲御渡可有之候右米代銀は其年の畑米直段を以て御代官所へ御差引可有之候

他領へ出向の者取締

他領漁師取扱の注意幷に網の前後爭取締

一在日雇遣候節は夫々の池掛り下より出させ日雇所人足賃米右之通可有御渡候
右三ヶ所池御普請自今は御普請方役人を以郷役御普請之通御申付可有之候已上

辰　十　月

廿五　伊都那賀名艸海士郡奉行中へ申渡

一在奉公仕候者近年は斷不申出他領へ罷出候様相聞候當年より自今奉公人居所を相改候様大庄屋共に念入御申付可有之候若他領へ不參候て不叶品之者は吟味の上相達候様是又御申付可有之候已上

辰　極　月

廿六　海士有田日高兩熊野郡奉行中へ申渡

水野土佐守殿 安藤采女殿 家來へ申渡

覺

一御國幷に他國の漁師共泊り沖漁に參り何れの浦にても居浦に致漁事仕候節大漁にあひ候へは其所の賑にもなり申儀に候處所により不相應に浦手銀多取候に付外より參候者迷惑いたしかさねて其浦へ不參よし相聞候間自今其所の漁相應に浦手銀取候様可仕候

一御領分浦々の漁師共沖合に諸漁盛候へは其所へ他浦より船を廻し得漁仕候處場所を論し又は他國より廻り船の漁師共何角と障申掛宿なと貸不申に付其場の漁にはつれ迷惑いたし候もの有之よし相聞候間向後浦々舟合御國の漁師共は不及申他國漁師共にも宿を貸居浦致させ漁事手支無之様可仕候右之通いたし候へは網代銀幷に宿賃等も取所の潤にもなり申儀に候間能々可被申合候

一口室奥室共沖間漁事盛の節網之壹番貳番を論し及口論大漁仕損兩方とも迷惑仕候儀有之よし相聞候兼々申合候儀に候へ共向後彌々狼籍無之樣に相互に申合漁事可仕候已上

巳　五　月

廿七田丸郡奉行中へ大崎與三左衞門申渡

田丸領杉伐之節二歩口納之事

一田丸領在々杉植付生立候已後伐り候節貳歩口計り出し申度よし願出候付願之通申付候隨分生立候樣に在々へ御申付可有之候

但只今迄生立有之杉目通にて一尺五寸廻り已上の木は改帳附にいたし其外の木は其村々へ被下候伐出し候節は貳歩口差上可申候

子　六　月

廿八勢州三領奉行中へ大崎與三左衞門申渡

勢州三領諸德讓遺狀證文に判形之事

一在々田畑山林家財諸德を讓候節は所之庄屋肝煎幷五人組之內立合遺狀證文に判形可仕旨末々の百姓共迄可申付候已上

辰　二　月

〇九勢州三領役人中へ申渡す

勢州三領新田畑新屋敷斗代極之事

覺

一新田畑竿入斗代附候儀先々より村々仕來にて上中下之斗代を以相極め申所も有之樣相聞候左候へは位附間遠地面相應に不相當品有之候間自今は田畑地面相應之斗代に相極め可申候

一新屋敷之斗代は壹反壹石盛に相極め可申候

　但先々より仕來に付壹石より高く附候所は只今迄の通り斗代を極め可申候

一茶楮漆菓類仕付有之候畑位付候は地面相應に相極可申候

一崖陰木陰にて田畑の陰に成候處見計り陰引可申候

　但其品帳面に記置已後相紛れさる樣に可致候

右之通手代大庄屋共立合自今新田畑竿入可申候巳上

辰　六　月

三十 大嶋伴六勢州三領在々吟味之節村々庄屋肝煎共へ左の書付を以委細申聞候

一前々より段々被仰出候御定之外村中寄合之節は勿論五人三人打寄候節も委細申聞せ御書付をも讀聞せ末々に至迄能相守候樣可仕候

一奢ヶ間敷儀不仕家職をはけみ其外何事によらす相應の稼事精出し候樣可被申付候

一家職疎に仕公事出入博奕を好み惡事をたくみ勸廻るもの有之村中難儀仕なから見のかしに致し候處も有之由相聞候庄屋肝煎共常々致吟味左樣に不屆者有之候はゝ早速可申出候

一公事訴訟願事下にて滯らせ申間敷候面々聞屆申附可相濟儀は早速濟せ勿論其段役人中へ可申出候手前にて不濟儀は無滯早速可申出候

一火用心盜人用心村中常々申合相愼可申候總て不審ヶ間敷もの入込候はゝ相改所に指置申間敷候

一新田畑荒起し畑返り隨分仕立可申候惡所或は普請大造に有之所には斗代免相又は鍬先の年數を可

願出候若右之普請自力に難成所には其品により御米をも貸渡可申候間段々願出可申候
一茶紙木漆竹木等をも植付助成に仕儀其外何事に不寄稼事は見付候へ共仕入の元手無之者は願可申候其品により仕入銀等貸渡可申候
一御年貢之割賦幷に夫役小入用遣方近年相定候通彌無相違様に可仕候若申付を不用仕形悪敷出入等にも及候はゝ急度可申付候
一高利之借金有之候はゝ庄屋肝煎頭百姓共申合利安き金に借り替遣し濟方の儀も常々致吟味相違無之様可仕候
一飢人新非人抔有之を申出候ては　上之御苦勞にも成候と相心得又は吟味六ヶ敷儀に存隱置申間敷候近年段々被　仰付候通御普請所の人足に出し御救之賃銀を取せ右之稼きも難成者共には御貸麥をも段々貸渡様之儀是又近年申付候通時節を見合麥作取入候迄貸續候様可仕候度々貸渡候儀六ヶ敷存壹度に貸渡先へ寄手支候儀無之様能々可相心得候勿論貸物なとに引取候儀曾て仕間敷候
一御貸麥の元不足に存所々は可申出候其品により麥高を增遣可申候
一近年被　仰付候疫病はやり候所へ御救米被下候儀斷を申出候を大造に存驚者共煩付及難儀候に及候を見打捨置申間敷候早速相達し御救米請取遣可申候
一近年被　仰付候名寄帳改の儀隨分紛無之様相改可申候幷田畑畝高下有之なるみ不申或は能田畑は他村なとへ賣拂悪田計所持致し迷惑仕所は地詰願可申候
一毛見を請候所々は作物取入幷麥作等仕付之時節遲り不勝手に有之其上入用等も掛り申儀に候村中

申合年賦之定免願可申候
一他所他國へ稼に參所之家職疎に仕所も有之由に付近年も申付候通他所他國へ參り不申候て不叶ものは委細吟味の上役人中へ可申出候其外は隨分其所にて親兄弟一類共壹所に渡世仕儀肝要に相心得可申候
一山々段々伐盡往々山方の稼絶可申樣相聞候村中申合野山之內場所を極め鎌留をもいたし林立て稼事絶不申樣可仕候
一旱損所は新池又は池の重置井水を仕掛水損所は水除堤を仕水拔の仕形常々相考普請を願可申候且又洪水の節は庄屋肝煎頭百姓共罷出池川道橋破損可仕之體之所は精出し防き破損無之樣に可仕候總て小破之內繕可然所々は常々見立候て可申出候
一浦々は漁方の稼きも無油斷精出し不漁打續の節行當り不申樣兼て覺悟可仕候
右は郡奉行常々被申付候儀に候へ共此度念入又々申渡候間末々迄能々可申聞候已上
巳　三　月
三領郡奉行へ大崎與惣左衛門申渡
勢州在々松木改覺
一道橋池川御普請入用木御普請所見分役人共積立の帳面を各へ扣置被申在々より出候願書引合吟味之上只今迄之通裏書出し可被申事
但杭木の儀近年紀州在々へ申渡通杭木數に不構長け何尺末口何寸の松木何程入用と積立の通杭

勢州在々松木改め方

數を改め山々松木生立に應し貳つ伐三つ伐或惡木は割杭等にも致し積伐渡候樣に可被申付候
一家木願の儀大庄屋申出候はゝ吟味の上落合八兵衛內藤甚五左衛門方へ被相達裏書出し可被申事
　但御留山にて伐渡候家木枝葉は願主へ不被下筈に候間拂立させ可被申候
一右松木伐渡候儀自今八兵衛甚五左衛門方へ被相達松坂三組足輕を其所々へ差遣各々出置被申候裏書を以伐り所幷に寸間等吟味の上伐渡候樣に可被申付候
一松木急御用の節は大庄屋山廻り立合伐渡當分大庄屋山廻り木印を打置各迄相達候樣可被申付候尤右之段八兵衛甚五左衛門方へ被相達組足輕差遣し改させ木印打直し候樣に可被申付事
一在々松株改の木印組足輕打候て木數請取手形幷木印請候手形庄屋共に爲致取置候樣可被申付事
一末木枝葉可拂筋の分は組足輕致吟味拂立候樣右買手形銀とも御代官所小物成筋へ納め可被申事
一各裏書有之手形幷木數手形木印手形共組足輕より八兵衛甚五左衛門方足輕小頭へ差出し小頭方にて壹年分の目錄へ相添若山會所へ納候筈の事
一三領松山組足輕段々打廻り禁制之仕方吟味仕候樣可被申附候山廻り共彌無油斷見廻り候樣可被申付事
一元木者勿論枝打にても盜伐り取候所々有之候はゝ八兵衛甚五左衛門方へ被相達相應に過料被申付右過料錢は夫金藏へ納可被申事　已上

勢州三領郡奉行中

三三勢州三郡奉行中へ大崎與惣左衛門申渡

三領松木の枝葉百姓へ被下

口熊野浦方山林伐荒燒拂取締

兩熊野納米賣付取締并取立方

覺

一勢州三領松木の儀御差山の外野山并百姓持林證文山共伐取松木枝葉は彌百姓へ被下候筈且又松木の外杉檜楠榧槻之儀は何方に有之候を伐候ても枝葉拂立申筈

但證文にて植候杉檜は伐候節證文の通候筈

一屋木の儀持林にて伐候節相應の木無之候はゝ定寸間を以木廻にも致遣筈

巳十月

口熊野郡奉行中へ申渡

一口熊野浦山方在々林伐荒し浦方は別て伐荒草野に致し每年野火にて燒拂諸木生立不申由自今は吟味の上燒候て不苦場所計燒候樣可申渡候已上

亥三月

兩熊野御代官中へ申渡

一納米在々賣付の儀尤請人は附有之候へ共小前の吟味不具候に付身體不相應の賣付米有之代銀滯年々未進之樣に相成申由相聞候自今浦方山方家職仕入米貸候儀其稼之品濟口等致吟味貸可被申候且又壹人立候て米貳拾石以上被貸渡候分は別紙名寄帳に記每年御勘定所へ出し可被申候

一右代銀取立の儀明る六月直段御定以後急々取立候故百姓上納致兼候由相聞候自今は浦山稼有之節見合度々に取立爲致可被申候夫に付年內より明る二月迄に取立候分は冬御定直段にて納させ可申候三月より六月迄の內に納候分は六月御定直段にて取立可被申候

一右取立六月に皆濟の筈に候へ共若斷の品相立候はゝ七月迄は見合了簡可有之候尤七月を越候儀堅被致間敷候

一浦方仕入銀は貳步口前所より貸候筋も有之候間左樣之所は貳步口奉行中へ示合取立可被申候已上

子八月

三五兩熊野郡奉行中へ申渡

奥熊野新田畑斗代免村吟味

一奥熊野新田畑出來之內斗代を極定免に起申度と願有之筋は證文出し來候由自今右の品有之候はゝ斗代免付土地相應に候哉被致吟味其品可被相達候已上

丑八月

三六兩熊野郡奉行中へ申渡御勘定所へも申渡

新宮領明知鄉役米之事

一新宮領明け知分鄉役米當丑納より自今御藏へ納當十月より在々御普請鄉役方より御申附可有之候已上

丑八月

三七兩熊野郡奉行中幷貳步口奉行中へ申渡す

浦々漁稼者手形之事

一御領分浦々へ漁稼に參候者共何れ之浦へ參候共行戻共大庄屋へ斷を相立勿論御年貢加子米幷に浦役無滯可出之候手形を出し置可申候

一他浦へ稼に參候節大庄屋方より先々之浦々庄屋方へ送り一札を取り可參候尤浦替候品有之候はゝ是又其所之庄屋送り一札をもらひ先々之浦庄屋へ持參仕尤其所へ參候品共浦々へ一札をもらひ大

口熊野在々弱百姓救助方法吟味

庄屋方へ差越可申候已上

卯　五　月

三八　口熊野　御代官郡奉行　中へ申渡

覺

一口熊野在々百姓次第に弱成御納所等も滯候由近年も段々令吟味御救之儀共申付候事に候へ共難取直由に付此度彌令吟味御納所筋幷百姓共稼之仕入御救に成候品々申付る儀に候間各々被申合下役人共迄諸色打廻御用筋相勤候樣可申付事

一大庄屋村庄屋頭百姓の風俗諸事手重く仕掛け末々の百姓を下に附身體宜者も御納所等致難澁末々の百姓共之妨に成り候者有之由相聞候右體の者共急度被致吟味可被相達事

一御年貢米取立の儀年內米納滯候樣相聞候自今は年內皆濟被申付村々稼之元を委細被遂吟味所々相應に賣付米貸渡可被申事

附賣付米宜百姓共多く借請小百姓共へ又かしにいたし小百姓共損失多有之樣相聞候自今は銘々稼之樣子吟味の上小百姓共へ直貸可被致候

一浦方山方之稼有之所々は田畑之耕作別て疎に有之樣相聞候自今は田畑之稼精々入候樣被申付新田荒起等致させ旱損水損之所々御普請被申付品に依肥代等をも貸渡可申間被致吟味段々可被相達事

一高利之借金仕所幷借金の方へよき山なとを差入所も有之樣相聞候被致吟味左樣之所は利安金に借り替させ山抔を請戻し候樣可申付事

一葛蕨を堀綱を漉苦をあみ材木炭切木を仕出し其外品々山方稼有之所に商人共仕方惡く百姓共勝手に難合候由相聞候段々遂吟味仕入金を貸渡し或は支配人を付問屋なとをも被申付稼の利分小百姓共取請候仕形可有之儀に候間委細吟味之上可被相達候仕入置夫々に可申付事

一浦方漁稼之儀能もの共仕入元を致し小百姓の勝手に惡敷品とも有之由仕入等申付村中之助成に成し候樣可申付候間吟味の上段々可被相達事

右之通在々へも被申付段々吟味の上其品可被相達候已上

卯　九　月

三九 口熊野郡奉行中へ申渡す

一口熊野は村數多候故大庄屋四人にて諸事手廻不宜候付壹人增し候筈に候間大庄屋可勤者を御見立組分村數之儀御吟味候て書付御出可有之候已上

辰　八　月

四〇 在々へ可申付旨紀州御代官郡奉行中へ申渡

一在々免割帳面納所庭帳之仕形所々にて不同有之故百姓小前出入の紛にもなり候小入用割帳面是又不同有之由に候右帳面之仕形自今紛敷儀無之樣可致候就夫免割小入用帳幷に銘々出す通ひの案紙を出候當年より帳面委細仕立可申候且又村々之人足年中遣方之儀不同有之由相聞候自今小前夫々へ申付なるみ候樣に可致候

免割元帳仕形

免何ツ
一高　何　程
　毛付免何ツ何分何りん
　內　高　何　程　　田畑荒引
　　取　米　何　程
　　　但內譯免有所は此所にて夫々へ可割符
　　米　何　程　　差口
　二口米小以何程　　田方押合掛り免何つ何分
　高　何　程　　畑方毛附
　　米　何　程　　差口
　二口米小以何程　　畑方押合掛り免何つ何分
　此　銀　何　程　　石何程替
一米　何　程　　糠藁代米
一米　何　程　　郷　役　米
一同　　種借利米
一同　　二　夫　米
　此　銀　何　程　　石六十目替
　　田畑毛附高一石に銀何程に當る
一此外臨時納筋有之所は此處へ可出

納合何程

内何程　米納

何程　銀納

一新田畑免割右同断

一見取場有之所は米納銀納の分可記

納都合何程

内何程　米納

何程　銀納　此銀何程

右小前之分

一田高何程　誰　取米何程

一畑方何程　取米何程

此銀何程

米何程　種借利米

米何程　糠藁

米何程　郷役米

米何程　二夫米

此銀何程

納小以何程

内　何程　米納

　　何程　銀納　此銀何程

一新田畑右同斷

一見取米右同斷

　納合何程

内　何程　米納

　　何程　銀納　此銀何程

右御年貢庭帳之仕形

一米何程　誰

一米何程　誰

　　預け作誰納

一米何程　誰　是は御切米買納但名前直段可書記

一米何程　是は御拂米又は銀納直段何程と可書付

　小以何程

　　日切小以付之納高之所にて手代押切可致

一銀納右同斷

右之通日切に帳面〆り尤其村納高之分いつれの納にても庭帳不殘可出之

右小前へ通ひ帳之仕形

何歳御年貢納通ひ　庄屋誰印

一 何年納之 米何程　誰

内 米何程　米納

米何程　銀納　此銀何程

右納方

同日 米何程　納

同日 米何程　納

預り作誰納

米何程　納　是は口切米買納名前直段等可書付

納合 米何程 銀何程

右何年御年貢皆濟也

月　日

一加子米所割符之儀只今迄仕來候通帳へ委附記小前へ通を作り相渡其年之掛高を通の元に立内取
立之時々押切可出

一古未進有之所は元帳辨銘々之未進高を元に立年々取立帳面へ出し小前之通ひ右之元を書付内取

立委押切可致尤元帳通共年々用ひ候様可仕候

小入用帳仕形

一人足何分役　　誰　　是は何方へ何用之使に參る

一同　　是は何役人何御用之時何用に遣

一銀何程　　是は何入用割掛り銀組之渡

一同　　是は何役人宿失却料

一同　　是は村何入用物調之代銀

小以銀何程（人足何程）

此員

高何程

此掛　銀何程（米何程）

指引　銀何程（米何程）

誰

一右同斷年中夫役幷取替物

右之趣に委細元帳へ可出

一米何程　庄屋給

一米何程　肝煎給

一米何程　ありき給

一銀何程　何々

合　銀何程（米何程）

村役高何程　壹石に付銀何程（米何程）

右は何年小入用割符差引相濟申候已上

何村庄屋誰印

同所肝煎同

何村　同

同　同

何村之作同

同　同

右小前へ通帳之仕形

（何年[一本ナシ]入用通ひ　庄屋誰印）

一人足何分役　誰

是は何方へ何用に遣ひに參候

一同

是は何役人何御用之時何用に遣

一銀何程

是は何役人宿失却料

一銀何程

是は村入用之物調代銀

合　銀何程（人足何程）

此員

高何程

何手掛り

銀何程　　米何程

差引〆銀何程取分（米何程出分）

一遺捨に致品々人足有之候割符元帳に揃右入用銘々通之奥へ可書付

一寺社入用棟割人別元帳揃通ひ之仕形右同斷

一池井關等之入用割右同斷

一組割元帳大庄屋枚突請込村々への通ひ出候村々庄屋肝煎立合割符可仕候已上

四一 紀州勢州郡奉行中へ申渡

一名寄改の儀撿地帳寫名寄帳仕立樣左之通可被申付候

撿地帳寫 名寄帳書式

上書の　本帳の年號可書　御撿地帳寫　只今の年號可書　何年　何村

字 一上々田何畝何歩　中段 古撿之名前　下ニ只今之持主 誰

高何程

同 一下田何畝　右同斷　同斷

高何程

一同
下々田何畝　同断　同断

高何程

一同
下田何畝何歩　荒　同断

高何程

一同
下　田　誰分わけ地　誰

合　十何町何反

内　上々田何町　高何程

上田何町　同

中田何町何反　同

下田何町何反　同

下々田何町何反　同

屋敷何反　同

茶何斤　同

桑何束　同

田高小以何百何十何石何斗

上々畑何町何反　高何程
上畑何町何反　同
中畑何町何反　同
下畑何町　同
下々畑何町　同
畑高小以何百何十石何斗

高都合

庄屋判
肝煎判
五人組判
大庄屋判
何郡何村

帳上書 年號月 名寄帳

附名前の下へ銘々之印形可致

一字上々田何畝何歩　高何程　古撿之名前誰
外に何程高何程荒

一同上田何畝　高何程　同斷

一同中田何畝三歩　高何程　同誰分之内

是は何反何畝高何程之內誰々わけ地

一同
下田何畝　　　高何程　　　同誰分之內

外に　高何程誰上田何畝高程之上へ越

此越高之所へ大庄屋判形致し自今越高不仕筈

一同
上田何畝何步　　　高何程　　　同斷

內高何程誰下田何畝高何程の內より入

右同斷大庄屋判形可致

田高合何程

誰

一字
屋　敷　　　高何程　　　古撿名前誰分

是は何反高何程誰々わけ屋敷之內

一同
中田何畝何步　　　高何程　　　同誰分畝町直し

一同
下田何畝　　　同

下同
々　畑　　　高何程　　　同誰

外に　何反高何程荒

一同
中田何反何畝　　　高何程　　　同斷

田に成

田畑高合何程

内何程　田方
　何程　畑方

右之外株々に高下け畝下を村作切わけ定免等有之分は夫々に書付可申候

田畑毛附何百何十石

内　何十石　畑方

　何十石　田方

内何十石畑返り田に成

外に荒場

字
十八一下田何畝何歩　高何程　古撿荒
　字何畝何歩高何程の内
一の内一上々田何畝　高何程　同誰
同
十九一下々田何畝何歩　高何程　同荒
字
五の内一中田何畝何歩　高何程　同誰

田畑荒高合何程

内何程　田高
　何程　畑高

荒高撿地帳に有之候筋又段々新荒筋庄屋肝煎頭百姓連々に相改場所有之高畝相應に候哉場所無

之者竿路段々類地をも相改川に成山に成見分之道理を極帳面に可記不分明所は大庄屋へ斷可申候左候はゝ大庄屋罷出可改總て荒場之分大庄屋も連々相改帳面に引合可申候

高都合何百何十何石何斗

右之通在々へ可申付候已上

子四月

庄屋判

肝煎判

五人組判

大庄屋判

寅正月口六郡兩熊野郡奉行中へ申渡

一名寄帳改相濟候に付自今田畑本銀返幷質物入證文之仕形左之通一等に究大庄屋元々請帳可付之候

四二本銀返證文之事

一字里附可記田地壹ヶ所 御帳誰分　四方境可記

上々何反何畝　高何程

此銀何程

一字山壹ヶ所　右同斷

此銀何程

合何程

右者何樣之入用に依て我等所持之田地山其方へ相渡右之銀子請取當何の何月より何年之間本銀返に相定候上者只今より田地山幷御年貢諸役共に其方可爲支配候右年賦之内本銀相濟候はゝ田地無相違御返し可有候年賦過候はゝ此證文にて其方彌支配可致候其以後一言之申分有之間敷候尤何方より構妨無之候若故障出來候はゝ此判形人罷出急度埒明可申候爲後日證文如件

年號月日

本人　何郡何村　誰

證人　誰

同村庄屋　誰

同村肝煎　誰

右之通相改相違無之段郡奉行衆へ申達候已上

何村　誰

何村大庄屋　誰

右御代官所へ障無之候已上

誰手代　誰

給人方は給人之障無之と認家來判形可取

四三 口六郡奉行中へ申觸

一在々之内より當所へ引越又町より在々に引込候者送り受込手形之儀所々不同有之一等に究可然旨奉行衆より申來候付手形之案紙兩通差越候自今町方出候手形町方より請取手形之文言別紙之趣に

可仕旨在々へ御申觸可有之候已上

卯十月

右別紙

一札之事

一其元御町内誰と申者家内何人にて當村へ引越申候爲其一札如件

何郡何村庄屋　誰　印

年號月日

同所肝煎　誰　印

何町

年寄中

一札之事

一當村誰と申者家内何人にて其元へ引越參候此方に罷有候間何之何事も無御座切支丹類族にても無御座候爲其如件

何郡何村庄屋　誰　印

年號月日

同村肝煎　誰　印

何町

年寄中

四四　口六郡御代官并御扶持人足支配方へ申渡

一御扶持人足銀給にて召抱候分者百姓御救に難成候間自今銀給之者召抱候儀相止米給にて未進持之百姓共を召抱可申候已上

御用地引跡并一代限作取田地之事

在中節儉之儀布達

役米相改滯分取立

輕普請請切之事

戌十月

四五 紀州勢州郡奉行中へ申渡す

一在々御用地引高之跡并品有之百姓共身一代作り取之田地之類滯無之樣兼々吟味可被致候已上

亥正月

四六 紀州御代官郡奉行中へ岡野伊賀守殿被仰渡候

一在中之儀當度も被仰出候通少にてもつひへかましき儀無之家職無油斷樣に可被申付候近年御國百姓共の風俗分に過結構に相見候度々被　仰出候儀には候へ共今以所により不似合諸道具等貯又は佛事祭禮等の節も衣類給物迄不相應に有之候由相聞候此段在役人共常々の申付疎に有之故との思召に候自今役人共立廻り御〔一字不明〕儀に候はゝ御代官郡奉行迄急度御咎め被遊にて可有之候間彌無油斷可申聞候已上

亥十二月

四七 紀州勢州郡奉行中へ申渡

一役米勘定之儀組々大庄屋致年番七月と極月相改させ可被申候鄉役米を貸付滯たるも有之樣に相聞候其分者段々取立可被申候自今役米曾て貸被申間敷候已上

子正月

四八 紀州勢州郡奉行中并普請方下役人へ申渡

一在々往還道并井溝堤之破損繕溝さらひ少つゝ川除等關水道仕替ヶ樣之儀輕き御普請所へも夫々之

役人相詰諸賄人夫之費多く有之儀に候間入用積を以請切普請に仕立させ可申候
一右積立之趣普請仕方委細仕様書を相渡仕立させ尤出來以後役人相改賃米夫々に相渡可申候

子　正　月

四九 紀州勢州御代官郡奉行中へ申渡

一新田畑之儀所々により見分も無之分に過たる用捨も有之尤なる迄不申品も有之様に相聞候間毛見之旬不構儀に候はゝ隨分見分被致野村等念入可被相考候
一新田畑地面斗代高下品々有之候由免相用捨可致新田畑其外左之通の品々免相に心得有之候儀に候間被相考相談之儀は勿論定免等願有之節も能々可被吟味候
一川端海端村際本田にならび本田に不分新田畑
一地面場所者能候へ共旱損有損所にて作徳少き場所
一等入候節は地性不宜故斗代下り付以後地能相成候場所
一池井關井溝等鄉役米を以致普請出來之新田畑
一右之普請地平し迄致遣し新田畑代物を納候場所
一百姓自分に普請仕大分入多夫故斗代用捨有之候新田畑
一新田畑所持之百姓共之内本田多作地面立毛之高下にて作徳多少之品々
一年數少く修理多掛り立毛惡く又年數久しく修理少立毛能出來之場所
右之趣其外品々可有之儀に候自今は毛見の節も本田同意に可被相心得候乍然野端少宛の場所迄見

御納所年内皆濟申付に付て

種借利米二夫米銀御藏入分も給所同前取立の事

分致候儀も難成可有之候間兼々被相考免相所々相應に在々なるみ候樣可致候已上

子　五　月

五十 紀州御代官郡奉行中へ申渡す

一御納所年内皆濟申に依て在々當米當之借拂借銀差支銀元致迷惑候由願出候儀も可有之候尤借拂にて納所被申付儀年來仕來たる事に候へ共只今仕直し申させては在中次第に可致難儀候就夫先頃より各裏判にて田畑書入にて居りの借銀に借替させ候も段々有之候若元銀無之差支候處は借來候ものへ斷申聞せ右之通田畑書入借狀認替候樣可致候

一只今迄致來候借拂筋右之通片付させ申迄自今新借拂出來不申樣に可申付候

一年内皆濟申付候に依て畑作之色物賣立申儀年内難成品有之候はゝ右之通色物請合人を立させ春迄の内に納所可被申付候以上

子　七　月

五一 郡奉行中へ申渡勢州大崎與三左衛門申渡

一當年より種借利米幷に貳夫米銀御藏入分も給所同前に各支配にて大庄屋取立致し候樣に可被申付候已上

子　七　月

御代官中へ申渡御勘定所へも書付相渡し勢州は大崎與三左衛門申渡

一當年より種借幷に貳夫米銀御藏入分も給所同前に郡奉行中取立候筈申渡候帳面等も可被相渡候

一郷帳之儀年內納所之砌御用差つとひ可申候間翌年春へ相延候ても不苦候間隨分年內は納所之吟味要に候依之種借利米貳夫米等も右之通郡奉行中へ取立に申渡候

子七月

五二紀州勢州郡奉行中へ申渡

御切米夏借渡し期日

一此度御年貢年內皆濟申付候付自今御切米は翌年四月晦日切御夏借は六月晦日切米渡し可被申候夫過候はゝ不殘傳甫御藏へ納め可被申候

子七月

子納郷役米の事

一子之納米郷役米當暮不殘御藏へ御納之筈に候依之十月より來る丑の九月迄之普請入用米は在々御代官所より相渡等に各仮手形を以可有御請取候已上

子八月

五三紀州御代官中へ申渡

一當子の納郷役米の儀致銀拂候外は傳甫御藏へ納申筈に候依之當十月朔日より來る丑九月晦日迄の內在々普請入用之分は御藏の納を郡奉行中仮手形を以段々可有御渡候

一當十月より極月迄普請入用の內來る丑の正月より九月迄入用積之書付郡奉行中より請取村々にて其宛殘在々之手廻し能樣に致置可被申候以上

子八月

五四紀州勢州郡奉行中へ申渡

郷役米拂方普請諸色之仕形

覺

一郷役米之儀拂方所々不同有之候に付此度證文相究御勘定所へ申渡候右證文之通自今被申付御勘定仕立可被申事

一郷役米自今は十月朔日より其年之納を相渡極月迄之拂を勘定致翌年へ之越米を極正月より九月迄普請入用之積り之中勘定目錄を御勘定所へ出し餘米有之所は百姓勝手次第御藏へ爲納可被申候不足之所には其品可被相達候尤九月迄の拂方の目錄を出過不足指引の上右米筋之拂方を可被相極事

一在々破損所之分は見合役人吟味之通普請可被申付候新(地)重置新井其外新規普請之儀は可被相達事

一普請有之候內人足往來の道橋入用小屋掛入用の竹木繩藁きんし繩湯わかし小遣人足總て普請中當分入用の品々は田人より出之一村の普請には村中より出し候樣に可被申付候

但橋木は最寄の山にて被下筈

一郷役米村々に納置普請有之節其場へ請取置每日夫々に賃米相渡通帳へ附渡し可申事

一在々用水の溝幷惡水落の溝路兩方の田地より築出溝路狹申間敷候若狹候て水通惡敷候處は田人より申出大庄屋見分の上切廣候樣可被申付事

一所人足遣方之儀は時節を考田人の多少を見合念入可被申付事

一池井關等の普請所幷新田畑通り爲出來致普請候分は自今は其所の掛り下之高を坪詰人足帳之雇書に爲致可被申付事

右郷役米拂方諸色之仕形念入可被申付候

子八月

一五五此度相定御勘定所へ申渡自今左之通可被相心得旨紀州勢州郡奉行中へ申渡

一郷役人足壹人

前々之通給銀九拾匁　但先年之暮前借

同　扶持方　勤日七合五勺休日雨障日五合

宿賃壚噌代銀壹宿壹分貳厘

同増壹分　是は御城掃除其外方々御用相詰候時

持籠代　銀六分五厘　口六郡勢州三領　銀八分三厘　兩熊野分

但杖突貝吹には不可渡

一郷役杖突壹人

前々之通給銀百五拾目　但前年之暮前かし

扶持方壚噌代右同斷

附り極月十六日より晦日迄之内勤日之通

扶持方七合五勺つゝ可渡

但宿員壚噌代は不可渡

一前々之通郷役人足休日六十七日

一郷役人足七月晦日迄之内病死致候はゝ代人足を可出八月晦日より已後病死の者は代人足不可出事

一前々之通大庄屋勤日壹升宛

一組杖突同斷七合五勺　　但し口六郡之外組杖突無之

一下勘定之時帳書右同斷壹升宛

一着到帳入用之紙墨筆代銀一郡に貳拾目宛

一在日用壹人役賃米壹升七合宛

一所人足壹人役賃米七合五勺つゝ

但日用百人に付四拾人の積りに所人足を可遣若右之積難遣所々は普請所見分の節遣方を相究郡奉行中了簡次第御勘定可立

一諸役引之外鄉役米高を引來候處には前々の通鄉役米の內可相渡事

附たり渡切に致所は日用人足定之員米にて渡切可致事

一鄉役人足給銀幷諸道具鐵物代其外年內の銀拂は鄉役米之內畑米直段にて在々より取立拂可申候

一右之通翌年越候て銀拂筋幷餘米有之御藏へ納置申筈銀納に願申か或は賣拂申儀有之候はゝ入札を以當座拂に可致事

但勢州三領は入札を以當座拂に致すへき事

一鄉役人足給銀扶持在日用員其外諸拂方請取手形にて可相渡事

但普請所坪詰人足帳只今迄拂札の袋へ入納候由自今右帳面爲見合出置拂方は手形にて納申可事

一御勘定仕上に大庄屋參候時物書人足共雜用幷大庄屋傳馬の儀已前證文之通可被相渡事

御普請人足賃米以通帳勘定之事

一普請入用之繩わら明俵薯直段は其所之本斗御勘定に相立候直段之通可相渡事

一樋木篗木杭木其外普請入用の竹木伐持屆人足御普請有之村より出賃米七合五勺つゝ可相渡事

一田畑潰入砂入欠損候所々普請願有之候はゝ見分人を指遣普請可申付其斷に依て賃可相渡事

一惡水落の溝路は破損修繕溝浚共に普請可申付事

一用水の溝路は破損繕は普請可申付溝浚之儀は田人役に可致事

但大井關門前後扒より外埋候分毛付前之普請は所人足普請申付賃米壹人に七合五勺宛可相渡事

右之通相定候當子十月より拂方裏判手形を以御勘定に可有御渡候已上

右之通此度相定御勘定所へ申渡自今右之通可被相心得旨紀州勢州郡奉行中へ申渡

元祿九年子八月

五六 子八月御勘定所幷紀州勢州郡奉行中へ申渡

一御普請所人足自今は村々へ左之通之通ひ帳を出し時々賃米相渡通帳を以御勘定を仕立可被申候

一人足の外村々より出し候物代付有之分も通ひ帳に附可遣候

一請取普請にいたし候所は庄屋肝煎之請取手形にて相渡可申候

何年御普請人足通ひ帳

大庄屋名判

庄屋宛

一人足何人

給所上米取立方之事

在方倹約及御救方并池川御普請之事

此米何程

内　何人は何分役　何人は何分役　何人は所人足

人足合何程　此賃米何程

右は何年所々御普請御用に出申候人足賃米銘々請取申候以上

月　日　庄屋　印

肝煎　印

五七 口六郡勢州三領御代官中へ申渡

一給所上米年々納所滞候に付當年より霜月廿五日過候はゝ御代官所より取立候様に可致旨御年寄衆へ申達候處其通りに致候様との御事にて給人方へ御目付中より通し有之候間上米取立之儀霜月廿五日過候はゝ急度御取立可有之候且又上米有之村々霜月廿五日已前給所納所仕廻候様との儀は郡奉行中より可被申付候已上

五八 岡野伊賀守殿紀州勢州御代官郡奉行中へ被仰渡

一在方之儀近年度々被　仰出候儀末々迄行渡り倹約を相守り家職精出可申旨可被申付候

附たり　公事訟訴随分滞らせ不申様可被申付候

一米穀高値に付春の内稼も無之者共御救之趣近年度々申付候通末々迄行渡り候様可被申付候

一在々池川御普請の儀并在方帳面等の儀近年申渡候通相紛儀無之様に彌念入可被申付候

丑　正月

在方御定之趣幷普請見分方布達

地方手代切米及人撰

毛見之法

五九紀州勢州郡奉行中へ申渡

一各在廻り之節度々被　仰渡候在方御定之趣末々百姓共迄入念可被申聞候

一在々池川御普請の儀見分に指遣候役人仕出し帳面之通普請入念仕立候樣普請方役人共へ可被申付候尤右帳面之內をも立候御普請をは在廻之序に見分可被致候右之外去る子二月申渡在々見分之品の儀共在廻り之節被相考存付被申儀在々其書付差遣し可被申候以上

丑正月

六〇紀州勢州御代官中へ申渡す

一在方之儀彌念入候樣に先頃被　仰出候間各御納所筋之儀彌精出し可申候夫に付手代之內未熟之者有之切米にも不同有之由に候間自今左之通被相極勿論人柄隨分吟味可被致候

一地方手代

本　人　切米拾石貳人扶持

平手代　切米八石貳人扶持

已上

丑七月

六一紀州勢州御代官郡奉行中へ申渡

一在々毛見之儀御代官郡奉行中幷添毛見共可成所々は一所に巡見被致坪刈之儀打寄相談の上野附の積立喰違不申樣に可被致候

附たり　近年申渡候毛見帳案紙心付候儀委細被相考其品帳に記差出可被申候

一野附之儀前々之仕形に替らす村々當立毛見立之通に勘定仕立被申尤村柄等委細吟味の上免相談可有之候

一坪刈之儀は坪々野附之試一通に被相心得候ては有之間敷候へ共一坪之内を能々見渡し坪刈之場所竿之當り様籾摺之儀も念入可被申候籾壹合違候へは免に直し大様五六歩も違候様に相聞候然は大切なる儀に候且又畑方之積立彌違多可有之儀に候間隨分念入可被申候

一普請を加へ旱損水損を可省所々幷に荒起新荒出來之所々免相積り立委細相談之上免相可被相究

一近年申付候は勿論前々より郷役米を以池川溝等之御普請にて出來之畑返りは尤田方免にて可有之候へ共斗代違候所々は籾積りの免合總田高もたれ百姓前なるみ不申由に候右の分相改當年より切わけ免にてなるめ可被申候

附たり　餘心の才覺を以百姓自分畑返り仕候分は前々之通其年より田方免に相究可被申候

一畑方之内差出帳面にかすり田と有之稻毛仕付の分之籾積り之取米是又總畑方へもたれ有之儀に候少之儀は其通りかすり田多總畑方へもたれ有之所は立毛に應し切わけ免なとにてもたれ無之様可被致候

但かすり田にて人夫費等多有之所は切わけ免之內にて作略可被致候

一村々免相鄕摺の見渡能々可被相考候一郡の內にても組合之鄕摺村續不相應之儀有之由に候間郡中總躰之見合可被致候

一近年は在々にて早稲多作り申由立毛取入候已後見分之所々も有之候間積立の儀兼々可相考候
右之儀は兼々可被相考候へ共彌念入可被相考候定免所も段々多出來見分被致候村數も少き事候間
野附坪刈等の儀は勿論諸事添毛見にも相談の上免相可被相究候已上

丑七月

六三 地詰申付候所々郡奉行中へ時々申渡

覺

本田畑竿入斗代位附改

一本田畑不殘竿入斗代附念入相改可申候只今迄之斗代位附間違地面相應に不相當品に相聞候間自今
此位附を以只今迄の地面見分之通附替可申事

紀州分

上々田	十九	上田	十八	上下田	十七
中の上田	十六	中田	十五	中の下田	十四
下の上田	十三	下田	十二	下々田	十一
見附田	十より六迄の内	藺	廿二	屋敷	十五
上々畑	十八	上畑	十七	上の下畑	十六
中の上畑		中畑	十四	中の下畑	十三
下の上畑	十二	下畑	十一	下々畑	十
見付畑	九より五迄				

附り 切畑は前々之通に候可爲斗代

勢州分

上田 十五　上の下田 十四

中上田 十三　中田 十二

下上田 十一　下田 十　下々田 九

見付田 八より五迄

藺田 藺田有之候者古撿の斗代可用

屋舗 十二　上畑 十二　上の下畑 十一

中の上畑 十　（中の）一本ナシ下畑 七　下々畑 六

見付畑 五より四迄

附り 切畑は前々の通可爲斗代

一勢州は家廻り屋敷取り候分は十二の盛垣の內にても屋敷はなれ候所は其品により田畑之斗代可附

一勢州在々地詰請帳も若山會所にて可認閊下帳出來此方へ差越可申候

一新田畑不殘竿入斗代附替可申候斗代之位附は右之趣に准し位附可致事

一本田畑高增の處は元高を增減高の處は荒に可致事

一荒場所極り有之分は竿入只今見分の斗代を附總高へ可結荒場所無之分は吟味の上可爲無地荒事

一茶桑楮漆類之高は田畑に相並有之分は其地面見分の斗代を以夫々之高を積立可申候山々原抔に有

之分は土地を見合是又其斗代積りにて高を附可申候并あせ岸に有之も右の積りを以高を附可申事
一新田畑之内本田畑に不劣分は見分吟味の上本高に結ひ可申事
一屋敷は家廻り屋敷取分は十五之盛縦垣の内にても屋敷離の所其品により田畑之斗代可附事
但屋敷は田方之高に結ひ可申事
一竿は先規之通六尺三寸盛込竿を以寸尺可相改事
一竿入反畝相改斗代を附候へは別段に相廻り入札致候上委細相談可致尤存寄之儀無遠慮可申談事
一野帳には古撿地の高畝名前記地主不相紛樣に可仕事
一繩は貳筋にて手廻し能樣に致し尤朝と四つ比と間數相改天氣の變り有之候はゝ見合度々可相改事
但繩竿入候處跡先共念入可申事
一南東に高岸を請候田畑陰引可爲見計并木陰藪陰等陰引可致所々有之候はゝ其品委細に相談之上相究勿論其品帳面に記置往々不相紛樣に可致事
一村作地在之候はゝ其段可相達事
一地詰に不取懸以前可申付事
一盪田之儀不申及本田新田屋敷之譯荒場古撿地帳引合等之儀少も無僞不相紛樣に可仕候段庄屋肝煎共へ可申付事
一本新田畑屋敷荒物古撿地之字畝高名前當作人の名前に書付番附致し札を立置竿入濟次第に耕させ不相紛樣に可申付事　以上

丑八月

役人

一　郡奉行貳人

一內貳人は竿改　貳人は帳元御勘定四人

一　御歩行目附

一算　地方手代貳人

一　大庄屋壹人

一縄引四人　竿打壹人　御役人足五人

一古帳持地引　庄屋肝煎

一　所人足六人

一請帳は會所へ手代出可認

六三 左之通在々へ可被申付候旨奉行中へ申渡勢州は大崎與惣左衞門申渡

一在々百姓之內麥作存之外不作に逢又は田畑所持不仕日用稼等にて渡世之者は年により春之內にも右之品々弱人有之御救を申出候に付遂吟味候へとも曾て左樣に無之を事々敷申出或は申出候通の處へ御救米等を相渡候へは割賦不同にて御救行不渡剩內證の借物等引取り抔との間在之候右の斷申出候儀其節に至改候ては及延引候に付自今は前方より庄屋肝煎心に懸夫々之稼を精出させ其上にも給物に手詰候物は在々池川御普請之人足に出し又は近邊之松山抔を請所にも致させ可申間春

中之稼に仕らせ若又右之稼も不成女子共病人には御貸麥を貸渡可申候麥作出來迄之内不足無之様に見計段々貸渡可申候右御救を以渡世仕夫々之稼仕候様に兼々相心得可申候
一右普請に出申度と申者之内にも品々可有之候間御救不相紛候様に致吟味事
一右普請に出申候者之内員米壹升の働ならては難仕者にも其品により壹升七合之日用に遣候品にも可有之儀に候此段其節に至り急度吟味有之事
一近在之山方之内松生立悪き處又は田畑之蔭になり所々枝打洗伐請所等にも致させ可申間稼に成候様可仕候事

丑　霜　月

六四 伊賀守殿紀州勢州御代官郡奉行中へ被　仰渡候

一在方之儀諸事念入申付候様に在役人へ可申聞旨頃日も御意有之間彌以精出し可被相務事
一春之内に在廻り被致様子をも見届度々段々申渡候儀とも末々迄之者共迄能行渡り相守り費奔ヶ間敷儀不仕家職精出候様に細々可被申付事
一公事訴訟等は前々は各次に大庄屋小庄屋手前にても少々滞候品も有之様に相聞候自今は滞り不仕様に可被申付候何方にても滞り候品有之歟又は總て大庄屋小庄屋之仕方により小百姓之痛に成不宜品有之候はゝ小百姓にても直訴致候様に可被申付候
一稼踈成者又は行跡不宜者抔をは急度申出候様に村々にて小百姓共迄にも直にも被申聞可然事
一在々御普請所見分被致御費成儀無之百姓之勝手にも能様に御普請仕立可申旨下役人共能々可被申

御普請所見分方在廻心得方松山注意等之事

籠舍之者入用定

候旱損小損所なとは別て念入考可被申事

一米麥高直之儀には在々若弱人も出來可申哉就夫に當月より御普請之儀幷御貸麥貸様之儀舊冬奉行中より書付渡被申通彌念入可被申付事

一右之通在々之儀は兼て申通各被申付肝要之儀に候在廻り之節村々にて諸事委細可申聞候勿論見分之上考被申候事有之候はゝ可申聞候歸候以後書附を以早速可被申聞候以上

寅　六　月

六五紀州郡奉行中へ申渡勢州は大崎與惣左衞門申渡

一御普請所見分之節大庄屋を召連被申普請方下役人共は御普請に差置人足之遣ひ方普請之仕形念入候様可被申付事

一若普請に出申度と願候弱人多有之御普請所手支候はゝ段々可被申付普請所相考可被申達事

一在方へ廻り候者共に申聞候書付子の二月各爲心得相渡候其趣候儀とも在廻り之節見考被申存よりの品書付出し可被申事

一山々松木育ちの様子見分被申踈に不仕候様に山廻り共に可被申付候其内松木育ち惡き所又は田畑之構へ成候抔は伐拂可然哉能々考可被申事

寅　正　月

紀州御代官郡奉行中へ申渡勢州は大崎與惣左衞門申渡

六六籠舍之者入用之覺

一公事出入にて籠入仕候者
村中之出入は村賄壹人立候て之出入は其者之自分賄
但賄難成者は一類より可賄一類無之者は村賄
一當分爲吟味籠舍致候者　村中より可賄
一他國者幷行衛不知者　御藏より可被下
一致盜候者人を害火を附候者　御藏より可被下
一若山之籠へ入候在々咎人　御藏より可被下
但籠へ入候時分諸入用は組村又は當分夫々より可出
勢州松坂本籠へ入候者此ヶ條に可准
一右籠舍之者幷籠番人扶持方御藏より被下候分自今左之通り可渡
籠舍之者　壹人壹日五合つゝ油薪鹽噌等之入用は右扶持方之內より可賄之
籠番人晝夜貳人
但壹人壹日に付壹升宛自分賄村賄筋にも籠番人扶持方此通夫々より可賄
但相籠舍之者何人有之候共番人扶持は右之通加番入申節は是又壹人一日に壹升宛可渡
右は只今迄は入用不同有之候に付當寅九月より相究候以上
寅　八月
六七紀州御代官郡奉行中へ申渡勢州は大崎與惣左衛門申渡

御勝手差詰に付諸普請差延し

一御勝手御不如意之上打續御物入にて當年は別て御差請り之御事に候夫に付在々に有之候役所家諸番所幷樋橋池川破損所繕御普請所差延し所々にも隨分被遂吟味其品委細可被申達候勿論新規之儀幷に當分差延不苦破損所は此節にて候間見合可有之儀に候彌可被致吟味候

一新田等を仕立御德用も可有之所々總て御勝手に可成儀有之候はゝ被相考可被申候以上

寅　十　月

六八 紀州勢州御代官中へ申渡

御納所年內皆濟に就て

一御納所之儀年內皆濟に相究最早一兩年は無滯格立申候間彌有物散させ不申樣に無油斷御申付可有之候畑物等之儀は色物吟味之上賣拂申內差延候儀最前申渡有之儀に候米方とても年內に皆濟致候へは取立之遲速は百姓之恰好を見合不痛樣に御申付可有之候已上

寅　十　月

六九 口六郡奉行中へ申觸

在中池々冬之內水溜可申事

一在中池々兼て樋を差冬之內に水溜可申事池堤へ肥し等積置芝手折りうくろなど入池破損仕候も有之由に候間總て池水之儀無沙汰に不仕候樣に常々急度御申付可有之候且又破損繕幷樋替仕候はで不叶分は御普請之遲速を申出隨分早く出來水を溜候樣に兼々申附可有之候已上

卯　閏　九　月

七十 口六郡兩熊野郡奉行中へ申渡勢州は大崎與惣左衛門申渡

田畑屋敷地分之事

一田畑屋敷地分仕候儀不致候筈に候へ共わけ不申候はゝ不叶品有之候はゝ其子細を願出し可申候願

米高直に候へ共飢人無之事

大庄屋共へ申聞數條幷救助方取締

之品により差免可申候尤願相済候分は撿地帳之字幷名寄帳早速大庄屋判形取置可申候

右之通在々へ可被申觸候以上

辰 四 月

セニ

口六郡兩熊野郡奉行中へ申渡勢州は大崎與惣左衞門申渡兩熊野御目付中へも爲心得申渡

一米穀打續高直に候へとも在々に飢人無之段達　御耳此以後彌念入候樣にとの　思召候由有馬四郎右衞門方より申越候各支配下之儀此時節別て念入可被申付候口六郡之大庄屋共をは段々呼寄諸事可被申付候此時節若存之外儀抔有之候ては互に不調法之仕合に候各々も節々支配下へ御廻り候儀とても無之故在々之樣子委細難相知品も可有之候間大庄屋共常々心懸不依何事少々にても替候品有之候はゝ可相達候致油斷外より相知候者可爲越度旨能々可申付候大庄屋共壹人宛順々會所へも御出し可有之候申聞候品も有之候以上

辰 五 月

セ三

口六郡大庄屋へ會所にて申聞候勢州は郡奉行中より申聞候樣に可被申渡旨大崎與惣左衞門方へ申遣す

一此度書附を以郡奉行中へ申渡候通米穀打續高直に有之候處在々に飢人等も無之由一段之儀に候彌精出末々迄諸事念入可申付候

一渡世難儀仕體之者幷飢人等有之候はゝ近年段々申付候通早速申出候樣に常々庄屋肝煎共に爲相心得若右之品之者有之候はゝ其體を見計御普請所に相詰候役人共に申合御普請人足に出し可申候其

者之品によりて前々申渡候働に不構員米を相渡させ飢不申様に仕其上にて可被相達候

附り　心入不宜候者共は御慈悲もたれ左のみ弱無之者も及飢に候様申出候儀も可有之候間能々心を附可致吟味候若委細之儀難分儀有之候はゝ御普請方役人共と申合先員米輕く相渡させ普請所へ出樣之趣を以相考夫々に可申付候

一弱人有之御普請人足に出候ても近邊に御普請所は荒起し畑返り新田場其外不寄何事相應之儀を兼々見立相達置弱人有之候はゝ遣ひ處手支不申様相心得可申候

六　月

右之外爲心得申聞覺

一田畑家職之外筵を打繩をなひ籠を作り其外品々常住之稼事出來候所々は野合之働不成時節或は老人子供女又は片輪者迄渡世之様子宜敷由に候間何事によらず所相應之稼事を目論見仕習せ可申候元手仕入金入候儀有之候はゝ其品により貸渡可申候間積立相達可申候

一夫役小入用少々之儀迄氣を付け物入減費成儀無之様に彌可申付候人夫等之遣ひ方度々申渡候通無高下能なるみ夫役等も還て稼に成候様常々示可申候

附り　近年申付候小入用遣ひ方割符之儀所により不相當の品有之候はゝ輕儀にても可相達候

一御貸麥之儀取立念入春の御救之貯に成候様相心得可申候御救之儀を申候へはいつに不限御貸麥は右之通春中之用意に候間常々隨分外事之稼を仕らせ御普請人足等に召遣候儀肝要に相心得可申候

一段々申付候儀共其所々により不相當儀或は難分品有之候はゝ委細に承り合存寄も有之候はゝ少之

御勝手不如意に付御普請差延新規普請相止

公事訴訟無滯樣幷年貢年內皆濟の事

儀にても無遠慮可相達候

一總て段々申渡候儀共在中へ一通相觸申計にては篤と難行當可有之間庄屋肝煎に逢候節銘々之心得末々之申樣をも承届細に行屆候樣可仕候且又在中より申出候儀も不都合成儀無之樣にしらべて可相達候併吟味絕候ては手支末々難儀致儀可有之候間其心得可仕候

一公事出入を好み色々之惡事をたくみ勸廻り總百姓共之心入迄惡く仕成候者所々に有之儀相聞候左樣の者有之候はゝ常々心掛承合輕內可相達候

一博奕禁制の儀別て念入可申候表立相知御吟味有之候ては急度御仕置被仰付村々之費も多く有之事に候間輕內より致吟味他所より徒者等入込不申樣可致候且又常々申聞候通火之用心堅く可申付候

一兼々申付候通五人組常に互に申合諸事致吟味候樣可申付候以上

辰　六　月

七三 口六郡兩熊野御代官奉行中へ申渡勢州は大崎與惣左衞門申渡

一御勝手御不如意に付去る寅年も御簡略之儀被　仰出候處少々緩み候處も有之由達　御耳此度御簡略之儀急度被　仰出候在々御普請幷役所家番所之儀差延不苦候處は見合可被申候勿論新規御普請は彌相止可被致候若致さで不叶儀有之候はゝ其品委細御達可有之候以上

辰　十　月

七四 於御會所岡野平太夫殿御代官郡奉行中へ被仰渡候

一度々被仰出候儀共に疎に有之ては末々難行屆可有之候間常々無油斷可被申付候

大庄屋共へ仮新田被下分として二石宛被下

片毛作地より新規に兩作地に成候處免合

荒起畑返之所免合積立之品

一公事訴訟無滯可申出常々可申付候總て百姓渡世之稼事油斷不仕候樣に是又末々迄念入可申付候

一御年貢年内皆濟之儀年々打續無滯御納所在之一段之儀に候此上彌差支候儀無之樣可被相心得候

以上

巳正月

七五 紀州郡奉行中へ申渡勢州は大崎與惣左衞門申渡

一大庄屋共に仮新田可被下旨去る卯年申渡候處右新田出來寄候郡いまだ出來不申郡有之候新田出來之郡は作德米壹人に貳石宛來年より被下候新田出來不申郡之分は鄕米餘米の内より右の米高之通是又來年より被下候此趣大庄屋共へ可被申渡候以上

巳十二月

七六 紀州勢州御代官郡奉行中へ申渡

一近年々新規に普請を加へ旱損を救ひ片毛作り之所兩作地に成候所々有之候右之所々免合之儀前者不作多き積りに候豐年の免合之引有之立毛不相應の所可有之候此見積り委細に考可被申候當年は作出來に候とも右の品を帳面へ記置可被申候

一荒起し畑返り出來の處免積自今左之趣被相心得積立之趣帳面に記差出可被申候以上

七七 荒起之所免合積立之品

一高百五十石　此丁拾町

高一石五斗　荒　此段一反

高一石五斗　　　屋敷　　　　　此反五反
　取米四石五斗　六つ取
殘百四十壹石　　　　　　　　此丁九町四段
内百二石　　　　田方　　　　此丁六町
　内五段　　　　荒起　　　　高八石五斗
　　此取米五十四石
　　　内四石五斗荒起し當年增
三十九石　　　　畑方　　　　此町三町四段
　内五段　　　　　　　　　　高五石七斗
　　　此取米十七石
　　　　内二石五斗荒起當年增
取合七十五石五斗
　右之内
六十八石三斗　　荒起無之積り候
　免にして四つ五分五厘三毛　此免荒起無之時之村總高免の積り
七石二斗　　當年荒起分臨時納增米
　免にして四つ八厘　　　　此免荒起出來候に付臨時增免に成

此免當年村總高免積被成等

右二口免にして五つ三厘三毛

一荒起坪々に有之時坪々にて當年之立毛高下有之者其所々見立に准荒起の內分けにて增分を集荒起分の增免當年より增免に可成但坪々の立毛に准し仕分け候にも不及所は總立毛見立積りにて仕出可然候此段者坪々にて仕分候にも免は一等に下候時は免合と立毛の高下に不相當とのわけ可有之候免合と立毛之體の免に准し申積りと相見候

一荒起坪の所々に有之時坪々にて當年の立毛高下有之は其品の見立に准し荒起之內分にて增分をあつめ荒起分之增免當年よりの增免に可成但坪々之立毛に准し仕わけ候にも不及所は總立毛見立の積りにて仕出可然候此段は坪々に仕分候ても免は一等下し候時は免合と立毛の高下に不相當とのわけ可有之候へ共此段總體の免に准し申積りと相見候

一其村免合の內に尤豐年凶年之免品々可有之候當年の立毛何れの年の立毛へ相當との儀は難究可有之候へ共右の內わけの通當年立毛見積の免は常々免合荒起分は當年より別段に增來有之積故荒起分の取米格別に免上る品と相見候

一右荒起五反出來の積にいたし候へば免四分八厘別段に上る筈壹反出來之時は六厘の上りに成此六厘壹分に成可申哉又は捨り可申哉了簡可有之候

一右壹分に不懸荒起在之候て當年の免積には成不申共取米增候荒起之品帳面に委細書付置可被申候

一增高在之所免合之積立右同斷

前々普請を加へ出來有之畑返り幷近年新規普請にて出來の畑返り免合積り立之品

一高百五拾石　　　　　　　　　　　　此町拾町
内　高壹石五斗　　荒　　　　　　　此町壹反
高七石五斗　　屋敷　　　　　　此反五反
取米四石五斗　　六つ取
殘て高百四拾壹石　　　　　　　　此町九町四反
坪々籾平し壹升に當る
内　百拾四石　　田方　　　　　此町七町
内　壹町當年之畑返り　　　　　此高拾貳石
取米六拾三石
右畑返り不入時は此田方免五つ貳分九厘四毛餘に當る畑返り入時は當年之田方毛付高免に廻し五つ五分貳厘毛餘に當る差引貳分三厘貳毛總田方へもたれ申積り依之左之通切分免之筈
高百貳石　　　　　　前々之田方
此取米五拾四石
但坪籾壹升五つ貳分九厘四毛餘壹反に付九斗左之通
高拾貳石　　　　　　畑返り田方
此取米九石
但坪籾壹升壹反に付九斗左之積り
右之通に切分候へは總田方之外何れも壹反に九斗つゝ出申積り

貳拾七石　　畑方

此町貳町四反

外に壹町高拾貳石　田方入

此取米拾貳石　反に付五斗取りに入

取米合七拾九石五斗

右之內

七拾五石五斗　畑返り無之時之積り

免に〆五つ三厘三毛

是は畑返り無之畑三町四反　壹反五斗取りにして總免積り立候如此

此免畑返り無之時村總高積立之免に成筈

四石　畑返り增取米分

免にして貳分六厘七毛之內に當る

是は畑方の時壹反に五斗つゝ取畑返り田に入總田方幷坪籾壹升壹反に九斗つゝ取申に付畑返り

壹町分差引〆高當年より臨時之增免に成積り

右貳口　免にして五つ五分

此免當年の村總高免積立に可成總て畑返り有之候所々の分村高免の積立如此之筈に候

一坪々所にて畑返り出來立毛の高下畑返り少にて村免に不構程之儀委細荒起之積立と同斷

一百姓自分に少つゝ畑返り仕候所々前々之通りにて差置申等に候然共右之通免相積候増米總田方へもたれ有之候間見合百姓共へも申聞切わけ免に可被致候

一田方畑方斗代不替所に候はゝ切分免に不及積に候譬は畑方壹反五斗取田に成坪籾壹升にして壹反の取米九斗差引して壹反に付四斗免臨時増米有之分其村にて臨時之増免に成申積に候

一總田高悪く畑方は能斗代同様の所も若は有之候哉此所の畑田に成地性能譬は坪籾壹升出來毛見之積立に入田方地性悪く坪籾八合にて免積に入候はゝ右貳合通り畑返り毛見の増免田方へもたれ可申哉年々如此もたれ有之所は地性幷立毛の上にて切わけ免に致しなるめ申方可然哉

一右之通算用にて畑免積り致し候へは總體の田畑高下切わけ免にてなるめ申度道理も有之候へとも此段は古撿地之通り畑返りの儀は新規に地替申に付もたれ無之様との儀に候其上新規に普請致し畑返りにて御德用を積り候も右之通に付百姓前をなるめ此品わかり候様にと如此に候

一右積立右之通に候へ共算用前之通切わけ畑返りいたし候者共殊之外及迷惑候品相究候はゝ免合之了簡可有之儀に候

一名前帳改に付畑返り出來之所は吟味之上其高之分は切わけ免に可被致候

丑七月

七八紀州勢州御代官郡奉行中へ爲心得申渡

一郷割之免相弁くせにて高下有之所も多有之候由相聞候右之品爲見渡毛見致候村繼段々左之通認毛見帳之外に差出候様にと添毛見役人に申付候各々も爲心得郷籾平帳面之案紙別紙に相渡候

何年在々免籾平仕出

一見立見何程御藏役所　　何村

内　籾何程

免何ほと　　田方毛付

押合何ほと　　屋敷茶桑とも

反に付何ほと

免何ほと　　畑方毛付

押合何ほと

十年免何ほと
去る免何ほと

究免何ほと

内

十年免何ほと
去る免何ほと　　籾何ほと
同何ほと

免何ほと　　田方毛付

當籾平何ほと

十年免何ほと
去る免何ほと　　反何ほと
同何ほと

免何ほと　　畑方毛付

當年反に何ほと

十年免何程
去る免何程　　反何程
同何程

宛何程　　　　　　　　　　畑方毛附

當年反に何ほと

右之通村々毛見致候通之村繼に認相續以後差出可申候以上

丑七月

七九新田改に出候御勘定に申渡

紀州分在々年々出來分

新田畑改覺

一竿は六尺三寸たるへき事

一田畑長之竿は寸尺は見捨間詰に可仕横は寸尺を附可申事

附り　長横同意の田畑は右之積を以相改可申候

一屋敷は家廻り屋敷取候所之分屋敷に究其外は田畑に相改可申事

一斗代附候へは田畑地面相應に附可申事

附り　自分地面相應に斗代附候時前々之所々は前々之盛附幷類地之盛附見計に斗代究め可申候

一新屋敷は十二の盛に附申へく事

但只今迄十三より高く附來り候所は前々盛に附可申候

一茶紙木漆菓類等仕付候場所は田に可成所は田方畑に可成場所は畑方に改地面相應之斗代附可申事

一田畑斗代附見計之上段々壹斗劣に附可申事

一岸蔭木蔭藪蔭あせ道引は免斗に引間尺帳面へ可記事

右之通を以自今新田畑相改可申候以上

丑　七　月

八十御勘定所幷紀州勢州御代官郡奉行中へ申渡

在々火事に逢候百姓幷疫病にて煩人多在之所に御救米之儀此度被　仰出候に付覺書

一類火に逢候百姓共御貸金左之通

一本役家一軒　御貸金壹兩　一半役家一軒　同　貳歩　一無役家一軒　同　壹歩

右御借金は御年寄衆御裏判手形を以大御金藏にて貸渡申筈返納之儀は其年は御免翌年より三年之間每年七月迄之內に納申筈

但無役家御貸金有之取立難成者郡奉行中より可被相屆候其者共へは鳥目三百文つゝ被下筈右鳥目被下候樣之儀は御年寄衆御裏判手形を以御代官所より相渡り本斗御勘定に可立尤御勘定には時々直る直段にて銀拂に成

一加子役所傳馬役家被下米御貸金は前々通尤兩役所役家之外の者類火に逢候節は右之通り御貸金有之筈

一疫病相煩候者共に被下米左之通

一五才以上壹人に米壹斗宛可被下

但御代官より渡置御年寄衆御裏判手形を以本斗御勘定に相立申筈

一口六郡は郡奉行中より被相達次第奉行組壹人つゝ其所へ差遣大庄屋と立合病人の樣子吟味の上人別の書付出させ御米段々相渡申筈

一兩熊野は山廻り之者に大庄屋立合右之通に相改郡奉行中幷古座尾鷲御目付中へ達し御藏米段々相渡其品追々被相達候筈

一勢州三領は郡奉行中より松坂へ相達上野三郎右衛門落合八兵衛預り之足輕差遣大庄屋と立合相改松坂にて吟味の上御米段々相渡申筈　以上

寅　三　月

八一 紀州御代官郡奉行中へ申渡勢州は大崎與惣左衛門申渡

一郡々免定下け札之儀一等に可認之處御藏給所とも仕方品々有之候殊に御藏所之下け札仕方入組多く有之相渡候儀も延引に成手代共御納所に出候儀幷免鄕帳被差出候儀も支へ候儀にも相聞候就夫下け札之帳面御藏所とも一等之案紙を相考候當年より右案紙之趣を以免相究候はゝ早々下け札御出可有之候以上

卯　九　月

卯　免　定

六つ五分田畑毛附高に四つ五分

一高千百五拾石　　何　村

但入作分田方本鄕に斗口壹つ上け同斷畑方本鄕に口八分三厘谷田惡所分毛付高に三つ取山田惡

在々へ被仰渡帳渡候節之書付

所分毛付高に貳つ取り何年畑返り田方毛付高に七つ取

今高千三百石　　御藏所は此今高除認

五つ五分内畑毛付高三つ五分

一高貳拾五石　　新田畑

但川端田方毛附高に六つ五分山田惡所分毛付高に三つ取

一見取米三石五斗

内壹石五斗　　畑米

右之通當免相定候庄屋肝煎小百姓入作迄立合無高下致割賦來る霜月中に急度皆濟可仕者也

元祿十二年　　御代官
給所は御代官名前除く

卯九月　　郡奉行

八〇 在々御定法に被　仰出帳相渡候節書付左之通

一在方へ近年度々被　仰出候儀共此度帳面一冊に仕立一郡へ一冊宛相渡村々に書寫置彌念入相守候樣に可被申付候

一口六郡へ申渡候筋兩熊野勢州三領右所切に申渡候儀共并在方帳面之案紙等是又近年段々申渡候分一帳へ調立候間各手前に扣置大庄屋共にも御寫させ可有之候

附り 各申渡候品々心得に成候書付共近年申渡候分右帳面有之候はゝ各手前に扣置可被申候

右之通近年在方へ被　仰出候儀共并に品々申渡候書付入亂候由に付此度帳面調立候間自今右帳面

之通可被相心得候就夫只今迄各手前に所持被致候右品々之帳面書付等不殘會所へ御差出可有之候
以上

寶曆十二壬午年八月

右は元祿七年より同十四年迄各郡へ布告之法令告諭等を一と纏めに集錄し從來の布告面彌可相守旨を寶曆十二年八月復諭したる者と察す元來元祿令に係るを以て爰に編入するもの也

按に

一志郡新井工事落成す

一元祿十一寅年四月勢州一志郡新井工事落成す

一志郡甚目（ハタメ）、須川、中林、曽原、小村、肥留、三ヶ村、中道小津、星合、笠松、黑田、見永、野田、新屋庄（ニヤノ）等の拾六ヶ村灌漑欠乏歳々旱損に罹るを以雲出川より導水新渠開鑿を謀り去年九月大畑才藏御勘定人並出張測量をなし工事豫算を遂け本年二月十一日より起工四月十六日に至て竣功を告く渠長百十七町十間人夫二万四千二百三十三人餘米三百三十五石八斗六升八合外に銀五貫八百六十七匁金四拾兩を費し日數六十五日間を要す依之旱損田六千三百二石餘水利を得加之畑返り地六七十町歩新田拾町餘を得爾後每歲現米四百石餘充之公收を增加すと云水路津領にも涉るを以て同領へ交涉其費三分弱は該領負担之由詳には別卷大畑才藏の記に揭く

大畑才藏は伊都郡學文路村之邑正也水利民事に精練を以て屢功を奏す時の司農大島伴六拔擢御勘定人並在方勤務に進む爾來續々大土工を起し無窮の國利民福を企圖する擧て數ふへからす又米作植物撿地測量貢租徵收貧民救濟等一切地方の事を筆記するもの多し大畑才藏記と稱して地方の局吏皆法を之に取れりと傳へり即ち別卷とし郡制中に附編す本記新井を初藤崎小田井の類皆之に詳なり

高林公　伊都郡藤崎堰を開鑿す

深覺公　越前にて新地御拜領

南紀德川史卷之九十四

臣堀內信編

郡制第六

歷世郡治大概第二

高林公

一元祿十三辰年春伊都郡藤崎堰を開鑿す

此堰は伊都郡後田（シリベタ）村藤崎（上那賀郡名手組川の中央富嶽形の岩あり）より紀之川を導き伊都郡那賀郡の中五十三ヶ村に渉り田壹万石を灌漑し堰延長六里半に及ふ國中有名の大堰也亦大畑才藏の計畫に成る同人の記類中散逸に歸したるや此分記載なく詳にしかたし然れ共其日記を撿するに元祿十二年六月と九月より十二月迄藤崎井見分御用と記し翌十三辰正月より三月に渉り同御用出張との事あり去は十二年六月以來水盛豫算等を目論見十三年正月より起工遂に竣功に及ひたるなるへし其概略書に據れは人夫拾壹万人を費し水掛り高百石に付人工一千人餘に當ると記せり

深覺公

一元祿十丑年四月十一日　將軍綱吉公（常憲公）御成之節御目見於御前新知三万石御拜領（此時御庶子にて內藏頭賴職と稱せらる主稅頭賴方公（有德公）にも同しく新知三万石御拜領なり）

同年五月十五日越前國丹生郡の內五十六ヶ村々方三万石御朱印出る
右御領知受取として神谷與一兵衛を派遣（與一兵衛時に山口御代官八十石を領す）彼地にて御代官役今明年可勤旨被命同年七月出發翌年四月迄在勤せり此時大畑才藏は兼て地方事務に精練なるを以て與一兵衛と同行を被命七月朔日和歌山發途七日越前丹生郡北山村（和歌山より六十七里半と云御領知代官所のある所）へ着御領地在々巡見人情風俗地味物產等巨細撿察を遂け八月廿八日和歌山へ歸着復命すと云ふ復命の草案才藏自記の書今尙其家に藏するを得たれは爰に抄錄せんとするも少しく煩雜の虞あるを以て別卷大畑才藏記の中に編す併せ見るへし唯大數は左の如し

高三万石　　五十七ヶ村
此町千五百三拾町四反八畝二十二分六厘
但押合一反に付一石九斗六升余
在廻り道法　三十三里十七丁

有徳公

一元祿十丁丑年四月十一日　將軍綱吉公御成之節御目見於御前新知三万石御拜領此時　綱教公（高林公）賴職公（深覺公）御目見賴方公（有徳公）には御次之間に御扣之處伺公の閣老大久保出羽守御兩所之外にも御庶子被爲在の旨言上しけれは御逢可被遊との　上意にて御謁見の處賴職公と共に新知三万石を下し賜ふ即ち越前國丹生郡鯖江の地に於て御朱印出たり此地甚瘠地にて租入僅に五千石には充さりし

由御實記に記せり御領地村名初地所受取等の記存するものなく詳ならす深覺公御拜領地と同郡なれは神谷與一兵衞大畑才藏此地をも巡視且つ受取の事あるべき筈に察すれ共才藏記何等記する處なし

一寳永四丁亥年四月伊都小田村より紀之川を導き新渠を開鑿す之を小田堰と云ふ

是亦大畑才藏命を奉じ企圖する處也才藏か日記に據るに寳永四年三月廿二日より四月廿六日迄五月十三日より六月六日迄小田新井詰と（八九月にも伊都新井筋御用出張との事あり）あれは蓋し同年春より起工四月落成せしならんか同人自記の書轍からされ共四年度の分は新井筋丁場分け帳桶管橋梁地引帳と題する者のみにて土工大體の設計工費の預算乃至實施の大計測量圖案の如き更に存せす依て土人口碑に傳ふる處と他の筆記等に據り考査するに紀之川藤崎堰より四里許上流小田村下より分水小田、南名古曾、名倉、大野、中飯降妙寺丁の町、大藪、大谷、佐野、東村、中村、萩原、窪村、背山、下夙拾六ヶ村の山麓谿間に縱橫屈曲迂廻腸形の溝渠を開き橋を架し谷を埋め山を割き筧を通して延長五里一町に涉り灌漑の及ふ所田五千石此工夫廿一万人を費したりと略圖（朱円黑点）色の圈は即ち寳永四年之開鑿なり而して成績佳良國利振興民亦至便を得於是猶之を延長繼開の議起れり

寳永六年再ひ大畑才藏をして小田堰繼鑿の工を起さしむ才藏か日記に同年正月廿七日より五月十三日迄新井堀次き御用と記し（前年九月より十二月迄小田新井御用云々の事あり蓋し測量設計等か）新井堀次き仕上勘定帳には二月より五月迄とあれは全く二月より起工五月上旬完成したる也此回の工事は下夙に次き名手川より穴

伏西の山、西野、後田、市場、馬宿、狩宿、西芝、池田垣内、東野、井田、粉川、かせた、中村等那賀郡十三ヶ村に延長即ち略圖萌黄黒色圈の如し又前回の溝渠修築岐渠新設をもなし其經費銀二十六貫九百三十九匁二分四厘五毛此人夫二万三千七百九十一人三分一厘と記せり詳なるは別卷大畑才藏記に掲くる如し　灌漑田反別は記載なし

抑小田堰は國中有名の大堰にして夏時一たひ橋本街道を過れは滾々洋々河の如きものと終日綿々相離れす一見其洪圖偉蹟を感歎せさる者なし二百年來万民其澤に潤ひ公益無窮に傳ふ然のみならす才藏曩には勢州一志の新井を成功續て藤崎堰を開鑿す又小田堰兩回の大業を奏功す而して紀人更に才藏ありしを知るものなく固より紀念の一碑たになし僅に地方の口碑に存するも田舍漢の評范漠たり續風土記の如き他事に在りては頻りに碑文を撰述明説のもの有之共此堰の事は甚麁略且元祿年間開鑿と誤記せり才藏の名譽は人知る者なしと雖も其勳績は世と共に盡す二百年間漸次擴張し來て明治三十二年九月十八日調査の現在は次記之如しと（類に依て藤崎之分も併記す）嗚呼盛なる哉傳へ聞く才藏の時固より測量器械なく技術學士もなく僅に一己の經驗鍛練を以て暗夜提灯線香の火を目標としつゝ測量なしたりと云へり之を今日に比し其苦辛艱楚の度は殆と想像の及ふ所に非るへし

小田井水利組合

灌漑反別千六十八町一反三畝四歩　此十六ヶ町村六十五ヶ大字

内　伊都郡　應其村　大字小田　名古曾
同　郡　妙寺村　大字中飯降　丁ノ町　妙寺
同　郡　笠田村　大字佐野　萩原　東　窪　笠田中　背の山　高田
那賀郡　名手村　大字穴伏　名手市場
同　郡　狩宿村
同　郡　粉河町　大字粉河
同　郡　名倉村　大字名倉　大野
同　郡　大谷村　大字大藪　大谷　新在家
那賀郡　上名手村大字西の山
同　郡　王子村　大字名手　池田垣内　西野　後田　西の芝　井田　東野
同　郡　長田村　大字深田　上田井　島　松井　別所

同　郡　池田村　大字　中三谷　西三谷　古和田　東國分　南國分

同　郡　田中村　大字　尾崎　花野　中井坂　西井坂　竹房　窪　上野　打田　黑土　畑ノ上　久留壁　東大井　西大井　田中馬場　下井坂

同　郡　上岩出村大字　水栖　中迫　野上野　東坂本　西國分　新田廣芝　同　郡　岩出村　大字　岡田　溝川　高塚

同　郡　根來村　大字　森　川尻　今中　西坂本

「右大字は舊時の村名也近時戸數に應して町さし村さし村々獨立之數制に足らさるは合併一村さして舊村名は大字さなりたり」

藤崎水利組合

灌漑反別七百九十三町五反四畝四歩　此九ヶ町村五十一大字

內

那賀郡粉河町大字　粉河

同　郡田中村大字　打田　竹房　窪　畑ノ上　中井坂　尾崎　黑土　上野　下井坂　西井坂　花野

同　郡長田村同　島　松井　上田井

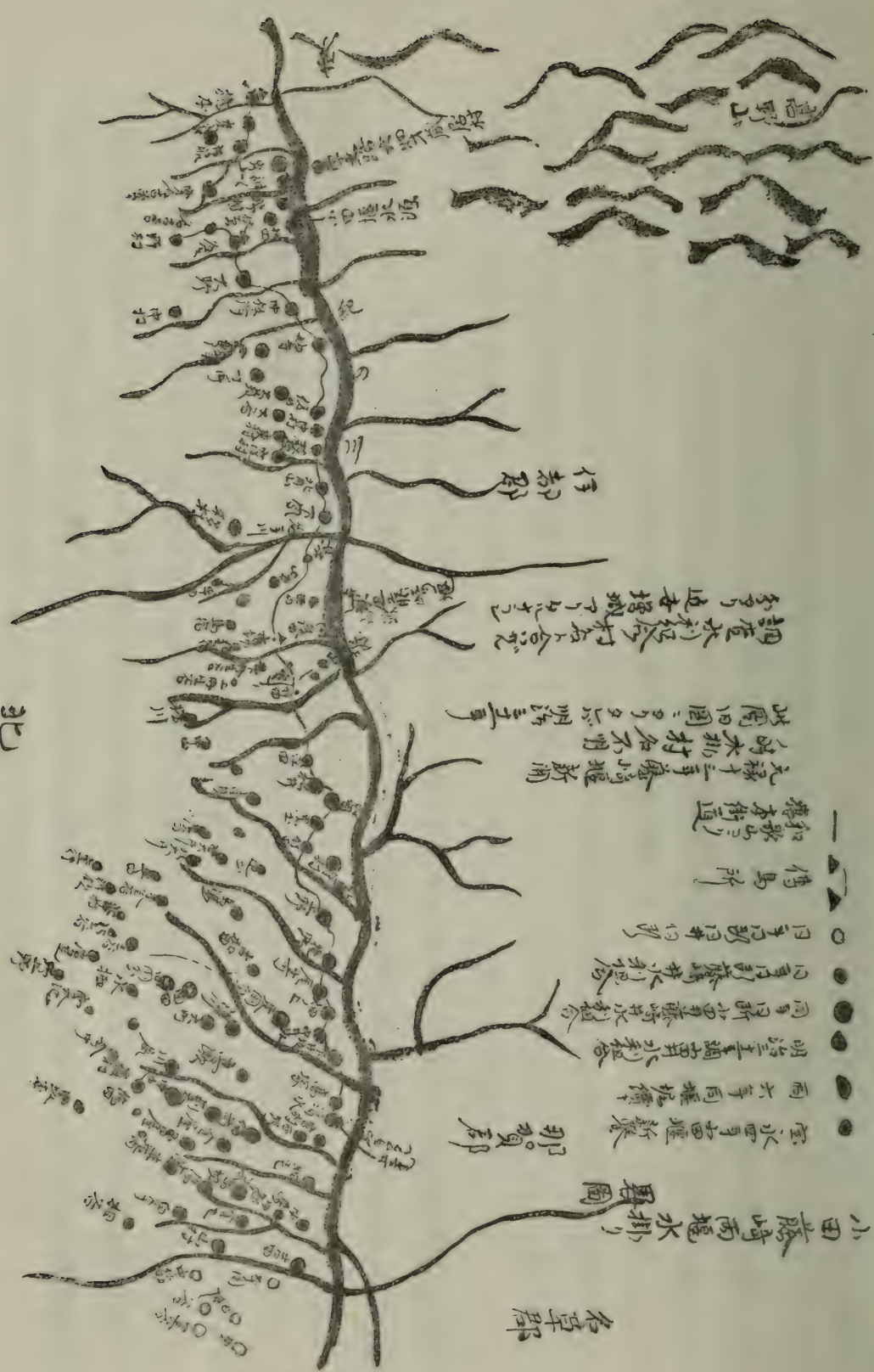
同　郡池田村同　東國分

同　郡上岩出村同　西國分　中迫　荊本

同　郡根來村同　川尻　森

同　郡岩出村同　清水　岡田　溝川　高塚　大町　高瀬　備前　西野　宮

同　郡山崎村同　曾屋　金谷　畑毛　赤垣内　馬場　金池　相谷　山　白草　波分　湯窪　中島　中野黑木　吉田

名草郡山口村同　中筋日延　平岡　上黑谷　谷　山口西　里　藤田

小田藤崎両堰水掛り略図

龜池を築造す

一寶永七寅年正月伊澤彌三左衛門紀州名草郡多田郷坂井村の龜池を築造す

龜池は村の南にあり寶永七年伊澤彌三左衛門と云者の穿つ處にして正月より功を始め四月に功を畢ふといふ深さ八間周五十町大抵山にて囲めり池中に山あり那賀郡龜之川及近邊諸谷の水をうけて下十箇村に注き高七千石の田を養ふ谷嶮ならす故に急水の患なく棄樋の破損なしといふ樋長四十二間龜池の名は龜之川の流れをうくるより起る（池の側に樟及藤の大樹あり）此地の東重根莊界小池あり大池といふ　紀伊國續風土記

下湯川村に暗渠を穿つ

一正德三巳年紀州牟婁郡四村莊下湯川村に暗渠を穿つ

下湯川村と檜葉村と南北の間山岡中間を隔つるを以て正德三年官より檜葉村の內串崎といふ所と下湯川村との間山腹一町餘の間穴を穿ちて渠となし水を引きて田に漑かしむ安宅莊安居村の暗渠と大抵同し　同上

國主は領內の總てを知る事

一正德四午年八月三日御自記政事鏡之內に

一國の主と成ては領內中の土民の事迄不知は名將とは不可云候然は當家杯も領內鷹野猪狩りとも又は神社佛閣參詣とも申なし一度は自身に一見可致事

百姓町人へ申付の條々

一百姓共境目大切に無油斷相守候樣申付時々相應の褒美可遣候左候はヽ難有存子孫共に境目永々大切に相守り出入も有間敷事なり是又境奉行見廻りに相廻る事なれ共百姓共は其所に出生代々住居なれは具に可存居事故右之通り申付る事なり

一万事物入少に爲取計可申候年を追て勝手向難澁の時は無據町人百姓共へ用金申付候ては迷惑不

得心の者も有之上を恨る時は右金銀に思ひ有て國主の調伏を爲すも同前なり夫共　公儀より不計御用被　仰付候か又は隱居家督の節又婚姻の節格段の物入一生一代の事は格別の事候間少分は分限相應を以可申付候平日難澁一通りにては少々たり共申付間敷候町人百姓共より無躰に金錢責取り候儀は小兒も爲安き事也夫にては役人の了簡勤方とは不可言候

百姓町人へ儉約不申付

一町人百姓共へ儉約筋は決て申付間敷候如何となれは彼等は銘々一分切にて家屋敷田地相求夫々の家業致商賣者なれ共國主の用にも相立候者も有之候國主よりの厄介無之者共故心任に致置可然事也別て下々は隣國之風儀を學ふ者故暮方は豐凶に依て不致事なれは儉約筋申付候儀は無用の事に候尤可申付儀は他領之家中侍分上の者へ乘打無禮法外の儀不致樣稠敷可申付候

一町人百姓へ儉約筋不可申付子細は商賣之上にて利潤は算勘にて致相續者なれば平日油斷有間敷事也尤數万人の內には不相續及潰者も可有之候へ共夫は世の盛衰無據儀何時も有內の事に候他所者と取組等有之趣相聞へ候間着用音信贈答勝手次第の事に候是を差留候ては結句不通用に相成領內之衰微に可成候間家業の働出會共何時迄も勝手次第可爲致候尤着用物の儀は役所並家中分へ出候節は木綿に限り可申候

開發可致所は開發すべき事

一領內藏入給所共に田地開發に可成所は川筋澤々谷地野山立山の內にても場所熟と吟味の上開立候樣出精可申付候尤山主谷主へ申付候ても其主開立兼候はゝ誰にても屆次第開立可申若亦右場所主違亂の事も可有之候間其向々を以內々申出候はゝ無遲滯可申付候田地にも相成場所永々捨置候事は末代迄の無益の事に候少つゝも連年開發有之時は永々爲子孫國の寶と云者也

境論は撿地改めの場にて申渡すべし

樹木を植立しむ

先年より有來の田地計りにては連年洪水の度毎に川欠減高計出可申候間此度別て申付候田地開發の儀は勘定奉行方代官相廻り村々の百姓共へ可申付候右開發高有之候はゝ連年帳面にて差出候はゝ披見可申候夫共開發に物入等有之成兼候はゝ其村方へは納戸金より貸遣し可申候右上納の儀は無利足三箇年に上納可申候旨熟と村々にて可申付候

一百姓共田地境論申出候はゝ撿地の節吟味致し得と相改候はゝ分明相知可申候間其場にて双方可申渡候其節は勘定奉行兩人勘定兩人向々手附下役の者古人村乙名等罷出可申候其場にて双方へ申渡引取可申候勝負の儀不可申候尤手當にも及申間敷候此儀如何となれは負の方手當申付候ては意趣に存し何そに付重て出入可申候間左樣無之爲の事也

一百姓共山論申出候はゝ先年の山帳に向て相改境目相立可申候其節は山目付勘定奉行兩人目付役兩人山奉行代官兩人取手足輕兩人山守肝煎古人村乙名相詰立合の上吟味先年之通山帳に向境目相立其場所にて双方へ可申渡候勝負の儀不可申付候引取後に申渡時は上にて贔屓之御裁許抔と下々にて心得候ては跡にて出入出來又科人出候事也何とても科人絶へ申間敷樣にては村方大困窮と成へく候間手當は可致用捨事也取手足輕申付遣候事は右場所にて口論等無之爲にて右躰の節は何時も事嚴重に大勢遣し可申事也

此外山論所刑の事あり刑律の部に記す

一在々澤々山々風烈く無之所へ杉植立候樣に可申付候右植立木主へ半分遣候證文相渡置可申候右植立之者致病死候ても証文所持致し候はゝ子孫之者願出次第半分遣し可申候間隨分出精可致候

杉苗手入銘々念入可申候尤藏入給所共同樣可申付候百姓共爲に成可申候

一野山にて能き草木立兼候所も有之候はヽ茅植付可申候百姓家作葺草にも可成候間是亦得と申付爲植立可申候藏入給所共同樣可申付候茅は一度植置候へは永々絕へ不申樣承るなり乍然後々差合出入不相成樣其村方向々のもの立合植立可申候尤植立相濟候はヽ其村方幷山主名前書上可申候末々に至り違亂無之爲請取置可申候

一畑邊り山岸通への漆木も地主共銘々植立候樣に可申付候成木致し候ても右木の役不申付候地主爲に申付候夫共往來通境は決て植立申間敷候雨天之節通之者へ雫落候へは人により漆にかせ煩にも相成樣相聞え候間往來へは決て無用可申付候殊に植立場所宜候ても他人の田地の障りに相成り又は末々障り可相成場所見合候樣熟と可申付候

隣國商人入込勝手次第

一領境に居候百姓共隣國通用障りに成候儀は決て申付間敷候双方共通用難澁無之樣可申付事也夫共に先々より商賣物等差留候儀も有之候はヽ其節は見合可有事なり夫共に此方領內差て不自由無之品は頓着不致儀也當領へ商人入込候事は勝手次第可致候

非人處分

一城下幷領內之中に非人有之候はヽ其者出候場所親類緣者相尋候て有之候はヽ右之者へ相渡し可申候他領より來り候非人領內より追拂可申候領內より非人出候儀は國主の恥也領內に緣者も無之候はヽ鳥目貳拾疋吳候て追拂可申候

捕鯨浦方へ遣す

一浦手へ寄り鯨有之沖にて先に見付候者引上け候者へ半分殘り半分は上へ取上來候へ共向々の者相詰候に付人馬何角物入も有之却て村方困窮迷惑の趣相聞へ候間此末寄鯨有之候はヽ其村方百

姓共へ不殘吳候間右鯨之間尺計改書上可申候百姓共身分高下に構なく家主一軒に付何程つゝと配分割合無甲乙樣に可致候尤先に見付引上候者四倚一取可申候殘り右之通配分可致候扱又存不申内波にてすくひ上け候分は銘々無甲乙配分尤の事に候此段可申渡置候

往來路川の便を謀る

一領内在方道筋往來幷山道作場通之道共に通路の人馬へ障り候木の枝は不及言根柴に至迄一箇年兩度つゝ爲切拂可申候領内の者通路不宜上領違ひの者通候節政事不宜樣評判可致事に候連年兩度つゝ水溜不通用之所水切流水拔堀廻し可申候右向後無油斷氣を附候樣可申渡置候

一在々大川小川筋兩土生一箇年兩度つゝ切拂可申候是は洪水等の節水拂兼川欠出可申候間右用心此末每年兩度爲切拂可申候

一領内中在々小村迄入口小道へも追分爲相立可申候領分の者は不及言他所者の通路の爲申付候小村等には是迄相立不申由相聞へ候間此度改て申付候

五穀成就の祈願

一領内中五穀成就祈禱は城下神明に於て來四月朔日より三夜三晝可爲致勤行候右祈禱料金子五兩つゝ每年三月朔日に差出可申候其節祈禱奉行として目付役壹人寺社奉行壹人上下にて晝夜相詰可申候尤忌服相改可申候此末代々定法に定置候て社家へも可申渡置候雖儉約中畢竟五穀成就豐年にて万民無事息災を得せしめん爲之事也万一領内凶作にて飢饉等の爲飢渴にも及ぶ時は儉約筋も破に及ひ候事故兼て左樣無之に申付る事に候是迄も五穀成就祈禱有之候へ共定日も見え不申候間已來は右定日相心得可申候右にて年中相濟候事の樣相心得申間敷候雨乞日和乞風祭等其時々之祈禱可致候且又在々百姓共も其村方に於て相應の出銅時々の祭等可致旨向々役人共より

領内神社佛閣を造立及修覆在々へ目安箱を設く

勢州松崎浦にて捕鯨被仰付

兼て可申付候

一城下并領内中神社佛閣廢壞致し候はゝ無油斷造立修覆いたし候樣可申付候儀也

一此度在々へ目安箱相廻し候間親不孝の者并惡性の者有之候はゝ右の次第書付に致し入可申候在々には惡性の者有之候ても妻子の恨を存其分に致置候由相聞え候左候へは其村方困窮相成可申候間目安箱相廻し候科人出し候儀には無之候科人餘計不出爲に申付る事也子細は煩はぬ先に灸治を致し養生と等しき心にて申付る事也

按するに　後世財政及ひ民治の上於て苟も美蹟良法とさへいへは概して　有德大君の御趣意也御遺法也と如何なる寒村僻陬の田夫舟子も口碑に傳へて賛嘆せさるなし宜也政事鏡御自記の條一つとして安民の至要万世の明憲といはさるへけんや抑二百年前純乎たる封建君主專政の世に在て既に百姓町人共へは倹約筋決て申付へからすと其自治自由を解放し給ひし如きは實に空前絶後の御卓見といはさるを得す如何となれは當時諸藩の國風たる百姓町人といへは賤劣蠢動視し苟も節倹令を布く先つ此輩を首とし殊に嚴峻を加ふ即ち水野越前守の幕政の改革に道路下民の服飾銀簪を剝たる如し又神社佛閣に於けるも一時神佛混淆嚴禁の令出名刹勝區壯嚴無比の大伽藍を破壞し以て維新の鴻業と得々たりしも今は却て之か保存修補に汲々喃々たる等に照らし時世古今の懸隔と大智世才との程度を比較し來らは如何なる感を起すへきか史を閱する者深く察せさるへけんや

一明德秘書に曰く御船手御船頭水主稽古怠り所作あしく成候付鯨船共五艘勢州松崎にて突方被仰付取獲の鯨を賣立件の諸入用且船道具の修覆被　仰付候夫々の家職の者の致方と万事の違有之に付凡一箇年に金四百兩つゝ御償金入候事然共御損を御厭ひ不被遊被　仰付候は櫓手の稽古に依て也其後　公儀御相續に付鯨方は相止候事

御自記政事草に

一城下町撿斷之外に一町に宿老一人つゝ申付置候右町內に出入有之節右六人の者共取寄相談公事人双方共に得と承屆內濟に可成程の事誤りの方よりは申譯爲致事濟候樣に可取計候夫共身分輕き者抔と存候て無躰に押すくめ和談爲致候ては意趣に存後日に如何樣の事仕出候も知不申事故理非再談分明に相片付可申候又內濟に取扱兼候はゝ其節撿斷所へ可致披露也

一在町にても右同樣可申付置候尤內濟成兼候節は藏入は代官所給所は他頭へ可披露候右出入の次第念入相尋候趣向々へ相屆可申候決て麁末無之樣可致事也

一在町藏入給所共に一鄉限に村老各十人充申付候間何儀に不寄一村の出入右十人の者共取寄出入の次第得と聞屆相談の上取噯內濟に可致候百姓共は片事なる者故双方念入相尋可申候決て依怙贔屓致間敷候可相成丈は內濟に可致候夫共に相成兼候はゝ其節代官所へ可申出候尤一村に藏入給所等入込の場所は給所百姓共地頭數々も候はゝ銘々地頭限に一兩人充可申付置候彼是人柄見立の儀は代官共吟味可申付置候左候はゝ大體の出入役所迄不申出內濟にて相濟候へは靜謐に存る也然る時は諸役人共手透相成可申事に候

按に　撿斷所とは町會所即ち名主の事なるへし御自記中宿驛問屋場の事をも撿斷所と遊されしあり會所抔を撿斷所と唱へしものと見へたり

一家中勝手不如意の者衣類武具馬具等質物に指置候ては急用の節相勤兼可申候間縱令櫃長持葛籠狹箱にても錠をおろし其上封印にて內の品改不申其儘質屋にて請取置可申候尤身躰に應し十貫文より五十貫文まて貸出可申候定月急度引取候樣以書付可申渡候然共定月引取兼候て申譯延置候者有之候ては質屋迷惑致し相續難相成事故月々改人差出可申候間万一不引取者有之候はゝ上より右元

利差遣し引取置人へ右品相渡追て可及沙汰候此旨家中不殘申渡可置候右の趣町奉行より撿斷を以質屋共へ可申付置候此末質物封印のまゝ內の品を不改受取置人質屋帳面通帳に致し銘々名前相記し可申候

一領內凶作の村方有之節藏入百姓共及飢渇候はゝ郡代幷代官より申立の上助米鹽噌等先例の通り可遣儀は專之事に候左樣之節は國主領主の儀に候間向々へ諸役人共は不及言自分共に右一鄕限に人數〆書帳面を以披見可申候大勢の者及餓死候事領內之大變なれは自分存入末々迄行屆候樣改て可申渡候尤鳥目も指遣可申候左樣の節は大將直に可指圖致事第一也

一町人百姓二十軒以上の燒失に候はゝ助米鹽噌相應に可遣候事なり假令一二軒の燒失にても城下在ともに一と通用にも相立候者又は目見の者に候はゝ鳥目成共見合可遣事也寸志にても上より被成下難有存世間へも難御捨家と下々にて諸人心得の時は共者相談すへき事也領內の富貴にも衰微にも領主國主の心得可有之事なり

一御實記に曰く天災荐りにして凶荒打つゝき海濱の地は高津浪入て民家流亡する事夥しかりしかはとみに仮屋をいとなみ衣服飮食を與へられ且こたひの事は天災の致す處なれはいやしき乞食の類ひと混すへからす弱人と呼んて懇に養ふへしと命し給ひ頻りに荒地を起すへき事を沙汰せられしによりやかて多くの民共衣食のたつきを得たりかく政務に御心を入給ひしかは次第に國民うるほひ府庫もみちけるとなん

按するに寶永四年十月四日日高郡南部海嘯ありて山內村人家悉く流失の事あり又同年十一月廿三日には富士山焚け出所謂寶永山突出し此年諸國災變多く至りたるよしは國史記する所なり本記も蓋し此の比の事なるべし

弱人普請被仰付

一明德秘書に曰く諸所道筋築地等の普請を弱人共へ仰付られ老女迄少々土を運ひ女は日に五合男は壹升施行被下候右持運ひの精不精吟味なく着到の揃ひを下役共いたし候迄也朝人數を呼改め晩方に及ひ米を施候銘々一旦宿へ歸りて米出候節出候ても其通りなる事也然とも己れ〳〵か働の可成氣根程は何も勤て頂戴する事妙也掠て不働之者一人も無之是則弱人普請之輩りなり其後是を見習ひ勢州松坂領西黑部村竹內五郎左衛門と云富貴の者弱人普請を企候

商工農を勵す

一又曰明君の御時は町人は商賣工は細工百姓は耕作に銘々家業を勤の第一綿繰糸を績木綿を織遊民壹人も無之相應に稼候御國より他國へ金銀米錢出候は僅に道中路錢迄也その比浦々大漁獵打續き候へ共皆他國へ出し御國へ金銀入込候魚類買人少き故也一統緤り不奢嫁入道具小間物に至る迄下直なるを用ひ銘々人の衣類を見て夫より緤らん事を致し借銀する人稀也御國の者に質置してかり候者月壹割より高利なし五百目一貫目以上利足は月六步也依て末々利銀に詰り及難澁候者無之至極之弱人は御救錢毎月百貫文被下冬は綿入古手を被下候輕き賤女は緤を勵み候事前代未聞也此緤の價も銀錢共御國へ入候事夥し

大和柿に依り民治を察す

一享保甫誌に曰く一歲秋の比松島八軒屋へ御徽行或百姓の家へ御立寄休み給ひたるに大和柿澤山に貯へあるを御覽御戲に其柿一つ御所望有けるに是は近日御代官樣御巡見に獻進申柿なれは中々難進と斷申を御聞被成在方治り方宜敷御國政末々迄行屆百姓共上を尊敬仕る事と御喜悅の御樣子にて歸御の翌日政府へ御沙汰有之名草郡の御代官某被召出一郡の治り方宜敷百姓共心服いたし候趣御滿足被　思召との儀御褒被成猶此上彌出精民治之儀心掛候樣被　仰出候事

一或時旱して百姓共打寄りて雨を祈りけるに　公仰らるゝは百姓共用水を貯へ種々工夫を廻らし夜も休む事なく水の手の了簡して田地へ掛け詮方盡て一心に雨を祈るなれは天の感應の道理あるへき也畢竟左樣に雨を祈るも秋になり收納の節地頭へ米を恙なく納めん迚の事也己は得分もなき事に心勞の上又もや雨乞の物入をするを餘所に見るへき樣なし如何に守護地頭なれはとて其物入を其儘に致すは勿體なき事也地頭も百姓に力をそへて取らすへき道理なれは此後雨乞を致すに於ては其際入用は地頭より取らすへしとて下置れける今に至て左樣の節は雜用被下るゝ事となれり

大慧公　上

郡方手鑑

奥熊野木本郡役所年中行事

一正月元日木之本庄屋肝煎幷出入之町人共年禮に出る
一同二日木之本醫師幷近在の庄屋肝煎共年禮に出る
一同三日山廻り幷上知明知大庄屋年札に出る
一同四日木之本有馬出家年禮に出る
一同十五日比七組大庄屋幷物書共一所に年禮に來る
但年玉持參受納雜煎吸物之式は輕き料理にて盃事仕此時在々舊冬の仕込出入之儀とも年々右祝儀相濟候翌日にても左之趣可申聞事

一大庄屋共へ可申聞事在々麥作修理等爲念入兼々申渡候通當年も春百姓日間之内植樣其外空地見立植物等之儀各無油斷可申付幷に新田場荒起等見立春之内開起候樣可申付事且又公事訟訴事無滯早速可申達輕き出入等は下にて一先噯せ可申候何れも相濟候以後此方へ其品書附を以て可被相達事

一御城米船入津印形帳正月五日出に若山へ遣十一日會所へ相達

一先年正月より極月迄之漁銀高組寄書附右同斷

一正月物書給米相渡受取手形案文別にあり

一御在國大庄屋年頭御禮總代として壹人正月十五日廿八日の御次を當て罷登

一鄉役米中勘定正月中旬若山へ遣御勘定所へ相達る

一勢州御用の浦水主之儀　殿樣御歸國年は例二月の內申來る

一二月の內例支配下春廻り順見に罷出候事

一奥熊野總人數切支丹書附例三月廿日頃迄若山へ相達る

一浦組諸式增減品替帳右同斷　但役所元帳共箭張直し置候事

一四月十五日本宮御代拜相務候事

一七組麥茶出來分附書附四月中に可申達事　但新宮上知明知は除

一御貸麥取立目錄四月に可相達事　但新宮上知明知とも

一郡奉行御合力米四月霜月に渡る

一鄉役米中勘定四月中に可出事

一新田畑等入幷に荒起畑返り等有無の書附五月中に可出事　但奥熊野七組計

一郷役勘定年番大庄屋毎春より夏迄の内罷登　但右時節指支御用有之候へは御願秋冬へも延る

一奥熊野幷に新宮上知明知舊知之内定免願替之年は例五月中迄の内可願出申事

一七組の田方毛附濟候書附五月中に可相達事　但新宮上知明知は除く

一六月十四日那智山御代參可相勤事

一七月郡奉行物書米渡る

一三山御太刀拭御用例八月の內に相勤候事

一在々春より秋迄損亡寄候目錄九月五日迄に達す　但新宮上知明知とも

右九月五日より晦日迄の內損亡有之候へば追て早々可相達事

一九月十五日新宮御代參相勤候事

一郷役米中勘定帳九月指入に可相達事

一二夫米代十月中に取立可申事

一利米代霜月中に取立可申事

一郡奉行へ御合力米霜月四日に渡

一在々中買代幷下借其外返納筋霜月中に可取立申事

一御城米入津印形帳幷に正月より極月迄の漁所高寄目錄之事

覺

一御城米船上乘船頭印形帳六冊
内　何冊　何浦　何冊　何浦
右去る何正月より同極月迄奥熊野浦迄入津致分印形帳相違申候以上
何の正月郡奉行兩名無印

午正月朔日より極月迄　諸漁銀高目錄　奥熊野

己銀貳百八拾九貫四百拾壹匁四分
都合銀三百拾八貫六百五十壹匁六分
内　己四拾四貫五百七拾六匁九分指引〆三十一貫四百十二匁五分
拾三貫百六拾四匁四分　鯨漁　午不足
己九十三貫八百四拾四匁九分指引〆四拾壹貫八百目　午過
百三拾五貫六百四拾四匁九分　鰹漁
己百五十貫九百八拾九匁四分指引〆十八貫八百五十二匁九分
百六拾九貫八百四拾貳匁三分　諸漁　午過
右之譯　木之本組
尾鷲組
組之分寄記　相賀組

郡役人給米之事

大庄屋年頭御禮

郷役米之事

右之通に御座候已上

午極月　　　　　　　　　　　　長嶋組

古屋十郎太夫

吉田才右衛門

右者正月十一日初寄合奉行衆へ達す

二　郡奉行物書給米之事毎正月七月兩度に渡る手形案文左之通

米合三石七斗五升也

右者拙者物書給米之内當何の爲春渡夏渡分受取申候已上

年號正七月　　　　　　　　　　郡奉行印

傳甫御藏奉行衆

右給米之儀若御役所替等にて年ばしたに成候へは給米日割之筈

三　奥熊野大庄屋年頭御禮罷登り候節之事

右奥熊野大庄屋總代年頭之御禮に罷登り御次に御目見爲仕度奉存候已上

奥熊野何組大庄屋　誰

月　　　　　　　　　　　　　　郡奉行　姓名

四　郷役米之事幷に御普請所之事

一奥熊野幷に新宮上知明知共郷役米高左に有之候通若常式郷米にて不足之節は各達候上本斗米請取

遣又常式鄉役米餘り候へは入札にて拂代銀大金藏へ納右不足米にて受取方餘り米納方之儀左之通

一奥熊野幷に新宮上知明知とも何之鄉役米不足に候間本斗米御渡被下候樣にと願出右願添奉行中へ相達し願之通相濟候へは御勘定所より御代官所へ差入御證文相廻る其上郡奉行仮手形御代官所へ差入本斗米先請取遣追て右不足米高一紙手形衆裏判添右手形御勘定所より傳甫御藏之添證文受取傳甫御藏へ持參傳甫御藏へも好目錄入右手形好目錄案文左之通

請取申米之事

米合何程也

右は奥熊野幷に新宮上知明知とも何之鄉役米不足に付何之本斗請取相渡申候重て本手形に引替可申候已上

月　　　　　　郡奉行　姓　名

奥熊野御代官衆

右は仮手形なり是は御代官書かへ取遣す

請取米之事

米合何程也

右は奥熊野何之何之鄉役米不足に付受取申候已上

年號月日　　　　　兩郡奉行印

傳甫御藏奉行衆

右手形好目錄相添御勘定所へ出る傳甫御藏へ賄手形被出候樣との證文取る

覺

米合何程也

右は奥熊野何之郷役米不足に付請取申候間誰宛之手形被遣候樣傳甫御藏へ御證文御出し可被成候

已上

月　　　　　　　　　　　　兩郡奉行印

御勘定所

右手形幷に御勘定所證文に好目錄相添傳甫御藏へ出御代官衆宛傳甫手形取る

覺

米合何程也

右は何郡何郷役米不足に付奉行衆御裏判手形を以て受取申候間誰宛之極手形御出可被成候已上

何月　　　　　　　　　　　兩郡奉行印

傳甫御藏奉行宛

一郷役米殘有之節六月入札にて拂尤若山より指圖あり代銀茶屋包にして添目錄にて大金藏へ納め役米勘定之節御年寄衆極手形に致御勘定所へ納落札幷に外村も銀納願書可達事

一正月十日過より前々は郡奉行普請所見分に出在々順見普請願帳を以春夏秋冬普請等夫々極毛附前急所の品は十二三日比より取掛郷役人出申付候尤其比若山より普請手代杖突等參り候事に候然と

も近年は前年十月の內在々普請願帳共若山へ出し會所へ出申候若山より御普請所見分の役人參り
在々普請所見分春夏秋冬御普請を極め若山へ持參會所へ達し其上にて右之極帳此方へ來り申候に
付此由存寄も候はゝ申達候へ大立たる御普請も候はゝ郡奉行罷出見分之樣にと申來候奧熊野には
右體之大立たる御普請所は無之候故不及見分候併し新規の事見積等入申儀有之候へば格別の事に
候尤帳面了簡の上差略有之候事奧熊野には池無之故重立たる御普請願も無之に付口郡にて田人役
に仕儀も役人を以致遣候事に御座候處人足も奧熊野は浦方山方共に田畑少稼を重にいたし候處故
人數他所稼に罷出在々無人數に候へば四分方掛り申儀御座候尤請切の御普請等其外に相勤之上申
付候樣に有度御座候

覺

一鄕役人足七拾貳人 內杖突二人　伊都郡
一同　四拾人右之內　那賀郡
一同　六拾六人之內　名草郡
一同　五拾人右內　海士郡
一同　五拾人　右內　有田郡
一同　六拾人　右內　日高郡
一同　四拾人　右之內壹人杖突　口熊野
一同　拾五人　奧熊野

一同　六拾三人内二人杖突　田丸領

一同　九拾人　右内　松坂領

一同　貳拾五人内壹人杖突　白子領

一同　貳拾壹人右内　一志郡 白子附

附紙に　先年は郷役人足多く掛り候處多掛には不及儀に候了簡有之普請場所多人足不足致に付内證にて常日用を抱給扶持等は郷役人足之通致し御勘定に出し候時は六升七合つゝ之寄日用に仕組替候依て内證得失も有之に付常日用の分郷役人足を抱候様にと先比申渡依之郷役人足の人數增申候此以後人足數增減の儀も普請所多少の様子により吟味可致候

一郷役人足壹人

前々之通

給銀九拾日但前年に暮前借

扶持方　働日七合五勺　休雨ふり日五合宛

宿賃鹽噌代銀壹分貳厘位殘九文分雨ふり日共

附紙に　宿賃持籠は只今迄は錢にて渡候故錢屋掛前借之銀を渡置直段も年中入用次第に受取參候に付人足費有之又錢直段も不同にて不宜様に候依て自今は只今迄渡來候錢を壹貫文に付拾三匁かへの積にして銀渡に相極

同增　壹分　但し七文分　是は御城掃除其外御用に相詰候時

附紙に　増宿錢七文渡候處六文渡所替有之に付自今は七文一等に渡申筈に極候

持籠代銀六分五厘 同八分壹厘　但錢四十八文 同六十文　口六郡 兩熊野　勢州三領分 分　但し杖突貝吹に不可渡筈

附紙に　田丸領は持籠代四拾文渡候へ共自今兩熊野の外者取高に極申候

一鄕役杖突壹人

給銀百五拾目　但前年の暮前借

扶持方鹽噌代右同斷

附たり極月十六日より晦日迄の內勤日の通り扶持方七合五勺つゝ可渡宿貨鹽噌代不可渡事

附紙に　極月十六日より晦日迄扶持方只今迄は壹升つゝ渡所七合五勺つゝ渡處又五合渡處有之に

付自今一等に七合五勺つゝに相極申候

前之通

一鄕役人足　休日六十七日

一鄕役人足七月晦日より以後病死の者は人足代り人足不可渡事

附り欠落者有之給銀不紛取替へき事只今迄も如此に極候處又盆前盆後を限り候處又何時にても

代り人足爲出候處も不同に付一等に極候　但扶持方人足なとも如此にて候

前々之通

一大庄屋勤日　壹升宛

一組杖突右同斷　七合勺五　但口六郡の外は杖突無之候

一下勘定の時帳書右同斷壹升宛

附紙に　只今迄は壹升宛渡處七合五勺宛渡處不同に有之候帳書の儀賃米渡し積に付自今壹升宛渡筈に極候

一着到帳入用之紙筆墨代は前々之通

但御勘定入用紙筆墨の代は相極り有之候勢州入用次第に買取渡候由に候就夫自今は勢州も紀州同斷に銀貳拾目に極候て大概過不足も有之間敷之積に付一統に本紙之通り

總體御〆方に付去年午七月より貳分通御減方有之筈に付在々鄉役方御普請所詰役人共へ相渡候年中紙筆墨代之儀も去午七月より貳歩通相減候筈に候間右之段御申付午納鄉役米御勘定元より自今年々別紙の通り相立候様取計可申旨御普請方役人大庄屋共へ御申付可被成候已上

寶曆十三未四月廿二日　　眞木六之右衛門

渡邊彌市郎様

由良銀八様

猶々去年之儀は諸郡御勘定下組も出來有之儀に候へは是迄の通御勘定へ相立させ置件之減方は御普請方役人共より臨時に納所へ相納させ候筈奉行衆了簡相濟事にて候此段も御申付可被成候已上

元七匁五分之筋
一六　匁　詰役人壹人分

元三匁七分五厘之筋
一三　匁　杖突壹人分

一在日用壹人役賃米壹升宛

一所人足壹人役賃米七合五勺宛
但日用百人に付四拾人の積に所人足可遣若右積に難遣雇に御普請所見分の節遣ひ方を相極め筈に候間郡奉行中へ斷次第御勘定に可相立但勢州分は所人足にて自今右の積に所人足遣可申事
附り 渡切に致處は日用所人足の定賃米にて渡切に可致事
附紙に 所人足遣方只今迄は郡々殊之外不同有之日用百人に付五人七人より三百人迄遣處又一圓遣不申處有之候所人足之儀は賃米少く故多遣所役米の渡少く遣候所は役米の損有之百姓よりなるみ不申儀に付日用百人に付四拾人の積遣筈に極め申候
一諸役引の外鄉役高を以て引來り候所に前々之通鄉役米の內を可相渡筈
但し有田郡鄉繼鳥持役引海士郡幡川村傳馬役引は當年より役高被申付候間鄉役米高請可申事
附紙に 高五百四拾七石三斗三升當年より役高に成る是は海士郡有田郡の內小傳馬處之由にて役引は有之候此外口四郡兩熊野小傳馬所勤所か當候へ共普請役引抔は無之海士郡小傳馬所にて百姓の足銀有之候へ共郡割に致し候故右有田郡海士郡小傳馬所も郡割に致し可申付哉と郡奉行中申渡候吟味致候へは彌其通りにて可然樣に付當年より普請役米申付筈勢州の小傳馬所は他領を指越傳馬繼鄉繼役勤に付役米引有之候
一鄉役人足銀給銀幷に諸道具鐵もの御年內の銀拂は鄉役米之內畑米直段にて在々より取立拂可申候
但し勢州上領は入札を以當座拂に可致事
附紙に 只今は米拂直段畑米に四分下りより壹匁六分增迄郡により段々違有之候前々より右の通

郡々の極直段にて賣申處年により在得失出來此段紛敷に付自今一統に畑米直段に極申候如此にて直段少し下る方に見え申候へ共在々なるみて紛敷儀無之其上賣申貨數極申積に致候故直段少々下り候へ共得失は無之筈に候又賣附場の分は役米も賣附に致明る六月銀に取立申由候へとも普請米を賣付候儀不宜候自今は年切に在々勘定仕切申積に付是も同直に極め申候但し勢州は只今迄の通りに尤入札に相極候

一右之外翌年に越候て銀拂筋幷に餘米有之御藏に納申筈にて銀拂に願申歟或は賣拂申儀有之候へは入札を以當座拂に可致事

附紙に　只今迄役米の賣樣不同郡より直段下直成年は多く賣候樣に仕組申候下直成年多く賣申候へは役米之損有之其上年々追可申越米の內銀越に成在々は米にて有之候に付仕形紛敷自今は入用之銀高程定候直段之銀納申付け殘處賣申積有之筈は吟味の上當座拂に申付積りに候

一鄉役人足給扶持在日用賃其外諸拂方請取手形にて可相渡事

但普請所坪詰人足帳只今迄は拂札の袋へ入納候よし自今右帳面見合出し置拂方手形にて納申事只今迄は高引筋の渡り米御勘定仕上け申に付ての入用抔計裏判にて渡候其外の分は御普請方之同心大庄屋之印形之御勘定に立來り申候自今は拂方の樣子は不殘裏判手形にて御勘定に立候筈に付如此手形拂に相極候但御普請所仕立の入用帳面只今は拂札の袋へ入納候へ共自今は出し置年々の樣子見合尤會所へ取寄せ可致吟味候

一御勘定仕迄に大庄屋參候とき物書人足共雜用幷に大庄屋傳馬の儀以前證文之通可相渡事

入可申候

一人足の外村々より出候內代附有之分も通帳へ附可遣候

一請切普請に致す所は庄屋肝煎の受取手形相渡し候て又拂札袋へ入可申候已上

五 春廻り順在に出候節之心得之事

一年々春廻り罷出候前廣に物書より大庄屋ともへいつ比春廻り順見可被致在々尤在中に於て用意がましき儀人夫費等も無之樣に近年定候趣申通しさせ其節在中所々に於て例の通御定書讀聞候事

一支配下在々へ罷出候節御扶持方手形遣極銀小入用帳へ附させ物書承知印致す

但拾人扶持の賄銀は一宿二宿三宿迄は一宿に六匁宛四宿よりは四匁宛

一右春廻り之節若新宮下通り山宿致し候節は御扶持方手形遣し例式極の通賄銀遣候尤扶持方手形は上知代官宛賄銀は郡中より受取尤小入用帳へ不附也

奧熊野在々順見仕候趣

一從前之被 仰出候御勘定書幷に近年段々御書附之趣庄屋肝煎頭百姓とも迄呼出し讀聞せ當正月被仰聞候御書附の趣猶又入念申聞け末々迄能相守候樣申付候

一當麥作舊冬殊の外暖氣有之其上雨墜く當春に到り餘寒別て強く御座候に付麥生立方惣て不出來に御座候山內は彌甲乙有之當年は不作之方に相見え申候然共此上天氣次第にて實入も宜しく可有御座候哉と奉存候

一茶之儀芽出當年餘寒强く候故いまた得と相見え不申候是又天氣順次第にて土地相應に芽出宜く可

有御座旨と奉存候

一浦方は不漁に御座候尾鷲相賀長嶋右三組浦方は舊冬より當正月迄の内鯔鰤等大様宜き方に御座候木之本組浦方は段々是迄不漁に御座候遊木甫母二木嶋右浦々には鯨船を出申候處曾て鯨突不申漁師共至極難儀仕候儀に御座候長嶋組白浦嶋勝浦にては少々鯨突取候へとも何れも小き鯨にて銀なり少く諸拂に不足仕候由に御座候最早諸鯨の儀時節にも罷成候間段々漁候事も可有御座と申候

一山方之儀杣方共外色物等別て不（一本捌）に御座候て銀成不申内々難儀仕候由然とも是迄米穀下直に御座候故末々迄相應に稼先有之只今迄は支申品も相見え不申候浦方山方共右の通不景氣に御座候故在々貸借等一切相調不申難儀仕候由に御座候山中筋在々には別て困窮仕候様に相聞候就夫北山組之内神山寺谷下番和田右三箇村は先年より弱在にて御座候村別て内々難儀仕申候由に御座候尤御救仕入方より御手入旁を以駄賃持稼等精出し申に付都て弱百姓とも御蔭を以先取續申儀に御座候

一當春旅人餘程通り多く候に付往還筋旅人の宿等仕候者は右餘力を以て取續候由に御座候總て在々百姓末々迄耕作諸稼精出し殊に是迄米穀下直に御座候故取續在中差當り飢人新非人等先相見え不申候尤新麥出來迄の內及難儀候弱者とも夫々に吟味致し御貸麥を貸渡し候様に申付候

一去春より是迄在々に弱人共疱瘡段々相煩申に付御定之通入念吟味致し夫々相達御救米被下置御蔭を以病人共養生仕取續有之由申出候

一熊野山中に生立候人參制道の儀に付段々被　仰聞候趣此度念入申聞猥成義無之様にと急度申付候火之元盗人用心の儀無油斷制道仕候様に是亦入念申付候

一在々御普請所無滯段々出來寄申候池々水溜り之儀近比の潤雨にて十分に御座候總て滯公事出入無御座候其內願出候へは吟味可仕候

右は此度在々順見仕候處在中の模樣如此に御座候

申四月　　美濃部善一

御渡海之節水主之事

六　勢州御渡海之節浦水主之事

一勢州御渡海之節御用之水主奥熊野浦々每年江戸御發駕前御船奉行方より右御用之水主員數且又勢州へ致參着候日限の儀申來候件の趣申付浦々より遣右人數組の割符之儀は例格之通大庄屋とも致作略候

一右御用相勤罷歸候段組々より役所へ申出候且又追て右水主共御酒支度代として御金被下候節左之通御船奉行中へ申達

一筆致啓上候先頃勢州御渡海之節奥熊野浦々より勢州へ罷越候浦水主之者共へ御酒代と支度代として御金被下置則何程御指越可被成水主共頂戴爲仕候處難有段大庄屋共役所へ御禮に罷出候依之如此御座候恐惶謹言

月　日　　郡奉行姓名印

御船奉行衆

但し右御禮組々より書附を以申出る

切支丹總人數及浦組帳

七　切支丹總人數之儀幷に浦組帳諸色增減之品替り帳之事

一毎三月中旬迄之内切支丹八歳改不殘仕廻相濟候へは右總人數書附幷に支配下相改候もの誓紙左之通り奉行衆へ

附り堀田主馬仲新之丞二階堂宮内浦上豈郎鳥井兵部誓文狀一所に熊野より遣す若山にて奉行衆へ取繼遣す

就切支丹御改

一私支配下奥熊野七組男女八歳以上之儀者相改其身妻子不及申親祖父の代にも切支丹宗門に少しの内も不相成候切支丹に付日本之御兩樣之誓紙爲致候其上兩手形取置申候

附り先祖切支丹宗門に成候者は（一本改年 即承）屆候

一他國他所へ參り候男女の分罷歸り次第に相改可申候尤年を重罷在候者右同斷に相改可申候其内は親類共に請合せ可申候

一寺社方下人男女八歳以上堅く相改申候

一他國他所より參り候て住居仕候者有之候へは宗門先祖之儀堅相改可申候幷に在々非人乞食男女八歳以上右同斷に相改可申候尤他所他國より參り候非人乞食御國境迄送り出し故鄕へ歸り申候樣に申付候

右之通於僞在切支丹宗門と日本の神可蒙御罰者也仍て如件

年號月日　　郡奉行兩人書判

奉行衆宛　當番へ遣す

候節は口熊野郡奉行へ申遣筈

一三山御進納之御太刀拭候節例八月中勝手次第に拭候節但御代官幷に仲間三人の內壹人相勤候筈尤御用之儀又は何等かの差支有之候へは尾鷲御目附被相勤候

右罷越候節本宮初拭申候へは淵上彌三右衛門方へ先達て幾日比御太刀拭御用に參候間其元より例之通り差支無之樣に先々相通し可申旨尙又御用勤の硏屋新宮白銀屋左五之丞へも右日積りを以本宮迄罷出候樣にと淵上彌三右衛門方へ申遣候へは彌三右衛門例格の通致作畧候事

一殿樣御忌服中諸社祭禮に付御代參御備物無之筈に候間熊野三山へ右の內御代參御備物相止候筈左樣に御心得可有之候已上

八月十日　　成田八太夫

淺井吉兵衛殿

美濃部善一殿

右者觀樹院樣卯七月二日より御遠行に付御忌服中

右に付三山御太刀拭の儀成瀨重左衛門美濃部善一方より承合候處御用達衆へ被相達候由先見合候樣にと申來候追て否相知れ次第左右可有之由八月十二日十左衛門方より善一方へ申來

按に觀樹院樣は　大慧公御實母にて享保廿卯年七月二日御卒去

一右御太刀拭幷に御代參罷越候節大庄屋壹人先々より例召れ候由尤右之節新宮下に止宿之節賄銀は郡中より定之通請取る尤宿々にて御扶持方手形遣し新宮下にては上知代官宛の手形也

九　麥茶出來分附幷に御貸麥筋之事

覺

一麥取入　　押合五分餘
一茶取入　　押合五分餘

右は奥熊野當申年麥茶取入押合寄附如此に御座候　已上

勤番相賀組大庄屋
速見久兵衛

申五月

安井彌右衞門様
美濃部善一様

外に七組より書附七通とも相達候

一在々弱人有之候はゝ早々可申達候御借麥借渡可申候廻狀遣し願出候へは若山へ達夫々吟味の上借渡可申由申達候へは重て斷に不及候年により正月之式は年内にも承合借可申候

但し御借麥の儀本紙之通に可致候へは右御救にも可相成候に付其村の庄屋右計は大庄屋迄相達段々借渡可申由申越候其以後大庄屋より委細書付を以出し候近年の仕方右之通に此以後不宜候へは其節作略可有之事

一御借麥燒失之節は右之品相達し添奉行中より捨り證文取候様に通し有之候節は右證文に裏判之儀手形案文鈴木彌左衞門方へ聞合候處證文取にも不及添奉行中切紙證據に封し申置可申等

但每年御借麥取立高の腹書の外に何程何の何月燒失との斷書致し候樣との事彌左衞門申候由

覺

一麥六百八拾貳石六斗八升四合　古麥筋

內三百三拾四石四斗五升四合　正麥筋

內百八拾五石貳斗壹升壹合　麥安

百四拾九石貳斗四升五合　大麥

三百四拾八石貳斗貳升八合　銀麥筋

內六拾七石貳斗八升九合　麥安

貳百八拾石九斗三升九合　大麥

此銀三貫八拾八匁五分三厘

右之譯

正麥筋

百七拾壹石七斗三升三合　只今取立在藏に詰置申候

內七拾石五斗貳升七合　麥安

百壹石貳斗六合　大麥

銀麥筋

三拾五石七斗八合八勺　只今取立にて有之分

內拾五石五斗八升壹合七勺　麥　安
貳拾石壹斗貳升七合五勺
此銀二百四拾貳匁三分四厘

正　麥　筋

九拾四石貳升七合　弱人幷に火事にて當分取立難成筋
內六拾三石八斗三升七合　麥　安
三拾石壹斗九升　大　麥

銀　麥　筋

七拾石三斗六升六合　弱人にて當分取立難成筋
內貳拾石五斗四升五合六勺　麥　安
四拾九石八斗貳升四合　大　麥
此銀六百四拾四匁五分九厘

正　麥　筋

拾八石五斗三升　三浦引本浦鈴浦小山浦便山村火事に逢燒失すじ
內七石六斗九升　麥　安
拾石八斗四升　大　麥

正　麥　筋

五拾石壹斗六升六合　株絶取立難成筋
内四拾三石壹斗五升七合　麥安
七石九合　大麥
銀麥筋
貳百四拾貳石一斗五升三合貳勺　取立難成筋
内三拾壹石壹斗六升一合七勺　麥安
貳百拾石九斗九升壹合五勺　大麥
此銀貳貫壹匁六分
是は長嶋組赤羽谷五箇村及飢に付爲御救拜借米代幷に牛馬飼料正徳五未年相渡候筋
一大麥四百石
内百九拾貳石九斗九升七合　新麥に仕替在藏に詰置候
百拾壹石九斗四升貳合　弱人當分取立難成由段々取立可申候
五拾四石三斗七合　株絶取立難成筋
四拾壹石貳升四合　綿浦引本浦小山浦火事に逢燒失筋
一大麥七百七拾石八斗三合四勺　去る子丑兩年弱人ともへ被爲御救錢借用借渡麥筋
代銀四拾九貫八百七拾六匁貳分六厘
是は至極弱人共拜借仕候筋に御座候付早速取立難成候何卒時節見合取立置候樣仕度段願出候

右者奥熊野在々御借麥目錄如此に御座候已上

申五月　　　　　　　　　　　安井彌右衛門

美濃部善一

覺

一大麥百石

内貳拾八石六斗八升　　　　　　有馬組

丑年若山より廻候筋當出來麥に仕替させ在々に預置申候

貳拾貳石壹斗七升　　　　　　　尾呂志組

貳拾八石九斗貳升　　　　　　　相野谷組

拾壹石貳斗四升　　　　　　　　太田組

八石九斗九升　　　　　　　　　色川組

右は新宮上知明知在々御借麥目錄如此に御座候已上

申五月　　　　　　　　　　　安井彌右衛門

美濃部善一

右目錄大庄屋勤番役所にて可認若し勤番無之節は役所にて可認

十郡奉行御合力米之事

一御合力米拾石

内三石は　夏渡　　　　　　　　七石は　冬渡

右兩度御年寄衆奉行衆御添狀へ直手形入則案文左之通

請取申米之事

一米合三石也

右は我等當何之御合力米夏渡として奉行衆御添狀を以受取申候已上

郡奉行姓名印

何の何月

御代官宛

右は片折紙四つ切にして認

請取申米之事

米合七石也

右は我等當何の御合力米爲暮渡御年寄衆御添狀を以受取申候以上

郡奉行姓名印

何の十二月

御代官衆宛

寶曆十二年九月

一古座御目付樣木之本郡役所御兼帶にて御役所へ御詰被成候節は御扶持方十八扶持御賄銀一月に貳匁八分宛相渡申筈に付此度中村兵左衞門樣奧熊野御兼帶被遊候に付右之通御渡申上候事尤右之儀に付兵左衞門樣より周參見浦大庄屋原傳五右衞門方へ御問合被成候處左之通申來

去十二月之尊札昨日相達拜見仕候秋冷に御座候處益御機嫌能木之本郡役所に御詰被遊奉悅候然

者此度右御役所に御請被遊候に付御扶持方之儀に付委細御紙上奉承知候前方野山七左衛門様周參見御役所に御詰被遊候節御扶持方十人扶持御請取被遊郡中より御賄銀等も御郡樣御同前に御請取被遊候御儀に御座候依之尋答申上候恐惶謹言

九月十八日　　周參見組　原傳五右衛門

中村兵左衛門樣

十一　諸職人賃銀定之事

壹工に付

一二匁一分　大工

一一匁七分　扮取葺かや屋根わらや

一七分　木挽通り引一通りに付

一三匁　木挽樫

一一匁八分　桶師左官木挽

一一匁七分五厘　瓦屋根葺柿屋根葺

一一匁七分五厘　木挽槻桑櫻楠

一一匁九分五厘　石きり

一一匁二分　木挽皮棚桃

右之通相極申候以上

元文三年午霜月

諸職人賃銀當極月朔日より別紙の通相極候此旨地方より手代大庄屋共へ為御心得可有之候以上

霜月廿五日　　森兵助

口六郡兩熊野御代官郡奉行衆

十二新田竿入幷荒起畑返り等之儀 附田方毛附濟斷書之事

一當年新田畑竿入荒起畑返等有之候はヽ書附出候樣例四月之內廻狀にて申付右組々より集候書付若山へ遣右竿入荒起等多分有之候へは若山より役人參り竿入申候少々之儀に候へは六月御代官取立之節手代大庄屋竿入相改候樣に若山より申來其通りに申付其後右竿入相改小帳認御代官所より御勘定所へ出し申等

奥熊野何之年竿入之覺

一新田畑何町何反程

內何程計

一荒起何程

右之通認め會所へ出差圖請申候奥熊野在々田方毛附濟候へは例五月中に組々より書附出させ右七通左之通寄書附共相達る

覺

一奥熊野七組在々當田作四月十八日より植初め六月七日迄不殘毛附相濟申候依之書附指上申候已上

申六月　日

奥熊野勤番木之本組大庄屋

濱地勘之右衛門

美濃部善一樣

安井彌右衛門樣

十三在々春より秋迄例式損亡寄目錄

但不時時氣に損亡有之候節の事不時時氣在々損亡多く有之候節は本文春より秋迄目錄に准し寄目錄にして組々寄目錄にして早々可相達

覺　　奥熊野

一高合壹万貳千貳百五拾八石九斗
内本田畑　貳石八斗　永荒
同　五百七拾壹石貳斗　當毛荒
同　六百五拾七石八斗　旱損
同　貳千九百九拾參石七斗　虫附場
同　六千百五拾九石貳斗　風雨水入汐入傷
新田畑　貳石八斗六升　永荒
同　百六拾八石五斗　當毛荒
同　貳百拾五石八斗　虫附場
同　千四百八拾七石四升　風雨水入汐入傷
一堤四千六百四拾六間　破損
川除浪除け堤共
一八百九拾壹箇所　同斷

井關井溝堨柵共

一用水渡井五百貳拾貳枚　　破損流失

一人足五万五千百人

是は方々破損所繕人足大積り

一家五軒　　壞禿家

一材木九百四拾本　　風折

一さつは船壹艘　　破損

一御高札場壹ヶ所屋根垣廻り　　同斷

一木之本兩屋敷壁囲　　同斷

一楯ヶ崎遠見番所屋根壁囲　　同斷

一九木崎遠見番所屋根壁囲　　同斷

一同所船之番所屋根　　同斷

一尾鷲組牢屋根壁囲　　同斷

右は當午春より秋迄之内奥熊野在々損亡如此に御座候已上

午八月　　美濃部善一

茂野八郎兵衛

片折にて認め無印宛なし

覺

本田畑

一高合五千四百三拾貳石四斗

内六拾三石貳斗　當毛荒

百拾九石貳斗　旱損

千貳百貳拾五石斗　虫附場

四千貳拾四石貳斗　風雨水入汐入傷

一堤貳千六百八拾間　破損

川除浪除池堤共

一四千貳拾五簡所　同斷

井關井溝

一用水渡井三拾枚　同斷

一人足壹万三千九百八拾人

是は方々破損所繕人足大積り

右は當午之春より秋迄之新宮上知明け知在々損亡如此に御座候已上

午八月

美濃部善一

茂木（野カ）八郎兵衞

覺

一高合壹石六升八合　　奥　熊　野
　内本田七斗壹升貳合　　何　成　荒
　　新田三斗五升六合　　右　同　斷
一堤百八拾四間　　破　損
　川　除　堤
一同五箇所　　同　斷
　川除根囲塙惡水溝とも
一人足貳千六百六拾八人
　右は方々破損所人足大積り
右は當午九月晦日之洪水に付奥熊野尾鷲組相賀組在々損亡如此に御座候右之外組々幷新宮上知明知在々とも九月朔日より同晦日迄損亡有無之品吟味仕候處何方も損亡無御座候由申出候依之御斷申達候已上

　午　十　月　　美　濃　部　善　一
　　　　　　　　茂　野　八　郎　兵　衞

附紙に奥熊野幷に新宮上知明知九月中損亡無御座候已上

十　月　三　日　　郡　奉　行　姓　名　印

宛なし

添紙に　奥熊野在々并新宮上知明知とも損失寄目錄貳通指送り候間例之通御達被成候已上

十月二日　　　　　　御在番所郡奉行御姓名

相司宛

㐧二夫米御利米御納之節之事

一右利米代例年畑米御直段に壹匁上りにて毎十一月中に取立申等

一貳夫米代者定六拾目替直段を以毎十一月中に取立申等

但貳夫米代路銀藏へ納る利米代は大金藏へ納る則納目錄左之通

覺

一合銀何程

右は奥熊野在々何之借（不明）利米代取立上納致候已上

年號月日　　　　兩郡奉行印

大金藏奉行衆

右之通納目錄貳枚入壹枚は無印也片折紙にて可認

覺

一合銀何程也

右は奥熊野在々當何之貳夫米代銀取立相納申候已上

年號月日　　　　　　　　郡奉行印

路銀藏奉行宛

右種借利米代相納候て大金奉行當分一札取置追て左之通好目錄出候御年寄衆御裏判手形に相極左之通に目錄相濟御勘定所へ納上封に成右貳夫米代は相納候て路銀奉行一札右利米代と一所に御勘定所へ納上封

覺

何之何月　　　　　　　　大金奉行

一銀合何程　　　　　　　誰之一札

右者奥熊野當何之年種借利米取立筋御年寄衆御裏判手形に御極可被成候已上

何之何月　　　　　　　　郡奉行印

在熊野同壹人

大金奉行宛

右好目錄出し追て本手形御裏判相濟候へば前方取置候大金奉行衆當分手形と引替る重て御勘定所納の節貳夫米代利金米代とも左之通納目錄

覺

一銀何程也　　　　　　　路銀奉行

誰之一札

右は奥熊野何之年貳夫米代取立納申候已上

年號月日　　　　兩郡奉行

御勘定所

一銀何程

岡石見

久丹波　　裏判

三長門

安帶刀

右者奥熊野何年種借利米代銀取立納申候已上

年號月日　　　　兩郡奉行

御勘定所

一在々より諸返納筋幷に過料闕所賣拂物代等納方之事

但下け紙に本宮川艜造入用銀路銀藏より借受取之節返納路銀藏へ可致事

一在々火事に逢拜借筋

一同牛買代幷に傳馬所馬代金拜借筋

右は大金藏より拜借年賦之通り年々に毎霜月中に取立返納可致

一在々肥し代其外借用筋は近年御仕入方より多借受申候尤返納之儀は其時に相改候通の事に候

一䦨所道具等賣拂の節は若山へ相達し入札にて拂代銀路銀藏へ納る
但入札若山へ遣し會所にて開落札に印付來る尤目錄入此落札銀子に添納る

一過料銀錢等は茶屋包はゝさしにして路銀藏へ納る尤目錄入

十六若山より熊野牛玉申來候節之事

一若山より熊野牛玉調越候様にと度々申參る其節本宮淵上彌三右衛門方へ申遣取寄傳馬便に若山へ遣右代銀は一所に申達小拂方より受取渡す

十七定免願替之事　附り所木之内枯木等有之賣拂代銀納樣之事

一定免明之村々有之候へは其組々大庄屋へ廻狀遣し當年は定免明候又定免願度村々有之候へは早々願書指出候樣申付右願書出次第吟味の上若山へ遣六月中に濟候樣可仕候事
幷に新宮上知明知之内定免所も右同斷
但し只今迄定免の內荒起免に有之候へは勘定にて增免願可申候
但し新宮上知明知毛見所は格別之事

一枯木其外諸木拂之節は若山へ達入札申付代銀取立茶屋包にして御代官所へ納る
但し入札若山へ遣し會所にて披落札に印附參る此落札代銀に添納る尤添目錄入

十八在々火事逢候節取扱幷に御借金被下米等之事　附り職役米之事奉行衆へ達狀之事

一在中出火燒失之節は早々組々より書付指出し右書附其品により不時傳馬又は常式傳馬繼に若山相司迄指送り奉行衆へ相達る

一右大火にて一在過半も燒失致し候樣又は四歩五歩通り燒失致し候ても右場處へ郡奉行罷越見分の上燒下の者共飢こゞへ不申樣に夫々可被申事

一右之節加子米所傳馬所へ御救米被下候尤御救米被下候幷に御借金請取候手形左之通

一新宮下加子米所火事之節御藏下同前へ御救米被下候夫故燒失斷書も其組自大庄屋相違し奉行衆へ相達る且又右之被下米願書大庄屋より新宮へ郡奉行より認め直に若山へ遣し御裏判申請候由にて此方に構不申候

一支配下火事之節見分致す程の事に候へは其所へ早々罷越見分相濟候以後奉行衆へ左之通相達す

一筆啓上仕候奧熊野何村去る何日出火燒失致候に付私共早速罷越見分仕候處尤人牛馬等怪我無之御座候依之別紙書附相達し申上候恐惶謹言

月　日

奉行衆宛

借用申銀子之事

合銀何程也

此燒失家何軒

內本役家何軒壹軒に付六拾目つゝ

半役家何軒壹軒に付三拾目つゝ

右は奧熊野何村何之何月幾日晝夜出火燒失致候に付類火之者共へ爲御借銀請取相渡し申候來る何年

より何年迄三年之間取立上納可仕申候已上

年號月日　　兩郡奉行名印

大金奉行衆宛

請取申錢之事

一錢合何程

但し無役家何軒壹軒に付三百文宛

右は何郡何村當何之何月幾日晝夜出火燒失致し候に付類火に逢候無役家之者共御借金借用仕候へ共取立難相成者共へ被下錢として請取相渡し申候已上

年號月日　　兩郡奉行名印

御代官宛

請取申米之事

一米合何程

此燒失之家何軒

內本役家何軒壹軒に付四斗宛

半役家何軒壹軒に付貳斗宛

右は奧熊野何村何之何月何日何時出火燒失致し候處加子米所にて類火之者共へ爲御救米被下請取相渡し申候已上

年號月日　　　　　　郡奉行印

御代官宛

右何れも御年寄衆御裏判手形になる

一奥熊野在々幷に上知明知とも諸職人役米出し有之筋絶人有之候へは吟味の上相達捨證文取申候へ共近年は跡潰申儀不成間無役之諸職人請入米出させ入替候樣にとの儀に罷成候諸職人之内上下有之候役米高下有之候故新職人へ下々之下り願出候故入替難致段相達候處左候はゝ上通り諸（ホノマヽ）へは下々の職人貳三人或は四五人にても組合入替役米上納爲致候樣にと相濟候每年春中一度つゝ職人之名前別紙之通改差出し候樣にとの儀に候則在々より改書取御代官所へ差出し申候

奥熊野

一船大工何人也　　上誰々中誰々下誰々無役誰々

一桶屋何人也　　上誰々中誰々下誰々無役誰々

右之通り役米出候段々幷に無役の品委細書附指上申候以上

十九新宮明知上知舊知毛見之節之事　附り當毛見荒改之事

上知明知毛見之事

一上知明知鵜殿舊知とも毛見相濟突合致し半紙之横帳に認め若山へ伺遣す

但し上知明知五組突合　　壹冊

鵜殿舊知不殘　　壹冊

右之通り貳冊遣し突合之通相濟來候節上知御代官に其段通し候へは免附鄉帳貳冊免目錄壹通幷に

志原高遠井上市木三箇所免附共來候則免附帳相認め夫々判致御勘定所へ出す

但し志原高遠井上市木三箇村免附は役所へ留置候上知明知免附帳取書入出す筈也

右突合は添毛見幷に上知代官立合（相野谷 尾呂志）之内にて突合

一郡奉行壹人添毛見壹人兩人申合相勤候上知代官昧八木孫市は別段に毛み致候

一毛見相勤御物成相極諸事相濟候上にて帳尻之書附認封し姓名を書封目は致印形上書は奥熊野と記し申候別段に其時々の模樣次第書狀認め添奉行三名に可相達申候尤右之趣相司方へ委細通し申筈毛見仕廻次第在中より早速御達之儀勿論の儀にて此節不時傳馬所にて御申遣し被成候筈毛之順在之内一兩度帳附毛之模樣書狀を以添奉行中へ申遣す筈

一帳尻相極添奉行中へ達し候上にて口郡同前に添毛見中と御申合直に代官へ御申通し其年より當日鄕之大庄屋にて三人御出合突合被成候相濟候はゝ極め帳御取替の上極帳尻書附相達し御仕廻り事に候夫より木之本役所へ御歸り候節但し添毛見へは添奉行中へ免御相談相濟役所へ御引取候との儀申遣候筈

一横折免帳竪目錄幷に鄕帳等へ代官より認め參り候へは少々延引に成候故其段內意可申遣儀可然候

一横折免附帳竪目錄鄕帳等上知代官より認め追て揃越申候右の內鄕帳幷に銅山古式丸下り免目錄相添御勘定所へ御出の筈横折免帳竪目錄へ直に奉行衆へ御達し之筈鵜殿舊知横折免帳其所にて御差出し被成候筈舊知の横折免付帳出し申迄にて外に諸帳面入不申候尤突合免相談相濟候後は御手前にて何之御作略被入不申候去丑年より御通し出定の通口郡と同斷にて御座候

一兩熊野御代官と郡奉行申合の儀第一の事と御藏下在々一同に定免所にて有之候故毛見筋に申合候品は無御座候然共上知の内鵜殿舊知鮒田高岡大黒井内平尻井坂松原新宮内成川村鵜殿神之内井田右十一箇村極免上知毛見相濟候はゝ右村々の極り免寫し早き便に御代官所へ御差遣可被成候御代官所にて前方に此免定認め置郷帳出候はゝ寫引合申候て右の免定は郡奉行役所へ參り候答則件の免定は役所より下け遣し候答但し此節入鹿組大庄屋役所へ呼出し御下渡被成筈の恒例にて御座候右大庄屋件の免定受取村々庄屋へ夫々下け遣頂藏爲致候よし

左之通享保三戌年奉行中被相渡候書附

一當夏旱に付稻毛皆無之所々庄屋肝煎斷出し田地の分見分可仕候

但木綿作物見分仕間敷候

一稻穗見え不申分當毛荒に引候積穗秀有之皆無と斷出候分彌實入不申哉田毎に總樣見分の上實入不申分荒引の積に仕樣可申候

一撿地之畝高と地幅不相應に過不足有之分

附紙に譬は此見積之仕方

撿地壹反之所地甲貳反有之候此內壹反皆無にて五畝餘荒引可申候何れも撿地餘分有之地方の分此趣に可附候

一撿地貳反の所地巾壹反有之此內五畝皆無にて候へは五畝の荒引の筈總て地巾狹き分此趣に可附候

一坪籾貳合より上有之分は荒引に相立申間敷候各村平均に可仕旨申聞

一壹箇村にて本田高五石位迄皆無有之段申出し候所も有之趣右體の村には皆無改に不及候村平しに仕候歟又は小毛見可願出旨可申聞候
但し新田之内皆無有之段申出候には其村新田高と皆無高と本文に有之候本田高と引合に准皆無改申聞敷候

田畑毛荒改之覺

一田方立毛皆無之分は手代大庄屋立合入念相改當毛荒可仕候事
但し籾壹升に貳合位迄當毛荒に可仕候事
一籾三合位以上の立毛は大毛見之平し相應の免に相極め可申候左候へは上中下の立毛大毛見にこもり有之事に候條下毛より上毛の間小毛見願候所は小毛見申附村平しに致し可申所は百姓勝手可致旨先達て大庄屋手前にて庄屋肝煎心得させ可然事
一田方木綿大豆等作り候所は百姓勝手に致候儀に付二毛作之立毛荒改吟味の上億に分り候分計當毛に相立可申候其外に改間敷候
一畑方立毛上中下平均を以て大毛に極申事に候へは百姓勝手次第下毛に上毛の間村平し爲致又は切分免に可被成處は相應に切分可遣事

御代官
郡奉行

卌　奥熊野地士幷に遠見番常燈番人給扶持姓名記

別に御觸事等前段に相觸候銘々并に地士大庄屋子供其外刀可指者

楯崎遠見番

一貳人扶持　濱田長之右衛門　一貳人扶持　片岡彦右衛門

一給米五石　九木崎内　九木宮内　一切米五石　同所遠見番　九木十兵衛

一切米五石　大地崎内　清水清右衛門　一切米四石　石垣役之丞

一給米四石　大地崎内遠見番　佐藤七之丞　二郷村遠見番　濵田茂平次

此茂平次儀は新宮より御附人之義故給扶持之儀此方にて相分不申候

右之通株扶持の儀吟味之上書附出候樣と御勘定所より申來元文五年申二月御勘定所へ右之書附出

奥熊野地士

銀十枚五人扶持　木之本　堀内主馬　拾人扶持　尾鷲　仲新之丞

貳人扶持　木宮　二階堂宮内　金拾五兩　本宮　竹坊内記

三拾人扶持　新宮　鳥井兵部　現米百石　尾鷲　土井八郎兵衛

明和四年亥冬直御支配に被仰付候　古之本　渡邊平右衛門

一右堀内主馬仲新之丞二階堂宮内右の面々は御觸事等別段に通し尤御用筋は殿付私用筋は安き樣付

一稻垣三之右衛門村田次兵衛此兩人へも御觸事等之節爲心得に尤輕き樣付き

一木之本　濱地茂兵衛　一〃　仲藤左衛門　一〃　喜田佐次兵衛

一〃　南大助　一〃　濱又十郎　一〃　本彦之丞

一〃 辻 件平
一〃 山城賀右衛門
一〃 小倉平次
一尾鷲林 別當新八
一相賀組引本 濱田茂兵衛
一長嶋組 堀 小左衛門
一 堀内三右衛門
一 奥熊市左衛門
一 奥村八藏
一 脇 平吉
一 湊 左之右衛門
一 和田庄次郎
一 西武兵衛
一 西 善兵衛
一 山口定右衛門

一〃 喜田四郎右衛門
一〃 喜田佐右衛門
一〃 坂取勘兵衛
一同組中井 北村傳三郎
一同組船津 岡崎金右衛門
一長島組白浦 奥村治右衛門
一 石原治兵衛
一 水谷角兵衛
一 大久保庄左衛門
一 上野三右衛門
一 淵上孫十郎
一 西 善六
一 高梨十右衛門
一 南方五郎
一 小西重助

一〃 橋爪武左衛門
一〃 九鬼宇太夫
一尾鷲組九木浦 九鬼宮内
一相賀組古之本 庄司善藏
一同組上里 松場文八
一 仲野三郎兵衛
一 井善平兵衛
一 谷 與兵衛
一 谷 善吉
一 湊 市郎左衛門
一 南 孫右衛門
一 岩崎倉之助
一 玉置彦八
一 大森彌一太夫

一地士六拾人之内御切米御扶持方被下候者は次男迄帳面に載刀指せ申候御扶持方地士總領計刀指せ申候

一總て御奉公願仕帳面に付候者刀指せ候
一浪人にても筋目有之者は只今迄の通帳面に載申候
一奥熊野は遠方格別の儀故地士筋にて無之大庄屋の總領も只今迄之通刀指せ申候
右は淡輪新兵衞殿被申聞候

廿一御城米船并に御用死船難澁之節取扱之事　附たり　諸大名衆手船難澁之節之事
流木等有之節并商船破船之事并流人船之事

下け紙に　口熊野郡奉行中御用有之儀にて若山へ被罷歸又は病氣差合等にて一方役所明候節若明役所筋御城米船難澁等有之候はゝ一方在番の郡奉行中右明き候役所へ早速罷越作略可有之候尤右は此方より不及指圖双方兼て申合置き右の通作略有之候樣可致候但し右體之節又本役所筋同樣の急成儀出來致候節は本役所へ被罷越取扱可有之事に候已上

九月三日

右之趣會所に於て西村彌六に申渡候

一公儀御城米船等并に諸大名衆御手船之事取扱左之通
一御城米船沖合にて難風に逢危く相見え候節は見付次第其浦々より早速漕船數艘出し向寄の浦々へ漕入させ可申事其上右米に少々にても濡捨り米等有之其外何等之變有之候へは何れの浦にても其組大庄屋より早速貳つ印を以て郡奉行所尾鷲御目附所并に御城米役人方へ注進有之右承次第之趣あらまし奉行衆へ貳つ印相達し置可申哉一向又入込不申候ては否相知れ不申候はゝ早速其所へ罷

越右難澁の有まし聞屆候て相違し可申哉其品によりて見計ひ先相違し候へは右注進有之に付私共早速彼地へ罷越否吟味之上可相違旨可申付事

一右場所へ參着候て難澁之品段々委細上乘り船頭水主共より濱着口上書幷に送狀之寫し等取り貳つ印を以て奉行衆へ相達候事

一右御濡米等有之候て陸上の儀上乘船頭より願出候はゝ聞屆け夫々申附候事尤少々濡候て俵干等致置直に船積致度抔も願出候はゝ其品々委細上乘船頭より口上筋へ取置夫々申付候旨奉行衆へ相達候事

一右御米陸上致候節火用心川除浪除等氣遣無之場所を云立勿論御米置の外廻り役を以詰させ所々に小屋建番等堅く申付夜の內は幾つも高張提灯立させ郡奉行御目附も晝夜三四度も見廻り萬端氣を付け別て火の元等念入申付右體の節御用差支候へは外組大庄屋幷に山廻りをも呼出し其上にも不足に候へは地士御仕入方貳歩口役所手代役人まで呼出し夫々御用申付候

一右濡米又は拾り米等有之節は上乘船頭より右御米積出し候所へ飛脚を以て申遣し品により何方より役人參り夫々作略致し候事右役人參り候へは其段相達し可然哉

一役人當地へ參着候て旅宿見合の儀輕き手代式と相聞候へは先便を以て可申入哉其段役柄により自身旅宿へ見廻せ可然哉其段は可依時宜候

一御米の儀に付上乘船頭より右役人不參內願出候事も有之候はゝ其趣口上書取置夫々可申付候其口上書之趣可相達候其外品替り候儀は諸事氣を附無遲滯可相達候事

一濡御米等有之御拂に成候節其處より上下三拾里の間相觸候て望候商人共呼寄入札に致させ候其節御米の儀は何の方より參り候役人支配致此方には不及了簡候事

一右入札等有之節は御目附郡奉行何の方より參候役人幷御城米役人大庄屋山廻り迄打寄郡奉行旅宿にて右入札の者共士座に並置札開き致候

一始終相片付候て浦手形口上書之趣上乘水主共へ郡奉行旅宿にて讀聞せ双方取遣致し右の口上書役所へ取置浦手形は支配に參り候役人へ渡す支配人不參候へは上乘船頭へ可相渡候事

一浦手形口上書の文言等幾重も念入調可事右寫し相遣し候

一諸事相片付右浦手形口上書迄取遣し濟候へは出船無之候ても相詰に不及役人引取候事

一御城米難風に逢ひ若刎米等有之候節は其浦々之もの分一取申間敷事

一御用木の船御用瓦船難澁の節右御城米船取扱同前たるへし

但御用瓦船は近年御尋有之左の通相達し候事に候へは其心可有事

一公儀御瓦積候浦觸有之候瓦舟難澁入津の節私共早速相改申候

一商船に御用瓦積合候難澁船有之候入津之節瓦刎捨不申水入に相成或は船道具は少々損し捨り候分は私共罷越不申候大庄屋に相改させ申候

但瓦刎捨難澁致候得は商船にても私共罷越相改申候

海士郡奉行

有田郡奉行

日高郡奉行
奥熊野奉行

卯八月

一判鑑之外の御用木流木は御口前所へ渡し池田御材木天の川御材木北山御材木筋也是は急度若山へ不及申遣序之節書附遣す
一總て浦々にて他國船破船の節は其所の大庄屋罷越相改浦手形遣其船頭へ上書をも取役所へ指出し若山へ達申候事
一總て破損船乘捨舟材木船具等（捨拾カ）置候所尋來り候はヽ分一取可返事
一流木拾候者は六歩一被下等漕木は半分被下候等解幷に船具等拾來候へは拾主へ半分被下候等
一流人船の事先達て伊勢浦より廻船又は注進可有之候間其趣に從ひ漕船出し可申事入津の港は番船指圖を受け可出之其處の大庄屋へ罷出御用可承候翌朝出船の時分承屆け先々漕船注進可申候

覺

一流木之內寄木の儀前々之通不殘取上申等　但拾候もの骨折候はヽ其品により六歩一可被下候
一漕木の儀只今三箇貳上り木に成上け一は捨主へ被遣候へ共向後拾主へ半分遣し半分は寄木支配へ取立其內之一分口口前所へ取立可申遣捨主へ被下候分は口銀不出等の御證文

元祿十年丑七月

淡輪新兵衛
大嶋伴六

吉田金平殿

異國船取扱振及船中病死人之事

深美由太夫殿

一總て商船難破等之節大庄屋其所へ罷越夫々相片付追て浦手形口上書の寫役所へ出し若山へ達す

一諸大名衆手船難破等之節は郡奉行其所へ不及罷越大庄屋へ入念取扱候樣に申付諸事相片附候て浦手形口上書寫し可相達事先年は郡奉行品により其處へ罷越取扱致し候事も有之候哉に候へとも享保貳拾卯年より罷出不申筈に相極る

廿二異國船之事幷に諸大名衆渡海之事

附り 諸大名衆家中輕き者船中にて病死等致候節之取扱之事

一異國の大船參候節は遙の沖に有之内より可相見間新宮へ早々注進可仕則小船を壹貳艘つゝ順に遣し漁船之如く仕たばかり寄樣子を見追々注進可申上其内貳參艘は代る〲番船と成て彌彼に不被見咎樣に仕樣子可申越也若し鐵炮なとはなし近邊へ不被寄時は遠間にても見及びの通注進可申事

一右にて組の船ともは勿論其左右の組も異國船の着く浦の近邊へ物蔭を取詰寄可伺居見え渡りの處ならは近所の港々へ船を並へ指圖を可待幷に其續の村々も大船小船共に其浦へ集り浦切に用意水主船頭共之儀は不及言兵粮等迄致支度一左右次第乘出し候樣に仕可罷在候事

一日本船にても唐人乘來る歟勿論異國船來る時假令向は氣遣仕候共此方より成程ゆるやかに仕かけ或は商物或は遊ひ物をも遣し心安く逗留致候樣に仕かけ可置其内には注進の御返事可有間御下知を可待磯遠く船をかけ彌氣遣之體見え候はゝ猶以人多不出物陰より伺ひ其内に早船拵置出船致候はゝ後より付させ參り所を可見屆磯傳ひに參り候へは他の組迄付參り他の組の船出候はゝ相渡し

候旨憶に申斷可罷歸若し其近所に罷在助を可致又沖へ直に參候へは其浦々より十里十五里或は二十里にても送り船の通路成候所迄付參り沖へ出候か見屆て可罷歸事

一漁船にても商船にても若沖中にて不審成舟乘通り候を見付候へは壹艘有之時は其船印を上て可付參沖間に罷在船は印を見候はゝ番所へ早々注進可仕候貳艘共有之候ときは壹艘は付參壹艘は早々番所迄注進可致旨常々堅可申付候事

一異國船參候時の心得第一荒立ず心安く逗留仕樣に仕かけ其内に何卒たばかり壹人にても陸へ呼上け候樣可仕又可成ならは楫を預り出船不成樣に仕御下知を可待無御下知内に卒爾の働仕間敷事

一ヶ樣の時分浦々の舟集所尤地形によるへしと雖も物蔭にかけ置向へ船數不見樣に可仕事

一若彼船より使舟なと差越事有之は此方よりは其使船よりは船數少く漕迎遠間にて樣子承り彌使船に於ては磯近く連成り使を請取扱番船を置漕戻り使之樣子可申達事

一異國之船來り陸へ上り兵粮を取行歟或は在所に到て狼藉をなす時は急々狼煙を上近船に通働押合を掛けて被取間敷也左右の組も鬪付次第に可助之又切支丹小勢にて盜取なと致候時は壹組の可成程の儀ならは他の組は近所へ詰かけ居若し不成時之働を可致事

一他之組之者助に出候時一々入交り不可騷動壹組々々別に集居其所の者と申合或は助け或は疲ものに代り是を救ふへし

一船手之者を兼て申付彼か船を取候才覺可仕勿論此方の船を遠のけ置彼れに被奪申間敷事

一若彼大勢來り要害の所なと取固め候て所の人數にて難叶時は卒爾の働不仕早々注進申上此方の加

勢を可待事

一ヶ樣之節は調略之作り文なと鄕送りに指越事可有之然間鄕繼之者三人より少なく不可出之又庄屋等指圖無之私として半途に次き申間敷事

一不審成る船來り陸へ上り所の者をたばかり或は金銀を與へ候はゝ其金銀を請同心の躰に仕能くもてなし逗留仕樣に仕掛早々新宮へ注進可仕候其上近鄕へ通し人を集遠間に番を置遁し申間敷事若氣遣ひ致駈出し候はゝ御下知なしとも押寄て或は搦或は取卷可置五人三人小舟に乘參候者たりとも右之心得を以て先和らかにあひしらひ留置候て搦捕若右之通に不成時は壹人も不逃候樣に打留可申事

一不審成船陸へ不上直に乘通候はゝ早々狼煙を上け順々に心を付浦傳ひに送り可屆若急にて船數無之時は壹艘にても付參り他の組に相渡罷歸候段は右に記す通なり

附り　浦々より船數多仕候時は此方の船には相しるしを立右の舟と見分け安き樣に可仕并に狼煙之相圖を兼て定め置能心得させ可申事

一日本人五十百參候分は如何樣とも所の者壹組にても可成間若陸へ上り候へは常々御法度の旨にて如此番仕候頓て何方へも可送遣間其内相待候樣にと申聞取卷置注進可仕無理に退き候はゝ勿論打留可申候同くは陸へ不上船に置候て四方を固め陸地なき處へ船數をも出し取卷置注進可致事

一常に見馴たる船にても乘手不審に存候はゝ留置早々注進可仕事

一沖に繫り島なとへ上り休み候に於ては番所の者は不及言木樵獵師に至る迄常々申付置見出し次第

注進仕港へ呼寄番を付不出様に可仕若油斷致不見出候はゝ在所之越度爲へき事
一總て人家なき處又は船着にても無き浦に舟を掛置候へは不審を立船之穿鑿油斷有間敷事
右先年自　公儀被　仰出候御法度之趣度々申渡候へとも彌詳可存此旨者也

萬治四年五月　日

三浦長門守

安藤帶刀

一異國船之事注進次第（書付別に有二つ印なり）先若山尾鷲御目附へ申遣其上にて早速大庄屋召連彼地へ參承屆段々若山へ注進可仕事
但し注進次第大庄屋方より新宮へも二つ印也注進可仕事
一筆申入候然は不審なる船相見候節注進之儀大嶋奥は新宮若山へ早々注進可仕候串本より日高和田迄は田邊若山へ注進可致との儀兼々御定之通百姓共相心得無相違樣に郡奉行衆へ申渡候間各も右之通御心得可有之候爲其如此候已上

二月廿九日

玉井八太夫

丹羽七郎兵衛殿

東德與七兵衞殿

一諸大名衆船繫被致候はゝ早速郡奉行へ注進奉行衆へ可相達事
一渡海之節天氣悪敷浦繫被致一宿有之時は御臺所へ酒肴野菜可被進候間大庄屋致持參兼て被申付置に付持參仕候旨可申達候

一右浦繫一宿被致候節は注進次第郡奉行壹人其所へ相詰諸事滯儀無之樣に內證にて可申付尤大名衆宿へ郡奉行罷出候には不及候然共出船の時分役人相詰候を聞及び何にても給候はゝ致請納右旅宿迄禮に參り左之通可申候

御用も御座候はゝ可申付と存內證にて相詰候處聞召被及何を被下置候儀に候依之伺公仕候

一遠方之浦々は郡奉行罷越候上肴野菜遣候ては可及延引候間大庄屋兼て相心得罷在有合之肴野菜を見合宜敷樣に取合大庄屋持參兼て申付置候付持參の旨可申達候

一遠方之處郡奉行罷越候儀延引其內に出船被致若郡奉行へ何にても給候はゝ大庄屋罷越候て左之通り申請間敷候

遠方故未到着不仕候何方より被下置候ても御斷申達候樣にと兼て役人申付置候

一大庄屋幷に庄屋肝煎へ可給樣子にて名尋有之候はゝ書附出し可申候若用事等相達候百姓なと尋有之候へとも大勢書出申間敷候尤何にても給候はゝ前々之通可申請候

但名尋無之に此方より名書附出申間敷候

右之通兼て相心得不都合之儀無之樣に可仕候已上

元祿二年巳六月

一諸大名衆家中輕き役人なと船中にて死去之節は其所へ大庄屋早速罷越夫々吟味の上差支無之樣に取計せ可申事右死人其所へ葬り申度との儀は委細口上書取置願之通り可申付其後浦手形等申受け出船致度段申出候はゝ其品々口上書取置願之通可申付事尤口上書浦手形之寫とも追て若山へ遣し

奉行衆へ相達す

　　芸切支丹類族之事

一類族之者病死改立合之儀近年は尾鷲御目附取扱にて御座候御目附煩并差支候時は郡奉行改に罷越候勿論出生又は病死有之時郡奉行役所へ罷出候に付奉行衆幷に寺社奉行中へは此方より申遣候筈改之儀は御目附方例之通被相改候間委細之儀は可被相達候との趣申出し御達の節取扱之品は本之本役所御用箇に記有之候通の譯難申哉

一類族病死致候はゝ所之役人を御申付死骸御改させ別條無御座候へは旦那寺にて土葬になりとも其段心次第に取置御申付可被成候

一取置相濟候へは已後死骸改役人より印形の一札御取候て此方へ品々御差越可被成候

一類族病死一札文言は誰類族年名前宗旨旦那寺書入死骸改候所別條無之との趣に御座候

一異死有之もの候はゝ其品委細御書附品々此方へ御注進可被成候此方より指圖次第死骸取置御申付可被成候已上

　　正　月

　　　覺

一宗旨幷に旦那寺替之事

一養子取遣し之事

一出家なり候事

一他國へ參候事

一緣付之事

一諸士幷に下人にても江戶へ參事

一名字幷に名替之事

右七品者前方に可相斷

一死　去

一出　生

一町と在との住居替之事

一夫婦離別

一町人奉公人不申及總て家業家職替之事

一奉公人主人へ手前出替之事

一欠落之事

右七品は其時節委細可相斷

以　上

丑六月

類族之者の儀寺社奉行中へ諸事各より直に御申届け候よし右之者御仕置有之節も彌各より直に寺社奉行中へ御届け可有之候

十二月

右之通未極月十二日於會所淺井忠八殿宮本與右衛門西郷傳右衛門へ御申聞候旨若山より申來候

正德五年未極月

一類族之者長嶋浦に有之藤太郎さる

一浦上山三郎母儀法華宗にて若山感應寺且那也有之候病死之節取置の儀拙者共支配下に右之宗旨は無御座候へ共尾鷲より遠方の儀に候へは山三郎親半右衛門取置仕候曹洞宗良源寺へ取置爲致可申哉他宗へ取置申儀難成御座候へは本廣寺へ葬可申哉

附紙に他宗の寺にて葬申儀成不申事にて同所同宗之寺無之候はゝ新宮にて葬可申候

下け紙に森兵助殿今日御申聞け候浦上山三郎妻又は妾にても自今出生の子屆け有之候節は直に名を付屆有之候樣に自今爲致候趣尙又役所にても右之通相心得候樣との御事にて候右之段役所張出にも記置可被成候已上

元文元辰六月十日

一山三郎母儀は親半右衛門妻に御座候得は病死の節其組大庄屋幷に山廻り役人指遣し改させ申積に存罷在候然所只今は山三郎母にて御座候へは拙者共の改にて取置せ可申哉

附紙　山三郎母にて可有之候得共　公儀御屆御證文には半右衛門妻はまて出申儀に候左候へは改の儀も只今迄之通御心得可被成候

右委細に御指圖可被仰下候依之如此御座候右付紙貳箇條之趣浦上山三郎方へ申通し候

享保八癸卯十月五日　木村七郎右衛門
小河五郎太夫

寺社奉行衆中

但し右の付紙は寺社奉行衆より申來る

下け紙に　奥熊野に罷在候類族浦上山三郎なと若用事有之節若山へ罷越致逗留候節は拙者共役所へ御屆被成候筋に候哉御聞合被成度候旨御紙面の趣令承知候右は御屆被成候筋に御座候左樣御心得可被成候已上

五月朔日　齋藤半藏

森兵助樣

右之通候故自今役所へ屆有之樣にと山三郎へ同十三日委細に申遣候

旅人の病者扱振之事

一他國之旅人若相果同行の者類族の儀申達候樣書附等有之候はゝ其死骸其所へ送遣すへく事尤死骸念を入れ桶か箱に入夏は鹽漬にいたし其所へ庄屋肝煎の中を遣すへし又は地士之内見合可申付道中死骸に心を付宿に泊り亭主にも右の段斷申聞け難所にても船にて越候儀無用可仕候同行の者取放し申さす候樣心を付其國所詰親類共より禮物出し候とも受申間敷候由堅く申付可遣候右之段委細書附若山へも村繼を以て可申遣事右之樣成不時之儀若山へ伺に不及申付可遣先々大庄屋方親類方迄此方大庄屋方より書狀可遣諸道具等有之候はゝ目錄に認め可遣事

　　苦他所より煩候旅人送り來候時又は旅人煩遣し候節之事

一他國より病人の旅人此方へ送り來り候者受取養生爲致可申送り戻し申間敷候煩人の國所領主支配

の者へ諸親類之名憶に聞屆送り參り候もの方より旅人煩候に付送り參り候よし判形の一札取可申候

國所不知者へも請取其趣之判形一札取置可申候

一送り參候ものに可申聞は總て煩人旅人宿送りに不致筈にて候へ共送り越候に付受取申候此方にて養生爲致國所へ戻さ申にて可有御座候國所知不申者に候はゝ此方にて養生爲致氣色能くも無之候はゝ御役所へも相屆け申にて可有之候と可申聞右之通挨拶致候上にて病人此方へ渡不申召連可歸申と申候はゝ此方より可申候

一右之通請取申間敷と申にては曾て無之候然共渡不申召連歸り可申段は心次第に候よし右之品も手形取可被申候手形仕間敷と申候はゝ其通に致送り人の被申候通承り右之趣記置可被申候

一旅人煩候節は病人又は同行有之候はゝ其者共へ相尋諸親類之名國所領主支配之名委細に書付爲出若山へ可相達事

一御領分之もの御領分にて煩出候節は其所聞先々郡奉行迄書狀遣し親類または所の者迎に罷越候樣可致平に病人送り申事不仕筈

并行倒者之事附り捨子有之時之事

新非人多出候時之事他國より出家參候時之事

一乞食非人順禮行倒死有之時は大庄屋死骸相改身に疵も無之書附等も無別條出生行衞相知不申者に候はゝ道端へ埋させ札建置可申事所持之物有之候はゝ目錄に致置き尋來り候ものも有之候はゝ可相渡事右之通書附大庄屋より指出し候而若山へ可被達事

但し順禮にて國所憔成ものに候はゝ所の大庄屋より先様の大庄屋迄委細狀遣し可申事尤若山よりの指圖可請

一新乞食多く出候時は其所を承り他國の者は國境迄近在の者は其村へ送り可申事

下け紙に　尾州樣御領分中村の與七と申者娘召連順禮に罷越候處與七儀長嶋にて相果候由大庄屋より申越右の段若山へ達し候處京都役人中より尾州樣京都役人中へ申參役地より與七弟其外百姓貳人娘迎に參り若山より人足壹人附奉行衆より娘渡遣候樣にと書狀添木之本迄來り木之本より爲案内人足壹人付奉行衆書狀の趣大庄屋方へ遣す

辰　三月

重て箇樣の節爲心得書付置奉行衆より來候書狀は簞笥に有之也

一捨子有之時は其組之養介に可申付尤若山へ可申遣事

共疱瘡病人疫病有之候節取扱之事附り寺社取扱之事

一奥熊野幷に新宮上知明知とも疱瘡病人有之自力に養生難成者共を大庄屋吟味の上御救米被下候樣にと願出候に付右願書加子米手代山廻り方へ遣右病人改の上相違候樣にと申付大庄屋か子米手代山廻り立合相改書附帳面等相達し候上御代官衆假手形出御代官書替取米請取頂戴爲致申候尤此節奉行衆へも吟味の上御救米頂戴爲致候との書付相達右手形は追て御年寄衆御裏判手形に極め引替

但右假手形幷に奉行衆へ達書本手形の文言は役所本帳に委細有之

拾歲以上壹人に付壹斗宛

六歳より九歳迄壹人に付七升五合宛
貳歳より五歳迄壹人に付五升宛

一疫病人右同斷
但し壹人に付壹斗宛被下候
右被下米奥熊野御藏下奥熊野御代官所へ請取遣る上知明知は上知代官所より請取遣す

一寺社入院退院等の儀は吟味の上役所にて願之趣聞屆夫々申付け右願書追て寺社奉行中へ指出し吟味の上申付候旨申遣す

一在々の出家願之事右願書出候はゝ若山仲間へ遣し奉行衆へ相達し相濟來候後師匠寺より剃髪爲致度との願出候はゝ願之通申付右願書は便り次第若山仲間へ遣し寺社奉行中へ願之通申付候段申遣願書も遣す

一尾鷲間越折橋三昧庵貳箇所有
下け紙に　北山和田村觀喜寺寅二月十八日出火の節住物大淳追込置候樣にと寺社奉行中より申來
自今吟味の上趣申遣追込置可申事
是は住持一代にて斷絕の筈

一寺社内樹木御付木無之由雜木は無斷切槻楠柏は願出し若山へ達す

一寺社再興之時若廣け候へは　公儀へ出し帳面と違ひ候故再興體に申達する筈右之外寺社開帳其外願事等の儀は寺社奉行中へ通達可致事且又本宮寺社方は願事等此方にて可致候

南紀德川史卷之九十五

臣　堀内信編

郡制第七

歷世郡治大概第三

大慧公下

郡方手鑑之内

𦬇公事出入吟味筋之事　附り右吟味之節幷に芝居等始之節愼日之事

一公事出入對決承届候節前方尾鷲御目附訴へ申遣候日限定列席仕候尤其品により外組大庄屋共をも
呼寄せ申候

一公事訟訴之節返答可申村裏書左之通
裏書之通訟訴之通答仕可遂對決者也

何の何月　　郡奉行印
　　　　　　御代官印

何村百姓中

新宮下と出入有之百姓召寄せ候時留守居迄書附遣す

一筆令啓上候然は木本浦阿田和浦漁師とも去る冬市木村にて漁場出入之儀此度於木本役所對決

申付候様にとの儀御座候間來る七日阿田和浦市木村公事人ども有馬庄屋木本役所へ罷出候様御申付可被成候其元役人中にも例之通出合候様可被成候若七日御指合候へは八日に罷出候様可被成候爲其如此御座候恐惶謹言

何の何月何日

郡奉行兩人印

新宮留守居衆三人宛

新宮下出入之覺

一新宮下之者と御藏下百姓出入之時は目安返答申付若山へ達對決可承旨申來り候はヽ双方日限定呼寄公事人共左右白洲に並候輩脇指無用外組大庄屋兩人呼寄せ緣側左右に置目安返答其外證據書共兩方へ渡置段々讀聞す

一新宮郡奉行代官公事人召連有馬迄來る時分聞に越候間何時よりと申遣右役人衆も來下座にて對決を聞く

一郡奉行御代官尾鷲御目付列座にて對決を聞く

一本屋に居候郡奉行諸式當番共役を勤る若山より代り參候もの長屋落着本屋明次第移る

一新宮役人幷に大庄屋とも此方之衆中へ一汁貳菜之支度を出す酒不出支度以後出入聞初本屋之賄也

一公事對決吟味の者之作略重き御法事等有之節不急之儀は其時之了簡にて指延し可被申候

一詰牢或は拷問等申付候吟味は御精進日は勿論其外にも日柄吟味之上取計可被申候

一囲入入牢は御精進日前々暮當日之暮に及ひ候て作略可被致候

右之外公事對決吟味之ものに付御精進日を除き候品有之間敷候尤其場之品により手錠等も可被申付候儀之事

元文元年辰八月

右之段八月三日於會所成田八太夫殿諸郡無急度御通し有之候に付猶又組々大庄屋共へ内々心得罷在候樣にと濱地勘之右衛門申合候

一村々之内松山不制道之儀に付庄屋肝煎押込候又は過料等被仰付候との儀幾日より追込候と申來り又幾日に差免し候樣にと申參り候筋は其節之返事計致置追込等差免候との儀分て奉行衆へ斷不及申樣自今申合可然よし於會所四月十一日富永勘兵衛方申候但差合無之日に申付候樣にとの事にて幾日より追込候樣にと不申來筋は幾日より追込候段分て相斷不申由幾日より日數幾日追込候樣にと申來候筋は斷に不及由

元文四年未四月

右之段仲間申合候樣にとの事之由尤當郡にては松山不制道之儀などは不用之品に候へとも外々之追込も右に准し可申儀に付茂野八郎兵衛方より申來り先記し置

一一筆致啓上候北山組大沼村と入鹿組尾川村山論出來致内々彼是取扱も有之處相調不申候由に付尾川村より目安を以願出候依之右目安書一通差進候大沼村へ右之返答御申付被成返答書御差越被成候樣にと奉存候依之如此に御座候恐惶謹言

六月七日　　　　　　渡邊彌市郎印

矢田市左衛門様
由比甚平様
前田與惣兵衛様

猶々返答書本紙寫一通御申付被成兩通出候樣致度候目安返答書とも若山へ相達申候尤右返答書御越被成候節目安書御返し被成候樣にと存候已上

一去る七日之御狀今朝相達し致拜見候然は北山組大沼村と入鹿組尾川村山論致出來內々にて彼是取扱にて御座候處相調不申候由に付尾川村より目安を以願出候に付右目安書壹通御差越被成候大沼村へ返答書申付差進可申旨依之御紙面の趣致承知別紙目安書壹通相達申候返答書申付させ追て從是差進可申候右爲御報如此御座候恐惶謹言

六月九日

前田與惣兵衛印
由比甚平印
矢田市左衛門印

渡邊彌市郎様

猶々返答本紙之寫壹通申付兩通出し候樣被成度旨目安返答書若山へ御達被成候に付右返答書差進候節目安書返達可申旨致承知候已上

一七日八日十四日十七日晦日小には廿九日芝居始候節右之日始不申筈尤建札にも右之日始之段書せ申間敷候建札の已後雨天などにて相延し候へば右之日始候ても不苦事

右之段享保貳酉年十一月十三日村會所御用役中無急度心得候樣にと被申聞候

二月廿四日

右兩日も作略同前之事

一奥熊野野地村へ御免之芝居興行時節之儀春秋兩度興行致尤春興行之儀四月中に掛候儀は不苦候秋之儀十月末迄は興行爲致不苦事

二　月　　　　和田與三右衞門

美濃部善市様

茂野八郎兵衞様

一先比御達候奥熊野御免之芝居興行之儀浦祭芝居參合候節不仕候ては失脚等に費も多候に付夏冬之内へも右躰之浦祭芝居參合候節興行爲仕度段大庄屋共願之儀奉行衆へ申遣候處右之通相濟候間其段御申付可被成候依之申越候已上

十月十一日

猶々浦祭芝居參合興行致候節は先達て相通候通各御聞屆之上始させ右終始之儀時々此方へ御達し可被成候已上

一相賀組中里村へ被下候芝居興行取扱之儀伺書を以和田與三右衞門方へ相達候處與三右衞門申候は野地村本芝居さへ各御聞屆にて相濟候得は中里村之儀は小芝居之儀に候間各御聞屆にて相濟遣候其時々相達候樣にとの事に候已上

右は巳八月和歌山より十四日之傳馬次に申來る

巳八月

其奥熊野山林御定書幷に先年之壁書

一奥熊野在中之山林相應に留林申付候間村中にして可致政道大庄屋組切に可仕候尤帳面に記出し可申候往々山林之所は持山は其者に可被下候村山にても御用之外は村中へ可被下候

一自分之山林有之場所幷に致切畑又柴刈場牛飼場田畑之肥しに致候處相應に殘置可申事

一前々より被仰出候通猥に山燒之事堅相止可申候切畑牛飼場田畑之肥しに致候場所燒申さで不叶處は庄屋肝煎小百姓立合傍示極長横何程之場所燒申度との書付を大庄屋へ出し指圖を請山燒可申候留林に火不移樣に刈切番を付置燒可申候傍示之外へ若火移候はゝ村中にして消可申候若申合置消兼候はゝ見合次第隣鄕より手傳可申候風强時は燒申間敷候油斷して留山へ火移候はゝ庄屋肝煎は不及申村々之者共可爲越度候

一大庄屋指圖致し候外手過にても若山燒候はゝ村過料又は品により急度可申付事

但し山燒申度由書付出し候へは大庄屋手前之帳面引合見吟味之上相應に山燒せ可申候

一右山手前落火にても燒候へは書付出申候若山へ達し過料被仰付取立路銀藏へ納添目錄入

一楠栢槻大小立木枯木とも一切出し申間敷事

一杉檜松立木目通にて七八尺廻り迄御免附黑印木之外にても大きなる分は堅停止之事

一杉檜松は大小によらす古木にて可仕候御免之事若立木にて仕候者の儀不及申相談にて願候者共可

御高札有之場所

爲同罪事

一船場におゐて生木古木之穿鑿之儀山廻之者其時々庄屋を以百姓立會吟味之上にて古木之分は無間違出させ可申事

一杉檜松にて押上角木長三間に壹尺二寸角貳間に壹尺三寸角大鋸引は六寸四つ割但しこはつきにて候はゝ無相違出させ可申事

一杉船板本口にて兩こはつき巾貳尺迄杉間切兩こはつき壹尺七寸迄御免之事

右之條々於相背は山廻り之者不及申山本庄屋頭百姓曲事可被仰付者也

寛永拾三年子十二月　水野淡路守

右本證文小泉長兵衞處に有之候由長兵衞判形相尋可有之候如此之證文寫し申渡者也

慶安三年寅六月五日　今泉平吉印

新鹿村御山廻り

七郎右衞門殿

右御證文寫し北山組山廻り北澤十右衞門所持致有之に付寫置者也

并御高札場有之所々

木之本浦　三木浦　早田浦　九木浦　中井浦　引本浦　舟津浦　嶋勝浦

須賀利浦　長嶋浦　本宮村　桃崎村　大栗須村

十三箇所

村數九拾九箇村　内三十五箇村浦方 六十四箇村里方

上知明知貳拾五箇村

鵜殿舊知十一箇村

三山社領高幷寺領高

三十三山社領高幷寺領高

一社領千石

内三百石　本宮　四百石　新宮　三百石　那智

一寺領四拾貳石壹斗

内五石　初ノ山　光福寺　十三石五斗　木之本　極樂寺

五石　尾呂志上野村　長德寺　十石　有馬　安樂寺

五石　東光寺　三石六斗　金剛寺

入牢者幷に追放者之事

卅一入牢者幷に追放者之事

一奧熊野牢屋有所、本宮、木之本、尾鷲三箇所

一當分爲吟味牢者は村賄他國無緣之者共幷に盜人火付人人殺等は　公儀より被下候公事出入仕候者村出入は村賄壹人立たる出入は自分賄、但賄不成者は一類より是も不成者は村賄也

一牢へ入候時之諸入用は組村又は當人夫々より可出右は賄定可附也

一牢舍之者壹人一日に五合宛油薪爐噲等之入用は右扶持之内にて可賄

一牢番人晝夜貳人組壹人壹日に壹升宛自分賄、村賄筋へも牢番人扶持方此通夫々より可賄、但相牢舍

之者何人有之候とも番人扶持方は右之通尤加番人入り申節は是又壹人一日一升宛可渡候

寅八月　　　　　　　　　奉行所

是迄入用不同に付此度相極者也

一入牢之者病人有之節年寄中へ被申達候上一類へ預け候樣にと指圖有之筈に候へ共熊野邊杯之遠在にては入牢之者之內右躰之重き病人有之時若山へ相達し又其所へ申參り彼是にて手間取彌重り可申儀も可有之事に候條熊野筋之郡奉行なとへは此度之答を兼て申聞せ置早速出牢養生爲致可然病人にて尤一類も有之候はゝ若山へ伺に不及一類に預け養生爲致申樣にと被申付可然候勿論右左略之品追て奉行中へ郡奉行等より可申越事に候

一總而御吟味度々牢死爲致候ては御吟味も間取出牢致候て右預り候者之所へ右筋之下役人度々打廻らせ見計ひ入牢申付候而可然程に快氣候はゝ無油斷早速入牢申付候樣にとの御事に候間熊野筋之郡奉行なとは此品も兼て心得させ置可被申候

十二月　　　　　　　　　奉行

一入牢之者御吟味之內重く相煩候節は先出牢爲致一類之內へ預け養生爲致尤快氣次第入牢可致候

右病人取放候はゝ預り候一類可爲曲事事

一一類之無之者或は死刑に相極候者或は無宿之者之儀只今迄之通牢舍にて養生爲致可申候

十二月十五日

覺

卅四 奥熊野本新田總高幷に小物成高村數之事

附り新宮上知明知舊知右本田畑高幷郷役米高村數之事

一奥熊野總高壹万九千三十七石五斗六升三合

内

高壹万六千七百九拾壹石九斗九升五合　本田

内四千五百八拾五石八斗四升　本畑

高貳千貳百四拾五石五斗六升九合　新田

内六百九拾五石四斗壹升七合　新畑

但内譯左之通

一本田畑高合三千百七拾貳石三斗四升三合　木本組

内貳千六百四石六斗六升八合　田方

五百六拾七石六斗七升五合　畑方

一新田畑高合三百五拾壹石五斗三升九合　同組

内三百五石六斗　田方

四拾五石九斗三升九合　畑方

一本田畑高千八百七石七斗七升貳合　尾鷲組

内千三百石七斗七升八合　田方

五百六石貳斗九升四合　畑方
一新田畑高三百四拾五石貳斗六升　同　組
内百九拾石七斗六升九合　田方
百五拾四石四斗九升壹合　畑方
一本田畑高合貳千百九拾八石五斗七升六合　相賀組
内千百三拾壹石貳斗貳升貳合　田方
六百六拾七石三斗五升四合　畑方
一新田畑高七百貳拾八石九斗五升四合　同　組
内四百五拾四石四斗六升　田方
貳百七拾四石四斗九升四合　畑方
一本田畑高千七百八拾九石五斗九合　長嶋組
内七百八拾石五斗四升貳合　田方
千八石九斗六升七合　畑方
一新田畑高三百六石三斗四升貳合　同　組
内百四拾貳石九斗貳升三合　田方
百六拾三石四斗壹升九合　畑方
一本田畑高三千貳拾壹石五斗壹升八合　北山組

内貳千五百五拾貳石五斗貳升貳合　　田方
　百六拾三石四斗一升九合　　畑方
一新田畑高三百拾石三斗五升六合　　同組
内貳百九拾壹石壹斗六升貳合　　田方
　拾九石一斗九升四合　　畑方
一本田畑高三千七拾四石五斗五升三合　　入鹿組
内貳千五百六拾五石八斗貳升三合　　田方
　五百八石七斗貳升七合四勺　　畑方
一新田畑高百六拾八石三斗三升九合　　同組
内百四拾貳石九斗九升五合　　田方
　貳拾五石三斗四升四合　　畑方
一本田畑高千七百廿八石四斗貳升四合　　本宮組
内八百九拾四石九斗五升七合　　田方
　八百三十三石四斗六升七合　　畑方
一新田畑高三拾壹石六斗九升四合　　同組
内拾七石九斗七升四合　　田方
　十三石七斗貳升　　畑方

一奥熊野貳夫米合貳百六拾四石六斗七升七合　　木之本組
内三十六石九斗四升九合
此銀貳〆貳百十六匁九分四厘
十六石七斗九升貳合　　尾鷲組
此銀壹〆七匁五分貳厘
三十六石四斗五升七合　　相賀組
此銀貳〆百八十七匁四分貳厘
貳十貳石壹斗貳升三合　　長嶋組
此銀壹〆三百貳拾七匁三分八厘
六拾石貳斗八升四勺　　北山組
此銀三〆六百拾六匁八分貳厘
六拾石四斗三升七合　　入鹿組
此銀三〆六百貳拾六匁貳分貳厘
三拾壹石六斗八升八合六勺　　本宮組
此銀壹〆九百壹匁三分貳厘
右代銀合拾五〆八百八拾三匁六分貳厘　　定石六十目替
一奥熊野種借利米合百九石一升一合

内十九石六斗七升八合　木之本組
十四石三斗八升貳合　尾鷲組
十五石貳斗一升六合　相賀組
十四石貳斗四升八合　長嶋組
貳拾四石一斗八升九合　北山組
貳拾一石貳斗九升八合　入鹿組

右は畑米直段に壹匁上りにて可取上　但し本宮には利米無之

一奥熊野郷役米合百七拾貳石三升八合七勺
内貳拾四石壹升六合八勺　木之本組
十石八斗八升六合　尾鷲組
貳拾三石六斗九升七合　相賀組
十四石三斗八升　長嶋組
三拾九石壹斗八升貳合貳勺　北山組
三十九石貳斗八升三合五勺　入鹿組
貳十石五斗九升七合貳勺　本宮組

一新宮上知明知郷役米高百八石壹斗六升八合三勺
内十六石八斗四升三合　有馬組

貳十石一斗一升三合　尾呂志組

五拾壹石九升三合　相野谷組

十六石四斗七升五合　太田組

貳石六斗四升七合　色川組

新宮上知有馬組

一高千四百四拾五石五斗九升六合

内七拾石六斗四升　志原村

五百五拾四石三升七合　井土村

五十九石五斗貳升七合　瀬戸村

貳百五拾三石六斗三升　上市木村

五百七石三斗六升貳合　下市木村

右は新宮上知高村譯致書附差出候樣と木之本御役所より被仰村有馬組より書付參候に付留置申候已上

寶暦十一年巳十一月

一壹万三千貳百三十三石七斗九升四合　奥熊野役米

一六千五百十九石四斗四升三合　新宮上知之分同斷

一千四百十六石一斗五升三合　同　明知之分同斷

一三百八十五石

合貳万千五百五拾四石三斗九升

一奥熊野上知明知郷役米合貳百八拾石貳斗七合

一奥熊野加子米合五百八拾四石九斗

内貳百十三石五斗　木之本組　百八十八石五斗　尾鷲組

貳拾九石六斗　相賀組　百五拾三石三斗　長嶋組

外に壹石九斗五升舊知鵜殿浦入鹿組之内に有之

一奥熊野職役米高四拾八石三斗

内八石五斗五升　木之本組　十三石貳斗　尾鷲組

五石四斗　相賀組　十一石五斗五升　長嶋組

壹石五斗　北山組　無　入鹿組

八石壹斗　本宮組

一奥熊野糠藁米代合貳拾五石貳斗五升四合

内三石五斗壹升壹合　木之本組　壹石五斗九升五合　尾鷲組

三石四斗六升三合　相賀組　貳石壹斗貳合　長嶋組

五石七斗貳升七合　北山組　五石八斗四升貳合　入鹿組

三石壹升四勺　本宮組

一奥熊野竹年貢銀合百三十六匁七分貳厘
　內七拾六匁九分七厘　木之本組　三十九匁七分五厘　尾鷲組
　　貳十匁　相賀組
　　　但し四組はなし
一同船床銀合四百四拾四匁
　內三百九十目　木之本組　貳匁　北山組
　　五十貳匁　本宮組
　　　但し四組はなし
一同帆別米壹石一斗四升七合　木之本組
一奥熊野村數百壹箇所
　內　木之本組
木之本浦　大泊浦　古泊浦　波田須村　新鹿村　遊木浦　二木嶋浦
二木嶋里　甫母村　須野浦　梶賀浦　曾根浦　賀田村　古江浦
三木里浦　名柄浦　小脇村　三木浦　盛松浦　神木村
　〆貳十箇村
　　尾鷲組
早田浦　九木浦　行野浦　大曾根浦　向井村　矢濱村　林浦

南浦　堀北浦　野地村　天満村　水地浦　須賀利　中井

〆十四箇村

相賀組

便山村　小山浦　古之本村　小浦村　船津村　中里村　上里村

河内村　鳥井崎　馬瀬村　矢口浦　引本浦

〆十貳箇村

長嶋組

島勝浦　白浦　三浦　道瀬浦　海野浦　長嶋浦　錦浦

二江村　前山村　中桐村　大原村　十須村　江瀧村

〆十三箇村

北山組

大保上番　同下番　小又村　小坂村　佐渡村　野口村　神山村

寺谷上番　同下番　和田村　湯谷村　桃崎村　大井谷村　柳谷村

神之上村　長原村

〆十六箇村

入鹿組

桐原村　片川村　矢川村　大河内村　坂屋村　小栗須村　丸山村

赤木村　長尾村　平谷村　尾川村　長井村　粉所村　赤倉村

〆十四箇村外に鵜殿舊知有り

本宮組

本宮村　湯峯村　下湯川村　渡瀬村　久保野村　平須川村　曲川村

檜葉村　小々森村　皆地村　武住村　大瀬村

〆十貳箇村

一新宮上知高明知高合八千四百九十八石

內七千五十九石四斗四升三合　上知分

千四百三十八石六斗五升三合　明知分

一新宮舊知高四百拾貳石五斗八升九合

入鹿組大庄屋支配

井田村　神內村　鵜殿浦　成川村　新宮　坂松原村　平尾井

井內村　大里村　高岡村　鱗田村

〆十壹箇村

一上知明知村々合貳十六箇村

有馬組

井土村　瀨戸村　下市木村

〆三箇村

尾呂志組

坂本村　川瀬村　西之原村　(栃一本楠)原村　上野村　栗須村　中立村

〆七箇村

相野谷組

船田村　高岡村　大里村　井内村　平尾井　坂松原　小畑村

〆七箇村

太田組

橋の川村　二郷村　庄　村　中里村　大居村　井鹿村

〆六箇村

色川組

小坂村　熊瀬川村　中の川村

〆三箇村

右村々之内旧知と申分には村も有之候

卅五奥熊野辰春八歳以上人數目録

總人數三万四千八百九拾四人

內壹万七千九百拾五人　男

壹万六千九百七拾九人　女

總人數合三万四千九百六拾四人

内壹万七千九百四拾人　男　壹万七千貳拾四人　女

右之譯

八百八人内　四百十七人男　三百九十七人女　八歳子

五十六人内　四十人男　十六人女　他所より養子縁付有付

六百六拾貳人内　三百廿七人男　三百卅五人女　死人

五拾貳人内　二十七人男　二十五人女　他所より養子縁付有付

八十人内　七十八人男　二十五人女　行衞不知

差引七拾人辰増

外卯四百人内　貳百廿四人男　百七十六人女　指引六人辰増

四百五十人内　貳百五十四人男　百九十六人女　當季居奉公人

卯貳百七拾三人内　百四十四人男　百二十九人女　指引六人辰増

貳百七拾九人内　百十九人男　百三十人女　穢多

右之通に御座候已上

辰三月　渡邊彌一郎

南條和田右衛門　無印

右之外

子五百十六人　内二百六十人男 二百五十六人女　穢多

亥四百九十五人　内二百五十二人男 二百四十三人女

亥子差引貳十一人内八人男 十三人女　子増

右は奥熊野在々當子歳男女八歳以上人數增減如此御座候以上

子三月　曾根田源助

右文化十三年子歳直改

卅六在中諸願達筋奉行衆添奉行中へ相達振之事

一新規御普請之内頭取申立之願

一本田畑壚濱開き荒起畑返り植物場所壹丁以上之願

但し壹丁より内にても場所障り有之又は願重々申立有之筋郡奉行吟味之品直々達候筈

一弱村申立願

一弱人御救之御普請之願

一御借麥不足之願

一潰百姓幷に家賣々所手附

一在々損亡目錄幷に注進之書附

一不依何事御褒美申立筋

一新規稼事を見立候願
一疱瘡病人御救米之願
　但奥熊野は御救米相渡候追而達し目錄奉行衆へ出す
一猪鹿防之願
一公儀御定筋并に御高札場繕願
一他國へ稼參候もの願
　但熊野は役所にて聞届置替品候へは達す
一諸事之儀に付急事注進
一御城米船印形帳
一浦組之儀に付增減改帳
一大川除御普請之儀に付願
右之外只今迄直に奉行へ達候筋は勿論總而爾今申立有之筋并に頭立候儀直に達筈
　郡奉行添奉行へ相達奉行衆へ達有之事
一鄉役米御普請方新規御普請願
　但し頭立申立有之願は郡奉行直に達申筈
一凶年毛見又は切免吟味の趣達す
一新規御普請入用竹木火事に逢小屋願

一金銀米麥借幷に町銀
一六木幷に松 二字不明 枝打惡木洗代陰伐願
一本田畑新田畑壚濱新開荒起植物場壹丁より內之願
一諸職人賃銀幷に御道具直段增等之願
一定免願
一地詰幷に重立候新田畑等入鍬先之願
一松木植付末木枝葉證文之願
一本役人足鄕役給銀幷に小入用足銀等之願
一耕作荒し之犬幷に四鳥打願
一御普請入用嶋石船數願
一所々御普請所籠屋破損繕御留藪繕御納所藏木願
一在々小役人不時御用勤之節渡物幷に大庄屋山廻り諸番人役儀之品に付願
一諸々渡船破損繕幷に造置之願
一鎌留山年數之內下草刈申度との願
一品々運上請候筋幷に問屋願
一炭燒幷に山燒申度との願
右之外品々願書出候節達候品左右に可進事

添奉行吟味にて相済候筋

一郷役定式御普請御願
一新家木幷に濱家火事に逢家木願
一定免願之内不相應之願
一鎌留山年數明き候に付下受刈願
一牛馬買代銀願
一六木風折代拂之願
一石土取除之願

右之類願出候節右に可進事

一在々より出る薬草改所之事　附三山社家より請返納押筋之事

一自　公儀被　仰出候在々より出薬草改所此度左之通相極候就夫先達て石井佐助幷見習之者所之者共へ委細申聞置候通百姓共勝手次第取出候様に申付尤見習之者共申付筈右薬草送状殉之儀は何方和薬等改會所に致候筈

一奥熊野より出候白芍薬江戸向不申候へ共少々見申度よし且又（及わ 不明）之儀遠き者故少々ならては賣不申よしにて候然共取出遣ひ見申度候百姓共勝手次第右兩樣共少々先遣し見申様に申付筈

一薬草荷物着次第直に賣拂代銀相渡す尤船賃共代銀之内へ指引相渡申筈候此段心得させ申筈

和薬等改所之覺

一和藥改會所日（伊せ丁）

京都二條通新町東へ入
升屋市兵衛
和泉屋藤兵衛

右兩人宅にて和藥相改之事

大坂道修町北側
伏見屋市左衛門

大坂　同所二丁目
福島屋吉兵衛
堺屋與太夫

右大坂は會所を相定致吟味候に付未所不相知候依之高價和藥右三人へ持參會所に承合吟味受可
申事

堺
小西彌右衛門
小西清右衛門

右堺改會所之儀同所宿屋町神明丁材木丁三丁目の藥種屋六十二軒内にて月替和藥改吟味之事

駿河吳服丁一丁目
小西源左衛門
小西甚左衛門

右兩人宅にて和藥改候事

右は江戸京大坂堺駿河和藥種吟味之場所書面之通に候間山々より出候和藥右改所之内へ向寄次第持參吟味を請候上商賣可仕候已上

寅七月

三山社家諸返納押筋之事

右御年寄衆被仰聞候由にて藤牧彌右衞門方へ井關彌五助殿より申來る

一本宮新宮那智三山社家諸返納筋社領地之内若山諸藏より押申來候節本宮組大庄屋淵上彌三右衞門方へ申遣新宮は同所大庄屋向井安兵衞方へ申遣那智は那智組大庄屋植野十郎方へ申遣夫々社領地之内押置せ候事尤右押筋元帳役所にあり

右免し等の相廻り候へは夫々の大庄屋元へ差越候事

支配下諸役人取扱之事

卅八支配下諸役人取扱之事

一村々庄屋代り候節右代り庄屋大庄屋地方手代吟味之上書付を以申出其上御代官郡奉行吟味之上夫々可申付

一村々肝煎其之儀大庄屋吟味の上抱追而其段役所へ相達候

一大庄屋元物書は大庄屋吟味之上抱右同斷

一大庄屋山廻り所々遠見常燈番人等は郡奉行吟味之上書付を以て相達伺之上夫々可申付

一鄕役方杖突幷勘定人右兩人之者何等のへ儀にて代り候節は先大庄屋より役所へ伺役所より申付る

箇條不立申品々可見合

卅九箇條立不申品々以後可見合筋留込

一尾呂志組大庄屋年々定井扶持方請取手形差出奥書名判致候
但郷役米之内にて自今相渡候様にと卯七月三日山本利左衛門殿より申來る

定井扶持方請取方

一尾呂志組大庄屋東勘兵衛相野谷組大庄屋榎本安右衛門年々御切米貳石宛之手形奥書名判取來る

一在々(用)水掛引井路之儀川中へ樋井を取引分候處堰之仕方より川下之井水入は不足にも無構手前之宜き様にのみ仕候故及爭論或は兩方に井口有之場所片方之井口付替候時双方不申合一方之伺自由に仕替候故令出訴候類有之候自今右躰之儀双方致相對普請仕候節は立合無障様可致若滞儀有之歟又は不法之事仕候時は其節より十二月を限り訴に於は可有裁斷右期月過令出訴候は不取上候事

在々用水引方之事

一郡境村境山野之論又質田地等有之儀其外奉行所訴出候事に付證據無之非分之儀をも何々角と申紛又證據有之儀も年經候へは其事を申挽及出訴相手村方之難儀に及はせ其上双方村々困窮之元に成不屆之條向後如此筋不可出訴若此類の事訴出詮議之上巧み之譯相知れ候に於ては咎可申付事

境界等出訴之事

以上

辰閏四月

右は自　公儀被　仰出候由五月三日於會所淺井惣八郎殿被申聞候

一渡世之爲他所へ稼に參候者有之願出候節役所にて可聞屆若不及達旨十郎太夫へ聞合置

他所へ出稼之事

一手過にて出火壹貳軒之分は若山へ不及達奥熊野仕來

出火之事

但御救米拜借銀等願之筋は壹貳軒にても相達筈右十郎太夫へ申遣す

一上知明知火事類燒家之者願差出候節大炊守殿家來よりも右之品達す此方よりも相達筈尤願筋御年

上知明知類燒家之事

浦賀湊へ御番所被仰付

役人宅へ張紙投文不可致

浦方申分致道具取押不可

寄衆御裏判兩印形いたし御救米拜借請取相渡す

但御救米上知代官衆宛

一下田は湊口惡きに付風波之節難乘入或は船破損に及ひ其上乘おとし入船も多旁諸廻船之者共難儀仕候よし相聞候に付御吟味之上浦賀湊に御番所被仰付候事

一諸廻船之儀は穀を初其外炭薪材木等無滯留運上送候樣に被仰出候儀候間向後植木庭石其外遊道具類積廻不申等に候條此旨船持共へ可申付事

一右番所替申候に付判鑑等引替其外之儀に付ても浦賀奉行へ可申合事以上

子十二月

一町在の者共訴訟之儀銘々支配筋へ可申出事勿論に候然處願申間敷品々又は訴之趣に付役人宅へ何者致候とも不相知張紙投文なと致候族有之候件之致方にてたとひ其儀理分に候とも御取上有之間敷候併品により是非訴申度儀有之候はゞ願主名を顯し可指出候左候へは追て御吟味可有之候若猥に張紙投文致候もの有之相知候はゝ急度可申付候

右之趣御年寄衆被仰聞候由今日於會所に小野權太夫殿御申渡候

享保七年寅六月十三日

一於浦方不依何事申分致し船網幷に船道具手前へ押取候事折々有之事に候此段心得違と相聞候人々當日之稼を以御年貢幷に御郷役相勤候儀に候へは稼道具少々之間も押留候儀に候は不屆千萬之儀に相聞候向後左樣に無之樣可相心得候山方にては鐵物道具等右同意之事に候右之趣此度改申付候

間以後人々相嗜可申候申分之儀有之候は早速大庄屋へ相達し作略可請事

右之趣大庄屋より組々へ相觸此上猥に致候面々有之候はゝ早速可申出候急度吟味之上役所より可申付候此等之趣庄屋は勿論肝煎五人組百姓迄手前に寫し取目に懸り候處張可申事

申七月

御國他國共に漁仕る事

○御國并他國之漁師共泊り漁に參り何れ之浦にても居浦に致し漁事候節大漁に逢候へは其所之賑ひにも成候儀に候處處より不相應に浦手銀多取候付外より參り候もの致迷惑重て其浦へ不上由相聞へ候間自今其處之漁相應に浦手銀取候樣に可仕候

一御領分浦々之漁師とも沖相にて諸漁盛り候得は其所と他浦より船を廻し漁仕候儀に候處場所を論又は他浦より廻り候船之漁師共へ何角障りを申掛宿なと貸不申に付其場之漁にもれ迷惑致し候者も有之よし相聞候間向後示合御國之漁師共は不申及他國之漁師にも宿を貸し居浦爲致漁事手支無之樣に可仕候右之通に致候へは網代銀并に宿賃等とれ所之潤になり申儀候間能々可申合候

一口室奥室とも沖合漁事盛之節網之壹番貳番を論し及口論大漁仕損兩方とも迷惑仕候儀も有之よし相聞候兼て申聞候て向後狼藉無之樣に仕互に申合漁事可仕候以上

巳五月

右海士有田日高兩熊野郡奉行中へ申渡し水野土佐守殿安藤内膳殿家來へも通じ

添高札并浦觸之事

此度被仰出候添高札并に浦觸之儀御書附之趣に付浦々可相心得覺

一御城米船足極印船頭水主人數其外送狀に引合せ相違之儀も有之候へは船留置早速郡奉行致注進指

圖を可受申候
一別條無之候得共入津之御城米船は船足極印船頭水主人數相改入念帳面に記し上乘船頭印形取置可申候
一前々御高札に有之通諸廻船沖にて刎荷致又は破損有之節は急度吟味入念可申候船頭少しも不實之仕形有之候へは其品に留置荷主方へ申通筈候間其様子早速可相達候
右之通浦々へ入念可申付候以上
辰十一月

酒株賣買之願

一在々酒株賣買願自今若山へ不及相達此方にて聞屆若山仲間より申來る
未正月

若年百姓保護之事

一在々百姓之忰幼少之内父相果後見仕候もの有之候へとも其者の田畑山林委細書附村役人幷に親類之内致判形大庄屋へ差出し大庄屋吟味之上奥判致し右書付各披見之上大庄屋手前に御差置せ忰十五六歳に及ひ身躰之儀可存時節父之諸跡相違なく書付を以申出させ其節各御聞屆最早改置候畑田山林役人印形之書附當人に返し可申候右所持之内品有之賣拂候はゝ大庄屋吟味之上各聞屆賣拂田畑山林最前改置候書付へ添書致し可申候右之通在々へ御申付置可有之候已上
卯五月
右淺井忠八殿被申渡候

勢州兩熊野御達之願

一勢州兩熊野御代官郡奉行中へ御用之調物當番奉行所より申遣す事は何にても重て三名宛にて相達

候節

人參生立之樣子可達事

一二鄕村藥園へ植移有之候人參生立候樣子自今折々相達可申旨奉行衆被申候間相達候樣に打越助右衞門方より申來候間已後折々生立之樣子相尋書附取り若山へ相達可申事

但右之外近年植移有之候所も可爲右同斷歟

山中朽木之事

一兩熊野山中筋に生立候(栃)[朽カ]實成候大木は心儘に伐取申間敷候伐不申て不叶所又は村により少々伐り候ても末々難儀差向無之處は願書添奉行中へ達す

和田與三右衞門

美濃部善一樣

茂野八郎兵衞樣

二夫米代之事

一奧熊野貳夫米代銀三四年已前々迄は本斗御取立銀上り之節一緒に罷越候處近年先納等にて不時に若山へ御金取寄候に付右宰領之者入用相重り致難澁候右銀筋御仕入方へ受取被下候はゝ宰領入用之内六拾目宛在より御仕入方へ相渡申度との願之品申達候處無據願に付自今左之通申付る筈

一本斗筋御銀不時に若山へ取寄せ候節は宰領入用として在より銀六十匁指出候筈

一右宰領入用之節は各役所より木之本御口前所へ三四日も前廣に御通調候へは手代役人之內貳人宰領致候筈

一在より出候銀六十目件之宰領之者へ郡方役所より相渡候筈但右六十目計にて宰領貳人之入用不足有之積に候へ共此不足若山にて會所御勝手方より相渡候筈右之通に候間自今之儀前段之通相心得

作略可仕旨大庄屋共より宰領へ御申聞可被成候宰領何人之儀は二歩口奉行中へ相達す

八月廿九日

一新宮研屋吉太夫三山御太刀拭御用相勤候内御扶持傳馬壹疋自今被下候筈之由佐渡仙左衛門申段和田與三右衛門方より申來る

但傳馬は本宮新宮計に被下候筈

三山刀拭之御用勤

一奥熊野三山御太刀拭御用新宮白銀屋五郎太夫を忰佐五之亟へ右御用可相勤哉との儀御吟味之處別紙書附之通申出候右佐五之亟儀研屋相兼家業致候故御用御手都合も宜く候間右之者へ被仰付哉との書付之趣奉行衆へ相達候所彌右の者へ申付候筈に候就夫輕き者の致出勤失脚も可有之樣雜用銀にても被下候方可然哉との濕上彌三右衛門存寄書之趣相達一山に十匁宛之積三山に三十目宛雜用被下候筈に候尤只今被下候傳馬扶持之外に右之通被下候筈左樣御心得可被成候

五月六日

燒下拜借手形牛飼代拜借手形疫病人疱瘡病人被下米手形筋

諸手形案文

郡奉行物書給米手形役所御鐵炮之玉藥火繩受取手形右之外諸手形案文

但燒下拜借銀手形案文は右火事に逢取扱候所に有之仍而不記

借用銀子之事

銀合何程　　壹疋に付四十目宛

此牛數何疋也

内　何拾匁　　　　　　　　　　何　村
　　此牛何疋
　右同斷　　　　　　　　　　　同
同

右は奥熊野在々百姓所持之牛疫病にて何月幾日迄落候に付右牛買代として借用申請取相渡候
來る何年より何とし迄三箇年之間毎取立納させ可申候已上
年號月日　　　　　　　　　　　郡奉行兩　印
　大金奉行宛

　　受取申米之事
米合三石五斗七升也
右は拙者物書給米之内何之春渡分として請取申候已上
年號月日　　　　　　　　　　　名　印
・傳甫御藏奉行宛

右は正月渡り但七月渡りも文言同斷暮渡りとして請取と可認
　受取申玉藥之事
合鉛貳百十目　藥七十五目　但壹放一匁五分込幾放四匁鑄減とも
右は奥熊野郡役屋敷に御差置被成候御鐵炮當夏火を入申に付請取申候已上

年月日　　兩郡奉行印

御鐵炮役中

請取申火繩之事

合火繩壹把也

右奥書同斷

右兩通とも奉行衆裏判

覺

人數　何人　　奥熊野

内　何人　不及御救　何人　死人　何人　本復之者

殘何拾何人　但壹人壹斗宛

此救米何程

右は奥熊野何組何村之者當何之何月何日より同何月何日迄疫病相煩候に付例之通大庄屋山廻り

加子米手代相改させ御救米相渡し申候已上

何之何月　　郡奉行無印

請取申米之事

米何程也　　仮手形案文

此疫病人何人　　但五才以上壹人前壹斗つゝ

内　何程　　　　　　何　村

此人數何程

右同斷　　　　同

右は奥熊野何組在々之者當何之何月より何月迄疫病相煩自力養生なり難き者共へ爲御救米

被下置請取銘々へ相渡し申候重て本手形に引替可申候已上

年號月　　　　　兩郡奉行姓名印

御代官宛

但田邊上知明知は御代官宛

請求申米之事

米合何程也

本手形案文

此疫病人何程　　但五才以上壹人前壹斗宛

内　何程　　　　何村

此人數何程

同　　　　　　同

此人數何程

右奥熊野何組在々之者何月より何月迄疫病相煩自力養生難成者共へ御救米として被下置請取

江戸へ年季奉公之届

熊野地侍御目見して若山へ

銘々へ可相渡申候已上

年月日　　　　兩奉行印

御代官宛

請取申銀子之事

一合銀三十目也　但一山拾匁宛

右は熊野三山御太刀拭御用當何の年新宮研屋佐五之丞相勤候に付被下受取相渡申候已上

年月日　　　　郡奉行兩名印

今木武右衛門殿

中村兵左衛門殿

覺

一紀州奥熊野長嶋浦九八郎と申者江戸駿河町にて三井八郎右衛門店當巳年より卯年迄中年十年季奉公に參り申候に付遣し申候已上

年號月　　　　茂野八郎兵衛

江戸御中屋敷會所

一御在國之年御目見に奥熊野地侍堀内喜藤次仲楠之丞大庄屋仲ヶ間總代として壹人若山へ罷越候節郡奉行は其品斷出候由早速左之通御書附添奉行迄出候筈

堀内喜藤次

仲楠之丞

右之者共此度年頭御目見に罷越申候御序之節御目見爲仕申度奉存候已上

正　月　　奥熊野郡奉行

奥熊野大庄屋總代仲間

何組大庄屋誰

右之者此度年頭御目見に罷越申候御序之節御目見爲仕申度奉存候已上

正　月　　奥熊野郡奉行

鷲鵰打留差出方

一奥熊野在中より鷲鵰打留役所へ差出候へは若山奉行衆へ定傳馬繼便に書狀相添大庄屋添書共相達
但被下銀之儀手形座にて承合候へは相知れ被下銀請取手形文言左之通

請取申銀子之事

一銀合何十目

右は奥熊野何組何村何右衛門と申者當何月何日鷲鵰何羽御用に差上申候に付被下候銀として請取相渡申候已上

年　月　　郡奉行兩名

小拂奉行衆宛

但奉行衆裏判もの

御用蜜本宮組大庄屋へ達す

一御用蜜之儀奉行衆より申來候へは早速本宮組大庄屋へ申遣念を入樽詰に致し若山當番奉行衆へ差上させ申筈

但蜜代銀幷に入用銀受取手形右大庄屋より認來る早速若山相司方迄遣し相司方より右手形御用部屋へ遣し當番御用達衆奥書印形を取候て手形座へ入置奉行衆裏判取候て郡奉行裏判も添候へは右手形小拂方へ遣し書替取銀子は茶屋にて請取在番相司迄出す筈

御在國御目見之事

一御在國之節役所より罷歸候へは早々御目見之儀組頭或は添奉行中へ申込筈
一役所へ罷越候節も御目見之儀或は二日程前に申込筈若發足迄之內御序も無之御目見相濟不申候は〻左之通斷書添奉行中へ相達筈
御目見之儀申込候へとも御序も無御座御目見不仕候へとも何日に役所へ罷越申候已上

郡奉行名

但亥二月十三日川合善八會所へ罷出候處右之通添奉行中被申聞候由善八返事有之候

他國へ養子緣組願

一御支配下引本浦團平甥孫三郞泉州岡田浦へ養子に遣度との願書壹通御差越候右躰之願之儀は各方にて例御聞屆候上御濟遣候儀に候へは此度御達筋にて無之由に付右一通令進覽候已上

三月二日　　西村彌兵衛

美濃部善一樣

安井彌右衛門樣

右願書大庄屋取次役所へ相達候に付善一若山へ田平左衛門を以相達候所彌兵衛方より亥三月二日に右之通申來候に付自今右躰之願緣組願とも若山へ不及相達役所にて聞屆相濟せ遣し候筈

受取申米之事

米合五石也

右は太地崎常當番壹人寅年分爲御切米請取申處實正に御座候已上

延享三年寅十一月

太地崎常燈番人
清水惣吉印

木田金兵衛殿

右は太地崎常燈番人御切米可有御渡候已上

得能彌五兵衛印

請取申切米之事

米合貳石也

右は丑年爲御切米被下慥に受取申處實正に御座候已上

延享貳年丑十一月

相賀組庄屋
榎本安右衛門

木田金兵衛殿

右は丑年大庄屋御切米可有御渡候已上

速水半右衛門
安井彌右衛門

請取申米之事

合米十貳石

組々畑米寄

他領へ強盗入込助勢之事

内

貳石　濱地善之丞　　貳石　仲彦助

貳石　速水久兵衛　　貳石　湊次郎左衛門

壹石　西八右衛門　　壹石　五味誠右衛門

貳石　久保仙藏

右は寅年爲御切米御年寄衆御添狀を以受取申候已上

延享三年寅十一月　　得能彌五兵衛印

安井彌右衛門

組々畑米寄卯年寫

一米五拾五石壹合　木之本組　　一同九拾六石四斗四升八合　新鹿組

一同百五拾石七斗四升七合　尾鷲組　　一同百七拾四石五斗六升一合　相賀組

一同百八石七斗貳升三合　北山組　　一同貳百九拾八石八斗五升　長嶋組

一同八拾七石三斗六升九合　入鹿組　　一同九石四斗五升三合　鵜殿組但舊知

一同百拾四石四斗八升五合　本宮組

合千九拾五石六斗三升七合

右は組々畑米毎年霜月直段を以上納

他領へ強盗入込助勢之事

寶暦十一年巳二月朔日和州吉野郡北山桑原村龍岩寺へ盗賊押込衣類を奪取同二日之曙桑原村を立

退き候所在之者其跡を見え隠に人夫參候處紀州領北山組桃崎村奥高尾谷と云川原に集り居候處桑原村之者見屆參御國領故北山組大庄屋西又左衛門へ桑原村役人願出助力賴み參り候に付桃崎村より人足多く出し皆鐵炮を持參致し詰掛候處强盜も仰天否無之尋常に出共々召連桃崎村に於て搦捕同四日桃崎出立同日桑原へ着同十三日古市出立同日南都に着直に入牢右盜賊龍岩寺へ這入趣意其比寺普請にて材木杣物多く集め大工等有之によつて寺建立の金銀可有之との念慮にて押込候所和尙をは縛り外に八人程有之泊人をも括り候て和尙に向ふて金銀出し候樣に申候付金銀は外に預け有之由申候所僞申抔とて草鞋はきにて散々に蹈金壹兩壹步と錢貳貫文衣類白米六斗程取參り候由跡にて相改候金子は和尙をふみ候拍子に落しゝを不知金挾み候板計懷中して逃け去候

右盜賊名前左之通

張本 若山藤兵衞年廿三　勢州權次郎年廿七　入鹿谷半四郎年四十　大坂庄兵衞年三十三

江戶三之助年廿九　藤　七年不知　十　九年不知女二人 壹人老女 壹人藤兵衞妻 壹人權二郎妻

右老母は權次郎母之由藤兵衞妻は入鹿組にて乞食之妻を奪取候由右盜賊之內所持致候刀貳腰脇指六腰懷劔は男女とも何れも所持致居候由人品骨柄とも何れも優美に相見へ候至極落付候頰魂代々之盜人之由白狀致候

南都より北山組大庄屋元へ參候書狀扣

一筆致啓達候彌御堅固御勤被成珍重之御儀に御座候然者御預所吉野郡北山鄕桑原村へ押入候盜賊於御國境捕候節御領分御支配下桃崎村より預助力候故無事故搦捕參候旨申出於拙者共致大慶候猶

又村役人中百姓中へもよろしく被仰遣可被下候右挨拶可得御意如此御座候恐惶謹言

二月十七日

柳本野右衛門 當書制

長嶋三左衛門 清成書制

西又左衛門様

右白木之狀箱に入參候上之蓋に

紀州桃崎村

西　又左衛門様

藤堂和泉守內

長嶋三左衛門

柳本野右衛門

右返書

貴札致拜見候彌御健勝御入珍重之御儀に奉存候然は吉野郡北山郷桑原村へ押入候盜賊共當村國境被召捕候節桃崎村より助力等致候との段被申出候由にて委細御紙面之趣致承知入御念候御事に奉存候右之段役人中へも可申達候恐惶謹言

三月廿八日

西　又左衛門

長嶋三左衛門様

柳本野右衛門様

御領分大庄屋名前

伊都郡

神野々組 堀内吉五郎　名手組 妹背四郎五郎　粉川組 伊藤八右衛門

丁の町組 森田禪助　橋本組 榎坂賀兵衛

那賀郡

岩手組 井谷平助　田中組 大井兵藏　池田組 楠井與惣次

野上組 山本嘉兵衛　新座組 津田勘兵衛　山崎組 桃井軍八

名草郡

山口組 小島與太夫　山本組 森藤七　宮組 森三十郎

中筋組 中筋彦之丞

海士郡

賀茂組 中尾善兵衛　日方組 橋爪庄次郎　吉原組 林茂左衛門

雑賀組 松元源之右衛門　松江組 高橋源右衛門

有田郡

山保田組 前島藤左衛門　石垣組 神保市右衛門　廣組 湯川藤之右衛門

藤並組 野田八助　宮原組 上之山十太夫

日高郡

山路組 小川與一右衛門　中山中組 玉置孫助　江川組 瀨見吉左衛門

天田組 中村伊左衛門　志賀組 玉置民右衛門　入山組 塩崎武内
南谷組 鈴木喜傳次

口熊野

四番組 湯川龜右衛門　周參見組 原傳五右衛門　古野組 （巽）（一本琴）羽左衛門
江田組 浦義八郎　三戸川組 日下半之右衛門

奥熊野

長島組 三宅太郎兵衛　相賀組 渡邊平右衛門　尾鷲組 土井宗藏
木之本組 西川久兵衛　北山組 西又左衛門　入鹿組 五味常右衛門
本宮組 久保良助

田邊領

切目上知組 宮井幸内　南部上知組 鈴木爲右衛門　南鄕組 芝七郎右衛門
養芳組 目良幸作　田邊組 田所八郎左衛門　秋津組 鈴木源右衛門
三栖組 眞砂左衛門　朝來組 玉置次郎太夫　富田組 中村源兵衛
三番組 眞砂信助

以上郡方手鑑

一享保四亥年正月廿九日勢州に於て御手前船にて捕鯨女使を以て　公儀へ御獻上
一享保七寅年在町儉約被　仰出

此時御家中一般衣食住儉約之事嚴重に被　仰出則ち市在へも奉行町奉行を以て被　仰出たる也

奉行へ

此度諸士儉約之儀被　仰出候條在中にても右を請万端費ヶ間敷品曾て無之樣に可仕候尤男女衣服幷帶襟等に至迄木綿地布之外一切着用仕間敷候

一年頭歲暮五節句等に只今迄地頭へ祝儀物致持參候へ共自今右祝儀物相止可申候

一地頭へ燒米持參之儀是亦自今相止め可申候

一地頭幷大庄屋且又妻子共衣服紬木綿地布はつかう之外堅無用帶襟は絹迄は不苦候

但妻娘等帽子覆面絹不苦候

一庄屋年寄幷妻子共木綿地布之外不罷成候帶襟等紬迄は不苦候

但妻娘等帽子覆面紬不苦候

一總百姓幷妻子共先達て申(開カ)候通り萬布之外不相成候

一地士幷大庄屋之妻子より總百姓之妻子に至迄籠甲之さし櫛笄幷蒔繪のさし櫛笄一切不罷成候且又都て衣類等べに紫に染申間敷候

町奉行へ

一大年寄幷妻子共衣類紬木綿地布はつかうの外堅無用帶襟等絹迄は不苦候事

但妻娘帽子覆面絹不苦候且又籠甲の差櫛笄幷蒔繪の差櫛笄不罷成候

一總町人幷妻子共衣類紬木綿地布はつかうの外堅無用帶襟等にも紬より上之物仕間敷事

但妻娘帽子覆面絹不苦候且又鼈甲の差櫛笄幷蒔畫の差櫛笄不罷成候

一町人召仕之女はしんめう下女の差別なく都て木綿地布はつかう之外は無用可致候鼈甲のさし櫛笄不罷成候事

一御用承り候町人之內年頭に御禮をも申上候程之者尤御扶持被下候町人幷樂人等は大年寄の衣類同斷之等妻子も同斷

一座頭盲女等も麁服を着致させ可申事

一町人方へ他客之男女參り候はゝ右は何方より何と申者誰所へ參候との儀早速町奉行所へ相屆尤歸り候節も早速可相屆候無斷御定之外衣類等着し候はゝ急度可相改候

但他客之男女

御城下乘物駕に乘申候節は是亦其度に町奉行所へ可申屆候

一冑破魔弓羽子板雛類兼て御定之通麁相成を商賣可仕候縱結構成を望候者有之候共堅賣申間敷候若商ひ候段相知れ候はゝ可爲曲事事

一享保八卯年左の舊祠廢社を御再興寶殿碑石等建設殺生禁斷を被命

御家中等への布告は享保七年の世史に詳なり

名草郡有馬村堅眞音神社

同郡津秦村祇爲姫神社

同郡和田村靜火明神社

父母帳を領民へ下し賜ふ

窮民へ米穀を賑恤

朝鮮人參苗試植

甘蔗及櫨樹苗を要めしむ

一享保十五戌年名草郡安原之庄狛原村武内宿禰誕生の井舊跡を修補建碑

一同二十卯年名草郡内原村領に濱の宮の石碑御建立

一享保十一午年二月父母帖を紀勢御領民へ下し賜ふ

南龍公万治三年民間へ下し賜ふ父母帖年久しき儀にて絶へたる所も可有之との思召に依て也

一享保十八丑年紀勢御領分之窮民へ米穀三千七百四十石余を下し賜ふ

去秋虫害にて紀勢御領分之内田高三十一万五千五百十石程損亡に依て也此年西國四國中國筋共前代未聞の虫害に罹り地方之諸候參勤も御用捨　公儀よりも拜借金被　仰出たるなり

一享保二十卯年九月　公儀より御拜領の朝鮮人參苗甲州甘艸を紀州御領地へ移植せらる

按に郡方手鑑に奥熊野二郷村へ移植有之人參生立之様子自今折々相達可申旨布達云々とあり又日高郡高津尾御仕入方元極帳に寶暦五亥年比より山地組在々へ人參植付手入取計候處天明年中に相止候事等の記あるに據れは御領中山分の在々へ移植を命せられたる事知るへし

一元文元辰年有田郡箕嶋村の農善吉に命し九州に航し甘蔗苗及櫨樹苗を要めしむ

和歌山縣農事調査書に曰く有田郡箕嶋村に田中善吉と云ふ者あり世々農を業とし兼て商を營み就中種藝に心を傾け興產の志最も厚かりしかは元文元年同人に命し九州に航し甘蔗苗を要めしむ善吉命を奉し直に同地に航せしか到る處櫨樹を栽培し其收利多きを見聞し以爲く此地我紀州と氣候大差なし之を移植せは必らす能く繁茂して國產を增殖する事疑ひなしと因て薩摩の國にて良種若干を撰擇して携へ歸り村内字赤岩なる地に試植し刻苦培養敢て怠らさりしか樹々年を逐て繁茂し結實亦多かりけれは且搾り且晒し檢するに品質善良能く我地に適するを確認大に國產を開發せん事を企圖し狀を具して藩主に請ふ所ありしに大に嘉納せられ延享二丑年以來村內產出する所の櫨實或苗木を國中各所に配付し自ら東西に奔走し其勞苦を厭はさるのみならす栽培及製臘の法を傳へ毫も吝む所なく勸奬懇切至らさる所無かりし(中略)抑も該樹は山岸水畔林麓堤坡所として適せさるの地なく磽确礡碌の地と雖も尙能く繁茂し敢て肥沃の田圃を要せす又接木に敢て良砧を選ます栽培容易にして收利

諸藥草を栽培

藤代墨を新製せしむ

伊藤五大夫を褒賞す

大足村山論之直訴

多く他樹の能く及ぶ所に非されは各地爭て栽培に從事する事となり忽國内に普及し數百の村落櫨樹を見さるの地なきに至り製臘者又各地に興り國益大に開くるに至れり爾來其栽製の業を開かんと欲するものは先つ願書を善吉の手許に致し同人の副申に依て藩廳之か許否を爲せしと蓋し善吉の功を重んしたるに依ると云是れ本縣櫨樹栽培の濫觴にして逐年蕃殖の一途に傾き蠟燭の販路益々開け收利愈々多きを加へしは善吉の熱心と藩廳の保護とに依りたるなりと云々善吉の事は俊傑傳に記す

一又曰く延享三年の頃田邊治下に於ても京都の人大黑屋平左衛門策を建て藩主に請ふ所ありて大に櫨樹栽培に心を用ゆる者起り數年ならすして堤塘山麓到る處櫨樹の繁茂を見るに到れりと云々

一元文二巳年二月　公儀より頒布左の藥草五種御領分所々へ試植を命せらる

菓菓　草豆　蔻使君子　烏藥　和木香

此時御針醫格御庭方勤酒井秀齋に植物御用掛を被命諸々藥園を爲設該藥草を試植せしめらる朝鮮人參栽培之儀も同人擔當せしめらる

郡方手鑑中第三十七號に在々より出藥草改所の事及和藥改所の覺と云を記す合せ見るへし

一延享二年八月熊野人參一箱初て　公儀へ御獻上あり

一元文之比有田郡湯淺村橋本治右衛門へ藤代墨新製を命せらる

藤代墨の事熊野行幸記抔にも見へ其名高き處いつの比よりか廢絶せしを再興せられたる也治右衛門爾來新製し寶暦七年聖護院宮及永龍院に献す代々相傳へて專ら是を製し公用を勤む其形數品ありと續風土記に載たり物産誌合せ見るへし

一勢州飯高郡大口村伊藤五太夫か民事公益に盡力せし功を賞せられ御紋付三つ組御盃を賜ふ

年月不知伊藤五太夫大口村中州新田凡十八丁余に灌漑の水利を新鑿

又永く簓川の水害を除き家産を傾け常に民利公益に盡力不尠を旌表せられ賞品を下し賜ふ事は俊傑傳に詳なり

一寛保元年二月廿七日江戸御參府として若山御發駕田井之瀨河原に於て勢州飯高郡大足村庄屋潤田莊右衛門　御馬前を犯し同村草刈場と同郡西野村と山論の事を直訴し奉る　公御取上被遊御吟味

被　仰付遂に延享三年十二月六日に至て正邪曲直分明に御裁許ありて大足村之勝訴に歸す
飯高郡大足山は大足村の所有にして村を距る凡五十町南西の方にあり此山古より年貢を納め木草を伐採し來りしに享保十四年四月同郡西之村の者共此山へ立入秣を刈取りしより爭論起りたり其子細は西野村は執政三浦長門守之采地之處其元締役なる垣本某と云者驛の部田村に在りて主家の威權を振り横曲之事共多く則右山論の事も彼者之計ひより起りしとの事なれ共時の諸役人皆執政の威權を恐れ憚りて兎角大足村よりの訴へは立難く公平ならぬ裁斷を下し或は獄舍に繫かれ或は法廷に拘留せられ苛酷の虐待を蒙る里正潤田莊右衛門爭論之初より身命を抛ち必至盡力すと雖も兎角に種々に妨害せられ正理立難きにぞ憤懣に不堪遂に意を決して一身を犧牲に供し寛保元年二月和歌山へ出　御參府御發駕を伺ひ田井の瀨に於て訴狀を青竹に挿み御馬前へ捧け奉りたり此時御供之者を以訴狀御取上相成追て可呼出旨被　仰渡其年之六月より六年之間數回莊右衛門を和歌山へ御呼出し御吟味又西野村之者且彼垣本其他の役人等御呼出し對決被　仰付遂に延享三年十二月六日に至て此山大足村の所有たる旨の御裁許被　仰出垣本始め關係之役人共皆相當に罪せられたり斯て其後も尚西野村の者等妨害をなす事ありしを寛延三年十二月に至て事全く平く又右山の地續に阿形村の所有山あり此山も大足山の爭論起りし比より同樣之爭論出來したるか當時之里正等心弱く口惜しくも西野村と立會の山となり在りけるを潤田莊右衛門上訴の事よりして阿形山も元之如く其村の所有とは成りたり莊右衛門は　公の御仁德を深く感戴し奉り自筆にて此大殿の御恩は我里の氏神天神地祇と仰き奉り萬世忘るへからすと書遺

白砂糖を公儀へ御獻上

龜綾縞を織出す
水難者へ米を賜ふ

したれは村民共は村中の大傳寺へ　公の靈牌を安置し毎年七月一日（御忌日也）村民一同參拜し右莊右衞門自筆の書を揭け百万遍會を執行報謝し奉り同日の御供米には年々六升つゝ永代同寺へ寄附今に至て村民深く感銘しありといふ

　事は俊傑傳潤田莊右衞門之傳に詳なり

一寛保三亥年七月初て白砂糖を製出し　公儀へ御獻上和製は外に類なきよし　將軍家御感賞ありて日光　御宮へも御進獻あり已後獻上年々の恒例となるといふ

元文元年有田郡箕嶋村の農善吉に命し九州に航し甘蔗苗を要さしむと蓋し此時善吉は櫨樹苗と共に甘蔗苗を薩摩地方に得て携へ歸り試植繁殖を謀り製法をも講究經驗八年遂に本年に至て初て白砂糖をも製出するに至りしならん黑砂糖の製は慶長之頃薩摩大嶋にて初めて製出の由白砂糖は明和安永の頃尾州知多郡中村原田某始て製法を傳へ平賀源內大藏永常の輩共に大にその製に盡力すと云へは之に先たつ廿年前既に此製あるは殆と本邦に於ての嚆矢なるへし故に最も珍とせられ　日光廟へ迄御進獻ありしならん

一延享四卯年初て紀州にて龜綾嶋を織出す　公儀へも御獻上以來折々御獻上あり

一寶曆六子年九月水難に罹りたる町在之窮民へ米五百石余を賜る

　九月十六日若山暴風雨にて紀之川洪水所々堤防破壞御城下浸水家屋橋梁流失溺死も有しといふ

御勘定奉行へ御直諭

一安永五申年六月初て御入國共秋在中之儀御勘定奉行へ御直諭
　御勘定奉行不殘御前へ被召在中之儀種々御尋之上　御意には近年は下の氣風惡敷趣に候へ共役人共取扱不宜儀も可有之兎角末々之儀は上に立候役人の取扱心得にて下へ之移り差別有之事に候へは役人共無隔意諸事心を付取扱可申事肝要に候旨被　仰渡

一郡奉行御代官へ御直書にて上の爲のみを存せす下の痛まさる樣取扱可申旨被　仰出

高野寺領民の蜂起鎭定

一安永五申年十一月高野寺領農民蜂起數千人徒黨登山强訴を企つ依て郡奉行を派遣し御領中を警戒して地士帶刀人に高野山出張を命せられ鎭定せしむ
　高野寺領本年六月の比より新田等入の事より騷擾を來し八九月の比所在の人家を破却亂暴を極め追々登山强訴の聞えあるの處遂に數千人徒黨を企て不容易形勢の旨急報により十一月朔日御勘定奉行より左之通り布達

伊都
那賀　郡奉行中

高野寺領村々百姓共何等訴訟之品も有之候哉人數大勢致登山大門幷壇上へ附相集罷在殊の外騷敷樣子とも相聞え候夫に付御領分近鄕村々百姓共若心得違候品等も有之候ては如何儀に候間各支配下地士共へ心得申付無油斷打廻り晝夜共隨分氣を附若心得違候哉之者も有之候はゝ急度相示し村々隱に有之候樣可及取計旨入念可被申付候万一申聞を不致受用異議之者有之候はゝ搦置早速申出候樣是又心得させ置可有之事
十一月朔日

依て十一月三日伊都郡奉行大橋忠太夫は粉川へ那賀郡奉行淺井宇左衛門は岩出へ出張地士大庄屋等へ御領中取締を命し嚴重に手配を行ふ又若山にては急に伊都郡丁の町村地士森田禪助上那賀郡粉川組大庄屋伊藤八右衛門（粉川〔清水カ〕）村地士井谷兵助鶴武八を召下し地士帶刀人共急速登山左記之趣學侶年預へ陳述鎭靜方可取計之旨五日於御城申渡さる即ち地士左の者共六日七日の兩日に登山す

奉行直支配　○伊藤八右衛門　　同　上　伊都郡丁の町地士 ○森田禪助
同　那賀郡西坂本村地士 ○鶴武八　　同　同 清水村地士 ○井谷平助
須田組　伊都郡大野村 西山喜右衛門　　同上山田村六十人 榎本太郎兵衛
那賀郡満屋村六十人 井口平四郎　　同上上野村地士 井畑又十郎
同上西國分村六十人 長谷川半左衛門　　粉川　同粉川村地士 桃谷善之丞
那賀郡六井地士 森九左衛門　　同上會屋村地士 桃井軍八
伊都學文路村地士 平野作右衛門　　粉川村地士 横山彦太郎
伊都丁の町地士 森田久次郎　　那賀赤尾村地士 植田幾三郎

此外帶刀人嶋新七　松本駒三郎　小林吉次郎　宇野六郎左衛門　津田堅藏　山田孫兵衛　總廻り之者九人〇印は四人は頭取にて槍を携へ何れも若黨挾箱草履取召具し總人數百廿人許りと云

學侶年預へ可申述趣

學侶御領分村々百姓共何角願出之品有之人數大勢致登山候に付鎭方之儀御取計御座候ても于今不殘引取不申樣子に相見え候に付此度私共若山へ被召呼役人中被申聞候品も御座候に付人數同道致し罷出候右は登山仕相詰罷在候者共夫々在所へ引取候樣取計可仕哉何にも御差圖次第取計可仕旨無御遠慮可被仰聞との儀申達の上取計可致事

地士四人之者共心得振之覺

年預坊へ罷出候上此度之頭取を召捕吳候樣にと賴も有之候はゝ承知致し頭取躰之者を召捕御渡し申にても可有之哉候へ共右頭取を其元へ御受取被成其上之取計振りは如何被成候哉御手當御作略振り委細承度候と申詰候て其品早々若山へ申越差圖を受尙取計可申事

一此度之儀は學侶方百姓共登山强訴取鎭之爲各罷越候儀に候へ共役人方百姓共願筋有之高野山へ相詰罷在候者共右取鎭方之儀を取計若致强訴寺院を破却致取計を各へ賴申儀に候はゝ其趣を受百姓引取方儀相示候段取計可致事

一百姓共へ可申聞趣

此度願之筋有之大勢催致登山其上狼藉ヶ間敷筋相働候段第一　公儀を不恐仕合不心得千万成儀に候間相願候儀有之候はゝ村々より人數一兩人つゝ願に罷出可然儀に候處兼ての御制禁を背き件之品重々不埒之事に候高野山寺院地頭方は如何樣に成行候ても紀州樣へさして御構之品は無之候得共其方共　公儀之御制禁を破り狼藉を相働候儀は高野領たりとも御捨置難被成品に候此

上強勢を申引退不申に於ては若山表より御人數をも被差向急度御取計可有之候間何分にも思慮致し早々引取候樣可申聞事

一高野山にて取計等之儀追々若山へ注進可致事

十一月

一尙又郡奉行より達

寺領百姓强訴に付地士申合高野山へ罷越取扱之儀先刻申通候其節は品により二字不明頭取召捕之沙汰不及哉ヶ樣に相達候處猶又評議之品有之頭取召捕之儀は一向不及沙汰何分百姓納得引取候樣にと取計肝要に付頭取躰之者有之召捕之儀役僧より相賴候はゝ可致注進候其上にて可及下知候此方より差圖無之內召捕等之取計無之筈

一行人方より百姓群訴致候折柄に參合右筋之役僧抔取鎭之儀相賴候はゝ前段同斷何分　公儀御法度を不恐大勢促し及强訴候段不心得之趣を以得と百姓共を諭し引取候樣に及挨拶其節召捕等之儀迄賴候はゝ取扱同斷

一行人方より願に付地士五六人一兩日中追て登山之筈に申合候て及相談何分靜謐に取鎭候樣に取扱のみに地士被差遣候事に候間右之趣得と示合取計可申事

斯て地士共は强訴之者へ强訴徒黨は御法度に觸れ後日之大罪可懼と下山鎭定之儀再應說諭之處遂に納得追々下山最早一人もなく一山靜謐に歸したる旨九日を以て若山へ報申之處今三五日逗留學侶行人領分內々をも得と取糺可成丈取扱行屆たる上可引取との指命を得十九日迄滯在愈沈靜を見

認め同日下山廿日若山會所へ出頭復命書を出す其略左の如し
今般高野山領村々百姓共群訴仕候に付取鎮之儀被　仰付私共十六人去る六日居村出立同夜五つ時比寺領花坂村にて人數一所に成候上申合登山候處右邊に百姓凡二百人計相見え矢立と申所にも五十人計罷在大門迄內所々に五人七人つゝ集居道筋には梶切等を致し二三尺廻の松木抔伐倒し數箇所にて篝火を焚き罷在候を見受通行之處行學兩派より出家十人計高挑灯にて下乘邊迄出迎右同道にて登山之處大門前にも百姓共凡三百人余群集篝を焚罷在候同夜四つ時比學侶方蓮金院へ到着旅宿仕候
一同夜より翌七日へかけ追々百姓共罷登り大門にて螺貝吹立勢揃仕鬨之聲を上け同日夕七つ時分迄凡人數二千余に及件の猛勢興山寺門前へ押寄可及狼藉躰に相見え候故役僧中罷越取鎮吳候樣との儀に付孰れも申合出懸候處學侶方西光院申候は去る朔日百姓共當山へ押寄諸木伐倒大門內外にて篝火四十九箇所谷上大日堂前にて四十八箇所焚螺貝吹立年預坊門內へ込入雨戶障子等踏破り椽下に有之檜皮等取出庭にて二箇所篝火を焚き鐵炮五十丁計持參候今日も鐵炮持參之噂有之候間其用意にて罷越候樣にと申候付右之心得にて罷越申候處百姓共簑笠抔着致し鐵炮眞木割躰之物銘々所持致し興山寺裏門より押寄鬨之聲を上け表門迄人數充滿罷在候處私共表門より興山寺へ入込玄門へ通り猛勢へ對し申聞候は如何相心得ヶ樣に騷動候哉人數內には村々役人共も可有之一村にて事相分り候者一兩人に村役人差添玄關前へ罷出候樣にと聲懸候處凡二百人斗罷出候付申聞候は其方共　公儀御法度を相背徒黨致し及强訴狼藉法外之取計方不屆至極之事に

候總て願訴訟候儀は定法も有之事に候へは一村にて人數一兩人つゝ申合神妙願出可申之處御法度を背き件之通騷動ヶ間敷致方にては假令願筋道理有之儀に候ても願之品相立不申兼ての御定を背きし御咎めの品も重く可被仰付哉難計其期に至り如何躰相嘆き候共無詮方候願屆候儀は曾て差留る儀は無之候へは地頭へ相願候ても許容無之上は何れへ成共相願候はゝ願筋聞屆け可有之儀候處其方共右躰之不心得にては却て先非を悔甚殘念成方も可有之條此段得と相弁一同引取候樣理害申聞候樣にと申聞早々引取候樣にとの趣申聞候處委細被仰聞之趣承知仕其段總百姓共へ申聞候樣可仕と申候猛勢へ申送り候哉次第に退き候て暮六つ頃迄之内大樣興山寺門前を引取申候

一右呼出し候者共之內より兩人願之由に而申出候に登山之百姓共之內老人も有之今夜村々へ引取候儀難仕野宿仕候ては寒氣を凌兼難儀仕候間地頭方へ止宿仕候樣御取計可被下哉右不相成候はゝ火を焚き候儀御免被下候樣にと申候に付地頭へ止宿之儀は此方取計に可及筋には無之候へ共役僧中へ一應及挨拶可遣候へ共止宿仕候儀相調不申候ても火を焚候儀は諸堂寺院迄火災之儀難計候へは急度難相成旨申聞候處其段受用仕り鎮り候に付私共旅宿へ引取申候

一行人方願之品に付跡より御指登之六人同夜高野山へ到着行人方西高院に旅宿仕候

一同八日殘り居候百姓共又々興山寺へ押寄候模樣に相見え候由役僧中より申出候に付私共兩人同寺へ罷越候處最早門前へ三百人計相集り候て門前にて友喧嘩仕引退き候由にて相鎮候故兩人共旅宿へ引取申候

一同九日行人方より私共へ内談及度との儀に付興山寺へ罷越候處衆監集議中申候は　御國之御蔭を以各方登山之上預御取鎮候段難有奉存候就夫此度之儀百姓共へ誤一札印形取揃申度御承知被下度候樣との儀に付今般我々共登山候は群訴之百姓共へ　公儀御法度之趣を示聞せ引退せ候樣にと若山役人中被申聞候に付罷登り右之計仕候迄之儀候へは只今御申聞之趣受用難成御衆評之上書付等御取被成候儀は御勝手次第と申述候處然は村役人幷頭百姓共一村にて二三人宛留置御座候間右之者共へ今一應御法度を背き不申樣尙示之儀取計吳候樣との儀に付御書付之趣を以猶又右百姓共へ分て申聞候處鎌瀧村長右衛門津川村半六と申者末々之者共被仰聞之趣は迚も納得仕間敷と申候付　公儀御法度を納得仕間敷とは不心得成る申分に候右之返答は其方共指掛り御法度を相背申品に候何村何と申候哉得と名前御聞屆有之樣にと役僧中へ挨拶候處兩人之者重々奉誤候何分御免可被下皆々引取末々迄被仰聞之趣得と申聞せ取鎮候樣可仕至極難有と受用仕引退き申候

一行學兩役僧より申出候は寺領村々之內に此度之儀頭取仕候者五六人召捕置候はゝ彌相鎮り可申其通り取計吳候樣召捕之者共此方へ御引渡し被下候ても沙門之身致し方も無御座候間御國表へ御引取被下候樣仕度段被申候得共右は難相成勿論頭取共を召捕引渡候儀も容易に難相成一向我々共了簡に難及との段挨拶仕候處致承知候儀に御座候

一十三日晩登り居候村々役人頭百姓共を學侶方年預寶光院へ呼出し彌强訴御制禁之儀を申聞猶又十五日百姓共を年預坊へ呼出し再應說諭若し此上にも　公儀御法度を背き强訴に及候はゝ急度

御咎之儀も可有之末々迄得と心得させ可申旨申聞候處御慈悲難有奉存此上心得違無之樣可仕旨申聞候其席へ相詰候碩學集議中もひとへに御影難有仕合之旨申聞候猶又村々内聞をも取らせ候處彌靜謐之趣に付私共引取之儀相伺候處件之通候はゝ不殘引取候樣にと去る十八日御達し到來仕候付何れも申合彼地出立仕翌十九日之夕御當地迄引取申候仍之有増御達申上候以上

安永五年申十一月廿日　伊都郡丁之町村

森田禪助 初四人連印

一翌廿一日登城中之間御次に於て奉行中服部八郎右衞門初例席慰勞挨拶委細言上を遂へく旨被達廿三日一同歸在す

一十二月十六日高野登山の地士若山會所へ呼出され奉行鷲谷武太夫より此度之御用無故障相勤候に付爲御褒美白銀被下置之旨申渡され頭取出張の伊藤八右衞門初四人へ銀三枚つゝ餘の地士へ同貳枚つゝ帶刀人嶋新七初へ同壹枚つゝ被下總廻り九人へは追而鳥目壹貫文つゝを被下たり

以上井畑又十郎筆記及ひ那賀郡滿屋村六十人者井口平四郎の舊記を採錄

按に此一揆の原因は河野庄福田村地士岡本忠太夫なるもの高野僧分下高七千五百石の内にて新田空地竿入の事を唱へ新高千石余打出し其賞として永々三十石つゝ申受度との内願を僧分方聽許により先つ田地に字名付の儀を村々へ申付け六月の比河野左近田地より竿入せんとするに左近應せす此事追々聞傳へし南鄕百姓共憤怒村々頭立たるものとも小前を教唆し八月廿五日南鄕百姓共不殘押出し貝鐘鳴らし立岡本忠太夫宅を破却金米衣服雜具を蹂躙し外二三戸をも亂暴十月四日には學侶下百姓共村々より總代四人つゝ登山年預坊へ免六つ九歩に引下け其外四五ヶ條を强願す折柄澁田村之者年貢納付登山の馬士を三人の暴民途中にて亂妨及ひたれは僧坊西寶院へ三人を呼出し手鎖申付拘留せしかは彌騷ぎ立ち遂に前記十一月朔日の擧動に至りたる也

一安永六酉年正月十二日免定書替へ願と號し又々多人數高野山へ詰かけ歸途西澁田東澁田慈尊院の三箇村徒黨に加はらざる者共破却可致の申合有之旨にて高野山より寶龜院を以て和歌山へ取鎭め方を請願す依て地士妹背佐太郎森田禪助横山幸左衞門西山喜右衞門平野作左衞門脇多兵衞六人之者へ御領分境固め之儀を被命けれは十一日より三人は慈尊院固めとして入江村西の庵に陣所を構へ三人は東西澁田村押へとして嶋村川堤へ小屋をうち出張入江丁の町兩組村々庄屋肝煎人足一箇村より四五十人つゝ火事出立にて村々の幟を建て各手比の得物を持ち夜分は高挑灯を燈し南郷の百姓寄せ來らは早鐘狼烟にて相圖すへし速に馳集るべしと手配をなせり而して日々在々を巡察警戒且探偵を派出せしむるに何事もなく鎭靜之旨追々注進あり此旨若山へ上申之處十六日に至り最早固めに不及の旨郡奉行より達しありたり

一高野山學侶方にては遂に百姓願之如くに免合差許し事鎭靜したれと年々如此にては寺々相續も難成とて學侶方行人方共議の上不得止學侶方總代西光院行人方總代尊勝院の兩僧十二月末に江戸へ出發　公儀寺社奉行牧野越中守殿へ出訴に及ひけれは翌酉年三月四日頭取りの聞えある農民六人の者逮捕せられ手鎖付にて江戸へ送られ尙同月十一日に學侶下各村頭取之者十七人被召捕段々吟味之上五月六月之間に江戸へ被召出の者多く前後附添之村役人其外僧俗も多人數出府九月に至り西光院尊勝院は一旦歸山御差圖により徒黨及ひたる百姓共一同之誤り證印を徵收し再ひ十一月二日出府す然るに牧野越中守殿は十一月廿二日御役替となり跡太田備中守殿掛りにて更に最初よりの儀を逐一取調られ安永七戌年三月又々南郷川筋村々總代其他地士總代等江戸

へ召され糺問の末同年閏七月二日裁許を被命嚴刑に處せられたる者左の如し

高野山行人方寺領那賀郡神野庄市場村百姓　佐右衛門

同　學侶方寺領同郡猿子谷村庄屋　善左衛門

同寺領　同郡猿川庄空室村庄屋　政右衛門

高野山學侶方寺領同郡猿川庄菅澤村　彌市郎

同　寺領　同郡眞國庄蕘垣内村百姓　杢兵衛

同行人方寺領　同郡神野庄津川村百姓　半六

右徒黨强訴之頭取に相決を以於其所獄門に行ふ者也云々

右彌市郎は於江戸處刑其首万年七郎右衛門手代宰領宿繼を以繼送り於居村獄門に掛け其余五人は病死に付捨札のみ其所に掲示いつれも田畑家屋敷家財闕所に被仰付たり

一關係之地士十五人庄屋二百十二人年寄八十四人百姓二千二百九十八人御咎を蒙り地士は苗字帶刀を取上け庄屋は壹人過料十貫文つゝ年寄は同三貫文つゝ總百姓は村過料錢百七十七貫文被仰付過料錢三日之内に奉行所に可納旨

一村々庄屋年寄平百姓等九人之者最初より御觸を守徒黨に加はらざる御褒美として銀七枚庄屋同三枚年寄同二枚平壹人合銀五拾枚被下總百姓徒黨に不加者共一同譽置るゝの旨申渡されたり

太平極りたる世に斯る椿事は元祿五年高野騷動の後絕無なれは彌暴民强勢に募り退せさる時は口六郡の地士を勝りて派遣し續て物頭添奉行大番頭等出張と迄衆議の處　香嚴公には百姓共の揉合に士を遣すには不及地士共之内少々差遣し取鎭むへしとの命ありて如件と也事は　御同公の世記同年之部に詳記す參照すへし

一安永六酉年四月父母帖之事在中へ被　仰出

父母に孝行と書出し候御敎訓之御書毎年在中之者共へ示聞せ候事に付村役人共は右御書寫致所持可罷在儀に候夫に付新役之者共へは右御書寫讓候歟又は大庄屋共より其節々寫遣し可然候間

苗俵献上に依り御訓戒

京橋口へ訴訟箱を揭く

漂流人歸村に付心得の御書下賜

兼て心得居候樣

一安永六酉年六月苗俵と申もの出來豐年之祥瑞の由にて入　御覽候付司農へ御書付御下け被遊
御意に右苗俵を以豐年奉祝賀候に付右札に御下け被遊候とて司農へ御書御下け猶又　御意に上
には猶以御意不被遊思召に候間孰れも彌相意不申樣との御沙汰に被爲在

一安永七戌年若山京橋口大下馬へ訴訟箱を揭けしめらる

訴訟箱之事

有德公以來久しく廢絶なりしか廣く下情の洞達を思召　有德公に倣はさせられ本記の如し箱之
封印は奥の衆預りにて月末每に御小姓頭受取之御前へ差上るといふ

一天明二寅年十一月廿四日漂流人日高郡薗浦沖船頭半十郎初十人を御庭へ召され御覽御酒御菓子等
被下御直々御慰勞且心得之御書付を賜る

日高郡沖船頭半十郎揖取柏村彌次兵衛水主吉原浦文助平助薗浦長兵衛南海士阿戸村七藏忠次郎
十次郎日高田井浦甚藏薗浦濱の瀨松次郎吉原浦彌兵衛等安永八亥年遠州沖にて難風に逢ひ遂に
清國へ漂流本年南京の賈船にて長崎へ護送せられ江戸にて御吟味濟の上御家へ引渡相成依て漂
流の樣子彼地の次第等御尋させ被遊本日本記之通被爲召故鄕へ返し可申迚旅費被下役人をも御
付添伊勢參宮をも御許容尙心得之御書付をも十冊御用役へ御下け能々讀聞せ候樣にと銘々へ壹
冊つゝ被下たり

右御書付全文は御本譜に詳記す其御趣は無恙歸國久々にて父子兄弟に對面互之喜悅如何斗に可

有之か同行之内一人は彼地にて死去之由其者之父子兄弟の悲歎實に可察依て病死せし傍輩の爲に追善を厚く營み其者之妻子眷屬をは自分の親類の如くに心得憐をかけみつき遣すべく又先達て熊野浦へ漂着唐人之内尤廷玉なる者同所にて病死其墓標は周參見浦にあり銘々共唐人の情により一命を全ふし致病死たる傍輩の墓も彼地にあれば定めて唐人より法事等も致し可申旁右尤廷玉の墓へも參り香花を手向け弔をも致し遣すへし是報恩謝德とて人間の道也との儀を御懇に御示諭被遊しなり

疫病流行救治法を頒布

一天明四辰年六月疫病流行に付救治藥方等在々へ左之如く被 仰出

是歳天下大飢饉にて諸國餓死之者多く奥羽地方尤甚敷慘狀言語に絶し加之惡疫流行死亡十万人に及ふと云然るに御國に於ては百方御撫恤盡させられ御領内一人之餓死なかりしと云ふ

當時疫病流行致又輕き者共雜食の毒に當り相煩致し難儀之趣相聞え依之享保十八丑年飢饉之後時疫流行候所 公儀より諸國村々へ被下置候御藥法書付之儀年久敷事故村方にて相失ひ候儀も可有之候に付今度爲御救被 仰付右之趣可相觸との御事 藥法書略御本譜に詳なり

連年凶荒に村御救普請

一天明六午年頻年打續き凶作にて下々困難に迫り候に付御救普請被 仰付

若山市中橋邊より西丸迄の外堀浚被 仰付けれは裏屋住居之老幼共に罷出土を揚取之者相應之夫錢を給ふ老若の人夫共蟻の如くに集り何れも御仁惠を難有かり末々の者大に潤ひたりとぞ

凶年に付米倉開き御賑恤

一天明七未年凶年に付僻遠之在々は米倉を開て御賑恤あり奥熊野へ救米貯藏被 仰付

天明四辰年の比より凶作打續同六酉年は殊に甚しく尙今年も凶作諸國共に困窮に迫り强惡暴戾

質素を本とし國民撫育を盡す

有司に命し勢州熊野を巡撫せしむ

の徒諸所に蜂起し商家を毀ち倉庫を破却世上穩かならさりしが若山にては富家毀たるる者五六箇所の由余國に比ては至而穩之方也しと件之如く米穀不熟騰貴（凡一石の價貳百目内外也世に是を天明の二百目年と云）國民饑に惱む者少からす中にも兩熊野日高山中なとは府下數十里外の邊鄙にて事速には達しかたきを以て府庫を開きて賑し給ひ是か爲に一人も饑に及ひしものなし又奥熊野長嶋尾鷲木本周參見へ米倉建築被　仰付年々貳百石宛の御救米を貯藏被　仰付

一天明七未年十一月九日御直書を以　公邊の御風儀に相隨ひ質素を本とし國民撫育行屆候樣被遊度旨被　仰出

此比松平越中守定信（樂翁侯）御老中に任し幕政振起に付旁被　仰出たる也此時執政よりも添書にて近來上下共華侈に成行御國用も不足無據税斂も重く相成候上風水災凶作等打續き下民次第に困窮に及び候に付追々御儉約も被　仰出下民御救をも被遊候へ共一と通りにては中々行屆不申御書付之通り上にも彌質素御用ひ撫民の儀專一に取計候樣被遊度との　思召に候間御役人一等申合下民を弛め候爲聊にても費ヶ間敷儀を省き何分御仁惠の　思召行屆候樣御代官郡奉行は親民の役儀に候へは猶更廉直に憐愍を本とし勸農之儀相勵み苛酷之取扱無之樣下民潤足不致候ては御國本も固からす敎令も施され不申事に候間右之處能々可相心得旨との事也

一天明八申年四月佐野伊左衛門堀內彥太夫へ勢州熊野巡在被　仰付窮民撫恤等之爲兩人へ巡在被仰付是より先堀內彥太夫儀度々御前へ被　召出御內命有て天明六年勢州白子田丸巡視同七未年にも勢州熊野巡在囲米出來荒救之備へ富國之儀農工商へ說諭御用被　仰付たり

一殖産興業及民治御配慮

一和歌山府内之賤者は過半綛糸を以て生産とする事なれは御救の思召には綛糸發興し下々の助力に相成候やう御配慮あつて伊賀を大坂へ被遣問屋共へ御掛合せ仕入の元にて紀州綛の廣く流行し諸方へ運漕便利宜敷樣之段を被　仰含たり其比迄は和歌山の綛商人二派にて實綿替は本費赶綿替は内證分にて互に其利を爭ひ不和なりしに依て赶綿替をも御免有て手廣に商を融通して無滯故に綛仕事の利自然と發興し在町共御惠澤を蒙りしと也

一琉球芋は享保の比より植付の御世話ありと雖も毒ある物のやうに言習はして食料に用ひさる所御敎諭ありて大に發行し今は民間の常食と成る

按に和歌山縣農事調書に曰く甘藷の本縣に傳はりしは今を距る凡百年前西牟婁郡西の谷村字古町の人安宅川彌六なる者の移植に濫觴すと其初に當りては人皆之を珍重し或は蒸し或は煨て茶菓子に供するに止まりしか數年ならすして忽ち各地に傳播し山間に海濱に到る處栽植せさる地なく東西牟婁有田日高名草海部郡等砂地に於て最も多く栽培し普く人の食用に供し米麥に亞ぐの重要品となりたり概して之を薩摩芋或は琉球若くは眞芋と稱すと云々該書は明治二十年の編纂にして百年前といへは寛政初年の比に當れり（香嚴公は寛政元年薨す）琉球芋栽培の奬勵勸誘は　有德公　香嚴公の時にありし事信翟の傳聞するや久し十寸穗薄にも紀州箕島の商船薩州に往て甘藷の種を持來り箕嶋北湊に植ゆ享保之頃より天下に遍しと記して享保二十年青木昆陽　幕府に建言して全國に甘藷を弘めたるは普く人の知る處とす然るを紀州に傳はりしは凡百年前とするは頗る杜撰を免れすされは享保の度既に移植栽培の奬勵ありしか　香嚴公又本記の如く一層の奬勵を加へられたるなり

一安永の年官命ありて棄地河堤一郡皆櫨を植しめ其實を摘て蠟に製し大に國益と成る今世諸物の價昔に比すれば悉く皆高直なれば唯蠟燭のみは心易く下直なるは處々に櫨を植させられたる利潤に因る也

元文元年有田郡箕嶋村の善吉九州に航し薩摩の國にて櫨樹の繁茂を視其眞種を携へ歸り試植云々の事和歌山縣農事調書の說
大慧公の記に揭る如し而して該書官保護の事を記せさるに非れとも專ら重きを善吉の功績にのみ置きて　香巖公の最も奬勵
あらせられしを知らす善吉の苦辛功勞固より論なしと雖も抑紀州の地たる官有民地の別なく苟も空間の地は官地公道山麓堤
塘皆櫨樹ならさるはなし是れ官の命令訓導に非されば何ぞ如此普及するを得んや十寸穗の薄には黃櫨は安永の比始て之を植
ゆ秋實を結ふこと多し之を摘て蠟となす湯淺製の生蠟と呼ふと兎に角　大慧公の時善吉に命じ薩州より移植せしめられ其傳
法を導く國中に奬勵ありしを　香巖公尙國中に命し益々繁殖隆盛を督勵し興産厚生の道を信策あらせられたるなり

一紀州の女は貴賤となく紡績の業をなす事國初よりの事なりしが漸く盛になりしは此御代の深く
はからひ給ひしによる今はた國産第一となれりその初有司に命せられ專ら木綿種植る事を諭さ
れしかと民もしかく肯わさりしに今は府城の邊りより有田日高の二郡迄も夏毛は木綿種を植る
事になりぬ其外空地間田には土地の宜きをはかりて植る事を敎させ給ひ國中大小の河堤に植付
させ給ひし黃櫨今は森々として其實をとりて其村每の臨時の費を助くる事少からすと聞ゆ

一又才か崎三つ嶋は兀山にて有しか小松を多く植付させ給ひしに是も今は黑みわたりて其木かけ
に魚のよる事多しとそ

一湊傳甫御船藏前川筋砂石に埋もれ中洲と成て入船難儀なる樣御覽ありて川堤井堰の仕方に依て
中洲の他へ移候樣の工夫を考へ諸人目安書にして可申出と御觸ありしに老人共の說に昔淺野家
より御國引渡しの時川役人共申送りに紀之川筋水理は唯天然の自然に任せ可然と昔より申傳之
由御聽に達し是は尤之儀に被思召川普請は不被　仰付候事

一秋毛見は三役立合にて勤るなりとそ三役とは郡奉行御代官御勘定人也此三役各見積りを會して

御年貢の免を定む古法也是は
神祖御創業の時三奉行本多高力天野の三人を被爲用たる御嘉例に依りて國初に御定有之事と云

一御庭へ菊御植させ御自身御作り折々鍬を御遣ひ被遊候て御咄しに百姓の骨折はさそと思召候纔の鍬遣ひに肩も腰も痛み候まして四時の辛勞は夥敷骨折に可有之むさと百姓共を責たけ不申候樣に可仕旨被　仰出

一日高郡薗浦八幡の秋祭に興行けひよん踊歌文句四恩之御譯文を被遊御代官を以村役人共へ御下け被遊

けひよん踊とは元和年中
南龍院樣御覽有之踊の文句に四恩といふ事を御感心被遊しと云是秋八月の祭禮に一郷の老人聚り各長瓢箪をかつき踊るなり歲月を經自然踊りの由來を傳ふるものなく既に此比中絕に及はんとする所ヶ樣の舊き事の民間に傳はりたるはとくに御詮鑿有りて兼て御存置かせられ百姓の樂しみ共可相成儀と思召され下々曉り易き樣四恩の御譯文を被遊四恩之儀人々感得致し候樣にと淳々御代官へ被　仰渡たるなり四恩御譯文及踊の文句共御本譜に詳なり

一當御一世中には孝子義僕旌表百歲養老之事殊に多し其著しき者孝子義僕奇特者三十二人百歲養老八人ありたり皆世譜乃至孝子傳に詳なり

舜恭公

一寛政二戌年十月御直書を以御目付へ御沙汰之內に
於當地（若山也）每々延氣等にも出候事に候へ共右は慰み一通り之儀にては曾て無之作方之豐凶

矢野庄左衛門勢州御代官被仰付

農民之苦樂をも知爲之事に候へば野外にては尙更先を拂候者抔別て其心得無之候ては甚不宜事に候中には心得違ひ農業に拘り候者も叱りのけ其外筵に干有之米麥之類も取のけさせ其主人不居合節は莚を引返し五穀をも地へこぼし抔致す事も折々は有之樣に聞及ひ候へは尙以後延氣等に出候節も在中にては如何樣の風聞致し候哉無遠慮風聞之趣申出候樣可致候不宜風聞も候はゝ猶更早々可申出候

一寛政四子年閏二月二日矢野庄左衛門を大學頭樣より御貰被成勢州御代官被　仰付事は同人傳に在

一寛政八(未)〔辰カ〕年七月伊都郡橋本驛紀之川通船之事を命す

定

一御持之船は不及申他領之船も荷船之分は橋本より上へ一切爲登申間敷候

但し他領之下り船にても荷船之分は橋本にて無相違中次いたし下し可申事

一往來之者船にて上下候もの有之於ては橋本船を以爲致上下可申候に付船之積替候共馬に附けるとも小揚賃抔取申間敷候幷船賃橋本より若山迄壹艘に付銀五匁也

一旅人の上下障り無之樣に可仕候事

右之條々於相背は可爲曲事者也

寛政八(辛未)〔丙辰カ〕年七月　日

大久保五郎兵衛　印

海野兵左衛門　印

安藤忠兵衛　印

戸田金左衛門　印

橋本町年寄中

一寛政の比口熊野太地浦の海中にて枝珊瑚樹を得て奉りしに　公之を　將軍に獻し給へり其後は珊瑚樹の網に繋りし事あれ共海底深ふして探り求むる事を得かたしと也

口熊野安居村鈴木七右衛門暗渠成功を賞す

一文化二丑年口熊野安居村鈴木七右衛門か安居村の暗渠成功を賞せられ地士に被　命
口熊野安居村は地高く水低ふして田園灌漑の便なく常に旱損に苦しむ時の庄屋鈴木七右衛門工夫を回らし寛政十年官の允許を受け同十一年より向平寺山兩村間の山腹に穴し暗渠を穿ち之に續て安居に至るの渠は官費を仰く渠計二十余町に及ふ而して暗渠の成る三分の一にして其費は豫定の三倍に達し衆心大に沮喪し礦徒辭し去り如何共術なし七右衛門毫も屈せす百端辛苦を嘗め或は七日の斷食をなし或は穴中に坐して頭上に香を焚き或は冬日水に入て法華を誦し神に祈り佛に乞ひ以て礦徒を懇諭督勵し私財を傾竭蕩盡する七年之間苦身焦思遂に文化二丑年に至て成功す官の費す所三百八十余兩にして七右衛門私財を擲つ四百余兩總計千貳百余兩にして其他の諸經費は此外也といふ是に於て寺山安居の二箇村水利自在を得磽确變して膏腴となり万世に長利を開き不朽之偉勳を顯す依て其功を賞せられ地士に被命たり事は俊傑傳に詳なり

西名草六箇堰續渠成功

一文化二丑年四月西名草郡船所村六ヶ堰續渠成功す
續風土記に曰く楠見雜賀貴志之三莊は鳴瀧川の西に在て東は船所村より松江村に至り南は紀の川に濱し北は市小路次郎丸の二村に及ひ九十有七ヶ村皆陸田のみに而水利に乏し故に旱天には

水車拮槹田に漑くも尙旱損を免れす雨濕には水潦洩るゝ所なく禾稼浸水年々率ね荒歉民庶生を聊せず船所村中村長左衞門近成なる者深く之を憂へ百端考査之處六ヶ堰渠口は岩手より起りて當村に止れは之に續て水渠を開鑿すれは力を不勞して功易く費用自から省けて利は之に倍せん而して渠水の蓄洩自在ならしめは旱天亦拮槹の勞なく雨濕水潦の患なからん是万世之利也と村民大に悅て其議を賛すれ共頗る大土工容易に官許を得かたしと相憚りて誰願出んともせす逡巡打過したり於是長左衞門單獨身を挺して官府に趨き利害得失を陳し施設方法を縷述し哀訴懇禱誠を盡すと雖とも容易に貫徹しかたく益奮て殆と業務を抛ち日夜奔走家資給し難きをも顧みす熱心に苦請して止ます如斯事三年官許を得たり依て長左衞門其工事監督を命せられたり高低之度曲直之勢等多く其計畫に隨ひ文化二丑年四月にして成功を告け爲に五箇村灌漑の便を蒙たり一後文化十一戌年に至り再ひ工を起し八箇年を歷文政五午年に至て全く成る尙延ひて十二箇村に灌漑する事を得通計十七箇村田反別凡百二十余町歩の用水を開く渠長凡五千三百丈所在永く水旱の患を免ると云長左衞門文政十一子年沒す村民其碑を建つ事は俊傑傳に詳なり

一文化三寅年十月在中節儉の事を命せらる

按するに此年三月堀江平藏を御拔擢御用御取次を命せられ藩政改革の事を御委任あり諸政續々釐革し九月廿八日に至て御家中浮置歩增の法を定め倂せて大に節儉の令を布かれ上下衣食住初男女召仕の制迄布達せらる依て在中一般へも此令ありし也

御家中幷在町衣服之品幷儉約之儀等被　仰出御家中一統嚴重相守候事に候在中之儀は前々より御定之品有之近年度々被　仰出も有之候處兎角奢侈に推移相馳之儀有之趣に付猶又此節別帳之通相改被　仰出候間御定之通堅相守候樣在中末々迄も屹度可觸知事

一地士大庄屋衣服木綿地布はつかう之外堅無用上下之節紬迄不苦夏はきひら麁相成晒紋付に致し可用袴は小倉木綿島夏は葛之類羽織は毛綿麻を可用帯襟等絹迄は不苦

但總領は親同樣二男よりは平百姓同樣

一妻娘は衣服平日木綿他出之節紬迄は不苦帷子右に准し麁相成を着致へし帯襟等絹迄は不苦

一在住之輕き御奉公人御年寄衆家來醫師無官之神主等衣服右同斷

一苗字帯刀人衣服木綿地布はつかう之外堅無用上下着之節紬迄は不苦夏は黃平紋付可用其外右同斷

但代々帯刀人總領は親同樣平帯刀人忰も平百姓同樣

一庄屋肝煎杖突帳書とも木綿麻布可相用候帯襟等紬迄は不苦妻娘も同樣

一總百姓衣類帯襟に至る迄木綿地布之外一切着用不相成筈

一在中に罷在候浪人總領百姓同樣

一百姓總て何事によらす上下着之儀無用に候木綿袴は不苦候

一帷子類麁相成物も無用に致し地布之外一切着致す間敷事

但地布にても麁相成を着可致事

一總て衣類紅紫に染間敷事

一下人羽織不相成候袖なし羽織不苦事

一地士大庄屋之妻子より總百姓之妻子に至る迄鼈甲の差櫛笄幷蒔繪之差櫛笄銀笄は不及申四歩一

杯にて銀色似寄之品其外わけくゝり等一切不相成等

一日傘塗木履表付下駄裏付草履雪踏一切不相成等
　但總領百姓共之儀總て麁相成品相用候樣下人之儀は松檜笠幷麁相成竹之葉笠より外不相成等
　下女之儀は麁相成る菅笠より外不相成等

一都て懷中物幷烟管烟草入等之類銀かな物は勿論銀色に似寄之品一切不相成事

一下人下女御法度之物所持致し候はゝ主人方へ預り可申候

一年頭に罷越之儀其郡々御代官地頭之外堅く罷越申間敷候進物可爲無用候暑寒見廻五節句歳暮等に罷越候儀都て相止可申事

一吉凶に付音物は親類たりとも無用祝儀參會之節親類たり共暫く無用に可致旨此度御家中へ被仰出嚴重に相守候事に付在中之儀は彌堅可爲無用候

一無據用事に付寄合候とも大勢寄合申間敷候及長座に用事之節は握飯持參可申候酒肴堅無用其外給物等一切出し申間敷候

一年頭之祝儀に限り父母之方へ輕き物遣之儀は不苦等右之外は五節句等にも祝儀物堅く取替無用に可仕候其外他人は勿論親類たりとも諸祝儀物幷音信贈答土產餞別堅く可爲無用事

一正月の祝儀幷年頭藪入等之出合隨分輕く費ヶ間敷儀曾て無之樣に相心得可申候親子寄合物給之節親子兄弟孫之外は出合相止め可申候

一召抱之下女へ鏡餅總て年玉に至る迄遣し申間敷候

一家作之儀前々御定之通彌以手輕に可仕候身上宜敷百姓座敷構之家取立候とも床壹つ之外榮曜ヶ間敷普請仕間敷候仕切襖之塗椽唐紙躰之儀相止め澁紙抔にて麁相に可仕候總躰は右之法に准し分限不相應之儀堅く仕間敷事

　但往來筋にて旅人之宿仕候輩は格別之儀には候へ共本行に准し隨分手輕く致し華美成儀は仕間敷事

一聟取嫁取之儀万事輕く可仕候頼み遣し候物地士大庄屋は金子百疋庄屋以下總百姓は右に准し隨分輕く可仕候聟引出物も同前に候右之外は少々之物にても平に取替可爲無用事

一右之節地士大庄屋は木地長持壹棹葛籠壹つ遣し候分は不苦候庄屋以下總百姓は木地半櫃一つ宛又は長持一棹遣し候分勝手次第夫より輕き分は隨分減少に可致候總てゆたん堅無用たるへき事

一婚禮之節立合候親類之儀は從弟迄に相限り仲人は不苦候へ共其餘は壹人も立合申間敷候尤少にても料理ヶ間敷儀は相止め酒三獻之外無用可仕事

一神事祝儀佛事等彌輕く仕一汁一菜之外親類は色着且又葬禮之儀式輕營彌輿等は堅無用之筈尤女葬場へ出し候儀堅く無用に致し忰之外親類は色着申間敷事

一端午之幟男子何人有之候とも家一軒幟一本甲壹つ槍長刀之內壹本右より多く立申間敷候人形等は堅く可爲無用事

　但幟は紙にても木綿にても小ふりに可仕候尤八歳以上は無用之事

一雛之儀紙雛を可用雛道具少々にても漆ぬり箔置は堅く無用に可仕事

一遠方之親類縁者其外用事に付罷越及長座に候はゝ湯漬香の物出し可申候尤酒肴は無用に致すへき事

一在々寺々且那振舞等相止可申候

一辻打并見世物在々へ參り候とも一切留置申間敷候且又箱傀儡等之儀立願にも籠間敷候

一亂舞立花蹴鞠茶之湯揚弓碁將棊三笠附物眞似何者之所作淨瑠理三味線等之類屹度不相成事

一在中男女奉公人給銀近年段々高給に相成候趣に候御家中并町方は此度給銀相定召抱候筋口入之者之外より相對にて召抱候儀不相成候旨被　仰出候在中之儀も右に准し給銀引下け可申候心得違高給を望み候者も有之候はゝ訴出へき事

但所持高少く諸商賣を專に致し候者奉公人多召抱之儀不相成候

一御家中一統麁服を着し供連をも減し候に付途中抔にて下々不禮不仕候樣に可致事

一役人在賄之儀御定之通料理ヶ間敷儀一切仕間敷候尤役人に對し不禮仕間敷候事

右箇條之儀にても費成儀無之樣堅く儉約を相守り可申候尤一村限り村役人共相改若心得違受用不致者も有之候はゝ可訴出候猶役人をも相廻せ候等に付若背之品有之候はゝ吟味之上村役人ともを屹度可申付印形取來る霜月中組々大庄屋へ差出し可申者也

文化三年寅十月

別　紙

口六郡兩熊野とも在中男女奉公人給銀此度別紙之通相定候に付右寫し一通差越候書面之趣可

田丸領廡加江村新池修工落成

同領田口村井關新設

被申合候以上

十一月十四日　　　小坂九郎左衞門

在中男女奉公人給銀此度別紙之通相定候條村々にて口入候者申付右口入之者より召抱候筈若高給を望み候歟又は內々にて給銀定めより過分に遣し候者相知れ候はゝ主從共咎可申付候尤口入之外相對にて召抱不奉公人出來願出し候とも不取上候間村々百姓共へ不洩樣可申聞事

男女奉公人給銀

牛遣ひ男　百廿目より百六拾目迄

平　男　百目より百四拾目迄

布織女　七拾目より九十目迄

平　女　五拾目より八拾目迄

右之通

一文化十酉年勢州田丸領廡加江村長廣谷新池堤防重置工事落成

廡加江村鄕長廣谷新池堤防敗壞村方難澁に付去る申年より來る寅年迄七ヶ年間年々米四拾三石六斗八升壹合を御手入と稱し村方へ下賜の處遂に該堤防重置を命せられ本年落成依て荒地を開起高十二石九斗二合六勺九才を得るに至るを以て御手入高之內拾石三斗五升三合を減し尙一ヶ年丈米三十三石三斗二升八合を給せられ已後御手入を止む

一文化十一戌年勢州田丸領田口村井關新築落成

田口村郷中鍬先荒地芝成荒地多く村方困窮により同村山分注連指村近傍谿間に於て大土工を起し大小兩箇之井關を新築し新溝路を開鑿し本年に至て落成す依て山口と稱する所より大野中村沖と云に至る迄にて鍬先荒地を開墾する事三町五反芝成荒地の開墾三町六反合七町壹反歩の良田此高六拾九石六斗八升九合を得るに至る依て去る申年より寅年迄村方御手當として毎年米六拾貳石四斗四升貳合下賜之分本年切にて停められたり

一文化十一戌年十一月御神忌且御中屋敷御普請御出來之爲御祝儀在中へ免合一歩通り被下町中へ銀貳百枚を賜ふ

赤坂御中屋敷御本殿文化十酉年七月落成若山御下屋敷は本年十一月落成且當十一月於和歌山權現樣二百回御神忌御取越御執行ありたる也

一文政三辰霜月當年畑毛別て凶作にて免貳分御下け被成候處又　大納言樣思召にて貳歩通り米にて被下置候右に付都合四分下り申候右にて畑免貳つ何分に相成る立直五十九匁五分

一文政六未年勢州飯高郡粥見村立梅堰新築落成す

勢州多氣郡古江朝柄片野波多瀨丹生之五ヶ村は郡中之大村なれと其地水利なく旱損多く耕耘之勞一日之を廢すれは草忽ち生し三日雨降らされは塵埃を揚く故に農民力耕を勉むるも輸租足らす足らさる者は村民の賦課せらるる處となる是を以て年一年に窘窮名狀しかたし丹生村里正西村彦右衛門深く之を憂ひ文化年間飯高郡粥見村字立梅に於て障川股川の水を引て堰を作り各村に灌漑せん事を立案し各村長の贊同を得て大庄屋久保六郎右衛門三谷彌七に謀る二人之を官に

飯高郡粥見村立梅堰落成

乞ふ御勘定奉行金澤彌右衛門大に其擧を納れ直ちに允許を得躬ら其事に當り屬吏乙部才助を擧て擔任せしむ才助焦心苦慮文政四年初て起工數里之間山腹之巉岩を堀鑿或は隧道を穿ち或は堤防を築き本年に至て竣功す稱して立梅堰と云堰延長九里強爲に灌漑を得て良田となる者約百六十町歩年々米貳千五百六拾石を得るに至り民大に利を得て澤永遠に流るといふ

一文政六未年五月廿七日名草郡宮組宮堰下の百姓一揆を起し忽ち所在蜂起千萬人徒黨し吹螺鳴鐘竹鎗席旗を携へ里正豪富の家を破却亂妨狼藉を極め進んて和歌山へ迫らんとす官諸有司武術者等を栗林八幡堤且川上邊橋本等へ急發又地士を募りて鎮撫せしむ六月七八日に至て平く

是歳四月十八日大風雨爾後一滴の雨もなく五月十五日夏至に至るも植付成らす農民狂氣の如く晝夜水番雨乞に奔走し官吏は山川神佛に祈り五月廿一日遂に風木を持巡らしむ（風木とは天守閣に秘藏しあるものにて旱魃の時出さるれは必す功驗ありといひ傳へり）るに僅に其驗しありしも所謂塵押へ位に止り益々照り續きたれは所在人心恂々之折柄突然此騷擾に及へり國初以來封内人民蜂起の事前後更になく（高野騷動は度々ありたれ共他領之事也近世奥熊野木の本浦に兩回起りたれとも僅に一村の事也）唯此一擧のみ而も天災の巡行如何ともしかたし事頗る人口に膾炙するも筆記のものなく古老既に物故今や事實を知るものなし偶々廢紙中に左の筆記を得たり是吉原村の農某正しく其當時に記する處不文冗長見るに足らさる如しと雖も時の眞相視得て明かなれは煩を厭わす拾錄す漸く六月八日に至り其晩より晝四つ時迄十分の降雨ありて彌鎮定せりといふ

一此旱魃は伊都那賀名草海部にして有田日高熊野邊は降雨ありたるよし米價騰貴名草米無替直段

一石六十四匁なりしとぞ

一或人の記に五月廿九日　大納言樣より思召を以高札にて今日迄毛付出來不申田地は御赦免之旨立札にて觸廻りたり則左の如き立札なりしと

百姓一奇談

頃は文政六年癸未卯月より當國旱にて御上よりは天に祈り地に誓ひ諸寺諸山に御祈禱遊はされ農家の民は天に仰き地に俯して高野山の火ふり御日待百度參りはさらにして山上の釼雨の木御出し遊はされても天一滴の雫もなく水田は終に白畑となり廣野の草は枯果て寔に歎きても余りある旱なり紀の川筋小田井下藤崎井にて關込し故紛川前の流れ帯の幅の如く藤崎井關下は石を敷傳いて渡りても足のぬれさる事は昔より聞かぬ事なりと老人達も申あへり

宮鄉總一揆之事　附り小倉組宮鄉打合之事

五月下旬宮鄉六万八千石の下の總百姓二万人余徒黨を催し早鐘大鼓法螺を吹立總百姓を集め評議致しけるは川上は小田井藤崎諸々方々にてせかれ下は六ヶの湯小倉湯又は分水に堰し故宮湯

は白河同然なれは先六ヶの湯を切落しさあらぬ時は植付ならずして宮郷の百姓皆餓死す一生掛命大事の所なれは面々心を一致して六ヶ井關を切落さん万一妨致す者あれは竹槍にて田樂さしに突殺しもしも叶はぬ其時は畔を枕に打死にせんと剛氣日比に百倍して鬨を作て太鼓半鐘法螺を吹たて雷の如く鳴神村へとつと押よせ庄屋市右衛門の家財衣類俵物建具造作迄鳴神の裂たる如く引裂打砕き勢い猛に面々氣儘に岩橋村庄屋清右衛門方をものもいわせす散々亂妨し次に汐のさす如く星屋村津右衛門を打砕き道々荒々荒廻り流星の走る勢いにて難なく六ヶ井關へ取掛り面々鋤鍬追取てをめきさけんで思ふ存分切落しこゝちよしと鬨を上け是迄權威權勢にて水流通にさせさりしに小倉組大垣〇〔不明〕の庄屋西川喜右衛門こそ心惡し叩き砕て仕廻んと總勢押寄散々に打砕く小倉組の百姓とも是を見て大庄屋を砕かせては組下の者も後々鞭拔と云はれ笑れんいさ大庄屋をすくへと大勢揉にもんで馳來る宮郷方は味方の加勢と心ゆるして亂妨する内小倉組敵間近くなるやいな鬨をとつと作り立宮方の後口より遠慮なく突立れは宮方は不意を打れて敗走すれば小倉方は得たりかしこし一人も余すなと勢ひ懸けて無二無三に突立薙立追立れば西川も加勢の多勢に力を得て内より突出て勢いこんで打立れはまたゝく間に廿四人手を負し三人は突留たりされ共宮郷方は眼に余る大勢なれは大通に取て返し新手を入かへ小倉の横合よりまつしくらに打立れは小倉方は替る味方も有らざる故勞れ切て散々に逃吼る宮郷方は人々いかり手向いする奇怪なり猫の子も殘すなと怒氣含て總勢か家財衣類俵物造具玄關長屋米部屋迄殘さす亂妨仕盡して夜もほの〳〵と明る頃勝鬨揚て總勢か在所々々へ引取しはをそろしける形勢なり

此一件若山より御役人大勢御固めにて靜謐にこそ治りけり廿七日は邦安社御祭禮にて若山より檀しりねり物廝子立て參詣群集多く御神樂上け賑ひしに早鐘太皷の音に驚き日暮ぬ間に早々若山へこそ引込○○（二字不明）右一揆押へとして秋月村神宮寺へ在方御役人大勢同村内は海士名草那賀三郡の内地士衆御勘定同心衆なり晝の間は大岩谷虎木南關邊を打廻り夜は秋月村より鳥井前迄松明高張白晝の如く立て並へ御詰被成翌廿九日廣瀨庚申堂へ引取六郡御代官衆支配勘定衆地士衆御勘定同心衆鐵炮方御先手同心衆並捕手の者數十人田中口庚申堂二手に相固め軒別高はり辻堅め嚴重にこそ見へにけり六月朔日事故なく靜謐致し右御役人御引取にて先は目出度姿也

龜池掛り一揆之事 附り紀三井寺周章之事

五月廿八日龜池掛り總百姓毛見内原岡田紀三井寺村總勢二千余り一揆を起して且來村庄屋七藏太田村孫三郎同村楠右衞門藥勝寺庄屋與三郎の家々を打碎き金銀米錢衣類造具に至る迄井戸へ投込み水田へ突込雪隱へ打込散々に亂妨し小野村庄屋十次郎も打碎けと總勢段々に押寄る十次郎方は前々より山中筑後守殿御屋敷出入に成御屋敷より百人計加勢に所々に鐵炮相構へ今や遲しと待とも知らす太皷法螺貝を吹立井堤傳いに押來るを比合よしと横合より持たる鐵炮を筒前揃へ打立れは一揆の總勢肝を消し打殺されては叶はすと湯の中へ飛び跡をも見すして迯けたるはこゝちよかりし形勢なり此時紀三井寺大庄屋宮本楠右衞門總勢を押へんと出張致されしか存外の大勢なれは取鎮もなり難く紀三井寺へと皈りし跡且來本渡り太田藥勝寺の百姓大に怒り紀三井寺役人出張しなから斯亂妨狼藉致せしこと無念なり此方より押寄て大庄屋を初め紀三井寺

中片はしより打砕ん總勢を集よと早鐘太鼓法螺を吹立紀三井寺へと打寄る注進にて紀三井寺中は上を下へと打かへす早鐘撞立總勢を集め無勢にては砕かれん加勢頼めと毛見内原岡田三嶋口原廣原より追々集りて數万人になり竹槍鳶口引提て本坊より紀三井寺中四方の口々手分を定め遠見を出し手足まとひの老人子供は鹽津清水浦へと舟にて追やり今や來ると待懸れは四ヶ村の總勢も紀三井寺に防戰の用意要害堅固と注進故に迂濶にも押寄せす太鼓鐘にて日を送り四日の間白眼合造用潰と見へにける城下より御役人大勢出張遊はされ此騒動事故なく治りしは兩方の仕合と後々思ひ知れたり六月上旬山東村々近在の百姓徒黨を起し宮郷龜池掛り且來本渡り多田藥勝寺の者とも我々をまゝ子にすることそ殘念なり此方よりも押寄せ夫頭を打砕き手並の程を見すへしと兩三軒打砕き既に大騒動に及し處若山より御役人天野孫惣殿御出張にて事無く靜謐に治りけり

北島郷大騒動之事 附り諸役人衆宇治川へ出張之事

六月四日北島郷の百姓大勢集り宮郷より切落し候六ヶ井關留めなは北島の水田白畑とならん六ヶ井を關留に行んとて面々俵を用意して大勢集めんかいか成る趣意か有けん庄屋を散々に打砕く大騒動になりしを梶取大庄屋南河長五郎并庄屋兩人内々御評定所へ訴へけるは右の内伊右衛門其外五六人召捕なは此騒動事なく治らんと注進致せし故評定所より過急に廣瀬牢番頭又五郎捕手の者三四十人余北島へ馳付伊右衛門其外五六人召捕飯るを若い者共是を見付大に驚き早鐘を撞立れば北島郷の百姓追々馳付數万人になり捕手の者を追懸け矢庭に生捕を奪返して捕手の

者共を竹槍鳶口にて散々に打倒し川中へ叩き込打立薙立追立ればあたかもぬれ鼠の走るか如く逃去跡に又五郎見付られては一大事と驚き駕に打乗り身を隠して逃去るを大勢に見付られ駕内より引ずり出され鳶口にて眼鼻をわかず打倒し半死半生の目に合せて舟へ打込追立ければ又五郎は命から〳〵逃去たり此騒動追々手負より注進故廣瀬の穢多とも是は〳〵一大事の又五郎打せては叶ふまし面々加勢をせよと得物を引提けて八九百人宇治川さして詰かけたり御城下には今にも北島より押し來ると大騒動になりし故御先手組御役人弓鐵炮にて宇治川へ出張し渡らは打んと待懸たり北島方は北島堤より直川邊迄一面に狼烟を上け太皷半鐘を鳴し法螺を吹立白眼合て夜を明す明れは五日御役人大勢出張御取鎮めにより次第々々に引取しが評定所へ内通せし長五郎の憎さよと叩き碎て仕廻んと總勢梶取長五郎宅へ押寄せ無二無三に金銀米錢衣類俵物建具打碎き鬨の聲を上けて引取る是亦御城下より御役人出張にて靜謐に治りたり

右の伊右衛門は北島を逐電し泉州堺に隱れしを六月下旬に召捕入牢致し八月下旬同時六人御仕置に相成たり

中山村騷動之事 附り御役人粉川へ出張之事

六月六日粉河村打田掛りの百姓六十人計中山村祇園の森へ集り水を盜みし治右衛門を糺明せんと色々評議有しを中山村庄屋右六十人之内よりも兩三人の扱にて少しの過料にて事濟之樣子になりしか酒狂に有けん五十人計森の中より中山村へどつと押寄せ無二無三に治右衛門の家財を押碎き祇園の森へ引取て暫く英氣をやしない太皷を叩き法螺を吹き又中山へ押寄て庄屋忠次を

始め十二三軒計打碎きぞんしもよらぬ大騷動になりしを粉川村役人出張して漸是を制し若山へ注進致しける故湯掛御役人三十人急着致し七日晝時兩三人を召捕其夜若山へ引渡し入牢致し七月十三日何事なく御免にて出牢致しけるは難有かりける計なり七日晝時御勘定同心多勢にて馳登り總御役人百人計にて粉川を堅め晝は多勢にて町々を打廻り夜は高張提灯突棒鐵炮并鐵棒にて嚴重に固められしか八日比より川上名倉大野兩村騷動の由聞へしかば九日に川上より急に注進によつて御役人大勢にて川上へ出張致されけり

伊都郡總一件之事 附り所々家破却之事

六月八日頃名倉大野兩村百姓初は百人計徒黨にて米屋酒屋兩三軒打碎き騷動になりしか間もなく諸々方々蜂起して大勢集り二千余になり一手は川向へ渡り入江村高安三十郎を打碎き學文路にて紋右衛門を打碎一手は橋本へ押登り又徒黨加はり恐多くも橋本御仕入方役所を打碎き夫より戀野大庄屋田中助三郎方へ押寄せ家財衣類引裂き打碎き俵物藏は燒捨けり是より上は大和境待乳峠細川谷より紀伊見峠橋本近在谷内橋谷奥菖蒲谷奥嵯峨谷迄役人の家々殘らす打碎き橋本にて土出屋四平畑屋平兵衛同甚兵衛山家屋彌右衛門東屋一色小十郎同直次郎堀口平右衛門岸の上才右衛門野村毛綿屋助五郎同文右衛門文二郎足袋屋左十郎河内屋十次郎其外四五軒打碎き在々所々を荒廻り總勢數万人押來注進波のうつ如く追々名倉へ掛來れは名倉中は上を下へと立騷き老人小供は泣さけひ北よ南へとうろたへ廻り如何はせんと周章ける村方大勢を駈集め村内へ亂入ては微塵とならん東口へたて向ひ兵粮にて防なは上道へ通るべしと家々の飯を運ひ床几に

居て握飯を山の如に積上けて今や來ると行きつ遠見を出し待居處に伏原米屋傳兵衞名古曾辻田善兵衞米役吉原松岡打碎き追々名倉東口へほの〳〵頃に押來れは待設たる握飯惜けもなく不明遣ふ心を配り氣を碎き種々手立を盡せとも數万人の事なれは途方にくれて居る折柄氣のきゝたる若者四五人かけ來り嵯峨谷河迄大勢役人出張して鐵炮槍にて先勢の百姓を打殺突殺死人山をなす早々加勢致されよと呼はれは徒黨の大勢それ討すな加勢をせよと竹槍鳶口取直し勢い込んて嵯峨谷川へ逸散に掛行くに何事もなかりし故大に怒り扨は謀計に乘たるそ立戻て名倉を微塵に打碎けと又々總勢押戾り辻本屋文二郎寄屋善兵衞山家屋久兵衞同藤兵衞西飯降屋長兵衞宇野屋彌兵衞大野泉屋庄右衞門の家々を打碎き嵯峨谷河へ來りし處在方役所頭取にて暫し猶預居たりしか總勢の內より一人名乘り出御役人へ何角御願申上候故御役人も色々利害を申聞せとも數万人の口なれは惡口を訇り狼藉すへう見へし故是非なく御役人も若山へこそ皈られける徒黨の總勢此內にと村々に着到し村次の半鐘を村々へ追立しに不思議や名草郡へ其日着し園部村より評定所へ出しけり總勢太皷半鐘法螺を吹立て中飯降へ來りしに酒屋伊兵衞は酒と兵粮を出し總勢を休めしに酒握り飯を十分にくらひ腹へらしに打碎けと伊兵衞方の家財衣類俵物建具酒藏迄散々に碎き恩を仇なる仕方にて無慙なりける形勢なり人形屋忠兵衞森水屋平右衞門步頭木下藤右衞門妙寺大孫一統丁の町森田久右衞門駒三郎角兵衞大藪万屋藤兵衞大谷酒屋茂右衞門油屋總兵衞富貴屋左六一字不明村加勢田大庄屋田中元右衞門酒屋利兵衞米役松屋新吾長野屋幸助中野屋文兵衞在々所々を打碎き穴伏迄下りし處笠屋源七方には昨日出張の御役人大勢にて相堅め總勢を喰留

めんと力み返て居たりしか總勢背の山尾先へ來るや否存の外の猛勢なれは大に驚き力味し腕も痿きかへり若山へこそ皈りけり此時四郷谷より大勢馳加り徒黨の總勢幾万の數しれす是迄は撰砕きの體なりしか穴伏よりは家の大小貧福の別なく散々に打砕き鳴海酒屋庄太郎茜屋喜兵衛穴伏笠屋源七庄屋長四郎龜屋利右衛門長野屋利兵衛其外都合十三軒余を砕きけり

粉川村騒動町々破却亂妨之事

六月七八日比より川上騒動粉川評議色々にて初は川上の大亂容吹風と思ひたりしか十日早朝川上より押來る注進故粉川も周章の心なりしか折から穴伏迄押來し注進名手にて米屋彦十郎布屋新二郎同新宅山崎屋吉五郎谷口屋又左衛門大嶋屋彌兵衛大和屋三十郎萬屋利兵衛家々を打砕き總勢宮山へ相登り平山村より運送の兵粮にて英氣を養ひ名手川迄來りし處若山より御役矢野仁左衛門殿立向ひさま〲利害を申聞せとも一向に聞入れす手向ひと見へし故粉川指て引返す徒黨の總勢鬨を作り太鼓半鐘打鳴し下丹生谷菊助高野辻庄屋半兵衛吉野屋治右衛門小間物屋藤右衛門を打砕き總勢押來るとの注進に粉川中大騒動となり家財衣類を持運ひ老たるを扶け子供を抱へ岸本山秋葉山へと迯登り周章目も當られぬ形勢なり總勢太鼓半鐘法螺を吹立井田長堤迄押來り先勢はや前田小間物喜八竹屋一郎兵衛打砕き韋駄天走りに押來り先勢百人二百人と絆縮緬の襷をかけ竹槍を持嶌口にて打かたけ雲霞の如く群りて店なる酒を打返し是を手初として格子戸障子家財衣類等迄引裂打砕酒藏へ込入て六尺桶の木口を抜き余程の酒を流せし故村中へ溢出て大夕立の如く軒並に段々打砕くは玉屋藤右衛門爐屋次兵衛きせるや六郎右衛門絹屋善藏遠方

屋惣七萬屋伊兵衞倉屋善兵衞駒屋常三郎は兵粮場所と成たる故何事もなく遁れたり大豆屋喜右衞門塩屋平吉正木屋平兵衞同彦右衞門米屋平藏有本彦兵衞田邊屋新四郎同利兵衞古手屋十藏田邊屋音八同安兵衞桶口屋勘右衞門米屋善四郎阿波路屋利兵衞等を散々に打碎き根來海道へ向け一手は鳴尾屋へ押寄て家財建具玄關より座敷廻り書院床の間違棚迄打碎き又酒藏へ込入て余程の酒を流し家々の井戸の中へ酒氣潛り濁りて四五十日の間飮るゝ水もなかりしなり粉川にて六十軒余り其外手負ぬ家もなし粉川へ入込し總勢は本海道筋山手筋兩所より打込し故幾千万とも計り難き徒黨にて或は飯を喰い酒を飮み或は衣類を奪ひ店先の物を奪ひ亂妨狼藉筆にも言葉にも演へ難し町中は破却の建具家財衣類簞笥長持俵物死等山の如に積重り往來寸地も明所なし總勢徒黨の內より數十人大音にて人足を出さぬ家は打碎き燒捨んと言罵る故燒れては叶はしと是非もなく出行たり粉川村は前々より人氣至て剛强なる所なりしに斯迄心臆して散々狼藉に合ふたるそと思量するに一味同心致なは何事も有間敷と大に油斷したりし故惡黨原に傍若無人にあふたるは寔に殘念なり兼て防禦用意致しなはやはか防かて有へきやと皆々無念含みしも六日の菖蒲と笑ひけりとそ

一徒黨の面々人足駈り立る故總勢彌增まさり粉川よりは二手に分れ一手は鳥居坂より本海道へ向ひ一手は根來道より中海道へ向ふ總勢幾万の數知れす稻麻竹葦と立並ひ鍾を立る透もなく太皷を打法螺を吹き半鐘をならし風呂釜又は銅たらいを叩き其音こたまに響き渡り亂世も斯やらんと前代未聞也と歎かぬ人こそなかりけり此夜は粉川中ひつそりと靜まりしん〳〵と物凄くそよ

吹風も畏ろしく明日こそはと待兼けり大門柱に
父母のめぐみにためた金銀を
たのもしげなく砕かるゝ身や

那賀郡一揆在々破却器財燒捨之事

鳥井坂より向いし總勢數万人太鼓法螺半鐘を吹立竹槍鳶口立並ひ枯野の薄に異ならす大洪水の溢るゝ如く松井村は粉河より取付故家々不殘打砕き三字不明を曾和半兵衛島村彦太郎安兵衛田村茂右衛門彌兵衛上田井村米役野口喜兵衛谷の常次郎こん屋兵藏黑土村大和屋源兵衛油屋利兵衛阿波屋宇兵衛家々を打砕き家財衣類俵物建具疊迄藤崎井へ打込投込段々押下る打田村よりは高提燈にて山王の森へ出向いにて千田友右衛門焚出しの兵粮を持運ひ總勢を休めし故友右衛門方は何事なく總勢此所へ段々集り提燈明松星の如く所々にて狼烟を上貝鐘太鼓打立る音打田村中米搗音遠近へ響渡りて物凄く總勢村々を追立る故次第に水か增す如く上野村へ駈付て專助五郎右衛門を打砕き酒長伊七を四方より追取込み家藏を打砕金銀錢米家財衣類簞笥長持建具造具酒桶迄散々に燒捨しは眼もあてられぬ形勢なり

一按に當公亦能く利用厚生に御心を被爲盡殖產興業の事御熱心にて苟且之御慰にも京都より職工を召し國中に於て金欄純子縮珍等精巧の織物を織らせ美術を奬勵又陶器師西村善五郎了全同保全吉兵衛の輩を召し染付物永樂燒乃至世に有名なる交趾寫則偕樂園製と稱する御庭燒なるものを創始せられ又享保九年の比若山鈴丸の十次郎瑞芝燒陶器を製する皆　公の御奬勵による交趾燒の如き後世海外輸出品中著名の一位を占めたるは全く　公の御遺澤によれるなり此他民治上の美治良政枚擧に堪へさるへしと雖も筆記の存するなく叙述の方なし

男山陶器製造工場を設く

一文政十亥年十一月廿五日有田郡湯淺組井關村利兵衛の請願により男山陶器工場を湯淺廣八幡社境内に設立を許さる近郷及甲山の石を以て陶磁の資となす事は郡則第十五巻郡制第十五産物誌第一に詳なり

六ヶ堰を改修す

一天保六年十一月那賀郡岩出村六箇堰の改修を許さる

紀伊國名所圖繪に曰く此堰口旧廿間計下にありしを屢洪水の爲に破潰するを以て天保六年十一月官許を得て今の堰口に改む此地下嵓石にして容易く堀抜事あたはす依て數万の人夫を以嵓石凡十五間はかり穿ちて堰口とし遂に万代不易の大堰とす 信嘗て此堰を一見し改修の人夫に加はりしといふ村老榎本喜助の話を聞くに堰元川縁に添ひありしか日高の人白井久藏なるもの尾張の石工某伊勢彌見の堰を成功したるより雇ひ來りて改鑿せしむ如此岩石を唯のみと鍬にて穿ち堤下を貫通して内川となし翌年春に至て成功す費用は井下の村々より支辨す白井久藏は此功を以て七石貳人扶持を賜りたりと語れり一つの器械なく堅牢無比の大盤石をよくも斯く洞貫したるものと徐ろに感歎に堪へさる也紀の川筋大小の堰十有余中六七十年間の久しき一回の修補も要せさるは實に此一堰のみと万代不易の大堰とは眞に誣言にあらさるを信するなり

窮民救助の爲土功を起さしむ

一天保八年五月窮民救助の爲め救小屋を建て病を療し粥を施し川浚の土功を起さしむ

紀伊國名所圖繪に曰く天保七年五穀不熟翌年に至り米價益高直賤民飢餓に迫る加之疫癘流行道路に倒るゝ者多し官此を憂ひ茅舍を建て病を療せしめ或は巷衢の便によりて粥を施すといへとも窮民猶絶へされは更に川浚の擧あり湊川口は年々に埋り通船の便りよろしからす故に其窮民をして土砂を堀り地を築かしめ其用度を與へて餓を救ふ此擧五月中旬より始て九月上旬に到り人數は老若男女すへて日々數千人に及へり築地の廣袤南北八町許東西一町に過すと雖も海潮の

衝る處なれは水底の淺深定まらす役民多くは氣力微にして脛弱けれは土砂の運ひはか〳〵しからねと多勢なるを以て遂に其功就れり實に救荒の大擧といふへし其後漸く宅を築き魚市の場とし運送も以前に倍せり

此築地は湊川口にありて南は大雁木の波塘より北は城山の波塘迄の間をいふと云々牛町及ひ加納町等の地なる由

憲章公

一弘化四未年六月勢州松崎浦海面藻草取場の件に付藤堂和泉守領分曾原村の者と爭論起り急報江戸に達し吟味の事あり公訴に至りたる也裁決不詳從來津領とは動もすれは衝突のことありしか　顯龍公の御代には彼れ手を收め居しに御代替り直に此事ある御威光も變りたり抔時人囁きたり

昭徳公

一嘉永三戌年十月廿三日　一位老公の御旨により在町救助旁和歌　御宮御旅所處替工事を起さしめらる

和歌御旅所幷道筋風波の節は毎々破損有之處近年米穀高價にて下々難儀の趣旁御救之御趣意を以御場所替普請被命依而在町老若男女に限らす困窮の者共出役相働かせ相當の賃銀取らすへしとありて此節より起工翌年四月落成同十五日右御旅所裏道へ架橋新造不老橋と可唱と仰出されたり

大船製造費在町へ日錢を賦課す

一嘉永七寅年十一月廿日爲大船製造費在町へ日錢を賦課せらる

異國船渡來一條に付大船製造之儀　公儀より被　仰出に付ては莫大之御入用に付無余儀紀勢在町人別男女共日々積金いたし上納可致旨被　仰出

御領分寺社へも五箇年積金上納被　仰出いつれも返金之儀は大船製造之上運送之料を以て追々可及返却との旨なり

一右日錢は在町一日一人壹厘つゝを積み雲蓋院は一日百錢大智寺陽照院紀八德主は同七拾錢つゝ養珠寺報恩寺は同五十錢つゝ其外宮柄寺柄により五十錢乃至拾錢と申樣に寺社格合に寄り差等を付し又社寺内に社家末寺等多有之筋并宮寺により納り物等宜敷所は余計に可申付と被達たり

此時御家中へも存寄次第金銀及製造品上納可致旨も布達あり此事大に在町の人心を損し世評紛々非難囂々得る所僅々たり後万延元申年七月に至り悉く還附せらる

水野執政依願公私地村替熊野木本の村民蜂起

一安政二卯年三月五日御家老水野土佐守内存に寄り同人有田日高郡之内之知行所と熊野之内并本宮組之内御領知と村替被　仰付奥熊野村民不服一揆を企事終に息む

土佐守領分有田日高之内五ヶ村と公領奥熊野之内十二ヶ村本宮組之内十一ヶ村と領知替へ被仰出たる也詳なるは當公の世記に記する如し

一此時　公御年僅に十歳水野土佐守は御補佐之任に在て政權全く其掌握に歸し威權赫々たり又村替之如きは往古より無之事にて奥熊野木本浦之人民今更官の直轄を離れ新宮領に隷屬するに激

田邊領の口前所五步通にて受負しむ

濱口儀兵衛の善行を賞す

昂し大に不平を抱きて不穩也御代官等百方說論を勉むれ共毫も承服之色なく遂に一揆を企六七百人同浦極樂寺へ屯集竹槍席旗若山へ押出すへき勢いとの事より御勘定奉行尙出平左衛門出向ひ鎮撫を盡すも行屆かす江戶在勤之御勘定組頭吉田庄太夫江戶政府之內命を受出張盡力江戶へも數回往復年を追て事漸く鎮靜に至れり蓋し村民の素望を達せしめて事停止に至りし也是を以て村民庄太夫を德として吉田大明神と題する旗幟を立てゝ歡喜踊躍したりといひ傳へり

一安政二卯年八月廿五日御家老安藤飛驒守領分田邊領浦々口前所之儀是迄五厘減にて受負候處猶內存之趣無據旨にて向後五步通りにて受負可申段飛驒守へ被　仰出

年に寄猶口銀漁師には五步通より內場にも上納との事

一安政三辰年十二月有田郡湯淺組廣村地士濱口儀兵衛の善行を賞せられ獨禮格を賜ふ

儀兵衛家世々豪富之處諸事質素を守り村方困窮者を救助十ヶ年已前より村中難澁之漁師共へ漁船網共仕入遣し專ら浦方潤澤を謀り嘉永七寅年十一月五日津浪にて村中人家百軒許田地と共に流失し死亡者二十六人有之村民立退之世話行屆漁師共住所は勿論網漁具不殘流失難澁之處右漁船二十八艘網道具共元の如く儀兵衛より仕入遣し猶又近浦困窮之漁民を救濟し前段より當時迄仕入遣したる金高凡九十八九貫余出金高尙津浪之當時窮民共へ衆に先たち差出し米二百俵を救台爲に同村濱口吉右衞門初三十四人程よりも各救台此米四百五十俵余銀八百四十目を義捐に至る又儀兵衛は窮百姓の可息にも住所普請之者へは銀二百目三百目程つゝ足し合救助此入用三〆四百目程出金す元來廣村は土地低き處に付以後之變災を恐れ他に轉居せんと企候者不尠を儀兵

衞は丈夫なる浪除け土手を築立再ひ高浪之患無之樣可致に付安心致し居候樣段々申諭し村役人共と協議出願許可を得て遂に足巾十五間七分高さ二間半上巾凡四間程之波除堤二百間余を建築此費途之内へも吉右衞門兩人にて銀十六貫五百目を寄附す且建家五十軒余を漸々取建極難澁人へは無料にて貸渡し又は普請料十箇年賦返濟にて住居致させ此入用高凡四十二三貫目を出銀す此外道路橋梁の改築村方子弟の敎育を初め万端村方の世話至らさるなく一意に民利公益を謀り私財を吝ます種々多額の金圓を義捐寄附擧て數へかたき旨御代官より具狀す依て安政三辰年十二月廿日左之通り賞せられたり事は俊傑傳に詳なり

兼々心得振宜敷且村内世話等行屆厚骨折候付獨札格被　仰付候

當　公

慶應二寅年四月御勘定奉行より布達

一金銀貸借且山林田畑家質等にて金銀貸預り金銀等返濟借筋年數相立借主貸主且證判人等及死失孫之代等に相成及出願不都合之者も有之取扱差支候間向後公邊奉行所御振合に准し十箇年過候證文を以願出候筋不及取扱害

但十箇年に及ひ候筋は新證文に入替候樣

上け紙　本文之通にはは候へ共賴母子連中にて家質等差入集銀借貸之儀等最初より數十年相掛り候約定之筋は十箇年に及ひ候共證文改替には及申間敷事

慶應二寅年八月

一近年男女奉公人共風儀悪敷就中過當之給銀を貪り主家之用事使之多寡且己か意に適ふ否試んか爲腰人とか唱暫時身入いたし其間口粘して意に不適候はゝ暇を取候者多分有之哉に付向後召抱之節は先主人へ差支有無聞合先方より暇を遣候譯柄委細に申答候得は奉公構となく自然其者之善悪邪正も相分り悪敷者は奉公先も狹く成行候に付ては前條悪弊も相止可申候に付以來召抱等之節は其主人々にて能行届候樣可致事

上け紙　本文之通奉公人口入共へは町奉行所より嚴敷申させ候筈に候事

慶應三卯年八月九日町奉行より布告　質規則之事は御仕入の部にあり

一質利足之儀元株之者は月貳割以下新株之者は壹割半以下夫々可成丈け置主相對を以薄利にて貫渡限月之儀は十五ヶ月にては置月に寄三ヶ年にも相渡候儀に付以來十二月限り勘定致候樣質屋共へ申付候に付若背き過當之利足取候者有之候はゝ其品可訴出事

右之趣御家中屋敷長屋且地組に罷在候者共へ心得させ候儀御目付へ申合す

同三卯年十一月晦日御家老より

一他所者取締之儀在町へ嚴敷被　仰出候に付ては御家中之儀も向後他所者家來に召抱之儀は勿論長屋等に差置候儀如何樣之請人有之候共堅不相成候是迄召抱有之家來幷長屋等に差置候者嚴敷遂吟味怪き躰之者有之候はゝ取締置早々其筋へ申出勿論疑しき儀及見聞候はゝ早速可申出候若不行屆之儀有之候はゝ屹度御沙汰有之候間不取締之儀無之樣可相心得事

一慶應四辰年八月十三日養蠶奬勵之爲め　御簾中より封內一般へ桑苗御下附御家老より左之通御勘定奉行へ達す

養蠶之儀　御簾中樣御世話被爲在度御家中幷在町へ桑苗百万本被下置候間夫々致配當植付幷培養骨折致世話頓て養蠶盛に開業致し候樣觸達等之儀御用人町奉行申合宜被取計事

一按に　從來之制桑高といふありて田畑にひとしき免を付せしは却て桑樹の繁殖を豫防の意なりしか夫に不拘海國は桑樹不適塩風を嫌ふ杯謬傳の頑習に制せられ本記の布達あるも兎角不振の傾きありしか後世況に伴なはれ漸次桑園行はれ明治十八九年の比より追々隆盛に至り殊に那賀伊都兩郡之如きは非常之長足を顯す固より地味良好桑樹の發育著しく一反歩桑の收穫三四百貫平し乃至七八百貫目あるに至り全郡戸々養蠶せさるはなく近時は所々に製絲場を建設專ら製糸に從事し獨立横濱に輸送爲めに紀州糸の相場を市場に現出遂に一大國產を奏功せり是全く下賜の桑苗に原因するを以て兩郡間にては御簾中桑と通稱し其恩澤を欽喜感戴すといふ信明治三十二年の春該地を巡視其盛況に殆と目を驚かしたり

極老村民へ扶持米下賜

一明治二巳年四月廿四日左之者共極老に付其身一生貳人扶持つゝ被下

白子領郡山村平左衞門後家　きの　九十四歲

同　領磯山村角左衞門母　ひて　八十四歲

明治四未年二月にも松坂在町八十八歲之者八人へ其身一生貳人扶持つゝの下賜あり此等養老之事は歷世恒例となり紀勢共年々不少と雖も記錄不存唯本記を載するは記錄存するによりし也

明治二巳年五月

一和歌　御宮御境內之儀殺生禁に有之候處同浦之儀は田畑寡く漁業渡世の者は都合之品も可有之付向後右の場所殺生禁の儀は御廢止相成候へ共砲發は勿論猥ヶ間敷殺生不相成候間末々に至る迄不洩樣可相達事

御領分一圓年貢一歩御用捨

同年六月八日紀勢御領分一圓當年の年貢一歩通り御用捨あり

農民之儀は風雨寒暑之無差別終年身力を勞し其所得は纔に數口を糊するにも不足者も多有之別て昨年は非常の水損且蟲付等にて難澁致候段深く御憂慮被遊何卒聊にても肩を息はせ候樣被遊度思召に付破格之御取扱を以紀勢御領分一圓當年御年貢之一歩通御用捨被　仰出候旨

御勝手御難澁之中より御年貢減納被　仰出候儀に付田畑多分所持致し上は作取來候者は右御趣意深く相辨へ可成丈け下た作人へ用捨振取計遣可申旨

明治二己年十月朔日

一是迄御年寄知行所其外在中にて家來分に申付帶刀差免候者も有之候へ共御改政後右等之者自然廢止に相成候事

九月朔日

同　年十一月

一質屋仲間外にて色品等質に取金錢質渡し候儀不相成旨先年より嚴敷相觸有之處兎角心得違候者も有之相紀此度は令用捨輕咎申付候事候右等取調等に差障り候付向後仲間外にて色品等質に取候者も有之候へは無用捨取押可處嚴科候條町中へ不洩樣相觸可申候

同　　月

一物產を開き職工を取建候は天地之間に自然に生立候者と人之智力を用ひて成立候者とを以世上有益之業を弘め國內豐饒之基を立衣食を足し孝悌禮讓之敎を布き洽く國民に人世之歡樂を遂させ候

爲大に物産且職工を開き無産無業之者を職業に就しめ度趣意に付銘々之家業を勵み候儀は勿論其他開拓物産且諸職之内多人數之稼に相成候職業存付之者は仕法見込無二念早々可申出事

本文見込通業立候者并新規發明之品申出候ものは實驗之上其功に隨ひ身分に不拘格段御取扱之品も可有之筈候間有志之ものは必す讀書致し敎に依而銘々之智惠を開き人力を盡し各天職を奉し可申事

十一月　　　　　　　　　　名草民政局

同十二月二日

一御城下近邊は勿論山分之外野合にて砲發殺生不相成旨先達てより毎々相達し有之候へ共兎角猥に砲發殺生致候者有之趣相聞甚以如何之事に候以來砲發殺生致候者は見掛次第無用捨取押嚴重及處置候條心得違無之樣可致事

十二月二日

右一通

同月三日公用局より

一那賀郡岩出組西野村之儀人數不足にて難澁致候付此段人數御植付に相成候筈にて望次第田地永久御預け被下置猶又左之通御用捨等被成下候筈に付同村へ引越農業致度向は家内人數等相認支配へ願出可申事

一引越候筋へは五箇年之間免合村並より壹つ取御用捨之筈

一極難澁之筋へは爲家建幷農具料八才以上壹人前錢四拾貫文つゝ御貸下け之筈
　是は五箇年相立村並免に直り候上無利足三年賦返納之筈
右之外委細之儀は名草民政局承合可申事
　　　十二月

明治二己年十二月廿一日政事廳より
一博奕御制度之儀當春別て嚴敷被　仰出有之且又諸士屋敷地にも組合肝煎を被爲置候は全く諸事取締風俗敦厚ならしむる之御趣意に候然處從來春初には婦人兒子打寄勝負事等之慰いたし候哉に相聞候右等之事男女之別を亂候而已ならす自然幼稚之者見習候へは成人之後不行狀之基に相成甚不宜事に候間向後組合肝煎伍長初市鄕長之者共厚く心得取締可申萬一心得違之者於有之は當人は勿論役人共も可處同科事
　　　十二月十九日

同三午年二月廿九日
一皮田之奴共近年別て風儀不宜間々不埒之儀も有之候間此度同奴共へ別紙箇條之通相觸させ候事
一市中者勿論在中たり共通行之節片寄候て往來之人へ聊も無禮ヶ間敷儀不可致事
一物貰履物直しに罷出候節は町家之軒下た雨落より內へ入候儀不相成事
一朝日之出より夕日之入迄之外市中は勿論町端たりとも徘徊不相成且在中にても夜分妄に往來不相成事

本文節分は夜五時迄大晦日は夜九時迄徘徊差免候事
一町内にて飯食致候儀不相成事
一雨天之外笠かふりもの不相成事
一履物は草鞋之外總て不相成事

十二月

明治三午年正月廿七日
一湊沖合にて素人共諸魚漁事不相成儀毎々相觸有之處近比猥に相成候而巳ならす漁師共之妨を致剩權威を以理不盡に得魚等無躰を申掛候者有之職業に差支迷惑之旨申出候右之擧動以之外之事候向後沖合にて漁事且職業之妨等致候者有之候へは屹度可及沙汰條心得違無之樣市在へ無洩相觸可申候

正月

同四月十六日政事廳より
一諸物直段之儀至當之相場有之處ひのこと唱へ金米賣買之世話いたし候奸商有之平生遊手無業之者にて彼是人を欺き直違且口入賃を以渡世致し諸物之相場を狂し諸人之困究を釀し小民御救恤之御世話振を妨け候に付向後堅く令禁止候條早々正路之職業相營み可申候條萬一此後相背き聊にても似寄之所業於有之者無用捨可處嚴罰事

四月

明治三年四月名草民政局より諭達

一管内從來之弊風追々御改正に付ては猶又此程被　仰出候條々別て末々に至る迄万一心得違も有之候ては不相濟儀に付左之一つ書を以一段嚴敷申聞候間右等之條々と引合し熟讀いたし若自分に讀兼候者へは親類伍長家内等之内より互に讀聞し申聞し可申候總て是迄之儀は御用捨被下候御趣意に付此段難有相心得一々堅く相守此後嚴しき御咎受候儀絶て無之樣可致事

民　政　局

本記は次記政事廳布告に基き細則を告示したるなり

一料理店にて遊宴不相成仕出し料理并晝食等支度賄之儀不苦候へ共町在共其所之者は一切料理店へ立寄候儀不相成事

一遊女并隱し賣女素人藝子ぼんやかゝり取總うか等之類堅く相止候付ては向後心得違右等之業いたし候者は勿論右等之者伍人組并屋敷長屋及町人借家へ差置候家主迄も夫々嚴しく御咎有之等候間親類五人組を初め家主等にて能吟味等いたし不行屆無之樣可致事

但士族之儀も伍人組迄御咎之儀は同斷之事

一遊女并藝子かゝり取等之業いたし候ものを家内にいたし候儀は御法度に候へ共兼て情合有之分は父母親類等熟談之上に候へは全此度に限り妻又は妾に致候儀不苦事

本文躰之緣組は此節早々可願出事

一是迄心得違内緣相結ひ居候者之内表向出願之出來候分は早々緣組可願出候又は何等之差支有之

緣組難出來分は手切れいたし可申右等猶隱し居候に於ては嚴しき御咎可有之事

本文內緣之者之全兩人共別之家に奉公等致居此節引取養ひ難き者は表向緣組致置主方承知之

上先其儘奉公致候儀は不苦事

一是迄遊女隱し賣女等之業を渡世に致し居候者は夫々身元に應し勘辨を以早々正しき產業に有附

候樣猶親類之重立候もの等よりも世話振行屆候儀は勿論に候へ共獨身等にて格段困窮致候者は

有附せ振見込有之者は可申出候尤に相聞候儀は精々手行も致遣可申事

向後御咎被　仰付候者其罪之品により士族扶持人たりとも身分も下し徒刑に被處候儀も有之

候間別て心得違無之樣可致事

明治二巳年四月廿一日政事廳より

一管內從來之弊風追々御改正に付ては向後左之條々堅相守可申候若相背候者於有之は無用捨可處嚴

罰候條心得違無之樣可致事

一在町遊女渡世及ひかくし賣女躰の者抱置候儀不相成事

一料理店にて遊宴不相成事

但し仕出し料理幷晝食等支度賄之儀は不苦候事

一素人藝子と唱酒席へ酌取に出候儀不相成事

但樂人能役者法師瞽女は不苦事

一左之株々は是迄迚も嚴禁に候處間々背き候者も有之趣不埒之至に付向後心得違候者於有之者無

用捨可處嚴罰事

一ぼんやと唱男女出合之宿いたし幷かゝり取と唱候樣之類一切不相成事

一士農工商共妾宅を構へ或は他人の家に妾を預け置候儀不相成事

但都合に寄自宅へ妾を召抱候儀は不苦事に候へ共一時愛色等之情に惑ひ猥に離合致候抔之儀は屹度相愼可申事

一墮胎幷墮胎藥賣買不相成事

一春畫人情本等之類持扱候儀不相成事

四月廿日

明治三午年閏十月廿七日紀勢管內窮民へ救米下賜

政事廳より各郡民政局へ達

王政御一新以來先最初に御憐恤を被爲加度御趣意を以て紀勢管內一圓昨巳年御年貢の一分通り御用捨相成り其上臨時御救等段々御世話も有之候處何分國民末々に至りては積年之貧窮一時に復し難く兎角困窮相迫凌方難相立者も間々有之趣に付出格之御取扱を以尙又當年左之目錄之通郡々窮民共へ御救として被下候間厚き御趣意難有相畏農業彌出精致し各自家を安し候樣相勵み可申事

千二百俵　名草郡　　千六百俵　海士郡
千五百俵　那賀郡　　千五百俵　伊都郡
千五百俵　有田郡　　千六百俵　日高郡

千五百俵　牟婁上郡　　千五百俵　同　下郡

千八百俵　松　坂　　千六百俵　田　丸

千　俵　白　子

一御城下小民共にも諸物高價殊に當秋兩度非常の水災にて彌凌方難相立者共有之是迄追々御救恤被成下候へ共尚又當節必死困窮之者候はゝ此上臨時御救等之御取扱可有之付戸口人員難澁之模樣巨細取調可申出旨名草民政參事へ被達

明治四未年四月名草出廳より布告

一鄕市中之者共是迄士族等へ家來に被召抱其生所人別出離致候者有之候得共向後出離之儀は不相成出稼と心得させ可申事

本文之通に付是迄出離移住致居候分は其住所人別に差加可申出離（不字落カ）致候得は其生所に罷在候者は歸藉爲致可申事

南紀德川史卷之九十六

郡制第八

臣堀内信編

大畑才藏記第一　元祿寶永間

緒言

大畑才藏は伊都郡學文路村の庄屋也、寛文四年より正德五年迄五十二年間郡方に勤務、彼の有名なる小田堰藤崎堰を開鑿、又勢州上仁柿村新道山原村新田を拓き一志郡新井をも疏通せり、才藏最も地方の事務に精通錬熟曾て自記する所池川新鑿の法設計測量の方租税免合の算勸農事振興の考案乃至紀勢封內巡察の報告書等甚た多し、紀伊國奇人傳に曰く才藏著す所の才藏記其外積り事の書多し、御國表評定所の規矩とす、末代不易の記錄と成ると云々、前卷既載の在方覺帳紀勢御領內地方誌、在方被仰渡帳、郡方手鑑の如き多くは元祿寶永正德享保年間に成る、蓋し才藏記之が資料たりしならんか、熟ら按するに此年間は　清溪公の御末年より　有德公の御時に當れり、司農上官には有名なる大嶋半六淺井忠八等の明吏ありて鞠躬盡瘁財政を經理、以て府庫の充實を致せる空前絕後也しといへば郡政に於ける治蹟押して知るべし、宜なる哉才藏を民間に拔擢普く封內を視察せしめ民情を考へ地宜を謀り荒蕪を拓き水利を起し着々實施國家富實の基礎を確立、又諸法令制度を布て郡治の紀綱を整頓したるものか、是れ名君賢臣相遇才藏言聽かれ計行はるゝの結果といはさるを得す、夫れ才藏は固より世臣に非す纔に僻邑の一匹夫、熱誠勤勞五十年而かも二百年前の

昔學術專門の學士に非す英利巧妙の器械も絶無也（小田堰新開の測量の如きは夜陰に提灯線香の点火を目標となせし由土地の口碑に殘れり）唯自己の鍛錬工夫を以て小田藤崎兩堰の如き大事業を奏功し國利民福を千載無窮に遺し、而して賞賜は僅々御勘定人並四人口俸に止まるも、之を至榮として終始室家を捨唯熱誠公に奉するの他なきは實に稀有之俊傑といふへし．此記一己の私乘と雖も之に因て當時國家の民治に汲々たりしゆゑんの者歷々其形蹟を認め得へく、將た郡制一般の概畧をも推知に足るものあり、是採て郡制中に編するの由也、才藏の事は俊傑傳に記す

一才藏自記の書其家に遺存のもの巨櫃塡滿の處永年の中頗る散逸、且つ近時縣廳の徵需に應供等にて今僅に存するのみと、此に記するは即ち右殘卷を借得て謄寫する處故に首尾斷續錯簡缺失多し、又書風一種僻の走筆且草稿廢紙の如く、加之二百年前の古記蠹食毀損亦尠からすして讀下難澁を極めり、故に間々不了のもの有て解釋しかたき多し讀者須く諒知を要す

一卷首に才藏か日記を掲けたるは、才藏敢て一日も寧居せす勤勉奉公の事實と時の長上身封内の山川地理民情を實視鞅掌馳驅徒らに懷手逸居以て下僚を頤使威權を弄するの比に非さりしを示さんか爲也、且編中の事項此日記に對照參觀せは情事亦見得て明かなるべし

該日記中伴六殿とは奉行大嶋伴六也、新兵衛殿とは奉行淡輪新兵衛にして田代七右衛門は其後任となれり（七右衛門は元祿六年御勘定頭となり、爾來添奉行兼務又御勝手奉行を經、寶永五年九月新兵衛跡奉行に任す）三上兵之右衛門は元祿十一年七月添奉行に任す、いつれも司農職に在る數十年間にして信任を辱ふし秩祿累進せり、井澤彌惣兵衛石川又右衛門下村傳太夫亦司農吏たるへしと雖も家譜傳わらされは詳ならす

大畑才藏日記

元祿九子年　大 正 四 六 七 九 十 十二　小 二 三 五 八 十一　三百五十五日

御用に付出日

二月八日より三月廿八日迄五十日　井澤彌惣兵衛殿　石川又右衛門殿　下村傳太夫也

内廿八日折居より背山穴伏より岩手迄大谷より岩出迄水盛御用

廿二日　若山會所詰

此内三月十日迄は帳面御用後十五日之内に地方手代へ給扶持にて御抱可被下由彌惣兵衛殿被仰聞候得共何時にても御用之節は出可申候間在所に御置被下候樣にと御願申上候

一三月廿五日御添奉行田代七左衛門殿被仰渡候

其方儀願之通在所に罷在御用有之節は罷出可申候其節は出扶持三人扶持被下候年々銀十枚つゝ被下置候

四月十九日より六月十六日迄五十七日　田代七右衛門殿兩熊野御順見御供

六月十六日夕より同十九日迄　會所詰

六月十九日より同廿八日夕迄　照に付横堀池見分御用在廻り

七月九日より十一日迄　在所にて田代七右衛門殿御用熊野繪圖仕

七月十七日より同廿六日迄　若山小（二字不明）御用

八月十一日より十六日迄　同　御用詰

十月十八日より極月十九日迄六十日之内
　二　日　若　山
　二　日　若　山
　四　日　内原村
　四　日　那賀池二
　九　日　若　山
　九　日　若　山
　三十日　那賀水盛
一元祿十丑年　大 二 四 六 八 九 十一 十二
　　　　　　　小 正 壬二 三 五 七 十
正月四日より　同廿二日迄十九日
　内三　日　若山御禮
　　四　日　十三日より伴六殿新井筋御見分御供　打田　市場　粉河　福町
　　五日半　會所詰にて
　　六日半　所にて會所詰
二月一日より同八日夕迄　會所詰
同八日夕より十八日夕迄　六ヶ井水盛　清水村　畑毛村　山口村　西村　廣西村　野川　そのへ
同十九日夕より　會所詰

同廿九日夕より三十日夕迄　中嶋水盛　新在家　中之島村
壬二月二日夕　　　會所詰
同四日夕より十七日夕迄　新井水盛　舟所村
同十七日夕より十九日迄　會所詰
壬二月廿一日より三月廿七日迄　勢州へ參候　松坂田丸在々
五月廿日より六月三日迄　會所詰
六月三日より同十三日迄　在々銀渡也
　尼寺　中島村　尾崎　中いふり　かふろ　大野　勢田　東三谷
同十三日夕　　東三谷
同十四日夕　　東坂本
同十五日夕より十八日迄　會所詰
同廿七日より七月廿一日迄　會所詰
六月十八日より　定三人扶持被下御勘定人並被　仰渡會所に而御添奉行赤堀與七兵衞殿御申渡
七月朔日より御用出日　一日に四人扶持人足銀一匁八分つゝ被下
七月朔日より八月廿七日迄　越前御用行歸共五十六日
八月廿八日より九月十三日迄　會所詰
　内九月五日より十一日迄　和歌村田竿入

九月廿六日より三日　　會所詰

九月廿九日より十一月廿二日迄　勢州へ參候行歸五十三日

　内十一月五日夕より十七日迄　新井水盛

十一月廿三日より極月九日迄　會所詰

一元祿十一寅年　大　二　五　八　九　十一　十二
　　　　　　　　小　正　三　四　六　七　十

正月四日より七日迄　會所詰

同八日より十二日迄　日高入山川筋見分

同十三日より十五日迄　會所

同十九日より四月廿五日迄　勢州へ參候行歸九十五日

　内廿二日より二月十三日迄　雲出川又十二日間新井

四月廿五日より五月四日迄　會所

五月廿七日より六月二日迄　會所

六月三日より同十二日迄　伊都郡破損所見分　粉河　上丹生や　妙寺　上中村　東家　かふろ

六月十二日より七月六日迄　會所

七月廿五日より八月十日迄　會所

八月十一日より十六日迄　那賀郡破損所見分　下さゝ村　畑毛村　畑上村　神領村

八月十六日より廿二日迄　會所

九月五日より十一月十二日迄　勢州へ參候行歸六十七日　松坂　同村在々

十一月廿二日より十二月廿五日迄　會　所

元祿十二卯年　大　正　三　六　九　十　十一　十二
　　　　　　　小　二　四　五　七　八　九

正月四日より十二日迄　御禮會所詰

同十三日より廿三日迄　日高　原谷　吉田　富安　願所　山地　新井　見分

同廿六日より同卅日迄　那賀　いと御普請所見分

二月三日より四月廿五日迄　勢州へ參候行歸八十二日　田丸　松坂　白子　在々

四月廿六日より五月一日迄　會　所　詰

五月二日より五日迄　池田垣内　新井水盛

六月二日より四日迄　上野村　竹(植〔房カ〕)村

同四日夕より七日迄　後(郷〔一本田〕)村　竹房村　井筋見分

六月十三日より廿八日迄　新井見分御用　松井　打田　畑上村　西國分村　中迫

同廿八日より七月六日迄　會　所　詰

七月十九日より九月廿日迄　勢州破損所御用行歸九十日　三領　在々

九月廿三日より十二月十五日迄　藤崎新井御用　七十九日

一元祿十三辰年　大　正　三　六　九　十一　十二
　　　　　　　　小　二　四　五　七　八　十

正月五日夕より十四日迄　御禮會所詰

同十四日より二月廿二日迄　藤崎　新井　御用　三十八日

三月三日より五日迄　新井見分御用

三月廿日より五月十三日迄　勢州へ參候　行歸五十三日　田丸　松坂　在々

五月十三日より廿三日迄　會所詰

七月廿二日より八月廿二日迄　會所詰

一元祿十四巳年　大 正 三 五 七 十 十二
　　　　　　　　小 二 四 六 八 九 十一

二月廿四日より三月十二日迄　會所詰

三月十五日より四月廿一日迄　勢州へ參候　大嶋伴六殿御供　三領在々　行歸　三十七日

四月廿五日より五月七日迄　會所詰

本ノマヽ
六月十三日より八日迄　會所詰

六月八日より十三日迄　新井末堀次　西村　上野村　張西　西村

六月十四日より十八日迄　中いふり井末堀次見分　佐野村　在々廻り

七月廿二日より廿八日迄　會所詰

七月廿八日より八月十六日迄　新井堀次御用　張西村

八月十四日夕より十七日迄　會所詰

八月廿三日より極月十五日迄　勢州へ參候行歸百十日　三領在々

極月十六日より廿一日迄　會所詰

一元祿十五午年　大正　三　四　六　八　十　／　小二　五　七　八　九　十一　十二

正月五日より十七日迄　會所詰

二月二日

自今若山詰造用銀御法之通被下候趣會所にて井澤彌惣右衛門殿被仰渡

二月六日より十日迄　會所詰

二月十三日より五月十四日迄　勢州へ參候　松坂　田丸　在々　行歸九十一日

六月四日より同卅日迄　在々御普請所見分

七月三日より九日迄　在々御普請所見分

七月廿日より九月二日迄　上野名（二字不明）御普請に付

九月廿九日より十月三日迄　西川（二字不明）市場村

十月三日より十日迄　會所詰

十月十日より十一月六日迄　海士名草郡御普請所見分

十月十七日より十二月十二日迄　會所詰

十一月十三日より　貳人扶持御加增

十二月十三日より廿四日迄　有田日高名草御普請所見分

十二月廿五日より廿七日迄　會所詰

一元祿十六未年　大二　三　五　六　八　十　／　小正　四　七　九　十一　十二

正月廿二日より廿六日迄　會所詰
同廿七日より二月二日迄　在中御用　小野田　咄前村
二月二日より十五日迄　會所詰
同十五日夕より十七日朝迄　小野田川邊
同十七日より廿四日迄　會所詰
同廿四日より卅日朝迄　咄前　西坂本　重內　粉河
三月十一日より十七日迄　會所詰
同十七日より廿八日迄　大嶋伴六殿御供　有田日高在々
三月廿八日より四月六日迄　會所詰
四月六日より九日迄　金屋　打田　市場
五月十五日より廿二日迄　會所詰
五月廿二日より九月十八日迄　名高濱にて百五日半
九月十九日より廿一日迄　會所詰
同廿二日より二日半　那賀　西野村
十月三日より十一月八日迄　會所詰
十一月十一日より三日　那賀中嶋村にて新田竿入
同十一日夕より十二月二日迄　布引村新田竿入

同二日夕より極月八日迄　中嶋村新田竿入

一元祿十七申年　大 正三五六八九十一　小 二四七十十二

正月十四日より廿二日迄　二日御禮會所詰

同廿三日より廿八日迄　大嶋伴六殿御供　湯淺　入山村　垣倉　中嶺

正月廿九日より二月四日迄　會所詰

二月四日夕より四月廿日迄　日高入山御普請詰　湯淺　入山　宮原

四月十九日より四日　會所詰

同廿三日より五月九日迄　日高御普請所へ　内替地渡し一日湯淺十三日入山村

五月十日より十四日迄　會所詰

六月八日より十六日迄　同

八月十一日より同二十日迄　同

八月廿一日より九月廿三日迄　日高御普請所へ　宮原　入山

同廿三日より十月三日迄　右同斷　入山　宮原　下津

十月三日より十日迄　會所詰

同廿二日より廿四日迄　大嶋伴六殿御供　岩手　井の口

同廿四日より廿七日迄　會所詰

同廿七日より十一月廿一日迄　大嶋伴六殿御供　北中村　三毛村

十一月一日より同七日迄　會所詰
同八日より九日迄　岡崎村
十一月十八日（本のまゝ）より十四日迄　會所詰
十一月十四日より廿六日迄　那賀　北中村
同二十六日より廿八日迄　會所詰
同廿八日より廿九日迄　吉田村
同廿九日より十一月廿日迄　西　村
十二月一日より四日迄　内原村
同四日より同廿日迄　會所詰
一寶永二酉年　大　正　四　五　七　八　十　十一
　　　　　　　小　二　三　壬四　六　九　十二
正月五日より廿一日迄　會所詰　内二日御禮
正月廿一日より五日　出嶋村
同廿六日より廿九日迄　西　村
同廿九日より二月四日迄　和歌山詰
二月二日より同九日迄　宮原村へ
二月九日より十二日迄　會所詰
二月十三日より十五日迄　出嶋村　安原鄉御普請之時合百一日牛吉禮川達（邊カ）にて

同十五日より廿九日迄　同

三月八日より廿九日迄　同

四月一日より十五日迄　同

四月廿日より卅日迄　吉禮にて「二行蓋し誤謬あるべし」

四月廿一日より廿九日迄　同村にて

壬四月一日より三日迄　會所詰

五月十日より十一日迄　同

同十一日より十四日迄　内原村へ

五月五日より六月九日迄　會所に

八月十日より九月十七日迄　同

十月十三日より同廿三日迄　同

十月廿三日より廿七日朝迄　在郷出る

同廿七日夕より十一月一日朝迄　會所詰

十一月一日夕より廿日朝迄　有田郡へ

十一月廿日夕より十二月九日朝迄　會所詰

十二月廿三日より廿八日迄　若山　内三日歳暮御禮日

一寶永三戌年　大 正　四　七　八　十　十一　十二
小 二　三　五　六　九　三百五十五日

正月五日より十日迄　若山詰　内三日年頭御禮

同十日夕より五月五日迄　川御普請所　小以百六日　内六日在所

岡田村　冬野村　内原村　多田村　在々

五月五日夕より八日朝迄　若山に

五月廿一日より同廿四日朝迄　若山に

五月廿四日夕より六月十六日朝迄　新開御普請に付内原村

六月十七日より十九日迄　和歌山詰

六月廿日より同廿四日朝迄　日高へ參候　川瀬村　松瀬村　湯淺村

同廿四日夕より廿七日迄　和歌山詰

七月六日朝より廿一日夕迄　入鄉村へ詰　六日新兵衞殿入鄉へ御越かふろ御一宿高野御一宿七日

入鄉より舟にて御下入鄉諸色見合申付候樣被仰渡

同廿三日朝より廿六日夕迄　照に付在々廻り

七月廿七日朝より同卅日夕迄　入鄉村へ詰　内二日高野山へ

八月一日朝より七日夕迄　照に付在々廻り

同八日朝より同十六日夕迄　入鄉村へ詰る　内三日高野山へ御寶塔御供新兵衞殿御登山十八日か

ふろへ御下十九日御下り八日入鄉着澤右衞門衆同十七日かふろへ大かた御下十八日御出舟

同十六日朝より同廿四日夕迄　入鄉詰

八月廿六日より同卅日朝迄　若山詰

同卅日夕より九月十五日朝迄　内原村へ　新かひ御普請

九月十五日夕より同廿日朝迄　若山詰

九月廿日夕より廿二日朝迄　田尻村

同廿二日夕より廿四日朝迄　那賀吉田村

同月廿四日夕より廿五日朝迄　竹房村

九月廿九日夕より十月五日迄　若山詰

十月六日朝より夕迄　冬野村

同七日より十一日迄　紀三井寺村

同十二日より卅日迄　内原村にて

十一月一日　小野田村にて

同二日朝より廿三日朝迄　内原村にて

十二月三日夕より同十五日朝迄　内原村にて

同十五日より同廿四日迄　和歌山詰

十一月十三日　三上兵之右衛門殿申渡

御勘定人並　大畑才藏

地方幷御普請筋之儀精出し相勤候に付新田場被下置候奉行共致吟味とらせ候様にと被　仰出候

但四五石程之新田場被下等

一寶永四亥年　大　二　五　八　十　十一　十二
　　　　　　　小　正　三　四　六　七　九

正月五日より十四日朝迄　若山詰　内二日年頭御禮

正月十四日夕より三月朔日朝迄　内原村にて

三月朔日夕より同四日朝迄　若山にて　天眞院様御逝去に付御普請相止候内

三月四日夕より廿二日朝迄　内原村にて

三月廿二日より四月廿六日朝迄　小田新井　中いふり井筋見分　内四日かふろにて休

　市場村　中いふり　大薮　小田村　大野村　妙寺村　大谷村　東村　窪村　背山村　萩原村

　かせ田中村　宍伏村　大野村　かふろ

四月廿六日夕より五月十二日迄　内原新川内原詰

五月十二日夕より十三日朝迄　若山詰

五月十三日夕より六月六日朝迄　伊都新井詰　市場村　大野村　小田村　妙寺村　中いふり

　池田垣内　宍伏村　東村　かふろ　丁の町　在々

六月六日夕より九日朝迄　内原村にて

同九日夕より同廿二日朝迄　多田村

同廿二日夕より同廿五日朝迄　内原村にて

同廿五日夕より同廿八日朝迄　多田村

同廿八日夕より七月十二日朝迄　内原村
七月廿日朝より同廿一日夕迄　和歌山詰
七月廿二日朝より八月六日迄　内原村詰
八月七日朝より八日朝迄　和歌山に
八月八日夕より廿四日迄　伊都郡新井御用　外二日かふろ　外二日若山
　小田井筋道改　市場村　背山村　中村　大谷村　丁の町村　中いふり　小田村
八月廿六日より九月三日迄　若山に
九月三日夕より九日朝迄　内原村に
九月九日より同十八日迄　若山に
同十九日より同廿九日迄　新井御用丁の町村　内二日かふろ
十月朔日より九日迄　同市原村
同四日未上刻道七八丁あゆみ候その内老人も覺無之と申程の大地震地一二寸つゝわれひゝき地方
　にては床よりどろ水砂土など吹出す家々ゆかみ不申ものなし
十月十日より十三日朝迄　若山詰
同十三日夕より廿日朝迄　海士郡浦方壚濆御用　三葛村　紀三井寺村　西濱
同廿日夕より十一月十日朝迄　若山にて
十一月十日夕より十一日朝迄　いと那か在々御用　名手にて

十一月十五日朝より卅日夕迄　右同斷　　辻村　山田村　かふろ　中之才　丁之町　神のゝ村

西三谷村　大野村　大谷村　瀬山村

十二月朔日朝より廿日迄　　いと上那賀御普請所　市場村　江川中村　妙寺村　浄土寺村

中いふり村　東谷村　廣江村　東村　大谷村　かふろ

極月廿二日より廿八日迄　　若山詰

一寶永五子年　大　正　二　五　八　十　十一　小　壬正　三　四　六　七　九　十二

正月七日より九日朝迄　　和歌山

同九日夕より十三日夕迄　　海士平井六ヶ井水盛御用　六十谷村　平井村

同十四日朝より十九日朝迄　若山詰

同十九日より壬正月十日迄　内原　日方　和歌御用　内原村　日方村　名高村　舟道村　黑江村

藤代村

壬正月十日夕より十四日朝迄　和歌山詰

壬正月十四日より三月廿日迄　浦方年賦見分御用　日方村　方村　下津村　湯淺村　廣村

西廣村　唐尾村　吹井村　網代浦　横濱浦　比井浦　三尾浦　田井村　名屋浦　北塩屋浦

南塩屋浦　印南中村　入山村　小浦　井關村　切目村　衣奈浦　内原村

三月廿一日より廿四日迄　若　山

四月七日より九日迄　　瀧廣口論所へ

四月十七日より十八日迄　伊都小田新井筋見分御用
同廿一日より二日　同下夙村井筋御用
同廿七日より二日　同市場
五月十二日より廿日迄　若山詰
同廿一日より六月十日朝迄　海士名草見分御用　三谷村　瀧畠村　府中村　平井谷村　本之脇
　加太村　內原村　方村　中村　多田村　舟尾村　日方村
六月十六日より廿一日迄　和歌山詰
同廿一日夕より廿八日迄　在中見分筋　多田村　舟尾村　吉禮村
六月廿八日夕より七月四日迄　和歌山にて
七月四日より十一日朝迄　有田日高へ參候　宮原　湯淺　入山　川瀨　山本
同十一日夕より十三日迄　若山詰
七月十七日より八月一日朝迄　若山詰
八月一日夕より九月二日朝迄　有田日高へ參候　內原村　宮原村　奥村　市場村　栗生村
　遠井村　下湯村　湯本村　寒川　初湯川（中山中の內）　田尻村　舟津村　江川村　（印南）中村　久屋村
　比井浦　横濱村　湯淺村　中野村　吉見村　加（一字不明）村
九月二日夕より四日朝迄　和歌山
九月四日夕より十六日朝迄　伊都瀨山村御普請所　（內四日かふろにて）

九月十九日より廿四日朝迄　若　山　詰

九月廿七日夕より十月十二日朝迄　在々　大野村　妙寺村　大藪村　大谷村　佐野村　東村　中村

十月十二日夕より十五日朝迄　若　山

同十五日夕より十一月一日朝迄　在々　市場村　萩原村　東野村　下の町

十一月一日より十二日朝迄　若　山

同十二日夕より十四日朝迄　名高吉禮村へ

同十四日夕より廿五日朝迄　新井方在々　東野村　下の町村　大谷村

同廿五日夕より廿八日朝迄　若　山

十一月廿八日夕より十二月十六日朝迄　新井方御用　市場村　大谷村　大野村

十二月廿三日より二十八日　若　山　詰

一寶永六丑年　大　二　三　六　九　十一　十二
　　　　　　　小　正　四　五　七　八　十

正月十四日より廿三日朝迄　若　山　詰

同廿三日夕より廿五日朝迄　内原村（一字不明）り積

同廿五日夕より二日　若　山　詰

正月廿七日夕より五月十三日朝迄　伊都新井堀次御用（内一日休息）

　打田村　市場　東野村　背山村　中いふり村　東村　中村　池田垣内　大野村

五月十三日より十四日迄　若山にて

同十五日夕より廿一日朝迄　有田井の口村　日方村
同廿一日より廿四日朝迄　和歌山にて
同廿五日夕より七月二日夕迄　新井御用　市原村　東の村　小田村　野村　大野村　大藪村
市場村　瀬山村　大谷村　中いふり村　中村　丁の町村
七月四日より六日迄　同小田村
同八日より十一日迄　若山詰
七月十一日夕より八月廿三日迄　小田新井にて　小田村　山田村　大野村　中村　市場村
東野村　勢田村　大谷村　内一日かふろ　二日和歌山詰
九月四日より八日朝迄　同上なか松井村　上田井村　市場村
九月十一日より廿三日迄　和歌山詰
同廿七日より廿八日迄　いど在々
十月十三日より十六日迄　いど那か在々
十月十六日夕より十一月十八日朝迄　藤崎掛り高見分　名草　那賀　清水村　大野村　西國分村
高瀬村　宮村　西野村　荊本村　中迫村　川尻村　畑毛村　金屋村　倉屋村　赤垣内村　滿屋村
金池村　黒木村　吉田村　山村　多田村　坂井村　沖野々村　小野田村　溝口村　冬の村
一十五日伴六殿御越十八日御歸
十一月十八日夕より廿二日迄　和歌山詰

十一月廿二日夕より極月朔日迄　上那賀在々

極月二日より四日迄　いと在々

一寶永七寅年　大　二　三　五　七　九　十一
　　　　　　　小　正　四　六　八　閏八　十　十二

正月廿三日より二月五日迄　若　山

二月六日より八日迄　名草新地坂井村

二月九日より十五日迄　若　山

二月十六日より五月廿七日朝迄　小畄新井筋在々　内五日かふろにて　小田村　大野村　大谷村　中村

かふろ　名草坂井村　江川中村　池田垣内　古和田村　粉河村

五月廿九日より六月五日迄　若　山　詰

六月五日夕より十日朝迄　いと在々　粉河村　大藪村　神のゝ村

同十日夕より十三日朝迄　若　山　詰

同十三日夕より同廿二日朝迄　背山村　かふろ村　大野村

六月廿五日より廿九日迄　若　山　詰

七月四日夕より六日朝迄　大野村

七月十日より十二日朝迄　小田村　神のゝ村

七月十七日より廿三日迄　大野村　粉河村　市場村　小田村

七月廿六日夕より九月晦日迄之內四十三日　いとなか在々　小田村　大野村　神のゝ村　大谷村

丁の町　脊山村　市場村　内五日間和歌山詰

十月五日より九日迄　　和歌山詰

十月九日より廿三日朝迄　有田日高見分　宮原　箕嶋浦　野村　千田村　中兩村　中嶋村

丹生村　長谷川　土生村　栖原村

十月廿三日夕より十一月廿七日朝迄　有田日高見分　門前村　吹井村　比井浦　原谷村　和田村

嶋村　北塩屋村　山内村　東本庄村　西本庄村　切目にて一字不明村　本村　南谷村　楠井村　印南原村

丹生村　井關村　湯淺村　小豆嶋村　箕嶋村

十月廿八日より十二月五日迄　和歌山詰

十二月六日より十六日朝迄　那賀いと見分　粉河村　淨土寺村　東家村　霜草村　山田村

極月廿三日より廿四日夕迄　名手川嶋村井筋

一寶永八卯年　大正二　三　五　七　十　十二
小四　六　八　九　十一

正月九日より十四日迄　若山詰　内二日御禮

同十九日夕より廿七日朝迄　喜右衛門殿御供　移山村　脊山村　粉河村　江川中村　大野村

東家村

二月八日より十四日朝迄　在々御用

二月十四日より廿六日朝迄　和歌山詰

同廿六日夕より廿七日朝迄　薮原村

三月一日夕より六日朝迄　那賀在々　粉河村　江川中村　大野村
同十二日より廿六日迄　那賀郡廻り　打田村　勢田村　重行村　東國分村　曾屋村　吉田村
　丸栖村　宮村　動木村　海老谷村　原野村　高津村
三月卅日夕より四月三日朝迄　かせた中村
四月五日夕より七日朝迄　東野村　市場村
四月廿四日夕より五月二日朝迄　在々内一日高野かふろ　中村　大野村　東家村　竹房村
五月九日夕より十二日朝迄　市場村　上中村　小田村見分
同廿二日夕より廿五日朝迄　方々見分　大野村　中村　小田村
六月十六日より十七日迄　小田村
同十八日より廿二日迄　若山詰
六月廿六日夕より七月一日朝迄　大谷村
七月十一日より十二日迄　東家村
同十八日より廿一日迄　垂井村
七月廿三日より廿六日迄　若山詰
八月十日より十二日迄　小田村詰
同廿一日　中いふり新田堤見分　大野村
九月八日より九日迄　大野村

同廿六日より十月朔日迄　若山詰

十月二日より十一月十三日迄　那賀郡御普請所見分

十月十三日　岩出　舟戸

十一月十五日より同廿八日迄　若山詰

十二月一日より同六日迄　若　山

十二月六日夕より廿五日迄　伊都在々井引野池御普請所御用

一正徳二辰年　大 二 三 五 七 八 十　小 正 四 六 九 十一 十二

正月十日より廿二日迄　若山詰

同廿三日より同廿五日迄　海士郡在々御普請御用

二月八日より同十三日迄　右同断

二月十五日より十七日迄　右同断

三月三日　右同多田村へ参候

同八日より十一日迄　伊都郡御普請所御用

三月十三日より五月朔日迄の内四十六日　同郡河瀬村御普請所詰

六月廿八日より七月八日迄　若山詰

八月廿六日より九月廿二日迄　八月十八日風雨破損所見分御用　但上那賀　藤崎井御普請

十月廿一日より十一月七日迄　若山詰

十一月九日より極月十二日迄　海士名草那賀いと在々荒場見分
十二月十八日より廿八日迄　若山詰
一正徳三巳年　大正三五六七九十十二
小二四壬五八十一
正月十八日より二月十八日迄　若山詰
二月十九日より七月五日迄八十五日　川筋在々田畠荒年貢御用　内五十日若山詰三度に
七月六日より廿八日迄　若山詰
七月廿八日より八月十五日迄　名草郡在々直川村　園部村　六十谷村　府中村　廣西村
　北野村　別所村　落合村　瀧畠村
九月六日より十日迄　市場村　粉河村
九月十一日より十月三日迄　若山詰
十月四日より十一月十二日迄　名草海士郡在々　善明寺村　大谷村　平井村　榮谷村　中松江村
　加太村　梅原村　園部村　直川村　府中村　瀧畑村　川邊村　禰宜村　栗栖村　秋月村
　太田村　有家村　小雑賀村　和歌村　田尻村　朝日村　相坂村　本渡り村　内原村　紀三井
　寺村　三葛村　多田村
十一月十四日より十八日迄　若山詰
同廿六日より十二月十五日迄　同
十二月廿四日より廿五日迄　同

一正德四午年　大三　五　七　八　十　十一
　　　　　　小正　二　四　六　九　十二

正月十八日より三日朔日迄　若山詰

三月二日より四日迄　粉川村

同八日より四月五日迄　伊都郡在々　内六日若山詰　廣口村　粉河村　打田村　小田村　下夙

四月十二日夕より十三日朝迄　下夙村

同十三日夕より廿七日朝迄　若山

四月廿七日夕より五月十五日朝迄　伊都在々　小田村　穴伏村　池田垣内村

六月五日夕より七日朝迄　那賀　上野村　中いふり村

同十三日より廿八日迄　若山詰

六月廿九日より七月三日迄　同

七月十八日より八月卅日迄　同

十月十九日より十二月十七日迄　同

一正德五未年　大正　四　七　八　十　十一　十二
　　　　　　小二　三　五　六　九

二月四日より十八日迄　若山詰

二月十九日より三月十五日迄　那賀伊都在々　丸栖村　宮村　段村　粉河村　移村　嶋村　大藪村

中いふり村　大野村　小田村　神のゝ村　出塔村　かふろ村　平野村

三月十八日より廿日迄　いと同断　粉河村　萩原村　中いふり村

三月廿四日より廿七日迄　いと同斷　下津川村　東谷村　中いふり村
四月一日より三日迄　いと同斷　大谷村　中いふり村
四月十二日より廿七日迄　若　山
五月一日より二日迄、　小田村
同六日より十八日迄　いと在々　市場村　小田村

元祿十丁丑年八月

內藏頭樣御領知見分書

按に元祿十丑年四月十一日　將軍常憲公御成之節、內藏頭公（深覺公御事）主稅頭公（有德公御事）未た御庶子にて御謁見あらせられしに新知三万石つゝを下し賜ふ、同年五月十五日內藏頭公の御領知越前國丹生郡之內五十六箇村の御朱印出る、依て受取して山口御代官神谷與一郎紀州より越前へ出張を命せられ大畑才藏を土地見分して派遣せらる、才藏七月朔日和歌山出發七日丹生郡北山村に着御領地普く巡視八月廿八日和歌山へ歸着す、此書即ち復命書也、原書は才藏の自記草稿にて添削除加且蠧食磨滅多く殆と讀下し難きを推考謄寫したれは或は解し得さる處あり

主稅頭公御領地も越前國丹生郡鯖江にて御朱印出る、然れとも右受取且地所見分の事等筆記のものなし、

內藏頭樣御領知

高三万石

此町千五百三拾町四反八畝廿二分六厘　但押合一反に付一石九斗六升余　在廻り道法三十三里拾七町

村名

有定　下司　鳥井　當田　持明寺　貳町掛　能田　平井　小泉　下大倉

下氏家　上氏家　上野田　下野田　和田　余田　本保　片屋　丹生郷　高森

四日　上太田　下大虫　上大虫　三俣　横根　北山　八田　八田新保　北山（いくら）

市村　乙坂　開發　氣比庄　道口浦　厨浦　茂原浦　高佐浦　中山　匂當原

糠口　千合谷　黒川　都邊　杉本　中野　小曾原　熊谷　平等　下川原

樫津　寺村　上野　眞木　四杉　宇須尾　大谷

小以五十七ケ村

内分け

拾ケ村　大答（本のまゝ）撿を用ひ申在中

高四千百拾六石一斗五升貳合

町貳百六拾八町八反五畝拾六歩　但押合壹石五斗三升一合

八ケ村　地頭撿を用ひ申在中

高貳千八百四十三石五斗壹升貳合

町百七拾八町四反六畝拾六歩　但押合壹石五斗九升三合　大（一字不明）撿に六升貳合高し

三拾九村　村内撿を用ひ申在中

高貳万三千四拾石三斗三升六合

町千八拾三町壹反六畝廿歩六厘　但押合貳石壹斗貳升七合　但大（一字不明）撿に五斗九升六合高し
地頭撿に五斗三升四合高し

大（一字不明）撿御法書

一六尺三寸竿を以五間に六拾間三百歩一反に相定候事
一田畑幷在所之上中下能々見届斗代相定候事
一口米一石に付貳升つゝ其外役米一切不可出事
一京升を以て年貢可致納所之賣買共可爲同前事
一年貢米五里百姓として可持届外は代官給人として可持届事

慶長三

小物成方

一山手米
是はいにしへ大（一字不明）撿之時分は錢にて納候由其後米と成候由此村山より山手米何ほとゝ定り夫を配當にて出候ことゝ見へ申候は大（一字不明）撿にも奥書に錢何〆文山手と有之候相尋見申候處名前帳渡り之（一字不明）錢ては無之由に候

一三把木役
是は荷中の領主へ米納候節百姓火に當り申に付家一軒より木三把つゝ持參候由いつの比よりか米に成申候由いにしへ荷中村之村斗故村々に不同之由に候

一馬借米

是は中山村匂當原より出候よし此わけは兩村境に湯谷と申馬次有此所へ馬を出し浦方より府中へ出申荷物を次申に付出し申候此湯谷と申處家貳拾軒ほと道之兩面にあり南は福井領にて制札あり北は匂當原中山領にて向屋有之候右馬借米兩村より出し候を福井へ御取可被成と出入有之候得共御公領之かちと成此方へ渡り候由に候

一川役は

是は氣比庄乙坂市村より出し申候同所天王川にて鮎を取候漁人より出候由外にも川々多し

一見取米

是は氣比庄川端不定畑より出し候由其場四五反に見ゆる出入有之出候樣に相聞へ候

一石切役

是は和田村より出る水鉢火入いろ〱の物を自由に燒物之樣に仕候加樣之石山外にも有之候由珍敷石也

一浦方より大網役舟役是はいにしへ有之候節出し候例にて出し候由今はあみは不仕候と申候

一右之外役儀山ある事無御座候

一北山村より四年目に山手代銀出し候は古へ北山村山之内十八箇所他村より所持候を福井より御取上け公儀山に成北山村へ御預候ゆへ出し候由

內藏頭樣御領內

丹生郡在々高書免附寫

亥壹つ九り六毛
子壹つ四り七毛

一高五拾七石壹斗　　有定村

亥壹つ三分六り九毛
子壹つ七分七り七毛

一高百八拾六石三斗四升五合　　下司村

亥壹つ五分三り五毛
子壹つ三分七り四毛

一高貳百七拾三石七斗三升五合　　鳥井村

亥壹つ七分九り九毛
子壹つ七分四り九毛

一高七百拾五石四斗　　當田村

亥壹つ六分六り九毛
子壹つ五分三り七毛

一高三百九拾五石九斗三升　　熊田村

亥貳つ貳分三り七毛
子貳つ壹分四り一毛

一高千三百八拾七石三斗四升　　平井村

亥貳つ貳分四り四毛
子貳つ壹分七り四毛

一高千五百拾九石四斗六升三合　　下大倉村

亥壹つ貳分七り四毛
子壹つ貳分壹り七毛

一高千百九拾三石七斗三升九合　　小泉村

亥貳つ八分九り七毛
子貳つ六分九り八毛

一高五百三石壹升　　持明寺村

亥貳つ七り五毛
子貳つ貳り五毛

一高千三百七拾貳石壹升六合　貳町掛村

亥三つ五分六り七毛
子三つ四分六り七毛

一高六百九拾石六斗貳升　下氏家村

三十丁八反七畝廿一分

亥貳つ五分六り八毛
子貳つ三分九り八毛

一高五百拾石五斗八合　上氏家村

亥貳つ三分九り八毛
子貳つ貳分九り八毛

一高三百七拾三石壹斗壹升　上野田村

亥貳つ八分四り八毛
子六つ六分九り八毛

一高千八拾四石貳斗三升　下野田村

亥三つ九り六毛
子貳つ九分九り六毛

一高五百五拾八石七斗　和田村

亥貳つ七分九り九毛
子貳つ六分四り九毛

一高千三百七拾四石六斗八升四合　余田村

亥貳つ四分九り八毛
子貳つ貳分九り八毛

一高七百貳拾壹石三斗一升　本保村

亥三つ九り七毛
子貳つ九分九り七毛

一高千百四拾三石一斗五升一合三勺　片屋村

亥貳つ六分四り九毛
子貳つ七分九り九毛

一高四百五拾七石四斗五合　丹生郷村

亥壹つ八分四り九毛
子壹つ四分九り九毛余

一高貳百六拾石貳斗　高森村

亥三つ壹分九り八毛
子三つ九り八毛

一高五百參拾壹石五斗八升一合　四目村

亥貳つ三分五り一毛
子貳つ二分三り八毛

一高七百拾石七斗五升　上太田村

亥三つ八分九り九毛
子三つ一分九り九毛

一高七百八石貳斗貳升　下大虫村

亥三つ四分九り八毛
子三つ三分九り九毛

一高八百八拾貳石八斗三升六合　上大虫村

亥貳つ九分九り七毛
子貳つ八分九り七毛

一高貳百壹石貳升三合　三俣村

亥三つ七分九り八毛
子三つ六分九り八毛

一高四百六拾石八斗九升四合　横根村

亥貮つ五り八毛
子壹つ八分八り六毛

一高九百四拾六石七升　　北山村

亥二つ五分四り八毛
子二つ三分四り八毛

一高八百八拾石八斗　　八田村

亥壹つ一分九り八毛
子壹つ九り九毛

一高百貮拾石貮斗六升貮合　　八田新保村

亥壹つ
子九分

一高八拾三石五斗壹合　　北山村

高合貮万貮百四拾九石九斗三升三合三勺

取　四千八百五拾四石一斗一升三合　　亥貮つ五分壹厘 子貮つ三分九厘七毛

拂方　貮万百拾壹石七斗七升四合三勺　　但百石に五（一字不明）

一米千五石五斗九升壹合　　夫米

百三拾八石一斗五升九合

一同七拾貮石三斗五升五合五勺　　山手

一同五斗五升六合　　大工役

小以千七拾八石五斗貮合五勺

一銀七拾八匁　　山手

一四拾七匁八分八厘　三把木役
一拾匁　笊籠役
一拾四匁　紙舟役
一廿貳匁五分　室役
一拾三匁六分　かち役
一四匁　桶や役
一六匁　石切役
一油壹斗三升八合　油役
　此銀四拾四匁七分一厘　但一升に付三匁貳分四り
總高壹万八千五百九拾二石貳斗壹升九合三勺
千五百拾九石五斗四升五合　百石に付廿俵つゝ
　同　六俵つゝ
一糠三千八百八俵　糠納
　此銀壹〆百四拾貳匁四分　但一俵三斗俵
右同　百石に付六十束づゝ
　同　八十四束
一藁壹万貳千四百三拾束　藁納
　此銀壹〆百拾八匁七分　但拾束九分作
小以銀二〆五百廿一匁七分九厘
馬場源兵衛殿支配下

亥三つ八分
三つ五分五り
一高七拾八石四斗四合　市村

亥三つ一分
貳つ八分五り
一高九百八拾八石三合　乙坂村

亥壹つ
九分一り
一高三百六拾壹石九斗五升　開發村

亥一つ四分七り
壹つ三分五り
一高千五百三石貳斗六升貳合　氣比庄村

亥壹つ壹分
九分
一高六拾六石八斗二升　道口浦

亥貳つ五分
壹つ七分
一高百貳拾三石七升八合　厨浦

子壹つ七分五り
亥貳つ五り
一高八拾貳石五升二合　茂原浦

亥二つ九分五り
二つ五分
一高五拾五石八斗七升三合四勺　高佐浦

亥三つ六分五り
三つ壹分
一高貳百拾九石四斗九升五合　中山村

亥三つ五分五り
三つ貳分五り
一高貳百拾二石九斗六升九合　旬當原村

亥貳つ五分五り
貳つ三分五り
一高貳百六石四斗六升八合　糖口村

亥貳つ三分二り
貳つ壹分
一高百拾三石五斗一升六合　千合谷村

亥八分
六分
一高九百八拾八石九斗八升四合　黑川村

亥壹つ
九分
一高百拾七石三斗一升六合　都邊村

亥壹つ
九分
一高百九拾七石五斗六升五合　杉本村

亥壹つ
九分
一高三百拾三石七斗三合　中野村

亥三分五り
壹つ二分
一高七百七拾五石四斗六升六合　小曾原村

亥八分五り
七分五り
一高貳百貳拾四石九斗四升　熊谷村

亥九分
九分
一高六百五拾三石七斗九升一合三勺　平等村

亥八分五り
八分五り
一高百八拾五石四斗六升三合　下河原村

亥八分
七分五り
一高七百貳拾壹石六斗三升五合　樫津村

亥壹つ六分四り
壹つ四分三り五毛
一高六百拾石六斗八升　寺村

亥壹つ一分九り
九分四り六毛
一高三百九拾九石八斗六升六合　上野村

亥五つ
四つ五分
一高十三石六升貳合　眞木村

亥九分
八分
一高百拾六石八斗三升　四つ杉村

亥一つ一り四毛
八分九り一毛
一高四百十八石八斗七升五合　宇須尾大谷村

高合九千七百五拾石六升六合七勺

取千三百四十二石七斗三升八合　壹つ三分七り七毛

米　貳斗九升五合

一米三百廿九石五斗七升一合六勺

一米百石七斗五升一合三勺

此　譯

五十八石九斗貳升五合三勺

十六石三升五合

十三石七斗三升四合

十石五斗五升三合

壹石

五斗四合

一銀貳〆六百七拾三匁八厘

一銀壹〆貳百八十九匁八分

內　品

一銀三百八匁四分

一銀三百五十八匁九厘

一銀三百目

一銀九十八匁五分一厘

見取

夫米

小物成

山手

大網納

馬借米

舟役

塩湊地子

大工役

夫銀

小物成

糠納　此糠　千廿八俵壹分　壹俵　三斗俵

藁納　此藁　三千九百七十八束八分　但十束九分替

役塩

塩湊地子

一銀十八匁　　　　役　灰

小物成所

一銀貳匁五分　　室役　　下大倉村
一米壹石二斗三升九合　　山手　　上氏家村
一油三升八合　代十二匁三分壹り　　油役　　同村
一米貳石九斗四升五合八勺　　山手　　上野田村
一米貳斗五升貳合　　大工役　　下野田村
一銀八匁四分　　かち役　　同
一銀五匁　　室役　　同
一油八升三合　　油役　　同
一銀五十五匁九分　　山手　　和田村
一銀六匁　　石切役　　同
一米六石貳升五合五勺　　山手　　余田村
一銀五匁　　室
一米五石八升八合貳勺　　山手　　片屋村
一米九斗一升九合一勺　　山手　　高森村
一銀五匁　　室役

一米九石六斗三升六合　山手　四目村

一銀五匁　室

一油壹升九合　油役

一米拾貳石四斗六升五勺　山手　下大虫村

一銀四匁　桶屋役

一米十三石三斗七升九合六勺　山手　上大虫村

一同壹斗五升貳合　大工役

一銀十四匁　紙役

一銀廿五匁二分　かち役

一米三石六斗一升五合三勺　山手　三俣村

一米壹斗五升貳合　大工

一米四石貳斗八升五合　山手　横根村

一米四石四斗九升四合　山手　北山村

一米六石六斗九升五合　山手　八田村

一銀三十五匁貳分八厘　三把木役

一米壹石四斗七升五合五勺　山手　八田新保村

一銀十二匁六分　三杷木役

北山村

一銀廿二匁一分　山手

一銀十二匁　笊籬役

市村

一銀六匁　紺屋役

一銀一匁　川役

乙坂村

一銀七拾四匁一分　山手

一銀三匁　川役

一銀壹匁五分　茶代

開發村

一銀壹匁五分　山手

氣比庄村

一米貳斗九升五合　當子見取

一銀十三匁　山手

一銀三匁　川役

道口浦

一銀百九十壹匁三分　舟役

一銀百八十三匁七分　大網役

一銀百十二匁　御役

一米壹石壹斗壹合　山手

厨浦

一米七石六斗九升七合　山手

一米十四石九斗六升六合　大網役

一米三石四斗三升五合　舟役

一銀九拾五匁貳分五厘　舟役

一銀三十七匁三分　御役

一銀百九十八匁　三十三俵　役鹽

一米壹石九斗貳升四合　山手　茂原村

一米壹石五升九合　大網役

一米壹石七斗壹升八合　舟役

一銀四拾七匁六分五厘　舟役

一銀十八匁七分　御役

一銀十壹匁　室役

一銀百貳匁　鹽十七俵

一米八斗三合　山手　高佐浦

一米壹石　鹽浦地子

一米五石四斗　舟役

一銀三十四匁　御役

一銀百四十二匁九分　已（一字不明）銀

一銀百匁　鰮網役

一銀八匁八分 かち役

一米壹石三斗三升九合 山手 中山村

一米六石八斗六升七合 馬借役

一米六石五斗六升壹合 山手 匂當原村

一米六石八斗六升七合 馬借米

一米貳石一斗七升貳合 山手 楝口村

一米貳石六斗一升壹合 山手 千合谷村

一銀四匁 炭役

一米拾石五斗四升四合 山手 黑川村

一米五斗五升六合 山手 都邊村

一米壹石壹斗壹升貳合 山手 杉本村

一銀拾五匁 室役 中野

一米壹石三斗九升 山手

一銀三匁 室役 小曾原村

一銀八匁四分 かち役

一米四石三斗五升八合 虫喰不明

一銀廿五匁 かちす

一米貳石五斗貳升三合　山手　熊谷村
一銀拾壹匁三分　炭役
一銀拾九匁九分五厘　三把木　平等村
一銀四十匁　瓶役
一米三斗四升九合　山手
一銀五匁　室役　下川原村
一米七斗五升五合　山手
一米壹石九斗一升九合　山手　樫津村
一米五石八斗一升八合　山手　寺村
一銀貳匁　桶屋
一銀三匁　室役
一銀廿七匁七分　三（虫損不明）
一米壹石三斗七升貳合　山（虫損不明）　上野村
一銀十七匁六分　三把木
一銀十三匁　山手　眞木村
一米五斗四合　大工（四人分の由）
一米五斗八升九合　山手　四つ杉村

一米三石四斗三升八合　　　　山手　　　　宇須尾村

一銀廿六匁六分　　　　　　　三把木

總躰覺書

一越前地面地性稲立毛共能上國に見へ候へ共麥も不作所山々は百姓また其上空地少く目立候新田[一本反](所)も無御座見分とは違ひ御所務少き所と奉存候

内藏頭様御領

一五十七ヶ村の内十五六箇村大(不明)撿帳有之其外は無御座候得共總高は大(不明)撿高之由にて書出し申候を郷帳高と引合候に同事に御座候間郷帳は皆々大(不明)撿高にて御座候哉と奉存候

右之内太田村高七百十石七斗五升の所大(不明)撿帳は無御座候本多元角撿地帳高七百廿七石三斗壹升七合と有之右之内より高五十石分府中本多元角殿寺龍泉寺へ納候由大様にては三十三石四斗余不足候と申候得は此方七百十石七斗五升の内にて高六十石余今迄の通川欠に御引被下候得は能候と庄屋申候尤御手代衆より上太田村にて五十石龍泉寺領と書付渡り候由に候得共川欠も左様に見へ不申候得は本多元角殿御自分に御付候も拾貳年以來若不吟味は無御座候哉此御方御損之様に奉存り候此段御役人衆連に荒場に御心付可被成候様に被仰候

一右之外除地所々多く書付御手代衆より渡り候由大(不明)撿高にて渡り申儀に候得は大(不明)撿帳に除地と御座候其通其外地頭撿内撿村々にて除地是又役人衆御心付可被成様被仰候

一大(不明)撿高を用ひ申國に候得は學詰り候はゝ改畝引荒と爲仕大(不明)撿帳を急度用ひ可申處心まゝに内

撿仕盛を高く仕り新田も不知様に百姓極意の所をなめたらに仕なし其上福井御領之內給人衆直免に御出し候ても納所不成候と申候得は免をも御免し候しかた之由十二年以來御藏所に成候ても年々免合江戸へ御伺候に付近年にても俄に下り候得は御不審有之候に付豊年に上り候事もなく年々と下り候由にて五年以前と去年（不明）壹つよも落候積之由出入も急度被仰付候儀は江戸へ御伺候ても六箇敷候ゆゑ諸事下より願書させ願にて被仰付候御しかたの由前々より右之通之御掟故下々迄諸事我かまゝの風俗に成候はくちなとも仕候所之樣內證承候

但銘々山林なと少々も盜候事も無之あいさつに諸事行儀つよく正直に見へ申候間自然にきひしき御掟御見せ候はゝ風俗も能成可申候心入も直り可（不明）麥無之候共免合三つ四五分四つにも成可申積と奉存候

一當米は藏本へ渡し御納所方は來年十月迄にかゝり納候に付郷藏へ米入候事は無之樣に申候身體不成候ものは左樣之品も可有之儀に候處一へんに（年）（本のまゝ）はたりと申候は未進と申には御座有間敷候とかく勝手之事計申所に候得は手代を在中へ入先在中とさからいなく下々諸事仕方見屆夫々筋道わかり候樣に被仰付方にて可有御座候哉

一來年より物成帳小入用帳手代へ御見せ下々仕方地（不明）內多少（不明）事なと御見考させの方にて可有御座候哉

一御取立方今迄之通組頭に被仰付候て手代も御へし候積に候得共下々より組頭幷に庄屋を疑申所に候得は御取立は先今迄之通に御座候共手代（不明）其まゝ御置村々へ御入庄屋のしかたをも御見せ叉は

表向あしく見へ裏向は違候樣に被存候處に候得は下々之儀手代へ能々御見せ候て來年より御工否本のまゝも被成安く下之もの共疑もやみ可申哉と奉存候

一田麥無之所畑も少き所に候得は本田畑に付いか樣に被仰付能可有御座との見當り無御座候總て空地少き所に候得は御爲に成候新田場も見へ不申候山はしに少つゝの場所は御座候得共銘々內林し山手を出し申て不明其上人相應に作多く候得は新田被仰付候共御德用も有之間敷哉に奉存候

一御普請方も破損所御繕自然に日損仕候所之地なと少つゝ被仰付其外は御見合之方にて可有御座候哉

一小入用銀方は高と不明半分つゝ夏冬兩度に取立不明役は大家小家共不明借遣捨之由右掛り無高之小家にても一年に七八斗つゝ出し下々迷惑候由申候作之外か不明多く所は左も可有御座候得共作斗之所右之仕方にては他より參有付候ものなく小百姓段々減し申筈に御座候たとひ仕來に候共御直させ候はゝ家作不明多く成能可有御座候哉と奉存候

一奉公人紀州にて八九拾目も取候もの五十目くらひにて有之積に相聞へ候連々は御扶持人其外も越前にて御抱の方にて可有御座候哉

近江中の河內さ越前板取の間　國境しやし峠より　大道筋九里

御領內北山村迄丹生郡此度役人落着所

右北山村より御領內へ道法

一東へ貳拾町ほと　但府中より廿四丁

一西へ五六里　他領さ入組浦方有　但いくら北山へ八里ほと

一南へ壹里ほと　　一北へ貳里半ほど

同所より舟路迄其外へ

一川舟路　白鬼女迄　一里余寅卯方

一海方　三國湊迄川舟にて十一里子の方

一往還　府中迄貳拾四丁辰の方

一つるか迄　十一里未の方

主税頭様御領内此度役人落着所

一笹屋村迄　四里

右同所より所々城下幷御代官所へ道法

松平兵部殿家老 本田孫太郎　貳萬石　北山より廿四丁辰の方　府中

松平兵部大輔殿　貳拾五万石　同所より六里丑の方　福井

松平内匠頭殿　五万石　同八里丑の方　松岡

有馬左衛門殿　五万三千石　同九里丑の方　丸岡

小笠原土佐守殿　貳万三千石　同十三里丑の方　勝山

土岐伊豫守殿　貳万五千石　同四里卯の方　野岡

土井甲斐守殿　四万石　同十四里卯の方　大野

御代官古部文右衛門在所　同壹里半卯の方　鯖江

同　馬場源兵衛在所　　　同二里余丑の方　石田

同　完倉與兵衛在所　　　同九里丑の方　舟寄

内藏頭様御領内在中は

一里方と見へ申候南上大虫村より北乙坂村迄三里余横一里程之内少は他領も入くみ候得共大かた御領つゝきにて村三十一箇村此高貳万貳千石余此所は日野大川きわより西殊に府中白鬼女鯖江石田と申候津の近邊往還へも近く別て右村々一面のなるみ所不珍敷地面地性能所と奉存候

一浦方は四浦にて高三百三十石内西表に海を請東山根に有之浦濱には大石多く海遠淺にて大舟も付不申只今は大あみも不仕小舟にてつり漁仕鱈しいらあわひ貝の類を多く取申候由厨浦にて貳町余茂原浦高佐浦にて一貳町つゝ右之間にて鹽濱仕女子供是を第一にかせきに仕候作所は岩の間高山の原に有之畑作にて御座候道口浦高佐浦へは府中并山中よりの通河有之浦から様子能見へ申候茂原浦厨浦はきひしく見へ申候

一山方は廿二箇村にて高七千六百七拾石余其内熊谷貝木いくら北山四杉中野此五箇村にて高六百五十石余の所は高山の谷深き山中にて御座候其外十七箇村にて高七千廿石余の在々は山方にても平地の谷村柄も里方より能見へ申候

丑三月　勢州見分覺書

勢州地性は黒ぶく土輕く稲株少く紀州にては中以下之地性麥作は紀州同前の地と奉存候見分推量

松坂之内

山方五合程　山肥目苅有之作成安く山稼も有之所
地面下　地性上　麥作上中　村柄中　作仕形能　第一他町相應に家人多く見へ申候
往還筋二合程　海川近く商人道筋稼も有之所
地面上　地性中　麥作上　村から中　作仕形能
國中ひろみ三合程　野相廣く沼黒ふく惡取外の稼も少き所
地面上　地性下　麥作下　村柄下々　作仕方惡し　第一地町相應より家人少く
松坂白子　一志郡　雲出川筋道山の稼も有之
地面上　地性上　麥作上　村柄中　作仕方もよく　他町相應に家人も有之
田丸之內
七合程は　山方海方諸事大躰によく候由
國中ひろみ三合程　田丸邊一里四方ほと別て村柄惡敷見へ申候
地面上　地性下　麥作中下　村柄下々　作仕方あしく　第一他町相應に家人少し
右松坂三合の惡所は村柄惡敷見へ申迄に御座候得共田丸領三合之惡所別て田丸邊草臥多く奉公人其外上け地多御年貢相對にて作人無之隣在へも割付作らせ候由殘惣作人はよはり候由此段申上候とても御承引無之上はひしとつふれ候とても無是非と下役人も捨むちの心得に內證相聞へ申候
一作方は今少し修理肥にて一石出來之地にて一石三四斗も有り少しおろかにて七八斗も有兼申物ゆへ一人前に五反作り候を四反作候能作に德有之由又惡田にても年々修理肥能仕候地は上田にも成

悪敷作り候地は下田にも成候由

一紀州にても不同は有之候得共村田地見合家一軒に五六反より七八反に見へ申候勢州ひろみにては家一軒に貳町よも作り候様に見へ申候然は其身分ざひより多く作り地に徳を取せ村からも悪敷候哉

一壹人前四反つゝ作り候上田之有米は一反壹石五斗つゝにて總米六石下田は一反一石つゝにて總米四石右上田の四分は貳石四斗下田の四分方は壹石六斗指引八斗下田の作人損此痛も候哉右の心得は免にて御了簡御座候哉

一近年之痛と申候は不作ゆへに候や又は右ひろみの所々には空地大芝場多く十四五年以來ぬたのゐゝに村邊にて新田畑大分ひらき候由其邊本田さへ作り兼候に新田畑に心を寄其身のほとも不知新田畑にも取付兩方とも荒し候事は不成作りくさし徳無之近年痛候哉本田方以前は御年貢相對にて作人有之候得共今は下作人無之と申候時は右之通にも御座候哉と奉存候

一人少く本田をも作り兼候所にて打返り新田なと被仰付候得は其村草臥申品も有之本田を能作り候所にて新田なと被仰付候得は御徳用も有之下にもつのり申ものゝ由功者成人申されし右之心得を以存候時は新敷御普請は御見合も入候事か右いつれもひろみ相應に人少く上下之御損用と奉存候其上右在中大痛之所も有之小破御繕之時節にも相聞へ申候御仕形は

一其村にて上田悪田をわけ村作に成候地も悪田の內へ入御年貢相對にて作人有之ほとに免御切わけ被下候様にと村中より願を出させ免御切わけ候儀はいかか可有御座候哉

但村中より願出させ被　仰付候てはさゝはり申儀も有之ましく候哉

一地町より家人少き所は御未進方は勿論其外にても其村之もの他へ出候事を御留候てはいかゝ可有御座候哉

沼田堀貫兩毛作之事

一所々仕形心を付見申候に松坂邊往還筋山中は作仕方は紀州のことく少之地も大切に仕候得共其外ひろみの村々は有來の地さへ作り兼修理肥も得不仕樣子に見へ申候壹石作り候地に五六斗作り兼德無之に付奉公日用かせきに出いよいよ人少く作仕形も次第にあしく成候哉と奉存候

一ひろみ在中にて少つゝ溝を堀候共麥地に可成所々多く見へ申候溝不堀候共麥地に可成所々有之候得共麥作り不仕所も多く見へ申候其内夏毛水不足所にて水田に仕置候所も有之候又は其地床より水わき麥作不成候所も可有御座候

此度川筋竹植場見廻り候に付他領共川筋仕形氣付申候趣

一別帳に書上け候所にには川はとも廣く廻り込溜り土も有之所又は古藪のはへ出し或は不明から流堤の根藪に被爲仕付候共川筋御搆にも成申間敷哉と奉存候所々にて御座候右之内土有之所は近々御植土少き所は先柳を御指置一兩年中土たまりを御見合竹御植候か見取場畑にも被爲仰付候御方可然哉と奉存候

一川々破損は向より之不明當りにて破損有之樣に見へ申候此心斗にて氣遣仕候時は竹生立申所も少き儀に奉存候

一川之當りにて欠入候向は川原高く御座候欠入の所に不明様を可被仰付候へは結句其邊は深く堀れ水勢をよひ惡敷見へ候得共其不明泥に川原を高く置此川原にて向に不明其所之やらかいと見へ申候諸竹木を生立候所は不明なしにも川原高く成候儀に付方々心を附見申候に

一他領之川筋空地は竹木を生立其所川原を高く仕るしかたに御座候寺領丁田九度山三谷麻生津にても川端へ段々植出し藪新畑等大分仕候御領分にても釆女様和泉守様御知行所布施屋村新在家前其外市脇村前堤外竹木茂りよく生立他領に不替品よく六分の藪出來堤も慥に相見へ申候其外少つゝにても竹木生立候所は其川原高く成川なみもよく見へ申候

一總て御領分は御指圖無之候へは植物は勿論捨かけ等下々不成候ゆへか川筋淺川に見へ大水之節直に水當り候へは堤も無心元見へ表に藪なと有之所の堤とは各別に見へ申候

一向へ水勢御遣し被遣候所は兼てより竹木御植させ候はゝ大造成不明の代りにも成可申樣に所々見合奉存候柳は一間も堀込植貳三尺上を出し置候得は生立能物に御座候へは少々當り之小口に植候共其所植樣により生立可申儀と奉存候地頭より指圖も無之に寺領へ川端之百姓右仕方を見候に川原之内惡所にてもひくみにても初は柳を生立一兩年之内土たまり候得はなよ竹を植地面土たまりもよく成候へは外へ植出し内は畑に仕候て能藪にも仕立申候

一水當り不明にてつよく御留候所は深く堀れ水勢落入申候に付泥にて不明候ても其所之川筋は直り兼申候草木生立候て御留候は水のさからいなく漣々と川筋能成候樣に見へ申候得は所により竹木生立候はゝ以後は不明籠の代にも成可申哉と奉存候

一川端空地に竹木生立畑なとに仕候ては牛馬養ひに構候と申ものも可有御座候少つゝ草はへ有之所へ竹木生立其枝葉にても芝の代りは有之積雜木植候は畑に仕候其德は芝の代り五わりも多き積と奉存候寺領とても牛馬は有之候得共竹木生立候樣子に見へ申候

右之通委細御心被爲付所々御見合竹木御植させ被遊候はゝ連々川筋やふうかひ共成又は一字不明棧の代り共成御普請も少く成其上被爲仕付候品々により御物入もなく新畑藪等大分出來山方にて新田畑被爲仕付候より御德用も多く可有御座と奉存候

六　月

元祿十一寅春

勢州にて覺書

勢州地方存寄

一土地紀州は土重く作物出來にきく候得共實入吉勢州は土輕く立毛出來安く候得共實入惡敷其內黑ふく所三ヶ一も有之別て實入惡敷沼田は三四箇一有之紀州とは二わり方も惡所と奉存候

一村柄百軒の內

紀州は　十　軒　上　六十軒　中　三十軒　下

勢州は　貳拾軒　上　三十軒　中　五十軒　下

右之違は紀州は作之外能事は無之と心得勢州は江戶方に商方へ一村より五十百人つゝ參候を能事と心得作方につましき心入無之ゆへ下百姓多く紀州より一二わり方村柄惡敷見へ候樣に奉存候

一心入紀州より正直に見へ申候其內白子田丸は役人申次第を請松坂は好願を申心得に奉存候

但田丸は請候内にも悪をふくみ居請候哉と存候松坂は我意を立願好申方多く候様に見へ申候

一渡世風俗は商奉公に參其もうけ銀を取候はねは不成候と心得子供三人の內貳人は江戶へ遣し候仕形右他へ百人參り候內廿人はかね持に成無左ものも少つゝ之銀をも取集能品に見へ候得共其代り作方につましき思ひ無之一步のもみ壹升に可作を八合にも作り兼御免相一つくらひ一二万石つゝの御損用も有之候哉

一紀州は地方をつましく仕候ゆへ畑返り新田ひらき畝町直し荒起自分普請多く地方に付下々稼有之に付人も多く候勢州は右之通之所故地方に付かせき無之所と奉存候

右之心得成所ゆへ作方之御損用有之候哉作能仕候は人多き所人多く成候は下々稼多き所と奉存候然は其村へ少々之物にても取込下々稼き多く成人もまし第一かせきつよく作方に思ひ付精を出し候御仕かけの仕方とかく作方善惡に付御損德有之御儀に奉存候

右存寄

一兼々被仰出候通り譲り作方はけみ毛付旬なと違不申候様村中相互に牛馬のかしかり人雇等心を合可申付候作方不精之所村之內にも仕形不同不精之田畑も相見へ候是は其身煩候か品も可有之候得共庄屋肝煎不心得にて相互に不申付ゆへに候其上かせき油斷に見へ候所も有之候自今は右之品急度改庄屋肝煎越度に可申付候

但右之通□□□(三字不明)毛付前には郡奉行衆より被仰付御方と奉存候

一小役人大庄屋一箇年に四五度つゝ在廻り被仰付仕形惡敷田畑ふはたらきもの不精の所見改郡奉行

衆より御とかめ候御方と奉存候

一御普請方近年被仰付候通備前年御改日用四分所人足六分にて一人前一升一合三勺に當る是にて春中作之間其村にて可成ほとは其村へ急度申付渡し切其村にて不成候へは本日用にて隣在へも申付それにても不成所并百姓手わざに不成候分を御考郷役人御抱之方と奉存候

但仕様書に念入仕形見廻り出來場改役人は今迄之通入可申候

津領には近年郷役人もなく右之心持に渡し切に仕在中のつよみに成候様に申候

一田畑荒候時は地起し普請を改其入用に准其地御年貢年數を免し百姓作之間自分普請に被仰付候御方と奉存候

但如此被仰付候はゝ當分御普請御物入も減し可申様に奉存候

一新田畑盛を百姓願次第御見合御下け被遣作之間自分起しに被仰付候御方と奉存候

但如此被仰付候はゝ銀をも持候ものは後の徳分を考新田望可申儀と奉存候

一勢州土地と越前土地同前黒ふく多く御座候越前には油木を植大分之所務有之候尤勢州にも油木少々有之そたち能見へ申候大分之空地所々候へは油木茶竹随分植候様に被仰付候御方と奉存候

但百姓の心得なり木竹植候て能事とは可存候得共其なり木其地相應之品五六年にも難見得候處三年目に竿御入御年貢入候に付若なり木不相應之時は永々御年貢迷ひ候事をいやかり植不申候哉と相見へ候得はなり木竹植候畑は御竿入五六年御延盛も五分下なり木そたちを見合御定可被下と被仰付候御方と奉存候

一御普請所其外御用付出し候人足之事村々にて其日作り方かまいに不成候ものを改出し候様に庄屋肝煎常々相心得可申事

右之通被仰付候はゝ作方に思ひ付新田畑植物も出來下々かせきも多く成作も能可仕儀と奉存候

新地被仰付候見立心得

一先作人を見定水掛り地平を後に積り候心得之所と奉存候

一其所本田作り兼候所にて新地多く被仰付候はゝ本田不作村よわり御損可仕候ヶ様之所は他より入人被仰付候御方と奉存候

一悪所にても村里へ近き所人も多き所は見立より能成村里へ遠き所作人少き所は御損用と成

一新地百姓自分普請急に申付候得は作人草臥申候日をのへ作之間に爲仕候得は不痛

一作人は壹町の内七八反は田貳三反は畑と持合候ものは不斷のかせき有之ゆへか渡世よし片毛作なと片付所持候ものは算用之外渡世悪し

一田作は修理少く畑は修理多く入申に付人少く作仕兼候所之畑は田に爲仕よく候

右は勢州人少く作仕兼候所故右之心得入申所と奉存候

丑四月

寅年中御普請人足中勘定

丑極月御極當新規入共積立御入用

一米千三百貳石余　三領分　一志新井共

此人足八万七千八百八拾人
内　正月より四月十六日迄　出來御普請御入用
七百七石余
此人足五万三千六百八十一人
内八拾貳石七斗三升　願人遣賃米
此人數六千九百七十三人　平一人壹升一合九勺
内三千百三人　平壹升八勺　田丸
五百七十四人　同壹升五勺　松坂
貳千八十六人　同壹升壹合　一志
千貳百十八人　同壹升貳合六勺　白子
附紙　願人多き樣に相聞候に付御米二三百石も入可申大積に御座候處右之通ならでは出不申候ゆへ本日用多く遣申候眞實の弱人は少く候哉と奉存候茶時分作前故四月十五六日より出不申候
百四拾石七斗三升　本日用賃米
此人足八千貳百七十八人　壹升七合つゝ
内六千三百七人　松坂
千九百六十二人　一志
八人　白子

百石七斗六升　　所人足御扶持方　七合五勺つゝ 三領分

此人足壹万三千四百三十五人

百五十八石六斗七升　　一志新井本日用賃米　壹升七合つゝ 一志郡松坂より

此人足九千三百三十三人

三拾貳石九斗壹升　　同所にて所人足　七合五勺 一志郡にて

此人足四千三百八十八人

外百九拾壹石六斗五升此肩壹万壹千貳百七十四人鄕役人内貳千八百九十五人は新井にて遣

正月より四月十六日迄三領

米小以五百十五石八斗　　在中へ渡す

此人數四万貳千四百七人

附紙に此四万貳千四百七人其身飯米七合五勺つゝ引殘米百九拾七石余是を家に持歸り妻子壹人に三合つゝの飯米にして人數六万六千人の納尤弱人と申は少く候得共御普請所へ出申ほとのもの共は飯米不足之筈に候得は都合十万八千人之御救と奉存候

四月十六日以後

殘御普請御入用

四百七石貳斗余

此人足貳万八千四百七十七人

内七千九百七人　　田丸殘

壹万三千百四十人　松坂殘
貳千八百人　一志殘
四千貳百人　白子殘

春普請之内

指引百八十八石余　減し米
内四拾五石貳斗　減　田丸
是は貳千五六百人日用にて可仕を所人足にて村渡しに被仰付候減米貳拾四五石其外は遣出しと見申候
貳拾石五斗七升　減　松坂
是は見入田池所替にて千人余減其外日用にて可仕所を所人足にて村渡しに被仰付候減米よほと有之筈に候處以方水下之普請費にも有之に付指引如此御座候
拾六石五斗五升　減　一志
是は竹木入用所人足不入候減八九石村渡し之内減し其外は遣出しと見へ申候
貳拾三石九斗　減　白子
是は去年十月積之内年内出來所千人余の減し其外は遣出しと見へ申候
九拾石六斗余　減　一志郡新井にて
是は古井三寸たれを二寸たれに直しにて五拾石余減其外は遣出しと見へ申候

秋冬之内　　　　　　　　　　郷役人肩余り

五千九百五十五人

内五百人余は余り申積立

貳千七百七十人　　　　田　丸

千貳百五十六人　　　　松　坂

千六百十七人　　　　　一　志

三百十貳人　　　　　　白　子

此米九拾石余　　　　　減米に成

附紙に願人多く秋冬普請を春へくり越申ゆへ又は郷役人可仕處を村渡しに成候故肩余り申候然

共春中御物入不増候得は是も春中減米と奉存候

右減米合貳百七拾八石

右之減は元私積違多き故と奉存候然共春中は願人も多く御物入も増可申様に見へ申候處郡々御役

人様方御費無之様に委細被仰付御普請方役人中も銘々はけみ被申ゆへ御物入も減し候様に奉存候

御役米筋

郷役米貳千貳百石余　　　三領分一志新井共

一米千百石余　　　　　　年中御入用

是は秋冬臨時御普請五六千人分被仰付候ても右御入用米にて年中分相濟可申積に奉存候

内七百石余　　三領池川溝常式御入用

殘四百石余　　新規御普請御入用

外百石余　　銀方本斗筋入用可有御座候

此所に

一志新井　　旱損所田貳百八十二町 畑返り七十町 新田十丁出來取廿四石

田丸 中角池上置　　新田三町八反出來取拾石

田丸 齊田新井　　畑返り三町

一志 木造地平溝　　新田畑貳町貳反出來取三石五斗

松坂 見入田新池　　旱損所六十七町

同 黒野池廣　　同五拾町

右御德用

一米三十七石五斗　　新田拾六町御年貢

一同百三十石余　　畠返り七十三町畑を田に仕一歩のもみ作ましにして

一同三百五十九石余　　旱損所三百九十九町一歩のもみ壹合作增にして

合五百貳拾六石五斗　　二三年の内年々御德用に廻り可申奉存候

右は大積に御座候以上

寅四月　　大畑才藏

元祿十一年正月

勢州一志郡新井水盛人夫大様積

四拾七間川原　　川水上八尺七寸四分
　　　　　　　　下三尺三寸六分

一 一五尺三寸八分堀見當

此　堀　　一わり五分床貳間

下堀五尺三寸八分　　上口四間四尺一寸四分

中同五尺四分　　上口四間三尺一寸二分

川はき付水はこひ見合□□□□（不明）堀中積

折合深三尺五寸　　横貳間五尺二寸一分

此土七拾八坪六合　　間に壹坪六合七勺

人足三百十五人　　四人かゝり

貳拾貳間川原堤内　　上六尺八寸七分

一 二壹丈四寸三分堀見當　　下貳尺八寸貳分

内壹尺一の扒落し　　中六尺三寸九分

内　堀　　深五尺八寸六分

拾間堤外扒前　　上口五間貳尺六寸　床貳間半　折合三間五尺八寸

此土三十八坪　　間に三坪八合

人足貳百廿八人

同石拾坪

人足貳百人

拾貳間一の扨所

此土百三拾貳坪

人足千三百貳拾人

同石八坪

人足百六十人

人足貳百人

一扨長四間內法

五拾間畑

一三六尺壹分堀見當

內壹寸三分込

此　堀

下堀　六尺壹分

中同　七尺六寸六分

上同　壹丈四寸三分

六人かゝり

扨表兩かわ共石垣

貳拾人かかりつき共

深貳間土臺共床（上口八間半 貳間半）折合五間半

間拾壹坪

十人かゝり

樋尻兩かて石垣

同所樋の上置土　川表直し共

（壹間半に高貳尺三寸）

上六寸

下五尺一寸五分

中三尺四寸五分

（壹割五分床壹間半）

上口四間三尺三分

同　五間二尺

同　六間四尺貳寸九分

折合堀八尺三分　　横三間三尺一寸 間四坪七合
此土貳百三十五坪
人足七百五人　　三人かゝり
一馬道壹つ
人足三十八
六拾間田
一四四尺三寸七分堀見當　　上貳尺貳寸五分
下四尺五分
内壹寸六分込　　中四尺五分
此　堀　　一割二分五り床九尺
下堀四尺三寸七分　　上口三間一尺九寸三分
中堀四尺三寸七分　　上口同
上同六尺壹分　　上口四間三分
折合堀四尺九寸貳分　　よこ貳間三尺一寸五分 間に貳坪七合
此土百貳拾四坪貳合
人足三百拾人　　貳人五分かゝり
一内法五寸の掛樋貳つ
人足貳拾五人　　兩土臺石垣

六拾五間半田

一五 三尺六寸四分堀見當

内一寸七分込

此　堀

下堀三尺六寸四分

中三尺六寸貳分

上四尺三寸七分

折合深四尺貳寸一分

此土百九坪四合

人足貳百七拾四人

一内法壹尺の掛樋壹つ

人足貳拾人

一馬道壹つ

人足貳拾五人

六拾間荒場

一六 七尺六寸九分堀見當

内壹寸六分込

上四尺五分

下四尺九寸五分

中三尺八寸八分

上口三間壹寸

一割貳分五り床九尺

上口三間貳尺五寸五分

上口三間一尺九寸三分

よこ貳間貳尺三寸
間に壹坪六合七勺

土大荒場へ

貳人五分かゝり

土臺石垣

渡り人は壹つ橋

右同

上七尺六寸九分

下三尺八寸

中三尺六寸三分

此　堀

下深七尺六寸九分

中　七尺七寸七分

折合深七尺七寸三分

此土貳百六十五坪貳合

人足七百九十六人

一馬道一つ　馬は谷渡り　人は壹本橋

此人足三十人

貳拾間荒場外三尺込

一七四尺貳寸八分堀見當

内五分込

此　堀

中堀七尺貳寸四分

上　七尺六寸九分

折合深七尺四寸七分

此土八十四坪

人足貳百五十貳人

一割五分床九尺

上口五間貳尺一寸

上口五間貳尺三寸

よこ三間貳尺六寸　間に四坪四合貳勺

三人かゝり

土臺石垣

上壹尺七寸九分

下五尺二寸五分

中貳尺二寸四分

一割五分床九尺

上口五間七寸貳分

上口五間貳尺一寸

よこ三間貳尺貳寸　間に四坪貳合

三人かゝり

三十七間畑谷迄

一八六寸六分築谷見當　　上五尺二寸五分　下壹丈貳寸八分　中五尺九寸六分

内九分込

此　堀

中堀三尺五寸七分　　一割二分五り床九尺　上口貳間五尺九寸貳分

上　四尺貳寸八分　　上口三間一尺七寸

下　三尺壹寸三分　　上口貳間四尺八寸三分

折合深三尺六寸六分　　横貳間壹尺六寸間に壹坪四合

此土五拾壹坪八合

人足百四人　　貳人かゝり

六十間沼田谷越共

一九五尺壹寸四分堀見當　　上六尺三分　下五尺三寸九分　中五尺三寸三分

内一寸六分込

此　堀

此所沼田にて四分のつきに成兩堤長百廿間 高四尺 横八尺 此土百八坪入候得共同所深堀に土を用ひ申
ゆへ積に除但敷地間に六坪八合入申積

右芝手入用

此芝貳拾四坪　　壹坪拾五人つき共

人足三百六十人

一千貫關　壹つ　　高五尺 横壹間半つゝ

是は土臺松木前後造り石見合

一惡水吐埋樋長七間內法　　よこ壹間 高　二尺

此人足四十人

此人足五十人

七間半大堤の內

一十壹丈四寸九分堀見當　　上 壹丈貳尺七寸四分 下 七尺三寸九分

此所長なるみは土はんへ込外

堤土貳拾五坪

人足五十人　　貳人かゝり

五拾間田堤共

一十一　九尺七寸九分堀見當　　上三尺四寸 下四尺貳寸 中三尺五寸三分

內壹寸込

此　堀　　一割五分床九尺

下堀九尺七寸九分　　上口六間貳尺四寸

中同壹丈四寸一分　　同　六間四尺貳寸三分
上同壹丈四寸九分　　同　六間四尺四寸七分
折合深一丈貳寸三分　　横　四間三寸五分 間に六坪九合貳勺
此土三百四拾六坪
人足千七百三十人　　五人かゝり
一二の圦長拾壹間内法　　横　壹間半に 高　貳尺三寸
是は圦尻用水溝下共
人足五百人
是は圦床堀埋堤芝手共　但樋上の土井堀土可殘積
五十七間田
一十二　八尺　見當
内八分込　　上二尺九寸九分 下四尺八寸六分 中三尺六寸五分
此　堀
下堀八尺　　一割五分床九尺 上口五間三尺
中同九尺一寸七分　　同　六間五寸一分
上同九尺七寸九分　　同　六間貳尺三寸七分
折合深八尺九寸九分　　横　三間四尺四寸八分 間に五坪六合一勺

此土三百十九坪八合
人足千貳百七十九人　　四人かゝり
一馬道　壹つ
人足六十人

六拾貳間
上　一尺二寸九分
下　四尺八寸九分
中　三尺六寸三分

一十三　四尺五寸三分堀見當
内壹寸三分込
此　堀　　一割二分五り
下堀四尺五寸三分　　上口三間貳尺三寸三分
中同五尺七寸貳分　　同　三間五尺三寸
上次同六尺五寸一分　　同　四間一尺貳寸七分
折合深五尺五寸八分　　横間に 貳間四尺 貳坪四合八勺
此土百五十三坪八合
人足四百六拾壹人　　三人かゝり

五拾貳間田宮の前
一十四　貳尺一寸三分堀見當
上　三尺四寸五分
下　五尺九寸貳分
中　四尺

内　堀

上四十間　深四尺貳寸六分

此土六拾八坪

人足百三十六人

下拾貳間　深貳尺一寸三分

此土七坪九合

人足拾六人

一馬道　壹つ

人足四十人

一内法八寸の掛樋壹つ

人足貳拾人

五拾六間田

一十五 三尺一寸八分堀見當

此　堀

一割貳分五り床九尺

上口三間一尺六寸

横折合貳間貳尺三寸

間に　壹坪七合

貳人かゝり

一割床九間

上口貳間一尺三寸

横折合壹間五尺一寸

間に　六合六勺

貳人かゝり

土臺石垣

右同

上四尺三寸四分

下三尺貳寸九分

中三尺八寸七分

下深三尺一寸八分
中同貳尺六寸
上同貳尺一寸三分
折合深貳尺六寸三分
此土四拾七坪六合
人足百拾九人

六拾八間田

一十六 五尺六寸九分堀見當
内五分込
此堀
下深五尺六寸九分
中同七尺五分
上の次同五尺六寸五分
折合深六尺一寸三分
此土百九十四坪
人足五百八十二人

一内法五寸掛樋貳つ

一上口貳間三尺四寸 割床九尺
同 貳間貳尺貳寸
同 貳間一尺三寸
横壹間五尺六寸 間に八合五勺

貳人五分かゝり

上七尺五寸七分
下五尺一寸壹分
中三尺七寸

一上口三間五尺貳寸 割貳分五り床九尺
同 四間貳尺六寸
同 三間五尺一寸
横貳間四尺七寸 間に貳坪八合五勺

三人かゝり

人足四十人
一歩道壹つ
人足貳拾人　土臺石垣
六拾間田　上壹尺八寸
一十七　三尺四寸三分堀見當　下四尺一寸一分
内五分込　上の次二尺五寸五分
此　堀　一割床九尺
下深三尺四寸三分　上口貳間三尺九寸
上の次同四尺九寸四分　上口三間九寸
折合深四尺壹寸九分　横　貳間一尺貳寸 間に壹坪五合四勺
此土九拾貳坪四合
人足貳百三十一人　貳人五分かゝり
一埋樋　壹つ　長内法　よこ壹間半 高　貳尺三寸
人足拾人
一悪水貫壹つ　長四間内法　横壹尺五寸 高　壹尺
人足拾人
一馬道　壹つ

人足貳拾人

一千貫關貳つ　横壹間半　高三尺

人足六十人

四十四間

一十八壹尺壹寸四分堀見當　上壹尺一寸　下三尺四寸四分

内五分込　上次貳尺三寸七分

此　堀　一割床九尺

下深壹尺一寸四分　上口壹間五尺三寸

上の次同貳尺一寸六分　同　貳間一尺三寸

折合深壹尺六寸五分　横　壹間四尺六寸五分　間に五合

此土貳拾貳坪

人足四十四人

一内法四寸の掛樋壹つ　土臺石垣

人足拾人

一步道　壹つ

人足拾人　右　同

六十七間

一十九 三尺五寸三分堀見當
内壹寸込
此 堀
下深三尺五寸三分
中同三尺三寸七分
上の次同貳尺貳寸八分
折合深三尺六分
此土六十八坪三合
人足百三十七人
五拾四間田
一卄四尺六分堀見當
内五分込
此 堀
下深四尺六分
上の次同三尺七寸五分
折合深三尺九寸壹分
此土七拾五坪六合

上五尺九寸九分
下三尺七寸
中三尺八寸七分
一割床九尺
上口貳間四尺
同 貳間三尺七寸
同 貳間一尺五寸六分
横貳間 間に壹坪貳勺
貳人かゝり
上六尺三寸壹分
下五尺八寸三分
上の次六尺九分
一割床九尺
上口貳間五尺一寸貳分
同 貳間四尺五寸
横貳間九寸一分 間に壹坪四合

人足百五拾壹人　貳人かゝり
一馬道　壹つ
人足三十人　土臺石垣
一内法四寸掛樋壹つ
人足拾人　右同
五十貳間半田
一廿二三尺六寸九分堀見當　上三尺四寸一分
此　堀　下三尺七寸八分
一割床九尺
下深三尺六寸九分　上口貳間四尺四寸
上同四尺六寸　同　貳間五尺一寸貳分
折合深三尺八寸八分　横貳間九寸　間に壹坪三合九勺
此土七十三坪
人足百四十六人　貳人かゝり
一歩道　壹つ
人足貳拾人　土臺石垣
一内法四寸掛樋壹つ
人足拾人　右同

六十七間田

一廿二 壹尺三寸堀見當　上貳尺九寸　下五尺三寸六分　中三尺六寸六分

内七分込

此　堀　一割床九尺　上口壹間五尺六寸

下深壹尺三寸　同　貳間貳尺九寸

中同貳尺九寸六分　同　貳間四尺四寸

上同三尺六寸九分　横間に　壹間五尺六寸五分　八合六勺

折合深貳尺六寸五分

此土五拾七坪六合

人足百拾五人　貳人かゝり

一内法四寸掛樋壹つ

人足拾人

一馬道　壹つ

人足三拾人

六十間田

一廿三 壹尺三寸三分堀見當　上 三尺二寸五分　下 三尺三寸

内八分込

此　堀　　一割床九尺　上口貳間一尺　床九尺

折合深貳尺

折合　　壹間五尺　間に六合壹勺

是は田の内見合貳尺堀之所を堀申積

此土三拾六坪六合

人足七十三人　　貳人かゝり

一内法四寸の掛樋壹つ

人足拾人　　土臺石垣

六十三間

一廿四　貳尺三寸堀見當　　上　四尺九寸九分　下　四尺壹寸

内八分込

此　堀

折合深三尺堀　　上口貳間三尺　床　九尺　　平　貳間　間に壹坪

是は三尺堀之所見合堀積

此土六十三坪

人足百貳拾六人　　貳人かゝり

一馬道橋臺　　土臺石垣

上　五尺七寸貳分　　同　四間貳尺二寸
折合深七尺三寸五分　　横 三間貳尺 間に四坪壹合
此土百八十八坪六合
人足五百六十六人　　三人かゝり
一馬道　一つ
人足三十人

五十間

一廿九 壹丈六寸四分堀見當　　上 四尺五寸八分 下 三尺
内八分込
此　堀　　二割床九尺
下深壹丈六寸四分　　上口八間二尺六寸
上八尺九寸八分　　同　七間貳尺九寸
折合深九尺八寸一分　　横 四間四尺六寸 間に七坪八合
此土三百九拾坪
人足千九百五十人　　五人かゝり
一埋樋長四間半内法　　壹間半 高二尺三寸
人足三百人

是は圦堀込　手入芝手共

六拾間
上貳尺八分
下四尺九寸九分
上の次三尺四寸三分

一廿七尺八寸壹分堀見當

内八分込

此　堀　一割七分五り床九尺

下深七尺八寸一分　上口六間三寸

上の次同九尺貳寸九分　同　六間五尺五寸

折合深八尺五寸五分　横　三間五尺九寸五分
間に五坪七合

此土三百四十二坪

人足千七百拾人　五人かゝり

六拾間

一廿一五尺四分堀見當　上　壹尺九寸貳分
下　四尺七寸七分

内八分込

此　堀　一割五分床九尺

下深五尺四分　上口四間一寸

上同七尺八寸一分　同　五間貳尺四寸

折合深六尺四寸貳分　横　三間六寸
間に三坪三合貳勺

此土百九十九坪

人足七百九拾六人　　四人かゝり

一馬道　壹つ

人足三十八

土臺石垣

六拾間畠

一卅二　七尺壹寸五分堀見當　　上　三尺貳寸　下　壹尺九寸

一割五分床九尺

上口五間四寸五分

下深七尺壹寸五分　　同　四間一寸

上同五尺四分　　横　三間　間に三坪

折合深六尺

此土百八拾坪　　三人かゝり

人足五百四拾人

一内法六寸の掛樋壹つ

人足貳拾人

五拾間

一卅三　三尺七寸二分堀見當　　上　三尺七寸七分　下　七尺二寸

此　堀

下深三尺七寸貳分　一わり五分床九尺
上口三間貳尺貳寸
上同七尺一寸五分　同　五間四尺五分
折合深五尺四寸三分　横　貳間五尺貳寸
間に貳坪六合
此土百三十坪
人足三百九拾人　三人かゝり
一馬道　壹つ
人足貳拾人　土臺石垣

三拾四間
一卅四　三尺五寸九分堀見當　上　五尺八寸
下　五尺九寸三分
此　堀　一わり五分床九尺
下深三尺五寸九分　上口三間壹尺七寸七分
上同三尺七寸貳分　同　三間貳尺貳寸
折合深三尺六寸五分　横貳間貳尺四寸七分
間に壹坪四合七勺
此土五拾坪
人足百五十人　三人かゝり
一埋樋貳つ長貳間半内法　よこ壹間半
高　貳尺三寸
人足貳百人　堀込上芝表石共

三　拾　間

一卅五　三寸九分堀見當　上三尺九寸 下七尺一寸

是は星合井二の圦敷三寸九分下け申當り

右圦伏替之時堀下け申積

人足四十八

是は中村川より二の圦迄井筋堀割入用

貳拾九町拾貳間

合壹万八千八百六拾壹人

是は雲出川井口より星合井二の圦迄新井筋此度大積仕候人夫にて御座候

外

一圦七箇所　長三十四間　内法 よこ壹間半 高貳尺三寸つゝ

一千貫關　四ヶ所　よこ壹間半 高五尺つゝ

一埋樋　貳箇所

内　壹箇所　長七間内法 一間に貳尺　壹箇所　長四間に内法 一尺五寸に一尺

一掛樋拾三箇所　長三十四間

内　貳ヶ所　長三間　内法五寸　壹ヶ所　同　同　六寸

壹ヶ所　長貳間半同　壹尺　壹ヶ所　同　同　八寸

三ヶ所　同　同　五寸　五ヶ所　同　同　四寸

一馬道拾貳箇所

是は長貳間半つゝの松木四五本つゝのならへ橋と存候

一歩道三ヶ所

是は右同斷壹本橋と存候

右は新井筋此度之大積にて御座候

外

人足九千貳百五十八

外圦埋樋品々

是は古井筋廣け去年大積之人夫重て改可申候

丑正月

按に大畑才藏の日記を檢するに元祿十丑年九月廿九日より勢州へ出張十一月五日より十七日迄新井水盛同廿二日歸着とあれは此時新井筋開鑿之目論見を被命翌年正月に至り本記大樣積書を提出裁下を得即月(元祿十一年正月)十九日より再ひ出張二月十一日より爾起工四月十六日に落成如斯大工事僅に六十五日間にして竣工したるなり而して次記落成報告面に據れは總人夫に於て三千八百人余を減し圦埋樋筧等増減あるは豫算と實際との結果なるべし

元祿十一寅二月十一日初四月十六日出來

勢州一志郡新井　七〇八二五　御領
　　　　　　　　二九一七五　津領

但井溝堀長百拾七町拾間　　　掛り高六千五百石程

井口西久居領其村下東御領宮古村前中村川

一新井筋貳拾八町四拾八間

此井筋仕形

○水たれ　四尺七寸但丁に一寸六分三厘

内　一尺　　　　　　一の圦にて落し

一尺七寸　　　　同下七町の内丁に一寸六分たれ

是は丁に貳寸たれにも可仕所に候へ共谷川三箇所請込其押出しにて上より之水勢押切可申哉と谷下にてたれを多く取候ゆへ也

二尺六寸　　　　同下廿一町四十八間丁に壹寸余

是は井筋直成所はたれなしにも仕り廻り角の下谷尻にてたれを多く取見合たれ也

○井床九尺つゝ

是は津領共後には田方六七千石へも掛り可申候得は床貳間余にも可仕積に候得共中村川水加り候ゆゑなり

○堀方七尺より一丈余の所六町貳拾間其殘は六尺より一尺堀

但受入に可申所は根しからみ仕候

堀法七尺より上の堀は二割一割五分一割迄

但堀土は一方へ片つけ山につみ置候心は法合にて敷地多く不入心得

○所々圦巾一間半　　高貳尺三寸井床並

紀州御仕形と違候は土輕く殊に砂川ゆへ圦を深く入候ては前の砂を引込樋尻埋り候ゆへ也

○右之內水はき四箇所有如此水はき多く候は洪水の節破損無之也

中村川より星合井筋

一古井廣け貳拾三町廿間

此井筋仕形

○井床有來り五尺つゝ有之候を一間つゝ廣け床巾一間五尺又は水たれ少き所は水勢を横へ引込候心得にて床巾貳間貳三尺つゝにも仕る

但水勢取込候心得たれにより床多少（一字不明）ほと能しかたに見へ申候

○水たれ有來りは町に二三寸つゝも有之候を井口三町は有來を用ひ其下には一二寸たれに直し古床を埋る是は水掛り兼候所有之其上末々新溝を淺く堀可申ため又は土輕き所にてたれ多く候は破損有之物と心得右之心持に仕候水通し見候處右之しかたにてよく見へ申候

但右床埋候心得にて積方の內人夫三千人余減す如此成大御普請は考第一の事か

一田地掛用水新溝貳拾三町貳拾二間

內所々

八町拾六間　　たれ一寸　　床五尺　　舞土甚目溝

七町廿八間　同　一寸六分　同九尺八寸　南八ヶ村溝

七町三十八間　同　二寸　同五尺　森次川溝 外小溝數々

右之内御入用

○圦八ヶ所　長三十八間

○埋樋拾七ヶ所　長六十四間二尺

○筧拾九ヶ所　長八十五間半

○千貫閘九ヶ所　長九間四尺五寸

○閘板貳ヶ所　長六間

○橋四拾七ヶ所　内八ヶ所渡橋

右入用

米三百三十五石八斗六升八合　御領

内九拾壹石四斗九升　銀方本斗筋

貳百四拾四石三斗七升八合　郷役米筋

此人足壹万六千八百貳拾七人三分

貳千八百九十五人　郷役人

九千五百四十四人三分　在日用

貳千六百八十三人　所人足

千七百五人

竹木伐持　同

銀五〆八百五拾五匁四分

右六十四匁替

松元木三千五百六十八本

竹四百三十束半

松葉貳百二十貳束

人足七千四百六人

外

金四拾兩　銀拾貳匁

津　領　分

右之仕形にて四月十三日一の圦敷にて大川水一尺四寸かつき有之を戸明候得は右水重少も無滯井筋水走り快井水中村川へ落入申候四寸は其日出水と見へ申候大川に關をかけ候ていかほとにても存分に水可參と諸人申候中村川五十間之内たれ三寸五分有り是より下井筋末々小溝迄快水參候へは右仕形新井筋仕形之手本と諸人申候

一御普請初前人夫諸入用積書は水盛六十日間之内三四ヶ所之堀を究其堀法を以上口を定兩杭を打坪人夫橋覚圦品々不殘記し其次に井末迄如此第一は水盛を元に立帳面究候に付幾口より堀立候ても井筋床なるみ違なし尤成仕形と他領にても申候由

一御普請仕形は手品不入堀方は村渡しに庄屋共へも割渡し手品入候所を郷役人それ〳〵幾手にもわけ仕候ゆへ右貳里余品々有之御普請早く出來候樣に存候

一同遣方は五人より廿人斗迄之小割普請石芝竹木可入所は兼て心を付寄置手つかへ無之仕形

一井筋其所々諸願は其所案内道理能ものゝみ吟味爲仕其筋道を承屆埒を明候仕形
一入用米請拂諸竹木其外品々入用請拂本〆を定五日七日之内其帳面見改
一何事も明日之事を今日定明後日之事を明日之叉否考なく候ては費多かるへきものと見へ申候
右新井之仕形大樣之覺書如此候以上

丑四月十六日

右仕樣帳を以被仰渡之趣津領下役人へも申談し御普請仕形之品

一井筋所々兩杭書付之通床深上口少も相違無之樣に先惡水吐所より堀初可申事
一井筋之内掛り方上下口取にて津領御領丁場別段わけ堀可申事
一圦埋樋は井床より一尺深く入候事
一堀土置所若水つかへ可申ひくみの田くう地道上土にも好み申上土其外は人足かよひ能ひくみの地畝を詰法合急に積立置可申事
一堀立候迄仕樣兩杭有所たかい不申候樣に可仕候若土置場へかまい候は大畑才藏へ行水を盛替杭外へ打可申事
一御普請丁場〳〵にて人足つとひ不申候樣に幾道も道を付候事
一人足遣方は前同丁場を受取其所仕樣書を以坪に何人掛にて壹人前に長何尺つゝと定置十人か廿人ほとの小割に仕候筈尤五人三人つゝ出候小村は十人與にくみ合出候樣に可申付事
一川口明候は圦出來天氣見合之事

一御領分御普請場には一間半に貳間の小屋かけ一軒米渡場小屋大工小屋見合其外無用之事

一堀方の内根石垣根しからみは仕様書之通仕立可申候此入用竹木繩たわらは兩方割にて出し可申事

御領分方役人其外村々庄屋共迄被　仰渡

一人足着頭は松原權左衛門本〆杖付傳右衛門二手にわかり大庄屋かゝり杖付加り御法之通り可仕候願人は權左衛門傳右衛門差圖にて賃米定可申候人足丁場掛り出來坪改は日々大畑才藏相談可仕事

一賃米渡し場其外諸事本〆は次加瀨庄屋淸兵衛村々人足通帳に本〆傳右衛門判仕遣し候はゝ本〆淸兵衛方にて賃渡銘々渡し可申候其外御普請所入用竹木繩俵湯わかし薪火はし等傳右衛門書付遣し次第本〆より相渡帳面に付置可申事尤人足賃米重て相違無之樣に念可申事

大庄屋へ

一右日用持籠連々相改可申旨雨中隙々に御法之通用意候樣に可被申付事

一御普請所に泊り申人足宿木賃例之通其内高直に不仕候樣其外宿にて無作法もつれ無之樣に可被申付事

一あゆみ板貳三拾枚入可申候是は此度こしらへ候敷板の古杁木を用意可申事

一水かへ用意たんこ拾荷かゝり置可申事

一湯わかし小遣人足は時々此方より差圖可申事

一人足湯のみ何にても三四十輕きを用意可有之事

一御普請所にて用事達候庄屋一人出し可被申候其外用事なきもの壹人も出し被申間敷事

一各私共杖突庄屋中宿賄諸事御法背不申候様に能々可被申付候分て村越賄之儀に候得は彌念可被入候右入用帳面十日切に見せ可被申候押切判形可仕候

右御仕法被仰渡の頭書に候右御普請之内彌重事以後障りもなく水通も能く藤崎井とても右同前之儀に候得は心かけの役人衆內意得候も成可申哉と書付候

勢州一志郡新井普請出來書上け書

勢州一志郡甚目(ハダメ)須川、中林、曾原、小村、肥笛三箇村中道、小津、星合、笠松、、黒田、見永、野田、新水(ニヤ)の庄右十六箇村池掛りにて候處水不足にて年々致旱損候に付雲出川より新井掛り候様に御普請去秋願出候故段々吟味之上當春大畑才藏其外下役人共差遣普請仕立水も快通り右村々百姓共殊之外悦申候

一右新井御普請入用米三百三十五石八斗余にて出來申候年々旱損所此度井掛りに成候高六千三百三石余の所此以後旱損曾て無御座候其上畑返り六七十町新田拾町余出來申積に付貳三年之內には右入用取戻し其以後より每年現米四百石余つゝ御德用可有之候積に御座候

一右新井掛り場之儀津領へもよほと掛候に付津領之大庄屋其外百姓共出合諸事申合普請出來相濟申候以上

寅四月

但五月三日御上けのひかへ

昭和七年六月十八日印刷
昭和七年六月三十日發行

南紀德川史 自第八十九卷 至第九十六卷

編輯者 堀内信
發行者 山崎順平
和歌山市宇須町三百七十八番地
印刷者 福本芳太郎
和歌山市新堀四丁目三番地
印刷所 福本印刷所
和歌山市新堀四丁目三番地

第十回配本

No 358

發行所 南紀德川史刊行會
和歌山市宇須町三百七十八番地
振替口座大阪四五八五二番